

科目名	マクロ経済学	科目名 (英文)	Macro Economics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	現代経済学は体系化された科学としてマクロ経済学とミクロ経済学に大別されます。マクロ経済学では、国家レベルの経済問題や社会全体など大きな動きについて論じます。なお、ミクロ経済学では、経済主体の意思決定プロセスや市場について議論することを目的とします。これによりビジネスニュースや新聞の経済面をより深く読むことが出来るようになることを目指します。
到達目標	マクロ経済学の理論を通して、日本経済の問題を理解、説明できる。
授業方法と留意点	教科書を中心に行うが、適宜、新聞やTVで取り上げられたトピックも用いる。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験・経済学検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	経済学とは何か	経済学とはどのような学問か？マクロ経済学とミクロ経済学の違い	経済記事や経済ニュースを普段から読んだり聞いたりする習慣を付けてください。
2	GDPとは何だろうか？	付加価値、三面等価の原則 GDPの範囲、GNI (GNP)との違い、名目値と実質値	テキスト第1章を読んでおくこと。(60分)
3	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？(1)	ケインズ型の消費関数	テキスト第2章「ケインズ型の消費関数」を読んでおくこと。(60分)
4	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？(2)	ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、流動性制約、日本の貯蓄率の動向	テキスト第2章「ライフサイクル仮説、恒常所得仮説」「貯蓄の決定」を読んでおくこと。(60分)
5	設備投資と在庫投資(1)	資本ストックと設備投資、投資の決定理論、新古典派の投資理論	テキスト第3章「投資の決定要因」「資本の限界生産性と資本の使用者費用」を読んでおくこと。(60分)
6	設備投資と在庫投資(2)	調整費用モデル、在庫投資	テキスト第3章「調整費用モデル」を読んでおくこと。(60分)
7	金融と株価(1)	企業の資金調達手段、家計の資産選択	テキスト第4章「企業の資金調達手段」「家計の資産選択」を読んでおくこと。(60分)
8	金融と株価(2)	株価の決定理論、トービンのq	テキスト第4章「株価の決定理論」「トービンのq理論」を復習しておくこと。(60分)
9	貨幣の需要と供給(1)	貨幣の機能、貨幣ストックの概念、	テキスト第5章「貨幣の3つの機能」「貨幣の概念」「貨幣需要動機」を読んでおくこと。(60分)
10	貨幣の需要と供給(2)	貨幣需要関数、貨幣量のコントロール、金融政策の手段、利率の決定	テキスト第5章「貨幣需要関数」「ハイパワードマネーと貨幣の供給」「貨幣乗数」を読んでおくこと。(60分)
11	乗数理論とIS-LM理論(1)	有効需要の原理、乗数理論	テキスト第6章「有効需要の原理」「乗数理論」を予習しておくこと。(60分)
12	乗数理論とIS-LM理論(2)	財市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線、IS-LM分析	テキスト第6章「IS曲線とLM曲線」「IS-LM分析」、7章「IS-LM分析における金融政策の有効性」を読んでおくこと。(60分)
13	経済政策、財政赤字と国債	非伝統的金融政策、ルーカス批判、日本の財政赤字、国債の中立命題	テキスト第7章「IS-LM分析における金融政策の有効性」、8章を読んでおくこと。(60分)
14	インフレと失業	インフレとデフレ、失業率、フィリップス曲線、自然失業率仮説	テキスト第9章「ダイヤモンド・インフレ」「予想されないインフレのコスト」、10章「フィリップス曲線」「自然失業率仮説」を読んでおくこと。(60分)
15	まとめ		これまでの復習、練習問題の予習(60分)

実務経験	
関連科目	ミクロ経済学、経済学入門

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マクロ経済学入門	福田慎一、照山博司	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle/Web Folder
Teamsコード	tt7pqpr
Moodleコース名および登録キー	2020 マクロ経済学 (杉本) macro20
連絡手段	Teams, 学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	定期レポート 50% 平常点(レポート提出, 小テストなど) 50%
学生へのメッセージ	テキストやノートでの復習は必ずすること。
担当者の	11号館7階(杉本研究室)

研究室等	sugimoto@kjo.setsunan.ac.jp
備考	配信でも、できるだけ時間割に合わせた講義を受けるようにしてください。

科目名	ビジネスプラン	科目名 (英文)	Business Plan
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>企業における戦略的経営手法、事業成長施策の基本的プロセスの考え方を学ぶと共に、チーム制による起業化シミュレーションを行います。シミュレーション(成果物)は、「創業事業計画書」と「資金繰り計画表(4期分)の作成です。最終回にて各チームのプレゼン発表を開催します。</p> <p><b>【担当教員実務経歴】</b>          ①金融機関(本部企画部経営企画・本店営業部融資与信審査業務)          ②ベンチャー投資財団(企業投資業務)          ③監査法人(株式上場コンサルティング)          ④ベンチャー企業監査役兼務(複数社)          ⑤ベンチャービジネスプラン審査員(複数機関)          ⑥文部科学省「EDGE-NEXT(ベンチャー創出)事業 実務担当者  <b>【SDGs-.9】(産業と技術革新の基盤を作る)</b></p>
到達目標	<p>将来、企業におけるプロジェクトリーダー、プロジェクトデベロッパーを目指します。特に、昨今多く見られる企業内ベンチャーの創出、または新規事業プロジェクトの企画業務、製品企画等のノウハウとして役立ちます。</p>
授業方法と留意点	<p><b>【授業形態】</b> 演習 非常事態継続時は遠隔【Microsoft Teams】または【Zoom】を使用します。チームを編成し、チーム別にベンチャー企業設立シミュレーション(演習)を行います。各自、チーム内での役割に従い、チーム自治でディスカッションによる演習作業を進めてもらいます。したがって、欠席が多いと見込まれる学生は、チームメンバーへ負荷が掛かりますので履修にあたっては留意してください。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>ニーズ嗜好での製品・商品企画力の養成。          販売市場分析能力。          組織の一員としての役割認識と遂行能力。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 事業プランニングとは?	講座ガイダンス(演習方法・評価方法)事業計画策定の留意点および考え方。キーワードに基づく授業聴講でのポイントメモ。設問による授業内容の再確認	<事後>ビジネスアイデアの提示(身の回りにある不具合を改善するための提案等)(1時間)
2	ビジネスアイデア、コアコンピタンスの選定	チーム単位で検討するビジネスアイデア、コアコンピタンスの決定とチーム編成。チーム内での各自役割分担。	<事前>ビジネスアイデアの提示(身の回りにある不具合を改善するための提案等)(1時間) <事後>チーム内での自身の役割に基づく考え方の整理(30分)
3	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
4	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
5	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
6	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
7	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
8	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
9	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
10	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
11	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
12	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。「創業事業計画書」・「資金繰り計画表」の提出・修正	<事前>チームでの成果物(創業事業計画書、資金繰り表)の提出(1時間:チーム単位) <事後>プレゼンテーションデータの作成(1時間:チーム単位)
13	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位でのプレゼンテーション	<事前>プレゼンデータの確認(1時間)

		ーション演習実施 プレゼンテーション事前練習	ータの作成および修正	<事後>プレゼン発表練習（各自担当部分）（1時間）
	14	プレゼン発表（1） （2～3 チーム）	各チーム単位でのベンチャー企業の事業プレゼンを実施 他チームプレゼン発表に対する質疑および相互評価	<事前>プレゼン練習（1時間）。 <事後>審査による指摘点の検討（1時間）。
	15	プレゼン発表（2） （2～3 チーム）	各チーム単位でのベンチャー企業の事業プレゼンを実施 他チームプレゼン発表に対する質疑および相互評価	<事前>プレゼン練習（1時間）。 <事後>審査による指摘点の検討（1時間）。
実務経験				
関連科目	ベンチャービジネス論、ビジネスインターンシップ I・II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder/zoom			
Teams コード	oyv83da			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	masahiro.hayashi@kjo.setsunan.ac.jp			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	①プレゼン発表によるチーム単位での評価（評価割合：60%） 「事業計画書」「資金繰り表」「プレゼンデータ」等の提出期限厳守を基準として評価します。 なお、他チームの発表後、積極的に質問し自らも理解を深める者は加点評価とします。 ②最終レポート（評価割合：40%） チーム単位での自身における役割の遂行度の自己評価、および当該演習（シミュレーション）により企業内人材として何を得られたのか、など授業習得度に対する評価。			
学生への メッセージ	通常の大学講義では得られない貴重な体験をしてもらいたい。 就活の面接時における有効な武器（履修実績）として活用してもらいたい。			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考	必須ではありませんが、自身のノートパソコン持参での履修が可能な学生を望みます。 「簿記」を履修した学生の参加を多く望みます。 【履修抽選について】 履修希望者が30名を超える場合は、抽選とします。			

科目名	民法 I	科目名 (英文)	Civil Law I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	法律は、社会において生じる問題を解決するために使われるものがある。そのような法律も、いくつかの形に分類がなされる。本講義で扱う民法とは、私人の間の問題等を規律するための法律であり、特に財産問題と家族問題を扱っている。すなわち、財産と家族の問題を扱う一番基本となる法律が民法である。 本講義では、この民法を理解するために、まず概論として、法律学とはどのような学問であるのか、そして、その法律学の中で民法がどのように扱われているのかなど、法学を概観し、その後、具体的な民法の中身を簡単にではあるが把握していくことを予定している。
到達目標	この講義を通じて、学生には民法全般および民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観をつかむことができるようになること、ならびに社会における法的問題がいかなるものであるかを理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	Teams を使った講義を配信予定である。動画を配信型で展開する予定であり、掲載期間は合議予定日より 2 週間とし、2 週間目には削除予定である。 講義に関連する、レジュメまたは資料を配布する予定である。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要ではある。ただし、配信型講義であることから、法律の条文にオンラインでアクセスできれば対応可能である。法律の条文にアクセスしづらい場合には、一定程度の負担がかかると思われる。
科目学習の効果（資格）	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法律学および民法	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	予習：新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持つ部分を見つけ、整理すること。 復習：講義部分の教科書を確認すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
2	民法と財産法総論	法律というものが対象としているものなどを大きく捉え、その中で民法典の役割を確認し、さらに財産法の内容を確認していく予定です。	予習：1回目の内容から、自分の周りに存在する財産法と関連する問題を考えること。 復習：財産法と家族法の役割の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
3	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	予習：現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを検討すること。 復習：契約成立と申し込み・承諾お関係を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
4	民法における人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	予習：これまでの経験から、法的に自分が置かれてきた立場を整理すること。 復習：親の同意を必要とする契約がいかなるものであるのかを見直すこと。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
5	代理・時効	契約も単独でできない場合があります。その場合に、代わりに契約を行ってくれる人などの代理についてを確認し、また時効制度も確認する。	予習：他人が自分のために契約をしてくれる場面を確認すること。 復習：法的な意味における代理と、日常用語に言う代理の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
6	契約の締結	契約を締結するとはどのようなことなのかを確認する予定です。	予習：友達との約束についての法的意味を検討・議論すること。 復習：契約内容に違反した場合における損害の意味を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
7	所有権を通しての物権	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	予習：他人が自分の物を返さないという場合を法的に考えてみることに。 復習：物的担保がいかなる意味を有し、どのような種類があるのかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
8	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならぬことを、法的に見ていきます。	予習：交通事故や約束違反によって生じた損害は、いかなる賠償により回復することができるのかを検討すること。 復習：損害の意味を、判例を通じて整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
9	不法行為②	現代社会は進歩が激しく、法律も新しい局面に向かいあう必要が生じています。そこで、不法行為の制度をより多角的に見ていく予定です。	予習：他人に損害賠償を請求するために必要となる事情・要件を整理すること。 復習：特別な場合における不法行為制度を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
10	事務管理・不当利得	契約や不法行為とは異なった形で、他人との間で法的な関係が生じる場合をみます。	予習：人情を法律でとらえることや、契約終了後の関係について検討すること。 復習：不当利得の形を判例を通じせて入りすること。

				予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	11	婚姻	婚姻がどのようにすると成立し、その結果どのような義務が生じるのかなどを見ていく予定です。	予習：誰とでも婚姻できるのか、婚姻する意味を考えること。 復習：婚姻とそれと類似する形を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	12	離婚	離婚原因を確認し、離婚の際に生じる問題を確認していく。	予習：国家が認める婚姻関係を解消することの重大性を今一度確認すること。 復習：離婚の形と要件を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	13	親子関係	親子は互いにどのような権利義務関係があるのか、また、子の扱いが異なる現状を確認する。	予習：非嫡出子には法的にいかなる取扱いの違いがあるのかを確認すること。 復習：親子関係が形成される場面を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	14	相続	相続の意義や誰が相続できるのかについて確認する。	予習：法律がどのような範囲で相続を認めているのかを確認すること。 復習：相続できる範囲はいかなるものかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	15	遺言および講義のまとめ	相続における被相続人の意思を遺す方法やその問題点を確認する。	予習：遺言の形を整理すること。 復習：全体の確認を行うこと。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
実務経験				
関連科目	憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	配信動画と共に、配信講義に関連する小テストを行う。これを合算し、100点満点計算で行う予定である。			
学生への メッセージ	民法は日常生活に関する規範である。したがって、民法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。			
担当者の 研究室等	11号館9階 大川研究室			
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要がある。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てくるため、必ず講義でそれらの対象を聞くこと。 近年、受講態度のひどい学生が散見されることから、受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外す予定である。			



科目名	会社法 I	科目名 (英文)	Corporate Law I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	経済活動の中心的役割を担う会社について、その基本的な仕組みや会社法に関する専門的知識を習得することを目的とする。法律にあまりなじみがない者、法律をはじめて学習する者でも十分に理解できるよう、具体的な例をまじえながら、指定教科書とレジュメを用いて講義をすすめる。受講にあたり、民法等の法律系科目を先行履修していることが望ましいが必須ではない。また、学習意欲のある者のために講義で参考書を紹介する。
到達目標	この授業を通じて学生には、会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解し、とくに株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解できるようになることが期待される。その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果 (資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験 (法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など) の対策となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション、会社法総論	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。 会社法の概要、会社の概念、会社の種類、会社法総則。	教科書 p. 1～p. 19 を読んでおくこと。(約 60 分)
2	株式会社の設立	株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	教科書 p. 20～p. 37 を読んでおくこと。(約 60 分)	
3	株式 (1)	株式総説、株主名簿、株式の譲渡。	教科書 p. 37～p. 47 を読んでおくこと。(約 60 分)	
4	株式 (2)	自己株式、株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	教科書 p. 47～p. 60 を読んでおくこと。(約 60 分)	
5	新株予約権	新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	教科書 p. 60～p. 65 を読んでおくこと。(約 45 分)	
6	株式会社の機関 (1)	株式会社の機関総説、株主総会、種類株主総会。	教科書 p. 66～p. 83 を読んでおくこと。(約 60 分)	
7	株式会社の機関 (2)	役員等の選任および終任、取締役、取締役会、会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	教科書 p. 83～p. 115 を読んでおくこと。(約 60 分)	
8	株式会社の機関 (3)	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	教科書 p. 115～p. 122 を読んでおくこと。(約 45 分)	
9	役員等の責任、株主による役員等の責任追及訴訟	役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	教科書 p. 122～p. 137 を読んでおくこと。(約 60 分)	
10	計算、定款の変更、解散、清算	会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更、解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算。	教科書 p. 137～p. 156 を読んでおくこと。(約 60 分)	
11	持分会社	持分会社の設立、社員、計算等。	教科書 p. 157～p. 175 を読んでおくこと。(約 60 分)	
12	社債	社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	教科書 p. 176～p. 186 を読んでおくこと。(約 60 分)	
13	組織再編 (1)	組織再編総説、合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化、会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	教科書 p. 187～p. 205 を読んでおくこと。(約 60 分)	
14	組織再編 (2)	株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え、株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え、事業譲渡、事業の譲受け、組織変更。	教科書 p. 205～p. 213 を読んでおくこと。(約 60 分)	
15	外国会社・雑則、会社法まとめ	外国会社、会社の解散命令、公告、会社法の総括。	教科書 p. 214～p. 223 を読んでおくこと。 会社法で学習したことを見直しておくこと。(約 5 時間)	

実務経験	
関連科目	民法、商法。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	会社法の基礎	加藤徹・伊勢田道仁編	法律文化社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：

評価方法 (基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する（70%）。 その他出席状況・講義中の発言・小テストなども加味する（30%）。
学生への メッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。最新版六法を必携のこと。
担当者の 研究室等	11号館6階 法学部事務室
備考	授業内の小テストについては、当該授業か次の授業内で解説をする。 授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名・学籍番号・氏名を入れて送信すること。



科目名	会社法Ⅱ	科目名(英文)	Corporate Law II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	経済活動の中心的役割を担う会社について、その基本的な仕組みや会社法に関する専門的知識を習得することを目的とする。法律にあまりなじみがない者、法律をはじめて学習する者でも十分に理解できるよう、具体的な例をまじえながら、指定教科書とレジュメを用いて講義をすすめる。受講にあたり、民法等の法律系科目を先行履修していることが望ましいが必須ではない。また、学習意欲のある者のために講義で参考書を紹介する。
到達目標	この授業を通じて学生には、会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解し、とくに株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解できるようになることが期待される。その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果(資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験(法検定、法科大学院、公務員、公認会計士など)の対策となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション、会社法総論	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。 会社法の概要、会社の概念、会社の種類、会社法総則。	教科書 p.1~p.19 を読んでおくこと。(約60分)
2	株式会社の設立	株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	教科書 p.20~p.37 を読んでおくこと。(約60分)	
3	株式(1)	株式総説、株主名簿、株式の譲渡。	教科書 p.37~p.47 を読んでおくこと。(約60分)	
4	株式(2)	自己株式、株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	教科書 p.47~p.60 を読んでおくこと。(約60分)	
5	新株予約権	新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	教科書 p.60~p.65 を読んでおくこと。(約45分)	
6	株式会社の機関(1)	株式会社の機関総説、株主総会、種類株主総会。	教科書 p.66~p.83 を読んでおくこと。(約60分)	
7	株式会社の機関(2)	役員等の選任および終任、取締役、取締役会、会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	教科書 p.83~p.115 を読んでおくこと。(約60分)	
8	株式会社の機関(3)	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	教科書 p.115~p.122 を読んでおくこと。(約45分)	
9	役員等の責任、株主による役員等の責任追及訴訟	役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	教科書 p.122~p.137 を読んでおくこと。(約60分)	
10	計算、定款の変更、解散、清算	会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更、解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算。	教科書 p.137~p.156 を読んでおくこと。(約60分)	
11	持分会社	持分会社の設立、社員、計算等。	教科書 p.157~p.175 を読んでおくこと。(約60分)	
12	社債	社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	教科書 p.176~p.186 を読んでおくこと。(約60分)	
13	組織再編(1)	組織再編総説、合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化、会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	教科書 p.187~p.205 を読んでおくこと。(約60分)	
14	組織再編(2)	株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え、株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え、事業譲渡、事業の譲受け、組織変更。	教科書 p.205~p.213 を読んでおくこと。(約60分)	
15	外国会社・雑則、会社法まとめ	外国会社、会社の解散命令、公告、会社法の総括。	教科書 p.214~p.223 を読んでおくこと。 会社法で学習したことを見直しておくこと。(約5時間)	

実務経験	
関連科目	民法、商法。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	会社法の基礎	加藤徹・伊勢田道仁編	法律文化社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:

評価方法 (基準)	各回の提出課題 (70%) および期末レポート (30%) によって評価する。
学生への メッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。最新版六法を必携のこと。
担当者の 研究室等	11号館6階 法学部事務室
備考	授業内の小テストについては、当該授業か次の授業内で解説をする。 授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iiij4u.or.jp まで、件名に科目名・学籍番号・氏名を入れて送信すること。

科目名	労働法 I	科目名 (英文)	Labor Law I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	労働法は労働者と使用者との契約関係を規律する「労働保護法」と労働組合の団体行動を規律する「労働団合法」の2分野に大きく分けられますが、この授業では双方の分野を含めて労働法を概観します。
到達目標	この授業を通じて、学生は労働者の保護という法律の目的が具体的にどのような規定によって実現されているのかを理解し、低賃金労働、長時間労働、労働災害、外国人労働者問題といった現実の社会で生起している問題を法律の観点からとらえ、問題の解決の方向を見出すことができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	前期授業はWeb方式となります。大学指定の Microsoft「Teams」で、「I 046-労働法-川谷道郎」のチームにアクセスして下さい。論点を整理したレジュメを適宜配布するほか、関連する判例や資料を指定することもあります。授業では教科書および六法を必ず参照してください。
科目学習の効果 (資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。学生の多くは卒業後に就職することになるでしょうが、労働法の知識は社会生活を送るうえで極めて有用なものであるはずで。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	労働法の意義と基本構造	・労働法の全体像、規律構造 ・労働者の権利について	教科書第1編(2頁-22頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
2	労働者保護の一般原則 労働契約	・労基法の適用範囲 ・労働契約の基本	教科書第2編第1章から第3章の2まで(24頁-79頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
3	労働契約の当事者の権利義務	・労働契約の法的規制 ・労働契約における権利と義務 ・配転と使用者の業務命令権	教科書第2編第3章の3から6まで(79頁-109頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(2時間)
4	賃金	・賃金と退職金 ・賃金支払の原則 ・休業手当	教科書第2編第4章(110頁-131頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
5	労働時間	・労働時間の意味 ・労働時間規制の原則と例外	教科書第2編第5章の1から6(132頁-154頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
6	休憩・休日 年次有給休暇 年少者と女性労働者の保護	・休憩に関する規制 ・年休権の内容 ・年少者と女性労働者の労働規制	教科書第2編第5章の7から第7章まで(154頁-184頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
7	安全衛生と災害補償	・使用者の安全配慮義務 ・労働災害の補償	教科書第2編第8章(185頁-204頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
8	就業規則	・就業規則の意義とその効果	教科書第2編第9章(205頁-223頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
9	懲戒	・使用者の懲戒権の法的根拠 ・懲戒処分の内容	教科書第2編第10章(224頁-242頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
10	解雇・定年・退職 多様な働き方	・解雇の法理 ・パート労働、派遣労働	教科書第2編第11、12章(243頁-286頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
11	労働組合の基本	労働組合の意義と目的	教科書第4編第1、2章(312頁-329頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
12	団体交渉と労働協約	・団体交渉権の保障とその範囲 ・労働協約の効力	教科書第4編第3、4章(330頁-354頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
13	労働争議	・争議行為の意義と限界	教科書第4編第5章(355頁-379頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
14	組合活動と不当労働行為	・就業時間中の組合活動 ・不当労働行為の意義と救済	教科書第4編第6、7章(380頁-418頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
15	まとめ・追補	これまでのまとめと、あまり触れられなかった問題の補足	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分などがどこかを確認しておくこと(1時間)

実務経験	
関連科目	日本国憲法、民法I、民法II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法 [第12版]	安枝英諄・西村健一郎	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働判例百選 [第9版]		有斐閣
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	学期末に課するレポートの内容(70%)、授業中の小テストもしくは課題(30%)により総合的に評価します。
学生への メッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。

担当者の研究室等	11号館9階 川谷研究室
備考	小テストを実施した場合、次回講義で問題の解説を行います。

科目名	労働法Ⅱ	科目名(英文)	Labor Law II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	労働法は労働者と使用者との契約関係を規律する「労働保護法」と労働組合の団体行動を規律する「労働団合法」の2分野に大きく分けられますが、この授業では双方の分野を含めて労働法を概観します。
到達目標	この授業を通じて、学生は労働者の保護という法律の目的が具体的にどのような規定によって実現されているのかを理解し、低賃金労働、長時間労働、労働災害、外国人労働者問題といった現実の社会で生起している問題を法律の観点からとらえ、問題の解決の方向を見出すことができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義はTeamsによるオンライン講義となります。現状で動画配信の予定はありません。講義は後記教科書を使用するほか、適宜レジュメを配布して行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。原則として各回に課題を提示し、次回講義でその解説をします。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。学生の多くは卒業後に就職することになるでしょうが、労働法の知識は社会生活を送るうえで極めて有用なものであるはずです。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	労働者保護の一般原則 労働契約	・労基法の適用範囲 ・労働契約の基本	教科書第2編第1章から第3章の2まで(24頁-79頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
3	労働契約の当事者の権利義務	・労働契約の法的規制 ・労働契約における権利と義務 ・配転と使用者の業務命令権	教科書第2編第3章の3から6まで(79頁-109頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(2時間)
4	賃金	・賃金と退職金 ・賃金支払の原則 ・休業手当	教科書第2編第4章(110頁-131頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
5	労働時間	・労働時間の意味 ・労働時間規制の原則と例外	教科書第2編第5章の1から6(132頁-154頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
6	休憩・休日 年次有給休暇 年少者と女性労働者の保護	・休憩に関する規制 ・年休権の内容 ・年少者と女性労働者の労働規制	教科書第2編第5章の7から第7章まで(154頁-184頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
7	安全衛生と災害補償	・使用者の安全配慮義務 ・労働災害の補償	教科書第2編第8章(185頁-204頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
8	就業規則	・就業規則の意義とその効果	教科書第2編第9章(205頁-223頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
9	懲戒	・使用者の懲戒権の法的根拠 ・懲戒処分の内容	教科書第2編第10章(224頁-242頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
10	解雇・定年・退職 多様な働き方	・解雇の法理 ・パート労働、派遣労働	教科書第2編第11、12章(243頁-286頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
11	労働組合の基本	労働組合の意義と目的	教科書第4編第1、2章(312頁-329頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
12	団体交渉と労働協約	・団体交渉権の保障とその範囲 ・労働協約の効力	教科書第4編第3、4章(330頁-354頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
13	労働争議	・争議行為の意義と限界	教科書第4編第5章(355頁-379頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
14	組合活動と不当労働行為	・就業時間中の組合活動 ・不当労働行為の意義と救済	教科書第4編第6、7章(380頁-418頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
15	まとめ・追補	これまでのまとめと、あまり触れられなかった問題の補足	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと(1時間)

実務経験	
関連科目	日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法 [第12版]	安枝英紳・西村健一郎	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働判例百選 [第9版]		有斐閣
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	9z3d51h
Moodleコース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	期末テスト(5割)、授業中の課題(5割)を基礎とした総合評価をします。
学生への	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があり

メッセージ	ます。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の研究室等	11号館9階 川谷研究室
備考	小テストを実施した場合、次回講義で問題の解説を行います。

科目名	企業者史 I	科目名 (英文)	History of Entrepreneurs I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐藤 正志
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	日本経済・産業の発展過程をたどりながら、各時代を代表する企業と企業者（経営者）を取り上げ、その経営活動と経営理念を分析します。企業の形成過程を、経済の発展段階との関連をふまえて考察し、これからの企業・企業家像を考えていきます。
到達目標	経営事象の本質を歴史的な視点から把握することができる力をつけます。
授業方法と留意点	Teams 上に入れた PowerPoint 等のファイルを見て、そこに書かれた指示に従って学習してください。
科目学習の効果（資格）	企業経営に関する基本的事項を歴史的観点から、また企業者の行動や考えを通して学びますので、他の専門科目の理解を深めるのに役立つと思います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	経営史の方法論	経営発展の分析方法について、マックス・ウェーバーの「エートス」論とシュンペーターの「イノベーション」論を取り上げて解説する。	マックス・ウェーバーとシュンペーターについて事前に調べ（2時間）、講義後、講義内容をレポートにまとめる（2時間）。
2	「葉っぱビジネス」から学ぶ経営者のあり方	徳島県上勝町の「葉っぱビジネス」の展開を紹介し、経営者のあり方について考える。	事前に「葉っぱビジネス」について調べる（2時間）。講義後、内容をまとめる（2時間）。	
3	都市化・消費社会化と企業者（1）	「消費社会論」から見て現代はどのような時代なのか、消費社会における経営活動のあり方について考える。	事前に「消費社会論」について調べる（2時間）。講義後、内容をまとめる（2時間）。	
4	都市化・消費社会化と企業者（2）	1920年代の都市化についてまとめ、そのなかで活躍した阪急・小林一三の経営活動と理念を取り上げる。	都市化とは何か予習する（2時間）。講義後に小林一三の経営理念をレポートにまとめる（2時間）。	
5	都市化・消費社会化と企業者（3）	都市化・消費社会化のなかで積極的なマーケティング活動をおこなってきたサントリーの経営者を紹介する。	講義前、サントリーの経営者について調べる（2時間）。講義後、サントリーの発展について、レポートにまとめる（2時間）。	
6	高度経済成長と企業（1）	松下電器の発展と松下幸之助の経営哲学を考える。	松下の経営理念「水道哲学」とは何か、またはそれは現在のパナソニックに引き継がれているのか、事前に調べる（2時間）、講義後にレポートにまとめる（2時間）。	
7	高度経済成長と企業（2）	二輪車メーカーの乱立状態から、どのようにホンダが勝ち抜いていったのか。本田宗一郎と藤沢武夫の「二人三脚」経営を紹介する。	事前に本田宗一郎と藤沢の関係について調べる（2時間）。講義後に「二人三脚」経営の他の事例を調べ、なぜそれが有効なのかレポートにまとめる（2時間）。	
8	高度経済成長と企業（3）	技術者であり事業戦略家でもあったSONYの井深大の経営について学ぶ。その後、アップルのような創造的な製品を生まなくなった日本の「ものづくり」について分析する。	事前にSONYの歴史について予習する（2時間）。講義後に、講義内容をレポートにまとめる（2時間）。	
9	流通革命と企業経営（1）	「繁盛店」はなぜ巨大スーパーに成長していったのか。戦後流通業の変化について学ぶ。	事前に流通業界の主役の移り変わりを調べる（2時間）、講義後に「繁盛店」の事例をレポートにまとめる（2時間）。	
10	流通革命と企業経営（2）	中内・ダイエーの「流通革命」とその挫折	事前に中内の「流通革命」論について予習する（2時間）。中内の「流通革命」の成果は現在どのような形で引き継がれているのかを考え、レポートにまとめる（2時間）。	
11	流通革命と企業経営（3）	セブンイレブン・鈴木敏文の発想	事前に、なぜセブンイレブンが成功したか調べる（2時間）。鈴木による小売業の革新は、海外においても通用するのか、考え、レポートにまとめる（2時間）。	
12	IT革命と企業（1）	インターネットの発展とそれに伴う企業経営の変革について考える。またコロナ禍がもたらす企業経営の変容とインターネットとの関わりについても考察する。	事前にインターネットの発展による企業経営の変容を調べる（2時間）。講義後に、講義内容をレポートにまとめる（2時間）。	
13	IT革命と企業（2）	ソフトバンク・孫正義の経営行動と理念について。「マイノリティ」としての存在がいかなる経営を生んだか。	孫正義がどのような理念で経営行動を行ってきたのか、事前に調べる（2時間）。講義後に講義内容をレポートにまとめる（2時間）。	
14	ゲーム産業の発展と展望	テレビ（ビデオ）ゲームの開発史と任天堂のビジネスモデルについて。ゲーム産業の将来についても考える。	日本のゲーム産業の歴史について、事前に調べる（2時間）。講義後に任天堂の強さの要因をレポートにまとめる（2時間）。	
15	まとめ	講義全体のまとめと最終課題について説明。	練習問題を事前事後に行う（計4時間）	

実務経験	
関連科目	経営史、企業者史（S科目）

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			



	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder			
Teams コード	vyfymv5			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	最終回に課題を出すレポートで評価します。			
学生への メッセージ	Teams 上に入れた PowerPoint 等のファイルを見て、そこに書かれた指示に従って学習してください。 質問はメールで下記まで。同じ質問が多い場合は、回答ファイルを指定場所に入れて、受講者全員が確認できるようにします。 メールアドレス：sato@kjo.setsunan.ac.jp 件名には「経営史 S 質問」と書き、本文中には質問者の学籍番号、氏名を明記してください。			
担当者の 研究室等	11号館8階(佐藤研究室)			
備考				

科目名	情報社会論	科目名 (英文)	Information Society
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	メディアは、言葉、活字、映像から、デジタルなマルチメディアが流通する現代まで進展してきた。本授業は、IT (情報技術) によるメディアと社会との関係の変化、新たな課題を学習する。インターネットやデバイスの利用が浸透する中で、個人・組織の活動に変化が生じ、新サービス創出などの効果や影響にいかに向き合うかが重要である。メディアが取り巻く、多様な価値観からなる社会を考察する。
到達目標	メディアには、どんな特性があり、個人・組織やコミュニティにどんな効果や影響を及ぼすのかを理解する。情報メディアのもたらす価値と課題を発掘し、その利活用が、何をどのように解決支援を行うを理解することを目指す。
授業方法と留意点	授業は、①講義 (前半)、②個人授業課題、または、グループワーク (後半) から成る。グループワークは、ケーススタディに取り組み、ディスカッションやプレゼンテーションの課題を指示する。質問は、対面に加え、指定する Web フォーム・質問共有システム (初回授業でガイド予定、締切厳守で毎回運用する) にて記名式のものを対象に適宜回答する。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報メディアを介して、潜在するネット事象への関心を高め、社会的な課題が理解できる。</li> <li>Web/SNS 等デジタルな手段が提供する役割・特性の相違にもとづき、デバイスやネットを使い分ける判断力が養成できる。</li> <li>同僚・先輩学生と意見交換を図るためのメディアリテラシーの基礎的な素養を身につけることができる。</li> </ul>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業ガイダンス</li> <li>『メディア』とは何か</li> <li>情報とメディア</li> </ul>	事後学習：イントロダクション内容から質問を Web フォーム入力する。(標準学習時間：0.5 時間)
2	メディアの変遷	<ul style="list-style-type: none"> <li>「メディアはメッセージ」</li> <li>メディア小史 (活字/映像/アナログ/デジタル)</li> <li>個人とメディアリテラシー</li> <li>グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：日常接するメディアを列挙し、役割と特徴を、1 ページに要約する。(標準学習時間：1 時間)	
3	メディアと IT (情報技術)	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット利用の進展</li> <li>メディア特性の潮流 (パーソナル/双方向/マルチ)</li> <li>グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：参考文献の『情報とメディア』概観を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
4	メディアミックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアミックス</li> <li>デジタルビジネスのメディア戦略</li> <li>グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定するデジタルビジネスのメディア事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
5	リアルとヴァーチャル	<ul style="list-style-type: none"> <li>“Being Digital”</li> <li>リアルとヴァーチャル</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：指定する『リアル×ヴァーチャル』のメディア事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
6	メディアと IT プラットフォーマー 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>B2C IT プラットフォーマーの役割</li> <li>GAF A (Google/Apple/Facebook/Amazon)</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：指定する GAF A のメディア事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
7	メディアと IT プラットフォーマー 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>B2B IT プラットフォーマーの役割</li> <li>Microsoft/IBM</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：指定する Microsoft/IBM のメディア事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
8	メディアとコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝達手段としてのデバイスの進化</li> <li>情報感性和コミュニティ</li> <li>SNS (Social Network Services)</li> <li>グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定するコグニティブコンピューティング事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
9	言語データとメディア	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語データ (文字)</li> <li>ネットワーク効果と情報拡散</li> <li>Twitter</li> <li>グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定する企業の Twitter のビジネス適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
10	非言語データとメディア 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>非言語データ (音声・画像・動画)</li> <li>クチコミ評判と情報拡散</li> <li>Instagram &amp; Facebook</li> <li>グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定する企業の Instagram のビジネス適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
11	非言語データとメディア 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>非言語データ (音声・画像・動画)</li> <li>クチコミ評判と情報拡散</li> <li>YouTube &amp; IGTV</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：指定する企業の YouTube のビジネス適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
12	インターネットの法則	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒトの情報感性和価値観</li> <li>インターネット広告</li> <li>パーソナルデータの考慮点</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：指定する企業のコグニティブコンピューティング事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
13	IoT とメディア 基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>IoT (Internet of Things)</li> <li>デバイス (スマートウォッチ、スマートスピーカー、デジタルサイネージ)</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：指定する企業の IoT 事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
14	IoT とメディア 応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>IoM (Internet of Me)</li> <li>マルチメディアとビッグデータ</li> <li>コグニティブコンピューティング (Cognitive Computing)</li> </ul>	事前学習：指定する企業の IoT 事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>総括</li> <li>小テスト</li> <li>小テストフィードバック</li> </ul>	事後学習：総括と小テストの内容から質問を Web フォーム入力する。(標準学習時間：0.5 時間)	

実務経験	
関連科目	
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>21世紀メディア論</td> <td>水越 伸</td> <td>放送大学教育振興会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ポスト情報メディア論</td> <td>岡本 健・松井 広志</td> <td>ナカニシヤ出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	21世紀メディア論	水越 伸	放送大学教育振興会	2	ポスト情報メディア論	岡本 健・松井 広志	ナカニシヤ出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	21世紀メディア論	水越 伸	放送大学教育振興会														
2	ポスト情報メディア論	岡本 健・松井 広志	ナカニシヤ出版														
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	平常点 (15%)、個人課題 (5%)、小テスト (10%)、期末テスト (70%) の累計による総合評価を行う。平常点は、ケーススタディのグループ課題 (毎回および不定期、授業時間内の提出)、指名者 (個人・グループ) 発表、積極的な質問、建設的な発言等の授業への参画の程度で評価する。授業において、迷惑な私語、携帯機器の私用、遅刻等の進捗を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映する。授業の受講に集中すること。																
学生への メッセージ	デジタルメディアが個人の活動や社会との関係に、どのように効果と影響を及ぼすのかを学習します。ヒトの情報感性に係る IT 利活用のケースを多様な視点から考察します。グループワークで共創する機会に主体的に参画し、コミュニケーションをとおして触発し合うことを期待します。また、存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組むこと。																
担当者の 研究室等	11号館7階 (北村教授室)																
備考	初回授業で、進め方の詳細、日常の学習法、成績評価基準 (評価マトリクス) の説明、ケーススタディ (グループ・個人)、課題発表 (プレゼンテーション) の実施要領、学習支援ツール (Web フォーム・質問共有システム) の使用方法を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、所定の基準に従った評価を行う。																

科目名	くらしと経済	科目名 (英文)	Life and Economy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は経済に関する基礎的な考え方の修得を目的とする。モノやサービスを売ったり買ったりすることを経済取引という。例えば通学の際には電車やバスという交通サービスを購入し、学食で定食を食べるにもお金を払って定食というモノを購入している。また、アルバイトをすれば月々お金をもらうが、それは諸君が自らの労働力をバイト先に売っているからである。経済がいかに身近な現象であるかが分かるだろう。問題は、この身近な経済が私たちの目の届きにくい世界と密接に繋がっているということである。例えば数年前、太平洋を挟んだアメリカで住宅ローン市場に問題が発生し、多くの先輩達が就職に難儀した経緯がある。したがって私たちは、これら経済を積極的に理解し、自力で対処する能力が必要なのである。本講義では基礎的なながらも経済に対する重要な考え方を学生の理解度を重視しながら進める予定である。
到達目標	経済問題を考えるための初歩的なスキルの修得
授業方法と留意点	講義は原則として「オンライン型」で進める。 講義は極力教科書に沿って行うので、必ず教科書を購入のこと。漠然と講義に出席するのではなく、予習・復習を行い、疑問点は迷うことなく質問し解決すること。講義中でも良いし、Teamsのチャネル「質問箱」に書き込んで良い。質問は学習意欲の表れとして評価の対象である。
科目学習の効果(資格)	日々のくらしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経済現象と日々のくらしとの結びつきについて概説し、本講義で何を考え学ぶのかを解説する。	復習すること。小テストあり。
2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。	教科書第1章(pp.19-32)を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)
3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。	教科書第2章(pp.33-48)を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)
4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。	教科書第3章(pp.49-64)を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)
5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。	教科書第4章(pp.65-81)を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)
6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。	教科書第5章(pp.83-98)を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)
7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。	教科書第6章(pp.99-113)を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)
8	中間試験	前回までの内容について試験を行う。	復習を行っておくこと。小テストなし。
9	労働市場	学生にとって最も身近な労働市場について解説する。	教科書第7章(pp.115-132)を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)
10	GDPについて	国の豊かさを測るGDPについて解説する。	教科書第8、9章(pp.137-163)を予習復習のこと。小テストあり。(2時間)
11	消費需要と投資需要	GDP構成要素の消費と投資について解説する。	教科書第10章(pp.165-178)を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)
12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。	教科書第11章(pp.179-194)を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)
13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。	教科書第12章(pp.195-212)を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)
14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。	教科書第13章(pp.213-227)を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)
15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。	教科書第14章(pp.229-244)を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)

実務経験	
関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの経済学	中谷武、中村保 編著	碩学舎・中央経済社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle
Teamsコード	i9sirfd
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	Teamsに設定する「質問箱」というチャネルへ
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	原則として中間試験(50%)と期末試験(50%)で評価する。ただし、学習意欲(注意:出席率ではない)の顕著な者には加点して評価する。詳細は

(基準)	初回講義で述べる。
学生へのメッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢であって欲しい。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進願いたい。
担当者の研究室等	1 1 号館 8 階(岩坪教授室)
備考	中間試験については結果を返却し解説を行う。

科目名	地理学 I	科目名 (英文)	Geography I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	自然地理学は地球環境問題や自然災害と深い関わりを持つとともに、私たちの日々の生活とも密接に関わっています。本授業では、身近な場所から辺境の地まで、さまざまな地域の自然環境を理解するための基礎を学びます。具体的には、1. プレート運動や気候といった地球規模のシステム、2. 日本や世界で観察される景観の形成要因やその形成過程、3. 自然災害や地球環境問題、といった内容を扱います。講義では各地の写真や映像などを数多く使って解説し、初学者にもイメージがつかみやすい内容にする予定です。授業を通して、自然現象を様々な時間・空間スケールに位置づけて理解する基礎を身につけ、それを将来様々な形で活かしていくことを期待します。
到達目標	日本・世界各地の自然環境の実態とそのシステムを学ぶことを通じて自然環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因や災害の発生等について論理的に理解できるようになること
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用します。ウェブブラウザ等を利用することもあるため、スマートフォン・タブレット等を持ち込むことを推奨します。
科目学習の効果 (資格)	地震等自然災害に対する認識の強化、環境に対する意識の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、評価方法等について説明	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
2	I. 日本の自然を知る 1	プレートテクトニクスと日本列島の形成	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
3	I. 日本の自然を知る 2	地震のメカニズム	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
4	I. 日本の自然を知る 3	地震災害	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
5	I. 日本の自然を知る 4	火山と日本列島	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
6	II. 多様な日本の自然 1	気候環境	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
7	II. 多様な日本の自然 2	植生	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
8	II. 多様な日本の自然 3	山地の隆起と侵食	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
9	II. 多様な日本の自然 4	河川と平野・海岸	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
10	II. 多様な日本の自然 5	大阪の自然・関西の自然	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
11	III. 世界の自然を知る 1	熱帯から極地	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
12	III. 世界の自然を知る 2	砂漠や高山	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
13	III. 世界の自然を知る 3	自然と人々の暮らしの関係性	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュース

				<p>ースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。</p>
	14	IV. 環境と私たち	地球温暖化や砂漠化	<p>事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。</p>
	15	まとめ	授業全体のまとめ・理解度確認テスト	<p>事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。</p>
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	最後の授業内で実施する理解度確認テストをもとに評価する(理解度確認テスト：100%)			
学生への メッセージ	高校地理・高校地学を学んでいない人でも理解できるような内容を扱い、難しい部分はフォローアップしながら授業を進めていく予定です。			
担当者の 研究室等	7号館5階			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。理解度確認テストとは、講義内容に関するテストです。毎回の授業終了後や授業開始時には不明点や質問等に関してフィードバックをおこないます。			



科目名	地理学Ⅱ	科目名 (英文)	Geography II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	人文地理学は、空間・地域・環境といった視点から人と社会を捉える学問です。様々な学問分野間の境界領域に位置し、対象や方法が多岐にわたっているという特徴を持ちます。本講義では、こうした人文地理学の基本的な考え方を身につけることを目的とします。
到達目標	人文地理学の基本となる考え方について説明できること。また、特定の問題について地理学的な視点から捉えることができること。
授業方法と留意点	主に、①現代人文地理学が成立する歴史、②主要な理論・学説、③従来の地理学がカバーする諸領域について講義します。さらに、学生の皆さんには、理解度を問うための小課題とレポートに取り組んでもらいます。
科目学習の効果 (資格)	皆さん自身が興味を持つ事象や問題について、空間・地域・環境といった視点から捉える能力を養うことができます。また、本講義は、中学校社会科および高等学校地理歴史の教員免許を取得するための必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	近代地理学の形成	主要な人物を紹介しながら近代における地理学の成立史を概観する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
3	環境と人間	人間と環境との関係を捉える自然地理学や生態学的地理学の立場について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
4	立地論	立地論と種々のモデルについて講義する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
5	人文地理学における計量革命	戦後の地理学における計量的方法の普及と見方の変化について講義する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
6	人の行動と空間	行動地理学とその展開について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
7	マルクス主義地理学と人文主義地理学	マルクス主義地理学と人文主義地理学について紹介する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
8	都市空間	都市空間研究の論点や概念、モデルを解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
9	都市間ネットワークと世界都市	世界都市や都市間ネットワークの研究について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
10	人口動態と人の移動	人口動態と人の移動についての地理学の視点・論点を紹介する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
11	観光に関する地理学的研究	地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
12	農業研究とフードシステム論	「農と食」について地域・空間の視点から捉える方法とその成果について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
13	ジェンダーの地理学	ジェンダーの視点から空間を捉える立場について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
14	イノベーションとその空間的諸条件	イノベーションとその空間的諸条件を追求する方法と成果について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
15	人文地理学の課題	現代、そして今後の人文地理学の課題について検討する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。

実務経験	
関連科目	「自然地理学」「地誌学」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学	小林茂・杉浦芳夫編著	放送大学出版会
2	『人文地理学：その主題と課題』	杉浦章介ほか	慶應義塾大学出版会	
3	最近の地理学	坂本英夫・浜谷正人編著	大明堂	

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	hzh1jgf
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール、個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート 80%、授業時に指示する課題・コメント 20%
学生へのメッセージ	大学の地理学は暗記科目ではなく、理解したうえで自分の探求に活かすことが重要です。自分自身が興味を持っている問題とどうつながるか考えながら講義を聴いてもらえることを期待します。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	インターネット概論	科目名 (英文)	Introduction to the Internet
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 本講義では、いまやあらゆる産業・業界において重要なビジネス基盤となったインターネットの仕組みとその役割について、マーケティング論と情報システム学による文理総合的な解説を行っていく。前半は我々消費者にとって身近な ICT のひとつである“インターネット”を中心に、その仕組み、サービスの特徴、中盤は情報社会を取り巻く脅威について、後半は企業の経営活動、特にマーケティングと ICT との関係について取り上げる。講義の主な目的は、ICT が単なる日常のコミュニケーションや情報サービスを利用するための道具ではなく、多様化・細分化が進む市場を相手とする企業の経営活動において絶対不可欠な技術であることを初年時の文系学生が理解し、本学科が提供する ICT 関連科目を経営学の学問的位置付けにおいて学習することの意義を学ぶことである。授業担当者は、かつて情報通信分野の研究所に勤務し大手通信キャリアのエンジニアらと共に次世代移動体情報通信技術・サービスの開発に携わってきた。講義では、これらの技術開発から市場普及に取り組み企業と現場の様子についても紹介していくつもりである。

**到達目標**  
 ・本学科が提供する ICT 関連科目を経営学の学問的位置付けにおいて学習することの意義について簡潔に説明ができる。  
 ・インターネットの基本構成及び要素技術について説明ができる。  
 具体的には、パケット通信、通信プロトコル、IP アドレス、LAN、ルータ等の通信機器の諸機能など。 ・企業が導入している各種 ICT の目的・機能について、マーケティング・プロセス(企画、設計、生産、流通、販売過程)ごとに説明ができる。

**授業方法と留意点**  
 <講義の進め方>  
 ・講義はライブ配信によるオンライン講義を実施します。  
 ・受講にあたって、教材（以下の教科書と補助教材）を準備しておいてください。  
 ・オンライン講義を受講できない学生のために、音声入り資料を講義終了後にアップする予定です。  
 <教材の入手方法>  
 講義では、教科書及び補助教材を使用します。各自印刷し、手元に置いて受講してください。  
 (1) 教科書：総務省「安心してインターネットを使うために国民のための情報セキュリティサイト」<https://www.soumu.go.jp/main>

**科目学習の効果 (資格)**  
 IT パスポート試験・基本情報技術者試験など IT 系の資格を取得するのに関連する科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	主に以下について取り上げる ・講義の進め方 ・ICT 概論の概要	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、内容を予習しておいてください。
2	インターネットの仕組み (1)	主に以下について取り上げる ・インターネットの基本原理 ・ホームページの仕組み ・電子掲示板の仕組み等	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲：教科書 p3~13「インターネットを使ったサービス」
3	インターネットの仕組み (2)	主に以下について取り上げる ・ML の仕組み ・ショッピングサイトの仕組み ・ネットバンキングの仕組み ・無線 LAN の仕組み等	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲：教科書 p14~21「インターネットを使ったサービス」
4	情報社会とリスク (1)	主に以下について取り上げる ・ウイルスとは何か ・ウイルスの感染経路 ・不正アクセス等	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲：教科書 p22~34「どんな危険があるの？」
5	情報社会とリスク (2)	主に以下について取り上げる ・第 4 回内容の追加解説 ・次回テストについての説明 ・レポート作成と提出	これまでの解説範囲（教科書 p3~34）に関して復習し、不明な点や詳細な解説が必要な点について、第 5 回講義開始 2 日前までにメールで送ってください。
6	テストとディスカッション	以下を実施する ・テスト	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を復習しておいてください。 解説範囲：教科書 p3~34
7	ICT の脆弱性とセキュリティインシデント (1)	主に以下について取り上げる ・情報セキュリティ事故 ・脆弱性等	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲：教科書 p35~38「どんな危険があるの？」
8	ICT の脆弱性とセキュリティインシデント (2)	主に以下について取り上げる ・ID とパスワード ・ウイルス対策 ・不正アクセス対策等	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲：教科書 p39~50「インターネットの安全な歩き方」
9	セキュリティ技術と対策 (1)	主に以下について取り上げる ・ファイアウォールの仕組み ・暗号化の仕組み ・SSL の仕組み等	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲：教科書 p51~55「情報セキュリティ関連の技術」
10	セキュリティ技術と対策 (2)	主に以下について取り上げる ・第 9 回内容の追加解説 ・次回テストについての説明 ・レポート作成と提出	これまでの解説範囲（教科書 p35~55）に関して復習し、不明な点や詳細な解説が必要な点について、第 10 回講義開始 2 日前までにメールで送ってください。
11	テストとディスカッション	以下を実施する ・テスト	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を復習しておいてください。 解説範囲：教科書 p34~55
12	ICT とマーケティング (1)	主に以下について取り上げる ・マーケティングの考え方	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてくだ

			・消費者行動論等	さい。 解説範囲：講義内にて指定																
	13	ICTとマーケティング(2)	主に以下について取り上げる ・ICTと広告技術 ・CRMとデータベース等	WebFolderに上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲：講義内にて指定																
	14	ICTとマーケティング(3)	主に以下について取り上げる ・企業のメディア戦略事例等	WebFolderに上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲：講義内にて指定																
	15	総括	主に以下について取り上げる ・本講義の総括を行う ・レポート作成と提出	WebFolderに上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲：講義内にて指定																
実務経験																				
関連科目	経営情報システム、コンテンツビジネス、メディア戦略論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「授業方法と留意点」に記載</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「授業方法と留意点」に記載			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「授業方法と留意点」に記載																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「授業方法と留意点」に記載</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「授業方法と留意点」に記載			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「授業方法と留意点」に記載																			
2																				
3																				
授業形態																				
Teamsコード																				
Moodleコース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	<p>&lt;評価の方法&gt; いずれもオンライン講義で実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト x2 (70%)</li> <li>・レポート x3 (30%)</li> </ul>																			
学生への メッセージ	<p>自宅にインターネット環境がなく受講できないという場合は、第3回講義までに担当教員にメールにて知らせてください。講義は、教科書の指定ページについて解説していきます。インターネット回線の問題等で受講できない場合でも、自宅学習できるよう配慮し計画通り進めていきますので、安心して受講してください。また遠隔講義中にトラブル(回線不良による切断等々)が発生した場合は、少し時間を置いて、Teamsに再ログインしてください。</p> <p>講義終了後も質問等は受け付けますので、遠慮なく知らせてください。 入学早々、何かと不安で</p>																			
担当者の 研究室等	11号館7階(針尾准教授室)																			
備考	<p>シラバスの内容については、受講生の理解の程度、関心に合わせて適時調整する。</p> <p>【教職科目】教科に関する科目(高等学校 情報)</p> <p>【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理(実習を含む。)</p> <p>【履修区分】必修</p>																			

科目名	流通システム論	科目名 (英文)	Distribution Systems
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>流通は消費と生産を結びつける活動であり、流通によって社会経済の動きが活性化される。以前は企業の生産活動と販売活動の周辺にある物流活動は支援的な業務と見られていた。しかし、情報社会の進展と合わせて物流活動の重要性が高まり、現在ではモノやサービスを届ける活動や戦略が経営活動で大きな意味を持つようになった。</p> <p>本講義では重要性を増している流通システムとそれを支える情報システムについて、基礎的な理論から実際の実例までを取り扱う。そして、地域活性化や情報社会でのモノ以外の流通についても解説を行う。</p> <p>SDGs-8, 9, 12</p>
---------	--

到達目標	<p>(1) 身近にある流通システムの概要を説明できる</p> <p>(2) 経営戦略としての流通の重要性を理解できる</p> <p>(3) 物流システムの要素を説明できる</p> <p>(4) 流通システムにおける情報技術の必要性を理解できる</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>授業では受講生が主体的に学ぶために質問力の養成を図る。サブテーマ3回のうち1回を反転授業として受講生の予習を前提としたグループディスカッションを計画している。積極的な授業参加と主体的な学習を期待します。</p> <p>企業、公的団体の実務者による情報提供も行う場合がある。</p> <p>なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業（一方向・双方向）などを組み合わせて実施する。</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	・販売士検定3級試験の流通関連の知識
--------------	--------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方</li> <li>受講者の自己紹介</li> </ul>	<p>事前：シラバスを読んでくる (30分)</p> <p>事後：課題提出日の確認 (30分)</p>
2	身近にある流通 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンビニエンスストア</li> <li>ファーストフード</li> </ul>	<p>事前：授業内容に関連するストアを調べる (1時間)</p> <p>事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分)</p>	
3	身近にある流通 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ショッピングセンター</li> <li>アウトレットパーク</li> </ul>	<p>事前：授業内容に関連するショッピングセンターを調べる (1時間)</p> <p>事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分)</p>	
4	身近にある流通 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>反転授業</li> <li>グループディスカッション</li> </ul>	<p>事前：事例報告の準備 (2時間)</p> <p>事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る (1時間)</p>	
5	人が動く流通 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>購買行動</li> <li>出店計画</li> </ul>	<p>事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間)</p> <p>事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分)</p>	
6	人が動く流通 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>町おこし (観光政策)</li> <li>都市計画</li> </ul>	<p>事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間)</p> <p>事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分)</p>	
7	人が動く流通 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>反転授業</li> <li>グループディスカッション</li> </ul>	<p>事前：事例報告の準備 (2時間)</p> <p>事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る (1時間)</p>	
8	物流システム (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>物流センタ</li> <li>配送計画</li> </ul>	<p>事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間)</p> <p>事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分)</p>	
9	物流システム (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同配送</li> <li>個別配送</li> </ul>	<p>事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間)</p> <p>事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分)</p>	
10	物流システム (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>反転授業</li> <li>グループディスカッション</li> </ul>	<p>事前：事例報告の準備 (2時間)</p> <p>事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る (1時間)</p>	
11	情報と流通システム (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術と流通システム</li> <li>流通システムの情報インフラ</li> </ul>	<p>事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間)</p> <p>事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分)</p>	
12	情報と流通システム (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロジスティクスシステム</li> <li>Web 流通システム</li> </ul>	<p>事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間)</p> <p>事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分)</p>	
13	情報と流通システム (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>反転授業</li> <li>グループディスカッション</li> </ul>	<p>事前：事例報告の準備 (2時間)</p> <p>事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る (1時間)</p>	
14	ケーススタディ	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例紹介</li> <li>外部講師 (調整によって変更あり)</li> </ul>	<p>事前：事例に関する予習 (1時間)</p> <p>事後：事例に関する復習 (30分)</p>	
15	本講義のまとめ	総復習	<p>事前：ノートのまとめ (2時間)</p> <p>事後：必要な部分の復習 (1時間)</p>	

実務経験	
------	--

関連科目	「経営情報システムⅠ」、「経営情報システムⅡ」、「ビジネスシミュレーション」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle			
Teams コード	wiu2wqo			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teamsの質問用チャネル、学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験またはレポート(50%)、授業中の課題やミニレポート(20%)、反転授業やグループディスカッションでの発表(30%)			
学生への メッセージ	流通情報システムは「経営情報」によって大きく飛躍した分野です。身近にもたくさんの事例がありますから、興味を持って楽しみながら学びましょう。			
担当者の 研究室等	11号館7階 久保准教授室			
備考	事前・事後学習課題について授業の冒頭にMoodleやミニツペーパーなどで確認を行うので、遅刻せずに出席すること。			

科目名	グローバルビジネス	科目名 (英文)	Global Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義の目的は、多国籍企業の経営活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と問題演習を通じて国際経営論に関する理論の発展や経営機能の国際化要因について学習する。 企業の海外進出は活発に行われており、多国籍企業で活躍できる人材になるためには国際経営論に関する基礎的知識を習得することは不可欠である。 授業担当者は、民間企業における経理業務の経験から多国籍企業の経営活動の実践的な分析方法を教授する。
到達目標	①海外直接投資の理論の概要を説明できる。 ②企業がマーケティング・生産・研究開発などの経営機能を国際化する論理を説明できる。 ③国際経営論の理論に基づいて多国籍企業の経営活動を分析できる。
授業方法と留意点	教科書を予習した後に解説動画を視聴する。動画を視聴した後はMoodleで課題に取り組み、学習内容を復習する。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス	本講義のガイダンスと国際経営論の概要、海外進出の理由について学習する。	事前：シラバスと教科書の第1章を事前に読んでおくこと (1時間)	事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
2	海外直接投資の理論	海外直接投資の代表的な理論とその発展の歴史について学習する。	事前：教科書の第2章を読んでおくこと (1時間)	事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
3	多国籍企業による国際競争の歴史	多国籍企業の発展の歴史について学習する。	事前：教科書の第3章を読んでおくこと (1時間)	事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
4	多国籍企業の組織デザイン	多国籍企業の経営組織の概要とその進化について学習する。	事前：教科書の第4章を読んでおくこと (1時間)	事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
5	トランスナショナル経営	I-Rフレームワークとトランスナショナル経営について学習する。	事前：教科書の第5章を読んでおくこと (1時間)	事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
6	海外子会社の経営	海外子会社の類型化や成長のプロセスについて学習する。	事前：教科書の第6章を読んでおくこと (1時間)	事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
7	日本企業による海外進出	第2回から第6回までの学習内容を踏まえて、日本企業の海外進出に関するビデオを視聴してMoodleで課題に取り組む。	事前：第2回から第6回の講義資料を読み返しておくこと (1時間)	事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
8	国際マーケティング (1)	国際マーケティングのプロセスについて学習する。	事前：教科書の第7章を読んでおくこと (1時間)	事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
9	国際マーケティング (2)	新興国における国際マーケティングについて学習する。	事前：教科書の第7章と第8回の講義資料を読み返しておくこと (1時間)	事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
10	国際マーケティング (3)	第8回と第9回の学習内容を踏まえて、日本企業の新興国向け製品開発に関するビデオを視聴してMoodleで課題に取り組む。	事前：第8回、第9回の講義資料を読み返しておくこと (1時間)	事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
11	ものづくりの国際拠点展開 (1)	海外生産拠点の設立・運営や知識移転について学習する。	事前：教科書の第8章を読んでおくこと (1時間)	事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
12	ものづくりの国際拠点展開 (2)	第11回の学習内容を踏まえて、海外生産拠点の設立と知識移転に関するビデオを視聴してグループディスカッションを行う。	事前：教科書の第8章と第11回の講義資料を読み返しておくこと (1時間)	事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
13	研究開発の国際化	海外研究開発の要因や海外研究開発拠点のマネジメントについて学習する。	事前：教科書の第9章を読んでおくこと (1時間)	事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
14	グローバル製品開発	第13回の学習内容を踏まえて、グローバル製品開発に関するビデオを視聴してMoodleで課題に取り組む。	事前：教科書の第9章と第13回の講義資料を読み返しておくこと (1時間)	事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
15	国際的な人的資源管理	海外駐在員や現地従業員のマネジメントについて学習する。	事前：教科書の第10章を読んでおくこと。小テストに解答しておくこと (1.5時間)	事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)

実務経験	
関連科目	経営学Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての国際経営	中川功一・林正・多田 和美・大木清弘	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
------	------------------------



Teams コード	vzo900v
Moodle コース名 および登録キー	グローバル経営論 business
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	15回分の学習終了後にMoodleで実施する小テスト20%、期末レポート80%で評価する。
学生への メッセージ	予習・復習を行い、課題に積極的に取り組んで欲しい。
担当者の 研究室等	11号館8階 島山研究室
備考	授業内容に関する質問は、メールとTeamsで対応する。メールアドレスについては、Team s および講義資料に記載する。



科目名	近代文学から学ぶ	科目名 (英文)	Modern Literature
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	日本の近代文学の短編を読む。なお、明治から敗戦までの作品を近代文学と位置づける。 文学作品を読むことは、それだけで我々の心を豊かにしてくれる。作品を読むことで、近代の日本人が何を考え、発見し、何に悩んでいたのか、ともに考えたい。 文学作品への抵抗をなくし、作品を読んで考える習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	作品を鑑賞し、その文学的特徴を説明できる。 近代文学の流れについて概説できる。
授業方法と留意点	毎回、1編の短編作品を取り上げて、講義する。 受講生は事前に作品を読んで授業に臨む。講義時にコメントを提出する。 講義を受けたのち、作品に対するコメント、考察を書く。
科目学習の効果 (資格)	文学に対する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	近代文学史概説	近代文学の始まりと、言文一致運動について	事後：日本の近代史について調べる (2時間)
	2	明治の文学1 夏目漱石の短編を読む	夢と心理の表現について考える	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：夏目漱石の (短編) 作品を読む (2時間)
	3	明治の文学2 谷崎潤一郎の短編を読む	近代が失った美意識について考える	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：谷崎潤一郎の (短編) 作品を読む (2時間)
	4	明治の文学3 森鷗外の短編を読む	歴史小説のはじまり	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：森鷗外の (短編) 作品を読む (2時間)
	5	大正の文学1 佐藤春夫の短編を読む	メルヘンと近代	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：佐藤春夫の (短編) 作品を読む (2時間)
	6	大正の文学2 志賀直哉の短編を読む	ヒューマニズムについて考える	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：志賀直哉の (短編) 作品を読む (2時間)
	7	大正の文学3 菊池寛の短編を読む	大衆文学の流行	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：菊池寛の (短編) 作品を読む (2時間)
	8	大正の文学4 小川未明の短編を読む	児童文学の登場	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：小川未明の (短編) 作品を読む (2時間)
	9	大正の文学5 芥川龍之介の短編を読む	人間心理と短編	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：芥川龍之介の (短編) 作品を読む (2時間)
	10	昭和前期の文学 横光利一の短編を読む	新しい表現技法	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：横光利一の (短編) 作品を読む (2時間)
	11	戦時下の文学1 中島敦の短編を読む	漢文世界の表現	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：中島敦の (短編) 作品を読む (2時間)
	12	戦時下の文学2 太宰治の短編を読む	芸術の不在	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：太宰治の (短編) 作品を読む (2時間)
	13	戦争の文学 原民喜の短編を読む	原爆小説が伝えるもの	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：戦争小説を読む (2時間)
	14	現代文学へ 安部公房の短編を読む	新しい時代と不安・孤独	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：戦後の (短編) 作品を読む (2時間)
	15	近代の詩を読む 高村光太郎・萩原朔太郎・三好達治らの詩を読む	日本の近代史の流れをたどる	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：近代詩を読む (2時間)

実務経験	
関連科目	歴史や言葉に関する授業

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	697vt.j4
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	授業で学内メールをお伝えします。
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業開始時のコメント (20%) 授業終了時のコメント・考察 (80%) 場合によっては、課題を出す。
学生への メッセージ	活字嫌いでも、少しがんばれば読み切れる短編を選びます。 この機会に、小説好きになりましょう。 専門の授業で疲れた脳を、文学で休ませてください。
担当者の 研究室等	橋本研究室 (7号館4階)
備考	授業時のコメントに対しては、次回にフィードバックを行う。 事前事後学習時間は、上記が最低時間。計60時間を目安とする。

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書かなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前・教科書・資料の見直し (1時間)
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	7	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す (1時間)
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前・教科書・資料の見直し (1時間)
	12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	教科書・資料の復習 (1時間)
	13	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す (1時間)
	14	【レポート】	レポートを提出する	レポートを作成する (1時間)
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	小テストの復習 (1時間)	

実務経験	
関連科目	ゼミ、卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	課題2回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	事前事後学習時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	長谷川 雄高
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果(資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明、グループ分け	教科書の「文章の書き方1」「文章の書き方2」を読む(60分)
2	文章の書き方	文章作成の基本事項やわかりやすい文章の書き方について	教科書の「事実と意見」「意見を述べる」「原稿用紙の使い方」を読む(60分)
3	事実と意見とその述べ方	事実と意見の書き分けや意見の述べ方について	教科書の「文章を引用する」「図表を引用する」「構成」を読む(60分)
4	引用と構成	引用と構成について	プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う(150分)
5	課題①	各人で課題①論説文を作成する	—
6	ディスカッション①	ディスカッションについての説明	選んだテーマをもとにディスカッションの準備を行う(60分)
7	ディスカッション②	プレゼンテーションへ向けてのグループ・ディスカッションを行う	課題②を作成する準備を行う(60分)
8	課題②	各人でディスカッションの経過を記した議事録を作成する	—
9	プレゼンテーションについて	プレゼンテーションのやり方や資料について	ディスカッションを踏まえ、自らの考えプレゼンテーション資料を作成する準備を行う(120分)
10	プレゼンテーション資料を作る	グループで発表資料を作成する	プレゼンテーション資料の作成や推敲、リハーサルの準備を行う(120分)
11	プレゼンテーションの準備	グループで資料作成や発表のリハーサルを行う	プレゼンテーション資料の推敲やリハーサルを行う(120分)
12	プレゼンテーション①	グループによる発表・質疑を行う	発表したグループのメンバーは質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う(90分)
13	プレゼンテーション②	グループによる発表・質疑を行う	発表したグループのメンバーは質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う(90分)
14	課題③	各人で発表内容をまとめた文章を作成する	—
15	おわりに	講評・まとめ	—

実務経験	
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」、Teams「オンライン型」
Teamsコード	wmqhxbg
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	yutaka.hasegawa@edu.setsunan.ac.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	「何となく決まった」から、「意見を作り、交換し、まとめる」に挑戦してみましよう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。 質問等は出講時に非常勤講師室において対応する。

科目名	科学技術教養 I～IV (V1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	居場 嘉教
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個体レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	病気と遺伝子	我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷(変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
3	なぜ肥満は問題なのか?	肥満そのものは病気とは言えない。しかし、糖尿病、高脂血症、高血圧、脳血管障害など様々な「生活習慣病」と呼ばれる疾患のリスクファクターになることが知られている。なぜ肥満が様々な疾患の原因になってしまうのか、そのメカニズムと予防・治療法について解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
4	免疫が引き起こす病気のしくみ	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染(インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
5	がんの発生とその予防法	死因別死亡率のトップはがんであり、約3人に1人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の30%を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
6	ミトコンドリアと病気	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
7	くすりと遺伝子工学	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物(タンパク質)を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
8	くすりと組換え生物	生物が持つ遺伝情報に改変を施した「遺伝子組換え生物」は、再生医療やヒト疾患の治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の開発などにも役立っている。本講義では、遺伝子組換え生物やクローン生物の作製に関する技術と応用について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
9	くすりとバイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
10	くすりとタンパク質のかたち	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)

			医薬品開発への応用について述べる。	
	11	くすりとゲノム	ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	12	薬物乱用と依存性薬物	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	13	遺伝子治療の最前線	遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理、を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	14	認知症～その原因と治療法	我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	15	iPS 細胞研究の最前線	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
実務経験				
関連科目	科学技術教養 V2			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。			
学生への メッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて、生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。本講義は生物・薬を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。 毎回レポート・課題があるので、毎回出席すること。			
担当者の 研究室等	1 号館 9 階 川崎、尾山、西村、中嶋、宮崎、船越、井尻、居場研究室			
備考	レポート・課題は各教員が採点した後、適宜返却する。			



科目名	科学技術教養 I～IV (V2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長田 武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々の暮らしを豊かにするバイオテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。また、企業で商品開発等に 20 年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして化粧品や繊維製品のバイオテクノロジー応用に関する教育も行う (第 3, 4 回)。 SDGs-2, 3, 12, 13
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能的食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について説明できる。
授業方法と留意点	Moodle の教材・課題に沿って授業を行う。教員によっては Teams「オンライン型」を行う場合がある。Moodle での指示に従うこと。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	配布資料を復習する。
2	バイオレメディエーションの可能性	過去、日本であった重金属汚染について簡単に復習し、特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する。物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら、適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し、植物を用いた生物学的浄化法についても説明する。	配布資料を復習する。
3	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	配布資料を復習する。
4	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し、これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する。	配布資料を復習する。
5	エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する。	配布資料を復習する。
6	バイオエネルギー技術	21 世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場から解説する。	配布資料を復習する。
7	機能的食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	配布資料を復習する。
8	食品の健康障害リスクと対策	微生物、アレルギー性物質、残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ、解説する。	配布資料を復習する。
9	動く分子とバイオテクノロジー	ATP 合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。	配布資料を復習する。
10	昆虫学を用いた、ヒトの暮らしを支える科学技術	地球上でもっとも繁栄した生物群である昆虫は、時にヒトの暮らしを脅かす害虫となり、時にヒトに恵みをもたらす益虫となる。害虫からヒトの財産・健康を守り、益虫のもたらす恩恵を最大化するためには、昆虫を「知る」ことが不可欠である。本講義では、昆虫学がうみだす知識が、どのように科学技術に応用されているかを紹介する。	配布資料を復習する。



	11	機能性糖質	食品や産業などに利用されている機能性の糖質の具体例を紹介し、人の健康や産業にとってどのような機能性があるのかを解説する。	配布資料を復習する。																
	12	糖質とバイオ医薬	人の体の中で、糖質はエネルギー源として利用されているだけでなく、免疫応答・代謝物の末梢組織への運搬など、多岐に渡った生命維持に必要な機能を有している。本講義では、このような糖質の生理機能について解説する。	配布資料を復習する。																
	13	生体高分子の利用	最近、廃棄されたプラスチックにより生成されるマイクロプラスチックによる環境汚染問題が問題視されている。本講義では、今後幅広く使用されることが期待される生体高分子がどのように利用され、化学合成によりつくられる様々なマテリアルに代替されているかについて解説する。	配布資料を復習する。																
	14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し、水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる。	配布資料を復習する。																
	15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊、地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因、発生機構、人への影響およびその防止対策に関して述べる。	配布資料を復習する。																
実務経験																				
関連科目	科学技術教養V1																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Moodle/Teams「オンライン型」																			
Teams コード	npr1106																			
Moodle コース名 および登録キー	科学技術教養V2 (2020年度) 3586																			
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	講義メモ50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題50%の総合点で評価する。30分未満の遅刻は欠席0.5日、30分以上の遅刻は欠席1日とする。																			
学生への メッセージ	本講義では、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。本講義は、生物・環境を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。 毎回レポート・課題があるので、毎回出席すること。出席および遅刻・欠席の扱いは、一回目の講義で説明します。																			
担当者の 研究室等	1号館8階 長田講師室																			
備考	事後学習に要する総時間の目安は15時間																			

科目名	科学技術教養 I～IV (R1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川上 比奈子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる知識を学ぶ。SDGs-3, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14, 15
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎を理解できる。
授業方法と留意点	ICT ツール使用。 毎回、課題を出すので、教科書、ネットで調べるなどして、自主的に学習してください。 必ず、期日までに課題を提出すること。 最終回には、まとめテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	環境配慮型デザインプロセス	環境配慮型建築・設備設計のデザインプロセスと、住宅のパッシブ・アクティブ技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	住環境における換気	換気の方法の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気的重要性について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	健康で快適な生活とにおい対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内でのにおい問題やにおい対策の考え方について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りや人と人の関わりのはなしから、香りの人への心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどの様に決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	野生動物との共存のデザイン	近年獣害が増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	住環境における図の役割	身近に用いられている図の重要性とその役割について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	住環境と情報技術	私たちが毎日暮らす空間で利用されている情報技術について事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	解説 まとめテスト	まとめテストを実施する。	講義内容の復習をして、 まとめテストを受けること。

実務経験	
関連科目	なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 (R1) 住環境デザイン学科 教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	12号館 6・7階 各教員研究室			
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は、授業外の課題やテストの学習時間も含め、毎回1.5時間程度とする。 各回の課題については、随時評価の上返却する。			

科目名	科学技術教養 I～IV (R2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川上 比奈子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	日本の伝統的な住宅は、気候風土、地形、材料などに影響を受けて地方色が豊かであり、歴史的、文化的な相違からも地域性が認められる。現代の住まいや暮らしはそれらの影響を受けて、さまざまな技術の発達、社会の変化とともに、かつての住まいや暮らしの形は変容しつつある。このような身近な住まい、まち、暮らしについての知識を得て、今後の持続可能な社会の創造に関わる知識を学ぶ。SDGs-3, 6, 7, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16
到達目標	到達目標：建築都市インテリアなどの空間における歴史的文化的背景による地域性を理解し、持続可能な社会を創造するためのまちづくりや住宅建築など、住環境の未来に向けたデザインの基礎を理解できる。
授業方法と留意点	毎回、課題を出すので、教科書、ネットで調べるなどして、自主的に学習してください。 必ず、期日までに課題を提出すること。 最終回には、まとめテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日本の住まいの地域性	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的日本住宅について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	住環境とパッシブデザイン	住環境におけるパッシブデザインの変遷を建築家の作品を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	住環境と考現学	私たちの身の回りにおける住環境を観察・記録することから新しい環境デザインをつくりだす方法を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	大規模災害時の避難生活環境	阪神淡路大震災・東日本大震災など大規模災害時の避難生活状況と支援活動を知ることから未来への備えを学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	様々な人に配慮した住宅・施設設備	ユニバーサルデザインの観点からの住宅設備や施設設備について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がり、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	高齢者の生活環境の広がり と支援	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、高齢者をめぐる住宅行政や、様々な高齢者居住について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	地球共生デザイン・建築・住環境のすすめ	環境と人間活動、二つの観点からアプローチする共生デザイン・建築・住環境の考え方について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	バイオミメティックデザイン	自然界における形態・構造・システムとそれらの応用デザインについて学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを考える。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	省エネルギーとパッシブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のパッシブデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	省エネルギーとアクティブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のアクティブデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	解説 まとめテスト	まとめテストを実施する。	講義内容の復習をして、 まとめテストを受けること。

実務経験				
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 (R2) 住環境デザイン学科 教科書	理工学部住環境デザイン学科	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」/Moodle			
Teams コード	a7du5oz			
Moodle コース名	科学技術教養 R2 (検索キー: SR2)			

および登録キー	SR22020
連絡手段	Teams の投稿欄、学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回の課題 15%、まとめテスト 85% で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	12 号館 6・7 階 各教員研究室
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は、授業外の課題や小テストの学習時間も含めて、毎回 1.5 時間程度とすること。 各回の課題については、随時評価の上返却する

科目名	科学技術教養 I～IV (A1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加嶋 章博
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。(SDGs-11)
到達目標	インテリアから都市空間にいたるまで、広範な建築技術、建築デザイン、建築文化における現状と課題を通して、建築がどのように考え出され、社会、生活、文化にどのような影響を及ぼすものかを理解する。その上で、身近な生活環境から公共的な都市空間にいたるまで、そのあり方を的確に考察することができる基本的な教養を身につけることを目標とする。毎回授業教材を用意するが、詳細は、初回授業で資料を提示する。
授業方法と留意点	各回、テキストおよび資料を用いた授業を実施する。 各回の内容に沿った演習課題、ならびに、総合課題を行う。 提供するテキストを講義の進捗にあわせて読み込むことが重要である。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	建築とは何か	建築の考え方、 建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、 ライフスタイルからみた多様性、民族・ 地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	3	建築と都市環境	建築と都市の関係、 都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	4	建築の歴史	建築の歴史の変遷から建築における多 様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	5	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がど のように関係しているのかを理解する 視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	6	建築の内装	インテリア、 家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	7	建築の外装・外構	外装材とは エクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	8	建築のUD	こどもと建築、 バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	9	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築の ストック活用事例、保存手法、コンバー ションといった建築保存の視点から見 る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	10	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する 視点を培います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	11	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒 音・エネルギー、 エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

実務経験	
関連科目	なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 A1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業で実施する演習課題 (60%) と総合課題 (40%) を総合して評価し、60 点以上を合格とする。期末試験は行わない。 原則として、課題提出の割合が 80% 以上の履修者を成績評価の対象とします。ただし、各課題の提出期限は明示するものの、体調不良や通信環境

	の不具合などの不測の事態に鑑み、追加提出期限を設けた上で課題を受け付けます。この追加提出期限内に提出された課題も評価します。
学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
担当者の研究室等	8号館3階・各授業担当者の研究室
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部における出席および遅刻・欠席の扱いに準ずる。 事前あるいは事後学習として、教科書（配布予定）の当該回の範囲を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。



科目名	科学技術教養 I～IV (A2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加嶋 章博
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築の代表的な計画デザインや実施の事例、およびその手法について紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。(SDGs-11)
到達目標	建築学に関連する科学技術についての教養を身につけることで、卒業後も社会生活を送るうえで、様々な状況において適用し、建設的な思考につなげていくことができることを目標とする。
授業方法と留意点	主に Moodle を利用して授業を運用する。全体アナウンスなどは、Teams を用いる場合もある。各講の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回実施する。各講で用意する教材や資料の理解に努め、課題を通して、建築と社会の繋がりを考えられるようになることを重視する。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	住む建築	住宅、住むことの工夫	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	集まって住む建築	集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	公共の建築	公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着目し、建築の公共性について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	商業の建築	商業建築、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	文化の建築	建築に象徴された様々な文化を読み取る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	交通の建築	陸・海・空の交通 交通建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	高層の建築	五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	地下空間の建築	地下空間のメリット、地下空間の利用、 大深度地下、地下都市	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	環境共生と建築	環境と共生する建築について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	木造の建築	木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	プレハブ建築	種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮設住宅	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築とロボット	ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	街並みの建築	ランドスケープと建築、 街並みと要素	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	将来の建築	空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

実務経験																	
関連科目	専門科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養 A2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養 A2			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	科学技術教養 A2																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle																
Teams コード	t09d96w																
Moodle コース名 および登録キー	科学技術教養 A2 kagakua2																
連絡手段	Teams																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	計15回の課題(各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・課題・グループワークディスカッションの成果により構成され、それぞれの割合の合計が100%となる)により評価する。期末試験は行わない。																
学生への	科学技術教養科目においては受講者希望者数が定数を超えた場合、抽選により受講者を決定する。																

メッセージ	
担当者の研究室等	8号館3階
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部における出席および遅刻・欠席の扱いに準ずる。 事前あるいは事後学習として、教科書（配布予定）の当該回の範囲を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。

科目名	科学技術教養 I～IV (M1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀江 昌朗
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を提供する。</li> <li>moodleによるweb授業を実施します。</li> <li>テキストは必要ですので準備してください。なお、適宜、資料や動画を配信します。</li> <li>各テーマごとに指定された時間までに「ノート」や「課題(レポート)」などをmoodleに提出してもらいます。</li> <li>質問等はMicrosoft Teams「科学技術教養M1」で受け付けます。学術教養M1で受け付けます。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	機械工学とは?	<ul style="list-style-type: none"> <li>機械工学の発展の歴史を概観する。</li> <li>「機械工学漫茶羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。</li> </ul>	テキスト第1章に目を通しておくこと。
	2	道具を作る(1) - ヒトと道具	<ul style="list-style-type: none"> <li>道具の歴史:ヒトの手の動作を補助道具から労働としての道具へ</li> <li>農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具</li> </ul>	テキスト第2章2.1-2.3に目を通しておくこと。
	3	道具を作る(2) - 作り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>鋳造, 塑性加工, 粉末冶金, 材料加工, 生産加工</li> <li>刀鍛冶, セラミックス, 溶接・切断</li> </ul>	テキスト第2章2.4-2.5に目を通しておくこと。
	4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属材料はなぜ素材たり得るか?</li> <li>鉄鋼の製造方法</li> </ul>	テキスト第3章(鉄つくりの変遷)に目を通しておくこと。
	5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	<ul style="list-style-type: none"> <li>セラミックス・ポリマーの構造(金属と何が異なるか?)</li> <li>高強度・機能性材料の話</li> </ul>	テキスト第4章(非金属材料)に目を通しておくこと。
	6	モノの材料を知る(3) - 新素材	<ul style="list-style-type: none"> <li>新素材と高度産業化社会</li> <li>形状記憶, 超伝導, ナノ材料</li> </ul>	テキスト第5章(新素材)に目を通しておくこと。
	7	ものづくり(1) - 母なる機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>機械部品を作る機械(工作機械の歴史)</li> <li>機械時計, 工具と運動, 機械部品</li> </ul>	テキスト第6章(母なる機械)に目を通しておくこと。
	8	ものづくり(2) - 精密に加工する	<ul style="list-style-type: none"> <li>精度を追求する(コンピュータと工作機械)</li> <li>精密加工, マシニングセル, ナノ加工</li> </ul>	テキスト第7章(精密に加工する)に目を通しておくこと。
	9	ものづくり(3) - 工場(ファクトリー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界が学ぶ・日本が誇る製造システム</li> <li>無人化工場, デジタル屋台, トヨタ生産方式</li> </ul>	テキスト第8章(ファクトリー)に目を通しておくこと。
	10	大きな力を得る(1) - 車輪	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業を補助する機械の歴史</li> <li>車輪, 滑車, てこ, 歯車</li> </ul>	テキスト第9章(人間の作業を補助する機械)に目を通しておくこと。
	11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>巨大な力を得るためのアクチュエータ</li> <li>油圧・水圧・空気圧機器, 電動機</li> </ul>	テキスト第10章(力を伝える・増幅する機械)に目を通しておくこと。
	12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクチュエータの知能化とパワーアシスト</li> <li>パワードスーツ, 電動アシスト自転車, 人工筋肉</li> </ul>	テキスト第11章(機械の知能化)に目を通しておくこと。
	13	ミクロの機械(1) - 精密機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さくなることで変わる使い方</li> <li>時計, 携帯電話, 計算機, テレビカメラ, 情報機器</li> </ul>	テキスト第12章(精密機械)に目を通しておくこと。
	14	ミクロの機械(2) - 小さく作る	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さくすることで変わる物理の法則, 加工法・アクチュエータ</li> <li>微細加工, ナノテク, 半導体製造, カーボンナノチューブ, 微細気泡</li> </ul>	テキスト第13章(小さくつくる)に目を通しておくこと。
	15	ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械</li> <li>カプセル内視鏡, 鞭毛モーター</li> </ul>	テキスト第14章(小さくて広大な世界)に目を通しておくこと。

実務経験

関連科目 産業技術史

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養M1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回、「ノート」と「課題（レポート）」を提出する。 「ノート」(50%)、「課題（レポート）」(50%)で評価する。
学生への メッセージ	機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？近未来にどのような乗り物が実現されているか？等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]
備考	フィードバック：Microsoft Teams で適宜対応

科目名	科学技術教養 I～IV (M2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀江 昌朗
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに、機械システムと社会や経済活動、生活・生命との関わりを理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>各テーマごとに、歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。</li> <li>moodleによるweb授業を実施します。</li> <li>テキストは必要ですの準備してください。なお、適宜、資料や動画を配信します。</li> <li>各テーマごとに指定された時間までに「ノート」や「課題(レポート)」などをmoodleに提出してもらいます。</li> <li>質問等はMicrosoft Teams「科学技術教養M2」で受け付けます。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは?	<ul style="list-style-type: none"> <li>機械工学の発展の歴史を概観する。</li> <li>「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。</li> </ul>	テキスト第1章(機械工学とは)に目を通しておくこと(60分)
2	活動の源(1) - 動力・エネルギーの世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近なエネルギー利用と動力の歴史</li> <li>人力、蓄力、水力、風力、蒸気力</li> </ul>	テキスト第2章(動力)に目を通しておくこと(60分)
3	活動の源(2) - 発電	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー利用と発電</li> <li>水力、風力、火力、地熱、原子力発電</li> </ul>	テキスト第3章(電力)に目を通しておくこと(60分)
4	乗り物(1) - エンジン	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱工学とエンジンシステム</li> <li>種々のエンジン(ガソリン等)、電気モーター</li> </ul>	テキスト第4章(エンジン)に目を通しておくこと(60分)
5	乗り物(2) - 輸送する	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通と物流</li> <li>自動車交通、船舶、鉄道</li> </ul>	テキスト第5章(輸送する)に目を通しておくこと(60分)
6	空間を移動する(1) - 空を飛ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>空を飛ぶことができる機械の機能、種類、歴史と原理</li> <li>飛行機、ヘリコプター、飛行船、揚力</li> </ul>	テキスト第6章(空を飛ぶ)に目を通しておくこと(60分)
7	空間を移動する(2) - 高速移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>深海に潜ることができる機械の機能、種類、歴史と原理</li> <li>しんかい6500、深海探査、水圧、チタン合金、生命維持システム</li> </ul>	テキスト第7章(深海に潜る)に目を通しておくこと(60分)
8	空間を移動する(3) - 宇宙へ飛び立つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇宙空間に飛んでいける機械の機能、種類、歴史と原理</li> <li>ロケット、スペースシャトル、宇宙ステーション、高真空、ロケットエンジン</li> </ul>	テキスト第8章(宇宙へ飛び立つ)に目を通しておくこと(60分)
9	物を測る	<ul style="list-style-type: none"> <li>測り方を共通にすることで広がる世界</li> <li>度量衡と政治の関係、原器、ものさし、機械的測定</li> </ul>	テキスト第9章(物を測る)に目を通しておくこと(60分)
10	センサで測る	<ul style="list-style-type: none"> <li>センサの発達と誤差との戦い</li> <li>センサ、センシング技術、計測と誤差</li> </ul>	テキスト第10章(センサで測る)に目を通しておくこと(60分)
11	制御する	<ul style="list-style-type: none"> <li>制御の成り立ちと発展、自動制御とは?</li> <li>调速機、結果を見て制御する(フィードバック)</li> </ul>	テキスト第11章(制御するとは?)に目を通しておくこと(60分)
12	操る・抑える	<ul style="list-style-type: none"> <li>サーボ機構とプロセス制御</li> <li>ロボットアーム、ロケット、原子力発電、鉄鋼プラント</li> </ul>	テキスト第12章(操る・抑える)に目を通しておくこと(60分)
13	生命・生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>バイオエンジニアリング、生体工学の世界</li> <li>生体の模倣と設計、鳥と飛行機、ハコブグと低燃費自動車、サソリと多足ロボット</li> </ul>	テキスト第13章(バイオエンジニアリング)に目を通しておくこと(60分)
14	生命・生体に倣う機械(2) - 医療と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間を援ける医用工学、人間を癒す福祉工学の世界</li> <li>人工臓器、福祉機器、健康機器、スポーツ機器</li> </ul>	テキスト第14章(医療と健康)に目を通しておくこと(60分)
15	生命・生体に倣う機械(3) - ヒューマノイド	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間を測る、診る、まねる世界</li> <li>生体計測、生体力学、医用診断装置、ヒューマノイドロボット</li> </ul>	テキスト第15章(ヒューマノイド)に目を通しておくこと(60分)

実務経験	
関連科目	産業技術史

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Teams「オンライン型」／Moodle			
Teams コード	fbr4gqg			
Moodle コース名 および登録キー	科学技術教養M2 STML2			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回、講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ(50%)、講義内容に対する理解と考察を問うレポート(50%)で評価する。			
学生への メッセージ	機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？近未来にどのような乗り物が実現されているか？等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、次のルールを原則とする。 ・出席率80%以上を成績評価の対象とする。 ・30分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・遅刻は2回で欠席1回とみなす。 ※ 詳細は、初回到配布する『M科開講「科学技術教養M1・M2」受講の際の注意』を熟読すること。  フィードバック：講義メモ・レポートは翌週に返却する。			

科目名	科学技術教養 I～IV (E1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片田 喜章
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにある電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどの様なしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	[教材・課題提供型授業] 教科書データ・補助資料 (パワーポイントスライドやPDFファイル、事前に録画した動画など) の教材を Moodle 上に提示する。 毎回、課題レポートが用意されている。課題レポートの提出も Moodle 上で行う。 前期授業期間に合わせて、すべての講義回に無理のないペースで取り組み、補助資料を参照しつつ教科書の精読・課題作成・課題提出を行うことを推奨する。  電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の
科目学習の効果 (資格)	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ることで、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ることで、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史と電気回路の基礎	科学技術教養の意義 電磁気学の歴史、電気回路の基礎、抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	電池の構造と応用技術	交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、 1次電池と2次電池	テキストを復習する。1時間
3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、 直流モータと交流モータ	テキストを復習する。1時間
4	半導体のお話	半導体とは何か、p形とn形、 大規模集積回路、LED照明とは	テキストを復習する。1時間
5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する。 売電のしくみ。	テキストを復習する。1時間
6	様々な電子回路	電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、 代表的なアナログ電子回路	テキストを復習する。1時間
7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習する。1時間
8	モールス通信から携帯電話へ	モールス通信からベルの電話へ、 電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、 携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習する。1時間
9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	テキストを復習する。1時間
10	パソコン・スマートフォンの内部構造	構成要素と機能、ハードウェアの構成、 ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化	テキストを復習する。1時間
11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやIHのしくみ	テキストを復習する。1時間
12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ、録音技術の歴史 CDのしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成	テキストを復習する。1時間
13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、 立体映像表示の原理と実例	テキストを復習する。1時間
14	インターネットのつながり方	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線LAN、ネットワークセキュリティ	テキストを復習する。1時間
15	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	テキストを復習する。1時間

実務経験	
関連科目	特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				



	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	授業の各回で課される課題レポートの合計点で評価する。 原則として課題レポートの提出率80%以上を成績評価の対象とする。		
学生への メッセージ	身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。		
担当者の 研究室等	1号館4階・5階の電気電子工学科教員室 責任者：片田（1号館4階）		
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 原則として課題レポートの提出率80%以上を成績評価の対象とする。 教材・課題提供、課題レポート提出はすべてMoodle上で行う。 課題レポートには提出期日がある。 課題レポートの結果はMoodle上で個別に通知する。		

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ (E2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	片田 喜章
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	電気は我々の生活になくなくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジー、ロボット工学や人工知能の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどの様なしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	[教材・課題提供型授業] 教科書データ・補助資料 (パワーポイントスライドの PDF ファイルまたは説明動画) の教材を Moodle 上に提示する。 毎回、課題レポートが用意されている。課題レポートの提出も Moodle 上で行う。 授業時間割の日時に合わせて、すべての講義回を週一回のペースで取り組み、補助資料を参照しつつ教科書の精読・課題作成・課題提出を行うことを推奨する。ICT ツールのトラブルも考慮して、提出期日より早く提出するように注意すること。  電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。
科目学習の効果 (資格)	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。 また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史	科学技術教養の意義 磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hz と 60Hz	テキストを復習する。1時間
3	原子力発電	核エネルギーの発生、原子力発電のしくみ、事故と防災対策、放射線の性質と測定	テキストを復習する。1時間
4	再生可能エネルギー	太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率	テキストを復習する。1時間
5	送電・配電	電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド	テキストを復習する。1時間
6	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生	テキストを復習する。1時間
7	電波と放送	電波の利用と電波法、ラジオ放送、テレビ放送、衛星放送、放送の進化	テキストを復習する。1時間
8	携帯電話のしくみ	固定電話から携帯電話へ、セルラーシステム、携帯電話のつながるしくみ、音声通信からデータ通信へ、携帯電話の進化	テキストを復習する。1時間
9	私たちの生活をささえる電気照明	エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色LEDの発明、LED照明	テキストを復習する。1時間
10	レーザーの発明	物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴	テキストを復習する。1時間
11	光デバイス	さまざまな光デバイスの原理と応用など	テキストを復習する。1時間
12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、集積回路技術の歴史と現状、スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展	テキストを復習する。1時間
13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機 ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで	テキストを復習する。1時間
14	ロボット工学	ロボット工学の過去・現在・未来を解説	テキストを復習する。1時間
15	人工知能	知能・人工知能とは？ 人工知能の歴史、人工知能の分類、ルールベースとエキスパートシステム、機械学習と深層学習	テキストを復習する。1時間

実務経験	
関連科目	特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	科学技術教養 E2 (2020 年度後期) kyouyo_e2			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業の各回で課される課題レポートの合計点で評価する。 原則として課題レポートの提出率 80%以上を成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。			
担当者の 研究室等	1 号館 4 階・5 階電気電子工学科教員室 責任者：片田 (1 号館 4 階)			
備考	原則として課題レポートの提出率 80%以上を成績評価の対象とする。 教材・課題提供、課題レポート提出はすべて Moodle 上で行う。 課題レポートには提出期日がある。 課題レポートの結果は Moodle 上で個別に通知する。			

科目名	科学技術教養 I～IV (C1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 賢太郎, 伊藤 謙
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	講義は非対面型遠隔授業方式で行う。講義資料はICTツールを用いて、PPT+ナレーションを用いた動画とPDFを配布する。当該資料を繰り返し視聴し学習するとともに課題に取り組み理解を深める。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い、・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち（建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・）	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締固めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ、水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間、地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

実務経験	
関連科目	特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C1	都市環境工学科全教員	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	各回もしくは各テーマでの課題の点数を合計した総合点で評価する。3回分以上(2回までは可とする)の課題の提出がない場合には、原則として成績評価の対象としない。
学生への メッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
担当者の 研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 I～IV (C2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 諱
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	概要：いくつかのプロジェクトを例に、建設事業の流れに沿って、社会的な位置づけ、市民生活との関わりを解説する。第1回目の授業では、事業主体別にプロジェクトの流れを説明する。第2～3回目は、高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査、環境の調査を解説する。第4～7回は高速道路を構成する橋、トンネル、道路の設計と施工の考え方を解説する。第8～15回は、安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰、堤防、浸水対策、ライフライン、公園・まちづくり、地震防災など身近なテーマを概説する。
到達目標	土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動、生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	講義は非対面型遠隔授業方式で行う。講義資料はICTツール(Moodle)を用いて、PPT+ナレーションを用いた動画とPDFを配布し、課題の回収も行う。当該資料を繰り返し視聴し学習するとともに課題に取り組み理解を深める。私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され、設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する。代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ、安全で安心な社会を築くため、何が重要かを理解できるように講義を進める。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	社会基盤をつくる建設事業の流れ	国家プロジェクト、地域プロジェクト、民間主導プロジェクトなど事業主体別の建設の流れ、計画(意思決定)～調査～設計～施工の概要	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
2	高速道路建設の計画・調査・設計	国土開発や都市計画・地域計画との関連、一般道路や鉄道との関連、需要予測、予算、資本回収の考え方	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
3	建設に必要な調査①(地形の調査・土質の調査)	測量計測技術(地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS測量)、地盤の調査	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
4	建設に必要な調査②(環境の調査)	生態系・環境への影響、負荷の軽減策、排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
5	橋の設計と施工	コンクリート橋と鋼橋、橋の形式と適用支間長、景観設計、施工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
6	トンネル、半地下開削工法	山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工、地山の強度と工法、半地下開削工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
7	道路の設計と施工	盛土形式と高架形式、道路の構造、道路舗装	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
8	ダム・堰の計画と施工	洪水への備え(治水、防災)、発電・灌漑・上水などの多目的ダム、ダムの構造と種類	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
9	堰・堤防の計画と設計・施工	洪水・土砂災害への備え(治山・治水、防災)、計画雨量、遊水池、親水施設	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
10	都市型洪水への備え	透水性舗装、都市大型地下貯槽、屋上緑化、排水と下水道設計、地下道・地下鉄の浸水対策	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
11	市民の日常生活を支えるライフライン	上下水道、水質管理、水質浄化、下水処理、電気、通信設備	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
12	市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり	まちづくりとは、実現するものは、人とのかかわり、技術とのかかわり	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
13	市民の生活環境を守る	地球環境と生態系、人口増加と都市化・食糧生産・自然エネルギーの問題点、火力発電所と大気汚染・温暖化、原子力発電と放射能問題、温排水問題	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
14	震災から市民を守る	地震の種類と特性、地震に備える構造とは？制震構造と免震構造、ライフラインの耐震、避難体制、緊急地震速報	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
15	津波や台風・高潮から市民を守る	港湾施設・防波堤、津波、避難施設、避難誘導	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	

実務経験

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C2	都市環境工学科全教員	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
2				
3				

授業形態 Moodle

Teams コード

Moodle コース名 2020年度3年次配当科目 科学技術教養 C2

および登録キー	STLC2
連絡手段	学内メール, Teams 内質問チャンネル
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	受講メモ 50%, レポート・小論文 50%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2~3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。ただし、4回分以上(3回までは可とする)の課題の提出がない場合には、原則として成績評価の対象としない。
学生への メッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです。
担当者の 研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。



科目名	科学技術教養 I～IV (T1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東 武大
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。 SDGs-9
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。 初回に配布するテキスト及び毎回の配布資料を用いる。
科目学習の効果 (資格)	数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。	教科書 1 章の予習復習 (1 時間)
2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	教科書 1 章の予習復習 (1 時間)	
3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	教科書 1 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)	
4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)	
5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)	
6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	教科書 2 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)	
7	波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)	
8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)	
9	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返して現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)	
10	レーザー光	光を発するもの(光源)には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード(LED)が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)	
11	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)	

			線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	
	12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	教科書 3,4 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)
	15	ガリレイの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	教科書 5 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
実務経験				
関連科目	数学・物理の全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 T1	基礎理工学機構	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。			
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成り立たないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1 号館 2 階, 3 号館 3 階, 8 号館 2 階]			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。			

科目名	科学技術教養 I～IV (T2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「信念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を發明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。 SDGs-9
到達目標	時間や位置とともに変化する量をどのように表すのか、そして、その変化の割合がいったい何を意味し、現代科学につながっていくのかを、歴史的背景も込めて、知る。
授業方法と留意点	座学・説明中心の講義となるので、遅刻・私語は厳禁である。 今年度は Teams・Moodle 等を用いた遠隔授業を行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文字式から単位のない実数の世界へ	微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。	課題・レポート
3	ヒルベルトのテーゼ: 無矛盾ならば存在する	微積分学が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。	課題・レポート
4	現代科学は力(ちから) F から始まった	ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力 F を使って、なんだか良くわからない質量 m を定めた。どちらもわかかっていないのに、大丈夫なのだろうか。	課題・レポート
5	万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か	ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。	課題・レポート
6	破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か	物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は50年間議論した。その結論はどうだったのか。	課題・レポート
7	蒸気機関と熱力学の誕生(1)	18世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。	課題・レポート
8	蒸気機関と熱力学の誕生(2)	カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。	課題・レポート
9	蒸気機関と熱力学の誕生(3)	カルノーからケルビン、そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則(熱力学第一法則)v.s. 不可逆性。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。	課題・レポート
10	角の3等分について(1)	歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数	課題・レポート
11	角の3等分について(2)	60度は3等分できない、体の考え方	課題・レポート
12	角の3等分について(3)	体の拡大と作図できる数、定理の証明	課題・レポート
13	ニュートンからアインシュタインへ	慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等々アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。	課題・レポート
14	特殊相対論---原理はたったの2つだけ	2つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。	課題・レポート
15	一般相対論---重力の謎	ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか?	課題・レポート

実務経験	
関連科目	数学・物理の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 T2		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle			
Teams コード	1jae0fu			
Moodle コース名 および登録キー	科学技術教養 II 2020T2			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%, レポート 50%で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は毎回1時間以上かけること。			

科目名	経営学 I	科目名 (英文)	Introduction to Business Administration I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畠山 俊宏
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1001a0		

授業概要・目的	本講義の目的は、経営学の各分野の基本的な知識を習得し、それらの知識に基づいて企業の活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と経営学検定の過去問題の演習を通じて、経営学の基本的な内容について学習する。 授業担当者は、民間企業における経理事務の経験から企業の経営活動の実践的な分析方法を教授する。
到達目標	①企業論、経営戦略論、経営組織論、グローバル経営論の基礎的な内容を説明できる。 ②経営理論に基づいて企業の活動を分析できる。
授業方法と留意点	教科書を予習した後に解説動画を視聴する。動画を視聴した後は Moodle で経営学検定の過去問題の演習を行う。正解できるまで繰り返し受験することが望ましい。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	企業と経営	本講義のガイダンスと企業と経営の概要について学習する。	事前：シラバスと教科書の第1部第1章を読んでおくことを事前に読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
2	企業・会社の概念と諸形態	様々な企業の形態について学習する。	事前：教科書の第1部第2章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
3	所有・経営・支配と経営目的	株式会社の所有と経営の関係について学習する。	事前：教科書の第1部第3章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
4	会社機関とコーポレート・ガバナンス	株式会社の様々な機関とコーポレートガバナンスについて学習する。	事前：教科書の第1部第4章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
5	経営戦略の体系と理論	経営戦略の概念や経営戦略論の発展について学習する。	事前：教科書の第2部第1章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
6	全社戦略 (1)	全社戦略の概要やドメインについて学習する。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
7	全社戦略 (1)	成長のための戦略について学習する。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
8	事業戦略	事業戦略や競争戦略について学習する。	事前：教科書の第2部第3章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
9	機能別戦略	研究開発、生産、マーケティング、人事等の機能別の戦略について学習する。	事前：教科書の第2部第4章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
10	経営組織の基本形態	ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・アンド・スタッフ組織等の経営組織の基本形態について学習する。	事前：教科書の第3部第2章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
11	企業組織の諸形態 (1)	職能部門制組織、事業部制組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
12	企業組織の諸形態 (2)	マトリックス組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
13	M&Aと買収防衛策	M&Aの目的・手法、買収防衛策について学習する。	事前：教科書の第5部第1章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
14	経営のグローバル化	経営の国際化、グローバル化について学習する。	事前：教科書の第5部第2章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
15	企業経営と情報化	企業経営における情報化の進展、情報ビジネスについて学習する。	事前：教科書の第5部第3章を読んでおくこと。小テストに解答しておくこと (1.5時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)

実務経験

関連科目 企業論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、グローバル経営論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経営学検定試験公式テキスト1	経営学の基本	経営能力開発センター
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	15回分の学習終了後に Moodle で実施する小テスト 20%、期末レポート 80% で評価する。
学生への メッセージ	予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んで欲しい。
担当者の 研究室等	11号館8階 島山研究室
備考	授業内容に関する質問は、メールと Teams で対応する。メールアドレスについては、Team s および講義資料に記載する。

科目名	経営学Ⅱ	科目名 (英文)	Introduction to Business Administration II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北 真収
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1002a0		

授業概要・目的	経営学の基本について全体を網羅して講義を行います。授業で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	経営とは何か、何が課題なのかなど、現実即して経営への疑問を広く理解することが目標です。
授業方法と留意点	事例を紹介しながら経営知識を講義します。理解を助けるためにDVDなども活用します。 学習課題への応答を求めるなど参加を重視します。 授業形態はTeamsを使用。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく 事後：講義内容を復習する
2	企業と社会	企業の社会的責任を中心に講義します	事前：教科書の1章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
3	企業の種類	私的企業、公的企業について講義します	事前：教科書の2章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
4	企業理念と企業文化	企業理念や企業文化の形成について講義します	事前：教科書の3章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
5	企業統治	経営者を規律づけるしくみ (ガバナンス) を学びます	事前：教科書の4章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
6	企業倫理	不祥事を未然に防ぐことについて考えます	事前：教科書の5章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
7	企業戦略、競争戦略	企業の成長、競争に打ち勝つ考え方を説明します	事前：教科書の6章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
8	企業財務	資金の調達、運用について説明します	事前：教科書の7章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
9	合併・買収 (M&A)	合併・買収の意義や効果を考えます	事前：教科書の8章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
10	イノベーション	新しい事業の創出、そのプロセスについて講義します	事前：教科書の9章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
11	マーケティング	製品やサービスの販売 (対象や価値伝達) に関して学びます	事前：教科書の10章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
12	組織の構造	企業が活動できるしくみを学びます	事前：教科書の11章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
13	ものづくり	多品種少量生産を中心にものづくりの発展について学びます	事前：教科書の12章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
14	仕事と生活の調和	ワークライフバランスの必要性、多様な働き方について考えます	事前：教科書の13章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
15	国際経営	グローバルな経営組織や経営の現地化について講義します	事前：教科書の14章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)

実務経験	
関連科目	経営組織論、経営管理論、人的資源管理論、経営戦略論、グローバル経営論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実践に学ぶ経営学	風間信隆・松田健編著	文真堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	9glre30
Moodleコース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	期末レポート50%、小テスト50%で評価します。
学生への メッセージ	代表的な事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
担当者の 研究室等	寝屋川11号館8階 北 真収研究室 (相談時は事前に連絡してください)
備考	



科目名	経営管理論	科目名 (英文)	Business Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1003a0		

授業概要・目的	本講義の目的は、経営管理の中心となる環境・組織・戦略の関係や理論を理解して企業のマネジメントを分析する能力を習得することである。教員による講義と学生同士のグループディスカッションを通じて経営環境・経営戦略・経営組織の理論を学習する。経営管理論は、経営環境の分析、経営戦略の立案と実行、経営組織の編成などの企業のマネジメントを研究する学問として発展してきた。企業で活躍するためには経営環境・経営戦略・経営組織などの経営管理に関する主要な知識を習得することが不可欠となっている。授業担当者は、民間企業における経理事務の経験から企業のマネジメントの実践的な分析方法を教授する。
到達目標	①経営環境・経営戦略・経営組織に関する主要な理論の概要を説明できる。 ②経営環境・経営戦略・経営組織の理論に基づいて企業のマネジメントを分析できる。
授業方法と留意点	教科書を予習した後に解説動画を視聴する。動画を視聴した後はMoodleで課題に取り組み、学習内容を復習する。
科目学習の効果(資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	戦略とは	本講義のガイダンスと経営環境、経営戦略、経営組織の関係について学習する。?	事前: シラバスと教科書の序章を事前に読んでおくこと (1時間) 事後: 講義資料を読み返しておくこと (1時間)
2	業界の構造	5つの競争要因、戦略グループ、移動障壁について学習する。	事前: 教科書の第1章を読んでおくこと (1時間) 事後: 講義資料を読み返しておくこと (1時間)	
3	取り巻く環境	PEST分析、3C分析、SWOT分析について学習する。	事前: 教科書の第2章を読んでおくこと (1時間) 事後: 講義資料を読み返しておくこと (1時間)	
4	基本戦略	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略について学習する。	事前: 教科書の第3章を読んでおくこと (1時間) 事後: 講義資料を読み返しておくこと (1時間)	
5	製品ライフサイクル別戦略	製品ライフサイクルの4段階(導入期・成長期・成熟期・衰退期)について学習する。	事前: 教科書の第4章を読んでおくこと (1時間) 事後: 講義資料を読み返しておくこと (1時間)	
6	市場地位別戦略	市場における4つの地位(リーダー・チャレンジャー・ニッチャー・フォロワー)について学習する。	事前: 教科書の第5章を読んでおくこと (1時間) 事後: 講義資料を読み返しておくこと (1時間)	
7	リソース・ベースト・ビュー	経営資源、VRIO分析、コア・コンピタンスについて学習する。	事前: 教科書の第6章を読んでおくこと (1時間) 事後: 講義資料を読み返しておくこと (1時間)	
8	事業システム	価値連鎖、価値システムについて学習する。	事前: 教科書の第7章を読んでおくこと (1時間) 事後: 講義資料を読み返しておくこと (1時間)	
9	事業領域	企業成長とドメイン、ドメインの物理的定義と機能的定義について学習する。	事前: 教科書の第8章を読んでおくこと (1時間) 事後: 講義資料を読み返しておくこと (1時間)	
10	成長戦略	成長マトリックス、多角化の種類、シナジー効果について学習する。	事前: 教科書の第9章を読んでおくこと (1時間) 事後: 講義資料を読み返しておくこと (1時間)	
11	資源展開	プロダクトポートフォリオマネジメントについて学習する。	事前: 教科書の第10章を読んでおくこと (1時間) 事後: 講義資料を読み返しておくこと (1時間)	
12	戦略の社会的側面	CSR(企業の社会的責任)とCSV(共有価値の創造)について学習する。	事前: 教科書の第11章を読んでおくこと (1時間) 事後: 講義資料を読み返しておくこと (1時間)	
13	組織構造	経営組織の種類、コンティンジェンシー理論について学習する。	事前: 教科書の第12章を読んでおくこと (1時間) 事後: 講義資料を読み返しておくこと (1時間)	
14	組織文化	組織文化の機能、組織文化のマネジメントについて学習する。	事前: 教科書の第13章を読んでおくこと (1時間) 事後: 講義資料を読み返しておくこと (1時間)	
15	企業変革	変革型リーダー、組織開発、人材マネジメントについて学習する。	事前: 教科書の第14章を読んでおくこと。小テストに解答しておくこと (1.5時間) 事後: 教科書と講義資料を読み返しておくこと (1時間)	

実務経験	
関連科目	経営学Ⅰ・Ⅱ、経営組織論、経営戦略論、人的資源管理論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの戦略論 第2版	嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎 編著	碩学舎
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	15回分の学習終了後にMoodleで実施する小テスト20%、期末レポート80%で評価する。

(基準)	
学生へのメッセージ	予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んでほしい。
担当者の研究室等	11号館8階 島山研究室
備考	授業内容に関する質問は、メールと Teams で対応する。メールアドレスについては、Team s および講義資料に記載する。

科目名	財務諸表論入門	科目名 (英文)	Introduction to Accounting
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1005a0		

授業概要・目的	<p>会計情報は、債権者や投資家など特定の人々へのみ有用なものではない。今日の経済社会においては、すべての人々が企業活動と何らかの関係を持っている。企業は、地域社会をはじめ多くの関係者と利害関係を有しており、会計情報は、誰にとっても必要で有用な情報である。また、会計はビジネスの言語といわれ、ビジネスに不可欠になっている。会計を知らずして、経済社会を理解することはできないといえる。本講義では、会計の意義、目的、規範、会計情報開示制度等に関する基礎的知識・用語を初心者向けに分かり易く解説し、公表されている会計情報、財務諸表から企業の経営内容を読み取り、理解できるようになり、また、2年生以降に履修することになる上級科目のより円滑な理解に結びつくことを目的とする。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計の目的、役割を理解する。</li> <li>・我が国の会計制度、会計情報開示制度の概要を理解する。</li> <li>・自ら必要な会計情報を入手できるようになる。</li> <li>・財務諸表の内容、作成ルールを理解し、会計情報から企業内容を推察することができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインで実施します。</li> <li>・配布資料に基づいて解説し、その後、講義内容を確認するために、グループワーク、または個人で、課題を解き、自分たちの解をプレゼンテーションし、授業終了後に提出する。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスマンとして必要なビジネス言語である会計リテラシーが修得できる。</li> <li>・組織 (主として企業) に関する会計情報を読み取る力を修得することにより2年次以降の学びに有用である。</li> <li>・経営学部に関連する一連の各種資格取得のための受験準備スタートのよい契機になる。</li> <li>・会計と資格、職業についての理解が得られる。(公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士等)</li> </ul>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	会計の意義と目的	会計の意義、財務会計と管理会計、会計の役割・機能	配布資料の復讐と整理 (1時間)
	2	わが国の会計制度	トライアングル体制、会社法会計、金融商品取引法会計、税務会計	事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
	3	会計情報開示制度	ディスクロージャーとは、電子開示システム	事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
	4	会計基準	企業会計原則、会計基準の国際的統合	事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
	5	会計情報の内容 (1)	会計情報の入手方法、個別財務諸表と連結財務諸表	事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (90分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
	6	会計情報の内容 (2)	貸借対照表 様式、基本原則、分類基準	事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
	7	会計情報の内容 (3)	貸借対照表 資産について	事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (90分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
	8	会計情報の内容 (4)	貸借対照表 負債について	事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
	9	会計情報の内容 (5)	貸借対照表 純資産について	事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
	10	まとめと確認テスト	まとめと小テスト	事前学習 (90分) 今までの配布資料、練習問題の復讐 事後学習 (30分) まとめテストの見直し
	11	会計情報の内容 (6)	損益計算書 収益の認識と測定	事前学習 (30分) まとめてテストで理解できないところを調べる 事後学習 (1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し の見直し
	12	会計情報の内容 (7)	損益計算書 費用の認識と測定 営業損益、経常損益、純損益	事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し

	13	会計情報の利用・分析	安全性分析、収益性分析	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(90分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
	14	会計と職業・資格	日商簿記検定、ビジネス会計検定試験、BATIC、公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
	15	まとめ	講義の復習とまとめ 質問の受付	事前学習(1時間) 今までの講義でどこが理解できていないか箇条書きにする。 事後学習(5時間) 試験に備え、今までの復習
実務経験				
関連科目	経営学、企業簿記			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アカウンティング	笹倉 淳史他	同分館出版
	2	1からの会計	桜井 久勝	中央経済社
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle			
Teams コード	2kcol8j			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への(参加)と課題の提出(50%)、定期テスト(50%)			
学生への メッセージ	毎回授業に出席して、練習問題を自分で解いて下さい。			
担当者の 研究室等	佐井研究室(11号館8階)			
備考				

科目名	マーケティング概論	科目名 (英文)	Introduction to Marketing Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1006a0		

授業概要・目的	現在、いかなる組織においても、マネジメントを効果的に行い、目標を達成するにはマーケティング発想が不可欠である。本授業では、事例を交えながらマーケティングの基礎知識を身につけることを目的とする。各々がマーケティング論的な視点で物事をとらえる事ができるようになることを到達目標とする。 中小企業等の組織におけるマネジメントのコンサルティングの実践経験から、製品開発や販売など実践事例を紹介しながら解説を行う。
到達目標	1) マーケティング論の基礎的な知識を習得する。 2) マーケティング論的な視点で物事をとらえる事ができるようになる。
授業方法と留意点	講義が中心。 教科書にそって授業を進めるが、毎回、プリントを用意する。また小テスト等を行う。授業中、練習問題を考察・検討・発表してもらう。 授業はオンラインで行う。
科目学習の効果 (資格)	マーケティングの基礎知識を学習し、現実の問題について考えることで、世の中で行われているマーケティング活動を身近に理解できるようになる。マーケティング論的な発想ができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	マーケティングの本質とは	マーケティングとは何か、基本的な用語について解説する。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間)
2	マーケティングの4P	マーケティングを考えたときの基本となる4Pについて学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間)	
3	STP	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間)	
4	顧客満足とは	顧客満足とは何か。満足を得るための組織とはどのようなものかを考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間)	
5	市場での競争と自社の存在意義	戦略構築のために自社の置かれている状況を把握する意義、手法について学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間)	
6	競合他社について考える	競合他社と自社との関係から戦略構築を考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する (1時間)。 【事後学習】 次回の中間テストに備える (1時間)	
7	中間テスト 製品のマネジメント	製品開発プロセスやライフサイクルからマネジメントを考える	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える	
8	ブランドとは	ブランドの意義を考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間)	
9	ブランドのマネジメント	強いブランドを構築するための戦略について考える	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間)	
10	流通チャネルとは	製品を顧客が手にするまでの流通チャネルの果たす役割について解説する。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間)	
11	流通チャネルのマネジメント	流通チャネルをいかにコントロールしていくのかなど戦略について学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間)	
12	営業とは	日本特有の人的販売である営業の果たす役割や、理想の営業とは何かを考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間)	
13	価格設定の考え方	価格設定の基本的な考え方を学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間)	
14	価格のマネジメント	価格に関する戦略について学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間)	
15	顧客とのコミュニケーション	顧客との双方方向のコミュニケーションによって関係を構築する意義やそれを活用した戦略について考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 これまでの復習をし期末テストに備える (6時間)	

実務経験																	
関連科目	経営学Ⅰ・Ⅱ、マーケティング戦略論、リテール・マーケティング、消費者行動論、マーケティング演習などマーケティングコース科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日経文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日経文庫	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	マーケティング	恩蔵直人	日経文庫													
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティングをつかむ</td> <td>黒岩健一郎</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティングをつかむ	黒岩健一郎	有斐閣	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	マーケティングをつかむ	黒岩健一郎	有斐閣													
	2																
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」																
Teams コード	tfp553q																
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	講義内課題40% (小テスト、中間テストなど)、期末試験60%																
学生への メッセージ	日常生活において企業がどのような製品をどのような手段で告知し、それをどのような価格でどのような方法で販売しているのかに関心を持って講義に臨んでもらいたい。 教科書は必ず購入すること。																
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂教授室																
備考																	

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1007a0		

授業概要・目的	本講義は経済に関する基礎的な考え方の修得を目的とする。モノやサービスを売ったり買ったりすることを経済取引という。例えば通学の際には電車やバスという交通サービスを購入し、学食で定食を食べるにもお金を払って定食というモノを購入している。また、アルバイトをすれば月々お金をもらうが、それは諸君が自らの労働力をバイト先に売っているからである。経済がいかに身近な現象であるかが分かるだろう。問題は、この身近な経済が私たちの目の届きにくい世界と密接に繋がっているということである。例えば数年前、太平洋を挟んだアメリカで住宅ローン市場に問題が発生し、多くの先輩達が就職に難儀した経緯がある。したがって私たちは、これら経済を積極的に理解し、自力で対処する能力が必要なのである。本講義では基礎的なながらも経済に対する重要な考え方を学生の理解度を重視しながら進める予定である。
到達目標	経済問題を考えるための初歩的なスキルの修得
授業方法と留意点	講義は原則として「オンライン型」で進める。 講義は極力教科書に沿って行うので、必ず教科書を購入のこと。漠然と講義に出席するのではなく、予習・復習を行い、疑問点は迷うことなく質問し解決すること。講義中でも良いし、Teamsのチャンネル「質問箱」に書き込んで良い。質問は学習意欲の表れとして評価の対象である。
科目学習の効果 (資格)	日々の暮らしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	経済現象と日々の暮らしとの結びつきについて概説し、本講義で何を考え学ぶのかを解説する。	復習すること。小テストあり。
2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。	教科書第1章 (pp. 19-32) を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)	
3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。	教科書第2章 (pp. 33-48) を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)	
4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。	教科書第3章 (pp. 49-64) を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)	
5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。	教科書第4章 (pp. 65-81) を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)	
6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。	教科書第5章 (pp. 83-98) を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)	
7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。	教科書第6章 (pp. 99-113) を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)	
8	中間試験	前回までの内容について試験を行う。	復習を行っておくこと。小テストなし。	
9	労働市場	学生にとって最も身近な労働市場について解説する。	教科書第7章 (pp. 115-132) を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)	
10	GDPについて	国の豊かさを測るGDPについて解説する。	教科書第8、9章 (pp. 137-163) を予習復習のこと。小テストあり。(2時間)	
11	消費需要と投資需要	GDP構成要素の消費と投資について解説する。	教科書第10章 (pp. 165-178) を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)	
12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。	教科書第11章 (pp. 179-194) を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)	
13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。	教科書第12章 (pp. 195-212) を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)	
14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。	教科書第13章 (pp. 213-227) を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)	
15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。	教科書第14章 (pp. 229-244) を予習復習のこと。小テストあり。(1時間)	

実務経験	
関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの経済学	中谷武、中村保 編著	碩学舎・中央経済社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle
Teamsコード	i9sirfd
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	Teamsに設定する「質問箱」というチャンネルへ
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	原則として中間試験(50%)と期末試験(50%)で評価する。ただし、学習意欲(注意:出席率ではない)の顕著な者には加点して評価する。詳細は



(基準)	初回講義で述べる。
学生へのメッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢であって欲しい。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進願いたい。
担当者の研究室等	1 1 号館 8 階(岩坪教授室)
備考	中間試験については結果を返却し解説を行う。

科目名	ミクロ経済学	科目名 (英文)	Micro Economics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1008a0		

授業概要・目的	現代経済学の理論は、体系化された科学としてミクロ経済学とマクロ経済学に大別される。そのうち、ミクロ経済学は、皆が納得しうる仮定を起点とした論理に基づく消費者と企業の行動原理を説明する理論である。本講義では、ミクロ経済学を現実事象と照らし合わせながら解説し、使えるミクロ経済学の修得を目的とする。
到達目標	1. 経済主体の意思決定や市場について理解すること 2. 経済的思考の使い方が分かること
授業方法と留意点	講義は極力教科書に沿って行うので、必ず教科書を購入のこと。理解度を重視して進めるので、講義計画の変更もある。漠然と講義に出席するのではなく、予習・復習を行い、発言することを求める。発言は評価の対象である。
科目学習の効果 (資格)	TVや新聞、インターネットから無造作に流される経済的事象を自らで整理し、自らで判断するための初歩的な能力が身につく。さらに、教員免許状取得・公務員試験・中小企業診断士試験など資格取得に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ミクロ経済学で学ぶこと	経済学を学ぶ理由、ミクロ経済学とマクロ経済学の違い、価格メカニズムの働き、図とグラフ	事前学習：教科書第1章を読み、理解する (60分) 事後学習：教科書第8章の復習を行う (30分)
2	需要の理論	市場需要曲線、曲線のシフト要因、消費者余剰	事前学習：教科書第2章を読み、理解する (60分) 事後学習：教科書第8章の復習を行う (30分)
3	消費者行動の理論 (1)	最適消費点	事前学習：教科書第3章を読み、理解する (60分) 事後学習：教科書第8章の復習を行う (30分)
4	消費者行動の理論 (2)	需要曲線の導出、曲線のシフト要因再考	事前学習：教科書第3章を読み、理解する (60分) 事後学習：教科書第8章の復習を行う (30分)
5	供給の理論 (1)	限界費用、供給量の決定、供給曲線、生産者余剰	事前学習：教科書第4章を読み、理解する (60分) 事後学習：教科書第8章の復習を行う (30分)
6	供給の理論 (2)	右上がりの限界費用曲線、市場供給曲線、供給曲線のシフト要因	事前学習：教科書第4章を読み、理解する (60分) 事後学習：教科書第8章の復習を行う (30分)
7	限界概念と微分	限界概念と微分との関係について説明する。	予習はできないが、復習をしっかりと行うこと。
8	需給曲線と弾力性	需要と供給の弾力性、弾力性を左右する要因	事前学習：教科書第5章を読み、理解する (60分) 事後学習：教科書第8章の復習を行う (30分)
9	ここまでのまとめと中間テスト	これまでのまとめと中間試験を行う	事前に復習を行っておくこと。
10	市場の理論	さまざまな市場構造、社会的余剰、効率性、分配の公正性、市場の失敗	事前学習：教科書第6章を読み、理解する (60分) 事後学習：教科書第8章の復習を行う (30分)
11	需要と供給で解く経済問題	需給曲線を用い経済問題を考える	事前学習：教科書第7章を読み、理解する (60分) 事後学習：教科書第8章の復習を行う (30分)
12	余剰分析で解く経済問題	余剰を用い経済問題を考える	事前学習：教科書第8章を読み、理解する (60分) 事後学習：教科書第8章の復習を行う (30分)
13	市場の失敗 (1)	外部効果、公共財	事前学習：教科書第9章を読み、理解する (60分) 事後学習：教科書第8章の復習を行う (30分)
14	市場の失敗 (2)	情報の非対称性	事前学習：教科書第10章を読み、理解する (60分) 事後学習：教科書第8章の復習を行う (30分)
15	市場の失敗 (3)	独占市場	事前学習：教科書第11章を読み、理解する (60分) 事後学習：教科書第8章の復習を行う (30分)

実務経験	
------	--

関連科目	くらしと経済、マクロ経済学、金融論、企業金融論 等
------	---------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ミクロ経済学の基礎 ベーシックプラス	小川光、家森信善	中央経済社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	中間試験(40%)と期末試験(60%)で評価する。なお、詳細は初回講義で述べる。
-----------	--

学生へのメッセージ	経済の基本的な考え方を身につけておくことは、社会人としてだけでなく日常生活においても“身を守る”という意味で極めて重要です。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進してください。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館7階杉本研究室
----------	-------------



科目名	経営史	科目名 (英文)	Business History
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐藤 正志
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1009a0		

授業概要・目的	日本経済・産業の発展過程をたどりながら、各時代を代表する企業と企業者（経営者）を取り上げ、その経営活動と経営理念を分析します。企業の形成過程を、経済の発展段階との関連をふまえて考察し、これからの企業・企業家像を考えていきます。
到達目標	経営事象の本質を歴史的な視点から把握することができる力をつけます。
授業方法と留意点	Teams 上に入れた PowerPoint 等のファイルを見て、そこに書かれた指示に従って学習してください。
科目学習の効果（資格）	企業経営に関する基本的事項を歴史的観点から、また企業者の行動や考えを通して学びますので、他の専門科目の理解を深めるのに役立つと思います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	経営史の方法論	経営発展の分析方法について、マックス・ウェーバーの「エートス」論とシュンペーターの「イノベーション」論を取り上げて解説する。	マックス・ウェーバーとシュンペーターについて事前に調べ（2時間）、講義後、講義内容をレポートにまとめる（2時間）。
2	「葉っぱビジネス」から学ぶ経営者のあり方	徳島県上勝町の「葉っぱビジネス」の展開を紹介し、経営者のあり方について考える。	事前に「葉っぱビジネス」について調べる（2時間）。講義後、内容をまとめる（2時間）。	
3	都市化・消費社会化と企業者（1）	「消費社会論」から見て現代はどのような時代なのか、消費社会における経営活動のあり方について考える。	事前に「消費社会論」について調べる（2時間）。講義後、内容をまとめる（2時間）。	
4	都市化・消費社会化と企業者（2）	1920年代の都市化についてまとめ、そのなかで活躍した阪急・小林一三の経営活動と理念を取り上げる。	都市化とは何か予習する（2時間）。講義後に小林一三の経営理念をレポートにまとめる（2時間）。	
5	都市化・消費社会化と企業者（3）	都市化・消費社会化のなかで積極的なマーケティング活動をおこなってきたサントリーの経営者を紹介する。	講義前、サントリーの経営者について調べる（2時間）。講義後、サントリーの発展について、レポートにまとめる（2時間）。	
6	高度経済成長と企業（1）	松下電器の発展と松下幸之助の経営哲学を考える。	松下の経営理念「水道哲学」とは何か、またはそれは現在のパナソニックに引き継がれているのか、事前に調べる（2時間）、講義後にレポートにまとめる（2時間）。	
7	高度経済成長と企業（2）	二輪車メーカーの乱立状態から、どのようにホンダが勝ち抜いていったのか。本田宗一郎と藤沢武夫の「二人三脚」経営を紹介する。	事前に本田宗一郎と藤沢の関係について調べる（2時間）。講義後に「二人三脚」経営の他の事例を調べ、なぜそれが有効なのかレポートにまとめる（2時間）。	
8	高度経済成長と企業（3）	技術者であり事業戦略家でもあったSONYの井深大の経営について学ぶ。その後、アップルのような創造的な製品を生まなくなった日本の「ものづくり」について分析する。	事前にSONYの歴史について予習する（2時間）。講義後に、講義内容をレポートにまとめる（2時間）。	
9	流通革命と企業経営（1）	「繁盛店」はなぜ巨大スーパーに成長していったのか。戦後流通業の変化について学ぶ。	事前に流通業界の主役の移り変わりを調べる（2時間）、講義後に「繁盛店」の事例をレポートにまとめる（2時間）。	
10	流通革命と企業経営（2）	中内・ダイエーの「流通革命」とその挫折	事前に中内の「流通革命」論について予習する（2時間）。中内の「流通革命」の成果は現在どのような形で引き継がれているのかを考え、レポートにまとめる（2時間）。	
11	流通革命と企業経営（3）	セブンイレブン・鈴木敏文の発想	事前に、なぜセブンイレブンが成功したか調べる（2時間）。鈴木による小売業の革新は、海外においても通用するのか、考え、レポートにまとめる（2時間）。	
12	IT革命と企業（1）	インターネットの発展とそれに伴う企業経営の変革について考える。またコロナ禍がもたらす企業経営の変容とインターネットとの関わりについても考察する。	事前にインターネットの発展による企業経営の変容を調べる（2時間）。講義後に、講義内容をレポートにまとめる（2時間）。	
13	IT革命と企業（2）	ソフトバンク・孫正義の経営行動と理念について。「マイノリティ」としての存在がいかなる経営を生んだか。	孫正義がどのような理念で経営行動を行ってきたのか、事前に調べる（2時間）。講義後に講義内容をレポートにまとめる（2時間）。	
14	ゲーム産業の発展と展望	テレビ（ビデオ）ゲームの開発史と任天堂のビジネスモデルについて。ゲーム産業の将来についても考える。	日本のゲーム産業の歴史について、事前に調べる（2時間）。講義後に任天堂の強さの要因をレポートにまとめる（2時間）。	
15	まとめ	講義全体のまとめと最終課題について説明。	練習問題を事前事後に行う（計4時間）	

実務経験	
関連科目	経営史、企業者史（S科目目）

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder			
Teams コード	vyfymv5			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	最終回に課題を出すレポートで評価します。			
学生への メッセージ	Teams 上に入れた PowerPoint 等のファイルを見て、そこに書かれた指示に従って学習してください。 質問はメールで下記まで。同じ質問が多い場合は、回答ファイルを指定場所に入れて、受講者全員が確認できるようにします。 メールアドレス：sato@kjo.setsunan.ac.jp 件名には「経営史 S 質問」と書き、本文中には質問者の学籍番号、氏名を明記してください。			
担当者の 研究室等	11号館8階(佐藤研究室)			
備考				

科目名	ビジネス情報処理 I	科目名 (英文)	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1010a0		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報セキュリティに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、情報セキュリティ、Word を用いた文書作成、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	パソコンによる課題作成を通じた学習が中心となる。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコン、OS の概要と日本語変換	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
2	インターネットの活用とセキュリティ (1)	インターネット環境と情報検索	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
3	インターネットの活用とセキュリティ (2)	インターネットの光と影	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
4	パソコンの活用 (1)	ファイルとフォルダーの操作、フリーソフトの活用	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
5	パソコンの活用 (2)	アプリケーションの利用	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
6	文書作成 (1)	Word の基礎知識、文書作成・編集・保存	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
7	文書作成 (2)	文書のスタイル、図・表の挿入	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめ、確認テストと解説	前半の内容を復習しておく (90 分) タイピング練習 (5 分)
9	文書作成応用 (1)	表現力アップのための応用技術 1、オブジェクトの処理	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
10	文書作成応用 (2)	表現力アップのための応用技術 2、応用操作	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
11	文書作成応用 (3)	論文やレポート作成に必要な技術、文書作成のまとめ	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
12	プレゼンテーション (1)	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
13	プレゼンテーション (2)	図表の挿入と編集、スライドの視覚効果、テーマ別スライド作成 1	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
14	プレゼンテーション応用	テーマ別スライド作成 2・相互評価、スライド作成のまとめ	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
15	後半のまとめ、学力診断テスト	後半のまとめ、確認テストと解説	後半の内容を復習しておく (90 分) タイピング練習 (5 分)

実務経験	
関連科目	I C T 概論、ビジネス情報処理 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業中の課題等 (70%)、確認テスト (30%) の結果をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、授業中の課題提出状況が単位取得に大きく影響する。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	11号館8階(栢木教授室)
備考	確認テストは回収後、解答の解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。



科目名	ビジネス情報処理 I	科目名 (英文)	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	EFGH
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1010a0		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報セキュリティに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、情報セキュリティ、Word を用いた文書作成、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	パソコンを使った実習形式を中心とした授業を行い、適宜学生によるプレゼンテーション、相互評価を取り入れる。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコン、OS の概要と日本語変換	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
2	インターネットの活用とセキュリティ (1)	インターネット環境と情報検索	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
3	インターネットの活用とセキュリティ (2)	インターネットの光と影	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
4	パソコンの活用 (1)	ファイルとフォルダーの操作、フリーソフトの活用	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
5	パソコンの活用 (2)	アプリケーションの利用	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
6	文書作成 (1)	Word の基礎知識、文書作成・編集・保存	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
7	文書作成 (2)	文書のスタイル、図・表の挿入	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめ、確認テストと解説	前半の内容を復習しておく (90 分) タイピング練習 (5 分)
9	文書作成応用 (1)	表現力アップのための応用技術 1、オブジェクトの処理	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
10	文書作成応用 (2)	表現力アップのための応用技術 2、応用操作	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
11	文書作成応用 (3)	論文やレポート作成に必要な技術、文書作成のまとめ	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
12	プレゼンテーション (1)	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
13	プレゼンテーション (2)	図表の挿入と編集、スライドの視覚効果、テーマ別スライド作成 1	タイピング練習 (5 分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
14	プレゼンテーション応用	テーマ別スライド作成 2・相互評価、スライド作成のまとめ	タイピング練習 (5 分) 授業中に課した課題を進めておく (60 分) テキストの該当箇所を読んでおく (30 分)
15	後半のまとめ、学力診断テスト	後半のまとめ、確認テストと解説	後半の内容を復習しておく (90 分) タイピング練習 (5 分)

実務経験	
関連科目	ICT 概論、ビジネス情報処理 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業中の演習課題 (40%)、確認テスト (50%)、授業への取組姿勢 (10%) をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部非常勤講師室)
備考	確認テストは回収後、解答の解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名 (英文)	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1011a0		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、Excel を用いたデータの加工、およびマクロを使った自動処理を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信するために必要で適切なデータの加工方法やマクロを使って処理を自動化する方法を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本科目では、Excel を用いた表計算の基本的な使い方から応用に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。パソコンによる課題作成を通じた学習が中心となる。習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、Excel の基礎知識、データの入力・編集	タイピング練習 (5分) 授業の内容を復習しておく (30分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	2	表計算 (1)	表の作成・編集、罫線の作成・編集	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	3	表計算 (2)	グラフの種類と作成	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	4	表計算 (3)	印刷設定、基本的な関数の利用	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	5	表計算応用 (1)	様々な関数の利用	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	6	表計算応用 (2)	集計と分析 1	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	7	表計算応用 (3)	集計と分析 2	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	8	前半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	前半の内容を復習しておく (60分) タイピング練習 (5分)
	9	データベースの利用	Excel データベース	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	10	データ分析 (1)	代表値について、データの整理	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
	11	データ分析 (2)	Excel を活用した分析	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
	12	Excel によるマクロの利用 (1)	マクロを使った自動処理	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) マクロに関する指定した教材を確認する (30分)
	13	Excel によるマクロの利用 (2)	マクロの応用 1	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) マクロに関する指定した教材を確認する (30分)
	14	Excel によるマクロの利用 (3)	マクロの応用 2	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) マクロに関する指定した教材を確認する (30分)
	15	後半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく (60分) タイピング練習 (5分)

実務経験	
------	--

関連科目	ICT 概論、ビジネス情報処理Ⅰ
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams/Moodle「オンデマンド型」/Web Folder
------	----------------------------------

Teams コード	yangcby
Moodle コース名 および登録キー	johos
連絡手段	「質問・連絡票」(Teams、Moodle に記載)
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業中の課題等 (70%)、確認テスト (30%) の結果をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、授業中の課題提出状況が単位取得に大きく影響する。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階(橋本研究室)
備考	確認テストは回収後、解答の解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	EFGH
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1011a0		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、Excel を用いたデータの加工、およびマクロを使った自動処理を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信するために必要で適切なデータの加工方法やマクロを使って処理を自動化する方法を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本科目では、Excel を用いた表計算の基本的な使い方から応用に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。パソコンを使った実習形式を中心とした授業を行う。 分析結果や Excel マクロをグループで共有するなど相互に評価する機会を持つ。 パソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、Excel の基礎知識、データの入力・編集	タイピング練習(5分) 授業の内容を復習しておく(30分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)
2	表計算(1)	表の作成・編集、罫線の作成・編集	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)
3	表計算(2)	グラフの種類と作成	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)
4	表計算(3)	印刷設定、基本的な関数の利用	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)
5	表計算応用(1)	様々な関数の利用	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)
6	表計算応用(2)	集計と分析1	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)
7	表計算応用(3)	集計と分析2	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)
8	前半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	前半の内容を復習しておく(60分) タイピング練習(5分)
9	データベースの利用	Excel データベース	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)
10	データ分析(1)	代表値について、データの整理	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)
11	データ分析(2)	Excel を活用した分析	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)
12	Excel によるマクロの利用(1)	マクロを使った自動処理	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) マクロに関する指定した教材を確認する(30分)
13	Excel によるマクロの利用(2)	マクロの応用1	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) マクロに関する指定した教材を確認する(30分)
14	Excel によるマクロの利用(3)	マクロの応用2	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) マクロに関する指定した教材を確認する(30分)
15	後半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく(60分) タイピング練習(5分)

実務経験	
関連科目	ICT 概論、ビジネス情報処理Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Web Folder
Teams コード	jkz9ate
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	Teams の講義チームにて。
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業中の演習課題 (50%)、確認テスト (50%)、をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。Teams 経由でお聞きください。 講義時間中はリアルタイムで、それ以外の日時でも返信が遅くなりますが回答致します。
担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部非常勤講師室)
備考	授業中の課題は適宜コメントを返します。

科目名	ICT概論	科目名(英文)	Introduction to Information and Communications Technology
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1012a0		

**授業概要・目的**  
 本講義では、いまやあらゆる産業・業界において重要なビジネス基盤となったインターネットの仕組みとその役割について、マーケティング論と情報システム学による文理総合的な解説を行っていく。前半は我々消費者にとって身近な ICT のひとつである “インターネット”を中心に、その仕組み、サービスの特徴、中盤は情報社会を取り巻く脅威について、後半は企業の経営活動、特にマーケティングと ICT との関係について取り上げる。講義の主な目的は、ICT が単なる日常のコミュニケーションや情報サービスを利用するための道具ではなく、多様化・細分化が進む市場を相手とする企業の経営活動において絶対不可欠な技術であることを初年時の文系学生が理解し、本学科が提供する ICT 関連科目を経営学の学問的位置付けにおいて学習することの意義を学ぶことである。授業担当者は、かつて情報通信分野の研究所に勤務し大手通信キャリアのエンジニアらと共に次世代移動体情報通信技術・サービスの開発に携わってきた。講義では、これらの技術開発から市場普及に取り組む企業と現場の様子についても紹介していくつもりである。

**到達目標**  
 ・本学科が提供する ICT 関連科目を経営学の学問的位置付けにおいて学習することの意義について簡潔に説明ができる。  
 ・インターネットの基本構成及び要素技術について説明ができる。  
 具体的には、パケット通信、通信プロトコル、IP アドレス、LAN、ルータ等の通信機器の諸機能など。 ・企業が導入している各種 ICT の目的・機能について、マーケティング・プロセス(企画、設計、生産、流通、販売過程)ごとに説明ができる。

**授業方法と留意点**  
 <講義の進め方>  
 ・講義はライブ配信によるオンライン講義を実施します。  
 ・受講にあたって、教材(以下の教科書と補助教材)を準備しておいてください。  
 ・オンライン講義を受講できない学生のために、音声入り資料を講義終了後にアップする予定です。  
 <教材の入手方法>  
 講義では、教科書及び補助教材を使用します。各自印刷し、手元に置いて受講してください。  
 (1)教科書:総務省「安心してインターネットを使うために国民のための情報セキュリティサイト」<https://www.soumu.go.jp/main>

**科目学習の効果(資格)**  
 IT パスポート試験・基本情報技術者試験など IT 系の資格を取得するのに関連する科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	主に以下について取り上げる ・講義の進め方 ・ICT 概論の概要	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、内容を予習しておいてください。
2	インターネットの仕組み(1)	主に以下について取り上げる ・インターネットの基本原理 ・ホームページの仕組み ・電子掲示板の仕組み等	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲:教科書 p3`13「インターネットを使ったサービス」
3	インターネットの仕組み(2)	主に以下について取り上げる ・ML の仕組み ・ショッピングサイトの仕組み ・ネットバンキングの仕組み ・無線 LAN の仕組み等	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲:教科書 p14`21「インターネットを使ったサービス」
4	情報社会とリスク(1)	主に以下について取り上げる ・ウイルスとは何か ・ウイルスの感染経路 ・不正アクセス等	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲:教科書 p22`34「どんな危険があるの?」
5	情報社会とリスク(2)	主に以下について取り上げる ・第4回内容の追加解説 ・次回テストについての説明 ・レポート作成と提出	これまでの解説範囲(教科書 p3`34)に関して復習し、不明な点や詳細な解説が必要な点について、第5回講義開始 2 日前までにメールで送ってください。
6	テストとディスカッション	以下を実施する ・テスト	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を復習しておいてください。 解説範囲:教科書 p3`34
7	ICTの脆弱性とセキュリティインシデント(1)	主に以下について取り上げる ・情報セキュリティ事故 ・脆弱性等	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲:教科書 p35`38「どんな危険があるの?」
8	ICTの脆弱性とセキュリティインシデント(2)	主に以下について取り上げる ・ID とパスワード ・ウイルス対策 ・不正アクセス対策等	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲:教科書 p39`50「インターネットの安全な歩き方」
9	セキュリティ技術と対策(1)	主に以下について取り上げる ・ファイアウォールの仕組み ・暗号化の仕組み ・SSL の仕組み等	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲:教科書 p51`55「情報セキュリティ関連の技術」
10	セキュリティ技術と対策(2)	主に以下について取り上げる ・第9回内容の追加解説 ・次回テストについての説明 ・レポート作成と提出	これまでの解説範囲(教科書 p35`55)に関して復習し、不明な点や詳細な解説が必要な点について、第10回講義開始 2 日前までにメールで送ってください。
11	テストとディスカッション	以下を実施する ・テスト	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を復習しておいてください。 解説範囲:教科書 p34`55
12	ICTとマーケティング(1)	主に以下について取り上げる	WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロー



			<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティングの考え方</li> <li>・消費者行動論等</li> </ul>	<p>ドし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲：講義内にて指定</p>
	13	ICT とマーケティング (2)	<p>主に以下について取り上げる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT と広告技術</li> <li>・CRM とデータベース等</li> </ul>	<p>WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲：講義内にて指定</p>
	14	ICT とマーケティング (3)	<p>主に以下について取り上げる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業のメディア戦略事例等</li> </ul>	<p>WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲：講義内にて指定</p>
	15	総括	<p>主に以下について取り上げる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義の総括を行う</li> <li>・レポート作成と提出</li> </ul>	<p>WebFolder に上げてある補助教材資料をダウンロードし、以下の解説範囲の内容を予習しておいてください。 解説範囲：講義内にて指定</p>
実務経験				
関連科目	経営情報システム、コンテンツビジネス、メディア戦略論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「授業方法と留意点」に記載		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「授業方法と留意点」に記載		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<p>&lt;評価の方法&gt; いずれもオンライン講義で実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト x2 (70%)</li> <li>・レポート x3 (30%)</li> </ul>			
学生への メッセージ	<p>自宅にインターネット環境がなく受講できないという場合は、第3回講義までに担当教員にメールにて知らせてください。講義は、教科書の指定ページについて解説していきます。インターネット回線の問題等で受講できない場合でも、自宅学習できるよう配慮し計画通り進めていきますので、安心して受講してください。また遠隔講義中にトラブル（回線不良による切断等々）が発生した場合は、少し時間を置いて、Teams に再ログインしてください。</p> <p>講義終了後も質問等は受け付けますので、遠慮なく知らせてください。 入学早々、何かと不安で</p>			
担当者の 研究室等	11号館7階（針尾准教授室）			
備考	<p>シラバスの内容については、受講生の理解の程度、関心に合わせて適時調整する。</p> <p>【教職科目】教科に関する科目（高等学校 情報） 【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理（実習を含む。） 【履修区分】必修</p>			

科目名	情報倫理	科目名 (英文)	Information and Morals
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1013a0		

授業概要・目的	社会における情報化は非常に速いスピードで浸透し、情報技術は我々の生活の中で欠かせないものとなっている。その一方で、インターネットを使用した犯罪や事件は後を絶たず、利用者は被害者となるだけでなく、巧妙な手口から意図しないまま加害者となってしまうことさえある。こうした情報化社会における影の部分の踏まえて、さまざまなトラブル事例から組織や個人としてどのように情報倫理を考えるかを学び、インターネット犯罪に対して防止・対応できる能力を養っていく。
到達目標	インターネットやソーシャルメディアなどを使用するなかで、情報に接する際の倫理的な思考を養い、組織や個人としての行動規範を修得することができる。
授業方法と留意点	Moodleを使用したオンライン授業を実施する。各週の授業資料を必ず閲覧し、レポート・課題を期日までに提出すること。
科目学習の効果 (資格)	ITパスポート試験、基本情報技術者試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	情報セキュリティとサイバー犯罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報倫理の必要性</li> <li>不正アクセス・なりすまし</li> <li>情報の改ざん</li> <li>クラウドサービスのリスク</li> <li>ネットウィルス・マルウェア</li> <li>レポート課題 (講義内容穴埋め)</li> </ul>	事前学習: なし 事後学習: レポート課題を完成する (1時間)
2	事例研究 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題 (グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	事前学習: グループワークに向けて要点を整理しておく (30分) 事後学習: レポート課題を完成する (1時間)
3	ソーシャルメディアと情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネット時代のコミュニケーション</li> <li>ブログ・SNS・電子メール</li> <li>拡散と炎上</li> <li>ネット依存・誹謗・中傷</li> <li>ソーシャルゲーム</li> <li>レポート課題 (講義内容穴埋め)</li> </ul>	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習: レポート課題を完成する (1時間)
4	事例研究 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題 (グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	事前学習: グループワークに向けて要点を整理しておく (30分) 事後学習: レポート課題を完成する (1時間)
5	個人情報管理とプライバシー保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の漏えい</li> <li>プライバシー侵害</li> <li>組織と個人の守秘義務</li> <li>レポート課題 (講義内容穴埋め)</li> </ul>	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習: レポート課題を完成する (1時間)
6	事例研究 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題 (グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	事前学習: グループワークに向けて要点を整理しておく (30分) 事後学習: レポート課題を完成する (1時間)
7	発表と全体討論	<ul style="list-style-type: none"> <li>提示テーマの資料作成および発表</li> </ul>	事前学習: 発表準備 (2時間) 事後学習: なし
8	E-commerce (電子商取引)	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子決済・取引</li> <li>個人情報のためのネット認証</li> <li>ネット広告</li> <li>ネットオークション・ショッピング</li> <li>売買トラブル (悪徳商法・詐欺)</li> <li>レポート課題 (講義内容穴埋め)</li> </ul>	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習: レポート課題を完成する (1時間)
9	事例研究 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題 (グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	事前学習: グループワークに向けて要点を整理しておく (30分) 事後学習: レポート課題を完成する (1時間)
10	企業における情報倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンスと法令遵守</li> <li>事業と内部統制の両立</li> <li>ITシステムと企業倫理</li> <li>レポート課題 (講義内容穴埋め)</li> </ul>	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習: レポート課題を完成する (1時間)
11	事例研究 (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題 (グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	事前学習: グループワークに向けて要点を整理しておく (30分) 事後学習: レポート課題を完成する (1時間)
12	科学技術と情報倫理・知的財産権	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的財産の侵害</li> <li>著作物と著作権</li> <li>参考文献と引用</li> <li>マルチメディアコンテンツの複製</li> <li>レポート課題 (講義内容穴埋め)</li> </ul>	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習: レポート課題を完成する (1時間)
13	事例研究 (6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査</li> <li>レポート課題 (グループワークによる討論・まとめ)</li> </ul>	事前学習: グループワークに向けて要点を整理しておく (30分) 事後学習: レポート課題を完成する (1時間)
14	発表と全体討論	<ul style="list-style-type: none"> <li>提示テーマの資料作成および発表</li> </ul>	事前学習: 発表準備 (2時間) 事後学習: なし
15	まとめと理解の確認テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>総括</li> <li>確認テスト</li> </ul>	事前学習: レポート課題の復習 (2時間) 事後学習: なし

実務経験				
関連科目	情報処理関連の基礎科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	事例でわかる情報モラル 30 テーマ	実教出版編修部	実教出版(株)
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ネット炎上対策の教科書	小林 直樹	日経 BP 社
	2	情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子、原田隆史ほか	技術評論社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	期日までに提出されたレポート・課題により評価する。			
学生への メッセージ	この授業では、グループワークでの討論、提出課題の作成、発表など出席しなければ達成できないことが非常に多くあります。必ず、毎回授業に参加すること。			
担当者の 研究室等	11 号館 8 階 堀井教授室			
備考	課題やレポートについては、実施した次の授業で講評する。			

科目名	経営統計学	科目名 (英文)	Business Statistics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1014a0		

授業概要・目的	「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかという印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問である。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。本科目では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要な基礎的知識を身につける。
到達目標	統計データの整理の仕方や表・グラフでの表し方、基本統計量の求め方とその意味について理解し、実際のデータを客観的に解釈して活用するための基礎的な知識と技術を身につけることができる。
授業方法と留意点	配布資料をもとに説明を行い、パソコン等を使った演習を取り入れつつ授業を進める。配布資料に含まれる演習問題を、表計算ソフトの Excel を使って解くことで理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。 社会調査士資格の取得に必要な科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か	配付資料を読んでおく (30分)
	2	統計学の基礎的発想 (1)	変数、尺度水準	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
	3	統計学の基礎的発想 (2)	標本空間と事象、確率分布	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
	4	統計資料の整理 (1)	統計資料の収集と読み方	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
	5	統計資料の整理 (2)	統計資料のまとめ方、提示の方法	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
	6	データの集計 (1)	代表値について、平均値、分散、標準偏差	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
	7	データの集計 (2)	度数分布、ヒストグラム、標準化	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
	8	前半のまとめ・中間レポート課題	前半部分の振り返りとまとめ、中間レポート課題	前半部分の内容を見直しておく (90分)
	9	データの集約 (1)	クロス表とクロス集計	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
	10	データの集約 (2)	クロス集計の実践	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
	11	データの相関関係 (1)	散布図と相関関係、相関関係と因果関係	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
	12	データの相関関係 (2)	共分散と相関係数、相関係数の解釈、擬似相関	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
	13	経営における統計学	経営分野で用いられる統計学の手法	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
	14	統計学の応用	統計的検定・推定について	事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分)
	15	全体のまとめ・最終レポート課題	全体の振り返りとまとめ、最終レポート課題	全体の内容を見直しておく (120分)

実務経験	
関連科目	数学基礎 I、数学基礎 II、ビジネス情報処理 II、ビジネスデータ分析

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	hppish7
Moodle コース名および登録キー	経営統計学 (栢木 : S 科月曜 5限) 2020 年度 grasshopper
連絡手段	Teams のチャット機能およびメール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス :
評価方法 (基準)	授業中の課題提出状況 (10%)、提出課題の達成度 (60%)、中間・最終レポート課題 (30%) をもとに総合的に評価します。 授業中の課題提出状況が単位取得に大きく影響しますので、計画的に受講してください。
学生へのメッセージ	経営統計学は、数学的な思考が必要となる学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な取り組みを期待します。
担当者の研究室等	11 号館 8 階 (栢木教授室)
備考	必要に応じて資料を配布します。 授業中の課題は適宜解説し、コメントを返します。

科目名	市場調査入門	科目名 (英文)	Introduction to Marketing Research
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1015a0		

授業概要・目的	社会調査(市場調査)の意義やその歴史、調査倫理、調査類型など、社会調査全般に関して講義を行う。さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究を紹介しつつ、それぞれの調査の特徴や相違点について学んでいく。 SDGs-8, 9
到達目標	社会調査(市場調査)の基礎知識を得ることができる。社会調査(市場調査)の基礎を知り、簡単な調査をすることができる。
授業方法と留意点	毎回、担当者がパワーポイントによるプレゼンテーション形式の動画を配信する。各自、視聴すること。 今年度はオンライン授業なので、学生同士の話し合いなどは行わない。 第1回授業で授業ルールなどについて説明をするので必ずオンライン参加すること。 授業の連絡は、teams で行う。毎週必ず授業開講時刻に確認すること。 また、動画の配信、小テスト、課題の提出はすべて Moodle で行う。
科目学習の効果(資格)	社会調査士資格の取得に履修が必要な科目のうち「【A】社会調査の基本的事項に関する科目」に対応。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 市場調査とは?	授業の概要について	事前学習課題: 市場調査とは何か? 事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)
2	社会調査とは	社会調査とは何か。なぜ社会調査が必要なのか。	事前学習課題: 社会調査の必要性について事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
3	社会調査の歴史	社会調査はいつからおこなわれ、どのように発展してきたか。	事前学習課題: 社会調査の歴史について調べまとめておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
4	社会調査の種類	さまざまな社会調査の種類について。市場調査、世論調査など。	事前学習課題: 社会調査の種類とその内容について調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
5	調査倫理	調査をおこなう際の心得について。ラポールなど。	事前学習課題: ラポールとは何か? 事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
6	量的調査と質的調査—それぞれの特徴	量的調査と質的調査の特徴と違いについて。	事前学習課題: 量的調査と質的調査の違いについてまとめておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
7	官庁統計 1—官庁統計の利用と統計法	行政機関がおこなう社会調査には何があるか。統計法とは何か。	事前学習課題: 官庁統計とは何か? 事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
8	官庁統計 2—官庁統計による諸研究	官庁統計のデータを用いた研究の紹介。	事前学習課題: 官庁統計を使った研究の事例を調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
9	量的調査 1—統計学と質問紙調査(1)	質問紙調査の概要について。統計学との関係。	事前学習課題: 質問紙調査とは何か? 事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
10	量的調査 2—統計学と質問紙調査(2)	質問紙調査の方法について。統計的手法	事前学習課題: 調査で使う統計の知識について調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
11	量的調査 3—質問紙調査による諸研究	質問紙調査のデータを用いた研究を紹介する。	事前学習課題: 質問紙調査を利用した研究を見つけて読むこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
12	質的調査 1—聞き取り調査	聞き取り調査の方法について。聞き取り調査をおこなった研究の紹介。	事前学習課題: 聞き取り調査とは何か? 事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
13	質的調査 2—参与観察	参与観察の方法について。参与観察をおこなった研究の紹介。	事前学習課題: 参与観察とは何か? 事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
14	質的調査 3—ドキュメント分析	ドキュメント分析の方法について。ドキュメント分析をおこなった研究の紹介。	事前学習課題: ドキュメント分析の研究論文を探して読んでおくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
15	まとめ	社会調査の基礎的な知識を身につけることができたかを確認。	事前学習課題: 社会調査の基礎について総復習しておくこと(1時間) 事後学習課題: 授業終了時に出す課題について最終レポートを作成すること(2時間)	

実務経験																	
関連科目	. 「市場調査法」, 「市場調査実習Ⅰ・Ⅱ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門・社会調査法-2 ステップで基礎から学ぶ</td> <td>轟亮・杉野勇</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門・社会調査法-2 ステップで基礎から学ぶ	轟亮・杉野勇	法律文化社	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	入門・社会調査法-2 ステップで基礎から学ぶ	轟亮・杉野勇	法律文化社													
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle																
Teams コード	0p54ny3																
Moodle コース名 および登録キー	20mrs																
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	毎回の小テストの結果(45%)と授業課題の提出(45%)、教科書課題(10%)の割合で、総合的に判断する。																
学生への メッセージ	市場調査を含む社会調査全般について学ぶ基礎的な講義です。 アクティブ・ラーニングを取り入れているので、課題に対しては積極的・主体的に取り組むこと。 授業の連絡は teams で行います。 小テスト、課題の配布、提出などはすべて Moodle を用いて行います。 毎週必ず授業開講日時には、teams を確認すること。																
担当者の 研究室等	. 11 号館 7 階(牧野(幸)准教授室)																
備考	毎週の小テストには受験期間があります。 授業課題、教科書課題には締切があります。 必ず厳守してください。 締切以降の受験、提出はっさい認めません。 受験期間、提出期間には余裕を持っています。 早めに実施、提出してください。 事前学習には毎回1時間以上、事後学習には毎回1時間以上をかけること。 授業内で課された課題については、次週以降の授業で解説してフィードバックを行う。																



科目名	マネジメントサイエンス	科目名 (英文)	Management Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1016a0		

授業概要・目的	マネジメントサイエンス(経営科学、オペレーションズ・リサーチ)とは、経営活動にかかわる種々の課題をモデル化して数学的に解析を行うことにより、経営の意思決定を科学的な方法で支援するための知識の体系である。本科目では、日程計画、線形計画法、待ち行列や意思決定理論を中心とした基本的な知識と技法(解法)について修得することが目的である。
到達目標	数式、あるいはワークシート形式で定義された経営の諸問題についてのモデルを理解し、電卓等を使った数値計算などで最適な答えを導き出すことができる。
授業方法と留意点	配布資料を中心に手法や理論を解説し、ゲームやシミュレーション形式の例題を用いた課題を解くことで理解を深める。課題に取り組む中で、経営における問題の発見やその構造のあらましを把握する能力を養ってほしい。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート、基本情報技術者などの情報系の資格試験をはじめ、販売士や中小企業診断士などの経営関係の資格試験にも関連する。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、マネジメントサイエンスの概要	今回の内容を確認し、配布資料の該当箇所を読んでおく(60分)
2	在庫管理(1)	在庫管理の考え方、最適発注量	事後課題に取り組む(30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく(60分)	
3	在庫管理(2)	発注システム、データからの在庫管理	事後課題に取り組む(30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく(60分)	
4	グラフ理論	グラフ理論の考え方、最適な経路を見つける方法	事後課題に取り組む(30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく(60分)	
5	日程計画(1)	日程計画の考え方、日程計画を図で管理する方法	事後課題に取り組む(30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく(60分)	
6	日程計画(2)	PERTによる日程計画、作業の進捗管理	事後課題に取り組む(30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく(60分)	
7	待ち行列理論	待ち行列の基礎、到着時間とサービス時間の分布	事後課題に取り組む(30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく(60分)	
8	前半のまとめ、中間レポート課題	前半の振り返り、中間レポート課題	前半の内容を復習しておく(60分)	
9	線形計画法(1)	線形計画法の考え方、仕事の効率を高める方法	事後課題に取り組む(30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく(60分)	
10	線形計画法(2)	シンプレックス法による最適解法、出荷・輸送計画を事例とした演習	事後課題に取り組む(30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく(60分)	
11	整数計画法	整数計画法の考え方、人員の最適配置計画	事後課題に取り組む(30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく(60分)	
12	決定理論(1)	決定理論の考え方、不確実性下の意思決定(ミニマックス原理など)	事後課題に取り組む(30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく(60分)	
13	決定理論(2)	ゲーム理論(囚人のジレンマ、安定マッチングなど)	事後課題に取り組む(30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく(60分)	
14	決定理論(3)	複数候補からの意思決定、割当て問題	事後課題に取り組む(30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく(60分)	
15	全体のまとめ、最終レポート課題	全体のまとめ、最終レポート課題、経営学分野における実用例	全体の学習内容を復習しておく(60分)	

実務経験	
関連科目	数学基礎 I、数学基礎 II、経営統計学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	rh103dz
Moodle コース名および登録キー	マネジメントサイエンス(栢木:S科木曜2限)2020年度 beetle
連絡手段	Teamsのチャットまたはメール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	授業中の課題(50%)、中間・最終レポート課題(40%)、授業への取組姿勢(10%)により総合的に評価します。 授業中の課題提出状況が単位取得に大きく影響しますので、計画的に受講してください。
学生へのメッセージ	高度な数学は使いませんが、演習を中心とした授業を行いますので、単位修得には8割以上の課題提出が必要です。毎回、数値を扱うので電卓(関数電卓でなくてよい)を準備してください。
担当者の研究室等	11号館8階(栢木教授室)
備考	必要に応じて資料を配布します。 また、授業内容に関する質疑応答は、主にTeamsのチャット機能またはメールを使用します。



科目名	消費者行動論	科目名 (英文)	Consumer Behavior
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2017a0		

授業概要・目的	近年、マーケティングの中で、消費行動研究の重要性が高まっています。この講義では、マーケティングの視角から、消費行動について基本的知識を身につけ体系的な理解を与えることを目的としています。日常の消費行動も、マーケティング的にみると新しい発見があるかもしれません。
到達目標	消費者行動論の基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	遠隔授業になります。 『消費行動』のテキストは、第3版を準備して下さい。
科目学習の効果 (資格)	消費行動をマーケティング的発想で考えることができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	消費者行動論の全体像を示します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
	2	マーケティングとは	マーケティングの内容について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
	3	マーケティング志向	企業のマーケティング志向について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング志向に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
	4	マーケティングと消費行動	マーケティングにおける消費行動の位置づけについて、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
	5	消費行動の心理学的アプローチ	消費行動を心理学的に考察していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動の心理学的アプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
	6	消費行動の社会的アプローチ	消費行動を社会的に考察していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動の社会的アプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
	7	消費行動とプロセス	消費者の購買意思決定過程について、考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動とプロセスに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
	8	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチから、消費者のニーズを探る方策を考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング・リサーチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
	9	顧客満足	企業の顧客満足への対応について取り上げます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、顧客満足に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
	10	STPアプローチと消費行動	消費者のニーズと STP アプローチについて、考察していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
	11	高付加価値化と消費行動	高付加価値化と消費行動の関連について取り上げます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、高付加価値商品と消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
	12	市場細分化と消費行動	市場細分化と消費行動の関係について取り上げます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、市場細分化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
	13	製品ライフサイクルと消費行動	製品ライフサイクルと消費行動の関係について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品ライフサイクルに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
	14	消費行動の歴史的変遷	消費行動の歴史的変遷過程をマクロの視点から考察していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動の歴史的変遷に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
	15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動全般に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費行動 第3版	武居 奈緒子	晃洋書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	毎回の遠隔授業で課される課題の合計で評価します (100%)。		
学生への メッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。		
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室		
備考			

科目名	リテールマーケティング	科目名 (英文)	Retail Marketing
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2018a0		

授業概要・目的	マーケティングとは、企業の対市場活動です。このようにマーケティングを捉えると、マーケティングの領域は幅広くなります。この講義では、その中でも、小売業に焦点を当て、リテールマーケティングの基本的知識を身につけ、基本的概念・分析枠組みについて理解を深めることを目的とします。
到達目標	リテールマーケティングの基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	遠隔授業になります。 テキストを準備して下さい。
科目学習の効果 (資格)	小売業をマーケティングの視点から考察することができます。 リテールマーケティング (販売士) 検定

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	リテールマーケティングの全体像を示します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	マーケティングとは?	マーケティングについて、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングについて関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	流通とは (1)	流通の役割について、考察していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通の役割に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	流通とは (2)	流通の役割について、企業の具体的事例を取り上げて考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通の役割に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	小売業とは (1)	小売業の内容と役割について考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、小売業の内容と役割に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	小売業とは (2)	小売業の役割について、企業の具体的事例を取り上げて考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、小売業の役割に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	小売業の革新	小売業の革新的行動について、考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、小売業の革新的行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	百貨店のマーケティング	百貨店のマーケティング戦略について考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店のマーケティング戦略に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	スーパーマーケットのマーケティング (1)	スーパーマーケットのマーケティング戦略について、取り上げます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、スーパーマーケットの戦略に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	スーパーマーケットのマーケティング (2)	スーパーマーケットのマーケティング戦略の具体的な事例を取り上げて、検討していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、スーパーマーケットの取り組みに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	コンビニエンス・ストアのマーケティング	コンビニエンス・ストアのマーケティング戦略について、考察してきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、コンビニエンス・ストアのマーケティング戦略に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	中小小売商問題	中小小売商問題について、考察していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、中小小売商問題に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	ナショナルブランドとプライベートブランド	ナショナルブランドとプライベートブランドの相違点について、考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、ナショナルブランドやプライベートブランドに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	流通系列化	流通系列化の現実的問題について考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通系列化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、リテールマーケティングの総復習をしておきましょう。(所要時間1時間)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代商業学 新版	高嶋克義	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	bg6ng1c			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teams 上で対応します。			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の遠隔授業で課される課題の合計で評価します(100%)。			
学生への メッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。			
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室			
備考				

科目名	流通情報システム論	科目名 (英文)	Distribution Information Systems
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2019a0		

授業概要・目的	<p>流通は消費と生産を結びつける活動であり、流通によって社会経済の動きが活性化される。以前は企業の生産活動と販売活動の周辺にある物流活動は支援的な業務と見られていた。しかし、情報社会の進展と合わせて物流活動の重要性が高まり、現在ではモノやサービスを届ける活動や戦略が経営活動で大きな意味を持つようになった。</p> <p>本講義では重要性を増している流通システムとそれを支える情報システムについて、基礎的な理論から実際の実例までを取り扱う。そして、地域活性化や情報社会でのモノ以外の流通についても解説を行う。</p> <p>SDGs-8, 9, 12</p>			
到達目標	<p>(1) 身近にある流通システムの概要を説明できる  (2) 経営戦略としての流通の重要性を理解できる  (3) 物流システムの要素を説明できる  (4) 流通システムにおける情報技術の必要性を理解できる</p>			
授業方法と留意点	<p>授業では受講生が主体的に学ぶために質問力の養成を図る。サブテーマ3回のうち1回を反転授業として受講生の予習を前提としたグループディスカッションを計画している。積極的な授業参加と主体的な学習を期待します。</p> <p>企業、公的団体の実務者による情報提供も行う場合がある。</p> <p>なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業（一方向・双方向）などを組み合わせて実施する。</p>			
科目学習の効果 (資格)	<p>・販売士検定3級試験の流通関連の知識</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	・授業の進め方 ・受講者の自己紹介	事前：シラバスを読んでくる (30分) 事後：課題提出日の確認 (30分)
	2	身近にある流通 (1)	・コンビニエンスストア ・ファーストフード	事前：授業内容に関連するストアを調べる (1時間) 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分)
	3	身近にある流通 (2)	・ショッピングセンター ・アウトレットパーク	事前：授業内容に関連するショッピングセンターを調べる (1時間) 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分)
	4	身近にある流通 (3)	・反転授業 ・グループディスカッション	事前：事例報告の準備 (2時間) 事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る (1時間)
	5	人が動く流通 (1)	・購買行動 ・出店計画	事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間) 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分)
	6	人が動く流通 (2)	・町おこし (観光政策) ・都市計画	事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間) 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分)
	7	人が動く流通 (3)	・反転授業 ・グループディスカッション	事前：事例報告の準備 (2時間) 事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る (1時間)
	8	物流システム (1)	・物流センタ ・配送計画	事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間) 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分)
	9	物流システム (2)	・共同配送 ・個別配送	事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間) 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分)
	10	物流システム (3)	・反転授業 ・グループディスカッション	事前：事例報告の準備 (2時間) 事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る (1時間)
	11	情報と流通システム (1)	・情報技術と流通システム ・流通システムの情報インフラ	事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間) 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分)
	12	情報と流通システム (2)	・ロジスティクスシステム ・Web 流通システム	事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間) 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分)
	13	情報と流通システム (3)	・反転授業 ・グループディスカッション	事前：事例報告の準備 (2時間) 事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る (1時間)
	14	ケーススタディ	・事例紹介 ・外部講師 (調整によって変更あり)	事前：事例に関する予習 (1時間) 事後：事例に関する復習 (30分)
	15	本講義のまとめ	総復習	事前：ノートのまとめ (2時間) 事後：必要な部分の復習 (1時間)
実務経験				

関連科目	「経営情報システムⅠ」、「経営情報システムⅡ」、「ビジネスシミュレーション」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle			
Teams コード	wiu2wqo			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teamsの質問用チャネル、学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験またはレポート(50%)、授業中の課題やミニレポート(20%)、反転授業やグループディスカッションでの発表(30%)			
学生への メッセージ	流通情報システムは「経営情報」によって大きく飛躍した分野です。身近にもたくさんの事例がありますから、興味を持って楽しみながら学びましょう。			
担当者の 研究室等	11号館7階 久保准教授室			
備考	事前・事後学習課題について授業の冒頭にMoodleやミニツペーパーなどで確認を行うので、遅刻せずに出席すること。			

科目名	マーケティング戦略論	科目名 (英文)	Marketing Strategy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2020a0		

授業概要・目的	マーケティング概論で学んだことをさらに発展させ、「戦略」という視点からマーケティングを捉え、学んでいきます。ビジネス社会で役立つマーケティング戦略論の考え方について学びます。中小企業の経営革新や創業の支援を行った担当教員の経験を活かして、事例を使った実践的教育を行います。
到達目標	・マーケティング戦略の考え方について理解する。 ・身近な事例をマーケティング戦略に結び付けて考えることができる。
授業方法と留意点	講義が中心です。教科書を利用し毎回プリントを配布します。また授業内容から小テストを行います。授業はオンラインで行います。
科目学習の効果 (資格)	リテール・マーケティング (販売士)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	競争環境をとらえる	競争環境とは何か。いかに対処すべきかを考察します	【事前学習】マーケティング論の復習、教科書第1章の読解 (2時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間)
2	市場環境をとらえる	消費者行動の理解を図ります。	【事前学習】教科書第2章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間)
3	流通環境をとらえる	小売業者や卸売業者の役割、インターネットの影響などを考えます。	【事前学習】教科書第3章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間)
4	市場機会の探索と評価	事業機会を探し出し、評価するための枠組みを紹介します。	【事前学習】教科書第4章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間)
5	需要多様性への対応	探したされた市場機会への対応方法について考察します。	【事前学習】教科書第5章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間)
6	価値提供と競争優位	競争相手に対して有利な立場に立てるようなやり方で顧客に価値を提供するための枠組みについて考察します。	【事前学習】教科書第6章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間)
7	新製品開発戦略	新製品開発課程とマーケティング戦略構築とを関連づけて考察します。	【事前学習】教科書第7章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間)
8	製品ライフサイクルとマーケティング戦略	製品ライフサイクルの各段階でどのようなマーケティング施策を必要とするかを考えます。	【事前学習】教科書第8章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間)
9	製品戦略	提供価値と提供方法をどのような製品で実現し、どのようなサービスを付加するのかを考えます。	【事前学習】教科書第9章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間)
10	ブランド戦略	ブランディングについて考えます。	【事前学習】教科書第10章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間)
11	価格戦略	価格設定に影響を与える要因や価格の使い分けなどについて考えます。	【事前学習】教科書第11章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間)
12	プロモーション戦略	消費者とのコミュニケーションを図る方法であるプロモーション手段の組み合わせなどを考察します。	【事前学習】教科書第12章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間)
13	流通チャネル戦略	標的市場に提供価値を届けるための最適な流通チャネルの選択と管理について考察します。	【事前学習】教科書第13章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、次回小テストに備える (1時間)
14	事例研究 1	企業事例を通じて、マーケティング戦略の実際を学びます。	【事前学習】事例の読解 (1時間) 【事後学習】事例を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間)
15	事例研究 2	企業事例を通じて、マーケティング戦略の実際を学びます。	【事前学習】事例の読解 (1時間) 【事後学習】学習範囲を復習し期末テストに備える (2時間)

実務経験	
関連科目	マーケティング概論、消費者行動論、リテールマーケティング、マーケティング演習



教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門マーケティング戦略	池尾恭一	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	わかりやすいマーケティング戦略	沼上幹	有斐閣
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	q4afmsr			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	平常点(小テスト、中間レポート、発表等) 40% 期末テスト 60%			
学生への メッセージ	教科書の予習、復習を図ることで、マーケティング知識の定着が図れます。将来、仕事でマーケティングを活かしたい人はしっかりと学んでください。			
担当者の 研究室等	鶴坂貴恵研究室			
備考				

科目名	メディアと社会	科目名 (英文)	Media and Society
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2021a0		

授業概要・目的	メディアは、言葉、活字、映像から、デジタルなマルチメディアが流通する現代まで進展してきた。本授業は、IT (情報技術) によるメディアと社会との関係の変化、新たな課題を学習する。インターネットやデバイスの利用が浸透する中で、個人・組織の活動に変化が生じ、新サービス創出などの効果や影響にいかに向き合うかが重要である。メディアが取り巻く、多様な価値観からなる社会を考察する。
到達目標	メディアには、どんな特性があり、個人・組織やコミュニティにどんな効果や影響を及ぼすのかを理解する。情報メディアのもたらす価値と課題を発掘し、その利活用が、何をどのように解決支援を行うを理解することを目指す。
授業方法と留意点	授業は、①講義 (前半)、②個人授業課題、または、グループワーク (後半) から成る。グループワークは、ケーススタディに取り組み、ディスカッションやプレゼンテーションの課題を指示する。質問は、対面に加え、指定する Web フォーム・質問共有システム (初回授業でガイド予定、締切厳守で毎回運用する) にて記名式のものを対象に適宜回答する。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報メディアを介して、潜在するネット事象への関心を高め、社会的な課題が理解できる。</li> <li>Web/SNS 等デジタルな手段が提供する役割・特性の相違にもとづき、デバイスやネットを使い分ける判断力が養成できる。</li> <li>同僚・先輩学生と意見交換を図るためのメディアリテラシーの基礎的な素養を身につけることができる。</li> </ul>

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業ガイダンス</li> <li>『メディア』とは何か</li> <li>情報とメディア</li> </ul>	事後学習：イントロダクション内容から質問を Web フォーム入力する。(標準学習時間：0.5 時間)
2	メディアの変遷	<ul style="list-style-type: none"> <li>「メディアはメッセージ」</li> <li>メディア小史 (活字/映像/アナログ/デジタル)</li> <li>個人とメディアリテラシー</li> <li>グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：日常接するメディアを列挙し、役割と特徴を、1 ページに要約する。(標準学習時間：1 時間)	
3	メディアと IT (情報技術)	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット利用の進展</li> <li>メディア特性の潮流 (パーソナル/双方向/マルチ)</li> <li>グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：参考文献の『情報とメディア』概観を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
4	メディアミックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアミックス</li> <li>デジタルビジネスのメディア戦略</li> <li>グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定するデジタルビジネスのメディア事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
5	リアルとヴァーチャル	<ul style="list-style-type: none"> <li>“Being Digital”</li> <li>リアルとヴァーチャル</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：指定する『リアル×ヴァーチャル』のメディア事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
6	メディアと IT プラットフォーマー 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>B2C IT プラットフォーマーの役割 (GAFGA (Google/Apple/Facebook/Amazon))</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：指定する GAFGA のメディア事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
7	メディアと IT プラットフォーマー 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>B2B IT プラットフォーマーの役割</li> <li>Microsoft/IBM</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：指定する Microsoft/IBM のメディア事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
8	メディアとコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝達手段としてのデバイスの進化</li> <li>情報感性和コミュニティ</li> <li>SNS (Social Network Services)</li> <li>グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定するコグニティブコンピューティング事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
9	言語データとメディア	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語データ (文字)</li> <li>ネットワーク効果と情報拡散</li> <li>Twitter</li> <li>グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定する企業の Twitter のビジネス適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
10	非言語データとメディア 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>非言語データ (音声・画像・動画)</li> <li>クチコミ評判と情報拡散</li> <li>Instagram &amp; Facebook</li> <li>グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定する企業の Instagram のビジネス適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
11	非言語データとメディア 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>非言語データ (音声・画像・動画)</li> <li>クチコミ評判と情報拡散</li> <li>YouTube &amp; IGTV</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：指定する企業の YouTube のビジネス適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
12	インターネットの法則	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒトの情報感性和価値観</li> <li>インターネット広告</li> <li>パーソナルデータの考慮点</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：指定する企業のコグニティブコンピューティング事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
13	IoT とメディア 基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>IoT (Internet of Things)</li> <li>デバイス (スマートウォッチ、スマートスピーカー、デジタルサイネージ)</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：指定する企業の IoT 事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
14	IoT とメディア 応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>IoM (Internet of Me)</li> <li>マルチメディアとビッグデータ</li> <li>コグニティブコンピューティング (Cognitive Computing)</li> </ul>	事前学習：指定する企業の IoT 事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>総括</li> <li>小テスト</li> <li>小テストフィードバック</li> </ul>	事後学習：総括と小テストの内容から質問を Web フォーム入力する。(標準学習時間：0.5 時間)	

実務経験	
関連科目	
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>21世紀メディア論</td> <td>水越 伸</td> <td>放送大学教育振興会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ポスト情報メディア論</td> <td>岡本 健・松井 広志</td> <td>ナカニシヤ出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	21世紀メディア論	水越 伸	放送大学教育振興会	2	ポスト情報メディア論	岡本 健・松井 広志	ナカニシヤ出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	21世紀メディア論	水越 伸	放送大学教育振興会														
2	ポスト情報メディア論	岡本 健・松井 広志	ナカニシヤ出版														
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	平常点 (15%)、個人課題 (5%)、小テスト (10%)、期末テスト (70%) の累計による総合評価を行う。平常点は、ケーススタディのグループ課題 (毎回および不定期、授業時間内の提出)、指名者 (個人・グループ) 発表、積極的な質問、建設的な発言等の授業への参画の程度で評価する。授業において、迷惑な私語、携帯機器の私用、遅刻等の進捗を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映する。授業の受講に集中すること。																
学生への メッセージ	デジタルメディアが個人の活動や社会との関係に、どのように効果と影響を及ぼすのかを学習します。ヒトの情報感性に係る IT 利活用のケースを多様な視点から考察します。グループワークで共創する機会に主体的に参画し、コミュニケーションをとおして触発し合うことを期待します。また、存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組むこと。																
担当者の 研究室等	11号館7階 (北村教授室)																
備考	初回授業で、進め方の詳細、日常の学習法、成績評価基準 (評価マトリクス) の説明、ケーススタディ (グループ・個人)、課題発表 (プレゼンテーション) の実施要領、学習支援ツール (Web フォーム・質問共有システム) の使用方法を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、所定の基準に従った評価を行う。																

科目名	メディア戦略論	科目名 (英文)	Media Strategy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2022a0		

授業概要・目的	<p>本講義では、企業のマーケティング政策における ICT 導入戦略（メディア戦略）の策定、各種広告技術、戦術的 ICT 運用、広告・集客・販売・顧客維持に向けた企業の取り組み事例について解説を行っていく。その際、情報ネットワーク時代における消費者の購買行動様式や企業の競争環境について理解しておく必要があることから、消費者行動論、競争戦略論の代表モデルについても取り上げる。講義の主な目的は、受講生が、メディア戦略についての基本的な考え方、技術的な仕組み及び企業における最新の取り組みを理解することである。</p> <p>授業担当者は、かつて情報通信分野の研究所に勤務し、大手通信キャリアのエンジニアらと共に次世代移動体情報通信技術・サービスの開発に携わり、そこでは主に次世代医療に必要とされる消費者行動データの分析・運用モデルの研究を行っていた。この経験を踏まえて、講義では、ICT 広告やネット販売等で利用されている消費者データがどのように分析・運用されているのか、またその課題についても取り上げる予定である。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディア戦略の基本類型とその目的について説明ができる。</li> <li>具体的には、傾聴、会話、PR、活性化、支援、優良顧客、統合戦略について</li> <li>企業のマーケティング活動における ICT 導入ケースを上記戦略類型に当てはめ、その目的、導入された ICT とその機能、効果測定方法について考え説明ができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材は配布プリントを使用する。指定の共有フォルダで配布するので受講生は各自印刷し、ファイルを作成しておくこと。</li> <li>教材資料は配布プリントを使用します。開講日 3 日前に WebFolder にアップロードしておくので、各自入手し内容確認しておいてください。</li> <li>授業は以下のように進めます。</li> <li>前半：教材資料の解説（音声解説資料も準備する予定）</li> <li>後半：補足解説、質疑</li> </ul>
科目学習の効果（資格）	<p>身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。</p> <p>IT パスポート試験・基本情報技術者試験など IT 系の資格を取得するのに関連する科目である。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	主に以下について解説する。 ・メディア戦略とは ・講義の進め方、評価について	<p>予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。</p> <p>復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。</p> <p>(学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)</p>
	2	インターネット広告 (1)	主に以下について解説する。 ・変化する消費者行動 ・パーチェスフェネル ・マスメディア広告と ICT 広告 ・バナー広告 ・検索連動型広告ほか	<p>予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。</p> <p>復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。</p> <p>(学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)</p>
	3	インターネット広告 (2)	主に以下について解説する。 ・アフィリエイト広告 ・リスティング広告 ・ターゲティング広告 ・アクセスログほか	<p>予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。</p> <p>復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。</p> <p>(学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)</p>
	4	グループワークとレポート	Teams 上でグループワーク及びレポート作成を行う。	<p>予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。</p> <p>復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。</p> <p>(学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)</p>
	5	モバイル広告 (1)	主に以下について解説する。 ・モバイル広告市場 ・スマートフォン広告 ・GPS 広告 ・位置情報ほか	<p>予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。</p> <p>復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。</p> <p>(学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)</p>
	6	モバイル広告 (2)	主に以下について解説する。 ・ソーシャルメディア広告 ・ソーシャルメディアの特徴、動向 ・スマートフォン広告ほか	<p>予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。</p> <p>復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。</p> <p>(学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)</p>
	7	グループワークとレポート	Teams 上でグループワーク及びレポート作成を行う。	<p>予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。</p> <p>復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。</p> <p>(学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)</p>
	8	メディア戦略の理論 (1)	主に以下について解説する。 ・メディア戦略の基本類型と目的ほか ・広報と PR の違いほか	<p>予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。</p> <p>復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。</p> <p>(学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)</p>
	9	メディア戦略の理論 (2)	主に以下について解説する。 ・競争戦略の基本的考え方 ・プロダクトライフサイクルほか	<p>予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。</p> <p>復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。</p> <p>(学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)</p>

	10	メディア戦略の理論 (3)	主に以下について解説する。 ・プロダクトライフサイクルと競争戦略 ・スキミング戦略 ・ペネトレーション戦略 ・フォロワー戦略ほか	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	11	グループワークとレポート	Teams 上でグループワーク及びレポート作成を行う。	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	12	企業のメディア導入戦略の事例 (1)	主に以下について解説する。 ・最新事例紹介	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。(学習時間目安 40?60 分) 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。(学習時間目安 40 分)
	13	企業のメディア導入戦略の事例 (2)	主に以下について解説する。 ・最新事例紹介	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	14	レポートとグループワーク	Teams 上でグループワーク及びレポート作成を行う。	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	15	まとめとテスト	主に以下について取り上げる ・本講義のまとめ ・テスト	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
実務経験				
関連科目	ICT 概論、経営情報システム、コンテンツビジネスなど			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	グランズウェル`ソーシャルテクノロジーによる企業戦略	シャーリーン・リー	翔泳社
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」/Web Folder			
Teams コード	k3m21qs			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	レポート (60%)、テスト (40%) で評価する。 講義中の質疑内容についても加点する場合もあり。			
学生への メッセージ	経営情報学科の学生である以上、企業経営における情報システムの最新動向については、常に関心を向けておく姿勢が必要です。特に本講義では、君たちに身近なウェブサービス、ソーシャルメディアを取り上げます。受講にあたっては、事前に講義資料で取り上げられる予定のメディアサービスを体験しておいてください。それを前提として講義を進めます。			
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 (針尾准教授室)			
備考				

科目名	市場調査法	科目名 (英文)	Marketing Research
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2023a0		

授業概要・目的	ひとくちに社会調査といっても、その方法はさまざまである。この講義では調査目的にあわせて調査方法を決定し、調査を設計、実施し、分析しうる形にまで整理していく具体的な手法を学ぶ。調査対象者の選定、全数調査と標本調査、標本調査に際してのさまざまな手法、調査票の作り方、調査の配布回収方法、調査データの整理方法などについて、実践的な例をとりあげつつ解説していく。
到達目標	調査研究の全体的な流れが説明できる。質問紙調査をおこなう際の諸問題について説明できる。標本調査の方法について、目的に応じた使い分けができる。
授業方法と留意点	授業は基本的に非対面の遠隔授業形式とする（ツール等具体的な方法については後述）。対面での講義形式でおこなわれる可能性もあり得るが、その場合には前もって受講生に通知する。
科目学習の効果（資格）	社会調査の全体的な流れが理解できる。 「社会調査士」資格取得に必要な科目（B科目）である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	社会調査の全体的な流れ	研究の企画から報告書の執筆までの流れ	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
3	調査を始める (1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
4	調査を始める (2)	調査方法の種類	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
5	調査票を作成する (1)	ワーディング	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
6	調査票を作成する (2)	回答選択肢の作成	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
7	調査票を作成する (3)	調査票全体の設計	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
8	調査の実施 (1)	調査票の配布と回収の方法	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
9	調査の実施 (2)	全数調査と標本調査、標本数の決定	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
10	調査の実施 (3)	サンプリングの諸方法	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
11	データの作成 (1)	コードブックの作成と入力作業	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする

	12	データの作成 (2)	コーディング・エディティング・データ クリーニング	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との 整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とす る																
	13	データ分析の基礎 (1)	度数分布、代表値	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との 整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とす る																
	14	データ分析の基礎 (2)	変数間の関係の分析	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との 整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とす る																
	15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5時間) (事後) 配布資料全体の精読をする (2時間)																
実務経験																				
関連科目	社会学Ⅰ、社会学Ⅱ、市場調査入門、経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析、市場調査実習																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																			
Teams コード	3razeei																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	学内メールアドレス、Teams におけるチャット機能																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	授業時に指示される課題 (複数) の結果で評価する。																			
学生への メッセージ	社会調査の知識は、今やどこに行っても必要とされるものです。関心のある学生はぜひ受講して下さい。																			
担当者の 研究室等	11号館7階 山本准教授室																			
備考																				



科目名	ビジネスデータ分析	科目名 (英文)	Business Data Analysis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2024a0		

授業概要・目的	統計学は、入手したデータから有用な情報を得るために量的データを要約する方法を学ぶ学問である。経営分野では、企業経営におけるリスクの評価や意思決定を支援するためのデータ解析の手法として用いられており、生産、財務、マーケティングなど、その応用範囲は広い。本講義では、統計学の基礎的知識を持つ学生を対象に、統計学の応用としてコンピュータを用いた統計解析に重点を置き学んでいく。授業担当者は、かつて民間企業及び情報通信分野の研究所に勤務し、そこでは顧客・消費者の行動・心理をとらえるための各種データの多角的な分析技術を身につけてきた。講義では、これらの経験から経営学部生にとって有用と思われる分析メソッドについて丁寧に解説をしていくつもりである。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本統計量の意味を十分理解し、実際の統計分析において利用できる。</li> <li>SPSSを使用して基本的な統計処理・分析ができる。具体的には、基本統計量の出力、散布図等グラフ類の作表、相関分析について</li> <li>検定/推定の基本的な考え方を理解し、SPSS および手計算にて算出できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材資料は、開講3日前までに WebFolder にアップロードしておくので、講義開始前に各自印刷しておくこと。</li> <li>授業は概ね以下の流れで進行する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[1] 復習および課題解答</li> <li>[2] 解説と実習 (コンピュータを操作し統計処理・分析に必要な操作解説を行ったのち練習問題を解きます)</li> <li>[3] 課題</li> </ul> </li> <li>授業は以下の知識・スキルを有した学生を前提として進行する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>経営統計学の基本 (例えば、標準偏差を理解しており手計算により値を算出できる。)</li> <li>ビジネス情報処理の基本 (例えば、Excel)</li> </ul> </li> </ul>

科目学習の効果 (資格)	社会調査士
--------------	-------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の進め方、評価について説明	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
2	統計学とデータ分析 (1)	経営統計学のおさらい ・基本統計量 (分散、標準偏差等) ・変数・尺度の種類 ・SPSS と Excel の違い	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)	
3	統計学とデータ分析 (2)	データ分析環境の準備 ・SPSS の基本操作説明 ・実習データファイルの配布 ・データ分析の目的、心得について説明	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)	
4	記述統計 (1)	グラフと表の作成 ・度数分布表 ・ヒストグラム ・SPSS と Excel を使った作図・作表	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)	
5	記述統計 (2)	代表値 ・平均値、分散、標準偏差 ・SPSS を使った算出	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)	
6	統計的検定 (1)	統計的検定の考え方 ・確率と確率分布 ・検定の基本的考え方 ・検定の目的、種類	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)	
7	統計的検定 (2)	統計的検定の考え方 ・母平均に対する検定 ・手計算による検定 ・SPSS を使った検定	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)	
8	実力確認テストとまとめ	前半内容についてテストを行う	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)	
9	データ分析 (1)	クロス分析 ・クロス分析の目的と利用例 ・独立性の検定 ・SPSS と Excel を使った分析	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。	

				(学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	10	データ分析 (2)	相関分析 ・相関分析の目的と利用例 ・共分散と相関係数 ・相関分析 ・SPSS を使った分析	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	11	データ分析 (3)	回帰分析 ・回帰分析の目的と利用例 ・回帰係数 ・多重共線性 ・SPSS を使った分析	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	12	データ分析 (4)	判別分析 ・判別分析の目的と利用例 ・SPSS を使った分析	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	13	データ分析 (5)	クラスター分析 ・クラスター分析の目的と利用例 ・SPSS を使った分析	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	14	データ分析 (6)	主成分分析 ・主成分分析の目的と利用例 ・SPSS を使った分析	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	15	実力確認テストとまとめ	後半内容についてテストを行う	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)

実務経験

関連科目 経営統計学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	文系のための SPSS 超入門	秋川卓也著	プレアデス出版
	2	44 の例題で学ぶ統計的検定と推定の解き方	上田拓治	オーム社
	3			

授業形態 対面授業

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段 学内メール

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。  
メールアドレス：

評価方法 (基準) 実力テストにて評価する。

学生へのメッセージ 本講義では、コンピュータの基本的使い方 (起動、シャットダウン、ファイル保存等) と統計学の基礎については説明しません。そのため情報処理系の講義、経営統計学といった関連講義で学ぶ程度の知識は身につけておく必要があります。各回で使用するデータは、基本的に前回において受講生が加工したものを使用します。従って欠席した場合は、各自で欠席回の分析作業を進めておかなければなりません。

担当者の研究室等 11 号館 7 階 (針尾准教授室)

備考 新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、対面講義から遠隔講義に切り替える場合もあります。その場合、在宅での受講条件として Excel を必要としますので、履修登録前に確認をしておいてください。

科目名	マーケティング情報解析	科目名 (英文)	Marketing Information Analysis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口 友紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2025a0		

授業概要・目的	近年、マーケティング戦略の立案などに際し、市場調査が頻繁に利用されている。市場調査により収集されたマーケティング・データは、企業の意思決定において様々な形で利用される。ただし、これらのデータはそのままの形では有効に利用することが難しい。よって、種々の分析手法をもって、まずは有益な情報に変換されることとなる。本講義では、このようなマーケティング・データを扱うためのデータ分析手法について、多変量解析を中心に学習する。
到達目標	マーケティング・リサーチの手法とデータの扱い方を習得することで、各種マーケティング上の課題に対処する力を身につける。
授業方法と留意点	本講義では主に Excel を利用する。 その他、教材として SPSS を利用することもあるが、本年度に関しては原則学生側での SPSS の使用は予定しない。 講義資料は Microsoft Teams を用いて提示する。 また、毎回の講義時に講義内容に関連する課題を課す。課題の提出は Moodle を予定している。

科目学習の効果 (資格)	「社会調査士」の資格取得のため必須科目。
--------------	----------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	マーケティング・リサーチとデータ分析の関係について	事後学習：配布レジュメの見直し
2	リサーチの流れとデータの役割	マーケティング・リサーチの基本知識、実行手順などについて	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと	
3	基礎統計	記述統計、グラフなど	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと	
4	仮説検定(1)	無相関検定	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと	
5	仮説検定(2)	カイ二乗検定	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと	
6	仮説検定(3)	平均値の差による検定	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと	
7	多変量解析(1)	回帰・重回帰分析	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと	
8	多変量解析(2)	重回帰分析を使用した需要予測	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと	
9	多変量解析(3)	時系列解析手法	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと	
10	多変量解析(4)	分散分析・数量化理論Ⅰ類	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと	
11	多変量解析(5)	SPSSを使用した多変量解析の計算手法	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと	
12	多変量解析(6)	判別分析・数量化理論Ⅱ類	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと	
13	多変量解析(7)	クラスター分析・相関係数分析	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと	
14	多変量解析(8)	主成分分析・因子分析	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと	
15	講義まとめ	半年間の講義のまとめと復習、質問への対応など	講義で扱った内容を見直し、しっかりと理解すること。これまでの課題を解きなおす。質問したい事項があればまとめておく。	

実務経験	
関連科目	市場調査入門、市場調査法、経営統計学、ビジネスデータ分析、市場調査実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	講義後課題 70%、期末レポート 30%
学生へのメッセージ	理解できないところを、理解できないままにしておかないこと。 わからないところは、遠慮なく質問してください。
担当者の研究室等	11号館8階、樋口研究室

備考	毎回の課題（演習問題）については次週の講義で解説を行う。 毎週の事前・事後学習にかかる時間の目安は4～5時間程度とする。
----	---

科目名	ビジネスシミュレーション	科目名 (英文)	Business Simulation
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2026a0		

授業概要・目的	シミュレーションとはコンピュータを用いて現象をモデル化して実験する方法です。コンピュータの発展にともなって地球規模のシミュレーションも行えるようになってきました。 この授業ではシミュレーションの基礎を学び、その上でビジネスの現場でシミュレーションがどのように使えるかについて学びます。																																																																		
到達目標	この授業での到達目標は次のとおりです。 (1) シミュレーションを構成する要素が説明できる (2) シミュレーションの有効性と限界を説明できる (3) ビジネスにおけるシミュレーションモデルの提案ができる  SDGs-9, 11, 12, 15																																																																		
授業方法と留意点	毎回、コンピュータを用いた体験を含めた学習を行う。課題を多く出すため、授業への出席は必須である。 授業内ではシミュレーションの活用についてのグループディスカッションやシミュレーション自体を製作する演習なども行う。 企業・団体等の実務者によるレクチャーも検討している。 なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業（一方・双方向）などを組み合わせて実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	基本情報処理技術者や中小企業診断士などの情報技術と経営の実践に関する知識																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>この授業の進め方、必要とする関連知識の説明</td> <td>事前：シラバスを読む (30分) 事後：関連知識のキーワードを調べる (1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>身近にあるシミュレーション</td> <td>実は体験してきているシミュレーションの発見、何をシミュレートしているのかを知る</td> <td>事前：シミュレーションの意味を調べる (1時間) 事後：身近なシミュレーション例を探す (30分)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>意思決定のプロセス</td> <td>分枝限定法による場合分けの手順を知る</td> <td>事前：意思決定について過去に習った内容を見直す (1時間) 事後：購買行動について分枝限定法を試す (30分)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>確率分布とシミュレーション</td> <td>事象を確率分布で表す利点を知る</td> <td>事前：確率分布の例を探す (1時間) 事後：他の授業で習った確率分布を確認する (30分)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>顧客行動のシミュレーション</td> <td>顧客の購買を意思決定と確率でモデル化する</td> <td>事前：顧客行動のパターン化の例を調べる (1時間) 事後：データ分析からモデルを作る方法を考える (30分)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>人工知能は賢いのか?</td> <td>人工知能の仕組みを知る</td> <td>事前：人工知能に関連するニュースを調べる (1時間) 事後：AI 機能を実装しているものを試す (30分)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>社会のシミュレーション</td> <td>社会の動きをモデル化する方法を知り、分析できる限界について考える</td> <td>事前：社会の動きに関連する研究例を調べる (1時間) 事後：社会科学が対象としているものを確認する (30分)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>自然現象のシミュレーション</td> <td>複雑系シミュレーションのグラフィックスを体験する</td> <td>事前：複雑系の意味を調べる (1時間) 事後：自然の世界に存在する複雑系モデルを探す (30分)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>システムダイナミクス</td> <td>プログラムを用いない社会実験の可能性について学ぶ</td> <td>事前：システムダイナミクスの例を探す (1時間) 事後：システムダイナミクスのソフトウェアを体験してみる (30分)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>モデリング演習</td> <td>ビジネス上の現象をモデル化する</td> <td>事前：これまで習ったことを見直す (1時間) 事後：モデリングを対象とした研究を調べる (30分)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>シミュレーション構築演習</td> <td>任意の方法でシミュレーションを作る</td> <td>事前：シミュレートしたいものを複数用意する (2時間) 事後：シミュレーションを試す (1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>グループ発表</td> <td>作成したシミュレーションの説明</td> <td>事前：プレゼンテーションの準備を行う (1時間) 事後：聴講した発表についてまとめる (30分)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>グループ発表</td> <td>作成したシミュレーションの説明</td> <td>事前：プレゼンテーションの準備を行う (1時間) 事後：聴講した発表についてまとめる (30分)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>この世はシミュレーションなのか?</td> <td>この世の法則がなぜ数学で表されてしまうのかについてディスカッション</td> <td>事前：ディスカッションのための資料を読む (30分) 事後：ディスカッションで出てきた他者の意見をまとめる (1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>本授業のまとめ</td> <td>授業で習ったことの体系化を行う</td> <td>事前：これまで習ったことの確認 (2時間) 事後：ノートをまとめる (1時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	この授業の進め方、必要とする関連知識の説明	事前：シラバスを読む (30分) 事後：関連知識のキーワードを調べる (1時間)	2	身近にあるシミュレーション	実は体験してきているシミュレーションの発見、何をシミュレートしているのかを知る	事前：シミュレーションの意味を調べる (1時間) 事後：身近なシミュレーション例を探す (30分)	3	意思決定のプロセス	分枝限定法による場合分けの手順を知る	事前：意思決定について過去に習った内容を見直す (1時間) 事後：購買行動について分枝限定法を試す (30分)	4	確率分布とシミュレーション	事象を確率分布で表す利点を知る	事前：確率分布の例を探す (1時間) 事後：他の授業で習った確率分布を確認する (30分)	5	顧客行動のシミュレーション	顧客の購買を意思決定と確率でモデル化する	事前：顧客行動のパターン化の例を調べる (1時間) 事後：データ分析からモデルを作る方法を考える (30分)	6	人工知能は賢いのか?	人工知能の仕組みを知る	事前：人工知能に関連するニュースを調べる (1時間) 事後：AI 機能を実装しているものを試す (30分)	7	社会のシミュレーション	社会の動きをモデル化する方法を知り、分析できる限界について考える	事前：社会の動きに関連する研究例を調べる (1時間) 事後：社会科学が対象としているものを確認する (30分)	8	自然現象のシミュレーション	複雑系シミュレーションのグラフィックスを体験する	事前：複雑系の意味を調べる (1時間) 事後：自然の世界に存在する複雑系モデルを探す (30分)	9	システムダイナミクス	プログラムを用いない社会実験の可能性について学ぶ	事前：システムダイナミクスの例を探す (1時間) 事後：システムダイナミクスのソフトウェアを体験してみる (30分)	10	モデリング演習	ビジネス上の現象をモデル化する	事前：これまで習ったことを見直す (1時間) 事後：モデリングを対象とした研究を調べる (30分)	11	シミュレーション構築演習	任意の方法でシミュレーションを作る	事前：シミュレートしたいものを複数用意する (2時間) 事後：シミュレーションを試す (1時間)	12	グループ発表	作成したシミュレーションの説明	事前：プレゼンテーションの準備を行う (1時間) 事後：聴講した発表についてまとめる (30分)	13	グループ発表	作成したシミュレーションの説明	事前：プレゼンテーションの準備を行う (1時間) 事後：聴講した発表についてまとめる (30分)	14	この世はシミュレーションなのか?	この世の法則がなぜ数学で表されてしまうのかについてディスカッション	事前：ディスカッションのための資料を読む (30分) 事後：ディスカッションで出てきた他者の意見をまとめる (1時間)	15	本授業のまとめ	授業で習ったことの体系化を行う	事前：これまで習ったことの確認 (2時間) 事後：ノートをまとめる (1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	この授業の進め方、必要とする関連知識の説明	事前：シラバスを読む (30分) 事後：関連知識のキーワードを調べる (1時間)																																																																
2	身近にあるシミュレーション	実は体験してきているシミュレーションの発見、何をシミュレートしているのかを知る	事前：シミュレーションの意味を調べる (1時間) 事後：身近なシミュレーション例を探す (30分)																																																																
3	意思決定のプロセス	分枝限定法による場合分けの手順を知る	事前：意思決定について過去に習った内容を見直す (1時間) 事後：購買行動について分枝限定法を試す (30分)																																																																
4	確率分布とシミュレーション	事象を確率分布で表す利点を知る	事前：確率分布の例を探す (1時間) 事後：他の授業で習った確率分布を確認する (30分)																																																																
5	顧客行動のシミュレーション	顧客の購買を意思決定と確率でモデル化する	事前：顧客行動のパターン化の例を調べる (1時間) 事後：データ分析からモデルを作る方法を考える (30分)																																																																
6	人工知能は賢いのか?	人工知能の仕組みを知る	事前：人工知能に関連するニュースを調べる (1時間) 事後：AI 機能を実装しているものを試す (30分)																																																																
7	社会のシミュレーション	社会の動きをモデル化する方法を知り、分析できる限界について考える	事前：社会の動きに関連する研究例を調べる (1時間) 事後：社会科学が対象としているものを確認する (30分)																																																																
8	自然現象のシミュレーション	複雑系シミュレーションのグラフィックスを体験する	事前：複雑系の意味を調べる (1時間) 事後：自然の世界に存在する複雑系モデルを探す (30分)																																																																
9	システムダイナミクス	プログラムを用いない社会実験の可能性について学ぶ	事前：システムダイナミクスの例を探す (1時間) 事後：システムダイナミクスのソフトウェアを体験してみる (30分)																																																																
10	モデリング演習	ビジネス上の現象をモデル化する	事前：これまで習ったことを見直す (1時間) 事後：モデリングを対象とした研究を調べる (30分)																																																																
11	シミュレーション構築演習	任意の方法でシミュレーションを作る	事前：シミュレートしたいものを複数用意する (2時間) 事後：シミュレーションを試す (1時間)																																																																
12	グループ発表	作成したシミュレーションの説明	事前：プレゼンテーションの準備を行う (1時間) 事後：聴講した発表についてまとめる (30分)																																																																
13	グループ発表	作成したシミュレーションの説明	事前：プレゼンテーションの準備を行う (1時間) 事後：聴講した発表についてまとめる (30分)																																																																
14	この世はシミュレーションなのか?	この世の法則がなぜ数学で表されてしまうのかについてディスカッション	事前：ディスカッションのための資料を読む (30分) 事後：ディスカッションで出てきた他者の意見をまとめる (1時間)																																																																
15	本授業のまとめ	授業で習ったことの体系化を行う	事前：これまで習ったことの確認 (2時間) 事後：ノートをまとめる (1時間)																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	経営統計学、マネジメントサイエンス、経営情報システム I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験またはレポート 40% 授業中の課題 40% 発表などの成果物 20%			
学生への メッセージ	シミュレーションはビジネスでも日常生活でも使える有用な手法です。コンピュータの利便性を活かせるシミュレーションについて理解して、経営情報学の面白さに触れて下さい。			
担当者の 研究室等	11号館7階 久保准教授室			
備考	事前・事後の学習課題については授業冒頭に Moodle やミニペーパーなどで提出する場合がありますので授業に遅刻しないこと。			

科目名	マーケティングサイエンス	科目名 (英文)	Marketing Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西岡 暁廣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2027a0		

授業概要・目的	近年、ビジネスにおいてマーケティングは欠かすことのできないツールとなった。商品を生産すれば売れた時代とは違い、現在では多様化する消費者ニーズに的確に対応することが、企業にとって市場で生き残っていくためのカギとなっている。本講義では、マーケティング戦略を立案する上で必要不可欠となるデータの扱い方および分析手法を学習する。各種分析手法について、実際にデータを使いながら、より実践的に学んでゆく。また、講義内容についてより理解を深めるため、各自で分析テーマを計画し、分析を実行してもらおう。市場の動向を読むための技術を身につけることは非常に重要である。
到達目標	マーケティングにおける各種の分析手法について学習し、分析を通して現実の問題について考えることで、世の中で行われているマーケティング手法について身近に理解できるようになる。
授業方法と留意点	基本的に講義が中心となるが、毎回の講義内容に関する応用問題を演習として各自で解くことにより、理解を深める。講義はレジュメを配布して行う。
科目学習の効果 (資格)	マーケティング意思決定を支えるデータ分析の手法を学習するため、これらの知識を生かして様々な角度からマーケティング上の諸問題を考えることができるようになる。?

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方など	事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直しておくこと。
	2	解析手法の位置づけと理解度確認	様々な分析手法の概説と確認	事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。
	3	データ分析(1)	二次データの整理方法とデータ読み取り エクセルによる基礎分析	事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。
	4	データ分析(2)	相関分析 無相関検定 独立性の検定	事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。
	5	データ分析(3)	平均値差による検定 分散分析	事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。
	6	課題	SPSSを用いた分析課題を行う	事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。
	7	データ分析(4)	回帰分析 重回帰分析	事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。
	8	データ分析(5)	重回帰分析 要因分析 数量化Ⅰ類	事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。
	9	課題	SPSSを用いた分析課題を行う	事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。
	10	データ分析(6)	時系列分析 指数平滑法	事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。
	11	データ分析(7)	判別分析 数量化Ⅱ類	事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。
	12	課題	SPSSを用いた分析課題を行う	事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。
	13	データ分析(8)	クラスター分析 コレスポネンス分析	事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。
	14	データ分析(9)	移動平均法 決定木分析	事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。
15	課題	SPSSを用いた分析課題を行う	事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。	



				し、演習問題についてよく考えること。
実務経験				
関連科目	マーケティング情報解析			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」、Teams「オンライン型」			
Teams コード	5g2zkwf			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の課題（演習問題）40%、期末試験60%で評価			
学生への メッセージ	各回の授業中に資料を配布する。講義にはパワーポイントを使用。 課題作成にパソコンを使用する（WORD、SPSSなど）。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	プログラミング I	科目名 (英文)	Programming I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2028a0		

授業概要・目的	当授業では、プログラミングに必要な基礎知識とC言語を用いたプログラムの書き方について学習します。授業内容や課題の難易度は、プログラミングの初学者を対象としています。アルゴリズムを考えて、フローチャートを理解し、C言語で簡単なプログラムが作成できる能力の獲得を目的とします。
到達目標	(1) アルゴリズムを考えてフローチャートを書くことができる (2) C言語の文法が理解できる (3) プログラミング言語を独習できる知識が身につく
授業方法と留意点	本年度は、Microsoft Teams を使用した資料配信型授業とする。 授業資料 (PDF) は、各回の授業日までに Microsoft Teams のプログラミング I またはプログラミング II のクラスにアップロードする。毎回の授業でテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組むこと。 なお、授業計画 15 回分の内容を 11 回で実施するため、予習・復習に努めること。
科目学習の効果 (資格)	基本情報技術者試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	経営学部でプログラミングを学ぶ意義、授業の進め方、評価について	事前：シラバスを確認 (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
2	プログラミングの理解 (1)	ビジュアルプログラミング	事前：「ビジュアルプログラミング」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
3	プログラミングの理解 (2)	アルゴリズム、制御構造	事前：「アルゴリズム、制御構造」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
4	プログラミングの理解 (3)	フローチャート、変数	事前：「フローチャート、変数」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
5	ゲーム制作を通してプログラミングを学ぶ (1)	特定倍数の判定、素数の判定	事前：「倍数判定、素数判定」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
6	ゲーム制作を通してプログラミングを学ぶ (2)	接触ゲームの作成	事前：ビジュアルプログラミングを用いたゲームデザインについて調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
7	C言語によるプログラミング (1)	プログラミングの基本ルール、画面出力	事前：C言語の「画面出力」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
8	C言語によるプログラミング (2)	整数の表示、小数の表示、文字の表示	事前：C言語の「整数、小数、文字の表示」について調べる (30 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
9	C言語によるプログラミング (3)	変数、代入演算子	事前：C言語の「変数、代入演算子」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
10	C言語によるプログラミング (4)	算術演算子、キャスト演算子	事前：C言語の「算術演算子、キャスト演算子」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
11	C言語によるプログラミング (5)	分岐処理、条件式、真偽値	事前：C言語の「条件分岐、条件式、真偽値」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
12	C言語によるプログラミング (6)	反復処理	事前：C言語の「反復処理」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
13	C言語によるプログラミング (7)	分岐処理と反復処理の組み合わせ	事前：C言語の「条件分岐、反復処理の組み合わせ」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
14	総括	総復習、テスト対策	事前：これまでの内容の確認 (60 分) 事後：テスト勉強 (60 分)
15	期末テスト	期末テスト	事前：これまでの内容の確認 (60 分) 事後：テストの振り返り (60 分)

実務経験				
関連科目	プログラミング II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新・明解C言語 入門編	柴田 望洋	SBクリエイティブ
	2	やさしいC	高橋 麻奈	SBクリエイティブ
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」			
Teams コード	400sdmc			
Moodle コース名				

および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	成績は、演習課題の回答内容に基づき評価する。期限内に提出できなかった場合は、大幅な減点対象となる。
学生への メッセージ	事前学習については、授業計画を確認して予習に努めること。事後学習では、わからないところの理解に努めること。 欠席した場合は、必ず教材フォルダから授業資料を取得し、自習により追いつくこと。 友達同士で教え合って、それでも解決できなければ遠慮なく質問に来ること。
担当者の 研究室等	11号館8階 塚田講師室
備考	Windows 操作（キーボード入力、テキストのコピー&ペースト、ファイルの扱い）がスムーズにできると、授業に取り組みやすいのでパソコンに慣れていない人は、「ミカタイプ」や「すし打」等でタイピング練習をしておいてください。

科目名	プログラミングⅡ	科目名(英文)	Programming II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2029a0		

授業概要・目的	当授業では、C言語の基礎知識を持っていることを前提にして、経営分析に役立つプログラミング処理を学びます。企業の財務統計データを読み込み、収益性分析、安全性分析、生産性分析、成長性分析等の計算をプログラムで実装できる能力の獲得を目的とします。			
到達目標	(1) プログラミングの構成要素を説明できる (2) ファイルの入出力処理を理解できる (3) 実務に応用できるプログラミング能力が身につく			
授業方法と留意点	本年度は、Microsoft Teams を使用した資料配信型授業とする。 授業資料(PDF)は、各回の授業日までに Microsoft Teams のクラスにアップロードする。毎回の授業でテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組むこと。			
科目学習の効果(資格)	基本情報技術者試験			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、統合開発環境	事前学習：シラバスを読む(30分) 事後学習：プログラミング環境の構築手順の復習(40分)
	2	プログラミングの基礎知識(1)	プログラミングの考え方、画面出力	事前学習：C言語の「画面出力」について調べる(20分) 事後学習：授業内容見直し(30分)
	3	プログラミングの基礎知識(2)	キーボードからの数値の読み取り、四則演算	事前学習：C言語の「キーボードからの数値の読み取り」、「四則演算」について調べる(20分) 事後学習：授業内容見直し(30分)
	4	プログラミングの基礎知識(3)	分岐処理	事前学習：C言語の「分岐処理」について調べる(20分) 事後学習：授業内容見直し(30分)
	5	プログラミングの基礎知識(4)	反復処理	事前学習：C言語の「反復処理」について調べる(20分) 事後学習：授業内容見直し(30分)
	6	プログラミングの基礎知識(5)	分岐処理、反復処理、乱数を組み合わせたプログラミング	事前学習：乱数について調べる(20分) 事後学習：授業内容見直し(60分)
	7	中間テスト	中間テスト	事前学習：これまでのおさらい(120分) 事後学習：中間テストの振り返り(40分)
	8	中間テストの復習	中間テストの復習	事前学習：これまでのおさらい(60分) 事後学習：授業内容見直し(40分)
	9	プログラミングの応用(1)	配列	事前学習：C言語の「配列」について調べる(30分) 事後学習：授業内容見直し(30分)
	10	プログラミングの応用(2)	構造体	事前学習：C言語の「構造体」について調べる(60分) 事後学習：授業内容見直し(30分)
	11	プログラミングの応用(3)	ファイル入出力	事前学習：「ファイル入出力」について調べる(120分) 事後学習：授業内容見直し(60分)
	12	プログラミングの応用(4)	財務統計データ処理1	事前学習：財務統計データの計算方法とその実装方法について調べる(120分) 事後学習：授業内容見直し(60分)
	13	プログラミングの応用(5)	財務統計データ処理2	事前学習：財務統計データの計算方法とその実装方法について調べる(120分) 事後学習：授業内容見直し(60分)
	14	総復習	これまでのおさらい	事前学習：これまでのおさらい(120分) 事後学習：授業内容見直し(60分)
	15	期末テスト	期末テスト	事前学習：これまでの内容の確認(120分) 事後学習：テストの振り返り(60分)
実務経験				
関連科目	プログラミングⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新・明解C言語 入門編	柴田 望洋	SBクリエイティブ
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」			
Teamsコード	400sdmc			
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	成績は、演習課題の回答内容に基づき評価する。期限内に提出できなかった場合は、大幅な減点対象となる。
学生への メッセージ	プログラムは数をこなさなければ身につけません。 皆さん一人一人がプログラムを学ぶこと目的を見出し、積極的に予習、復習することを期待します。
担当者の 研究室等	11号館8階 塚田講師室
備考	

科目名	情報ネットワーク	科目名 (英文)	Information Networks
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2030a0		

授業概要・目的	本講義では、社会、産業の重要なインフラストラクチャーであり、さまざまな分野で欠かせないコンピュータネットワークについて学習する。特に、ネットワークを構成する基本的な技術を整理し、どのようにして相互にデータのやりとりができるのか、それらの技術がどのように活用されているのかについて平易に解説する。また、LANやインターネットはもとより、携帯電話や衛星通信などについても、最新の技術動向やトピックスを交えて講義する。
到達目標	ネットワークを構成する基本的な技術とその活用について学ぶことができる。
授業方法と留意点	この授業はMoodleを使用した遠隔授業を実施する。資料はすべてMoodleを通じて配布する。配布期間以外の再配布はないので、必ずダウンロードして授業を受けるように。また、3年生対象の専門科目「ネットワーク運用管理」はこの「情報ネットワーク」の応用について講義するため、「情報ネットワーク」を履修していないと「ネットワーク運用管理」は合格しない。「ネットワーク運用管理」の履修を予定している者は、必ずこの科目を履修すること。

科目学習の 効果 (資格)	ITパスポート試験、基本情報技術者試験
------------------	---------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	データ通信技術の概要	情報化社会の基盤システム、コンピュータネットワークの発展と役割、クライアント・サーバシステム	事前学習：なし 事後学習：練習課題(1)を解く(1時間)
2	通信の基礎(1)	アナログ信号とデジタル信号、周波数帯域、伝送速度と帯域幅、情報の符号化と復号化(D/D変換、D/A変換、A/D変換、A/A変換)	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(2)を解く(1時間)
3	通信の基礎(2)	伝送路の接続形態、ネットワークトポロジー、データ伝送方式、同期方式	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(3)を解く(1時間)
4	通信の基礎(3)	多重化と分離、交換方式、伝送媒体	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(4)を解く(1時間)
5	通信プロトコル	通信プロトコルの役割、ネットワークアーキテクチャ、OSI参照モデル、TCP/IP、TCPとUDP	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(5)を解く(1時間)
6	LANのネットワーク構成要素(1)	LANとWAN、ネットワークの構成規模、イーサネット、LANケーブル、リピータハブ、スイッチ	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(6)を解く(1時間)
7	LANのネットワーク構成要素(2)	ルータ、MACアドレス、ルーティング機能、フィルタリング機能、NAT	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(7)を解く(1時間)
8	講義のまとめと小テスト	講義前半の復習と小テスト	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(8)を解く(1時間)
9	無線LAN	無線LANのしくみと特徴、電波の性質、無線LANの基本構成、無線LANの接続方法、無線LANの規格、無線LANのセキュリティ	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(9)を解く(1時間)
10	電子メール(1)	電子メールの仕組み、メールクライアントとメールサーバ、メールヘッダー、SMTP、DNSサーバ	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(10)を解く(1時間)
11	電子メール(2)	POP、IMAP、Webメール、MIMEの役割と機能	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(11)を解く(1時間)
12	電子メール(3)	メールセキュリティ(スパムメール、フィッシングメール、情報漏えい)、事例研究	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(12)を解く(1時間)
13	情報社会のセキュリティ(1)	情報セキュリティの基本事項	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(13)を解く(1時間)
14	情報社会のセキュリティ(2)	ハッキングとクラッキング、コンピュータウィルスの特徴と被害	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(14)を解く(1時間)
15	講義のまとめと小テスト	講義後半の復習と小テスト	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(15)を解く(1時間)

実務経験	
関連科目	ネットワーク運用管理、情報処理関連の基礎科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	johonethorii			
連絡手段	Moodle で各回授業の場所に設けた質問コーナー（フォーラムまたはチャット）			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業中の課題と小テストにより評価する。ただし、全授業数の1/3回を超える欠席（未提出および未受験）は、総合点に関わらず単位を得ることはできない。Moodle で各週の授業資料を必ず閲覧し、期日までにレポート・課題・解答用紙を提出すること。			
学生への メッセージ	ネットワークは、多くの技術的要素を含んでいるため難しいと思われるが、本講義では、ネットワークの仕組みやその使われ方を分かりやすく説明する。前回までの授業内容をよく理解しておくこと。また、3年生対象の専門科目「ネットワーク運用管理」はこの「情報ネットワーク」の応用について講義するため、「情報ネットワーク」を履修していないと「ネットワーク運用管理」は合格しない。「ネットワーク運用管理」の履修を予定している者は、必ずこの科目を履修すること。			
担当者の 研究室等	11号館8階 堀井教授室			
備考	課題やレポートについては、実施した次の授業で講評する。			



科目名	マルチメディア処理 I	科目名 (英文)	Multimedia Processing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2031a0		

授業概要・目的	マルチメディア技術は、教育、医療、経営など、我々の生活に関わるさまざまな分野で活用されている。本講義では、マルチメディアの基礎技術となる「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」をとりあげ、その利用技術と生成手法について学んでいく。さらに、プログラミング演習を行うことで授業内容の理解を深める。
到達目標	「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」の利用技術と生成手法について学び、情報技術を駆使した多彩な表現力について修得することができる。
授業方法と留意点	Moodle を使用したオンライン授業を実施する。各週の授業資料を必ず閲覧し、レポート・課題を期日までに提出すること。
科目学習の効果 (資格)	CG 検定, 画像処理検定, マルチメディア検定のための基礎知識を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	マルチメディアを用いた応用技術	ガイダンス、CG 映画、ビデオゲーム、マルチメディア通信応用システム、仮想現実感	事前学習：なし 事後学習：練習課題(1)を解く(1時間)
2	基本的なシーンファイルの設定	座標系、カメラと照明の設定	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(2)を解く(1時間)
3	CG の基本演習	CG 作成手順、簡単な立体形状の作成、CG 画像の実例紹介	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(3)を解く(1時間)
4	マルチメディアと人間の知覚特性	恒常現象、図の認識、錯覚、図と地	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(4)を解く(1時間)
5	視覚特性と聴覚特性	両眼立体視、図の動き、色の見え、聴覚効果	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(5)を解く(1時間)
6	物体の移動・回転・縮小・拡大	移動・回転・縮小・拡大の設定と見え方	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(6)を解く(1時間)
7	色彩表現	加法混色、減法混色、RGB/XYZ 表示系、マンセル表色系	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(7)を解く(1時間)
8	講義のまとめと小テスト	講義前半のまとめと小テスト	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(8)を解く(1時間)
9	色彩演習	立体の色彩表現	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(9)を解く(1時間)
10	2次元画像処理の基礎	画像の標準化と量子化、2値化処理、濃淡、陰線・陰面消去	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(10)を解く(1時間)
11	合成と変換	平滑化、鮮鋭化、モザイク処理、コントラストの変換、特殊効果	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(11)を解く(1時間)
12	立体の表現方法	ステレオ画像処理、時分割メガネ方式、ステレオペア方式	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(12)を解く(1時間)
13	基本的な立体形状の作成	基本的な立体形状の作成方法	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(13)を解く(1時間)
14	物体の質感	さまざまな物体の質感	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(14)を解く(1時間)
15	講義のまとめと小テスト	講義後半のまとめと小テスト	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(15)を解く(1時間)

実務経験

関連科目 マルチメディア処理 II、情報処理関連の基礎科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	期日までに提出されたレポート・課題により評価する。
学生への メッセージ	この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていく。このため、コンピュータの基本的な利用が困難な者は、授業の内容をよく確認してから受講して欲しい。授業の内容をよく確認してから受講して欲しい。また、マルチメディア処理 I I の履修を考えている者は、必ずこの科目を履修すること。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階 堀井教授室
備考	課題やレポートについては、実施した次の授業で講評する。

科目名	コンピュータサイエンス	科目名 (英文)	Computer Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2032a0		

授業概要・目的	コンピュータサイエンスの概念『3層 (3 Tier) モデル』と利用法を学習する。構成要素としての、①ユーザーインターフェース ②アプリケーション ③データの機能と関係性を理解する。処理のための、API (Application Programming Interface) 利用、ビッグデータのアクセスについて等の実践を体験する。クラウドサービスのシステム環境 (開発&実行) を理解し、多形式データの利活用方法を理解する。
到達目標	多形式データのアクセス、クラウドサービス環境の API アプリケーションの構築、ファイル等データの形式・構造の理解、および、言語 (文章等) データと非言語データ (音声・画像・動画) の解析等の利活用について、概念と方法の理解ができる。また、IT サービスのマネジメント標準 ITIL (IT サービスマネジメントのベストプラクティス (成功事例)) の概観が理解できる。
授業方法と留意点	授業は、①講義 (前半)、②実習 (後半) から成る。実習は、指定課題を提供サンプルのカスタマイズ等により個人が完成させ、期限までに提出する。理解度に応じて、システム環境 (含自宅) を確保して対応する。クラウドサービス (Google/MS/IBM 等) の API 利用は、英語データ対象が一部あるが、指示に従うこと。質問は、対面、指定する Web フォーム・質問共有システム (初回授業でガイド予定、締切厳守で毎回運用する) にて記名式のものを対象に適宜回答する。 情報系分野の上位科目として、授業を進める。後述の履修前提条
科目学習の効果 (資格)	・クラウドサービス (Google/MS/IBM 等) 提供の API 利用の概観が理解できる。 ・データアクセスの API 処理の実践が理解できる。 ・業界実務者のエントリー資格 (例: G 検定 (ジェネラリスト検定)、AWS ソリューションアーキテクト) について、取得に向けた重要項目の素養を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	・授業ガイダンス ・『3層 (3 Tier) モデル』の基礎 ・システム稼働環境	事後学習: イントロダクション内容から質問を Web フォーム入力する。(標準学習時間: 0.5 時間)
2	アプリケーションとデータ	・アプリケーション開発の概観 ・伝統型アプリケーション開発 ・変数と演算子、関数と制御 ・データの形式・構造・単位 ・標準入出力の記述	事前学習: 指定する『システム構成』の教材記事を読んで、半ページに要約する。(標準学習時間: 1.5 時間)	
3	アプリケーション支援ツール	・IDE (統合開発環境) ・開発環境 コンパイラとライブラリー ・バイナリーコード ・ソフトウェアの『互換性』とは	事前学習: 指定する『開発言語』の教材記事を読んで、半ページに要約する。(標準学習時間: 1.5 時間)	
4	クラウドサービスのシステム環境	・システムの構成要素 ・『クラウドサービス』とは何か ・クラウドサービスの標準 ・共創型アプリケーション開発	事前学習: 指定する『クラウドサービス』の教材記事を読んで、半ページに要約する。(標準学習時間: 1.5 時間)	
5	オープンデータの概観	・『オープンデータ』とは何か ・データアクセスの方法・適用事例 ・データ種別 (言語・非言語) ・データ種別 (構造化・非構造化)	事前学習: 指定する業界・企業のシステム導入事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間: 1.5 時間)	
6	オープンデータのアクセス	・データ提供ポータル (省庁&自治体等のデータアクセス) ・データ提供ポータル (国内・海外の業界団体・企業のデータアクセス)	事前学習: 指定する公共機関・企業のオープンデータ利活用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間: 1.5 時間)	
7	クラウドサービスの管理	・商用クラウドアクセス ・認証 (ユーザー、アプリ) ・クラウドサービス利用の考慮点	事前学習: 指定する業界・企業のクラウドサービス適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間: 1.5 時間)	
8	言語データの利用 1	・解析前処理の方法・手順 ・数値データ (社会統計・金融市場) ・データマイニング (Business Analytics クラウド利用)	事前学習: 指定する Business Analytics 個人アカウント登録を行う。(標準学習時間: 0.5 時間)	
9	言語データの利用 2	・解析前処理の方法・手順 ・文字列データ (文章・SNS) ・テキストマイニング (Business Analytics クラウド利用)	事前学習: 指定する『言語データ』の教材記事を読んで、半ページに要約する。(標準学習時間: 1.5 時間)	
10	非言語データの利用 1	・解析前処理の方法・手順 ・画像データ ・顔認証 (Face API 利用) 照合 ・信頼確率	事前学習: 指定する Business Analytics 個人アカウント登録を行う。(標準学習時間: 0.5 時間)	
11	非言語データの利用 2	・解析前処理の方法・手順 ・動画データ ・評判分析 (Business Analytics クラウド利用)	事前学習: 指定する『非言語データ』の教材記事を読んで、半ページに要約する。(標準学習時間: 1.5 時間)	
12	機械学習・深層学習	・AI (人工知能) 超入門 ・Excel による機械学習 ・IBM Watson による深層学習	事前学習: 指定する Business Analytics 個人アカウント登録を行う。(標準学習時間: 0.5 時間)	
13	クラウドアプリケーションの開発 1	・商用データ (地図) ・Web 連携 (Google Cloud 利用) ・クラウド統合開発環境 Node-RED	事後学習: 指定するデータの処理アプリケーションを行う。(標準学習時間: 1.5 時間)	
14	クラウドアプリケーションの開発 2	・パーソナルデータ (IoT デバイス) ・Web 連携 (Watson IoT 等利用) ・クラウド統合開発環境 Node-RED	事後学習: 指定するデータの処理アプリケーションを行う。(標準学習時間: 1.5 時間)	
15	まとめ	・総括 ・小テスト ・小テストフィードバック	事後学習: 総括と小テストの内容から質問を Web フォーム入力する。(標準学習時間: 0.5 時間)	

実務経験																	
関連科目	前提条件として、「プログラミング」の履修を完了して基礎力が身についていること。履修登録に際しては冷静に判断すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現場で使える! Watson 開発入門 Watson API, Watson Studio による AI 開発手法</td> <td>伊澤 諒太・井上 研一 他</td> <td>翔泳社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>～マシンコードからクラウドまで～ 必携 ICT ガイドブック</td> <td>清野 克行</td> <td>ラトルズ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>C の絵本 第2版</td> <td>アंक</td> <td>翔泳社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現場で使える! Watson 開発入門 Watson API, Watson Studio による AI 開発手法	伊澤 諒太・井上 研一 他	翔泳社	2	～マシンコードからクラウドまで～ 必携 ICT ガイドブック	清野 克行	ラトルズ	3	C の絵本 第2版	アंक	翔泳社
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	現場で使える! Watson 開発入門 Watson API, Watson Studio による AI 開発手法	伊澤 諒太・井上 研一 他	翔泳社														
2	～マシンコードからクラウドまで～ 必携 ICT ガイドブック	清野 克行	ラトルズ														
3	C の絵本 第2版	アंक	翔泳社														
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法 (基準)	平常点 (20%)、個人課題 (5%)、小テスト (5%)、期末テスト (70%) の累計による総合評価を行う。平常点は、個人実習の指定課題について、提出要件 (期限厳守、提出形式、提出データ品質)、プレゼンテーション、積極的な質問、建設的な発言等の授業への参画の程度で評価する。授業において、迷惑な私語、携帯機器の私用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映する。授業の受講に集中すること。																
学生への メッセージ	クラウドサービスに関する汎用的な方法論を理論と実践の両面から学習します。自助努力で課題作成を進め、自ら完成させることが基本です。 (本授業は、SA:Student Assistan の配置がなく、学生向け個別対応に限界があることを理解すること。) 主体的に課題に取り組み、存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組んでください。																
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 (北村教授室)																
備考	指定座席 (理解度に応じた配置) での着席をお願いします。初回授業で、進め方の詳細、日常の学習法、成績評価基準 (評価マトリクス) の説明、ケーススタディ (グループ・個人)、課題発表 (プレゼンテーション) の実施要領、学習支援ツール (Web フォーム・質問共有システム) の使用方法を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、所定の基準に従った評価を行う。																

科目名	経営情報システム I	科目名 (英文)	Management Information Systems I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2033a0		

授業概要・目的	<p>組織の経営において、経営情報システムはもっとも重要な要素の一つである。現在の情報社会を構築し、また、発展させ続けているのは情報システムを効果的に活用している組織や団体などである。</p> <p>本講義では、経営情報システムの利点に関する基本的な知識や発展の経緯を学ぶとともに、最新の技術動向についても紹介する。</p> <p>SDGs-9, 12</p>
到達目標	<p>(1) 経営情報システムの重要性を説明できる</p> <p>(2) 経営情報システムを支える技術について知識を持っている</p> <p>(3) 経営情報システムの構築と運用における課題について説明できる</p>
授業方法と留意点	<p>プロジェクターを使いながら、事例や理論について説明する。学生が講義中に最新動向を調べたり、グループによるディスカッション、ディベートなども行う。</p> <p>なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業（一方向・双方向）などを組み合わせて実施する。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>企業経営において情報技術がどのように活用されているかについての理解が深まる。</p> <p>ITパスポートをはじめとする情報処理技術者試験を受験する援助となる。</p> <p>中小企業診断士試験を受験する援助となる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、情報社会と経営情報システム	予習：シラバスを読んでおく（30分） 復習：ディスカッションの準備（1時間）
2	経営情報システムの知名度	ディスカッション テーマ「情報システムを見たことありますか？」	予習：ディスカッションの準備（1時間） 復習：ディスカッションで出た意見のまとめ（30分）
3	ものづくりと経営情報システム	生産情報、生産管理システム、品質管理	予習：なし 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（30分）
4	「最強」の販売員と経営情報システム	POS、需要予測、在庫管理	予習：最近の購買行動を振り返る（30分） 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（30分）
5	生活の豊かさと経営情報システム	医療情報、自治体情報システム、RESAS	予習：RESASを触る（1時間） 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（30分）
6	経営情報システムの科学	シミュレーション、モデリング	予習：シミュレーション、モデリングと名のつくものを調べる（1時間） 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（30分）
7	経営情報システムの限界	集合知、人工知能、ビッグデータ	予習：ITの負の面を調べる（1時間） 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（30分）
8	ディベートに向けたディスカッション	グループワーク、発想支援、事例解説	予習：ディスカッションの準備（1時間） 復習：ディスカッションで出た意見の分類（1時間）
9	経営情報システムのこれからの価値	ディベート テーマ「経営情報システムは必要か否か？」 実務者の解説やコメント（事例解説になる可能性あり）	予習：ディベートの準備（1時間） 復習：ディベートで出た意見の分類（1時間）
10	経営情報システムを活性化させる組織	ナレッジマネジメント、BPR、SNS、プロジェクト管理	予習：組織的なIT利用の例を調べる（1時間） 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（30分）
11	経営情報システムの開発現場	開発事例の紹介、SEの役割、設計技法	予習：SEの実態を調べる（1時間） 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（30分）
12	経営情報システムとお金の関係	会計情報システム、原価管理、ネットワーク	予習：会計システムの現状を調べる（1時間） 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（30分）
13	サイバー犯罪と経営情報システム	サイバーテロ、情報セキュリティ、クラウド	予習：サイバー犯罪について調べる（1時間） 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（30分）
14	経営情報システムを駆使できる人材へ	CIO、e-ラーニング、資格情報、国の方針など	予習：経営情報に関する資格や職業を調べる（1時間） 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（30分）
15	まとめ	講義に関する質問への回答	予習：これまでの授業内容をまとめる（2時間）

実務経験				
関連科目	経営情報システムII、プログラミング、ビジネスデータ分析、ビジネスIT演習、ビジネスシミュレーション、流通情報システム			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験またはレポート (60%)、課題やミニレポート (20%)、授業への参加度 (20%) により総合的に評価する。 私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく対処するので注意すること。			
学生への メッセージ	学科の名称である「経営情報」が入った科目です。経営情報システムの重要性や面白さ、奥深さに触れて、多様な科目に興味を持ってもらいたいと思っています。			
担当者の 研究室等	11号館7階 (久保准教授室)			
備考	必要に応じて資料を配布します。 事前・事後の学習課題については授業冒頭に Moodle やミニペーパーなどで提出する場合がありますので授業に遅刻しないこと。			

科目名	経営情報システムⅡ	科目名(英文)	Management Information Systems II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2034a0		

授業概要・目的	企業経営において経営情報システムは、戦略的システムとして業務遂行に欠かせない要素の一つとなっており、組織との関わりに着目しながら理解することが求められている。この授業では、経営情報システムⅠで学習した知識を活かしつつ、簡単なデータベースの設計・管理を通して、組織がいかにして経営情報システムを有効に活用していくかについて考察する。
到達目標	経営情報システムについて、事例を通して総合的に学ぶことで、①社会における経営情報システムの役割について知り、②経営情報システムの課題や期待について理解するとともに、③経営情報システムを設計・管理するための知識・技能を修得することができる。
授業方法と留意点	配布資料を中心に手法や理論を解説し、適宜パソコンを使った演習を取り入れながら進めることで理解を深める。受講する中で、組織と情報システムとの関わり方や課題について考察する能力を養ってほしい。
科目学習の効果(資格)	企業経営で情報技術がどのように活用されているかについての理解が深まると共に、システムの設計・管理に関する知識を身につけることができる。中小企業診断士試験を受験する援助となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、経営情報システムとは	配付資料を読んでおく(30分)
2	コンピュータシステム	コンピュータの歴史、情報の表現、コンピュータの5大装置、情報量と情報の表現	コンピュータシステムについて調べ、事後課題に取り組む(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
3	企業における情報システム(1)	情報システムの変遷、インターネットのインパクト	情報システムの変遷について調べ、事後課題に取り組む(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
4	企業における情報システム(2)	インターネットの発展、消費者の購買決定プロセス	インターネットの発展について調べ、事後課題に取り組む(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
5	企業における情報システム(3)	ネット企業のサービス、IoTとビッグデータ、ビッグデータの活用例	ネット企業のサービスについて調べ、事後課題に取り組む(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
6	企業における情報システム(4)	ビッグデータの本質、スマートマシンと人工知能	ビッグデータとスマートマシンについて調べ、事後課題に取り組む(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
7	企業における情報システム(5)	人工知能ブーム、機械学習と深層学習	人工知能ブームについて調べ、事後課題に取り組む(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
8	前半のまとめ、中間レポート課題	前半の振り返り、中間レポート課題	前半の内容を復習しておく(90分)
9	企業の情報活用とその手法(1)	データマイニング、ナレッジ・マネジメント、企業の情報活用と経営戦略	企業の情報活用について調べ、事後課題に取り組む(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
10	企業の情報活用とその手法(2)	小売業・飲食業の情報化、POSシステムによる商品管理	小売業・飲食業の情報化について調べ、事後課題に取り組む(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
11	企業の情報活用とその手法(3)	企業の情報セキュリティ、個人情報の保護、企業のリスク管理とその手法	企業の情報セキュリティについて調べ、事後課題に取り組む(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
12	情報システムの開発と導入(1)	システム開発とその技法、システム開発のプロセス	システム開発とその技法について調べ、事後課題に取り組む(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
13	情報システムの開発と導入(2)	データベースの基本、データベースの操作	データベースについて調べ、事後課題に取り組む(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
14	情報システムの開発と導入(3)	データベースの設計と管理、データベースの活用事例	データベースの活用事例について調べ、事後課題に取り組む(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
15	全体のまとめ、最終レポート課題	全体のまとめ、最終レポート課題	全体復習の内容を整理しておく(120分)

実務経験

関連科目 経営情報システムⅠ、プログラミング、ビジネスデータ分析

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態 Teams「教材・課題配信型」/Moodle

Teams コード cnpd0xq

Moodle コース名 経営情報システムⅡ(栢木:S科目曜2限)2020年度



および登録キー	lion4magpie
連絡手段	Teams のチャット機能またはメール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	演習による成果物 (50%)、中間・最終レポート課題 (40%)、授業への取組姿勢 (10%) をもとに総合的に評価します。 この授業は演習中心であるため、8割以上の課題提出が単位取得の必要条件になります。
学生への メッセージ	適宜、パソコンを使った演習を取り入れながら進めますので、継続的な授業への取り組みを期待します。 また、単位修得には8割以上の課題提出が必要です。 授業で生じた疑問等の自己解決に努めるなど、積極的な参加を心がけて下さい。
担当者の 研究室等	11号館8階(栢木教授室)
備考	必要に応じて資料を配布します。 また、授業に関する質疑応答は、主に Teams のチャット機能またはメールを使用します。

科目名	プロジェクトマネジメント	科目名 (英文)	Project Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2035a0		

授業概要・目的	<p>企業等の組織が取り組むプロジェクトのマネジメント手法として、管理標準 (PMBOK)、ITサービスマネジメント (ITIL) 標準を示す方法を学習する。ケーススタディに取り組み、グループワークをとおして実践する視点から学習する。ロールプレイの手法により、課題の発掘、提案作成、プレゼンテーション報告を行う。ステークホルダーの視点から、効果的な経営のためのプロジェクトとは何かを考察する。</p> <p>[注釈] PMBOK : Project Management Body of Knowledge (プロジェクトマネジメント知識体系) ITIL : Information Technology Infrastructure Library (ITサービスマネジメントのベストプラクティス (成功事例))</p>
到達目標	プロジェクトマネジメントの管理標準 (PMBOK)、ITサービスマネジメント (ITIL) 標準のうち、初的なプロジェクトの提案に必要な計画の骨子、管理項目、実行可能なスケジュール等が理解できる。ディスカッションとグループ提案のロールプレイをとおして、プロジェクト活動の視点、方法と手順、プロジェクト実施 (ポストセールス) への引継ぎ項目が理解できる。
授業方法と留意点	授業は、①講義 (前半)、②個人授業課題、または、グループワーク (後半) から成る。グループワークは、ケーススタディに取り組み、ディスカッションやプレゼンテーションの課題を指示する。質問は、対面に加え、指定する Web フォーム・質問共有システム (初回授業でガイド予定、締切厳守で毎回運用する) にて記名式のものを対象に適宜回答する。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトマネジメント知識体系標準 PMBOK (Project Management Body of Knowledge) の概観・基本が理解できる。</li> <li>業界標準の資格 (PMP: Project Management Professional) 取得の主な管理項目の素養を身につけることができる。</li> </ul>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業ガイダンス</li> <li>『プロジェクト』とは</li> <li>『ロールプレイ』とは</li> </ul>	事後学習：イントロダクション内容から質問を Web フォーム入力する。(標準学習時間：0.5 時間)
2	プロジェクトマネジメントの概観	<ul style="list-style-type: none"> <li>『プロジェクトマネジメント』とは</li> <li>プレイヤー 顧客 (エンドユーザー企業)、提案企業 (プロジェクトメンバー)、ステークホルダー</li> <li>グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：教科書の『プロジェクトマネジメント』概観の章を読んで、半ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
3	プロジェクトマネジメントの体系・標準	<ul style="list-style-type: none"> <li>『PMBOK (Project Management Body of Knowledge)』の基礎</li> <li>マネジメント体系の標準</li> <li>グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定する業界のプロジェクトマネジメント事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
4	プロジェクト・スコープ	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトの目的の理解・共有</li> <li>プリセールスとポストセールス</li> <li>提案活動の 5W1H</li> <li>グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：教科書の『PMBOK』概観の章を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
5	プロジェクト提案メニュー	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案するサービス</li> <li>サービスの規模・品質</li> <li>提案体制とメンバー構成・役割</li> <li>グループワーク&amp;プレゼン</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：指定する企業のプロジェクトマネジメント事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
6	プロジェクトマネジメント視点の導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>『WBS (Work Breakdown Structure)』の基礎</li> <li>顧客要求の可視化</li> <li>提案サービスの見積り</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：教科書の『WBS』概観の章を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
7	プロジェクト提案プロセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト資源 (ヒト、モノ、カネ、情報) とマネジメント手法・体制</li> <li>提案メニューの文書化</li> <li>計画書&amp;提案書の作成</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：指定する Excel フォームでの練習用の見積りを行う。(標準学習時間：0.5 時間) 事後学習：指定する Excel フォームでのミニプロジェクトの見積りを行う。(標準学習時間：1.0 時間)	
8	経営マネジメント視点の導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営方針と提案コンセプトの同期</li> <li>『KPI (重要業績評価指標)』とは</li> <li>ステークホルダーとの合意形成</li> <li>グループワーク</li> </ul>	事前学習：指定する企業の KPI 管理の事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
9	プロジェクト計画のレビュー	<ul style="list-style-type: none"> <li>『ROI (投資対効果)』とは</li> <li>リスクマネジメント リスクのインパクト分析と定量化 (試算)</li> <li>グループワーク</li> </ul>	事前学習：指定する企業の情報システム投資の事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
10	プロジェクト提案顧客との合意形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客の期待～契約条項のギャップ</li> <li>サービスレベル管理</li> <li>『SLA (Service Level Agreement : サービスレベル合意)』とは</li> <li>グループワーク</li> </ul>	事前学習：指定する企業の IT サービスの事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
11	プロジェクト提案サービスのマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITサービスマネジメント標準</li> <li>『ITIL (Information Technology Infrastructure Library)』の基礎</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：教科書の『ITIL』概観の章を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
12	提案活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリセールス活動 (契約前活動)</li> <li>顧客企業向け IT 企業の提案</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：指定する業界の IT サービス提案 (プリセールス) の事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
13	プロジェクト活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポストセールス活動 (契約後活動)</li> <li>顧客企業プロジェクトでのプロジェクトの進捗管理&amp;問題管理</li> <li>個人発表 (プレゼンテーション)</li> </ul>	事前学習：指定する業界の IT サービスプロジェクト (ポストセールス) の事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)	
14	開発タイプとマネジメント方法論	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的開発 (ウォーターフォール・モデル)</li> </ul>	事前学習：指定する企業の IT サービス開発の事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。	

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の開発（アジャイルモデル）</li> <li>・マネジメントの視点</li> <li>・ステークホルダーの視点</li> </ul>	(標準学習時間：1.5時間)
	15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総括</li> <li>・小テスト</li> <li>・小テストフィードバック</li> </ul>	事後学習：総括と小テストの内容から質問を Web フォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間)
実務経験				
関連科目	Excel による基本的な四則演算ができること。Excel 操作ができない場合、課題演習を独力で進めることが困難なため、履修登録に際しては冷静に判断すること。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プロジェクトマネジメント標準 PMBOK 入門 第 6 版 対応版	広兼 修	オーム社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プロセスデザインアプローチ 誰も教えてくれない「プロジェクトマネジメント」	芝本 秀徳	日経 BP 社
	2	ITIL 入門 IT サービスマネージメントの仕組みと活用	野村総合研究所システムコンサルティング事業本部	ソーテック社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	平常点 (15%)、個人課題 (5%)、小テスト (10%)、期末テスト (70%) の累計による総合評価を行う。平常点は、ケーススタディのグループ課題 (毎回および不定期、授業時間内の提出)、指名者 (個人・グループ) 発表、積極的な質問、建設的な発言等の授業への参画の程度で評価する。授業において、迷惑な私語、携帯機器の私用、遅刻等の進捗を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映する。授業の受講に集中すること。			
学生へのメッセージ	初歩的なプロジェクトのケーススタディについて、講義、グループワーク、ロールプレイを行います。仮想プロジェクトに取り組み、プロジェクトメンバーとして、提案活動を行います。特に、個人の役割を定め、責務を果たすロールプレイの体験をとおして、マネジメントの方法論をマクロ&ミクロの両面から学びます。また、存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組むこと。			
担当者の研究室等	11 号館 7 階 (北村教授室)			
備考	初回授業で、進め方の詳細、日常の学習法、成績評価基準 (評価マトリクス) の説明、ケーススタディ (グループ・個人)、課題発表 (プレゼンテーション) の実施要領、学習支援ツール (Web フォーム・質問共有システム) の使用方法を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、所定の基準に従った評価を行う。			

科目名	コンテンツビジネス	科目名 (英文)	Content Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2036a0		

授業概要・目的	<p>&lt;目的について&gt; 本講義では、ICTの急速な発展と普及により、めまぐるしく変貌する現代のコンテンツ業界の産業構造とビジネスモデルおよびコンテンツを自社のマーケティング政策に組み込む製造業界の企業による取り組み事例について、経営学及び産業論の観点から解説する。本講義の目的は、情報通信ネットワーク技術とコンテンツ技術の発展が、業界構造やビジネスのあり方に与える影響と変化を理解することである。</p> <p>&lt;講義の進め方&gt; ・講義はOffice365のTeams上でライブ配信によるオンライン講義を実施する。 ・講義で使用する資料(配布資料)の入手方法は、以下「授業方法と留意点」にて説明する。</p> <p>&lt;担当者について&gt; 授業担当者は、かつて情報通信分野の研究所に勤務し、大手通信キャリアのエンジニアらと共に次世代移動体情報通信技術・サービスの開発に携わってきた。講義では、これらの技術開発から市場普及に取り組む企業と現場の様子についても紹介していくつもりである。</p>			
	到達目標	<p>・各コンテンツ(クリエイティブ)産業の市場規模、産業構造について説明ができる。 ・各コンテンツ(クリエイティブ)産業のビジネスモデルについて説明ができる。</p>		
授業方法と留意点	<p>&lt;教材の入手方法&gt; 講義では、補助教材を使用します。各自印刷し、手元に置いて受講してください。 (1) 補助教材: 摂南大学HP→「在学生の方」→「WebFolder」→「針尾大嗣」→「ICT概論」→「該当回」のフォルダに開講3日前までにアップしてあります。各自ダウンロードしてください。</p>			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	主に以下について取り上げる ・コンテンツビジネスとは ・本講義で取り上げるコンテンツ産業について	WebFolderに上げてある配布資料をダウンロードし、内容を予習しておいてください。
	2	放送業界	主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・ビジネスモデル ・放送法等	WebFolderに上げてある配布資料をダウンロードし、内容を予習しておいてください。
	3	映画業界	主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・ビジネスモデル ・映画製作等	WebFolderに上げてある配布資料をダウンロードし、内容を予習しておいてください。
	4	グループワーク	以下を実施する ・グループディスカッション ・レポート作成と提出	WebFolderに上げてある配布資料をダウンロードし、レポート課題について予習しておいてください。
	5	出版業界	主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・ビジネスモデル ・音楽配信等	WebFolderに上げてある配布資料をダウンロードし、内容を予習しておいてください。
	6	音楽業界	主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・ビジネスモデル ・再販売価格維持制度等	WebFolderに上げてある配布資料をダウンロードし、内容を予習しておいてください。
	7	グループワーク	以下を実施する ・グループディスカッション ・レポート作成と提出	WebFolderに上げてある配布資料をダウンロードし、レポート課題について予習しておいてください。
	8	自動車業界	主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・ビジネスモデル ・電気自動車とIT等	WebFolderに上げてある配布資料をダウンロードし、内容を予習しておいてください。
	9	時計業界	主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・ビジネスモデル ・スマートウォッチ等	WebFolderに上げてある配布資料をダウンロードし、内容を予習しておいてください。
	10	グループワーク	以下を実施する ・グループディスカッション ・レポート作成と提出	WebFolderに上げてある配布資料をダウンロードし、レポート課題について予習しておいてください。
	11	テストと討議	以下を実施する ・期末テスト	WebFolderに上げてある配布資料をダウンロードし、試験範囲について復習しておいてください。
	12	コンテンツと文化	主に以下について取り上げる ・映画にみる日本のコンテンツ文化(映画鑑賞)	WebFolderに上げてある配布資料をダウンロードし、内容を予習しておいてください。
13	コンテンツと技術	主に以下について取り上げる ・映像編集装置と技術 ・映像配信プラットフォーム他	WebFolderに上げてある配布資料をダウンロードし、内容を予習しておいてください。	

	14	コンテンツとビジネス	主に以下について取り上げる ・著作権管理 ・関連法他	WebFolder に上げてある配布資料をダウンロードし、内容を予習しておいてください。
	15	総括	主に以下について取り上げる ・本講義の総括 ・レポート作成と提出	WebFolder に上げてある配布資料をダウンロードし、内容を予習しておいてください。
実務経験				
関連科目	ICT 概論、メディア戦略論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「授業方法と留意点」に記載		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「授業方法と留意点」に記載		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<評価の方法> いずれもオンライン講義で実施します。 ・レポート x4 回 (60%) ・テスト x1 回 (40%)			
学生への メッセージ	自宅にインターネット環境がなく受講できないという場合は、第三回講義までに担当教員にメールにてお知らせください。 講義は、インターネット利用ができることを前提に進めますが、途中、回線問題等で受講できない場合でも自宅学習できるよう教材を準備しています。遠隔講義中にトラブル（回線不良による切断等々）が発生した場合は、少し時間を置いて、Teams に再ログインしてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 7 階（針尾准教授室）			
備考	講義で取り扱う業界とその内容については、受講生の関心や情勢にあわせて変更する場合があります。			

科目名	知的財産管理論	科目名 (英文)	Intellectual Properties Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2037a0		

授業概要・目的	<p>近年、知的財産の戦略的な創造と活用が企業経営の機能として占める意義がますます高まっています。効率的な企画・開発プロセスにより高収益体質のビジネスモデルを作り上げるためには、知的財産を成長戦略の軸として活用することが必要不可欠となっています。</p> <p>戦略的且つ、組織的な研究開発の推進により創出される企業の新たな価値（知の潜在成長力）である知的財産権の活用方法、管理体系について学びます。</p> <p>【SDGs-9】（産業と技術革新の基盤をつくろう）</p> <p>【担当教員実務経歴】</p> <p>①監査法人（ベンチャー等、事業会社の無形資産価値評価：資産査定業務）          ②ベンチャー投資財団（株式公開準備企業における特許等無形資産の戦略的管理指導）          ③大学機関（知的財産本部副本部長 研究シーズ、特許等の出願、管理に係る業務）</p>
到達目標	知的財産の代表格である特許権の他、著作権、製品企画・販売戦略に必要な商標権、コンテンツビジネスに係わる価値（知財権）の戦略的活用法の基礎的知識を会得し、将来、企業内専門管理人材としての育成を目指します。
授業方法と留意点	非常事態継続時は遠隔講義【Microsoft Teams】を実施します。 当該授業内容に関する付属資料を配信配布【Web Folder】します。 またスライドで説明した内容について、自身で効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください。 毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を配信配布【Web Folder】します。講義時間終了までに提出【Web Folder】してもらいます。
科目学習の効果（資格）	文科系分野の人材であっても、技術、発明等による製品、商品の活用手法、および法令遵守による事業遂行に係る留意すべき点を認識し、将来の企業での業務に役立てることが出来ます。 特に、身の回りにある製品や商品の販売戦略、海外への進出等に必要となる管理手法を会得出来ます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講座ガイダンス 知的財産とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 社会で活躍する知財人材とは？ 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認。	<事後>授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）
2	知的財産制度 知的財産の種類と機能	制度としての必要性と消費生活における知的財産の役割 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認。	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。	
3	知的財産制度 知財権の法的保護	企業における知的財産の活用手法と企業内戦略組織の組立 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。	
4	知的資産の流出防止と企業戦略	ニーズ志向での知財戦略 知的活用での知財戦略 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。	
5	文科系色の知的財産権創出の考え方	ビジネスモデルと差別化知財戦略における留意点 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。	
6	ノウハウの管理手法と企業内知財の取扱務	営業秘密（不正競争防止法）と職務発明（事例研究）の考え方。 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。	
7	知的財産権の法的効力と活用	独占禁止法と知的財産法との関係性 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。	
8	知的財産権創出における知財市場調査手法	知的財産権調査の考え方 知的財産権調査の実践（目的別） 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。	
9	企業財務における知的財産権の位置づけ	知財価値評価説明のための財務基礎知識 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。	
10	知的財産の経済的価値評価	知財価値評価のための考え方とその必要意義 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。	
11	知財ファイナンスのための金融投資手法の基礎	金融投資基礎知識と知財ファイナンスの基礎 講義のキーワードに基づく授業聴講で	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等	



			のポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	の検索・学習（30分）。
	12	知的財産権の侵害行為と防御手法	侵害訴訟の考え方と法的対応策 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
	13	知財出願実務と契約手法	出願実務および契約実務の留意点 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
	14	国際ライセンス手法と法務 国際標準規格の考え方	国際ライセンス条約と国際標準化 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
	15	総論 知財立国としての考え方	知財立国としての知財の考え方（まとめ） 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
実務経験				
関連科目	産業社会と知的財産（理工学部）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	知的創造活動と知的財産	工業所有権情報・研修館	工業所有権情報・研修館
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder			
Teams コード	cygbab3			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	masahiro.hayashi@kjo.setsunan.ac.jp			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	①毎回のアンケート内の「設問1」に対する回答評価（評価割合：50%） 授業内容のお復習として設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の「設問2」（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。 ②期末レポート（評価割合：50%） 知的財産権の基本的な戦略的考え方を習得した知識から知			
学生への メッセージ	将来企業人の一員となるために必要な産業界（実務）の知識を習得してください。 知的財産に関する政策や企業活動等の記事は、日々、新聞等に掲載されていますので、普段より新聞を読む習慣を身に付けてください。			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考	工業所有権情報・研修館のホームページ「知的財産人材の育成」カテゴリにある「知的創造活動と知的財産」のテキスト（無料）をダウンロードし、参考資料として活用してください。			



科目名	情報と職業	科目名 (英文)	Information and Career
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2038a0		

授業概要・目的	情報と職業の関係について、国の政策、企業の戦略、個人の職業観の変化等の視点で学習する。テクノロジーの進展に伴って、AIが人間の仕事を代替する中で、雇用人材市場でのヒトの価値が再考されている。職場での『働き方改革』が進んでいる環境で、企業の取組み、ヒトの意識が変化している。人間の役割の変化をとらえて、情報化社会における情報と職業の関係を見直す
到達目標	IT、その中でAIが組織の活動、ヒトの仕事のいかんにかかわることが可能なか、今後の職業の変化の見通しを理解する。日本の人口構成の推移、職場の『働き方改革』の推進、雇用手市場の指標評価、外国人就労者の動向、新卒者向け就活協定の改訂、個人の職業観の変化等を理解し、多様な視点からの情報収集を行うことができ、かつ雇用に係る重要な課題の意見交換ができることを目指す。
授業方法と留意点	授業は、①講義(前半)、②個人授業課題、または、グループワーク(後半)から成る。グループワークは、ケーススタディに取り組み、ディスカッションやプレゼンテーションの課題を指示する。質問は、対面に加え、指定するWebフォーム・質問共有システム(初回授業でガイド予定、締切厳守で毎回運用する)にて記名式のものを対象に適宜回答する。課題/テストについては、ZOOM/SLACKなどWebにより実施する。
科目学習の効果(資格)	・対面および情報メディアを介して、情報と職業に関係する課題や業界・企業等への関心を高め、より容易に理解できる。 ・インターネット(Web/SNS等)が提供する職業の変化を示すニュースの基礎的な思考力・判断力が養成できる。 ・教員免許(情報)取得のための必修科目として履修可。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業ガイダンス ・情報化社会のヒトの役割 ・企業の新卒採用ルール見直し	事後学習：イントロダクション内容から質問をWebフォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間)
2	情報化社会の進展とビジネス人材の変化	・情報化社会のビジネス人材の要件 ・ビジネス人材に期待されるスキル ・就職活動の新しいチャネルの基礎 ・グループワーク&プレゼン	事前学習：教科書の『AIと人間の間』(前半)の章を読んで、1ページに要約する。(標準学習時間：1.5時間)
3	新しいIT(情報技術)の台頭と人材市場の変遷	・インターネットによる新事業の変遷 ・AI(人工知能)/サービスロボットの浸透に伴う人材市場の動向 ・グループワーク&プレゼン	事前学習：教科書の『AIと人間の間』(後半)の章を読んで、1ページに要約する。(標準学習時間：1.5時間)
4	変わるヒトの仕事	・産業・業界の構造変化 ・AI(人工知能)/サービスロボットの適用による『士業』『仲介業』の変化 ・グループワーク&プレゼン	事前学習：指定する業界の求人状況(新卒・既卒)のネット検索・調査を行って、1ページに要約する。(標準学習時間：1.5時間)
5	『将来なくなる仕事』と『代替されるヒトの仕事』等の調査報告書	・人口統計の就業者人口の推移 ・人材白書の読み方 ・国際研究 職業ランキング調査 ・個人発表(プレゼンテーション)	事前学習：指定する業界の求人状況(個別職種)のネット検索・調査を行って、1ページに要約する。(標準学習時間：1.5時間)
6	『人手不足』と『人余り』	・組織の人材配置ポートフォリオ ・『人手不足』と『人余り』 ・有効求人倍率の読み方 ・個人発表(プレゼンテーション)	事前学習：教科書の『AIは芸術作品を生み出せるのか』の章を読んで、1ページに要約する。(標準学習時間：1.5時間)
7	ヒトとシステムの関係性	・仕事の量・質 ・ヒトとシステムの関係の再構築 ・職種の変化の動向 ・個人発表(プレゼンテーション)	事前学習：教科書の『AIロボットの実現はなぜ難しいのか』の章を読んで、1ページに要約する。(標準学習時間：1.5時間)
8	ヒトとシステムの競争と共創	・システムができること/ヒトしかできないこと ・職人技を再現する現代のシステム ・ヒトとシステムの共創モデル ・グループワーク&プレゼン	事前学習：指定する業界・企業の職種動向のネット検索・調査を行って、1ページに要約する。(標準学習時間：1.5時間)
9	組織の価値観と個人の価値観	・組織の人材配置方針 ・個人の職業観 ・日本企業のメンバーシップ採用 ・グループワーク&プレゼン	事前学習：教科書の『AIの画像認識技術で暮らしはどう変わるのか』の章を読んで、1ページに要約する。(標準学習時間：1.5時間)
10	『働き方改革』の公的施策	・『働き方改革』の政策 ・日本企業にみる働き方 ・働き方をめぐる公共機関の事例 ・グループワーク&プレゼン	事前学習：指定する公共機関の『働き方改革』実施状況のネット検索・調査を行って、1ページに要約する。(標準学習時間：1.5時間)
11	『働き方改革』の企業での運用状況	・『働き方改革』以前からの改革(裁量型労働、フレックス勤務等) ・国・経団連の指針と企業の状況 ・働き方をめぐる企業の事例 ・個人発表(プレゼンテーション)	事前学習：指定する企業の『働き方改革』実施状況のネット検索・調査を行って、1ページに要約する。(標準学習時間：1.5時間)
12	『働き方改革』を支援するAI/サービスロボット	・新しいIT活用とフレックスワーク ・リモートワーク/モバイルワーク ・グロースハッカーの登場 ・個人発表(プレゼンテーション)	事前学習：教科書の『AIと人間は融合するのか』の章を読んで、1ページに要約する。(標準学習時間：1.5時間)
13	『働き方改革』を取り巻く内外環境の動向	・『働き方改革関連法』の施行 ・外国人就労(政策、戦略)の動向 ・個人発表(プレゼンテーション)	事前学習：教科書の『インタビュー』の章を読んで、1ページに要約する。(標準学習時間：1.5時間)
14	これからの個人の行動指針とキャリアパスの再考	・行動指針(通年採用、リファラル採用) ・就職活動の新しいチャネルの活用 ・個人のキャリアパスの再考	事前学習：指定する企業への就職活動の新しいWeb等チャネルのネット検索・調査を行って、1ページに要約する。(標準学習時間：1.5時間)
15	まとめ	・総括 ・小テスト ・小テストフィードバック	事後学習：総括と小テストの内容から質問をWebフォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間)

実務経験																	
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>超 AI 入門</td> <td>「人間ってなんだ?超 AI 入門」制作班</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	超 AI 入門	「人間ってなんだ?超 AI 入門」制作班	NHK 出版	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	超 AI 入門	「人間ってなんだ?超 AI 入門」制作班	NHK 出版													
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人工知能が変える仕事の未来</td> <td>野村 直之</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの</td> <td>松尾 豊</td> <td>KADOKAWA/中経出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>HUMAN+MACHINE 人間+マシン</td> <td>ポール・R・ドアーティ, H・ジェームズ・ウィルソン</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞出版社	2	人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの	松尾 豊	KADOKAWA/中経出版	3	HUMAN+MACHINE 人間+マシン	ポール・R・ドアーティ, H・ジェームズ・ウィルソン	東洋経済新報社
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞出版社													
	2	人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの	松尾 豊	KADOKAWA/中経出版													
3	HUMAN+MACHINE 人間+マシン	ポール・R・ドアーティ, H・ジェームズ・ウィルソン	東洋経済新報社														
授業形態	ZOOM/Slack) /Teams「オンライン型」/Web Folder																
Teams コード	o46fvf3																
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	e-Mail, Teams Chat																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法 (基準)	平常点 (15%)、個人課題 (5%)、小テスト (10%)、期末テスト (70%) の累計による総合評価 (課題/テストはすべて Web 実施) を行う。平常点は、ケーススタディのグループ課題 (毎回および不定期、授業時間内の提出)、指名者 (個人・グループ) 発表、積極的な質問、建設的な発言等の授業への参画の程度で評価する。授業において、迷惑な私語、携帯機器の私用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映する。授業の受講に集中すること。																
学生への メッセージ	ヒトの仕事を AI (人工知能) やサービスロボットが代替することで、ヒトの役割が変わりつつあります。また、時間・場所等にとらわれない、柔軟な働き方の実践に向けて、情報と職業にかかわるどんな課題があるのか、また、ヒトとシステムに係るケーススタディに取り組みます。グループワークで共創する機会に主体的かつ自律的に参画し、コミュニケーションをとって触発し合うことを期待します。また、存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組むこと。																
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 (北村教授室)																
備考	初回授業で、進め方の詳細、日常の学習法、成績評価基準 (評価マトリクス) の説明、ケーススタディ (グループ・個人)、課題発表 (プレゼンテーション) の実施要領、学習支援ツール (Web フォーム・質問共有システム) の使用方法を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、所定の基準に従った評価を行う。																

科目名	ベンチャービジネス論	科目名 (英文)	Venture Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS3039a0		

授業概要・目的	新規事業の着想から、ビジネスモデルの構築、そして実際の起業に至るまでの諸課題や実務についての講義、並びに各界における起業経験者の体験談を聞き、起業の実際、事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。  【担当教員実務経歴】 ①金融機関 (本部企画部経営企画・本店営業部融資与信審査業務) ②ベンチャー投資財団 (企業投資業務) ③監査法人 (株式上場コンサルティング) ④ベンチャー企業監査役兼務 (複数社)
到達目標	「起業」そのものを自身の将来の照準として身近に捉えられるよう、新規ビジネスの必要性について学び、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成を目指します。
授業方法と留意点	遠隔講義【Microsoft Teams】使用 当該授業内容に関する付属資料を配信配付【Web Folder】します。 スライドで説明した内容について、自身で効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください。 毎回、講義内容に関する質問 (アンケート表) を配信配付【Web Folder】します。講義時間終了までに提出【Web Folder】してもらいます。
科目学習の効果 (資格)	「起業」に必要な挑戦意欲の醸成と、起業アイデアの創出 企業就職後における製品企画、商品アイデアなどの創出ノウハウ 中小企業、ベンチャー企業の実態把握と自らの将来像の分析

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 起業家とは?	講座ガイダンス (勉強方法・評価方法) 起業家教育を受ける理由	<事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習 (1時間)
2	起業家の目指すべき方向性とその役割	事業化に至るまでの指針 「講義キーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得 (30分)。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習 (1時間)
3	起業家としての経営的視点と意思決定	トラブルシューターとしての起業家の役割 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得 (30分)。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習 (1時間)
4	参入市場の環境分析能力	大手企業との関係と目指すべき市場の選定 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得 (30分)。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習 (1時間)
5	ベンチャー企業における組織体制	起業から成熟企業に至るまでのガバナンス体制の維持 講義キーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得 (30分)。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習 (1時間)
6	事業ドメインの設定と知財戦略	事業コアコンピタンスの重要性と科学的見地での探索 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得 (30分)。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習 (1時間)
7	起業成長に必要な収益モデリング	起業家としての管理会計の考え方と株主対応 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得 (30分)。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習 (1時間)
8	事業プランニングの考え方	創業事業計画書作成の意義と構築の考え方 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得 (30分)。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習 (各自) (1時間)
9	起業家実体験談① 【外部講師】 マネックスグループ (株) 福島 健太 氏	IT系マーケティング調査企業の実態 キーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 講師企業についてネット等を活用した質問事項の用意 (30分)。 <事後> 授業で聴講したキーワードを調べることによる再認識 (1時間)
10	起業家実体験談② 【外部講師】 (株) Laft 代表取締役 CEO 古田 紀之 氏	サービス事業における起業。 キーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 講師企業についてネット等を活用した質問事項の用意 (30分)。 <事後> 授業で聴講したキーワードを調べることによる再認識 (1時間)
11	企業経営実体験談① 【外部講師】 大化物流開発合同会社代表社員 入江 徹 氏	事業形態 (LLC) 企業。 キーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 講師企業についてネット等を活用した質問事項の用意 (30分)。 <事後> 授業で聴講したキーワードを調べることによる再認識 (1時間)
12	企業経営実体験談②	事業 (雇用方針) キーワードに基づく授業聴講でのポイント	<事前> 講師企業についてネット等を活用した質問事項の用意 (30分)。

		【外部講師】 株式会社アークシステムズ 代表取締役 金明淑 氏	ントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事後>授業で聴講したキーワードを調べること による再認識 (1時間)
	13	起業支援機関業務の実態①  【外部講師】 大阪産業創造館 おおさか ナレッジ・フロンティア推進 機構 チーフプランナー 長 谷川 新 氏	起業支援事業 (コンサル) 配布資料のキーワードに基づく授業聴 講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>講師機関 (ベンチャー支援) についてネット 等を活用した質問事項の用意 (30分)。 <事後>授業で聴講したキーワードを調べること による再認識 (1時間)
	14	起業支援機関業務の実態②  【外部講師】 株式会社関西みらい銀行 経営相談部 (未定) 氏	起業支援事業 (中小企業支援) キーワードに基づく授業聴講でのポイ ントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>講師機関についてネット等を活用した質 問事項の用意 (30分)。 <事後>授業で聴講したキーワードを調べること による再認識 (1時間)
	15	事業継続ノウハウ	起業から成長段階に至るまでの事業継 続措置の考え方 講義のキーワードに基づく授業聴講で のポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事後>授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習 (各自) (1時間)
実務経験				
関連科目	ビジネスプランニング			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	①毎回のアンケート内の [設問1] に対する回答評価 (評価割合：50%) 授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価し ます。またアンケート内の [設問2] (授業内容に関する質問および要望) について、積極的に質問または提案し た場合は加点評価とします。なお、当該質問や要望については、次回以降の授業時に解説文を付けて一覧表 にして学習者全員に資料配付します ②期末レポート (評価割合：50%) 授業全般にわたっての課題を提示します。			
学生への メッセージ	自身の将来 (やりたい事) が実現できるのか、自己分析を含め授業により認識してください。  【注意：外部講師の授業回について】 外部講師の授業については、講師の都合等により開講回が変更となることがあります。 また外部講師に失礼の無い態勢で授業に臨んでください。			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考	学生のうちに起業を目指したいと考えている学生は、自身のアイデアについて個別に相談してください。			

科目名	ビジネスプランニング	科目名 (英文)	Business Planning
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS3040a0		

授業概要・目的	<p>企業における戦略的経営手法、事業成長施策の基本的プロセスの考え方を学ぶと共に、チーム制による起業化シミュレーションを行います。シミュレーション(成果物)は、「創業事業計画書」と「資金繰り計画表(4期分)の作成です。最終回にて各チームのプレゼン発表を開催します。</p> <p>【担当教員実務経歴】</p> <p>①金融機関(本部企画部経営企画・本店営業部融資与信審査業務)</p> <p>②ベンチャー投資財団(企業投資業務)</p> <p>③監査法人(株式上場コンサルティング)</p> <p>④ベンチャー企業監査役兼務(複数社)</p> <p>⑤ベンチャービジネスプラン審査員(複数機関)</p> <p>⑤文部科学省「EDGE-NEXT(ベンチャー創出)事業 実務担当者</p> <p>【SDGs-.9】(産業と技術革新の基盤を作る)</p>
到達目標	将来、企業におけるプロジェクトリーダー、プロジェクトデベロッパーを目指します。特に、昨今多く見られる企業内ベンチャーの創出、または新規事業プロジェクトの企画業務、製品企画等のノウハウとして役立ちます。
授業方法と留意点	<p>【授業形態】演習 非常事態継続時は遠隔【Microsoft Teams】または【Zoom】を使用します。</p> <p>チームを編成し、チーム別にベンチャー企業設立シミュレーション(演習)を行います。</p> <p>各自、チーム内での役割に従い、チーム自治でディスカッションによる演習作業を進めてもらいます。したがって、欠席が多いと見込まれる学生は、チームメンバーへ負荷が掛かりますので履修にあたっては留意してください。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>ニーズ嗜好での製品・商品企画力の養成。</p> <p>販売市場分析能力。</p> <p>組織の一員としての役割認識と遂行能力。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 事業プランニングとは?	講座ガイダンス(演習方法・評価方法) 事業計画策定の留意点および考え方。 キーワードに基づく授業聴講でのポイントメモ。 設問による授業内容の再確認	<事後>ビジネスアイデアの提示(身の回りにある不具合を改善するための提案等)(1時間)
2	ビジネスアイデア、コアコンピタンスの選定	チーム単位で検討するビジネスアイデア、コアコンピタンスの決定とチーム編成。 チーム内での各自役割分担。	<事前>ビジネスアイデアの提示(身の回りにある不具合を改善するための提案等)(1時間) <事後>チーム内での自身の役割に基づく考え方の整理(30分)
3	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
4	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
5	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
6	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
7	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
8	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
9	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
10	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
11	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	<事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査(30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業(1時間)。
12	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。 「創業事業計画書」・「資金繰り計画表」の提出・修正	<事前>チームでの成果物(創業事業計画書、資金繰り表)の提出(1時間:チーム単位) <事後>プレゼンテーションデータの作成(1時間:チーム単位)
13	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位でのプレゼンテーション	<事前>プレゼンデータの確認(1時間)



		ーション演習実施 プレゼンテーション事前練習	ータの作成および修正	<事後>プレゼン発表練習（各自担当部分）（1時間）
	14	プレゼン発表（1） （2～3 チーム）	各チーム単位でのベンチャー企業の事業プレゼンを実施 他チームプレゼン発表に対する質疑および相互評価	<事前>プレゼン練習（1時間）。 <事後>審査による指摘点の検討（1時間）。
	15	プレゼン発表（2） （2～3 チーム）	各チーム単位でのベンチャー企業の事業プレゼンを実施 他チームプレゼン発表に対する質疑および相互評価	<事前>プレゼン練習（1時間）。 <事後>審査による指摘点の検討（1時間）。
実務経験				
関連科目	ベンチャービジネス論、ビジネスインターンシップ I・II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder/zoom			
Teams コード	oyv83da			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	masahiro.hayashi@kjo.setsunan.ac.jp			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	<p>①プレゼン発表によるチーム単位での評価（評価割合：60%） 「事業計画書」「資金繰り表」「プレゼンデータ」等の提出期限厳守を基準として評価します。 なお、他チームの発表後、積極的に質問し自らも理解を深める者は加点評価とします。</p> <p>②最終レポート（評価割合：40%） チーム単位での自身における役割の遂行度の自己評価、および当該演習（シミュレーション）により企業内人材として何を得られたのか、など授業習得度に対する評価。</p>			
学生への メッセージ	通常の大学講義では得られない貴重な体験をしてもらいたい。 就活の面接時における有効な武器（履修実績）として活用してもらいたい。			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考	<p>必須ではありませんが、自身のノートパソコン持参での履修が可能な学生を望みます。 「簿記」を履修した学生の参加を多く望みます。 【履修抽選について】 履修希望者が30名を超える場合は、抽選とします。</p>			

科目名	市場調査実習 I	科目名 (英文)	Practice in Marketing Research I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS3041a0		

授業概要・目的	本講義は、量的な社会調査の企画から報告書作成までの全過程を経験し、社会調査を実施する際に必要となる知識・技能を学習するものである。受講生は、各自の関心に基づいた仮説を設定して質問項目を考え、質問項目をまとめて調査票を構成し、データの収集とデータセットの作成をおこなう。その後、各自の仮説をもとにデータ分析をおこない、分析結果を報告書にまとめる。以上の作業を経験して受講生が独力で社会調査を実施できるようになることが、本講義の目標である。調査のテーマは「大学生の社会生活と職業意識」を予定している。 市場調査実習 I では、各自の関心に基づいて仮説を設定し、調査票・コードブックを完成させるまでの作業が中心になる。
到達目標	計量的調査をおこなう際に必要となる知識を獲得する。データ分析をおこなうためのスキルを獲得する。計量的なデータを用いた論文が書ける。
授業方法と留意点	講義の方法：下記 1、2 の方法を併用する予定 1) 配布する講義資料を各自閲覧し、指示された課題に取り組む (教材・課題提供型授業) 2) 双方向オンライン型授業  ※授業形態に関する詳細は、Microsoft Teams の当該授業チーム、「連絡用」チャンネルに掲載します。そちらでご確認ください。
科目学習の効果 (資格)	社会調査を実施する際の全過程を体験する。 「社会調査士」資格取得に必要な科目 (G 科目) である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の全体的な流れ、授業の進め方など	配布資料に基づく予習
2	基本的な統計量	平均値・中央値・分散・標準偏差	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
3	2変数間の関係を探る	相関係数・クロス表・平均の差	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
4	推測統計の考え方	推測統計の基本的な発想	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
5	統計的仮説検定	カイ 2 乗検定、相関係数の検定、T 検定	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
6	多変量解析 1	分散分析、重回帰分析	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
7	多変量解析 2	主成分分析	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5 時間)
8	調査テーマ・サブテーマの検討 1	問いと仮説の設定	(事前・事後) 各自で問いや仮説を検討する (1 時間)
9	調査テーマ・サブテーマの検討 2	問いと仮説の設定	(事前・事後) 各自で問いや仮説を検討する (1 時間)
10	調査項目・質問文案の検討 1	各自の仮説に対応した質問項目、質問文案の作成	(事前・事後) 各自で質問項目・質問文案を検討する (1 時間)
11	調査項目・質問文案の検討 2	各自の仮説に対応した質問項目、質問文案の作成	(事前・事後) 各自で質問項目・質問文案を検討する (1 時間)
12	調査項目・質問文案の検討 3	質問項目、質問文案の全体での調整	(事前・事後) 各自で質問項目・質問文案を検討する (1 時間)
13	データ収集方法・作業分担の検討	調査対象者・サンプリング方法の選定	(事前) 各自で実施案を検討する (0.5 時間) (事後) 検討の経緯についてまとめておく (0.5 時間)
14	プリテスト	仮調査票を用いたプリテストと調査票の修正	(事前) 各自で調査票の問題点を確認しておく (0.5 時間) (事後) 検討の経緯についてまとめておく (0.5 時間)
15	調査票・コードブックの作成	調査票・コードブックを完成させる	(事前) 各自で調査票の問題点を確認しておく (0.5 時間) (事後) 検討の経緯についてまとめておく (0.5 時間)

実務経験				
関連科目	市場調査入門、市場調査法、経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析、社会学 I、社会学 II、情報社会論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名



	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への取り組み度 20%、課題等 80%			
学生への メッセージ	特定の単位を取得していないと履修できませんので注意してください。また、出席が大前提になるので、よほどの事情がない限り欠席は認めません。			
担当者の 研究室等	山本：11号館7階 山本准教授室 樋口：11号館8階 樋口准教授室 西岡：11号館6階 非常勤講師控室			
備考				

科目名	市場調査実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice in Marketing Research II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS3042a0		

授業概要・目的	本講義は、量的な社会調査の企画から報告書作成までの全過程を経験し、社会調査を実施する際に必要となる知識・技能を学習するものである。受講生は、各自の関心に基づいた仮説を設定して質問項目を考え、質問項目をまとめて調査票を構成し、データの収集とデータセットの作成をおこなう。その後、各自の仮説をもとにデータ分析をおこない、分析結果を報告書にまとめる。以上の作業を経験して受講生が独力で社会調査を実施できるようになることが、本講義の目標である。調査のテーマは「大学生の社会生活と職業意識」を予定している。 市場調査実習Ⅱでは、調査票の配布・回収、データセットの作成、データ分析、報告書の執筆といった作業が中心になる。
到達目標	計量的調査をおこなう際に必要となる知識を獲得する。データ分析をおこなうためのスキルを獲得する。計量的なデータを用いた論文が書けるようになる。
授業方法と留意点	授業は、学生が実際に作業をおこなう実習形式でおこなわれる。成果物に関して、学生相互にディスカッションを行い問題点の把握と改善をおこなう。 ※非対面の遠隔授業形式を基本とするが(ツール等は後述)、専用のツールを用いた作業については(種々の対策を講じたうえで)対面形式での授業を予定している。ただし対面形式が実施できないと判断され遠隔授業形式に切り替えられる場合もある。
科目学習の効果(資格)	社会調査を実施する際の全過程を体験する。 「社会調査士」資格取得に必要な科目(G科目)である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実査	調査票の配布・回収	(事前)各自で調査票配布時の注意点を確認しておく(0.5時間) (事後)実施時の問題点についてまとめておく(0.5時間)
2	データ入力・コーディング1	データの入力とコーディング	(事前)各自でデータ入力方法について復習しておく(1時間) (事後)入力時の不具合について問題点をまとめておく(0.5時間)
3	データ入力・コーディング2	データの入力とコーディング	(事前)各自でデータ入力に関する作業の確認をしておく(0.5時間) (事後)入力時の不具合について問題点をまとめておく(0.5時間)
4	エラーチェック	入力ミスのチェック、ロジカルエラーチェック	(事前)各自でエラーチェックの方法について復習しておく(1時間) (事後)作業時の不具合について問題点をまとめておく(0.5時間)
5	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法1	SPSSを用いて単純集計、クロス表、カイ2乗検定をおこなう	(事前)各自で分析方法について復習しておく(1時間) (事後)分析をおこない、結果をまとめておく(1.5時間)
6	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法2	SPSSを用いて相関係数の検定、T検定をおこなう	(事前)各自で分析をおこなっておく(1時間) (事後)分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく(1.5時間)
7	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法3	SPSSを用いて分散分析、重回帰分析をおこなう	(事前)各自で分析をおこなっておく(1時間) (事後)分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく(1.5時間)
8	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法4	SPSSを用いて主成分分析、尺度構成をおこなう	(事前)各自で分析をおこなっておく(1時間) (事後)分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく(1.5時間)
9	基礎集計	基礎集計項目の検討、基礎集計表の作成	基礎集計表の作成
10	データ分析と仮説の再検討1	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	(事前)各自で分析をおこなっておく(1時間) (事後)分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく(1.5時間)
11	データ分析と仮説の再検討2	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	(事前)各自で分析をおこなっておく(1時間) (事後)分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく(1.5時間)
12	データ分析と仮説の再検討3	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	(事前)各自で分析をおこなっておく(1時間) (事後)分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく(1.5時間)
13	データ分析と仮説の再検討4	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	(事前)各自で分析をおこなっておく(1時間) (事後)分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく(1.5時間)
14	報告書執筆1	分析結果をまとめた報告書の作成	(事前)報告書執筆に関する問題点を確認しておく(0.5時間) (事後)報告書を執筆しておく(1.5時間)
15	報告書執筆2	報告書の完成	(事前)報告書執筆に関する問題点を確認しておく(0.5時間) (事後)報告書を執筆しておく(1.5時間)

実務経験	
関連科目	市場調査入門、市場調査法、経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析、社会学Ⅰ、社会学Ⅱ、情報社会論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メールアドレス、Teams 授業チーム内チャット			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	作業の進捗 (20%)・成果報告書 (80%)			
学生への メッセージ	特定の単位を取得していないと履修できませんので注意してください。また、出席が大前提になるので、よほどの事情がない限り欠席は認めません。			
担当者の 研究室等	山本：11号館7階 山本准教授室 樋口：11号館8階 樋口准教授室 西岡：11号館6階 講師控室			
備考	分析、報告書執筆時には頻繁に担当者と学生間でのやりとりをおこなう。学生がおこなってきた作業に対し逐次担当者からコメントする。			

科目名	マーケティング演習	科目名 (英文)	Practice in Marketing
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS3043a0		

授業概要・目的	<p>企業を含む組織が直面する問題に関心をもち、その問題を解決するために必要な知識を身につけます。とりわけ、ケース課題に取り組むことで実践的なマーケティングを身に付けることを目的とします。グループでケース課題に取り組み、議論や発表を通してマーケティングへの理解を深めます。なお、授業担当者の旅行会社での経験から、近年、実務・研究両面から注目されている観光についても解説します。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業あるいは消費者を中心とした複数のケースに取り組むことで、企業のマーケティング活動についてマーケティング・マネジメントの視点だけでなく、消費者の視点で説明することができる。</li> <li>・複数のケース課題に取り組むことで、企業間のマーケティング戦略を比較することができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業です。音声を録音した資料の配布とライブ型授業を組み合わせて進める予定をしています。詳細は、Microsoft Teamsに掲載しますので、毎週、確認ください。</li> <li>・ライブ型授業では、Zoomを用いたグループワークを行ってもらう予定です。</li> <li>・グループは初回の授業時に決定します。初回は必ず出席してください。</li> <li>・1つのケースにつき、2回の授業(180分)で準備を行います。その後、各グループによる発表を行います。</li> <li>・授業時間外にグループ発表の準備等を行っていただきます。グループのメンバーと協力し</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	実践的なマーケティングを遂行する知識が身につきます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義 I	マーケティングの概要についての復習を行う。	<p>【事前学習】(30分) マーケティング戦略論の復習を行うこと。</p> <p>【事後学習】(30分) マーケティング戦略構築から実行までの流れを説明できるようにする。グループのメンバー間で連絡がとれるようにしておくこと。</p>
	2	講義 II	消費者行動の概要について復習を行う。	<p>【事前学習】(30分) 消費者行動論の復習を行うこと。</p> <p>【事後学習】(30分) 消費者の視点からマーケティング戦略について説明できるようにする。</p>
	3	事例研究 I 問題読解とグループワーク	ケースを考察する上で必要な理論の解説を行う。その後、ケースについてグループのメンバーと協力しながら理解を深める。	<p>【事前学習】(30分) 前回授業で示した事例について書籍や HP を用いてその概要について理解する。</p> <p>【事後学習】(30分) 議論の整理を個人で行う。</p>
	4	事例研究 I 議論とグループ案の検討	ケースで求められている間についてグループで議論し、パワーポイントにまとめる。	<p>【事前学習】(30分) ケース課題について自分の意見をまとめる。</p> <p>【事後学習】(30分) グループ案をパワーポイントでまとめ、完成させる。</p>
	5	事例研究 I グループ案の発表	グループ毎に発表し、それについて議論を行います。	<p>【事前学習】(30分) グループ発表の準備を行う。</p> <p>【事後学習】(30分) 他のグループとの比較を通して、自グループの発表を振り返る。</p>
	6	事例研究 II 問題読解とグループワーク	ケースを考察する上で必要な理論の解説を行う。その後、ケースについてグループのメンバーと協力しながら理解を深める。	<p>【事前学習】(30分) 前回授業で示した事例について書籍や HP を用いてその概要について理解する。</p> <p>【事後学習】(30分) 議論の整理を個人で行う。</p>
	7	事例研究 II 議論とグループ案の検討	ケースで求められている間についてグループで議論し、パワーポイントにまとめる。	<p>【事前学習】(30分) ケース課題について自分の意見をまとめる。</p> <p>【事後学習】(30分) グループ案をパワーポイントでまとめ、完成させる。</p>
	8	事例研究 II グループ案の発表	グループ毎に発表し、それについて議論を行います。	<p>【事前学習】(30分) グループ発表の準備を行う。</p> <p>【事後学習】(30分) 他のグループとの比較を通して、自グループの発表を振り返る。</p>
	9	事例研究 III 問題読解とグループワーク	ケースを考察する上で必要な理論の解説を行う。その後、ケースについてグループのメンバーと協力しながら理解を深める。	<p>【事前学習】(30分) 前回授業で示した事例について書籍や HP を用いてその概要について理解する。</p> <p>【事後学習】(30分) 議論の整理を個人で行う。</p>
	10	事例研究 III 議論とグループ案の検討	ケースで求められている間についてグループで議論し、パワーポイントにまとめる。	<p>【事前学習】(30分) ケース課題について自分の意見をまとめる。</p> <p>【事後学習】(30分) グループ案をパワーポイントでまとめ、完成させる。</p>
	11	事例研究 III グループ案の発表	グループ毎に発表し、それについて議論を行います。	<p>【事前学習】(30分) グループ発表の準備を行う。</p> <p>【事後学習】(30分) 他のグループとの比較を通して、自グループの発表</p>

				を振り返る。
	12	事例研究Ⅳ 問題読解とグループワーク	ケースを考察する上で必要な理論の解説を行う。その後、ケースについてグループのメンバーと協力しながら理解を深める。	【事前学習】(30分) 前回授業で示した事例について書籍やHPを用いてその概要について理解する。 【事後学習】(30分) 議論の整理を個人で行う。
	13	事例研究Ⅳ 議論とグループ案の検討	ケースで求められている間についてグループで議論し、パワーポイントにまとめる。	【事前学習】(30分) ケース課題について自分の意見をまとめる。 【事後学習】(30分) グループ案をパワーポイントでまとめ、完成させる。
	14	事例研究Ⅳ グループ案の発表	グループ毎に発表し、それについて議論を行います。	【事前学習】(30分) グループ発表の準備を行う。 【事後学習】(30分) 他のグループとの比較を通して、自グループの発表を振り返る。
	15	まとめ	これまでのグループ発表を振り返りながら、企業のマーケティングについて企業視点・消費者視点で全体的なまとめを行う。	【事前学習】(30分) これまでのグループの発表を振り返る。 【事後学習】(30分) 全体を通しての成果と反省についてまとめる。
実務経験				
関連科目	マーケティング、消費者行動論、リテールマーケティングなどマーケティングコース科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その都度指示します。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その都度指示します。		
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」/Moodle/Zoom			
Teamsコード	ax0xhi9			
Moodleコース名 および登録キー	マーケティング演習_2020 20200717			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	グループワークの成果物(60%) 発表(40%)			
学生への メッセージ	オンラインの使い方を工夫し、グループワークに取り組んでください。			
担当者の 研究室等	田中祥司研究室 11号館8階			
備考	予習・復習に少なくとも1時間はかけてください。 また発表の準備にはそれ以上の時間がかかります。スケジュールを予め調整してください。			

科目名	ネットワーク運用管理	科目名 (英文)	Network Operations and Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS3044a0		

授業概要・目的	本講義では、ネットワークの運用・管理に関する基礎知識を学び、社会にとって必要不可欠なインターネットを用いたコミュニケーションを題材にクライアント/サーバシステムの仕組みやプロトコルなどについて理解を深めていく。更には、プログラミング演習を行い、動的なネットワークコミュニケーションを実現するための技術を習得する。
到達目標	ネットワークを構成する基本的な技術とその活用について学ぶことができる。
授業方法と留意点	「ネットワーク運用管理」は「情報ネットワーク」の科目を修得していなければならない。この科目を履修する際には、「情報ネットワーク」を受講したかを確認すること。また、この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていく。このため、経営情報学科の主要な情報処理科目を履修していない者は受講しないように。 授業方法としては、Moodleを使用したオンライン授業を実施する。各週の授業資料を必ず閲覧し、レポート・課題を期日までに提出すること。
科目学習の効果 (資格)	ITパスポート試験や基本情報技術者試験

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ネットワーク管理の基本	ネットワークコミュニケーション、ネットワークの運用と管理の基本事項	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(1)を解く(1時間)
2	TCP(1)	クライアント/サーバシステム、TCPの特徴と役割	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(2)を解く(1時間)	
3	TCP(2)	TCPとUDP	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(3)を解く(1時間)	
4	IP(1)	IPの役割、IPパケット	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(4)を解く(1時間)	
5	IP(2)	IPアドレス、IPヘッダー、ICMP、チェックサム	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(5)を解く(1時間)	
6	Webブラウザの仕組み	Webクライアント/サーバシステム、HTTPプロトコル	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(6)を解く(1時間)	
7	Webブラウザの拡張機能	プラグイン・インタフェース、Cookie管理、暗号化・認証	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(7)を解く(1時間)	
8	講義のまとめと小テスト	講義前半の復習と小テスト	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(8)を解く(1時間)	
9	ホームページの基礎知識	HTMLによるホームページ作成の基本技術	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(9)を解く(1時間)	
10	JavaScriptプログラミング(1)	プログラミング環境の設定、操作手順、イベントハンドラ	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(10)を解く(1時間)	
11	JavaScriptプログラミング(2)	関数、条件分岐	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(11)を解く(1時間)	
12	JavaScriptプログラミング(3)	繰り返し処理、クッキー情報の活用	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(12)を解く(1時間)	
13	PHPプログラミング(1)	PHPプログラミングの基本、フォーム	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(13)を解く(1時間)	
14	PHPプログラミング(2)	配列関数、おみくじ機能	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(14)を解く(1時間)	
15	講義のまとめと小テスト	講義後半の復習と小テスト	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(15)を解く(1時間)	

実務経験	
関連科目	情報ネットワーク、情報処理関連の基礎科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	期日までに提出されたレポート・課題により評価する。
学生への メッセージ	「ネットワーク運用管理」を履修する場合は、必ず事前に「情報ネットワーク」を履修していること。「ネットワーク運用管理」だけを受講することはできない。また、この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていくため、他学科の学生は授業の内容をよく確認してから受講すること。
担当者の 研究室等	11号館8階 堀井教授室
備考	課題やレポートについては、実施した次の授業で講評する。



科目名	マルチメディア処理Ⅱ	科目名(英文)	Multimedia Processing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS3045a0		

授業概要・目的	マルチメディア技術は、教育、医療、経営など、我々の生活に関わるさまざまな分野で活用されている。本講義では、マルチメディアの基礎技術となる「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」をとりあげ、その利用技術と生成手法について学んでいく。更に、プログラミング演習を行うことで授業内容の理解を深める。
到達目標	「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」の利用技術と生成手法について学び、情報技術を駆使した多彩な表現力について修得することができる。
授業方法と留意点	この授業はMoodleを使用した遠隔授業を実施する。資料はすべてMoodleを通じて配布する。配布期間以外の再配布はないので、必ずダウンロードして授業を受けるように。 マルチメディア処理ⅠⅡは、必ずマルチメディア処理Ⅰを修得していなければならない。この科目を履修する際には、マルチメディア処理Ⅰを受講したかを確認すること。また、この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていく。このため、経営情報学科の主要な情報処理科目を履修している
科目学習の効果(資格)	CG検定、画像処理検定、マルチメディア検定のための基礎知識を習得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	模様と凹凸表現	質感とテクスチャ	事前学習：なし 事後学習：練習課題(1)を解く(1時間)
2	CG演習(1)	質感の変更、テクスチャマッピング、パンプマッピング	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(2)を解く(1時間)	
3	カメラとライティング	ワールド座標とローカル座標、座標変換、透視変換	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(3)を解く(1時間)	
4	CG演習(2)	カメラや光源の種類の設定	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(4)を解く(1時間)	
5	モデリング	モデリング手法	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(5)を解く(1時間)	
6	レンダリング	レンダリング手法	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(6)を解く(1時間)	
7	講義のまとめと小テスト	講義前半のまとめと小テスト	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(7)を解く(1時間)、小テストの復習(30分)	
8	CG演習(3)	複雑な立体形状の作成	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(8)を解く(1時間)	
9	立体表現の応用	スイープ表現、曲線表現(スプライン曲線、ベジェ曲線)	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(9)を解く(1時間)	
10	CG演習(4)	正多面体、半多面体、トーラス図形、CG文字の作成	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(10)を解く(1時間)	
11	CGアニメーション	アニメーションの原理、映画などで利用されているCGの実例紹介	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(11)を解く(1時間)	
12	CG演習(5)	CGアニメーションの作成	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(12)を解く(1時間)	
13	講義のまとめと小テスト	講義後半のまとめと小テスト	事前学習：作品制作に必要な準備をしておく(30分) 事後学習：小テストの復習(30分)	
14	作品制作(1)	作品制作とまとめ	事前学習：作品制作に必要な準備をしておく(30分) 事後学習：最終課題の制作(2時間)	
15	作品制作(2)	作品制作とまとめ	事前学習：作品制作に必要な準備をしておく(30分) 事後学習：最終課題の制作(1時間)	

実務経験	
------	--

関連科目	マルチメディア処理Ⅰ、情報処理関連の基礎科目
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle
------	--------

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	マルチメディア処理 II (2020 年度 S 科) multi2horii
連絡手段	Moodle で各回授業の場所に設けた質問コーナー (フォーラムまたはチャット)
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業中の課題と小テストにより評価する。ただし、最終課題を提出できなかった場合や、全授業数の 1/3 回を超える欠席 (未提出および未受験) は、総合点に関わらず単位を得ることはできない。Moodle で各週の授業資料を必ず閲覧し、期日までにレポート・課題・解答用紙を提出すること。
学生への メッセージ	マルチメディア処理 I I を履修する場合は、必ず事前にマルチメディア処理 I を履修していること。マルチメディア処理 I I だけを受講することはできない。また、この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行うため、他学科の学生は授業の内容をよく確認してから受講すること。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階 堀井教授室
備考	課題やレポートについては、実施した次の授業で講評する。

科目名	ビジネス IT 演習	科目名 (英文)	Practice in Business IT
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS3046a0		

授業概要・目的	<p>情報社会の重要なビジネススタイルである IT を駆使したビジネスについて、特にネットショップに着目して、その設計、構築、さらに運用に関する演習を行う。具体的には、実際のネットショップの分析を行い、次に、仮想店舗のコンセプトの提案、商品ページの設計、ウェブサイト全体のデザインを実習する。さらに、契約、決済などを現在の法制度に基づいて検討するとともに、コンテンツマネジメントシステムの利用を前提とした構築実習を行う。</p> <p>SDGs-12</p>
到達目標	<p>この講義によって以下の事柄を達成することが目標です。</p> <p>(1) ネットショップを構成する技術の説明ができる  (2) ネットショップの企画からページ作りまでを一貫して行うことができる  (3) ネットショップの運営に際しての法的な課題について概説できる</p>
授業方法と留意点	<p>演習は毎時間、情報処理室に導入されているソフトウェアを前提として行う。ただし、状況によって自宅において無料で導入できるものだけで演習課題を実施できるように調整する。演習課題を実行しながら、現在の ICT 環境の理解を進める。実践的な調査活動や分析、および提案や発表を行うため、積極的な授業参加を心がけて欲しい。</p> <p>実務者による講演、情報提供を入れる予定である。</p> <p>なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業 (一方向・双方向) などを組み合わせて実施する。</p> <p>自宅で PC を利用できる状況</p>
科目学習の効果 (資格)	情報技術を活用した経営の総合的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本演習の狙い、評価方法についてなど 自習課題 (データベースソフトウェア) の説明	事前: シラバスを読んでおくこと (30分) 事後: 学修環境のセットアップ (1時間)
2	調査の設計	実在するネットショップの調査項目を 検討する。 FileMaker Pro (データベースソフトウ ェア) を用いた調査ノートを作成する。	事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 調査候補となる事例を集める (1時間)
3	調査の実施	ネットショップの必要事項を把握する。 調査ノートの機能を向上させる。	事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 調査ノートの更新 (1時間)
4	調査の実施、報告内容の検討	調査結果を整理し、報告書の構成を検討 する。 構築するネットショップのコンセプト を明確にする。	事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 既存のネットショップに対する位置付けを確認 する (30分)
5	調査報告	調査報告書を作成する。 全体発表もしくはグループ内発表を行 う。	事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 他者の発表内容を利用して学修過程を見直す (1時間)
6	分析の方向検討	エビデンスベースドの考え方を実践す るために収集データに整合する分析方 法を確認する。 データベースのエクスポート機能の活 用方法を知る。	事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 統計分析の手法確認 (1時間)
7	統計分析	統計ソフトウェアを利用して、収集した データの分析を行う。	事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 分析結果の妥当性の検討 (1時間)
8	分析結果の報告	分析結果の共有を行う。 調査対象の関係を図示化する。	事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 経営戦略関連の学び直し (1時間)
9	戦略の立案	分析結果から仮想店舗の経営戦略を立 案する。 仮想店舗の実現のために必要なデー タベース技術を検討し、学修計画を見直 す。	事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 他の経営戦略を用いた検討 (1時間)
10	構築実習 (1)	データベースの設計 (正規化) を行う。	事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 設計内容の見直し (1時間)
11	構築実習 (2)	画面遷移を設計する。 自動化機能を実装する。	事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 画面機能の修正 (1時間)
12	構築実習 (3)	ユーザーインタフェースの検討を行う。 ユーザーテストの有効性を知る。	事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 構築実習内容のデバッグ (1時間)
13	構築実習 (4)	サーバーソフトウェアとの連動を図る。	事前: データベースソフトウェアに関する自習 (3 0分) 事後: 構築実習の仕上げ (1時間)
14	全体発表会	構築した仮想店舗に関するプレゼンテ ーション (選拔者) を実施する。	事前: 構築実習の報告資料作成 (1時間) 事後: 技術動向の調査 (1時間)
15	個別報告会、最新動向の把握	学修成果の報告 (全員) を行う。	事前: 学修成果の報告資料作成 (1時間)

		実務者の講演を実施する（予定）。	事後：学修成果を振り返る（1時間）
実務経験			
関連科目	プログラミング、マルチメディア処理Ⅰ・Ⅱ、情報ネットワーク		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	対面授業		
Teams コード	frxi2rb		
Moodle コース名 および登録キー	bip		
連絡手段	Teams の質問用チャンネル、学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	定期テストまたは、学修レポート 50%、提出物や発表等 50%で評価する。		
学生への メッセージ	この演習では、情報技術をいかに効果的に活用して新しいビジネスを立ち上げるかを体験しようと思っています。プログラミングが苦手でも大丈夫ですので、楽しく受講してください。 今年度は、FileMaker Pro を活用した個人利用のデータベースと企業の現場でも利用できるデータベースシステム（仮想店舗）の製作を導入します。国内でも珍しい取り組みです。積極的に学んで成果を上げてください。		
担当者の 研究室等	11号館7階久保准教授室		
備考	事前・事後の学習課題については授業冒頭に Moodle やミニペーパーなどで提出する場合がありますので授業に遅刻しないこと FileMaker Pro の学修はオンライン教材を活用して行う。		

科目名	民法	科目名 (英文)	Civil Law
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IDS2051a0		

授業概要・目的	法律は、社会において生じる問題を解決するために使われるものがある。そのような法律も、いくつかの形に分類がなされる。本講義で扱う民法とは、私人の間の問題等を規律するための法律であり、特に財産問題と家族問題を扱っている。すなわち、財産と家族の問題を扱う一番基本となる法律が民法である。 本講義では、この民法を理解するために、まず概論として、法律学とはどのような学問であるのか、そして、その法律学の中で民法がどのように扱われているのかなど、法学を概観し、その後、具体的な民法の中身を簡単にではあるが把握していくことを予定している。
到達目標	この講義を通じて、学生には民法全般および民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観をつかむことができるようになること、ならびに社会における法的問題がいかなるかを理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	Teamsを使った講義を配信予定である。動画を配信型で展開する予定であり、掲載期間は合議予定日より2週間とし、2週間目には削除予定である。 講義に関連する、レジュメまたは資料を配布する予定である。 法律科目であるので、六法(書籍の一種)が必要ではある。ただし、配信型講義であることから、法律の条文にオンラインでアクセスできれば対応可能である。法律の条文にアクセスしづらい場合には、一定程度の負担がかかると思われる。
科目学習の効果(資格)	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法(民法、民事訴訟法、破産法等)が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法律学および民法	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	予習：新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持つ部分を見つけ、整理すること。 復習：講義部分の教科書を確認すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
2	民法と財産法総論	法律というものが対象としているものなどを大きく捉え、その中で民法典の役割を確認し、さらに財産法の内容を確認していく予定です。	予習：1回目の内容から、自分の周りに存在する財産法と関連する問題を考えること。 復習：財産法と家族法の役割の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
3	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	予習：現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを検査すること。 復習：契約成立と申し込み・承諾お関係を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
4	民法における人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	予習：これまでの経験から、法的に自分が置かれてきた立場を整理すること。 復習：親の同意を必要とする契約がいかなるものであるのかを見直すこと。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
5	代理・時効	契約も単独でできない場合があります。その場合に、代わりに契約を行ってくれる人などの代理についてを確認し、また時効制度も確認する。	予習：他人が自分のために契約をしてくれる場面を確認すること。 復習：法的な意味における代理と、日常用語に言う代理の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
6	契約の締結	契約を締結するとはどのようなことなのかを確認する予定です。	予習：友達との約束についての法的意味を検討・議論すること。 復習：契約内容に違反した場合における損害の意味を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
7	所有権を通しての物権	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	予習：他人が自分の物を返さないという場合を法的に考えてみること。 復習：物的担保がいかなる意味を有し、どのような種類があるのかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
8	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならぬことを、法的に見ていきます。	予習：交通事故や約束違反によって生じた損害は、いかなる賠償により回復することができるのかを検討すること。 復習：損害の意味を、判例を通じて整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
9	不法行為②	現代社会は進歩が激しく、法律も新しい局面に向かいあう必要が生じています。そこで、不法行為の制度をより多角的に見ていく予定です。	予習：他人に損害賠償を請求するために必要となる事情・要件を整理すること。 復習：特別な場合における不法行為制度を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
10	事務管理・不当利得	契約や不法行為とは異なった形で、他人との間で法的な関係が生じる場合をみます。	予習：人情を法律でとらえることや、契約終了後の関係について検討すること。 復習：不当利得の形を判例を通じせて入りすること。

				予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	11	婚姻	婚姻がどのようにすると成立し、その結果どのような義務が生じるのかなどを見ていく予定です。	予習：誰とでも婚姻できるのか、婚姻する意味を考えること。 復習：婚姻とそれと類似する形を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	12	離婚	離婚原因を確認し、離婚の際に生じる問題を確認していく。	予習：国家が認める婚姻関係を解消することの重大性を今一度確認すること。 復習：離婚の形と要件を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	13	親子関係	親子は互いにどのような権利義務関係があるのか、また、子の扱いが異なる現状を確認する。	予習：非嫡出子には法的にいかなる取扱いの違いがあるのかを確認すること。 復習：親子関係が形成される場面を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	14	相続	相続の意義や誰が相続できるのかについて確認する。	予習：法律がどのような範囲で相続を認めているのかを確認すること。 復習：相続できる範囲はいかなるものかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	15	遺言および講義のまとめ	相続における被相続人の意思を遺す方法やその問題点を確認する。	予習：遺言の形を整理すること。 復習：全体の確認を行うこと。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
実務経験				
関連科目	憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	配信動画と共に、配信講義に関連する小テストを行う。これを合算し、100点満点計算で行う予定である。			
学生への メッセージ	民法は日常生活に関する規範である。したがって、民法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。			
担当者の 研究室等	11号館9階 大川研究室			
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をすることが必要。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てくるため、必ず講義でそれらの対象を聞くこと。 近年、受講態度のひどい学生が散見されることから、受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外す予定である。			



科目名	会社法	科目名 (英文)	Corporate Law
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IDS3052a0		

授業概要・目的	経済活動の中心的役割を担う会社について、その基本的な仕組みや会社法に関する専門的知識を習得することを目的とする。法律にあまりなじみがない者、法律をはじめて学習する者でも十分に理解できるよう、具体的な例をまじえながら、指定教科書とレジュメを用いて講義をすすめる。受講にあたり、民法等の法律系科目を先行履修していることが望ましいが必須ではない。また、学習意欲のある者のために講義で参考書を紹介する。
到達目標	この授業を通じて学生には、会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解し、とくに株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解できるようになることが期待される。その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果(資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験(法検定、法科大学院、公務員、公認会計士など)の対策となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション、会社法総論	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。 会社法の概要、会社の概念、会社の種類、会社法総則。	教科書 p.1~p.19 を読んでおくこと。(約60分)
2	株式会社の設立	株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	教科書 p.20~p.37 を読んでおくこと。(約60分)	
3	株式(1)	株式総説、株主名簿、株式の譲渡。	教科書 p.37~p.47 を読んでおくこと。(約60分)	
4	株式(2)	自己株式、株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	教科書 p.47~p.60 を読んでおくこと。(約60分)	
5	新株予約権	新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	教科書 p.60~p.65 を読んでおくこと。(約45分)	
6	株式会社の機関(1)	株式会社の機関総説、株主総会、種類株主総会。	教科書 p.66~p.83 を読んでおくこと。(約60分)	
7	株式会社の機関(2)	役員等の選任および終任、取締役、取締役会、会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	教科書 p.83~p.115 を読んでおくこと。(約60分)	
8	株式会社の機関(3)	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	教科書 p.115~p.122 を読んでおくこと。(約45分)	
9	役員等の責任、株主による役員等の責任追及訴訟	役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	教科書 p.122~p.137 を読んでおくこと。(約60分)	
10	計算、定款の変更、解散、清算	会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更、解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算。	教科書 p.137~p.156 を読んでおくこと。(約60分)	
11	持分会社	持分会社の設立、社員、計算等。	教科書 p.157~p.175 を読んでおくこと。(約60分)	
12	社債	社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	教科書 p.176~p.186 を読んでおくこと。(約60分)	
13	組織再編(1)	組織再編総説、合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化、会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	教科書 p.187~p.205 を読んでおくこと。(約60分)	
14	組織再編(2)	株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え、株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え、事業譲渡、事業の譲受け、組織変更。	教科書 p.205~p.213 を読んでおくこと。(約60分)	
15	外国会社・雑則、会社法まとめ	外国会社、会社の解散命令、公告、会社法の総括。	教科書 p.214~p.223 を読んでおくこと。 会社法で学習したことを見直しておくこと。(約5時間)	

実務経験	
関連科目	民法、商法。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	会社法の基礎	加藤徹・伊勢田道仁編	法律文化社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:



評価方法 (基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する（70%）。 その他出席状況・講義中の発言・小テストなども加味する（30%）。
学生への メッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。最新版六法を必携のこと。
担当者の 研究室等	11号館6階 法学部事務室
備考	授業内の小テストについては、当該授業か次の授業内で解説をする。 授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名・学籍番号・氏名を入れて送信すること。

科目名	労働法	科目名 (英文)	Labor Law
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IDS3053a0		

授業概要・目的	労働法は労働者と使用者との契約関係を規律する「労働保護法」と労働組合の団体行動を規律する「労働団合法」の2分野に大きく分けられますが、この授業では双方の分野を含めて労働法を概観します。
到達目標	この授業を通じて、学生は労働者の保護という法律の目的が具体的にどのような規定によって実現されているのかを理解し、低賃金労働、長時間労働、労働災害、外国人労働者問題といった現実の社会で生起している問題を法律の観点からとらえ、問題の解決の方向を見出すことができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	前期授業はWeb方式となります。大学指定のMicrosoft「Teams」で、「I 046-労働法-川谷道郎」のチームにアクセスして下さい。論点を整理したレジュメを適宜配布するほか、関連する判例や資料を指定することもあります。授業では教科書および六法を必ず参照してください。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。学生の多くは卒業後に就職することになるでしょうが、労働法の知識は社会生活を送るうえで極めて有用なものであるはずで。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	労働法の意義と基本構造	・労働法の全体像、規律構造 ・労働者の権利について	教科書第1編(2頁-22頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
2	労働者保護の一般原則 労働契約	・労基法の適用範囲 ・労働契約の基本	教科書第2編第1章から第3章の2まで(24頁-79頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
3	労働契約の当事者の権利義務	・労働契約の法的規制 ・労働契約における権利と義務 ・配転と使用者の業務命令権	教科書第2編第3章の3から6まで(79頁-109頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(2時間)
4	賃金	・賃金と退職金 ・賃金支払の原則 ・休業手当	教科書第2編第4章(110頁-131頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
5	労働時間	・労働時間の意味 ・労働時間規制の原則と例外	教科書第2編第5章の1から6(132頁-154頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
6	休憩・休日 年次有給休暇 年少者と女性労働者の保護	・休憩に関する規制 ・年休権の内容 ・年少者と女性労働者の労働規制	教科書第2編第5章の7から第7章まで(154頁-184頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
7	安全衛生と災害補償	・使用者の安全配慮義務 ・労働災害の補償	教科書第2編第8章(185頁-204頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
8	就業規則	・就業規則の意義とその効果	教科書第2編第9章(205頁-223頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
9	懲戒	・使用者の懲戒権の法的根拠 ・懲戒処分の内容	教科書第2編第10章(224頁-242頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
10	解雇・定年・退職 多様な働き方	・解雇の法理 ・パート労働、派遣労働	教科書第2編第11、12章(243頁-286頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
11	労働組合の基本	労働組合の意義と目的	教科書第4編第1、2章(312頁-329頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
12	団体交渉と労働協約	・団体交渉権の保障とその範囲 ・労働協約の効力	教科書第4編第3、4章(330頁-354頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
13	労働争議	・争議行為の意義と限界	教科書第4編第5章(355頁-379頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
14	組合活動と不当労働行為	・就業時間中の組合活動 ・不当労働行為の意義と救済	教科書第4編第6、7章(380頁-418頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
15	まとめ・追補	これまでのまとめと、あまり触れられなかった問題の補足	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分などがどこかを確認しておくこと(1時間)

実務経験	
関連科目	日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法 [第12版]	安枝英諄・西村健一郎	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働判例百選 [第9版]		有斐閣
2				
3				

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	学期末に課するレポートの内容(70%)、授業中の小テストもしくは課題(30%)により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。

担当者の研究室等	11号館9階 川谷研究室
備考	小テストを実施した場合、次回講義で問題の解説を行います。

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業や成績評価等についての説明 自己紹介	テキストの予習 予習をしながら単語帳を作ること(以下同様)
2	Millenials (1)	ミレニアル世代/現在完了(1)	テキストの予習
3	Millenials (2)	ミレニアル世代/現在完了	テキストの予習
4	Green Profits	環境保護/副詞節	テキストの予習
5	Well-Loved Pets	ペット産業/前置詞	テキストの予習
6	Italy's Fashion King	ファッション業界/ -w h e r e の使い方	テキストの予習
7	Viral Marketing (1)	バイラル・マーケティング/ 場所を表す前置詞 (1)	テキストの予習
8	Viral Marketing (2)	バイラル・マーケティング /場所を表す前置詞 (2)	テキストの予習
9	TED Talks	TED Talks /助動詞	テキストの予習
10	The Gossip Media	ゴシップ・メディア/-e v e r の使い方	テキストの予習
11	Replanting the World's Forests (1)	森林を取り戻す努力/形容詞・副詞 (1)	テキストの予習
12	Replanting the World's Forests (2)	森林を取り戻す努力/形容詞・副詞 (2)	テキストの予習
13	Adventure Tourism	アドベンチャー・ツーリズム/ besides, rather, a l o n g の使い方	テキストの予習
14	The Cannes Film Festival	カンヌ映画祭	テキストの予習
15	まとめテスト	復習およびまとめテスト	前期の内容の復習

実務経験	
------	--

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Pass 2 -Second Edition-	Andrew Bennet	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%
----------	---

学生へのメッセージ	毎回予習をして、辞書を持参してください。わからないことがあれば、その都度質問してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業や成績評価等についての説明 自己紹介	
2	Unit 1 Who is Pepper?	現在形 単語・音読・内容理解	テキストの予習
3	Unit 1. Who is Pepper?	現在形 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
4	Unit 2. Self-sufficient family.	代名詞 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
5	Unit 2. Self-sufficient family	代名詞 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての復習
6	Unit 3. Starbucks	過去形 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
7	Unit 3. Starbucks	過去形 単語・音読・内容理解	テキストの復習 中間テストに向けての予習
8	中間テスト	Unit 1-3	次回に向けての予習
9	Unit 4. Halloween	可算名詞・不可算名詞 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
10	Unit 4. .Halloween	可算名詞・不可算名詞 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
11	Unit 5. Roman thermae	時と場所を表す前置詞 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
12	Unit 5. Roman thermae	時と場所を表す前置詞 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
13	Unit 6. Are you going cashless?	進行形 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
14	Unit 6. Are you going cashless?	進行形 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
15	まとめテスト	Unit1-6	後期全範囲の復習

実務経験

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Link	臼倉 美里 他	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition-	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス  
メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。  
メールアドレス:

評価方法(基準)  
全学共通英語課題 30%  
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%

学生へのメッセージ  
中高で学習した英文法を復習しながら、オフィスで使う英語に慣れていきましょう。また TOEIC 形式の問題にも挑戦してみましょう。

担当者の研究室等  
7号館2階(非常勤講師室)

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。	教科書前文
	2	Unit 1: Japanese companies in rural areas facing difficulty in hiring graduates	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.1-6 単語:NO.1-30 事後:前回単語不合格者 再提出
	3	Unit 2: Foreign visitors go on record shopping spree	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.7-12 単語:NO.21-50 事後:前回単語不合格者 再提出
	4	Unit 3: Niigata rice exports to China start	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.13-19 単語:NO.41-70 事後:前回単語不合格者 再提出
	5	Unit 4: India plans manned space mission by 2021	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.20-24 単語:NO.61-90 事後:前回単語不合格者 再提出
	6	Unit 5: Saudi teenager 'under the care' of U.N. agency	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.25-30 単語:NO.81-110 事後:前回単語不合格者 再提出
	7	教科書 Unit 1-5 テスト	Unit 1~5までの内容について小テストを行う。	Unit 1-5 テスト勉強
	8	中間試験解説及び評	演習	事前:単語:NO.101-130 事後:前回単語不合格者 再提出
	9	Unit 6: Shenzhen switches to electric taxis	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.31-36 単語:NO.121-150 事後:前回単語不合格者 再提出
	10	Unit 7: Frog calls may help improve telecom technology	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.37-42 単語:NO.141-170 事後:前回単語不合格者 再提出
	11	Unit 8: Japan to power fishing boats with Toyota's hydrogen fuel	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.43-48 単語:NO.161-190 事後:前回単語不合格者 再提出
	12	Unit 9: Study: Greenland ice melting four-fold faster than decade ago	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.49-54 単語:NO.181-210 事後:前回単語不合格者 再提出
	13	Unit 10: Domestic firms eye Africa's geothermal power sector	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.55-60 単語:NO.201-230 事後:前回単語不合格者 再提出
	14	教科書 Unit 6-10 復習	単語小テスト及び教科書復習	事前:Unit 6-10 復習 単語:NO.221-248 事後:前回単語不合格者 再提出
15	教科書Unit 6-10 テスト	Unit 6~10までの内容について小テストを行う。	事前:Unit 6-10 テスト勉強 事後:前回単語不合格者 再提出	
実務経験				
関連科目	他の英語科目			



教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World : English through Newspaper 2020	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO
	2	The 1500Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはず。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方についての説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習(1時間)
	2	Unit 1 Small Talk/日常生活	いろいろな数値①	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	3	Unit 1 Small Talk/日常生活	基本 5 文型	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	4	Unit 2 Human Relations/人間関係・コミュニケーション	いろいろな数値②	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	5	Unit 2 Human Relations/人間関係・コミュニケーション	文の種類	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	6	Unit 3 Culture and Globalization/言葉・文化	発音しづらい語句	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	7	Unit 3 Culture and Globalization/言葉・文化	基本時制	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	8	小テスト、復習	小テスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習(1時間)
	9	Unit 4 Healthy Life/健康・医療	固有名詞(人名・地名など)	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	10	Unit 4 Healthy Life/健康・医療	進行形	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	11	Unit 5 Future Careers/職業・キャリア	簡単な挨拶文	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	12	Unit 5 Future Careers/職業・キャリア	完了形	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	13	Unit 6 That Shirt Suits You!/ファッション	提案文、勧誘文	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	14	Unit 6 That Shirt Suits You!/ファッション	助動詞①(can / may / must / should)	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習(1時間)

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TARGET! pre-intermediate 総合英語のターゲット演習【準中級】	森田彰ほか	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。積極的な参加を期待しています。
担当者の	7号館2階非常勤講師室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション テキスト Getting to Know You, Class Rules, Evaluation, etc.	Introduction exercises Getting to Know You	Students should study the content of the day's lesson
	2	単語テスト Exercises - Getting to Know You Pt 2	次回の単語テストの予習 テキスト Getting to Know You	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	単語テスト Exercises - Food & Drink	次回の単語テストの予習 テキスト Eating Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	単語テスト Exercises - Your Neighbourhood	テキスト Living Conditions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises - Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	単語テスト Exercises - Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	単語テスト Exercises - Entertainment	次回の単語テストの予習 テキスト Movies, TV, Music	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	単語テスト Exercises - Friends & Dating	テキスト Relationships, Going Out	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises - Fashion & Style	次回の単語テストの予習 テキスト Dress for Success	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	単語テスト Exercises - University Life	次回の単語テストの予習 テキスト Education, Club Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	単語テスト Exercises - University Life	テキスト Student Life	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises - Shopping	次回の単語テストの予習 テキスト Clothes, Supermarket, On-line	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	13	単語テスト Exercises - Travel	次回の単語テストの予習 テキスト Travel Experience	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	単語テスト Exercises - Summer Vacation	テキスト Summer Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review Test and Feedback Session	Feedback session	Students should prepare for review test

実務経験	
------	--

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press ISBN 978-4-9909741-0-7
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	25% of Grade on class participation, attendance and attitude 25% of Grade on end-of-unit quizzes 50% of Grade on Review Test (in-class Final Test)
学生への メッセージ	興味をもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	グラント パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	Through English activities, students will become familiar and confident using English and learn reading and listening comprehension skills so that performance on English qualification tests such as TOEIC or Eiken can be improved.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction.	Course overview, objectives, learning outcomes, and explanation of assessment	Before class students make sure they have the textbook. After class review.
	2	Occupations and duties.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	3	Introductions, positions and responsibilities.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	4	Finding your way around an office building.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	5	Instructions and processes.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	6	Invitations and preferences.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	7	Review	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	8	Quizz and review.	Listening, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	9	Media	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	10	Travel arrangements.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	11	Requests for information and assistance.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	12	Sales Figures.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	13	Review	Listening, speaking, reading and	Before class students make sure they have the

			writing.	textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review all the units for the quiz.
	14	Quiz & Review.	Listening, reading and writing.	After class students should review the units.
	15	Issues	Dealing with any issues.	Make sure all your work is up to date and has been seen by the teacher.
実務経験				
関連科目	他の英語関係科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Passport to Work	Angela Buckingham	OXFORD
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% Final Test, In class activities, Homework and preparation for class. 70%			
学生への メッセージ	Plan for your future, study English now. Business English will be very useful in the future. (1) 教科書と宿題を授業が始まるまでに必ず用意し、時間を厳守すること。 (2) 講義に積極的に参加すること。  Students will be able to have a basic predictable business conversation. Understand basic announc			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			



科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	廣野 允紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IE1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容・方法説明など	Unit 1 予習
2	Unit 1 平叙文 名詞	リスニング・リーディング演習 スピーチペア決め	Unit 2 予習
3	Unit 2 疑問文 代名詞	リスニング・リーディング演習 スピーチ作成	Unit 3 予習 スピーチ原稿作成
4	スピーチ発表	スピーチ発表・評価	Unit 3 予習
5	Unit 3 進行形・近い未来 動詞	リスニング・リーディング演習	Unit 4 予習
6	Unit 4 依頼・許可 進行形	リスニング・リーディング演習	Unit 5 予習
7	Unit 5 提案・申し出・勧誘 形容詞	リスニング・リーディング演習	Unit 6 予習
8	Unit 6 選択疑問文 副詞	リスニング・リーディング演習 スピーチ作成	Unit 7 予習 スピーチ原稿作成
9	スピーチ発表	スピーチ発表・評価	Unit 7 予習
10	Unit 7 What の疑問文 動名詞	リスニング・リーディング演習	Unit 8 予習
11	Unit 8 Where の疑問文 品詞の選択	リスニング・リーディング演習	Unit 9
12	Unit 9 When の疑問文 不定詞	リスニング・リーディング演習	Unit 10 予習
13	Unit 10 Why の疑問文 接続詞	リスニング・リーディング演習	Unit 11 予習
14	Unit 11 Who の疑問文 前置詞	リスニング・リーディング演習	これまでの復習
15	全体の総復習	期末テストに向けて プレテスト	期末テスト勉強

実務経験	
関連科目	他の英語関係科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FULL GEAR FOR THE TOEIC R L&R TEST	Mark D. Stafford / 妻鳥千鶴子 / 松井こづえ	金星堂
2	『学校語彙で学ぶ TOEIC テスト[単語集] (The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test)』	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への取り組み(単語テスト・スピーチ・授業への積極的な参加)(50%) 期末テスト(50%) 原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。
学生への メッセージ	(1) 教科書と宿題を授業が始まるまでに必ず用意し、時間を厳守すること。 (2) 講義に積極的に参加すること。 (3) 可能であれば、紙ベースの辞書か電子辞書を持ってくる。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 TOEIC400を目標とする。基本的な文法項目の理解や文の構成を意識することを目標とする。 毎授業の単語テストの実施により、語彙力の向上を目指す。 また自らスピーチを作成することで、ライティングやスピーキング力を向上させる。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	矢野 涼子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等		事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit1: Job Market in Transition	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明 Unit1の導入		テキスト全体に目を通しておく。
2	Unit1: Job Market in Transition	Unit1のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。		Unit1のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
3	Unit1: Job Market in Transition	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。		意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
4	Unit2: Women in Business	Unit2のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。		Unit2のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
5	Unit2: Women in Business	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。		意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
6	Unit3: Population Crisis	Unit3のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。		Unit3のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
7	Unit3: Population Crisis	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。		意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
8	Unit4: Going Global	Unit4のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。		Unit4のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
9	Unit4: Going Global	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。		意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
10	Unit5: Financial Reform	Unit5のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。		Unit5のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
11	Unit5: Financial Reform	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。		意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
12	Unit6: The Lost Years	Unit6のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。		Unit6のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
13	Unit6: The Lost Years	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。		意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
14	Unit7: Emerging Markets	読解、リスニングやライティングを通じて、語彙や英語表現を理解する。		Unit7のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
15	まとめのテスト、Unit1~7の復習	Unit1~7の文法や英語表現について復習する。		これまでの15回の授業で理解できなかったところを質問できるようにしておく。

実務経験	
関連科目	なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	An Insight into the Japanese Economy	Mark Chang 他	三修社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への取り組みの評価 40% まとめのテスト 40% 提出課題 20%
学生への メッセージ	楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出する、分からない英単語を辞書で調べてくるなど、できることはきちんとやってください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。英語が苦手でも、努力次第で単位が取れる科目です。一緒に充実した時間を過ごしましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	Moodleを使用して課題を出し、提出期限後に解答と解説を提示するという流れで行う。毎回期限を確認して遅れないように提出すること。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>The Gossip Media (1)</td> <td>ゴシップ・メディア</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The Gossip Media (2)</td> <td>同上</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Replanting the World's Forests (1)</td> <td>森林の再生活動</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Replanting the World's Forests (2)</td> <td>同上</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Adventure Tourism (1)</td> <td>アドベンチャー・ツーリズム</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Adventure Tourism (2)</td> <td>同上</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>The Cannes Film Festival (1)</td> <td>有名な映画祭</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>The Cannes Film Festival (2)</td> <td>同上</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Giving Away Millions (1)</td> <td>高額の寄付をする富豪</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Giving Away Millions (2)</td> <td>同上</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Computer Actors (1)</td> <td>CGの俳優たち</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Computer Actors (2)</td> <td>同上</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Fresh Water (1)</td> <td>水不足の危機について</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Fresh Water (2)</td> <td>同上</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習</td> <td>後期の内容の復習課題</td> <td>後期の内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	The Gossip Media (1)	ゴシップ・メディア	テキストの予習	2	The Gossip Media (2)	同上	テキストの予習	3	Replanting the World's Forests (1)	森林の再生活動	テキストの予習	4	Replanting the World's Forests (2)	同上	テキストの予習	5	Adventure Tourism (1)	アドベンチャー・ツーリズム	テキストの予習	6	Adventure Tourism (2)	同上	テキストの予習	7	The Cannes Film Festival (1)	有名な映画祭	テキストの予習	8	The Cannes Film Festival (2)	同上	テキストの予習	9	Giving Away Millions (1)	高額の寄付をする富豪	テキストの予習	10	Giving Away Millions (2)	同上	テキストの予習	11	Computer Actors (1)	CGの俳優たち	テキストの予習	12	Computer Actors (2)	同上	テキストの予習	13	Fresh Water (1)	水不足の危機について	テキストの予習	14	Fresh Water (2)	同上	テキストの予習	15	復習	後期の内容の復習課題	後期の内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	The Gossip Media (1)	ゴシップ・メディア	テキストの予習																																																																
2	The Gossip Media (2)	同上	テキストの予習																																																																
3	Replanting the World's Forests (1)	森林の再生活動	テキストの予習																																																																
4	Replanting the World's Forests (2)	同上	テキストの予習																																																																
5	Adventure Tourism (1)	アドベンチャー・ツーリズム	テキストの予習																																																																
6	Adventure Tourism (2)	同上	テキストの予習																																																																
7	The Cannes Film Festival (1)	有名な映画祭	テキストの予習																																																																
8	The Cannes Film Festival (2)	同上	テキストの予習																																																																
9	Giving Away Millions (1)	高額の寄付をする富豪	テキストの予習																																																																
10	Giving Away Millions (2)	同上	テキストの予習																																																																
11	Computer Actors (1)	CGの俳優たち	テキストの予習																																																																
12	Computer Actors (2)	同上	テキストの予習																																																																
13	Fresh Water (1)	水不足の危機について	テキストの予習																																																																
14	Fresh Water (2)	同上	テキストの予習																																																																
15	復習	後期の内容の復習課題	後期の内容の復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Reading Pass 2 -Second Edition-</td> <td>Andrew Bennet</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Reading Pass 2 -Second Edition-	Andrew Bennet	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Reading Pass 2 -Second Edition-	Andrew Bennet	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Moodle																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー	基礎英語 IIa(S1①) hy03																																																																		
連絡手段	学内メールを利用する																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% TOEIC Bridge のスコア 10% 提出された課題の評価 60%																																																																		
学生へのメッセージ	毎回期限を確認して、遅れないように提出すること。後期は教科書の内容の提示は一切できないので、教科書を持っていない人は必ず購入しておくこと。重要な連絡をすることもあるので、Portal Site のメールを頻りにチェックすること。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IE1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	オンライン授業になりますので、確実に課題を提出して下さい。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 8. Coco Chanel	訳、文法問題	テキストの予習
3	Unit 10. The Amazon	訳、文法問題	テキストの復習 次回に向けての予習
4	Unit 13 Dogs	訳、文法問題	テキストの復習 次回に向けての予習
5	Unit 14. Best Sushi	訳、文法問題	テキストの復習 次回に向けての復習
6	Unit 15. Jeans with History	訳、文法問題	テキストの復習 次回に向けての予習
7	Unit 1. Pepper	訳・読解	テキストの復習 中間テストに向けての予習
8	テスト1	Unit 1-5 文法問題	次回に向けての予習
9	Unit 2. Self-Sufficient Family	訳・読解	テキストの復習 次回に向けての予習
10	Unit 3. Starbucks	訳・読解	テキストの復習 次回に向けての予習
11	Unit 4. Halloween	訳・読解	テキストの復習 次回に向けての予習
12	Unit 5. Roman Thermae	訳・読解	テキストの復習 次回に向けての予習
13	Unit 6. Cashless	訳・読解	テキストの復習 次回に向けての予習
14	Unit 7. Marathons	訳・読解	テキストの復習 次回に向けての予習
15	テスト2	Unit 6-10 文法問題	文法の復習

実務経験	
関連科目	

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 60%
学生へのメッセージ	中高で学習した英文法を復習しながら、英文に慣れていきましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--



科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Unit 11: Female birds prefer smarter partners	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.61-66 単語: NO.387-416
2	Unit 12: Auto tech shifting focus to user experience	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.67-72 単語: NO.397-426 事後:前回単語不合格者 再提出
3	Unit 13: Labor shortages force industry reforms	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.73-78 単語: NO.407-436 事後:前回単語不合格者 再提出
4	Unit 14: Conservation work on Tutankhamun tomb unveiled	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.79-84 単語: NO.417-446 事後:前回単語不合格者 再提出
5	Unit 15: Modern sauna hot spots in Japan shed old-man image	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.85-90 単語: NO.427-456 事後:前回単語不合格者 再提出
6	Unit 11-15 総復習	単語小テスト及び教科書演習	事前:単語: NO.437-466 事後:前回単語不合格者 再提出
7	中間テスト	Unit 11~15 までの内容についてテスト	事前:単語: NO.447-476 事後:前回単語不合格者 再提出
8	中間試験解説及び評	中間試験の詳しい解説	事前:単語: NO.457-486 事後:前回単語不合格者 再提出
9	Unit 16: Students globally protest warming	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.91-96 単語: NO.467-496 事後:前回単語不合格者 再提出
10	Unit 17: Asian nations to increase labor flow to Japan	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.97-102 単語: NO.477-506 事後:前回単語不合格者 再提出
11	Unit 18: Koikeya: Creating potato chips with pioneer's pride	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.103-108 単語: NO.487-516 事後:前回単語不合格者 再提出
12	Unit 19: What the latest dieting studies tell us	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.109-114 単語: NO.497-526 事後:前回単語不合格者 再提出
13	Unit 20: Japanese researchers to test use of iPS cells for cancer treatment	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.115-120 単語: NO.507-523 事後:前回単語不合格者 再提出
14	Unit16-20 総復習	Unit16-20 総復習	事前:教科書Unit 16~20 までの 復習 事後:前回単語不合格者 再提出
15	Unit 16-20 テスト	Unit 16~20 までの内容についてテストを行う	Unit16-20 テスト勉強

実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspaper 2020	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	成美堂

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Web Folder			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 60%			
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の内容の再確認、夏休みについての作文	授業の進め方についての説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習(1時間)
	2	Unit 5 Future Careers/職業・キャリア?	簡単な挨拶文	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	3	Unit 5 Future Careers/職業・キャリア?	完了形	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	4	Unit 6 That Shirt Suits You!/ファッション?	提案文、勧誘文	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	5	Unit 6 That Shirt Suits You!/ファッション	助動詞① (can / may / must / should)	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	6	Unit 7 Taking a Trip/旅行・観光	依頼文	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	7	Unit 7 Taking a Trip/旅行・観光	助動詞② (could / might / would など)	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	8	小テスト、復習	小テスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習(1時間)
	9	Unit 8 Do You Like Sports?/スポーツ	Yes / No 疑問文	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	10	Unit 8 Do You Like Sports?/スポーツ	受動態	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	11	Unit 9 Let's Do Something Fun!/レジャー・エンタメ	wh 疑問文	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	12	Unit 9 Let's Do Something Fun!/レジャー・エンタメ	不定詞	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	13	Unit 10 Art Appreciation/アート	否定・付加疑問文	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	14	Unit 10 Art Appreciation/アート	動名詞	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習(1時間)

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『TARGET! pre-intermediate 総合英語のターゲット演習【準中級】』	森田彰ほか	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder/Zoom
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 60%
学生への メッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション テキスト Getting to Know You, Class Rules, Evaluation, etc.	Introduction exercises Getting to Know You	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises - Getting to Know You Pt 2	次回の単語テストの予習 テキスト Getting to Know You	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
3	単語テスト Exercises - Food & Drink	次回の単語テストの予習 テキスト Eating Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
4	単語テスト Exercises - Your Neighbourhood	テキスト Living Conditions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
5	Exercises - Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
6	単語テスト Exercises - Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
7	単語テスト Exercises - Entertainment	次回の単語テストの予習 テキスト Movies, TV, Music	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
8	単語テスト Exercises - Friends & Dating	テキスト Relationships, Going Out	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
9	Exercises - Fashion & Style	次回の単語テストの予習 テキスト Dress for Success	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
10	単語テスト Exercises - University Life	次回の単語テストの予習 テキスト Education, Club Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
11	単語テスト Exercises - University Life	テキスト Student Life	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
12	Exercises - Shopping	次回の単語テストの予習 テキスト Clothes, Supermarket, On-line	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	
13	単語テスト Exercises - Travel	次回の単語テストの予習 テキスト Travel Experience	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
14	単語テスト Exercises - Summer Vacation	テキスト Summer Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
15	Review Test and Feedback Session	Feedback session	Students should prepare for review test	

実務経験	
関連科目	なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press ISBN 978-4-9909741-0-7
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
------	------------------------

Teams コード	8fe532z
Moodle コース名 および登録キー	基礎英語II b (S1) Bell 2020 empty5plate
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	Grading will be based on weekly assignments to be found on Moodle, including end of unit quizzes and tests.?
学生への メッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	Through English activities, students will become familiar and confident using English and learn reading and listening comprehension skills so that performance on English qualification tests such as TOEIC or Eiken can be improved.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class make sure you have your text book. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	2	Modern Communication.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	3	Plans for the future.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	4	Current topic.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	5	Current topic.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	6	Current topic.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	7	Current topic.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	8	Arts and media.	Listening and reading.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	9	Promotional campaigns.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	10	Current topic.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	11	Current topic.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	12	Current topic.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	13	The festive season.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	14	The Future	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	15	Issues	Dealing with any issues.	Make sure all you work is up to date and is ready to be seen by the teacher.

実務経験	
関連科目	他の英語関係科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Passport to Work	Angela Buckingham	OXFORD
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle/Teams「オンライン型」 Web Folder
Teamsコード	k8vizpe
Moodleコース名および登録キー	GB2020
連絡手段	Setsunan e-mail, but try Teams first.
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	TOEIC Bridge TEST 10% Weekly Tasks 90%
学生へのメッセージ	Plan for your future, study English now. Business English will be very useful in the future. (1) 教科書と宿題を授業が始まるまでに必ず用意し、時間を厳守すること。



	<p>(2) 講義に積極的に参加すること。</p> <p>Students will be able to have a basic predictable business conversation. Understand basic announc</p>
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	廣野 允紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。また授業中の居眠りも出席に認めない。

科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等
-------------	------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容・方法説明など	Unit 1 予習
	2	Unit 1 名詞(可算名詞・不可算名詞)	リスニング・リーディング演習	Unit 2 予習
	3	Unit 2 形容詞(名詞修飾・補語)	リスニング・リーディング演習	Unit 3 予習
	4	Unit 3 副詞(動詞・形容詞修飾)	リスニング・リーディング演習	Unit 4 予習
	5	Unit 4 時制(現在・過去・未来・現在進行形)	リスニング・リーディング演習	Unit 5 予習
	6	Unit 5 3単現のS (修飾語句を伴う主語)	リスニング・リーディング演習	Unit 6 予習
	7	Unit 6 能動態・受動態(感情を表す表現)	リスニング・リーディング演習	Unit 7 予習
	8	Unit 7 動詞の後ろの動名詞・不定詞	リスニング・リーディング演習	Unit 8 予習
	9	Unit 8 代名詞(主格・目的格・所有代名詞)	リスニング・リーディング演習	Unit 9 予習
	10	Unit 9 比較	リスニング・リーディング演習	Unit 10 予習
	11	Unit 10 前置詞(理由・譲歩・時・定型表現)	リスニング・リーディング演習	Unit 11 予習
	12	Unit 11 接続詞(理由・譲歩・時)	リスニング・リーディング演習	Unit 12 予習
	13	Unit 12 接続詞と前置詞の違い	リスニング・リーディング演習	Unit 13 予習
	14	Unit 13 関係代名詞	リスニング・リーディング演習	これまでの復習
	15	全体の総復習	期末テストに向けて プレテスト	期末テスト勉強

実務経験	
関連科目	他の英語関係科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC R&R TEST : PRE-INTERMEDIATE レベル別 TOEIC R&R テスト実力養成コース: 準中級編	溝口優美子 / 柳田真知子 著	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	

連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への取り組み(単語テスト・スピーチ・授業への積極的な参加)(50%) 期末テスト(50%) 原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。
学生への メッセージ	(1) 教科書と宿題を授業が始まるまでに必ず用意し、時間を厳守すること。 (2) 講義に積極的に参加すること。 (3) 可能であれば、紙ベースの辞書か電子辞書を持ってくる。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 TOEIC400を目標とする。基本的な文法項目の理解や文の構成を意識することを目標とする。 毎授業の単語テストの実施により、語彙力の向上を目指す。 また自らスピーチを作成することで、ライティングやスピーキング力を向上させる。

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	矢野 涼子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit6:The Lost Years	授業の進め方や評価方法の説明 Unit6のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit6のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
	2	Unit6:The Lost Years	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
	3	Unit7: Emerging Markets	Unit7のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit7のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
	4	Unit7: Emerging Markets	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
	5	Unit8: Environmental Management	Unit8のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit8のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
	6	Unit8: Environmental Management	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
	7	Unit9: New Work Style	Unit9のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit9のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
	8	Unit9: New Work Style	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
	9	Unit10: Stocks and Cross-Shareholding	Unit10のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit10のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
	10	Unit10: Stocks and Cross-Shareholding	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
	11	Unit11: The Dollar-Yen Exchange Rate	Unit11のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit11のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
	12	Unit12 GDP and Economic Growth	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
	13	Unit12 GDP and Economic Growth	読解、リスニングやライティングを通じて語彙や文法、英語表現を理解する	Unit12のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
	14	Unit6~12の復習	Unit6~12の文法や英語表現について復習する。	これまでの授業で理解できなかったところを質問できるようにしておく。
15	まとめのテスト、1年間のまとめ	Unit1~12の文法や英語表現について復習する。	余裕のある人は、Unit13~15に目を通し、分からない点を質問できるようにしておく。	

実務経験	
関連科目	なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	An Insight into the Japanese Economy	Mark Chang 他	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder/Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	b0p92er
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	メール

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への取り組みの評価 20% まとめのテスト 40% 提出課題 40%
学生への メッセージ	楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出する、分からない英単語を辞書で調べてくるなど、できることはきちんとやってください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。英語が苦手でも、努力次第で単位が取れる科目です。一緒に充実した時間を過ごしましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石倉 綾乃
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。			
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から			
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。			
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などに関する説明	次週の予習
	2	Chapter 1	Books! Bringing a Bright Future to Children	ミニレポートの準備
	3	Chapter 1	Books! Bringing a Bright Future to Children	次週の予習
	4	Chapter 2	Brew Sake with Fresh Ideas!	ミニレポートの準備
	5	Chapter 2	Brew Sake with Fresh Ideas!	次週の予習
	6	Chapter 3	A Unique Tour Guide	ミニレポートの準備
	7	Chapter 3	A Unique Tour Guide	次週の予習
	8	Chapter 4	A Banana with an Edible Peel	ミニレポートの準備
	9	Chapter 4	A Banana with an Edible Peel	次週の予習
	10	Chapter 5	Too Crowded to Carry it on our Backs!	ミニレポートの準備
	11	Chapter 5	Too Crowded to Carry it on our Backs!	次週の予習
	12	Chapter 6	Monitoring Kid's Phone Use	ミニレポートの準備
	13	Chapter 7	Learn about your Pet Dog at the Museum	次週の予習
	14	Chapter 8	Dream of Space Tourism Comes True	テストの準備
	15	まとめ	前期の復習・まとめテスト	前期の復習
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Insights 2020: 世界を読むメディア英語入門 2020	村尾純子ほか	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%		
	全学共通英語課題 B	10%		
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	70%		
学生へのメッセージ	小テストやミニレポートなど、授業内の課題にしっかり取り組んでください。 意欲的な学生さんの履修を期待しています。			
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	猪熊 慶祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業についての注意事項や進め方の説明。	テキストを購入して、目を通しておくこと。以下、具体的な内容については、備考欄を参照すること。
	2	College Sports (1)	アメリカの大学スポーツについて読む。現在時制の使い方をチェックする。	テキストの予習
	3	College Sports (2)	アメリカの大学スポーツについて読む。現在時制の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	4	Hip Hop Music (1)	ヒップホップミュージックの成り立ちについて読む。過去時制の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	5	Hip Hop Music (2)	ヒップホップミュージックの成り立ちについて読む。過去時制の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	6	Travel (1)	人がなぜ旅に出るのかについて読む。進行形の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	7	Travel (2)	人がなぜ旅に出るのかについて読む。進行形の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	8	Video Games (1)	テレビゲームの功罪について読む。完了形の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	9	Video Games (2)	テレビゲームの功罪について読む。完了形の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	10	Recycling (1)	リサイクルによる環境保全について読む。冠詞、代名詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	11	Recycling (2)	リサイクルによる環境保全について読む。冠詞、代名詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	12	Fast Food (1)	ファーストフードの問題点について読む。可算名詞、不可算名詞をチェックする。	テキストの予習・復習
	13	Fast Food (2)	ファーストフードの問題点について読む。可算名詞、不可算名詞をチェックする。	テキストの予習・復習
	14	TOEIC等の練習	プリント教材を使って、TOEIC等の練習問題を行う。	テキストの復習
	15	復習、まとめ	前期の内容の復習。	前期の復習

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicator 3 (Intermediate)	Joshua Cohen 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10%



	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%
学生へのメッセージ	世界で起こっていることから、身近なことまで、あらゆることに絶えず何故？ どうして？ という疑問を常に持ちながら授業に参加するようにしてください。もちろん予習・復習は手を抜かずしっかりと！ 楽しい授業になるようにしていきましょう。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。事前事後学習の内容は、毎回の授業に出てきた単語、熟語をノートなどにまとめて書き出し覚えること、および指定された箇所を予習すること。

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	College Sports (1)	アメリカの大学スポーツについて読む。現在時制の使い方をチェックする。	テキストの予習 予習をしながら単語帳を作ること(以下同様)
3	College Sports (2)	アメリカの大学スポーツについて読む。現在時制の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
4	Hip Hop Music (1)	ヒップホップミュージックの成り立ちについて読む。過去時制の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
5	Hip Hop Music (2)	ヒップホップミュージックの成り立ちについて読む。過去時制の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
6	Travel (1)	人がなぜ旅に出るのかについて読む。進行形の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
7	Travel (2)	人がなぜ旅に出るのかについて読む。進行形の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
8	Video Games (1)	テレビゲームの功罪について読む。完了形の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
9	Video Games (2)	テレビゲームの功罪について読む。完了形の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
10	Recycling (1)	リサイクルによる環境保全について読む。冠詞、代名詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
11	Recycling (2)	リサイクルによる環境保全について読む。冠詞、代名詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
12	Fast Food (1)	ファーストフードの問題点について読む。可算名詞、不可算名詞をチェックする。	テキストの予習・復習
13	Fast Food (2)	ファーストフードの問題点について読む。可算名詞、不可算名詞をチェックする。	テキストの予習・復習
14	TOEICの練習	プリント教材を使って、TOEICの練習問題を行う。	テキストの復習
15	復習、まとめテスト	前期の内容の復習をし、まとめテストを行う。	前期の復習

実務経験	
------	--

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicator 3 (Intermediate)	Joshua Cohen 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生への メッセージ	毎回予習復習をして、積極的に授業に参加することを心がけてください。授業中はしっかりメモを取り、わからないことがあれば必ず質問するようにしてください。予習をチェックする課題提出を求めますので、長文は事前に必ず読んで内容を把握しておいてください。
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	谷脇 康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、初回クイズ	授業配布のプリント(初回クイズ)復習 次回学習のプリント(肯定文と否定文)予習
2	肯定文と否定文	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(肯定文と否定文)復習 次回学習のプリント(平叙文と疑問文)予習
3	平叙文と疑問文	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(平叙文と疑問文)復習 次回学習のプリント(特殊疑問文)予習
4	特殊疑問文	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(特殊疑問文)復習 次回学習のプリント(命令文と感嘆文)予習
5	命令文と感嘆文	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(命令文と感嘆文)復習 次回学習のプリント(名詞の用法1)予習
6	名詞の用法(1)	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(名詞の用法1)復習 次回学習のプリント(名詞の用法2)予習
7	名詞の用法(2)	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(名詞の用法2)復習 中間テストに向けた復習
8	1～7回目の授業の復習 中間テスト	1～7回目の授業の復習 テスト実施	中間テストに向けた復習
9	冠詞の用法	プリント演習 発表と解説	中間テストの復習 授業配布のプリント(冠詞の用法)復習 次回学習のプリント(自動詞と他動詞)予習
10	自動詞と他動詞	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(自動詞と他動詞)復習 次回学習のプリント(ましがえやすい動詞の用法)予習
11	ましがえやすい動詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(ましがえやすい動詞の用法)復習 次回学習のプリント(完了相)予習
12	完了相	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(完了相)復習 次回学習のプリント(進行相)予習
13	進行相	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(進行相)復習 次回学習のプリント(受け身文)予習
14	受け身文	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(受け身文)復習 まとめのテストに向けた復習
15	9～14回目授業の復習 まとめのテスト	9～14回目の授業の復習 テスト実施	まとめのテストに向けた復習 まとめのテストの確認

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生への	授業はテンポよくリズミカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	1EN2306c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習(次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習(固有名詞、複数形など)	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	4	趣味についての文章を通して主語+動詞への学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	7	コンサートについての文章を通してHow+形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	15	9-14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 担当教員の評価 80%
学生への	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が

メッセージ	得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。



科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	矢野 涼子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	英語による自己紹介、授業の進め方・評価方法などについて説明する。	教科書と辞書を持参する
	2	1. FedEx-An Express Courier Legend	読解を中心に文法事項や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	1. FedEx-An Express Courier Legend に目を通し、意味の分からない単語を辞書で調べておく
	3	1. FedEx-An Express Courier Legend	リスニング・会話練習を中心に語彙や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	Comprehension Check、Vocabulary Check、Grammar Practice の準備をする。Writing 課題の提出をすること。
	4	2. The Students Who Started Google	読解を中心に文法事項や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	2. The Students Who Started Google に目を通し、意味の分からない単語を辞書で調べておく
	5	2. The Students Who Started Google	リスニング・会話練習を中心に語彙や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	Comprehension Check、Vocabulary Check、Grammar Practice の準備をする。Writing 課題の提出をすること。
	6	3. Emotional Intelligence in the Workplace	読解を中心に文法事項や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	3. Emotional Intelligence in the Workplace に目を通し、意味の分からない単語を辞書で調べておく
	7	3. Emotional Intelligence in the Workplace	リスニング・会話練習を中心に語彙や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	Comprehension Check、Vocabulary Check、Grammar Practice の準備をする。Writing 課題の提出をすること。
	8	4. Toyota	読解を中心に文法事項や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	4. Toyota に目を通し、意味の分からない単語を辞書で調べておく
	9	4. Toyota	リスニング・会話練習を中心に語彙や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	Comprehension Check、Vocabulary Check、Grammar Practice の準備をする。Writing 課題の提出をすること。
	10	5. Michael E. Porter	読解を中心に文法事項や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	5. Michael E. Porter に目を通し、意味の分からない単語を辞書で調べておく
	11	5. Michael E. Porter	リスニング・会話練習を中心に語彙や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	Comprehension Check、Vocabulary Check、Grammar Practice の準備をする。Writing 課題の提出をすること。
	12	6. Harley-Davidson	読解を中心に文法事項や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	6. Harley-Davidson に目を通し、意味の分からない単語を辞書で調べておく
	13	6. Harley-Davidson	リスニング・会話練習を中心に語彙や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	Comprehension Check、Vocabulary Check、Grammar Practice の準備をする。Writing 課題の提出をすること。
	14	7. Sporting Troubles	読解・リスニング・会話練習を中心に文法事項や英語表現、語彙を理解する。 単語の復習を各自で行う。	7. Sporting Troubles に目を通し、意味の分からない単語を辞書で調べておく
	15	まとめのテスト テキスト1~7までの復習	これまでの復習を併せて行う。	テストの準備
実務経験				
関連科目	他の英語科目			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Bussiness Sense</td> <td>Andrew E. Bennett</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Bussiness Sense	Andrew E. Bennett	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Bussiness Sense	Andrew E. Bennett	南雲堂														
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%																
学生への メッセージ	みなさんと相談しながら楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出する、分からない英単語を辞書で調べてくるなど、できることはきちんとやってください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。一緒に英語のレベルアップを目指しましょう。																
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	梅田 尋道
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法などについて説明する。	教科書と辞書を持参する
2	New Directions first viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。	
3	New Directions second viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。	
4	What's the Other Option? first viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。	
5	What's the Other Option? second viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。	
6	You're Leaving Us? first viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。	
7	You're Leaving Us? second viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。	
8	Midterm Exam	これまでの復習を併せて行う。	Midterm Exam の準備	
9	Don't Stop Believing first viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。	
10	Don't Stop Believing second viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。	
11	He's Not Coming first viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。	
12	He's Not Coming second viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。	
13	I Want In first viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。	
14	I Want In second viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。	
15	まとめのテスト	これまでの復習を併せて行う。	テストの準備	

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Communicate in English with glee 1	Simon Capper 他	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	

連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生への メッセージ	“Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes.” — John Dewey 失敗を重ねて成長してください！
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 教科書を持ってこない、居眠りをする、スマホを使う、私語をする、途中退出するなどして授業参加しない場合、各授業で3～5点減点します。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 1. 手紙(導入)	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義(1. 手紙)の予習
	2	1. 手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(1. 手紙)の復習及び予習(2. ファックス)
	3	2. ファックス	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(2. ファックス)の復習及び予習(3. 電子メール)
	4	3. 電子メール	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(3. 電子メール)の復習及び予習(4. 電話)
	5	4. 電話	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(4. 電話)の復習及び予習(5. 面会の申し入れ)
	6	5. 面会の申し入れ	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(5. 面会の申し入れ)の復習及び予習(6. ホテルの予約)
	7	6. ホテルの予約	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(6. ホテルの予約)の復習及び予習(7. オフィスの移転通知)
	8	7. オフィスの移転通知	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(7. オフィスの移転通知)の復習及び予習(8. 支店の開設案内)
	9	8. 支店の開設案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(8. 支店の開設案内)の復習及び予習(9. レセプションへの招待)
	10	9. レセプションへの招待	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(9. レセプションへの招待)の復習及び予習(10. アンケートの回答依頼)
	11	10. アンケートの回答依頼	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(10. アンケートの回答依頼)の復習及び予習(11. 資料の送付依頼)
	12	11. 資料の送付依頼	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(11. 資料の送付依頼)の復習及び予習(12. 慶弔)
	13	12. 慶弔	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(12. 慶弔)の復習及び予習(13. 会議の通知)
	14	13. 会議の通知	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(13. 会議の通知)の復習及び予習(1. 手紙~13. 会議の通知)
	15	1. 手紙~13. 会議の通知	既習範囲の総復習 定期試験の準備	定期試験の準備

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Essentials of Global Business English	豊田 暁 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (旧版)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態									
Teams コード									
Moodle コース名 および登録キー									
連絡手段									
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:								
評価方法 (基準)	<table border="0"> <tr> <td>全学共通英語課題 A</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>全学共通英語課題 B</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)</td> <td>30%</td> </tr> </table>	全学共通英語課題 A	20%	全学共通英語課題 B	10%	定期試験	40%	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	30%
全学共通英語課題 A	20%								
全学共通英語課題 B	10%								
定期試験	40%								
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	30%								
学生への メッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように英語学習に王道(= easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ)を心に留め、ゆっくりでも着								

	実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張らましょ う！Keep your chin up
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石倉 綾乃
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IE2307c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>j 授業の進め方等の確認</td> <td>次週の予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Chapter 6</td> <td>Monitoring Kid's Phone Use</td> <td>ミニレポートの準備</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Chapter 6</td> <td>Monitoring Kid's Phone Use</td> <td>次週の予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Chapter 7</td> <td>Learn about your Pet Dog at the Museum</td> <td>ミニレポートの準備</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Chapter 7</td> <td>Learn about your Pet Dog at the Museum</td> <td>次週の予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Chapter 8</td> <td>Dream of Space Tourism Comes True</td> <td>ミニレポートの準備</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Chapter 8</td> <td>Dream of Space Tourism Comes True</td> <td>次週の予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Chapter 9</td> <td>Save the World from Garbage!</td> <td>ミニレポートの準備</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Chapter 9</td> <td>Save the World from Garbage!</td> <td>次週の予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Chapter 10</td> <td>Manga Featuring the Elderly</td> <td>ミニレポートの準備</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Chapter 10</td> <td>Manga Featuring the Elderly</td> <td>次週の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Chapter 11</td> <td>Why not Go to Kyoto?</td> <td>ミニレポートの準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Chapter 11</td> <td>Why not Go to Kyoto?</td> <td>次週の予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Chapter 12</td> <td>To Be More Eco-friendly</td> <td>まとめテストの準備</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>後期の復習、レポート提出</td> <td>後期の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	j 授業の進め方等の確認	次週の予習	2	Chapter 6	Monitoring Kid's Phone Use	ミニレポートの準備	3	Chapter 6	Monitoring Kid's Phone Use	次週の予習	4	Chapter 7	Learn about your Pet Dog at the Museum	ミニレポートの準備	5	Chapter 7	Learn about your Pet Dog at the Museum	次週の予習	6	Chapter 8	Dream of Space Tourism Comes True	ミニレポートの準備	7	Chapter 8	Dream of Space Tourism Comes True	次週の予習	8	Chapter 9	Save the World from Garbage!	ミニレポートの準備	9	Chapter 9	Save the World from Garbage!	次週の予習	10	Chapter 10	Manga Featuring the Elderly	ミニレポートの準備	11	Chapter 10	Manga Featuring the Elderly	次週の予習	12	Chapter 11	Why not Go to Kyoto?	ミニレポートの準備	13	Chapter 11	Why not Go to Kyoto?	次週の予習	14	Chapter 12	To Be More Eco-friendly	まとめテストの準備	15	まとめ	後期の復習、レポート提出	後期の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	j 授業の進め方等の確認	次週の予習																																																																
2	Chapter 6	Monitoring Kid's Phone Use	ミニレポートの準備																																																																
3	Chapter 6	Monitoring Kid's Phone Use	次週の予習																																																																
4	Chapter 7	Learn about your Pet Dog at the Museum	ミニレポートの準備																																																																
5	Chapter 7	Learn about your Pet Dog at the Museum	次週の予習																																																																
6	Chapter 8	Dream of Space Tourism Comes True	ミニレポートの準備																																																																
7	Chapter 8	Dream of Space Tourism Comes True	次週の予習																																																																
8	Chapter 9	Save the World from Garbage!	ミニレポートの準備																																																																
9	Chapter 9	Save the World from Garbage!	次週の予習																																																																
10	Chapter 10	Manga Featuring the Elderly	ミニレポートの準備																																																																
11	Chapter 10	Manga Featuring the Elderly	次週の予習																																																																
12	Chapter 11	Why not Go to Kyoto?	ミニレポートの準備																																																																
13	Chapter 11	Why not Go to Kyoto?	次週の予習																																																																
14	Chapter 12	To Be More Eco-friendly	まとめテストの準備																																																																
15	まとめ	後期の復習、レポート提出	後期の復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Insights 2020: 世界を読むメディア英語入門 2020</td> <td>村尾純子ほか</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Insights 2020: 世界を読むメディア英語入門 2020	村尾純子ほか	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Insights 2020: 世界を読むメディア英語入門 2020	村尾純子ほか	金星堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/zoom																																																																		
Teams コード	5v7rhon																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%																																																																		
学生へのメッセージ	前期と同じような内容ですが、Zoomを使って行う予定です。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		



科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIC
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	猪熊 慶祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	WebFolderにて課題提出型の授業を行う。 学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 出席については、WebFolderへの課題提出を持って出席とする。 未提出課題のあった者には原則として単位を認めない。 オンライン小テストを実施するが、ポータルを通してリンクを送付するので確認を怠らないようにすること。 ネットアクセスのトラブル以外での不受験については、救済を一切しない。 Zoomによる招集
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 9 (1)	広告の影響について読む。前置詞、接続詞をチェックする。	テキストの予習
	2	Unit 9 (2)	広告の影響について読む。前置詞、接続詞をチェックする。	テキストの予習・復習
	3	Unit 10 (1)	出張の準備とコツについて読む。不定詞、動名詞をチェックする。	テキストの予習・復習
	4	Unit 10 (2)	出張の準備とコツについて読む。不定詞、動名詞をチェックする。	テキストの予習・復習
	5	Unit 11 (1)	コーヒーチェーン店について読む。受動態の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	6	Unit 11 (2)	コーヒーチェーン店について読む。受動態の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	7	Unit 12 (1)	オンラインショッピングの利便性について読む。助動詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	8	Unit 12 (2)	オンラインショッピングの利便性について読む。助動詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	9	Unit 13 (1)	ロボットのメリット/デメリットについて。使役動詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	10	Unit 13 (2)	ロボットのメリット/デメリットについて。使役動詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	11	Unit 14 (1)	様々なSNSについて読む。関係詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	12	Unit 14 (2)	様々なSNSについて読む。関係詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	13	Unit 15 (1)	(高層)建築について読む。仮定法の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	14	Unit 15 (2)	(高層)建築について読む。仮定法の使い方をチェックする。	テキストの復習
	15	復習、まとめ	後期の内容の復習。	後期の復習

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicator 3 (Intermediate)	Joshua Cohen 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder/その他
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 授業への参加、貢献（毎回の授業課題・関連事項追加課題） 70% オンライン小テスト 10%
学生への メッセージ	世界で起こっていることから、身近なことまで、あらゆることに絶えず何故？どうして？という疑問を常に持ちながら授業に参加するようにしてください。もちろん予習・復習は手を抜かずしっかりと！楽しい授業になるようにしていきましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。事前事後学習の内容は、毎回の授業に出てきた単語、熟語をノートなどにまとめて書き出し覚えること、および指定された箇所を予習すること。

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	Moodle を使用して課題を出して、提出期限後に解答と解説を提示するという流れで行う。提出期限を確認して毎回提出するように心がけること。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習	前期の内容の復習課題	テキストの予習
	2	Extreme Weather (1)	異常気象について読む。形容詞、副詞の使い方をチェックする。	テキストの予習 予習をしながら単語帳を作ること(以下同様)
	3	Extreme Weather (2)	異常気象について読む。形容詞、副詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	4	Medical Tourism (1)	医療ツーリズムのリスクについて読む。比較表現の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	5	Medical Tourism (2)	医療ツーリズムのリスクについて読む。比較表現の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	6	Advertising (1)	広告の影響について読む。前置詞、接続詞をチェックする。	テキストの予習・復習
	7	Advertising (2)	広告の影響について読む。前置詞、接続詞をチェックする。	テキストの予習・復習
	8	Business Travel (1)	出張の準備とコツについて読む。不定詞、動名詞をチェックする。	テキストの予習・復習
	9	Business Travel (2)	出張の準備とコツについて読む。不定詞、動名詞をチェックする。	テキストの予習・復習
	10	Coffee Shop (1)	コーヒーチェーン店について読む。受動態の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	11	Coffee Shops (2)	コーヒーチェーン店について読む。受動態の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	12	E-Commerce (1)	オンラインショッピングの利便性について読む。助動詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	13	E-Commerce (2)	オンラインショッピングの利便性について読む。助動詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
	14	SNS	様々な SNS について読む。関係詞の使い方をチェックする。	テキストの復習
	15	復習	後期の内容の復習課題	後期の内容の復習

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicator 3 (Intermediate)	Joshua Cohen 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	英語 IIc (S2③) hy04
連絡手段	学内メールを利用する
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 提出された課題の評価 80%
学生への メッセージ	毎回期限をチェックして、遅れないように提出すること。後期は教科書の内容のデータの提示は一切できないので、教科書を持っていない人は、必ず購入しておくこと。重要な連絡をすることもあるので、Portal Site のメールを頻りにチェックすること。
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	谷脇 康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、初回クイズ	授業配布のプリント(初回クイズ)復習 次回学習のプリント(不定詞の用法)予習
2	不定詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(不定詞の用法)復習 次回学習のプリント(動名詞と分詞の用法)予習
3	動名詞と分詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(動名詞と分詞の用法)復習 次回学習のプリント(関係詞の用法)予習
4	関係詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(関係詞の用法)復習 次回学習のプリント(形容詞の用法)予習
5	形容詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(形容詞の用法)復習 次回学習のプリント(副詞の用法)予習
6	副詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(副詞の用法)復習 次回学習のプリント(前置詞の用法)予習
7	前置詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(前置詞の用法)復習 中間テストに向けた復習
8	1～7回目の授業の復習 中間テスト	1～7回目の授業の復習 テスト実施	中間テストに向けた復習 次回学習のプリント(接続詞の用法)予習
9	接続詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(接続詞の用法)復習 次回学習のプリント(間接疑問文)予習
10	間接疑問文	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(間接疑問文)復習 次回学習のプリント(仮定法1)予習
11	仮定法(1)	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(仮定法1)復習 次回学習のプリント(仮定法2)予習
12	仮定法(2)	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(仮定法2)復習 次回学習のプリント(ましがえやすい語順)予習
13	ましがえやすい語順	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(ましがえやすい語順)復習 次回学習のプリント(ましがえやすい否定表現)予習
14	ましがえやすい否定表現	プリント演習 発表と解説	授業配布のプリント(ましがえやすい否定表現)復習 まとめのテストに向けた復習
15	9～14回目授業の復習 まとめのテスト	9～14回目の授業の復習 テスト実施	まとめのテストに向けた復習 まとめのテストの確認

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 課題提出状況 80%
学生への メッセージ	授業はテンポがよくリズムカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。
担当者の	7号館2階非常勤講師室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習(次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記	
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記	
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記	
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記	
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記	
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記	
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記	
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記	
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記	
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記	
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記	
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記	
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記	
15	9-14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備	

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder/Youtube
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 課題提出 40%、課題内容 40%
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。



担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	英語Ⅱd	科目名(英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	矢野 涼子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 6. Harley-Davidson	授業の進め方・評価方法などについて説明する。 読解を中心に文法事項や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	6. Harley-Davidsonに目を通し、意味の分からない単語を辞書で調べておく
	2	6. Harley-Davidson	リスニング・会話練習を中心に語彙や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	Comprehension Check、Vocabulary Check、Grammar Practiceの準備をする。Writing課題の提出をすること。
	3	7. Sporting Troubles	読解を中心に文法事項や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	7. Sporting Troublesに目を通し、意味の分からない単語を辞書で調べておく
	4	7. Sporting Troubles	リスニング・会話練習を中心に語彙や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	Comprehension Check、Vocabulary Check、Grammar Practiceの準備をする。Writing課題の提出をすること。
	5	8. Women in Business	読解を中心に文法事項や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	8. Women in Businessに目を通し、意味の分からない単語を辞書で調べておく
	6	8. Women in Business	リスニング・会話練習を中心に語彙や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	Comprehension Check、Vocabulary Check、Grammar Practiceの準備をする。Writing課題の提出をすること。
	7	9. Fighting African Poverty with Cell Phones	読解を中心に文法事項や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	9. Fighting African Poverty with Cell Phonesに目を通し、意味の分からない単語を辞書で調べておく
	8	9. Fighting African Poverty with Cell Phones	リスニング・会話練習を中心に語彙や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	Comprehension Check、Vocabulary Check、Grammar Practiceの準備をする。Writing課題の提出をすること。
	9	10. The Creative Vision of Walt Disney	読解を中心に文法事項や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	10. The Creative Vision of Walt Disneyに目を通し、意味の分からない単語を辞書で調べておく
	10	10. The Creative Vision of Walt Disney	リスニング・会話練習を中心に語彙や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	Comprehension Check、Vocabulary Check、Grammar Practiceの準備をする。Writing課題の提出をすること。
	11	11. Tata	読解を中心に文法事項や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	11. Tataに目を通し、意味の分からない単語を辞書で調べておく
	12	11. Tata	リスニング・会話練習を中心に語彙や英語表現を理解する。 単語の復習を各自で行う。	Comprehension Check、Vocabulary Check、Grammar Practiceの準備をする。Writing課題の提出をすること。
	13	12. Big Banks, Big Problems	読解・リスニング・会話練習を中心に文法事項や英語表現、語彙を理解する。 単語の復習を各自で行う。	12. Big Banks, Big Problemsに目を通し、意味の分からない単語を辞書で調べておく
	14	12. Big Banks, Big Problems	読解・リスニング・会話練習を中心に文法事項や英語表現、語彙を理解する。 単語の復習を各自で行う。	Comprehension Check、Vocabulary Check、Grammar Practiceの準備をする。Writing課題の提出をすること。
15	まとめのテスト テキスト6～12までの復習	これまでの復習を併せて行う。	テストの準備	

実務経験																	
関連科目	他の英語科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Bussiness Sense</td> <td>Andrew E. Bennett</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Bussiness Sense	Andrew E. Bennett	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Bussiness Sense	Andrew E. Bennett	南雲堂													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂													
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder/Teams「教材・課題配信型」																
Teams コード	br8ceja																
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%																
学生への メッセージ	みなさんと相談しながら楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出する、分からない英単語を辞書で調べてくるなど、できることはきちんとやってください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。一緒に英語のレベルアップを目指しましょう。																
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	梅田 尋道
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Where Is Everybody? first viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
3	Where Is Everybody? second viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
4	You Inspire People first viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
5	You Inspire People second viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
6	He Doesn't Belong Here first viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
7	He Doesn't Belong Here second viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
8	Midterm Exam	これまでの復習を併せて行う。	Midterm Exam の準備
9	So Be It first viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
10	So Be It second viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
11	It's a Win-Win for Both of Us first viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
12	It's a Win-Win for Both of Us second viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
13	Thanks for Telling Me first viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
14	Thanks for Telling Me second viewing	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
15	まとめのテスト	これまでの復習を併せて行う。	テストの準備

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Communicate in English with glee 1	Simon Capper 他	Shohakusha
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	英語 IId2020 金 2ume e2d20f2

連絡手段	Moodle その他
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生への メッセージ	“Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes.” — John Dewey 失敗を重ねて成長してください！
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 教科書を持ってこない、居眠りをする、スマホを使う、私語をする、途中退出するなどして授業参加しない場合、各授業で3～5点減点します。

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 14. 議事録(導入)	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義(14. 議事録)の予習
	2	14. 議事録	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(14. 議事録)の復習及び予習(15. 物品の購入)
	3	15. 物品の購入	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(15. 物品の購入)の復習及び予習(16. 社内研修の案内)
	4	16. 社内研修の案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(16. 社内研修の案内)の復習及び予習(17. 社外研修の報告)
	5	17. 社外研修の報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(17. 社外研修の報告)の復習及び予習(18. 日程の中間報告)
	6	18. 日程の中間報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(18. 日程の中間報告)の復習及び予習(19. 引合い(1))
	7	19. 引合い(1)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(19. 引合い(1))の復習及び予習(20. 引合い(2))
	8	20. 引合い(2)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(20. 引合い(2))の復習及び予習(21. 注文)
	9	21. 注文	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(21. 注文)の復習及び予習(22. 代金の回収)
	10	22. 代金の回収	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(22. 代金の回収)の復習及び予習(23. クレームと調整)
	11	23. クレームと調整	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(23. クレームと調整)の復習及び予習(24. 履歴書)
	12	24. 履歴書	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(24. 履歴書)の復習及び予習(25. 応募の手紙)
	13	25. 応募の手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(25. 応募の手紙)の復習及び予習(26. 推薦状)
	14	26. 推薦状	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(26. 推薦状)の復習及び予習(14. 議事録～26. 推薦状)
	15	14. 議事録～26. 推薦状	既習範囲の総復習 定期試験の準備	定期試験の準備

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Essentials of Global Business English	豊田 暁 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (旧版)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder						
Teams コード							
Moodle コース名 および登録キー							
連絡手段	学内メール						
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:						
評価方法 (基準)	<table border="0"> <tr> <td>全学共通英語課題 A</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)</td> <td>40%</td> </tr> </table>	全学共通英語課題 A	20%	定期試験	40%	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	40%
全学共通英語課題 A	20%						
定期試験	40%						
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	40%						
学生への メッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) があるように英語学習に王道 (= easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさないと、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょ						

	う！Keep your chin up
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	李 孝聖
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN3331c1		

授業概要・目的	<p>ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。</p> <p>経済は決して専門分野ではなく、日常生活と密接に結びついているのです。企業の海外進出、海外企業との合併、海外での子会社設立などビジネス英語のニーズも高まっています。</p> <p>この授業では面白いエピソードを交えた文章を読むことによって、お金の役割から経済のシステムまでのビジネス英語の基本的知識を得られ、役に立つ英語表現も無理なく学習できます。</p> <p>授業計画は進度によって変わる場合があります。</p>
---------	--

到達目標	<p>(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う。</p> <p>(2) 前期はCEFR-J[B1. 1]、後期はCEFR-J[B1. 2]に英語力が到達することを目標とする。</p> <p>この授業を通して短い文章を読解する能力と文法の基礎を習得できます。</p> <p>毎回行方英語の小テストによって大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。</p> <p>リスニングとライティングを中心に日常生活に必要な英語の語彙力、表現力、理解力をつける事を目標とする。</p> <p>又、並行して英語の資格、検定の練習問題</p>
------	---

授業方法と留意点	<p>演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>授業を効果的に遂行するため、学生の予習を期待しています。また、学生同士が教え教えられることで active learning にしていきたいと考えています。</p> <p>テキスト(教科書)を忘れた場合、また私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業を欠席し</p>
----------	---

科目学習の効果(資格)	基本的文法の復習、リスニング、語彙力、英検やTOEIC等の検定・資格試験にも役立つ。
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入。コース全体の組み立て。授業の進め方。成績のつけ方。出席・欠席への注意など。	どうしてこのコースを選択したか。キャリアデザインとの関係。英語はどう役立つか。	Chapter I: Money: The Basics の Chapter I: Money: The Basics を読んでくる。
	2	お金の機能について	I-1 Money has three functions.	Chapter I: Money: The Basics の When you borrow money, you have to pay interest. を読んでくる。
	3	お金を借りたら利息がつく。	When you borrow money, you have to pay interest.	Chapter I: Money: The Basics の What happens to money you deposit in a bank? を読んでくる。
	4	銀行に預けたお金はどうなるのか。	What happens to money you deposit in a bank?	Chapter I: Money: The Basics の Banks aren't the only financial institutions.
	5	銀行が唯一の金融機関ではない。	Banks aren't the only financial institutions.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Prices are set according to the principle of supply and demand. を読んでくる。
	6	価格は需要と供給によって決まる。	Prices are set according to the principle of supply and demand.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Foreign trade is a two-way street. を読んでくる。
	7	海外貿易は二方向。	Foreign trade is a two-way street.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Exchange rates also vary according to supply and demand. を読んでくる。
	8	為替レートも需要と供給。	Exchange rates also vary according to supply and demand.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Currencies continuously strengthen and weaken against one another. を読んでくる。
	9	通貨の強弱。	Currencies continuously strengthen and weaken against one another.	Chapter III: How Companies Work の Joint-stock companies: how they came about を読んでくる。
	10	株式会社はどう生まれたか。	Joint-stock companies: how they came about?	Chapter III: How Companies Work の Companies share their profits among their shareholders. を読んでくる。
	11	企業は株主と利益を分配する。	Companies share their profits among their shareholders.	Chapter III: How Companies Work の Trading in Stocks has become a full-fledged market. を読んでくる。
	12	株式の取引は本物の市場になった。	Trading in Stocks has become a full-fledged market.	Chapter III: How Companies Work の E-trading has changed the nature of stock trading dramatically. を読んでくる。
	13	E-trading は株式の取引を根本的に変えた。	E-trading has changed the nature of stock trading dramatically.	Chapter III: How Companies Work の A company doesn't belong only to its shareholders. を読んでくる。
	14	企業は株主のものだけではない。	A company doesn't belong only to its shareholders.	これまでのまとめ。
	15	総復習。	これまでのまとめ。	期末テストへの注意と解説。

実務経験	
関連科目	他の英語関係科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	All About Money and the Economy	池上 彰	朝日出版社
	2			
	3			



参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト)	西谷恒志	成美堂
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、小テスト 10%、課題レポート 10%、授業態度 10% (授業中の発表)、出席 10%の割合で評価する。			
学生への メッセージ	出席と予習を含む宿題を重視。 授業態度を重んじるので受講生はきちんと授業に参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	<p>【事前事後学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均1時間は学習してください。</li> <li>授業の13回目までに、単語番号 201~400 までを最低一巡は終わるようにしてください。</li> </ul> <p>【授業中の注意点について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>辞書を必ず持参してください。</li> <li>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</li> </ul>			

科目名	ビジネスイングリッシュII	科目名 (英文)	Business English II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	李 孝聖
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN3332c1		

授業概要・目的	<p>ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。</p> <p>この授業では面白いエピソードを交えた文章を読むことによって、お金の役割から経済のシステムまでのビジネス英語の基本的知識を得られ、役に立つ英語表現も無理なく学習できます。 大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。 これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた実用的な英語基礎能力が期待されます。</p>			
到達目標	<p>(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う。 (2) 前期はCEFR-J[B1. 1]、後期はCEFR-J[B1. 2]に英語力が到達することを目標とする。</p> <p>この授業ではリスニングとライティングを中心に、英語の4技能の強化を図ります。 到達目標：日常生活で必要とする基礎的な英語の理解力・表現力を身につける。 ビジネスの場で必要とされる読解力、語彙力をつけ、TOEICのスコアアップを目指します。</p>			
授業方法と留意点	<p>演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>授業を効果的に遂行するため、学生の予習を期待しています。また、学生同士が教え教えられることで active learning にしていきたいと考えています。 テキスト(教科書)を忘れた場合、また私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業を欠席し</p>			
科目学習の効果(資格)	<p>リスニング・ライティングの訓練を継続的に行えば、半年でかなりの実力が付きます。 最初は難しいと感じても、根気よく続けてください。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	後期にあたって、新たな気持ちで英語に取り組む姿勢を喚起する。	各レッスンの訳、要約。自発的で積極的な授業への取り組み方を考える。	Chapter III: The State of the Economy の The economy fluctuates in cycle. を読んでくる。 指定単語の学習
	2	経済は周期的に変動する。	The economy fluctuates in cycle.	Chapter III: The State of the Economy の There are two basic ways countries can stimulate their economics. を読んでくる。 指定単語の学習
	3	経済を活性化する2方法。	There are two basic ways countries can stimulate their economics.	Chapter III: The State of the Economy の Sometimes an economy can become too robust. を読んでくる。 指定単語の学習
	4	経済はときには強すぎる。	Sometimes an economy can become too robust.	Chapter III: The State of the Economy の In extrem cases, the economy can grow like a bubble. を読んでくる。 指定単語の学習
	5	経済は泡のように膨らむ。	In extrem cases, the economy can grow like a bubble.	Chapter v: Economic Systems の There are two main economic systems in operation today. を読んでくる。 指定単語の学習
	6	今日の2つの経済システム。	There are two main economic systems in operation today.	これまでの復習。
	7	Review, Midterm Exam	復習、期間外試験1	Chapter v: Economic Systems の Socialism largely ended in failure. を読んでくる。 指定単語の学習
	8	社会主義の失敗。	Socialism largely ended in failure.	Chapter v: Economic Systems の Globalization has its good points and its bad. を読んでくる。 指定単語の学習
	9	グローバリゼーションの良い点と悪い点。	Globalization has its good points and its bad.	Chapter v: Economic Systems の Neo-liberalism is changing the way business done. を読んでくる。 指定単語の学習
	10	新自由主義はビジネスを変える。	Neo-liberalism is changing the way business done.	Chapter v: Economic Systems の Economic policies can serve to protect the natural environment. を読んでくる。 指定単語の学習
	11	経済政策は自然環境の保護に役立つ。	Economic policies can serve to protect the natural environment.	プリントを用意する。 指定単語の学習
	12	食物アレルギー	Food allergies	Food allergies を読んでくる。 指定単語の学習
	13	食物アレルギー	Food allergies	プリントを用意する。 指定単語の学習
	14	青色発光ダイオード	Blue LED	Blue LED を読んでくる。 指定単語の学習
	15	青色発光ダイオード	Blue LED	期末テストの注意と重点項目。
実務経験				
関連科目	英語関連科目			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>All About Money and the Economy</td> <td>池上 彰</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	All About Money and the Economy	池上 彰	朝日出版社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	All About Money and the Economy	池上 彰	朝日出版社														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト)</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト)	西谷恒志	成美堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト)	西谷恒志	成美堂														
2																	
3																	
授業形態	web Folder																
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	定期試験 30%、小テスト 10%、課題レポート 10%、TOEIC スコア 30%、 授業態度 10% (授業中の発表)、出席 10%の割合で評価する。  ※授業態度に問題のある場合 (遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など) は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。																
学生への メッセージ	英語を効果的にマスターしたい人は、少しずつでも必ず毎日英語に触れましょう。 週に一日だけ1時間勉強するよりも、毎日15分勉強するほうがはるかに効果が上がります。 英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。 授業以外にも、自分の興味ある分野の英文をどんどん読んでみましょう。 全員参加で活気ある授業を創り上げましょう。																
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																
備考	<p>【事前事後学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均1時間は学習してください。</li> <li>授業の13回目までに、単語番号 600~800 までを最低一巡は終わるようにしてください。</li> </ul> <p>【授業中の注意点について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>辞書を必ず持参してください。</li> </ul> <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>																

科目名	英語コミュニケーション I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アサー ロングス
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN333c1		

授業概要・目的	海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J[A2.1]、後期はCEFR-J[A2.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	総合的な英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Class introduction	ガイダンス	課題、小テスト対策
	2	Cerf Topic #1	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	3	Cerf Topic #2	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	4	Cerf Topic #3	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	5	Cerf Topic #4	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	6	Presentation Prep	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	7	Cerf Topic #5	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	8	Presentation	Presentation	課題、小テスト対策
	9	Group Game Activity	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	10	Cerf Topic #6	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	11	Cerf Topic #7	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	12	Cerf Topic #8	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	13	Presentation Prep	prep	課題、小テスト対策
	14	Cerf Topic #9	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	15	Presentation	presentation	試験対策

実務経験	
関連科目	英語科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	Presentations 30 Attendance 50 Participation 20
-----------	---

学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Conversation II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アサー ロングス
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN3334c1		

授業概要・目的	海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J[A2.1]、後期はCEFR-J[A2.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	総合的な英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Class introduction	ガイダンス	課題、小テスト対策
	2	Cerf Topic #1	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	3	Cerf Topic #2	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	4	Cerf Topic #3	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	5	Cerf Topic #4	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	6	Presentation Prep	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	7	Cerf Topic #5	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	8	Presentation	Presentation	課題、小テスト対策
	9	Group Game Activity	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	10	Cerf Topic #6	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	11	Cerf Topic #7	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	12	Cerf Topic #8	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	13	Presentation Prep	prep	課題、小テスト対策
	14	Cerf Topic #9	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	15	Presentation	presentation	試験対策

実務経験	
関連科目	英語科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
------	------------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	seoulmon@hotmail.com
------	----------------------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	Presentations 30 Attendance 50 Participation 20
--------------	---

学生への メッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
---------------	--

担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
--------------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ビジネス中国語基礎 a	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business a
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1336e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業はオンライン演習形式で、学生と教師のインタラクティブな活動を中心に進める。 中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	発音編 第1課 発音 1	ピンインと四声, 単母音, 子音①, 複母音①。	事前にテキストを目を通す。 授業後、習った発音を練習し、ピンインを書く、復習をすること。
2	第2課 発音 2	複母音②, 鼻母音, 子音②。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、習った発音を練習し、ピンインを書く、復習をすること。	
3	第3課 発音 3	複母音③④, 子音③。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、習った発音を練習し、ピンインを書く、復習をすること。	
4	第4課 発音 4	子音④⑤。 あいさつ言葉の復習。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、習った発音を練習し、ピンインを書く、復習をすること。	
5	本文編 第1課 お名前は?	人称代名詞, 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「也」、「都」、「很」。	事前に、テスト(第2~4課のあいさつ)の準備。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。	
6	第1課 お名前は?	副詞「不」、疑問詞疑問文, 名前の言い方。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。	
7	第2課 私は日本人だ	「是」構文, 疑問詞「?」、副詞「都」。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。	
8	第2課 私は日本人だ	助詞「的」、反復疑問文, 疑問詞「誰」、指示代名詞。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。	
9	第3課 君は大阪人だよ ね?	動詞述語文, 終助詞「?」、省略疑問文。	事前に、テスト(第1~2課)の準備。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。	
10	第3課 君は大阪人だよ ね?	同時進行の表現, 二重目的語。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。	
11	第4課 おいくら?	単位の言葉「張」「個」、動詞の重ね型, お金の言い方。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。	
12	第4課 おいくら?	「二」と「両」、「不太〜」、所有の「有」。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。	
13	第5課 どの先生が好き?	前置詞「和」、名詞述語文。	事前に、テスト(第3~4課)の準備をすること。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。	
14	第5課 どの先生が好き?	時間の言い方, 前置詞「跟」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。 テスト(第5課)の準備をすること。	
15	おさらい	第1~5課までの復習	事前にテスト(第5課)の準備。 授業後、前期の総復習をすること。	

実務経験	
関連科目	「ビジネス中国語基礎 b」(前期)、「ビジネス中国語基礎 c」(後期)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		

	2	日中辞典		
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	オンライン授業への参加度：30% オンライン課題提出：70%			
学生への メッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	ビジネス中国語基礎 b	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business b
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1337e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	オンライン型授業【双方向の授業形式】を行う。 毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音篇	発音 1 中国語の音節, 声調 2 単母音	事前にテキストを目を通す、授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	発音篇	発音 3 複母音 4 鼻母音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	発音篇	発音 5 子音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	発音篇	発音復習・練習 発音テスト	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
5	第 1 課 お名前は何かですか	動詞「是」の使い方。 姓の言い方と尋ね方、フルネームの言い方と尋ね方。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第 2 課 これは私のパソコンです	指示代名詞 疑問詞・副詞「也」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	第 3 課 こちらの冬は寒いんです	場所代名詞 形容詞述語文	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
8	第 4 課 私は毎日七時に起きます	★単元テスト① 動詞述語文	事前に、テスト 1 の準備をする。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
9	第 5 課 私の家は学校から遠いです	動詞「在」・介詞「?」 反復疑問文	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	第 6 課 あなたは週に何コマの授業がありますか	量詞・動詞「有」 疑問詞「几」「多少」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
11	第 7 課 あなたは今年いくつですか	★単元テスト② 年齢の聞き方・親族の名称	事前に、テスト 2 の準備をする。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
12	第 8 課 私たちは図書館で勉強しています	連動文 1 疑問詞「怎?」 介詞「在」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
13	第 9 課 あなたは昨日どこに行きましたか	完了の「了」・原因の「怎?」 「A 跟 B 一?」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
14	第 10 課 私はパンを食べたいです	★単元テスト③ 助動詞「想」 選択疑問文	事前に、テスト 3 の準備をする。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
15	おさらい	第 1~10 課の復習 ★単元テスト④	授業後、いまままで習った部分の総復習をすること。

実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい中国語 (基礎編)	張慧娟 王武雲 朱藝	郁文堂
	2			
	3			



参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	出席・課題 70%      テスト 30%			
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 事前・事後学習に1時間ずつ要します。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。 不在の場合は専任教員を通じて問い合わせることもできる。			

科目名	ビジネス中国語基礎 c	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business c
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	樊 玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1338e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業はオンライン形式で、新出単語や文法を詳しく解説すると共に、対話文を繰り返し練習することによって、中国語の活用や表現能力を習得する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第6課 今は3時5分前だ	「有」と「在」, 時間詞の語順。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
2	第6課 今は3時5分前だ	不定の数量を表す「些」, 時刻の言い方, 意見を求める言い方。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
3	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	時間に使う「上/下」, 連動文, 前置詞「在」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
4	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	標点符号「,」と「」, 文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。テスト(第6-7課)の準備をすること。
5	第8課 小説は好きなの?	★単元テスト1 前置詞「從」と「到」, 時量補語とその語順, 文型「快～了」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
6	第8課 小説は好きなの?	前置詞「離」, 強調の「是」, 副詞「又」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
7	第9課 ファーストフード店は家から近い	副詞「就」, 副詞「才」, 動詞の「要」, 前置詞「給」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
8	第9課 ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」, 文型「一・・・就・・・」, 「未完成の「没有～」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。テスト(第8-9課)の準備をすること。
9	第10課 北京ダックを食べたことある?	★単元テスト2 助詞「過」, 助動詞「要」, 「想」, 「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
10	第10課 北京ダックを食べたことある?	助動詞「應該」, 副詞「別」, 「再」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
11	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文, 助動詞「会」, 構造助詞「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
12	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」, 比較の「没有」, 禁止表現「不要」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。テスト(第10-11課)の準備をすること。
13	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	★単元テスト3 仮定表現「要是～」, 助動詞「能」, 可能性の「会」, 比較表現「比」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
14	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	使役動詞「叫」, 方向補語「～来/去」, 複合補語「～進來/進去」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。テスト(第12課)の準備をすること。
15	おさらい	第6～12課の復習 ★単元テスト4	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。

実務経験	
関連科目	「ビジネス中国語基礎 a」(前期)、「ビジネス中国語基礎 b」(後期)

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	mtnwaf7
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール、個人メール等
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	オンライン課題提出: 70% オンライン授業への参加度: 30%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に1時間ずつ要します。
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
備考	「ビジネス中国語基礎 a」を履修したうえ、「ビジネス中国語基礎 c」を履修するのが望ましい。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	ビジネス中国語基礎 d	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business d
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1339e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	ツール：Teams 方法：予め作成した動画を Teams に掲載しておく。この科目の授業時間に Teams 上で動画を視聴することもできるが、学生には事前にダウンロードしておくことを強く推奨する。動画視聴後は、課題を提出してください。(3日以内)
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第 8 課 私たちは図書館で勉強しています	連動文 1 疑問詞「怎麼」 介詞「在」	事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
2	第 9 課 あなたは昨日どこに行きましたか	完了の「了」・原因の「怎麼」 「A 跟 B 一樣」	事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
3	第 10 課 私はパンを食べたいです	助動詞「想」 選択疑問文	事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
4	第 11 課 母は私より背が高い	比較表現 「越 A 越 B」	事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
5	第 12 課 彼女は中国に行ったことがある	過去の経験を表す表現 助動詞「打算」 変化の「了」	事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
6	第 13 課 私は手紙を書いている	進行形「在」 連動文 2	事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
7	中間テスト	8～13 文法	前回まで習った部分を復習する。
8	第 14 課 私は英語を話せます	助動詞「会」「能」「可以」 動詞の重ね方	事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
9	第 15 課 あなたはいつ来たのですか	「是……的」の構文 人民元の教え方	事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
10	第 16 課 十五課を習い終わりました	兼語文・結果補語 介詞「用」	事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
11	第 17 課 母が私に生活用品を送ってくれました	方向補語・介詞「給」 「从 A 到 B」の使い方	事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
12	第 18 課 私は中国語を聞いて分かります	可能補語 「先 A, 然后 B」の使い方	事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
13	第 19 課 兄が走るのが早い	完了の「了」・原因を表す表現 状態補語・時量の表現 数量表現	事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
14	第 20 課 鈴木先生は私たちにフランス語を教えてください	二重目的語の構文 助動詞「得」の使い方	事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
15	まとめ	14～20 課文法	前回まで習った部分を復習する。

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい中国語 (基礎編)	張慧娟 王武雲 朱藝	郁文堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams 「オンライン型」
Teams コード	t9co313
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	課題 60% テスト 40%
学生への メッセージ	教科書は必ず買ってください。 必ず授業動画を見て、課題を提出すること。 事前・事後学習に1時間ずつ要します。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	中国語を聞く a	科目名 (英文)	Chinese Listening a
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH2340e1		

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語を基礎に、読む・聞く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の準中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。
到達目標	中国語の基礎的な能力を身につけ、正しい発音で簡単な日常会話ができるようになる。
授業方法と留意点	授業は遠隔授業の教材配信型およびオンライン型による。学生と教師のインタラクティブな活動を中心に進め、聞く・話すの練習に力を入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験4級レベル。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	授業方法のガイダンス、1年生の文法の復習	1年生の文法を復習する。
2	第1課 値段を言う・尋ねる	本文、単語 1. 100以上の数	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
3	第1課 値段を言う・尋ねる	2. 「この/あの～」を表す【指示詞+量詞+名詞】 3. 値段を言う・尋ねる表現	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
4	第2課 商品を比較検討する	本文、単語 1. 比較構文 (一)	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
5	第2課 商品を比較検討する	2. 比較構文 (二) 3. 試してみたいかを尋ねるために	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
6	第3課 支払いの場面でやりとりする	本文、単語 1. 「少しX」「ちょっとX」という時の【有 点儿X】と【X一点儿】	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
7	第3課 支払いの場面でやりとりする	2. 特定可能なものを「Aの (B)」と手短かに伝える【A的 (B)】 3. 二重目的語構文	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
8	まとめと単元テスト	文法・語彙の復習、第1回単元テスト	テスト範囲の語句・構文を復習し、しっかりと習得する。
9	第4課 パーソナル・データに言及する	本文、単語 1. 「多」+形容詞 2. 年齢の尋ね方	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
10	第4課 パーソナル・データに言及する	3. 「状況更新確認モードの“了”」を利用する実現間近構文【快……了】 4. 「祝」+〈人〉+〈これから発生すること〉	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
11	第5課 目印を利用して目的地の場所を特定する	本文、単語 1. 場所を表すための方位詞	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
12	第5課 目印を利用して目的地の場所を特定する	2. 「ある場所の近く」を表す【〈目印〉+“附近”】 3. 方位を表す代名詞	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
13	第6課 目的地までの行き方を説明する	本文、単語 1. 道案内のための前置詞: 往、从、到、?	事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
14	第6課 目的地までの行き方を説明する	2. 目的地への行き方を尋ねる【去〈目的地〉+怎?走?】 3. 「V1したら、V2する」ことを表す【V10、V2】	事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
15	まとめと単元テスト	文法・語彙の復習、第2回単元テスト	テスト範囲の語句・構文を復習し、しっかりと習得する。

実務経験	
関連科目	「中国語を話す a」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アクション! 開始! 2	鈴木慶夏	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み: 70% 単元テスト: 30%

学生へのメッセージ	日本語訳や語句・構文を覚えるなど、予習と復習を行ってください。事前・事後に各 60 分の学習を要します。
担当者の研究室等	7 号館 3 階（小都研究室）
備考	授業は、1 年生の「ビジネス中国語基礎 a c」または「ビジネス中国語基礎 b d」を履修しているか、これと同等レベルの中国語能力を備えていることを前提として進める。 授業時間外に質問がある場合は、担当教員の授業曜日に研究室で問い合わせること。 単元テストは返却時、あるいは実施後に、間違いの多かったところを復習するなどし、必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を聞く b	科目名 (英文)	Chinese Listening b
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH2341e1		

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語をおよび今年度前期科目「中国語を聞く b」で学んだことを基礎に、読む・聞く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の準中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。
到達目標	中国語の基礎的な能力を身につけ、正しい発音で簡単な日常会話ができるようになる。
授業方法と留意点	Teamsを使った動画配信型授業を行う。毎回の授業後にオンラインテストを受験する必要がある。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験4級レベル。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第5課 目印を利用して目的地の場所を特定する	本文、単語1. 場所を表すための方位詞	事前に本文と学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
3	第5課 目印を利用して目的地の場所を特定する	2. 「ある場所の近く」を表す【(目印) + “附近”】3. 方位を表す代名詞	事前に学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
4	第6課 目的地までの行き方を説明する	本文、単語1. 道案内のための前置詞: 往、从、到、?	事前に本文と学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
5	第6課 目的地までの行き方を説明する	2. 目的地への行き方を尋ねる【去(目的地) + 怎?走?】「V1したら、V2する」ことを表す【V10、V2】	事前に学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
6	第7課 目的地までの所要時間と所要金額を伝える	本文、単語1. 幅としての時間「どのくらい」を表す語句事前に本文と学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
7	第7課 目的地までの所要時間と所要金額を伝える	2. 動詞“要”+<所要時間>3. 動詞“要”+<所要金額>事前に学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
8	第8課 交通案内についての必要な情報を伝える	本文、単語1. “要”+<VP>2. “不用”+<VP>事前に本文と学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に本文と学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
9	第8課 交通案内についての必要な情報を伝える	3. <VP1>時、要/不用+<VP2>4. “能不能”+<頼みたいこと>?事前に学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に本文と学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
10	第9課 要求事項と禁止事項を伝える	本文、単語1. “先”<先にやること>、“再”<その後やること>2. “請”<やってほしいこと>事前に学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
11	第9課 要求事項と禁止事項を伝える	3. “請”+“不要”<やらないでほしいこと>4. “請”+“勿”<やらないでほしいこと>事前に学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に本文と学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
12	第10課 目の前にある<ソレ>をどう処理するか伝える [A]	本文、単語1. 目の前の<ソレ>を<こういう状態にする>事前に本文と学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
13	第10課 目の前にある<ソレ>をどう処理するか伝える [A]	2. 「打開」と「关上」3. “将”を使って目の前の<ソレ>を<こういう状態にする>事前に学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に本文と学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
14	第11課 目の前にある<ソレ>をどう処理するか伝える [B]	本文、単語1. 目の前の<ソレ>を<ここに配置する>事前に本文と学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。	事前に学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。
15	第11課 目の前にある<ソレ>をどう処理するか伝える [B]	2. 目の前の<ソレ>を<ここに到達させる>3. 目の前の<ソレ>を<ここに入れる>	事前に本文と学習事項を予習(日本語訳)し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。

実務経験	
関連科目	「中国語を話す a」「中国語を聞く b」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アクション! 開始! 2	鈴木慶夏	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	中日辞典		
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	dyhki9e			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teams 上の質問用フォームで受付け、メールで回答する。			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	小テスト：100% ただし必要に応じてレポート課題を出すこともある。			
学生への メッセージ	この科目を履修するには中国語の学習歴が求められます。具体的には下の「備考」を参照してください。日本語訳や語句・構文を覚えるなど、予習と復習を行ってください。事前・事後に各60分の学習を要します。			
担当者の 研究室等	7号館3階(中西研究室)			
備考	授業は、1年生の「ビジネス中国語基礎 a c」または「ビジネス中国語基礎 b d」および2年生前期の「中国語を聞く b」を履修しているか、これと同等レベルの中国語能力を備えていることを前提として進める。 授業時間外に質問がある場合は、下記の方法で問い合わせること。質問に対してはメールなどの方法で必ずフィードバックを行う。			



科目名	中国語を話す a	科目名 (英文)	Chinese Speaking a
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH2342e1		

授業概要・目的	基礎中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。読む、聴く、書くと言う総合的な学習をバランスよく行います。
到達目標	中国語を使って日常会話ができるレベルを目指します。
授業方法と留意点	授業はオンラインで行います。 中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。大体、前の週に新しい文法と語彙を習い、次の週に完全に覚えるように指導する。毎回、単語小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第1課 友達になる①	文法 ・助動詞「会」(1) ・介詞「在～」 ・動量補語 ・「是?的」構文 ・助動詞「想」	事前に、第1課の単語を覚える。 授業後、p.9～p.11の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
2	友達になる②	・練習問題 ・会話を覚える	練習問題 p.12～p.13を解答する。 第1課の会話文を覚える。
3	第2課 行きたいところが多いです①	文法 ・介詞「給～」 ・複文「除了A、還(也)B」 ・動詞「打算」 ・反語文「不是??」 ・「連A都(也)B」	事前に、第2課の単語を覚える。 授業後、p.15～p.17の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
4	行きたいところが多いです②	・練習問題 ・会話を覚える	練習問題 p.18～p.19を解答する。 第2課の会話文を覚える。
5	第3課 久しぶり①	文法 ・動態助詞「了」 ・複文「一边A、一边B」 ・様態補語 ・使役文 ・二重目的語	事前に、第3課の単語を覚える。 授業後、p.21～p.23の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
6	久しぶり②	・練習問題 ・会話を覚える	練習問題 p.24～p.25を解答する。 第3課の会話文を覚える。
7	復習課 単元テスト1	・第1課?第3課の復習 ・単元テスト1	第1課?第3課の復習すること。 音声聴いて書き取りをすること。
8	第4課 愛い子に旅をさせる①	文法 ・複文「因為A、所以B」 ・助動詞「要」 ・助動詞「應該」 ・複文「如果A(的話)、就B」 ・助動詞「会」(2)	事前に、第4課の単語を覚える。 授業後、p.27～p.29の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
9	愛い子に旅をさせる②	・練習問題 ・会話を覚える	練習問題 p.30～p.31を解答する。 第4課の会話文を覚える。
10	第5課 外国人はみなラーメンが好きだよ①	文法 ・複文「先A、然后B」 ・複文「A是A、不過B」 ・可能補語 ・複文「不管A、都B」 ・複文「既A、又B」	事前に、第5課の単語を覚える。 授業後、p.33～p.35の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
11	外国人はみなラーメンが好きだよ②	・練習問題 ・会話を覚える	問題 p.36～p.37を解答する。 第5課の会話文を覚える。
12	第6課 今日は僕がおごる①	文法 ・複文「不但A、而且B」 ・複文「要麼A、要麼B」 ・「提議」の使い方 ・語気助詞「了」 ・結果補語	事前に、第6課の単語を覚える。 授業後、p.39～p.41の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
13	今日は僕がおごる②	・練習問題 ・会話を覚える	問題 p.42～p.43を解答する。 第6課の会話文を覚える。
14	復習課	・第4課?第6課の既習語彙、文法や語順、基本文型を復習する	第4課?第6課の練習問題に出ている文や文法などを覚えているかどうか再度確認する。
15	単元テスト2	・会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言う事で、訳す力、話す力を高める。	事前に、第4課?第6課の復習すること。

実務経験	
関連科目	「中国語を聞く a」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	仲間て話そう中国語	徐 送迎	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	オンライン授業への参加度と課題：70% 期末テスト：30%			
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）			
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習（テキストを読む。1時間 x13回）、 復習（講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間 X13回）、 自己学習（講義プリントに収録されている確認問題を解答する。）			

科目名	中国語を話す b	科目名 (英文)	Chinese Speaking b
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH2343e1		

授業概要・目的	基礎中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。読む、聴く、書くと言う総合的な学習をバランスよく行います。
到達目標	中国語を使って日常会話ができるレベルを目指します。
授業方法と留意点	中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。大体、前の週に新しい文法と語彙を習い、次の週に完全に覚えるように指導する。毎回、単語小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第6課 今日は僕がおごる①	文法 ・複文「不但A、而且B」 ・複文「要麼A、要麼B」 ・「提議」の使い方 ・語気助詞「了」 ・結果補語	事前に、第6課の単語を覚える。 授業後、p.39～p.41の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
2	今日は僕がおごる②	・練習問題 ・会話を覚える	問題 p.42?p.43を回答する。 第6課の会話文を覚える。
3	第7課 私達の夢①	文法 ・介詞「作為～」 ・「想好了」と「還沒想好」 ・禁止を表す「別」と「不要」 ・動態助詞「着」 ・複文「?然A、但是B」	事前に、第7課の単語を覚える。 授業後、p.45～p.47の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
4	私達の夢②	・練習問題 ・会話を覚える	練習問題 p.48～p.49を解答する。 第7課の会話文を覚える。
5	第8課 僕は一つ願いがあある①	文法 ・兼語文 ・挿入語「据说～」と「听说」 ・複文「只要A、就B」 ・複語方向補語「?出来」 ・複文「不但A、還B」	事前に、第8課の単語を覚える。 授業後、p.51～p.53の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
6	僕は一つ願いがあある②	・練習問題 ・会話を覚える	練習問題 p.54～p.55を解答する。 第8課の会話文を覚える。
7	第9課 プライベートなお話をしてもいいですか?①	文法 ・介詞「向?」 ・助動詞「可以」と「能」 ・比較文「A比B?」 ・複文「即使A、也B」 ・時量補語	事前に、第9課の単語を覚える。 授業後、p.57～p.59の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
8	プライベートなお話をしてもいいですか?②	・練習問題 ・会話を覚える	練習問題 p.60～p.61を解答する。 第9課の会話文を覚える。
9	第10課 連絡方法①	文法 ・「快?了」 ・助動詞「得」 ・「把」構文 ・副詞「就」と「才」 ・複文「一A、就B」	事前に、第10課の単語を覚える。 授業後、p.63～p.65の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
10	連絡方法②	・練習問題 ・会話を覚える	練習問題 p.66～p.67を解答する。 第10課の会話文を覚える。
11	第11課 北京に集まる①	文法 ・「越来越?」 ・動作の進行を表わす「在」 ・構造助詞「地」 ・動態助詞「過」 ・受身文「被?」	事前に、第11課の単語を覚える。 授業後、p.69～p.71の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
12	北京に集まる②	・練習問題 ・会話を覚える	問題 p.72～p.73を解答する。 第11課の会話文を覚える。
13	第12課 遊びに来て下さい①	文法 ・介詞「跟～」 ・副詞「再」と「又」 ・複文「既然A、(就)B」 ・介詞「離～」 ・「有点儿」と「一点儿」	事前に、第12課の単語を覚える。 授業後、p.75～p.77の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
14	遊びに来て下さい②	・練習問題 ・会話を覚える	問題 p.78～p.79を解答する。 第12課の会話文を覚える。
15	テスト	・会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言う事で、訳す力、話す力を高める。	事前に、第10課?第12課の復習すること。

実務経験									
関連科目	「中国語を聞く a」								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名				
番号	書籍名	著者名	出版社名						

	1	仲間で話そう中国語	徐 送迎	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	afvzf51			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	オンライン出席と課題の提出70% オンラインテスト30%で評価する。			
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。			
担当者の 研究室等				
備考	講義前の予習（テキストを読む。1時間 x13回）、 復習（講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間 X13回）、 自己学習（講義プリントに記載されている確認問題を解答する。）			

科目名	日本語表現法 I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1322a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書かなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前・教科書・資料の見直し (1時間)
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す (1時間)
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前・教科書・資料の見直し (1時間)
	12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	教科書・資料の復習 (1時間)
	13	フィードバック	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す (1時間)
	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する (1時間)
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	小テストの復習 (1時間)	

実務経験	
関連科目	ゼミ、卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	事前事後学習時間の目安は 15 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現法 I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	EFGH
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1322a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。 適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。 毎回の授業は教科書に沿って講義を進める。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて2時間
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて2時間
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習 事前事後あわせて2時間
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習 事前事後あわせて2時間
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて2時間
7	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す 事前事後あわせて2時間
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて2時間
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて2時間
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて2時間
11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習 事前事後あわせて2時間
12	レポートの書き方1	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習 事前事後あわせて2時間
13	レポートの書き方2 フィードバック1	レポート作成の補足 課題2のフィードバック	課題2を見直す 事前事後あわせて2時間
14	フィードバック2 資料収集の方法	課題2のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題2を見直す 事前事後あわせて2時間
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習 事前事後あわせて2時間

実務経験	
関連科目	ゼミ、卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。  課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に

メッセージ	日本語と向き合ってください。  ※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝るなどというのはもってのほかです。真面目に学ぼうとする人の学習権を侵害する行為はやめてください。注意してもやめない場合はそれなりの措置をとることがあります。他人に迷惑をかけない、という最低限の大人のマナーは守ってください。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室） 学習支援センター
備考	そう学習時間の目安は60時間。 課題提出については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現法Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長谷川 雄高
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1323a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果(資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明、グループ分け	教科書の「文章の書き方1」「文章の書き方2」を読む(60分)
2	文章の書き方	文章作成の基本事項やわかりやすい文章の書き方について	教科書の「事実と意見」「意見を述べる」「原稿用紙の使い方」を読む(60分)
3	事実と意見とその述べ方	事実と意見の書き分けや意見の述べ方について	教科書の「文章を引用する」「図表を引用する」「構成」を読む(60分)
4	引用と構成	引用と構成について	プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う(150分)
5	課題①	各人で課題①論説文を作成する	—
6	ディスカッション①	ディスカッションについての説明	選んだテーマをもとにディスカッションの準備を行う(60分)
7	ディスカッション②	プレゼンテーションへ向けてのグループ・ディスカッションを行う	課題②を作成する準備を行う(60分)
8	課題②	各人でディスカッションの経過を記した議事録を作成する	—
9	プレゼンテーションについて	プレゼンテーションのやり方や資料について	ディスカッションを踏まえ、自らの考えプレゼンテーション資料を作成する準備を行う(120分)
10	プレゼンテーション資料を作る	グループで発表資料を作成する	プレゼンテーション資料の作成や推敲、リハーサルの準備を行う(120分)
11	プレゼンテーションの準備	グループで資料作成や発表のリハーサルを行う	プレゼンテーション資料の推敲やリハーサルを行う(120分)
12	プレゼンテーション①	グループによる発表・質疑を行う	発表したグループのメンバーは質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う(90分)
13	プレゼンテーション②	グループによる発表・質疑を行う	発表したグループのメンバーは質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う(90分)
14	課題③	各人で発表内容をまとめた文章を作成する	—
15	おわりに	講評・まとめ	—

実務経験	
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」、Teams「オンライン型」
Teamsコード	wmqhxbg
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	yutaka.hasegawa@edu.setsunan.ac.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	「何となく決まった」から、「意見を作り、交換し、まとめる」に挑戦してみましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。 質問等は出講時に非常勤講師室において対応する。



科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早石 典史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1347a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。																																																																		
到達目標	基礎的な問題、具体的には指定教科書に掲載されている程度の難易度の問題を、自力で解けるようになること。																																																																		
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>整式の計算(1)</td> <td>・計算の法則 ・因数分解</td> <td>事前に第1章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>整式の計算(2)</td> <td>・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理</td> <td>事前に第1章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>分数式・無理式(1)</td> <td>・通分の規則</td> <td>事前に第2章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>分数式・無理式(2)</td> <td>・平方根, 立方根 ・有理化の計算</td> <td>事前に第2章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1次方程式(1)</td> <td>・等式の基本法則</td> <td>事前に第3章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1次方程式(2)</td> <td>・方程式の導き方 ・解き方</td> <td>事前に第3章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1次不等式(1)</td> <td>・不等式の基本法則</td> <td>事前に第3章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1次不等式(2)</td> <td>・不等式の導き方 ・解き方</td> <td>事前に第3章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立1次方程式(1)</td> <td>・連立方程式の導き方</td> <td>事前に第4章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立1次方程式(2)</td> <td>・解き方 ・基本法則</td> <td>事前に第4章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立1次方程式(3)</td> <td>・消去法</td> <td>事前に第4章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>場合の数(1)</td> <td>・数え上げの原則</td> <td>事前に第5章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>場合の数(2)</td> <td>・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ</td> <td>事前に第5章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>確率(1)</td> <td>・確率の計算</td> <td>事前に第6章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>確率(2)</td> <td>・くりかえす試行の確率</td> <td>事前に第6章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	事前に第1章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	事前に第1章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	事前に第2章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	4	分数式・無理式(2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	事前に第2章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	5	1次方程式(1)	・等式の基本法則	事前に第3章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	6	1次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	事前に第3章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	7	1次不等式(1)	・不等式の基本法則	事前に第3章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	8	1次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	事前に第3章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	9	連立1次方程式(1)	・連立方程式の導き方	事前に第4章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	10	連立1次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	事前に第4章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	11	連立1次方程式(3)	・消去法	事前に第4章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	12	場合の数(1)	・数え上げの原則	事前に第5章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	13	場合の数(2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	事前に第5章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	14	確率(1)	・確率の計算	事前に第6章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	事前に第6章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	事前に第1章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。																																																																
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	事前に第1章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。																																																																
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	事前に第2章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。																																																																
4	分数式・無理式(2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	事前に第2章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。																																																																
5	1次方程式(1)	・等式の基本法則	事前に第3章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。																																																																
6	1次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	事前に第3章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。																																																																
7	1次不等式(1)	・不等式の基本法則	事前に第3章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。																																																																
8	1次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	事前に第3章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。																																																																
9	連立1次方程式(1)	・連立方程式の導き方	事前に第4章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。																																																																
10	連立1次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	事前に第4章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。																																																																
11	連立1次方程式(3)	・消去法	事前に第4章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。																																																																
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	事前に第5章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。																																																																
13	場合の数(2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	事前に第5章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。																																																																
14	確率(1)	・確率の計算	事前に第6章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。																																																																
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	事前に第6章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	課題(演習)および最終回に課すレポート問題から総合的に判断して成績評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分です。授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問して下さい。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階(数学準備室)																																																																		
備考	事前事後学習は毎回30分以上の時間をかけてください。課題は採点して返却し、重要な箇所は講義中に解説します。																																																																		

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神 貞介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1347a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。																																																																		
到達目標	高校の初年度級の数学的知識の復習を出発点として、経営系の学生にとって、最低限必要な数学的素養を確実に身につけることを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	資料配信型でのオンライン授業を実施する。授業計画に挙げた内容を解説し、課題演習で理解を深める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>整式の計算 (1)</td> <td>・ 計算の法則 ・ 因数分解</td> <td>事後：レポート課題を解く (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>整式の計算 (2)</td> <td>・ 整式の割り算 ・ 剰余, 因数の定理</td> <td>事後：レポート課題を解く (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>分数式・無理式 (1)</td> <td>・ 通分の規則</td> <td>事後：レポート課題を解く (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>分数式・無理式 (2)</td> <td>・ 平方根, 立方根 ・ 有理化の計算</td> <td>事後：レポート課題を解く (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1 次方程式 (1)</td> <td>・ 等式の基本法則</td> <td>事後：レポート課題を解く (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1 次方程式 (2)</td> <td>・ 方程式の導き方 ・ 解き方</td> <td>事後：レポート課題を解く (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1 次不等式 (1)</td> <td>・ 不等式の基本法則</td> <td>事後：レポート課題を解く (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1 次不等式 (2)</td> <td>・ 不等式の導き方 ・ 解き方</td> <td>事後：レポート課題を解く (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立 1 次方程式 (1)</td> <td>・ 連立方程式の導き方</td> <td>事後：レポート課題を解く (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立 1 次方程式 (2)</td> <td>・ 解き方 ・ 基本法則</td> <td>事後：レポート課題を解く (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立 1 次方程式 (3)</td> <td>・ 消去法</td> <td>事後：レポート課題を解く (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>場合の数 (1)</td> <td>・ 数え上げの原則</td> <td>事後：レポート課題を解く (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>場合の数 (2)</td> <td>・ 並べ方, 選び方 ・ 順列, 組み合わせ</td> <td>事後：レポート課題を解く (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>確率 (1)</td> <td>・ 確率の計算</td> <td>事後：レポート課題を解く (1 時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>確率 (2)</td> <td>・ くりかえす試行の確率</td> <td>事後：レポート課題を解く (1 時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	整式の計算 (1)	・ 計算の法則 ・ 因数分解	事後：レポート課題を解く (1 時間)	2	整式の計算 (2)	・ 整式の割り算 ・ 剰余, 因数の定理	事後：レポート課題を解く (1 時間)	3	分数式・無理式 (1)	・ 通分の規則	事後：レポート課題を解く (1 時間)	4	分数式・無理式 (2)	・ 平方根, 立方根 ・ 有理化の計算	事後：レポート課題を解く (1 時間)	5	1 次方程式 (1)	・ 等式の基本法則	事後：レポート課題を解く (1 時間)	6	1 次方程式 (2)	・ 方程式の導き方 ・ 解き方	事後：レポート課題を解く (1 時間)	7	1 次不等式 (1)	・ 不等式の基本法則	事後：レポート課題を解く (1 時間)	8	1 次不等式 (2)	・ 不等式の導き方 ・ 解き方	事後：レポート課題を解く (1 時間)	9	連立 1 次方程式 (1)	・ 連立方程式の導き方	事後：レポート課題を解く (1 時間)	10	連立 1 次方程式 (2)	・ 解き方 ・ 基本法則	事後：レポート課題を解く (1 時間)	11	連立 1 次方程式 (3)	・ 消去法	事後：レポート課題を解く (1 時間)	12	場合の数 (1)	・ 数え上げの原則	事後：レポート課題を解く (1 時間)	13	場合の数 (2)	・ 並べ方, 選び方 ・ 順列, 組み合わせ	事後：レポート課題を解く (1 時間)	14	確率 (1)	・ 確率の計算	事後：レポート課題を解く (1 時間)	15	確率 (2)	・ くりかえす試行の確率	事後：レポート課題を解く (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	整式の計算 (1)	・ 計算の法則 ・ 因数分解	事後：レポート課題を解く (1 時間)																																																																
2	整式の計算 (2)	・ 整式の割り算 ・ 剰余, 因数の定理	事後：レポート課題を解く (1 時間)																																																																
3	分数式・無理式 (1)	・ 通分の規則	事後：レポート課題を解く (1 時間)																																																																
4	分数式・無理式 (2)	・ 平方根, 立方根 ・ 有理化の計算	事後：レポート課題を解く (1 時間)																																																																
5	1 次方程式 (1)	・ 等式の基本法則	事後：レポート課題を解く (1 時間)																																																																
6	1 次方程式 (2)	・ 方程式の導き方 ・ 解き方	事後：レポート課題を解く (1 時間)																																																																
7	1 次不等式 (1)	・ 不等式の基本法則	事後：レポート課題を解く (1 時間)																																																																
8	1 次不等式 (2)	・ 不等式の導き方 ・ 解き方	事後：レポート課題を解く (1 時間)																																																																
9	連立 1 次方程式 (1)	・ 連立方程式の導き方	事後：レポート課題を解く (1 時間)																																																																
10	連立 1 次方程式 (2)	・ 解き方 ・ 基本法則	事後：レポート課題を解く (1 時間)																																																																
11	連立 1 次方程式 (3)	・ 消去法	事後：レポート課題を解く (1 時間)																																																																
12	場合の数 (1)	・ 数え上げの原則	事後：レポート課題を解く (1 時間)																																																																
13	場合の数 (2)	・ 並べ方, 選び方 ・ 順列, 組み合わせ	事後：レポート課題を解く (1 時間)																																																																
14	確率 (1)	・ 確率の計算	事後：レポート課題を解く (1 時間)																																																																
15	確率 (2)	・ くりかえす試行の確率	事後：レポート課題を解く (1 時間)																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	課題演習 (40%) 及び最終回のレポート (60%) の合計で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。																																																																		
担当者の研究室等	3 号館 3 階 (数学準備室)																																																																		
備考	課題演習を毎回返却する予定なので、きちんと確認すること。																																																																		

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早石 典史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1348a1		

授業概要・目的	この授業では、1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標にする。
到達目標	基礎的な問題、具体的には指定教科書に掲載されている程度の難易度の問題を、自力で解けるようになること。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	事前に第7章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	事前に第7章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	事前に第7章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	事前に第7章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	事前に第7章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	事前に第8章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	事前に第8章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	事前に第9章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	事前に第9章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	
10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	事前に第9章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	
11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	事前に第9章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	事前に第10章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	
13	積分(2)	・区分積法 ・定積分	事前に第10章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	事前に第10章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	事前に第10章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。	

実務経験	
関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」
Teamsコード	0hwqxsax
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	課題演習30%、期末試験70%で判定し評価する。 (期末試験についてはCOVID19感染状況次第ではレポート等の代替手段への変更も有り得る。)
学生へのメッセージ	どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	3号館3階(数学準備室)
備考	事前事後学習は毎回30分以上かけてください。重要な箇所は講義中に解説します。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	神 貞介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1348a1		

授業概要・目的	この授業では、1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標にする。
到達目標	1次関数、2次関数の復習を出発点として、数列、簡単な微積分の計算などを習得することを目標とする。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。 授業計画を変更し、最初の数回は、数学基礎Ⅰでやり残した内容を講義する。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	事後：レポート課題を解く(1時間)
	2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	事後：レポート課題を解く(1時間)
	3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	事後：レポート課題を解く(1時間)
	4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	事後：レポート課題を解く(1時間)
	5	無理関数	・逆関数 ・定義域	事後：レポート課題を解く(1時間)
	6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	事後：レポート課題を解く(1時間)
	7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	事後：レポート課題を解く(1時間)
	8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	事後：レポート課題を解く(1時間)
	9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	事後：レポート課題を解く(1時間)
	10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	事後：レポート課題を解く(1時間)
	11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	事後：レポート課題を解く(1時間)
	12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	事後：レポート課題を解く(1時間)
	13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	事後：レポート課題を解く(1時間)
	14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	事後：レポート課題を解く(1時間)
	15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	事後：レポート課題を解く(1時間)

実務経験	
関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle
Teamsコード	4vv7bit
Moodleコース名 および登録キー	未定 未定
連絡手段	Twitter・メール等
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	小テスト・レポート：30% 期末テスト：70%  遠隔授業の場合、課題と期末レポートで成績を決める。
学生への メッセージ	どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
担当者の 研究室等	3号館3階(数学準備室)
備考	小テスト・レポートを毎回返却するので、きちんと確認すること。

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH1357a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業方法は、教材・課題提供型とし、Microsoft Teams、Moodleの2つのICTツールを使用する。 実技および講義教材を用いて一定期間内に学習し、課題を作成・提出することにより授業目的・到達目標の達成を目指す。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	・ガイダンス	・ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	事前: 授業概要・目的などを学習する(30分)	事後: 本実習の理解を深める(30分)
2	・体力測定①	・屋外種目	事前: 運動を行い体力測定に備える(30分)	事後: 自身の体力についての振り返り(30分)
3	・体力測定②	・屋内種目	事前: 運動を行い体力測定に備える(30分)	事後: 自身の体力についての振り返り(30分)
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前: 基礎知識を学習しておく(30分)	事後: 新しく学んだ基礎知識について振り返る(30分)
5	・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前: ルールについて学習しておく(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
6	・基本技術(基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
7	・基本技術(基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
8	・基本技術(応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
9	・基本技術(応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 全授業の総括(30分)

実務経験	
関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	活動点50%、課題点50%として、総合評価する。

(基準)	
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと。



科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practicum in Sports Science II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH1358a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本科目は、「対面授業」と授業時間内に課題を提出する「遠隔授業」を併用し授業を行う。対面授業は大学施設を使用し実技を実施し、遠隔授業ではMicrosoft Teamsを使用し「教材・課題配信型」として実施する。なお、遠隔授業においても、実際の授業時間内に課題を行い提出することとする。学生は諸事情により「対面授業」から「遠隔授業」、「遠隔授業」から「対面授業」へ切り替えることができる。本科目は、対面であれば実際の実技によって授業目的・到達目標の達成を目指し、「教材・課題配信型」であれば講義教材を用いて学習し
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス	・対面授業希望者、遠隔授業希望者共に共通でTeamsを用い、履修上の注意を行う	事前：授業概要・目的などを学習する(30分) 事後：本実習の理解を深める(30分)
2	【対面授業】 ・コース分け、種目の概要 ・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義・種目の概要 ・基礎知識について	【対面授業】 ・コース分け、種目の概要 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎知識を学習しておく(30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
3	【対面授業】 ・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルールについて学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
4	【対面授業】 ・基本技術(基礎編1) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
5	【対面授業】 ・基本技術(基礎編2) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
6	【対面授業】 ・基本技術(応用編1) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
7	【対面授業】 ・基本技術(応用編2) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
8	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
9	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	

		・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	10	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	11	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	12	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	13	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	14	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	15	・総括	・対面授業希望者、遠隔授業希望者共に共通で後期授業の振り返りを行い、授業アンケート、今後の健康スポーツについて説明をする（生涯スポーツなど）	事前：これまでのまとめと健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
実務経験																				
関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実践と理論、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実践、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実践																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業																			
Teamsコード	kehzwj																			
Moodleコース名および登録キー																				
連絡手段	チャット（チャットが使用不可の場合は学内メール）																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法（基準）	対面授業・・・活動点50％、態度点＋技能点50％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。 遠隔授業・・・活動点50％、課題点50％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。課題点とは課題内容とする。																			
学生へのメッセージ	・授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともあります。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席してください。 ・トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を使用してください。 ・授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来てください。																			
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																			
備考	・東側グラウンドに移動する際は、交通量の多い公道を横断する必要があります。学生の事故防止のため、また自動車・バイクや近隣住人の迷惑にならないために、必ず正門前の横断歩道を使用してください。ルールを守らない場合や教員・守衛の指示に従わない場合は、単位を認めません。 ・万一、コロナウィルスの影響で対面授業が困難と判断された場合は、「遠隔授業」に切り替える。																			



科目名	生涯スポーツ実習（ゴルフ）	科目名（英文）	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH1359a1		

**授業概要・目的**  
 ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的にする。  
 短期間の練習で最後に実際にコースに出てラウンドするという、ハードスケジュールではあるが、コースでラウンドする経験は、テレビなどで見るだけのゴルフとは違う楽しさや、難しさを体験できる。  
 また、社会人になってもコミュニケーションツールとしてゴルフをするための基礎となる。  
 ゴルフを通じて、打つ技術だけではなく、人と人のコミュニケーションや社会人としてのルール・マナーを身につける。  
 SDGs-3, 4, 5

**到達目標**  
 ①健康の保持増進ができる  
 ②運動技能を向上させることができる  
 ③競技ルール、ラウンドマナーを理解することができる  
 ④学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる  
 学科の学習・教育目標との対応：[A]

**授業方法と留意点**  
 事前ガイダンス（90分）と集中授業4日間（午前、午後、最終日は午後のみ）合わせて5日間で行う。  
 日程は、オンラインで事前ガイダンスを予定（詳細はポータルで連絡）、9月7日（月）～10日（木）5日間すべて受講できること。  
 コロナ感染症対策を事前ガイダンスで周知し、実施する。  
 事前の申し込みが受け付けられることが必要。  
 申込用紙は履修ガイダンス時に配布。

**科目学習の効果（資格）**  
 ゴルフを実践する最低限の打球技術、ルール、マナーを習得できる。  
 ゴルフを通じて人と人のコミュニケーションを図ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要		事後：ゴルフの概要を確認（1時間）
2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	事前：ルールの再確認（1時間）	事後：授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）
3	ゴルフの基礎技術（1）	グリップ、スウィング	事前：午前中のルール・マナーについて確認（1時間）	事後：技術の反復練習 タオルスイングなど 授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）
4	ゴルフの基礎技術（2）	打球練習場での練習 アイアン	事前：前日の技術練習のポイント再確認（1時間）	事後：授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）
5	ゴルフの基礎技術（3）	アプローチ、パター練習	事前：前日の技術練習のポイント再確認（1時間）	事後：技術の反復練習 ルールの再確認（1時間）
6	ゴルフの応用技術（1）	打球練習場での練習 ドライバー	事前：前日までの技術練習のポイント再確認（1時間）	事後：技術の反復練習 ルールの再確認（1時間）
7	ゴルフの応用技術（2）	ミニラウンド	事前：前日までの技術練習のポイント再確認（1時間）	事後：ラウンド時のルール・マナーの再確認 授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）
8	ゴルフの実践	ラウンド（9H）	事前：ラウンドのイメージトレーニング（1時間）	事後：授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

**実務経験**

**関連科目** スポーツ科学実習Ⅰ、Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

**授業形態** 対面授業

**Teams コード**

**Moodle コース名および登録キー**

**連絡手段** 学内メール

**メールアドレス** メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。  
メールアドレス：

評価方法 (基準)	活動点(態度点含む)50%、技能点25%および実習ノート25%を総合評価する。
学生への メッセージ	履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室に来てください。 コロナの影響で、実施について変更することがあります。 事前ガイダンスはオンラインで行う予定です。
担当者の 研究室等	総合体育館1階 近藤研究室
備考	ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス(半ズボンの場合はハイソックス着用)、運動靴(スパイク類は禁止) ゴルフクラブは大学が用意しますが、ラウンド用のボール、ゴルフ用手袋は各自で用意してください。 雨天でも行いますので、着替えは多めに準備すること、体育館内でも行うことがあるので体育館シューズも用意してください。 本学東グラウンドに移動する際は、交通量の多い公道を横断する必要があります。事故防止のため、また自動車・バイクや近隣住人の迷惑にならないために、必ず正門前の横断歩道を使用してください

科目名	生涯スポーツ実習	科目名 (英文)	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH1359a1		

授業概要・目的	スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業方法は、教材・課題提供型とし、Microsoft Teams、Moodleの2つのICTツールを使用する。 実技および講義教材を用いて一定期間内に学習し、課題を作成・提出することにより授業目的・到達目標の達成を目指す。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	・ガイダンス	・ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	事前: 授業概要・目的などを学習する(30分)	事後: 本実習の理解を深める(30分)
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前: 基礎知識を学習しておく(30分)	事後: 新しく学んだ基礎知識について振り返る(30分)
3	・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前: ルールについて学習しておく(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
4	・基本技術(基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
5	・基本技術(基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
6	・基本技術(応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
7	・基本技術(応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 全授業の総括(30分)

実務経験	
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	活動点50%、課題点50%として、総合評価する。

(基準)	
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。
担当者の研究室等	体育館 1 F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと。

科目名	保健論	科目名 (英文)	Theory of Health
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉川 万紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH2329a1		

授業概要・目的	健康に関する問題や情報が溢れる現代社会において、正しい情報を選択ことが重要である。そのため本講義では、受講者が生涯にわたって自らの健康の維持増進を実行するための知識を学ぶ。
到達目標	①現代の健康問題について理解できる。 ②様々な健康に関する情報を知り、自身の健康に対する考えを持つことができる。 ③健康づくりのための知識を習得し、実践することができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果 (資格)	健康維持・増進に関する知識が身につく、受講者自身の健康管理ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	健康とは	健康の定義 平均寿命・健康寿命	健康の定義について復習すること
3	体の構造と機能	骨格筋・脳・神経系などの構造や機能について	骨格筋・脳・神経系などの構造や機能についての復習をしておくこと
4	肥満とは	肥満の要因 ダイエット	肥満の要因について復習すること
5	生活習慣病①	メタボリックシンドローム 生活習慣病、内臓脂肪、診断基準	メタボリックシンドロームの診断基準について復習すること
6	生活習慣病②	高血圧症、糖尿病、脂質異常症、コレステロール、心疾患、脳卒中	高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの疾患について復習すること
7	高齢者の健康問題	サルコペニア ロコモティブシンドローム 寝たきり	現在問題となっている、高齢者の健康問題について理解する
8	健康づくりのための運動基準	身体活動量 メッツ 健康日本21	健康づくりのための運動基準について復習すること
9	自身の健康チェック	除脂肪体重 体脂肪 BMI	自身の身長・体重を測定してくること 健康診断の結果を持参すること
10	運動トレーニング	運動・スポーツ トレーニングの原理・原則 筋力トレーニング	トレーニング方法について復習すること
11	健康に関わる食事	健康な食生活の形成 朝食の必要性	適切な食事について復習すること
12	睡眠と健康	レム睡眠・ノンレム睡眠 睡眠負債と睡眠障害	健康づくりのための睡眠について、復習すること
13	健康増進計画作成	受講者自身の運動維持・増進のための運動計画を、今までの知識を活用して作成する。	運動計画を実際に実施すること。
14	健康増進計画の実施 保健論まとめ	健康増進計画の実施状況についての確認。 1回から10回までの授業内容の復習	1回から10回までの授業内容を復習してくること。
15	保健論まとめ 確認テスト	11回から13回までの授業内容の復習	これまでの授業の復習をすること

実務経験	
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	平常点評価 30%、確認テスト 70%の割合で評価を行う。 平常点は毎回のレポートにより評価する。(出席するだけでは評価対象にならないので注意すること。)

学生への メッセージ	質問等がある場合は、事前にアポイントメントをとり、研究室あるいは総合体育館事務室に来ること
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階 非常勤講師室
備考	平常点は、毎回の授業のワークシートの内容を評価する。 初めのガイダンスには必ず出席のこと。 欠席を 5 回以上した際の単位取得は認めない。 事前事後学習の総時間の目安は 6 0 時間。

科目名	心理学 I	科目名 (英文)	Psychology I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 雅代
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1301a1		

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学 I では、個人に焦点をあて、かつ社会的現実と対比した日常での問題を取り上げ人間の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学についての基礎知識を習得する。2) 人間の行動を理解する。3) 社会の中の自己を確認する。4) 実生活と心理学のかかわりを理解し、日常生活に生かす。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じて VTR を使用する。簡単な心理学実験や自己分析などを行い、ディスカッション、課題の提出やレポートの提出を求める場合がある。また、授業の中で、課題の回答や、意見を求める場合は、QR コードを用いる。リアルタイムでの回答を回収した上で、心理学の問題について解説、授業内容を確認する課題の提出を行う場合がある。その際、携帯のカメラから QR コードを読み取る。携帯を忘れたり、充電が切れている場合は、紙での回答ができる。
科目学習の効果 (資格)	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	心理学とはどのような学問か	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究の考え方、今までの歩みについて概説する。	事前: 心理学の印象について自分なりの考えをまとめておくこと 学期末に向けての注意点は覚えておく (1 時間) 事後: 課題作成 (1 時間)
	2	生物学的基礎	他の動物が行う行動と比較しながら、生得的行動とは何か、初期経験が人間に与える影響について説明する。	前回の授業での VTR について課題を提出する。 事前: 実験手続き・関連文献を紹介するので読んでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめ、ノートを作成 (1 時間)
	3	初期学習	人間はいかに学ぶのか、また愛着について説明する。	前回の授業の課題を提出する。 事前: 実験手続き・関連文献を紹介するので読んでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	4	条件づけ	条件づけとは何か、古典的条件づけ、オペラント条件づけについて説明する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	5	社会的学習 (1)	学習とは学校での勉強のことでなく、経験のこをいう。人間における経験や、環境がいかに大切であるかまた学習効果について説明する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	6	社会的学習 (2)	子どもたちは様々な社会・環境から影響を受け経験を積んでいく。事実に基づいた出来事を紹介し、社会的学習について考察する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	7	ポジティブな学習とネガティブな学習	実験結果から読み取れる問題、人間の傾向についての検討。学習全般のまとめを行なう。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する 実験結果についてレポート作成する (2 時間)
	8	動機づけ (1)	人間が行動に駆り立てられる状況、様々な動機、動機の階層について説明する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	9	動機づけ (2)	生物的動機、内発的動機の違いについて説明する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成すること 授業の中で紹介した人物の動機について自分なりの考えをまとめて提出する。(2 時間)
	10	動機づけ (3)	社会的動機について説明する。人間がどのような動機を持つか、社会環境に影響受ける動機について事例や実験を通して解説する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	11	パーソナリティ (1)	パーソナリティがどのようなものであるのか概説する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	12	パーソナリティ (2)	パーソナリティのとらえ方。パーソナリティの形成について説明する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	13	パーソナリティ (3)	実際に使用されている様々なパーソナリティテストについて解説する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	14	パーソナリティ (4)	パーソナリティについて自己分析を行う。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	事前: 授業全般、分からない部分についてまとめておくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
実務経験				
関連科目	心理学 II と併せて履修することが望ましい。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験、講義内で行う小テスト・課題・レポート等を総合的に評価する。 【定期試験50%、小テスト・課題・レポート等50%】			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。 講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。 私語、他の授業の勉強、授業への回答以外で携帯を触る、他の学生へ迷惑が及ぶような場合、教員がそのように判断した場合は退出を求める場			
担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部非常勤控室)			
備考	授業内でQRによる回答、意見を求める場合、また、後日QRにより課題を提出する場合があります。文章が多くなりそうな問題には、紙によるレポート提出を行います。その都度、指示に従い回答、提出して下さい。それらの課題やレポートは評価の対象となります。 携帯の充電は十分行っておいてください。もし、動かない場合は、授業の最初にその旨、申し出てください。			



科目名	心理学Ⅱ	科目名(英文)	Psychology II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 雅代
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1302a1		

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。講義では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学Ⅱでは、日常での問題を多く取り上げ現実社会における対人間、集団関係でおこる心理状況の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学の知識を幅広く習得する。2) 社会と個人との関係を理解する。3) 集団におけるコミュニケーションの特質を理解する。4) 状況に左右される人間の心理や意思決定について理解する。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるために必要に応じてVTRを使用する。授業内において、簡単な心理学実験、心理学的な質問紙、自己分析などを行う、また内容について理解度を確認するため、課題の提出やレポートの提出を求める場合がある。その場合、QRコードを用いて提出を求める場合がある。スマートフォンなどの準備が必要になります。
科目学習の効果(資格)	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	心理学とは何か、社会・集団の中の心理について	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究についての考え方について説明する。後期において取り扱うトピックの概要説明。	事前：心理学はどのような学問かまとめておく(1時間)	事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
2	知覚(1)	人間理解につながる「見えのしくみ」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間)	事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
3	知覚(2)	知覚の種類、特徴、見えに及ぼす社会的影響について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間)	事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
4	発達(1)	人間の発達について説明する。	事前：実験について事前に紹介するので関連文献を読んでおくこと(1時間)	事後：授業についてまとめノート作成する 実験についてまとめる(2時間)
5	発達(2)	社会の中でどのように発達を遂げるのか。青年期における発達の特徴について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間)	事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
6	対人関係(1)	人はどのように他者を認知し自分を呈示していくものなのか、対人認知や印象形成について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間)	事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
7	対人関係(2)	人はどのような事をきっかけに親しくなっていくのか、実験によって科学的に証明された「対人魅力」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間)	事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
8	対人魅力(3)	「対人魅力」について説明する。親しくなっていく要因について更に解説する。また好きと愛の行動パターン、自己の愛のタイプについて実際に考えてみる。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間)	事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
9	集団(1)	集団について説明する。集団のもつ持つ影響力として「同調」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間)	事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
10	集団(2)	集団について理解を深める。集団のもつ持つ影響力として「服従」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間)	事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
11	集団(3)	ジンバルドが行った「監獄実験」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間)	事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
12	うわさ	うわさによるパニック行動、うわさの分類、社会的機能、発生、消滅のメカニズム等について、実際に世界でおきた事件を例に説明する。	事前：うわさの実験について紹介するのでよんでおくこと(1時間)	事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
13	援助行動(1)	援助行動の形成や発達の仕方について、また援助行動が行われる状況、行われない状況とはどのような状況か、意思決定はどのように行われるのか、実際のニュースなどを例に説明する。	事前：どのような援助が考えられるか考えておくこと(1時間)	事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
14	援助行動(2)	援助行動と対人ネットワークの重要性について説明する。ソーシャルサポートの重要性について解説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間)	事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	事前：疑問点がどこにあるのか考えておく(1時間)	事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)

実務経験	
関連科目	心理学Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle/Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	9h0j8kc			
Moodle コース名 および登録キー	2020年S心理学II（月曜3限） SM027			
連絡手段	Moodle内のメッセージ機能			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	今年度は、講義内で行う小テストやレポート、課題等を総合的に評価する。 【授業内で行う小テスト50%・課題・レポート提出50%】			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。 私語、他の授業の勉強、授業への回答以外で携帯を触る、他の学生へ迷惑が及ぶような場合、教員がそのように判断した場合は退出を求める場合がございます			
担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部非常勤控室)			
備考	ムードルでの課題提出、QRコードによる回答など、意見を求める場合があります。文章が多くなりそうな問題には、紙(ファイル)によるレポート提出を求めます。その都度、指示に従い回答、提出して下さい。それらの課題やレポートは評価の対象となります。携帯の充電は十分行っておいてください。もし、動かない場合は、授業の最初にその旨、申し出てください。			

科目名	哲学 I	科目名 (英文)	Philosophy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1303a1		

**【授業全体のあらまし】**  
「哲学」と聞くと、皆さんはどんなことを思い浮かべるでしょうか。「難しそうだな」と思うでしょうか。それとも「面白そう」とか、「深い話が聞けるかもしれない」と思う人もいるでしょうか。  
辞書で「哲学」と調べると、たいてい、次の二つの意味が載っています。  
一つ目は「自分自身の経験などから作り上げた人生観・世界観」というものです。このような意味での「哲学」は、「人生哲学」といったほうが正確かもしれません。何かの分野で成功した人や、興味深い人生観を持つ人が、このような意味での「哲学」について講演したり、本を出版することがあります。このような「哲学」を、この授業に期待してくれている人もいますかもしれません。  
もう一つの意味は「世界や人間の究極の根本原理を理性的に追求する学問」というものです。これはたとえば、「タレス」という哲学者は、世界の「根本原理」を「水」と考えたとか、「プラトン」という哲学者にとっては、「根本原理」は「善のイデア」である、とか、そのような仕方でも説明されることがあります。こちらの「哲学」は、もしかすると、私たちの日常生活からかけ離れた、空想めいた話のように聞こえてしまうこともあるかもしれません。「タレス」という人が、根本原理は「水」だと言ったからといって、それと自分の人生に一体何の関係があるのだ、私たちがそのことを学ぶメリットが一体どこにあるのか、と疑問に思う人もいますかもしれません。  
今挙げた「哲学」の様々な特徴——難しそうだとか、でも何か深いことを言っているのではないかと、人生の大事な指針になるのではないかと、いや、単に空想めいた、日常生活からかけ離れたことにすぎないのではないかと、ということ——は、おそらく、すべて当たっているところがあると思います。その中で、私としては、できるだけ哲学の「日常生活からかけ離れた」要素は少なくして、皆さんの人生に深くかかわる可能性がある部分を集中的に扱いたいと思います。  
歴史上、現代まで伝えられてきた哲学者がいます。その人たちは、死後何百年、人によっては何千年も経っているのに、まだ忘れ去られることなく、「その人の考えは今生きている私たちの参考になる」と、ずっと思われ続けてきた人たちです。どこかの時代の人が「もうこの人は何の参考にもならない」と思ったとしたら、現代にまで伝わっていないかもしれません。  
この授業では、このような人々の何人かを選んで、その人たちが言っていることなかで、現代を生きる私たちの参考になりそうなことを、皆さんと一緒に探っていきたいと思います。このような人たちの哲学は、世界の根本原理の説明から、人生どのように生きるべきか、他者や自己とどのように付き合うべきか等、様々な要素を含んでおり、しかもそれらが密接に繋がって、一つの大きな、言わば「世界の見方」を作っています。皆さんは、その中で「これはなかなかいいな」とか「これはどうだろうか」と、自由な感性で考えてほしいと思います。ただし、その際に、「なぜ自分はそう思ったのだろうか」とさらに踏み込んで考えてもらおうと、これらの人々のことも、自分自身のことも、さらに深く理解できるようにするのではないのでしょうか。  
授業では、西洋哲学史上の著名な哲学者を十数名扱う予定です。しかし、一部変更がある可能性がありますので、その際はご承知願いたいと思います。

**【各学部・学科の教育目的に基づいた位置づけ】**  
本授業は、本学経営学部経営学科のDP（ディプロマ・ポリシー）1における「社会人として必要な教養」と、CP（カリキュラム・ポリシー）①における「企業社会で活躍し、また貢献・奉仕することができる幅広い教養とグローバルな視野」の涵養の一環に位置付けられます（経営学部経営学科のDP、CPについての詳細は <http://www.setsunan.ac.jp/aboutus/policy/keiei/keiei.html> を参照してください）。

**到達目標**  
授業で扱う西洋哲学史上の人物について、①彼らの置かれた時代的背景 ②彼らの考えの要点 ③後の時代に与えた影響 の3点を理解すること。

**【授業形式】**  
講義を中心とする。しかし、特定のテーマについてピア・ディスカッション（机の隣の人との議論）をしてもらうことがある。また、授業内容に関する小問題を授業中に解いてもらうことがある。

**【講義時間内のスケジュール（予定）】**  
前回のコメントシートへの返答、前回の小問題の解説（10分-20分）  
コメントシート（小問題が付く場合がある）配布、今回の講義のポイント解説（10分-20分）  
講義（50分程度）  
コメントシート提出（5分）

**科目学習の効果（資格）**

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の説明	特になし
2	古代ギリシアの哲学（1）	ソクラテス以前、ソクラテスの思想の概要を扱う予定である	予習：前回配布した穴埋めプリント（A3両面で2枚程度）を読み直すこと 復習：配布資料（プラトン『ソクラテスの弁明』から抜粋）を読んでくること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
3	古代ギリシアの哲学（2）	プラトンの思想の概要を扱う予定である	予習：前回配布した穴埋めプリント（A3両面で2枚程度）を読み直すこと 復習：配布資料（プラトン『国家』から抜粋）を読んでくること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
4	古代ギリシアの哲学（3）	アリストテレスの思想の概要を扱う予定である	予習：前回配布した穴埋めプリント（A3両面で2枚程度）を読み直すこと 復習：配布資料（アリストテレス『形而上学』から抜粋）を読んでくること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
5	古代ギリシア・ローマの哲学	ストア派の思想の概要を扱う予定である	予習：前回配布した穴埋めプリント（A3両面で2枚程度）を読み直すこと 復習：配布資料（セネカ『生の短さについて』から抜粋）を読んでくること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
6	中世の哲学（1）	ユダヤ教とキリスト教の思想の概要を扱う予定である	予習：前回配布した穴埋めプリント（A3両面で2枚程度）を読み直すこと

				復習：配布資料（『旧約聖書』『新訳聖書』から抜粋）を読んでくること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
	7	中世の哲学（2）	アウグスティヌスの思想の概要を扱う予定である	予習：前回配布した穴埋めプリント（A3両面で2枚程度）を読み直すこと 復習：配布資料（『新約聖書』『使徒言行録』、アウグスティヌス『告白』から抜粋）を読んでくること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
	8	中世の哲学（3）	トマス・アクィナスの思想の概要を扱う予定である	予習：前回配布した穴埋めプリント（A3両面で2枚程度）を読み直すこと 復習：配布資料（トマス『神学大全』から抜粋）を読んでくること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
	9	ルネサンスの哲学	ルネサンス期の思想を扱う予定である	予習：前回配布した穴埋めプリント（A3両面で2枚程度）を読み直すこと 復習：配布資料（カ?リレオ『クリスティーナ大公妃への手紙』から抜粋）を読んでくること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
	10	近代の哲学（1）	デカルト、ヒュームの思想の概要を扱う予定である	予習：前回配布した穴埋めプリント（A3両面で2枚程度）を読み直すこと 復習：配布資料（テ?カルト『方法序説』から抜粋）を読んでくること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
	11	近代の哲学（2）	カントの思想の概要を扱う予定である	予習：前回配布した穴埋めプリント（A3両面で2枚程度）を読み直すこと 復習：配布資料（カント『道徳形而上学の基礎付け』『純粋理性批判』から抜粋）を読んでくること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
	12	近現代の哲学（1）	進歩主義の思想を扱う予定である	予習：前回配布した穴埋めプリント（A3両面で2枚程度）を読み直すこと 復習：配布資料（タ?ーウィン『種の起源』序文原文、ヘーケ?ル『精神現象学』、マルクス・エンケ?ルス『共産党宣言』から抜粋）を読んでくること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
	13	近現代の哲学（2）	実存主義の思想を扱う予定である	予習：前回配布した穴埋めプリント（A3両面で2枚程度）を読み直すこと 復習：配布資料（ニーチェ、ハイテ?カ?ーから抜粋）を読んでくること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
	14	現代の哲学（1）	構造主義、ポストモダンの思想を扱う予定である	予習：前回配布した穴埋めプリント（A3両面で2枚程度）を読み直すこと 復習：配布資料（レウ?ィ=ストロース、リオタール、ト?ウルーズから抜粋）を読んでくること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
	15	現代の哲学（2）	現代社会に関する思想を扱う予定である	予習：前回配布した穴埋めプリント（A3両面で2枚程度）を読み直すこと 復習：配布資料（マクルーハン、ホ?ート?リヤールから抜粋）を読んでくること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
実務経験				
関連科目	哲学 I I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			

評価方法 (基準)	期末試験 60% 授業中の課題 40%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師控室
備考	<p>参考書等は授業時に適宜紹介します。質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。 非常勤講師室等における相談可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。</p> <p>連絡先： 貫井隆 nukui.takashi.54n★kyoto-u.jp ★は@に変えてください</p> <p>評価基準の40%である「授業中の課題」について： 「授業内容に関する小問題」を授業中に出題しますので、それによって評価します。 「授業内容に関する小問題」を実施する日時は授業中に連絡します</p>

科目名	哲学Ⅱ	科目名(英文)	Philosophy II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	濱 良祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1304a1		

授業概要・目的	<p>「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」、「他者とは何か」、「幸せとは何か」など、人間存在・人間関係に根本的に関わる難問に出会うことになる。</p> <p>この授業は、そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのためにこの授業では西洋哲学の諸思想を通して人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み、さらに現代という時代を生きる私たち自身のあり方について考察していく。</p>
---------	--

到達目標	<p>(1) 哲学に関する基礎的な知識を習得すること。</p> <p>(2) 人間存在や社会の問題に対する哲学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。</p> <p>(3) 自らの思考を適切に伝えるための論理的表現力を高めること。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>講義形式</p> <p>授業時に講義内容に関するプリントと講義動画を配信する。参考文献は必要に応じて授業中に適宜紹介する。</p> <p>受講者には、授業で紹介される哲学思想を単に学習するだけではなく、それらについて自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。</p> <p>前の回までの内容をふまえて講義することになるので、各授業後にしっかりと復習を行い、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。</p> <p>授業期間中に授業の理解度を試す小レポートを</p>
----------	--

科目学習の効果(資格)	現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身につけることができる。
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーションとイントロダクション	授業の進め方、目的について説明する。「哲学」することの意義について考察する。	〈復習〉ノート・資料の整理。
	2	「知」の可能性—哲学の端緒(1)	古代ギリシアの思想を通して「知」の可能性について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	3	「知」の探求—哲学の端緒(2)	ソクラテスの思想を通して「知」の探求の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	4	近代科学の方法と哲学(1)	西洋近代における自然観・人間観の変化と、それに基づく近代科学の発生などについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	5	近代科学の方法と哲学(2)	近代科学の方法論とその限界を、哲学的視点から考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	6	近代的自我の確立—デカルト(1)	デカルトの思想を紹介し、近代的自我の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	7	合理主義の世界観—デカルト(2)	デカルトの思想から、哲学における「神」と「世界」の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	8	経験主義の認識論(1)	ロックの思想から、確実な「知識」と蓋然的な「信念」の違いについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	9	経験主義の認識論(2)	ヒュームの認識論を取り上げ、人間はなぜ不確実なものを確実だと信じるのか、という問題について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	10	啓蒙と理性	啓蒙主義における人間の理性への確信と、その限界について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	11	経験主義と合理主義の総合—カント(1)	カントの認識論の基本的前提について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	12	対象の構成—カント(2)	カントの認識論における構成のしくみについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	13	真理の内在主義—カント(3)	カントのコペルニクス的転回の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	14	理性の二律背反—カント(4)	カント哲学における自然と自由の二元論と、それに基づく人間観について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。

実務経験	
関連科目	哲学Ⅰ、社会学、経済倫理、社会と人権

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	llwgt0a			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teams 内のチャット、および学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業内での小レポート等を40%、期末レポートを60%として、総合的に評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考	<p>提出物についての全体的な講評は授業内で行う。具体的な評価に関する問い合わせ、質問等には Teams 内のチャットまたは学内メールで対応することができる。</p> <p>授業外学習の目安は、予習復習を合わせて毎回1時間程度とする。</p>			



科目名	日本の歴史	科目名 (英文)	History of Japan
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曾我部 愛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1306a1		

授業概要・目的	日本史学を含む歴史学は、過去のさまざまな歴史的事象が、いかなる原因によって起こり、先人達がそれにどのように対応をしたかを学び取り、そこから現代社会に起こっている多様な問題を解決するための糸口を考える学問である。 本授業は、上記の前提に基づき、日本の歴史の基本的な流れを理解することを目的とする。 具体的には原始・古代から現代まで、毎回テーマを絞り込み、随時配布する資料レジュメをもとに講義を行う。その際、高校の教科書などで通説として理解されている事柄について、歴史学研究の最新の成果を紹介する。
到達目標	歴史を学ぶにあたっては、歴史的事象を、主観的・恣意的ではなく、客観的に捉える視角が必要である。したがって、本授業を通じて日本の歴史に関する最低限の知識を得た上で、歴史に対する関心・客観的な考え方、そこから現代社会全体を見通す視角を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	教材を配布し、その都度到達度を確認する(数回程度の課題提出)。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	原始・古代(1):先史・原史時代から歴史時代へ	日本列島への人類の渡来と定住から、弥生時代から古墳時代を経て、ヤマト王権の誕生までの流れを、近年の研究成果をふまえて概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「継体天皇」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
3	原始・古代(2):古代国家の成立と律令制の展開	朝鮮半島や隋との国際交流に注目しながら、日本における律令国家の成立と展開について説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「難波宮・藤原京」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
4	原始・古代(3):摂関政治から院政へ	平安時代に始まる政治制度である摂関政治と院政について概観する。また浄土信仰の興隆など文化的側面にも注目する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「平安仏教」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
5	中世(1):武家政権の成立と展開	平氏政権・鎌倉幕府という武家政権の歴史的特質について説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「源平合戦」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
6	中世(2):モンゴル戦争から南北朝内乱へ	初めての大規模な対外戦争であるモンゴル戦争から、いかなる過程を経て幕府滅亡に至るのかを説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「建武親政」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
7	中世(3):室町幕府の成立と展開	室町幕府の成立から応仁の乱までの推移と、室町文化の広がりについて概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「一揆」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
8	中世(4):戦国の争乱と天下人の登場	戦国時代の始まりから織田信長・豊臣秀吉による天下統一までの動向について説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「一揆」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
9	近世(1):江戸幕府の開創と幕藩体制の展開	その後約250年続く江戸幕府の支配体制の成立と対外政策について考える。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「島原・天草一揆」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
10	近世(2):江戸幕府の動揺と開国	様々な改革にもかかわらず動揺する幕藩体制と、欧米列強の脅威にさらされた幕末日本の情勢について説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「大塩平八郎の乱」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
11	近世(3):幕末の動乱と江戸幕府の終焉	攘夷の高まりと倒幕への動き、そして戊辰戦争への流れを概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「戊辰戦争」の部分を一読



				しておくこと (所要時間 60 分)。 復習: レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	12	近・現代 (1): 明治政府の成立と近代国家への歩み	幕末の内乱を経て成立した明治政府が、どのような過程を経て近代国家への道のりを歩んだのか考える。	予習: 高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「文明開化」の部分を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習: レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	13	近・現代 (2): 対外戦争と近代国家日本	日清・日露戦争を経て本格的に近代国家へ歩み始めた日本が直面した様々な問題について説明する。	予習: 高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「関東大震災」の部分を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習: レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	14	近・現代 (3) 第二次世界大戦と日本の行方	欧米列強と比肩した日本が、アジアへの進出を果たそうとして起こった諸外国との戦争と、その?末について考える。	予習: 高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「太平洋戦争」の部分を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習: レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	15	近・現代 (4): 戦後日本と現代社会	敗戦後の日本の復興と、現代社会へと続く諸問題について考える。	予習: 高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「高度経済成長」の部分を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習: レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	授業後の提出物 (コメントペーパー・課題等) 20% 期末レポート 80%			
学生への メッセージ	積極的に日本史を学ぶ意欲を持つ学生の受講を期待します。 授業内の飲食、私語、携帯電話およびスマートフォン・音楽プレーヤー等の使用は厳禁。 その他、他の受講生に迷惑をかける行為を禁止する。これを守れない場合は、受講を認めない場合がある。			
担当者の 研究室等	連絡先: haruyanagi.akatokikudachi@gmail.com			
備考	課題・提出物等のフィードバックは授業内に行う。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	世界の歴史	科目名 (英文)	History of the World
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1307a1		

授業概要・目的	「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなからうか。経済と自由、この2つの特徴の歴史的ルーツをたどっていけば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたと教わった人も少なくないだろう。中国を代表として他の地域の都市の歴史もあわせてみることで、このような通説を疑い考えなおす。そのようにして、都市を窓に歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺の自然環境や地域社会と共存できる都市のあり方など、現代的な問題を解決するためのヒントも探りたい。
到達目標	学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各单元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果(資格)	商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって (1)	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。
2	歴史を学ぶにあたって (2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	歴史を学ぶにあたって (3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	都市を窓に世界史をみる (1)	視点をしぼる必要性、人間社会の焦点、魅力と危険が背中合わせ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	都市を窓に世界史をみる (2)	都市は文明とともにあった、世界史的な共通性、歴史の大きな流れがみえる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	都市を窓に世界史をみる (3)	都市とは壁で囲まれているもの、西洋でも中東でも中国でも、世界史からみえてくる日本史の個性	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	中国都市 (1)	「止まっている」「同じことのくり返し」という偏見、都市ができて国家ができる	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	中国都市 (2)	1000年前の大転換、防衛から経済へ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	中国都市 (3)	近現代を先取りしたウオーターフロント型の都市、世界の先端を行った貨幣経済の発展	同上の課題に加えて小レポート。
10	中国都市 (4)	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	中国都市 (5)	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さかった、農業中心の経済、「肉食＝豊か」ではない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	ヨーロッパ都市	政治の分裂と自治の発展、宗教と経済の結びつき	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前、「産業革命」は何が「革命」なのか	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	ヨーロッパ都市	小さな都市への回帰、歴史に学ぶ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

実務経験	
関連科目	特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	t8hdjba
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しか

	し誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト (40 点)、②レポート (30 点)、③レスポンスペーパー (30 点+a)。第3に60点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイル
学生へのメッセージ	歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あら
担当者の研究室等備考	7号館2階 非常勤講師室

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1308a1		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野で、系統地理学（人文地理学・自然地理学）とともに地理学の根幹を成す。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	地誌学の基本的な考え方について、具体的な事例を通して理解できるようになる。
授業方法と留意点	講義内容を収録した音声付パワーポイントをオンデマンド配信する。音声付パワーポイントは、Moodle にアップロードする。
科目学習の効果（資格）	中学社会・高校地理歴史教員免許

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方	講義ノートを復習しておくこと（事後学習 3 時間）
2	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林とサバンナ	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
3	熱帯気候と住民生活 (2)	熱帯雨林の近年の変化	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
4	熱帯気候と住民生活 (3)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
5	熱帯気候と住民生活 (4)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	砂漠と季節河川	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	砂漠ゾウと地域住民	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
9	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	氷河地形と人々の暮らし	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
10	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
11	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の住民生活	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
12	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
13	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを復習しておくこと（事後学習 1.5 時間）
14	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
15	試験（授業内で実施）	試験	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 3 時間）

実務経験	
関連科目	人文地理学、自然地理学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界がわかる地理学入門	水野一晴	筑摩書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	2020 地誌学 DS (渡邊) oawrByRYW31z1S9e0
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	試験 70%、授業内課題 30% 試験および授業内課題は、いずれも Moodle で実施する。
学生への メッセージ	高校で地理 (A・B) を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回ノートを取りながら集中して受講してください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)。質問等は学内メールにて対応する。
備考	

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1309a1		

授業概要・目的	人文地理学は、空間・地域・環境といった視点から人と社会を捉える学問です。様々な学問分野間の境界領域に位置し、対象や方法が多岐にわたっているという特徴を持ちます。本講義では、こうした人文地理学の基本的な考え方を身につけることを目的とします。
到達目標	人文地理学の基本となる考え方について説明できること。また、特定の問題について地理学的な視点から捉えることができること。
授業方法と留意点	主に、①現代人文地理学が成立する歴史、②主要な理論・学説、③従来の地理学がカバーする諸領域について講義します。さらに、学生の皆さんには、理解度を問うための小課題とレポートに取り組んでもらいます。
科目学習の効果 (資格)	皆さん自身が興味を持つ事象や問題について、空間・地域・環境といった視点から捉える能力を養うことができます。また、本講義は、中学校社会科および高等学校地理歴史の教員免許を取得するための必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	近代地理学の形成	主要な人物を紹介しながら近代における地理学の成立史を概観する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
3	環境と人間	人間と環境との関係を捉える自然地理学や生態学的地理学の立場について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
4	立地論	立地論と種々のモデルについて講義する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
5	人文地理学における計量革命	戦後の地理学における計量的方法の普及と見方の変化について講義する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
6	人の行動と空間	行動地理学とその展開について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
7	マルクス主義地理学と人文主義地理学	マルクス主義地理学と人文主義地理学について紹介する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
8	都市空間	都市空間研究の論点や概念、モデルを解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
9	都市間ネットワークと世界都市	世界都市や都市間ネットワークの研究について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
10	人口動態と人の移動	人口動態と人の移動についての地理学の視点・論点を紹介する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
11	観光に関する地理学的研究	地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
12	農業研究とフードシステム論	「農と食」について地域・空間の視点から捉える方法とその成果について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
13	ジェンダーの地理学	ジェンダーの視点から空間を捉える立場について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
14	イノベーションとその空間的諸条件	イノベーションとその空間的諸条件を追求する方法と成果について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
15	人文地理学の課題	現代、そして今後の人文地理学の課題について検討する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。

実務経験	
関連科目	「自然地理学」「地誌学」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学	小林茂・杉浦芳夫編著	放送大学出版会
2	『人文地理学：その主題と課題』	杉浦章介ほか	慶應義塾大学出版会	
3	最近の地理学	坂本英夫・浜谷正人編著	大明堂	

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	hzh1jgf
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール、個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート 80%、授業時に指示する課題・コメント 20%
学生へのメッセージ	大学の地理学は暗記科目ではなく、理解したうえで自分の探求に活かすことが重要です。自分自身が興味を持っている問題とどうつながるか考えながら講義を聴いてもらえることを期待します。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1310a1		

授業概要・目的	日本の近代文学の短編を読む。なお、明治から敗戦までの作品を近代文学と位置づける。 文学作品を読むことは、それだけで我々の心を豊かにしてくれる。作品を読むことで、近代の日本人が何を考え、発見し、何に悩んでいたのか、ともに考えたい。 文学作品への抵抗をなくし、作品を読んで考える習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	作品を鑑賞し、その文学的特徴を説明できる。 近代文学の流れについて概説できる。
授業方法と留意点	毎回、1編の短編作品を取り上げて、講義する。 受講生は事前に作品を読んで授業に臨む。講義時にコメントを提出する。 講義を受けたのち、作品に対するコメント、考察を書く。
科目学習の効果(資格)	文学に対する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	近代文学史概説	近代文学の始まりと、言文一致運動について	事後：日本の近代史について調べる(2時間)
	2	明治の文学1 夏目漱石の短編を読む	夢と心理の表現について考える	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：夏目漱石の(短編)作品を読む(2時間)
	3	明治の文学2 谷崎潤一郎の短編を読む	近代が失った美意識について考える	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：谷崎潤一郎の(短編)作品を読む(2時間)
	4	明治の文学3 森鷗外の短編を読む	歴史小説のはじまり	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：森鷗外の(短編)作品を読む(2時間)
	5	大正の文学1 佐藤春夫の短編を読む	メルヘンと近代	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：佐藤春夫の(短編)作品を読む(2時間)
	6	大正の文学2 志賀直哉の短編を読む	ヒューマニズムについて考える	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：志賀直哉の(短編)作品を読む(2時間)
	7	大正の文学3 菊池寛の短編を読む	大衆文学の流行	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：菊池寛の(短編)作品を読む(2時間)
	8	大正の文学4 小川未明の短編を読む	児童文学の登場	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：小川未明の(短編)作品を読む(2時間)
	9	大正の文学5 芥川龍之介の短編を読む	人間心理と短編	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：芥川龍之介の(短編)作品を読む(2時間)
	10	昭和前期の文学 横光利一の短編を読む	新しい表現技法	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：横光利一の(短編)作品を読む(2時間)
	11	戦時下の文学1 中島敦の短編を読む	漢文世界の表現	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：中島敦の(短編)作品を読む(2時間)
	12	戦時下の文学2 太宰治の短編を読む	芸術の不在	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：太宰治の(短編)作品を読む(2時間)
	13	戦争の文学 原民喜の短編を読む	原爆小説が伝えるもの	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：戦争小説を読む(2時間)
	14	現代文学へ 安部公房の短編を読む	新しい時代と不安・孤独	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：戦後の(短編)作品を読む(2時間)
	15	近代の詩を読む 高村光太郎・萩原朔太郎・三好達治らの詩を読む	日本の近代史の流れをたどる	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：近代詩を読む(2時間)

実務経験	
関連科目	歴史や言葉に関する授業

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	697vt.j4
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	授業で学内メールをお伝えします。
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業開始時のコメント (20%) 授業終了時のコメント・考察 (80%) 場合によっては、課題を出す。
学生への メッセージ	活字嫌いでも、少しがんばれば読み切れる短編を選びます。 この機会に、小説好きになりましょう。 専門の授業で疲れた脳を、文学で休ませてください。
担当者の 研究室等	橋本研究室 (7号館4階)
備考	授業時のコメントに対しては、次回にフィードバックを行う。 事前事後学習時間は、上記が最低時間。計60時間を目安とする。



科目名	社会学 I	科目名 (英文)	Sociology I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武田 祐佳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1311a1		

授業概要・目的	身近な例をあげながら、社会学の基礎的な概念 (=キーワード) と社会的なものの方について解説します。それらを通して、人が「社会的な存在」一他者から影響をうけ、また他者に対して影響を与える存在であることを理解するとともに、社会の仕組みについて学んでいきます。
到達目標	社会学の基礎的な概念を理解し、学んだ概念を使って人間関係や社会現象を解説する「社会的思考力」を身につける。
授業方法と留意点	毎回、講義動画を配信し、課題 or 小テストを実施する。課題 or 小テストは moodle を利用する予定。
科目学習の効果 (資格)	社会的なものの方を見方を学ぶことによって、これまであたりまえだと感じていた日常生活や社会現象に対する見方が多少なりとも変わるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義をはじめにあたって	オリエンテーション	授業内容に関する復習
2	社会学における基礎的な知識と発想	社会的存在としての人間 (1) - 社会化	配布レジメをもとに授業内容に関する復習
3	社会学における基礎的な知識と発想	社会的存在としての人間 (2) - ジェンダー	配布レジメをもとに授業内容に関する復習
4	社会学における基礎的な知識と発想	社会的存在としての人間 (3) - 役割	配布レジメをもとに授業内容に関する復習
5	社会学における基礎的な知識と発想	社会的存在としての人間 (4) - 自己	配布レジメをもとに授業内容に関する復習
6	社会学における基礎的な知識と発想	社会的存在としての人間 (5) - 感情	配布レジメをもとに授業内容に関する復習
7	社会学における基礎的な知識と発想	社会的存在としての人間 (6) - 再社会化	配布レジメをもとに授業内容に関する復習
8	社会学における基礎的な知識と発想	社会的存在としての人間 (7) - 小括	配布レジメをもとに授業内容に関する復習
9	社会学における基礎的な知識と発想	集団のなかの個人	配布レジメをもとに授業内容に関する復習
10	社会学における基礎的な知識と発想	組織のなかの個人	配布レジメをもとに授業内容に関する復習
11	社会学における基礎的な知識と発想	社会的逸脱	配布レジメをもとに授業内容に関する復習
12	社会学における基礎的な知識と発想	行為の意図せざる結果 (1) - 予言の自己成就	配布レジメをもとに授業内容に関する復習
13	社会学における基礎的な知識と発想	行為の意図せざる結果 (2) - 社会的ジレンマ	配布レジメをもとに授業内容に関する復習
14	社会学における基礎的な知識と発想	自殺と社会	配布レジメをもとに授業内容に関する復習
15	講義を終えるにあたって	まとめ	これまでの学んだ内容を整理し、疑問点がないか確認したうえで授業に臨むこと

実務経験	
関連科目	社会学 II

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	毎回実施する課題 or 小テストの提出状況とその内容によって評価する。
学生へのメッセージ	「社会学」は小中高にはないカリキュラムなので、学問のイメージが浮かびにくいと思います。社会学では普段私たちがあたりまえとっていたり、気にもとめないことがらを「見よう」「理解しよう」とするので、難しいことばが出てきますが、授業では身近な例をあげ、できるだけ平易に解説していきます。 なお、私語など、授業を妨げる行為に対しては厳しく対処します。
担当者の研究室等	
備考	質問などについては、授業終了後に対応する。 毎回授業の復習と期末試験の勉強に、合計 15 時間はかけること。



科目名	社会学Ⅱ	科目名(英文)	Sociology II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1312a1		

授業概要・目的	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自身がこれらの問いに向きあえるようになるために、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。具体的には、家族と子ども、政治、宗教、社会意識といったテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。
到達目標	授業で説明した社会学の基本的な知識・考え方が説明できる。自らが直面する問題について社会的な発想に基づいて考察できる。日常生活における種々の問題について、社会学の知識に基づいた解釈ができる。
授業方法と留意点	授業は基本的に非対面の遠隔授業形式とする(ツール等具体的な方法については後述)。対面での講義形式でおこなわれる可能性もあり得るが、その場合には前もって受講生に通知する。
科目学習の効果(資格)	社会生活を送る上で何かと直面することになるであろう「人と人」「人と集団」「集団と集団」に関わる問題に対する、幅広い視点を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義をはじめるにあたって	講義へのオリエンテーション	授業内容に関する復習
	2	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか(1)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
	3	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか(2)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
	4	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか(3)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
	5	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか(1)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
	6	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか(2)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
	7	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか(3)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
	8	中テスト	まとめと授業内容の理解度を問う記述式のテスト	(事前) 授業レジュメを精読し復習しておく(1時間) (事後) 課題で十分できなかったと思われるところについて、レジュメをもとに復習しておく(1時間)
	9	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて(1)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
	10	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて(2)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
	11	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて(3)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
	12	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(1)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまと

				めておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする																
	13	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(2)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする																
	14	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(3)	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする																
	15	講義を終えるにあたって	まとめ	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする																
実務経験																				
関連科目	社会学 I																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																			
Teams コード	a3qmuhv																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	学内メールアドレス、Teams 授業チーム内チャット																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	講義内で指示される課題で評価する。																			
学生への メッセージ	やや難しい授業ですが、テーマに関心をもったやる気のある学生は受講してください。大事なことは「正解のない問題」に向きあう際の姿勢です。																			
担当者の 研究室等	11号館7階 山本准教授室																			
備考	課題について、結果とポイントについて解説する時間を設ける予定である。																			

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1305a1		

授業概要・目的	科学技術の急速な発達、宗教的権威の低下、資本主義と市場原理主義の支配を背景として、現代社会における倫理的な問題は、複雑さを増し、また、解決が難しいものとなっている。この講義では、倫理と倫理学の基本的な知識を学ぶとともに、現代の倫理的な問題に対するアプローチを試みる。
到達目標	倫理と倫理学の基本を学び、理解する。 倫理学のさまざまな立場の特長を理解する。 現代社会における倫理的な問題がどうして生じているのかを理解する。 倫理的な問題に対して、各自で考え、解決の方向を探っていく。
授業方法と留意点	マイケル・サンデル著『これからの「正義」の話をしよう』をテキスト（基本資料）として用いる。 事前学習はサンデルの著書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。また、レポート課題もこの著書の事例について考えてもらう。 講義そのものは、こちらの計画に沿って進める。 サンデルの扱っていない問題など、適宜資料を配付する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業への導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>倫理と倫理学の区別</li> <li>倫理学の立場の違いについて</li> <li>倫理学の扱う領域について</li> </ul>	倫理についての自分なりの考えをまとめる。
2	功利主義 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>功利主義とは何か</li> <li>最大多数の最大幸福</li> <li>幸福とは何か</li> <li>ベンサムとミルの立場</li> </ul>	サンデル 第1章を参照
3	功利主義 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>選好功利主義 (ヘア)</li> <li>トロッコ問題の解決策はあるのか</li> </ul>	サンデル 第2章を参照
4	功利主義 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>功利主義への批判と功利主義の応答</li> <li>幸福 (快楽) か義務か</li> </ul>	功利主義の問題についてまとめる レポート課題
5	義務論 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>カントの義務論</li> <li>ヒュームのカント批判</li> </ul>	サンデル 第5章を参照
6	義務論 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>機会の平等をめぐる学説</li> <li>ロールズの思想</li> </ul>	サンデル 第6章を参照
7	市場と道徳 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>リバタリアニズムの主張</li> <li>リバタリアニズムとコミュニタリアニズム</li> </ul>	サンデル 第4章を参照
8	市場と道徳 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>金で買えるもの、買えないもの</li> <li>インセンティブの問題</li> <li>経営の倫理</li> </ul>	サンデル 第7章を参照 レポート課題
9	徳倫理学の復権	<ul style="list-style-type: none"> <li>古代ギリシアの徳倫理学</li> <li>現代の徳倫理学</li> </ul>	サンデル 第8章を参照
10	良心と悪の問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>良心とは何か</li> <li>根源悪の問題</li> </ul>	良心と悪について自分の考えをまとめる。
11	自由と決定論	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間的自由とは何か</li> <li>自由と責任</li> </ul>	人間の自由と責任について自分の考えをまとめる。 レポート課題
12	現代の倫理的な問題 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の倫理的状況</li> <li>脳死と臓器移植の問題</li> </ul>	配付資料を参照 臓器移植についての自分の考えをまとめる。
13	現代の倫理的な問題 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>安楽死・自殺の権利をめぐる問題</li> </ul>	配付資料を参照 安楽死についての自分の考えをまとめる。
14	現代の倫理的な問題 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然に「権利」はあるのか</li> <li>動物に「権利」はあるのか</li> <li>地球全体主義について</li> </ul>	配付資料を参照 レポート課題
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義全体のまとめ</li> </ul>	これまでの講義ノートをまとめておく。

実務経験	
------	--

関連科目	環境倫理 II
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	これからの「正義」の話をしよう	サンデル	ハヤカワ文庫
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Moodle
------	--------

Teams コード	kwe5d9m
-----------	---------

Moodle コース名 および登録キー	rinri
------------------------	-------

連絡手段	Teams
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	授業内のレポート・平常点 (35%)、授業後のレポート (65%)
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館4階 (有馬研究室)
備考	事前事後学習に全部で60時間程度必要。

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Jurisprudence
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1313a1		

授業概要・目的	法は私たちの日常生活と密接な関係にあり、私たちが普段あまり意識しないで行動していても、その行為の裏には法律関係若しくは法律的問題のあるものが沢山あります。法を学ぶことは世の中を知ることもつながります。この講義では、現実の社会と法の世界がどのように関係しあっているかということについて理解してもらいたいと思います。法についての基本的な知識と考え方を身につけ、世の中の動きに関心を持ってもらえたらと思います。内容としては、国の基本法である憲法と私生活を規律する民法が中心となります。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①憲法が守ろうとしているものが何であるかを概ね理解できるようになること。 ②民法の枠組みと基本事項を理解できるようになること。																																																																		
授業方法と留意点	遠隔授業のうち、moodleを使って教材・課題提供型授業を行います。決まった教科書は使用しませんが、レジュメと参考資料を授業の開始前に配付しますので、ダウンロードし、そのコピーを手元において配信される講義映像を視聴して下さい。なお、期末試験のほか、小テストを逐次行う予定です。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や教員免許の取得等に参考になると思います。また、法律や政治に関する時事問題が理解し易くなります。さらに、法律的なものの考え方が理解できるようになります。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法とは何か</td> <td>法規範と道徳の違い、法源とは何かなど</td> <td>配布資料を見直すこと (約1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>法の解釈</td> <td>法令解釈の基本</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>国家と法 (I)</td> <td>国家と憲法、国民主権、三権分立</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>国家と法 (II)</td> <td>日本国憲法、選挙制度</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>平和と法</td> <td>平和主義</td> <td>配布資料を見直すこと (約1時)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>人権と法 (I)</td> <td>基本的人権の保障 (自由権)</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>人権と法 (II)</td> <td>基本的人権の保障 (社会権)</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>政治と法</td> <td>統治機構</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>国と地方</td> <td>地方自治</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>財産と法</td> <td>総則、物権法定主義</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>契約と法 (I)</td> <td>契約自由の原則、不法行為、担保</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>契約と法 (II)</td> <td>契約各論</td> <td>配布資料を見直すこと (約1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>契約と法 (III)</td> <td>契約各論 (続き)</td> <td>配布資料を見直すこと (約1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>家族と法</td> <td>結婚と離婚、相続</td> <td>配布資料を見直すこと (約1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>紛争解決と法</td> <td>裁判制度</td> <td>配布資料を見直すこと (約1時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	法とは何か	法規範と道徳の違い、法源とは何かなど	配布資料を見直すこと (約1時間)	2	法の解釈	法令解釈の基本	配布資料を見直すこと (約2時間)	3	国家と法 (I)	国家と憲法、国民主権、三権分立	配布資料を見直すこと (約2時間)	4	国家と法 (II)	日本国憲法、選挙制度	配布資料を見直すこと (約2時間)	5	平和と法	平和主義	配布資料を見直すこと (約1時)	6	人権と法 (I)	基本的人権の保障 (自由権)	配布資料を見直すこと (約2時間)	7	人権と法 (II)	基本的人権の保障 (社会権)	配布資料を見直すこと (約2時間)	8	政治と法	統治機構	配布資料を見直すこと (約2時間)	9	国と地方	地方自治	配布資料を見直すこと (約2時間)	10	財産と法	総則、物権法定主義	配布資料を見直すこと (約2時間)	11	契約と法 (I)	契約自由の原則、不法行為、担保	配布資料を見直すこと (約2時間)	12	契約と法 (II)	契約各論	配布資料を見直すこと (約1時間)	13	契約と法 (III)	契約各論 (続き)	配布資料を見直すこと (約1時間)	14	家族と法	結婚と離婚、相続	配布資料を見直すこと (約1時間)	15	紛争解決と法	裁判制度	配布資料を見直すこと (約1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	法とは何か	法規範と道徳の違い、法源とは何かなど	配布資料を見直すこと (約1時間)																																																																
2	法の解釈	法令解釈の基本	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
3	国家と法 (I)	国家と憲法、国民主権、三権分立	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
4	国家と法 (II)	日本国憲法、選挙制度	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
5	平和と法	平和主義	配布資料を見直すこと (約1時)																																																																
6	人権と法 (I)	基本的人権の保障 (自由権)	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
7	人権と法 (II)	基本的人権の保障 (社会権)	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
8	政治と法	統治機構	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
9	国と地方	地方自治	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
10	財産と法	総則、物権法定主義	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
11	契約と法 (I)	契約自由の原則、不法行為、担保	配布資料を見直すこと (約2時間)																																																																
12	契約と法 (II)	契約各論	配布資料を見直すこと (約1時間)																																																																
13	契約と法 (III)	契約各論 (続き)	配布資料を見直すこと (約1時間)																																																																
14	家族と法	結婚と離婚、相続	配布資料を見直すこと (約1時間)																																																																
15	紛争解決と法	裁判制度	配布資料を見直すこと (約1時間)																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	憲法、民法など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>民法入門</td> <td>野村豊弘</td> <td>有斐閣アルマ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	民法入門	野村豊弘	有斐閣アルマ	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	民法入門	野村豊弘	有斐閣アルマ																																																																
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	定期試験の点数 (60%) と小テストの総点数 (40%) の合計点で評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	学生時代には、いろいろなことに興味を持ち、専門分野以外の勉強をすることも、将来何かの役に立つと思います。法の世界もその一つです。授業が進めば新たな世界が見えてくると思います。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階 小島研究室																																																																		
備考	講義の内容は、憲法と民法を中心とする基本的なものですから、ご自分に合った入門書を適宜選んで、講義内容に相当するところを講義の前後に読み、予習・復習を心がけるようにして下さい。これらに要する時間は通算20時間を目標として下さい。ただし、講義は入門書に書いていない事柄も少なからず含まれますので、特に講義内容の復習を欠かさずに行ってください。 レジュメには比較的重要な用語の一部を穴あきにしてありますので、講義に使用するスライドに記載してある用語で埋めて下さい。																																																																		

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1314a1		

授業概要・目的	日本国憲法をおおまかに理解できるように、基本的人権を中心に、授業テーマと関連する憲法に関わる問題をとりあげ、これに関わる基本的な事項、判例、学説を説明していきます。この授業の目的は、身近に生じる憲法に関わる問題を通して、憲法の基本的な内容と考え方を理解してもらうことです。
到達目標	この授業を通じて学生には、憲法の基本的な知識を習得し、「首相の靖国神社参拝」や「一票の格差」などの身近で話題になっている問題を憲法を通して考え説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回、授業に関連する資料を配布します。事前学習として指定した教科書の指定箇所を読んでから、配布資料の設題で問題点を学習し、授業終了後にそのなかの練習問題を解いていただきます。練習問題の解答はその回の次の回の配布資料に載せておきます。また小テストの実施等についても配布資料で連絡します。
科目学習の効果 (資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	憲法とは	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書11頁から20頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
2	国民主権	国民主権の意味、国民主権を具体化する制度、国民主権が人権の解釈にどのように関わるかなどについて説明します。	事前に教科書243頁から249頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
3	基本的人権の保障1	人権の歴史、人権の分類、人権の限界、人権の享有主体について説明します。	事前に教科書21頁から30頁を読んで下さい。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
4	基本的人権の保障2	外国人にも日本国憲法が保障する人権の享有が認められるか、認めえるとしてその人権は何かなどについて説明します。	事前に教科書31頁から40頁を読んで下さい。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
5	幸福追求権	幸福追求権の意味と範囲、新しい人権について説明します。	事前に教科書49頁から58頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
6	法の下の平等	憲法14条の定める平等の意味、差別の許される合理的根拠かどうかの判断基準などについて説明します。	事前に教科書60頁から70頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
7	信教の自由と政教分離	信教の自由の内容と限界、国家と宗教の関わりなどについて説明します。	事前に教科書71頁から82頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
8	表現の自由	表現の自由の保障の範囲、限界、検閲などについて説明します。	事前に教科書83頁から104頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
9	経済的自由権	職業選択の自由とその規制などについて説明します。	事前に教科書105頁から114頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
10	社会権	生存権の法的性格、教育を受ける権利の法的性格について説明します。	事前に教科書115頁から134頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
11	刑罰と刑事手続	刑罰と憲法、適正手続について説明します。	事前に教科書135頁から144頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
12	国会	国会の最高機関性、立法機関性について説明します。	事前に161頁から172頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
13	内閣	議院内閣制、衆議院の解散などについて説明します。	事前に教科書173頁から184頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
14	裁判所	司法権の定義、司法権の範囲、司法権の独立、違憲立法審査権について説明します。	事前に教科書185頁から206頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
15	平和主義	戦争の放棄の意義、放棄された戦争の範囲、戦力の不保持の意味について説明します。	事前に教科書217頁から229頁を読んでください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)

実務経験	
------	--

関連科目	法学入門
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての憲法学 (第3版)	中村睦男・岩本一郎・大島佳代子・木下和朗・齊藤正彰・佐々木雅寿・寺島壽一	三省堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	g8zino6			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teamsに「質問用」というチャンネルを作ります。			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	配布資料で実施する回を連絡する4回の小テスト(1回25点)の得点合計で評価します。			
学生への メッセージ	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。			
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)			
備考	質問はチームズに「質問用」というチャンネルを作ります。それで質問してください。			



科目名	政治学概論 I	科目名 (英文)	Introduction to Politics I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IS02415a2		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業、景気の影響を避けて生きることはできません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、企業経営に関わろうとする経営学部の皆さんにはより深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。 この授業では、有権者である学生の皆さんに政治と政治学についての基本的な知識・技能を与えることを一番大きな目的にしています。政治学の中でも、政治体制論、政治過程論、国際政治にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	この授業を通じて学生は、政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。
授業方法と留意点	オンライン授業で行います。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション～政治とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と政治・政治参加の必要性について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
2	政治と権力①～政治の条件とは何か?	身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
3	政治と権力②～正当な権力とは何か?	マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性とは何かを考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
4	国家と政治システム～システムとは何か?	政治システムとはどういう構造になっているのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第六章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
5	デモクラシー～デモクラシーの条件とは何か?	さまざまな政治システムがあるなかで、デモクラシーとはいかなる政治システムなのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
6	マスメディアと世論①～政治文化と初期の世論研究	世論と政治文化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
7	マスメディアと世論②マスメディアの役割とは何か?	マスメディアの役割とそのさまざまな効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
8	選挙と政党～中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へ	日本の選挙制度を中心に、選挙と政党制について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
9	国会と内閣～議院内閣制と今世紀の行政改革	行政改革による内閣の権限強化を中心に、日本の国会と内閣について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
10	国際政治の二つの観点①～アイディアリズム	国際連盟から国際連合への経過について授業します。また国際連盟から離脱したときの日本の状況について映像資料を見て考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第七章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
11	国際政治の二つの観点②～リアリズム	東西冷戦の基盤となるリアリズムの考え方について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
12	冷戦終結後の日本外交①～	冷戦終結後の新しい国際秩序を開くこ	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マ	

		湾岸戦争とその結果	とになった湾岸戦争と日本政府の対応について授業します。	スメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	13	冷戦終結後の日本外交②～米国同時多発テロとアフガニスタン戦争、イラク戦争	米国同時多発テロをきっかけに生じたアフガニスタン戦争と後のイラク戦争と日本の新法作成について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所(第八章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	14	冷戦終結後の日本外交③～安全保障体制の転換	集団的自衛権の行使の閣議決定を中心に、近年の日本外交の転換について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所(第八章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習：試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す(時間の許す限り)。
実務経験				
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学概論Ⅱ、社会学、国際政治など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社
	2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	レポートで評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 和田講師室			
備考	予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。			

科目名	政治学概論Ⅱ	科目名 (英文)	Introduction to Politics II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IS02416a2		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業、景気の影響を避けて生きることはできません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作ることができる。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、企業経営に関わろうとする経営学部の皆さんにはより深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。 この授業では、有権者である学生の皆さんに政治と政治学についての基本的な知識・技能を与えることを一番大きな目的にしています。政治学の中でも、日本政治史、地方自治、政治哲学にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	この授業を通じて学生は、政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーに政治問題に関する意見を論理的に書いてもらうこともあります。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	戦前日本の政治体制①～大日本帝国憲法の問題点	戦前の日本の政治システムを考えるうえで必要な、大日本帝国憲法の重要箇所について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所(第六章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	2	戦前日本の政治体制②～軍部の台頭	映像資料を見ながら、日本が日中戦争・太平洋戦争へと向かっていった原因の一つである軍部を考えます。	事前学習：教科書の該当箇所(第六章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	3	戦後日本の政治体制①～GHQによる占領と日本国憲法の成立	GHQによる日本占領政策の開始と日本国憲法の成立過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第三回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	4	戦後日本の政治体制②～戦後復興の諸問題	激しいインフレと食糧難に苦しむ戦後日本の経済状況と政府の経済政策について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第四回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	5	戦後日本の政治体制③～インフレ対策と逆コース	冷戦の激化と激しいインフレにともない、GHQの日本占領政策が転換していった過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第五回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	6	戦後日本の政治体制④～独立と55年体制の成立	吉田政権の外交政策と55年体制について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第六回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	7	戦後日本の政治体制⑤～岸内閣と安保闘争	岸内閣における60年安保闘争と新日米安全保障条約の内容について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第七回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	8	戦後日本の政治体制⑥～沖繩編入問題と田中派の隆盛	佐藤内閣の沖繩返還、ならびに自民党の派閥政治の特徴と田中派が勢力を拡大していく過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第八回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	9	戦後日本の政治体制⑦～80年代の日本政治	「戦後日本の総決算」と豪語した中曽根政権を中心に、80年代の日本政治の経過について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第九回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	10	戦後日本の政治体制⑧～政治改革と55年体制の崩壊	90年代の政治改革、ならびに55年体制が崩壊していった背景や理由、その結果について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第十回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	11	戦後日本の政治体制⑨～自公連立政権から民主党政権へ	村山談話や行政改革、郵政民営化など、55年体制崩壊から現在の安倍政権までの各政権の重要政策の特徴について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第十一回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	12	地方自治～地方自治の本旨	日本の地方自治の特徴と今世紀の地方	事前学習：教科書の該当箇所(第十三回)を読み、

		と地方分権改革	分権計画について授業します。	マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	13	古代の政治学～プラトンとアリストテレス	古代の政治学の目的とその特徴について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第十八回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	14	社会契約論～ホッブズ、ロック、ルソー	古代の政治学のテーゼに反論しつつ展開された社会契約論者の基本的な特徴について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第十八回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習:来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習:試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す(時間の許す限り)。
実務経験				
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学概論Ⅰ、社会学、国際政治など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで	仲正昌樹編	法律文化社
	2	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店
	3	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	v3ck7hs			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	オンライン授業での小テストとレポートで評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治や政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 和田講師室			
備考	予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。			

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Design and Living Environment
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大高 和香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA1317a1		

授業概要・目的	最も身近な空間である住居について、その歴史の中で生み出された住まいの工夫と文化を知り、快適な住生活と、特にデザインとのかかわりを考察する。また、「リノベーション」の実習を体験し、初歩的な知識と技術を修得する。
到達目標	将来、住み手の立場で必要となる基礎知識を身につけることが目標である。
授業方法と留意点	ICTツールを活用した遠隔授業と演習問題を行います。注意点あれば、毎回配信の資料にて連絡します。そのため、必ず視聴すること。また、課題提出が出席確認になります。遅れても必ず提出ください。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・住まいとデザインのトピックス	授業の進め方や受講上の注意点などのガイダンスと、住まいとデザインのトピックスについて説明する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
2	インテリアの常識	身近なインテリアの用語、法規について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。	
3	インテリアの構成要素	住空間を構成する主要要素について学び、知識を深める。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。	
4	デザインスタイルの基礎	第5回目から第7回目までの授業の前段としてデザインスタイル全般について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。	
5	デザインスタイルの分類 (1)	モダン系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。	
6	デザインスタイルの分類 (2)	ナチュラル系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。	
7	デザインスタイルの分類 (3)	クラシック系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。	
8	j実習:ピフォーアフター「団地のリノベーション」(1)	中古住宅のリノベーションを、二週に渡りプランし、プレゼンテーションを作成する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。	
9	実習:ピフォーアフター「団地のリノベーション」(2)	中古住宅のリノベーションを、二週に渡りプランし、プレゼンテーション作成する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。	
10	「団地のリノベーション」作品講評会 (1)	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。	
11	「団地のリノベーション」作品講評会 (2)	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。	
12	「団地のリノベーション」作品講評会 (3)	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。	
13	住まいの色彩計画	色彩計画の基礎を学び、インテリアにおける手法と効果を考える。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。	
14	住まいの照明計画	照明計画の基礎を学び、インテリアにおける手法と効果を考える。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。	
15	講義のまとめテストと解説	講義のまとめテスト及びその解説を行う	試験に備えて、これまでの復習をしておくこと	

実務経験	
------	--

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	講義まとめテスト:40%、受講態度(出席・講義メモ・課題・小テストなど):60%を、合わせて評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	自分の周りにある色々な住宅や建物、街並みなどを興味を持って眺めて下さい。きっと新しい発見があることでしょう。
-----------	--

担当者の 研究室等	12号館7階、8号館3階 大谷教授室
備考	出欠・遅刻に関する規定は、理工学部に準ずる。



科目名	自然地理学	科目名 (英文)	Physical Geography
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA1318a1		

授業概要・目的	自然地理学は地球環境問題や自然災害と深い関わりを持つとともに、私たちの日々の生活とも密接に関わっています。本授業では、身近な場所から辺境の地まで、さまざまな地域の自然環境を理解するための基礎を学びます。具体的には、1. プレート運動や気候といった地球規模のシステム、2. 日本や世界で観察される景観の形成要因やその形成過程、3. 自然災害や地球環境問題、といった内容を扱います。講義では各地の写真や映像などを数多く使って解説し、初学者にもイメージがつかみやすい内容にする予定です。授業を通して、自然現象を様々な時間・空間スケールに位置づけて理解する基礎を身につけ、それを将来様々な形で活かしていくことを期待します。
到達目標	日本・世界各地の自然環境の実態とそのシステムを学ぶことを通じて自然環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因や災害の発生等について論理的に理解できるようになること
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用します。ウェブブラウザ等を利用することもあるため、スマートフォン・タブレット等を持ち込むことを推奨します。
科目学習の効果 (資格)	地震等自然災害に対する認識の強化、環境に対する意識の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、評価方法等について説明	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
2	I. 日本の自然を知る 1	プレートテクトニクスと日本列島の形成	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
3	I. 日本の自然を知る 2	地震のメカニズム	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
4	I. 日本の自然を知る 3	地震災害	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
5	I. 日本の自然を知る 4	火山と日本列島	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
6	II. 多様な日本の自然 1	気候環境	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
7	II. 多様な日本の自然 2	植生	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
8	II. 多様な日本の自然 3	山地の隆起と侵食	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
9	II. 多様な日本の自然 4	河川と平野・海岸	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
10	II. 多様な日本の自然 5	大阪の自然・関西の自然	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
11	III. 世界の自然を知る 1	熱帯から極地	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
12	III. 世界の自然を知る 2	砂漠や高山	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
13	III. 世界の自然を知る 3	自然と人々の暮らしの関係性	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュース

				<p>ースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。</p>
	14	IV. 環境と私たち	地球温暖化や砂漠化	<p>事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。</p>
	15	まとめ	授業全体のまとめ・理解度確認テスト	<p>事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。</p>
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	最後の授業内で実施する理解度確認テストをもとに評価する(理解度確認テスト：100%)			
学生への メッセージ	高校地理・高校地学を学んでいない人でも理解できるような内容を扱い、難しい部分はフォローアップしながら授業を進めていく予定です。			
担当者の 研究室等	7号館5階			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。理解度確認テストとは、講義内容に関するテストです。毎回の授業終了後や授業開始時には不明点や質問等に関してフィードバックをおこないます。			



科目名	環境と現代社会	科目名 (英文)	Environment and Modern Society
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上 尚之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2319a1		

授業概要・目的	日本における環境経営を歴史的に辿ると、「環境経営」⇒「CSR経営」⇒「サステナビリティ経営」という系譜である。本講義では、この歴史的流れを追うと共に、サステナビリティ経営とは何かを探る。
到達目標	サステナビリティ経営に関して自分なりの意見が言え、プレゼンテーションするレベルを目指す。
授業方法と留意点	授業中に教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う双方向の授業を目指す。
科目学習の効果 (資格)	サステナビリティ経営を学ぶことによって、経営の基礎及び企業のCSR部門における必須知識の獲得を目指す。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第1回 日米の環境政策の歴史	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)
2	第2回 日本における環境経営の本格開始 -ISO14001:1996 発行	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)	
3	第3回 トヨタの環境経営	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)	
4	第4回 3Rからゼロエミッションへ	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)	
5	第5回 環境経営とサステナビリティ経営の相違	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)	
6	第6回 社会的な影響に配慮するとはどういうことか -トリプルボトムラインの登場	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)	
7	第7回 2003年は日本のCSR元年	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)	
8	第8回 ISO26000とサステナビリティ経営-C SRの国際規格 ISO26000の発行	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)	
9	第9回 ISO26000の社会的責任を果たすための7つの原則	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)	
10	第10回 社会的責任の7つの中核主題	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)	
11	第11回 組織にとってのISO26000を順守するメリットは何か?	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)	
12	第12回 ISO26000の具体例	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)	
13	第13回 中小企業にISO26000を広め、定着させる企業市民制度	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)	
14	第14回 GRIとは何か?	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)	
15	第15回 国連主導のCSR-SDGs	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分)。	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	サステナビリティ経営	井上尚之	大阪公立大学共同出版会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	oqbwnl

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポートをメールで2回提出。2回のレポートで評価。
学生への メッセージ	サステナビリティ経営・環境経営は今や企業の常識となっています。この講義で環境経営の概要を知ることが重要です。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Public Health Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2320a1		

授業概要・目的	授業では、まず基礎編として、健康の観点からみた人類史に始まり、公衆衛生の歴史、日本の人口の現在と将来、人々の健康を守るための方法論(疫学)、予防医学の考え方とその具体例(感染症、生活習慣病)について学ぶ。また応用編として、人の健康が社会から受ける影響について移民(外国人)を事例に解説する。さらに人の健康に関する研究の倫理について、過去の歴史から学ぶ。
到達目標	公衆衛生学が扱う内容の全体像とその方法論の概要を把握するとともに、私たちの健康が社会や環境から受ける影響について理解する。
授業方法と留意点	遠隔授業で行う。講義を中心とするが、各回の最新の話題に関する視聴覚教材や時事ニュースなどを随時活用し、身近な話題から専門的な話へとつなげていく。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	人口転換と疫学転換	人類史と健康	・第1回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
	2	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
	3	保健統計(1)	日本の人口	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
	4	保健統計(2)	健康指標	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
	5	疫学(1)	疫学の歴史と指標	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
	6	疫学(2)	関連と因果関係	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
	7	疾病予防	予防医学の考え方	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
	8	感染症(1)	感染症の疫学と予防	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
	9	感染症(2)	感染症流行拡大の事例	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
	10	生活習慣病	生活習慣病の疫学と予防	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
	11	環境保健	地球規模の環境問題と取り組み	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分)

				と (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	12	国際保健	世界の健康・日本の健康	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	13	移民と健康 (1)	移民の健康と社会	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	14	移民と健康 (2)	日本在住外国人の健康	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	15	研究の倫理	人体実験の歴史と倫理	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと (30分)
実務経験				
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンプル衛生公衆衛生学 2020	鈴木庄亮	南江堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2019/2020	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	小テストと課題で評価する。60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、公衆衛生学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を用意して、毎回の授業に真剣に臨むこと。</li> <li>・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。</li> <li>・授業中であてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 看護学部 3階 24			
備考	提出された課題内容について授業で解説する。			

科目名	科学技術教養 (V1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	居場 嘉教
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個体レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	病気と遺伝子	我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷(変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
3	なぜ肥満は問題なのか?	肥満そのものは病気とは言えない。しかし、糖尿病、高脂血症、高血圧、脳血管障害など様々な「生活習慣病」と呼ばれる疾患のリスクファクターになることが知られている。なぜ肥満が様々な疾患の原因になってしまうのか、そのメカニズムと予防・治療法について解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
4	免疫が引き起こす病気のしくみ	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染(インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
5	がんの発生とその予防法	死因別死亡率のトップはがんであり、約3人に1人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の30%を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
6	ミトコンドリアと病気	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
7	くすりと遺伝子工学	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物(タンパク質)を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
8	くすりと組換え生物	生物が持つ遺伝情報に改変を施した「遺伝子組換え生物」は、再生医療やヒト疾患の治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の開発などにも役立っている。本講義では、遺伝子組換え生物やクローン生物の作製に関する技術と応用について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
9	くすりとバイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
10	くすりとタンパク質のかたち	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)

			医薬品開発への応用について述べる。	
	11	くすりとゲノム	ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	12	薬物乱用と依存性薬物	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	13	遺伝子治療の最前線	遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理、を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	14	認知症～その原因と治療法	我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	15	iPS 細胞研究の最前線	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
実務経験				
関連科目	科学技術教養 V2			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。			
学生への メッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて、生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。本講義は生物・薬を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。 毎回レポート・課題があるので、毎回出席すること。			
担当者の 研究室等	1 号館 9 階 川崎、尾山、西村、中嶋、宮崎、船越、井尻、居場研究室			
備考	レポート・課題は各教員が採点した後、適宜返却する。			



科目名	科学技術教養 (V2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長田 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々の暮らしを豊かにするバイオテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。また、企業で商品開発等に20年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして化粧品や繊維製品のバイオテクノロジー応用に関する教育も行う(第3,4回)。 SDGs-2,3,12,13
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能的食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について説明できる。
授業方法と留意点	Moodleの教材・課題に沿って授業を行う。教員によってはTeams「オンライン型」を行う場合がある。Moodleでの指示に従うこと。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果(資格)	遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	配布資料を復習する。
2	バイオレメディエーションの可能性	過去、日本であった重金属汚染について簡単に復習し、特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する。物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら、適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し、植物を用いた生物学的浄化法についても説明する。	配布資料を復習する。
3	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	配布資料を復習する。
4	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し、これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する。	配布資料を復習する。
5	エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する。	配布資料を復習する。
6	バイオエネルギー技術	21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場から解説する。	配布資料を復習する。
7	機能的食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	配布資料を復習する。
8	食品の健康障害リスクと対策	微生物、アレルギー性物質、残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ、解説する。	配布資料を復習する。
9	動く分子とバイオテクノロジー	ATP合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。	配布資料を復習する。
10	昆虫学を用いた、ヒトの暮らしを支える科学技術	地球上でもっとも繁栄した生物群である昆虫は、時にヒトの暮らしを脅かす害虫となり、時にヒトに恵みをもたらす益虫となる。害虫からヒトの財産・健康を守り、益虫のもたらす恩恵を最大化するためには、昆虫を「知る」ことが不可欠である。本講義では、昆虫学がうみだす知識が、どのように科学技術に応用されているかを紹介する。	配布資料を復習する。



	11	機能性糖質	食品や産業などに利用されている機能性の糖質の具体例を紹介し、人の健康や産業にとってどのような機能性があるのかを解説する。	配布資料を復習する。																
	12	糖質とバイオ医薬	人の体の中で、糖質はエネルギー源として利用されているだけでなく、免疫応答・代謝物の末梢組織への運搬など、多岐に渡った生命維持に必要な機能を有している。本講義では、このような糖質の生理機能について解説する。	配布資料を復習する。																
	13	生体高分子の利用	最近、廃棄されたプラスチックにより生成されるマイクロプラスチックによる環境汚染問題が問題視されている。本講義では、今後幅広く使用されることが期待される生体高分子がどのように利用され、化学合成によりつくられる様々なマテリアルに代替されているかについて解説する。	配布資料を復習する。																
	14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し、水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる。	配布資料を復習する。																
	15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊、地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因、発生機構、人への影響およびその防止対策に関して述べる。	配布資料を復習する。																
実務経験																				
関連科目	科学技術教養V1																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Moodle/Teams「オンライン型」																			
Teams コード	npr1106																			
Moodle コース名 および登録キー	科学技術教養V2 (2020年度) 3586																			
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	講義メモ50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題50%の総合点で評価する。30分未満の遅刻は欠席0.5日、30分以上の遅刻は欠席1日とする。																			
学生への メッセージ	本講義では、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。本講義は、生物・環境を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。 毎回レポート・課題があるので、毎回出席すること。出席および遅刻・欠席の扱いは、一回目の講義で説明します。																			
担当者の 研究室等	1号館8階 長田講師室																			
備考	事後学習に要する総時間の目安は15時間																			

科目名	科学技術教養 (R1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川上 比奈子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる知識を学ぶ。SDGs-3, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14, 15
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎を理解できる。
授業方法と留意点	ICT ツール使用。 毎回、課題を出すので、教科書、ネットで調べるなどして、自主的に学習してください。 必ず、期日までに課題を提出すること。 最終回には、まとめテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	環境配慮型デザインプロセス	環境配慮型建築・設備設計のデザインプロセスと、住宅のバッシブ・アクティブ技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	住環境における換気	換気の方法の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気的重要性について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	健康で快適な生活とにおい対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内でのにおい問題やにおい対策の考え方について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りや人と人の関わりのはなしから、香りの人への心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどの様に決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	野生動物との共存のデザイン	近年獣害が増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	住環境における図の役割	身近に用いられている図の重要性とその役割について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	住環境と情報技術	私たちが毎日暮らす空間で利用されている情報技術について事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	解説 まとめテスト	まとめテストを実施する。	講義内容の復習をして、 まとめテストを受けること。

実務経験	
関連科目	なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 (R1) 住環境デザイン学科 教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	12号館 6・7階 各教員研究室			
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は、授業外の課題やテストの学習時間も含め、毎回1.5時間程度とする。 各回の課題については、随時評価の上返却する。			

科目名	科学技術教養 (R2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川上 比奈子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	日本の伝統的な住宅は、気候風土、地形、材料などに影響を受けて地方色が豊かであり、歴史的、文化的な相違からも地域性が認められる。現代の住まいや暮らしはそれらの影響を受けて、さまざまな技術の発達、社会の変化とともに、かつての住まいや暮らしの形は変容しつつある。このような身近な住まい、まち、暮らしについての知識を得て、今後の持続可能な社会の創造に関わる知識を学ぶ。SDGs-3, 6, 7, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16
到達目標	到達目標：建築都市インテリアなどの空間における歴史的文化的背景による地域性を理解し、持続可能な社会を創造するためのまちづくりや住宅建築など、住環境の未来に向けたデザインの基礎を理解できる。
授業方法と留意点	毎回、課題を出すので、教科書、ネットで調べるなどして、自主的に学習してください。 必ず、期日までに課題を提出すること。 最終回には、まとめテストを行う。

科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。
--------------	-----------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本の住まいの地域性	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的日本住宅について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	住環境とパッシブデザイン	住環境におけるパッシブデザインの変遷を建築家の作品を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	住環境と考現学	私たちの身の回りにおける住環境を観察・記録することから新しい環境デザインをつくりだす方法を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	大規模災害時の避難生活環境	阪神淡路大震災・東日本大震災など大規模災害時の避難生活状況と支援活動を知ることから未来への備えを学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	様々な人に配慮した住宅・施設設備	ユニバーサルデザインの観点からの住宅設備や施設設備について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がり、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	高齢者の生活環境の広がり と支援	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、高齢者をめぐる住宅行政や、様々な高齢者居住について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	地球共生デザイン・建築・住環境のすすめ	環境と人間活動、二つの観点からアプローチする共生デザイン・建築・住環境の考え方について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	バイオミメティックデザイン	自然界における形態・構造・システムとそれらの応用デザインについて学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを考える。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	省エネルギーとパッシブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のパッシブデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	省エネルギーとアクティブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のアクティブデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	解説 まとめテスト	まとめテストを実施する。	講義内容の復習をして、 まとめテストを受けること。

実務経験	
------	--

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 (R2) 住環境デザイン学科 教科書	理工学部住環境デザイン学科	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」/Moodle
------	--------------------------------------

Teams コード	a7du5oz
-----------	---------

Moodle コース名	科学技術教養 R2 (検索キー: SR2)
-------------	-----------------------

および登録キー	SR22020
連絡手段	Teams の投稿欄、学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回の課題 15%、まとめテスト 85% で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	12 号館 6・7 階 各教員研究室
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は、授業外の課題や小テストの学習時間も含めて、毎回 1.5 時間程度とすること。 各回の課題については、随時評価の上返却する

科目名	科学技術教養 (A1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加嶋 章博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。(SDGs-11)
到達目標	インテリアから都市空間にいたるまで、広範な建築技術、建築デザイン、建築文化における現状と課題を通して、建築がどのように考え出され、社会、生活、文化にどのような影響を及ぼすものかを理解する。その上で、身近な生活環境から公共的な都市空間にいたるまで、そのあり方を的確に考察することができる基本的な教養を身につけることを目標とする。毎回授業教材を用意するが、詳細は、初回授業で資料を提示する。
授業方法と留意点	各回、テキストおよび資料を用いた授業を実施する。 各回の内容に沿った演習課題、ならびに、総合課題を行う。 提供するテキストを講義の進捗にあわせて読み込むことが重要である。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	建築とは何か	建築の考え方、 建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、 ライフスタイルからみた多様性、民族・ 地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	
3	建築と都市環境	建築と都市の関係、 都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	
4	建築の歴史	建築の歴史の変遷から建築における多 様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	
5	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がど のように関係しているのかを理解する 視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	
6	建築の内装	インテリア、 家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	
7	建築の外装・外構	外装材とは エクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	
8	建築のUD	こどもと建築、 バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	
9	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築の ストック活用事例、保存手法、コンバー ションといった建築保存の視点から見 る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	
10	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する 視点を培います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	
11	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒 音・エネルギー、 エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	
12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	
13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	
14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	
15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	

実務経験	
関連科目	なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 A1		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業で実施する演習課題 (60%) と総合課題 (40%) を総合して評価し、60 点以上を合格とする。期末試験は行わない。 原則として、課題提出の割合が 80% 以上の履修者を成績評価の対象とします。ただし、各課題の提出期限は明示するものの、体調不良や通信環境

	の不具合などの不測の事態に鑑み、追加提出期限を設けた上で課題を受け付けます。この追加提出期限内に提出された課題も評価します。
学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
担当者の研究室等	8号館3階・各授業担当者の研究室
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部における出席および遅刻・欠席の扱いに準ずる。 事前あるいは事後学習として、教科書（配布予定）の当該回の範囲を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。



科目名	科学技術教養 (A2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加嶋 章博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築の代表的な計画デザインや実施の事例、およびその手法について紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。(SDGs-11)
到達目標	建築学に関連する科学技術についての教養を身につけることで、卒業後も社会生活を送るうえで、様々な状況において適用し、建設的な思考につなげていくことができることを目標とする。
授業方法と留意点	主に Moodle を利用して授業を運用する。全体アナウンスなどは、Teams を用いる場合もある。各講の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回実施する。各講で用意する教材や資料の理解に努め、課題を通して、建築と社会の繋がりを考えられるようになることを重視する。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	集まって住む建築	集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	公共の建築	公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着目し、建築の公共性について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	商業の建築	商業建築、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	文化の建築	建築に象徴された様々な文化を読み取る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	交通の建築	陸・海・空の交通 交通建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	高層の建築	五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	地下空間の建築	地下空間のメリット、地下空間の利用、 大深度地下、地下都市	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	環境共生と建築	環境と共生する建築について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	木造の建築	木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	プレハブ建築	種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮設住宅	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築とロボット	ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	街並みの建築	ランドスケープと建築、 街並みと要素	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	将来の建築	空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

実務経験	
関連科目	専門科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 A2		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	t09d96w
Moodle コース名 および登録キー	科学技術教養 A2 kagakua2
連絡手段	Teams
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	計15回の課題(各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・課題・グループワークディスカッション)の成果により構成され、それぞれの割合の合計が100%となる。期末試験は行わない。
学生への	科学技術教養科目においては受講者希望者数が定数を超えた場合、抽選により受講者を決定する。

メッセージ	
担当者の研究室等	8号館3階
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部における出席および遅刻・欠席の扱いに準ずる。 事前あるいは事後学習として、教科書（配布予定）の当該回の範囲を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。

科目名	科学技術教養 (M1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀江 昌朗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を提供する。</li> <li>moodleによるweb授業を実施します。</li> <li>テキストは必要ですので準備してください。なお、適宜、資料や動画を配信します。</li> <li>各テーマごとに指定された時間までに「ノート」や「課題(レポート)」などをmoodleに提出してもらいます。</li> <li>質問等はMicrosoft Teams「科学技術教養M1」で受け付けます。学術教養M1で受け付けます。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	機械工学とは?	<ul style="list-style-type: none"> <li>機械工学の発展の歴史を概観する。</li> <li>「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。</li> </ul>	テキスト第1章に目を通しておくこと。
2	道具を作る(1) - ヒトと道具	<ul style="list-style-type: none"> <li>道具の歴史:ヒトの手の動作を補助道具から労働としての道具へ</li> <li>農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具</li> </ul>	テキスト第2章2.1-2.3に目を通しておくこと。	
3	道具を作る(2) - 作り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>鋳造, 塑性加工, 粉末冶金, 材料加工, 生産加工</li> <li>刀鍛冶, セラミックス, 溶接・切断</li> </ul>	テキスト第2章2.4-2.5に目を通しておくこと。	
4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属材料はなぜ素材たり得るか?</li> <li>鉄鋼の製造方法</li> </ul>	テキスト第3章(鉄つくりの変遷)に目を通しておくこと。	
5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	<ul style="list-style-type: none"> <li>セラミックス・ポリマーの構造(金属と何が異なるか?)</li> <li>高強度・機能性材料の話</li> </ul>	テキスト第4章(非金属材料)に目を通しておくこと。	
6	モノの材料を知る(3) - 新素材	<ul style="list-style-type: none"> <li>新素材と高度産業化社会</li> <li>形状記憶, 超伝導, ナノ材料</li> </ul>	テキスト第5章(新素材)に目を通しておくこと。	
7	ものづくり(1) - 母なる機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>機械部品を作る機械(工作機械の歴史)</li> <li>機械時計, 工具と運動, 機械部品</li> </ul>	テキスト第6章(母なる機械)に目を通しておくこと。	
8	ものづくり(2) - 精密に加工する	<ul style="list-style-type: none"> <li>精度を追求する(コンピュータと工作機械)</li> <li>精密加工, マシニングセル, ナノ加工</li> </ul>	テキスト第7章(精密に加工する)に目を通しておくこと。	
9	ものづくり(3) - 工場(ファクトリー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界が学ぶ・日本が誇る製造システム</li> <li>無人化工場, デジタル屋台, トヨタ生産方式</li> </ul>	テキスト第8章(ファクトリー)に目を通しておくこと。	
10	大きな力を得る(1) - 車輪	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業を補助する機械の歴史</li> <li>車輪, 滑車, てこ, 歯車</li> </ul>	テキスト第9章(人間の作業を補助する機械)に目を通しておくこと。	
11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>巨大な力を得るためのアクチュエータ</li> <li>油圧・水圧・空気圧機器, 電動機</li> </ul>	テキスト第10章(力を伝える・増幅する機械)に目を通しておくこと。	
12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクチュエータの知能化とパワーアシスト</li> <li>パワードスーツ, 電動アシスト自転車, 人工筋肉</li> </ul>	テキスト第11章(機械の知能化)に目を通しておくこと。	
13	ミクロの機械(1) - 精密機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さくなることで変わる使い方</li> <li>時計, 携帯電話, 計算機, テレビカメラ, 情報機器</li> </ul>	テキスト第12章(精密機械)に目を通しておくこと。	
14	ミクロの機械(2) - 小さく作る	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さくすることで変わる物理の法則, 加工法・アクチュエータ</li> <li>微細加工, ナノテク, 半導体製造, カーボンナノチューブ, 微細気泡</li> </ul>	テキスト第13章(小さくつくる)に目を通しておくこと。	
15	ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械</li> <li>カプセル内視鏡, 鞭毛モーター</li> </ul>	テキスト第14章(小さくて広大な世界)に目を通しておくこと。	

実務経験	
------	--

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養M1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回、「ノート」と「課題（レポート）」を提出する。 「ノート」(50%)、「課題（レポート）」(50%)で評価する。
学生への メッセージ	機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？近未来にどのような乗り物が実現されているか？等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]
備考	フィードバック：Microsoft Teams で適宜対応

科目名	科学技術教養 (M2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀江 昌朗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに、機械システムと社会や経済活動、生活・生命との関わりを理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>各テーマごとに、歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。</li> <li>moodleによるweb授業を実施します。</li> <li>テキストは必要ですの準備してください。なお、適宜、資料や動画を配信します。</li> <li>各テーマごとに指定された時間までに「ノート」や「課題(レポート)」などをmoodleに提出してもらいます。</li> <li>質問等はMicrosoft Teams「科学技術教養M2」で受け付けます。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは?	<ul style="list-style-type: none"> <li>機械工学の発展の歴史を概観する。</li> <li>「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。</li> </ul>	テキスト第1章(機械工学とは)に目を通しておくこと(60分)
2	活動の源(1) - 動力・エネルギーの世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近なエネルギー利用と動力の歴史</li> <li>人力、蓄力、水力、風力、蒸気力</li> </ul>	テキスト第2章(動力)に目を通しておくこと(60分)
3	活動の源(2) - 発電	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー利用と発電</li> <li>水力、風力、火力、地熱、原子力発電</li> </ul>	テキスト第3章(電力)に目を通しておくこと(60分)
4	乗り物(1) - エンジン	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱工学とエンジンシステム</li> <li>種々のエンジン(ガソリン等)、電気モーター</li> </ul>	テキスト第4章(エンジン)に目を通しておくこと(60分)
5	乗り物(2) - 輸送する	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通と物流</li> <li>自動車交通、船舶、鉄道</li> </ul>	テキスト第5章(輸送する)に目を通しておくこと(60分)
6	空間を移動する(1) - 空を飛ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>空を飛ぶことができる機械の機能、種類、歴史と原理</li> <li>飛行機、ヘリコプター、飛行船、揚力</li> </ul>	テキスト第6章(空を飛ぶ)に目を通しておくこと(60分)
7	空間を移動する(2) - 高速移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>深海に潜ることができる機械の機能、種類、歴史と原理</li> <li>しんかい6500、深海探査、水圧、チタン合金、生命維持システム</li> </ul>	テキスト第7章(深海に潜る)に目を通しておくこと(60分)
8	空間を移動する(3) - 宇宙へ飛び立つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇宙空間に飛んでいける機械の機能、種類、歴史と原理</li> <li>ロケット、スペースシャトル、宇宙ステーション、高真空、ロケットエンジン</li> </ul>	テキスト第8章(宇宙へ飛び立つ)に目を通しておくこと(60分)
9	物を測る	<ul style="list-style-type: none"> <li>測り方を共通にすることで広がる世界</li> <li>度量衡と政治の関係、原器、ものさし、機械的測定</li> </ul>	テキスト第9章(物を測る)に目を通しておくこと(60分)
10	センサで測る	<ul style="list-style-type: none"> <li>センサの発達と誤差との戦い</li> <li>センサ、センシング技術、計測と誤差</li> </ul>	テキスト第10章(センサで測る)に目を通しておくこと(60分)
11	制御する	<ul style="list-style-type: none"> <li>制御の成り立ちと発展、自動制御とは?</li> <li>调速機、結果を見て制御する(フィードバック)</li> </ul>	テキスト第11章(制御するとは?)に目を通しておくこと(60分)
12	操る・抑える	<ul style="list-style-type: none"> <li>サーボ機構とプロセス制御</li> <li>ロボットアーム、ロケット、原子力発電、鉄鋼プラント</li> </ul>	テキスト第12章(操る・抑える)に目を通しておくこと(60分)
13	生命・生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>バイオエンジニアリング、生体工学の世界</li> <li>生体の模倣と設計、鳥と飛行機、ハコブグと低燃費自動車、サソリと多足ロボット</li> </ul>	テキスト第13章(バイオエンジニアリング)に目を通しておくこと(60分)
14	生命・生体に倣う機械(2) - 医療と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間を援ける医用工学、人間を癒す福祉工学の世界</li> <li>人工臓器、福祉機器、健康機器、スポーツ機器</li> </ul>	テキスト第14章(医療と健康)に目を通しておくこと(60分)
15	生命・生体に倣う機械(3) - ヒューマノイド	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間を測る、診る、まねる世界</li> <li>生体計測、生体力学、医用診断装置、ヒューマノイドロボット</li> </ul>	テキスト第15章(ヒューマノイド)に目を通しておくこと(60分)

実務経験	
関連科目	産業技術史

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Teams「オンライン型」／Moodle			
Teams コード	fbr4gqg			
Moodle コース名 および登録キー	科学技術教養M2 STML2			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回、講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ(50%)、講義内容に対する理解と考察を問うレポート(50%)で評価する。			
学生への メッセージ	機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？近未来にどのような乗り物が実現されているか？等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、次のルールを原則とする。 ・出席率80%以上を成績評価の対象とする。 ・30分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・遅刻は2回で欠席1回とみなす。 ※ 詳細は、初回到配布する『M科開講「科学技術教養M1・M2」受講の際の注意』を熟読すること。  フィードバック：講義メモ・レポートは翌週に返却する。			

科目名	科学技術教養 (E1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片田 喜章
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにある電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどの様なしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	[教材・課題提供型授業] 教科書データ・補助資料 (パワーポイントスライドやPDFファイル、事前に録画した動画など) の教材を Moodle 上に提示する。 毎回、課題レポートが用意されている。課題レポートの提出も Moodle 上で行う。 前期授業期間に合わせて、すべての講義回に無理のないペースで取り組み、補助資料を参照しつつ教科書の精読・課題作成・課題提出を行うことを推奨する。  電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の
科目学習の効果 (資格)	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ることで、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ることで、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史と電気回路の基礎	科学技術教養の意義 電磁気学の歴史、電気回路の基礎、抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	電池の構造と応用技術	交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、 1次電池と2次電池	テキストを復習する。1時間
3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、 直流モータと交流モータ	テキストを復習する。1時間
4	半導体のお話	半導体とは何か、p形とn形、 大規模集積回路、LED照明とは	テキストを復習する。1時間
5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する。 売電のしくみ。	テキストを復習する。1時間
6	様々な電子回路	電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、 代表的なアナログ電子回路	テキストを復習する。1時間
7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習する。1時間
8	モールス通信から携帯電話へ	モールス通信からベルの電話へ、 電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、 携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習する。1時間
9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	テキストを復習する。1時間
10	パソコン・スマートフォンの内部構造	構成要素と機能、ハードウェアの構成、 ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化	テキストを復習する。1時間
11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやIHのしくみ	テキストを復習する。1時間
12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ、録音技術の歴史 CDのしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成	テキストを復習する。1時間
13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、 立体映像表示の原理と実例	テキストを復習する。1時間
14	インターネットのつながり方	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線LAN、ネットワークセキュリティ	テキストを復習する。1時間
15	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	テキストを復習する。1時間

実務経験	
関連科目	特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				



	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	授業の各回で課される課題レポートの合計点で評価する。 原則として課題レポートの提出率80%以上を成績評価の対象とする。		
学生への メッセージ	身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。		
担当者の 研究室等	1号館4階・5階の電気電子工学科教員室 責任者：片田（1号館4階）		
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 原則として課題レポートの提出率80%以上を成績評価の対象とする。 教材・課題提供、課題レポート提出はすべてMoodle上で行う。 課題レポートには提出期日がある。 課題レポートの結果はMoodle上で個別に通知する。		

科目名	科学技術教養 (E2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	片田 喜章
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジー、ロボット工学や人工知能の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどの様なしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	[教材・課題提供型授業] 教科書データ・補助資料 (パワーポイントスライドの PDF ファイルまたは説明動画) の教材を Moodle 上に提示する。 毎回、課題レポートが用意されている。課題レポートの提出も Moodle 上で行う。 授業時間割の日時に合わせて、すべての講義回を週一回のペースで取り組み、補助資料を参照しつつ教科書の精読・課題作成・課題提出を行うことを推奨する。ICT ツールのトラブルも考慮して、提出期日より早く提出するように注意すること。  電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。
科目学習の効果 (資格)	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。 また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史	科学技術教養の意義 磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hz と 60Hz	テキストを復習する。1時間
3	原子力発電	核エネルギーの発生、原子力発電のしくみ、事故と防災対策、放射線の性質と測定	テキストを復習する。1時間
4	再生可能エネルギー	太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率	テキストを復習する。1時間
5	送電・配電	電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド	テキストを復習する。1時間
6	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生	テキストを復習する。1時間
7	電波と放送	電波の利用と電波法、ラジオ放送、テレビ放送、衛星放送、放送の進化	テキストを復習する。1時間
8	携帯電話のしくみ	固定電話から携帯電話へ、セルラーシステム、携帯電話のつながるしくみ、音声通信からデータ通信へ、携帯電話の進化	テキストを復習する。1時間
9	私たちの生活をささえる電気照明	エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色LEDの発明、LED照明	テキストを復習する。1時間
10	レーザーの発明	物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴	テキストを復習する。1時間
11	光デバイス	さまざまな光デバイスの原理と応用など	テキストを復習する。1時間
12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、集積回路技術の歴史と現状、スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展	テキストを復習する。1時間
13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機 ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで	テキストを復習する。1時間
14	ロボット工学	ロボット工学の過去・現在・未来を解説	テキストを復習する。1時間
15	人工知能	知能・人工知能とは？ 人工知能の歴史、人工知能の分類、ルールベースとエキスパートシステム、機械学習と深層学習	テキストを復習する。1時間

実務経験	
関連科目	特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	科学技術教養 E2 (2020 年度後期) kyouyo_e2			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業の各回で課される課題レポートの合計点で評価する。 原則として課題レポートの提出率 80%以上を成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。			
担当者の 研究室等	1 号館 4 階・5 階電気電子工学科教員室 責任者：片田 (1 号館 4 階)			
備考	原則として課題レポートの提出率 80%以上を成績評価の対象とする。 教材・課題提供、課題レポート提出はすべて Moodle 上で行う。 課題レポートには提出期日がある。 課題レポートの結果は Moodle 上で個別に通知する。			

科目名	科学技術教養 (C1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 賢太郎, 伊藤 謙
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4〜7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8〜11回は設計方法、第12〜15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	講義は非対面型遠隔授業方式で行う。講義資料はICTツールを用いて、PPT+ナレーションを用いた動画とPDFを配布する。当該資料を繰り返し視聴し学習するとともに課題に取り組み理解を深める。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い、私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち（建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・）	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代〜江戸時代 ・明治〜第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代〜江戸時代 ・明治〜第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締固めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ、水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間、地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

実務経験	
関連科目	特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C1	都市環境工学科全教員	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	各回もしくは各テーマでの課題の点数を合計した総合点で評価する。3回分以上(2回までは可とする)の課題の提出がない場合には、原則として成績評価の対象としない。
学生への メッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
担当者の 研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 (C2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 諱
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	概要：いくつかのプロジェクトを例に、建設事業の流れに沿って、社会的な位置づけ、市民生活との関わりを解説する。第1回目の授業では、事業主体別にプロジェクトの流れを説明する。第2～3回目は、高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査、環境の調査を解説する。第4～7回は高速道路を構成する橋、トンネル、道路の設計と施工の考え方を解説する。第8～15回は、安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰、堤防、浸水対策、ライフライン、公園・まちづくり、地震防災など身近なテーマを概説する。
到達目標	土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動、生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	講義は非対面型遠隔授業方式で行う。講義資料はICTツール(Moodle)を用いて、PPT+ナレーションを用いた動画とPDFを配布し、課題の回収も行う。当該資料を繰り返し視聴し学習するとともに課題に取り組み理解を深める。私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され、設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する。代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ、安全で安心な社会を築くため、何が重要かを理解できるように講義を進める。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	社会基盤をつくる建設事業の流れ	国家プロジェクト、地域プロジェクト、民間主導プロジェクトなど事業主体別の建設の流れ、計画(意思決定)～調査～設計～施工の概要	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
2	高速道路建設の計画・調査・設計	国土開発や都市計画・地域計画との関連、一般道路や鉄道との関連、需要予測、予算、資本回収の考え方	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
3	建設に必要な調査①(地形の調査・土質の調査)	測量計測技術(地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS測量)、地盤の調査	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
4	建設に必要な調査②(環境の調査)	生態系・環境への影響、負荷の軽減策、排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
5	橋の設計と施工	コンクリート橋と鋼橋、橋の形式と適用支間長、景観設計、施工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
6	トンネル、半地下開削工法	山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工、地山の強度と工法、半地下開削工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
7	道路の設計と施工	盛土形式と高架形式、道路の構造、道路舗装	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
8	ダム・堰の計画と施工	洪水への備え(治水、防災)、発電・灌漑・上水などの多目的ダム、ダムの構造と種類	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
9	堰・堤防の計画と設計・施工	洪水・土砂災害への備え(治山・治水、防災)、計画雨量、遊水池、親水施設	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
10	都市型洪水への備え	透水性舗装、都市大型地下貯槽、屋上緑化、排水と下水道設計、地下道・地下鉄の浸水対策	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
11	市民の日常生活を支えるライフライン	上下水道、水質管理、水質浄化、下水処理、電気、通信設備	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
12	市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり	まちづくりとは、実現するものは、人とのかかわり、技術とのかかわり	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
13	市民の生活環境を守る	地球環境と生態系、人口増加と都市化・食糧生産・自然エネルギーの問題点、火力発電所と大気汚染・温暖化、原子力発電と放射能問題、温排水問題	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
14	震災から市民を守る	地震の種類と特性、地震に備える構造とは？制震構造と免震構造、ライフラインの耐震、避難体制、緊急地震速報	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	
15	津波や台風・高潮から市民を守る	港湾施設・防波堤、津波、避難施設、避難誘導	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。	

実務経験

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C2	都市環境工学科全教員	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
2				
3				

授業形態 Moodle

Teams コード

Moodle コース名 2020年度3年次配当科目 科学技術教養C2

および登録キー	STLC2
連絡手段	学内メール, Teams 内質問チャンネル
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	受講メモ 50%, レポート・小論文 50%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2~3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。ただし、4回分以上(3回までは可とする)の課題の提出がない場合には、原則として成績評価の対象としない。
学生への メッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです。
担当者の 研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。



科目名	科学技術教養 (T1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東 武大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。 SDGs-9
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。 初回に配布するテキスト及び毎回の配布資料を用いる。
科目学習の効果 (資格)	数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。	教科書 1 章の予習復習 (1 時間)
2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	教科書 1 章の予習復習 (1 時間)	
3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	教科書 1 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)	
4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)	
5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)	
6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	教科書 2 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)	
7	波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)	
8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)	
9	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいくところと小さいところが繰り返して現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)	
10	レーザー光	光を発するもの (光源) には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード (LED) が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)	
11	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)	

			線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	
	12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	教科書 3,4 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)
	15	ガリレイの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	教科書 5 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
実務経験				
関連科目	数学・物理の全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 T1	基礎理工学機構	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。			
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成り立たないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1 号館 2 階, 3 号館 3 階, 8 号館 2 階]			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。			

科目名	科学技術教養 (T2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	「信念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を發明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。 SDGs-9
到達目標	時間や位置とともに変化する量をどのように表すのか、そして、その変化の割合がいったい何を意味し、現代科学につながっていくのかを、歴史的背景も込めて、知る。
授業方法と留意点	座学・説明中心の講義となるので、遅刻・私語は厳禁である。 今年度は Teams・Moodle 等を用いた遠隔授業を行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文字式から単位のない実数の世界へ	微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。	課題・レポート
3	ヒルベルトのテーゼ: 無矛盾ならば存在する	微積分学が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。	課題・レポート
4	現代科学は力(ちから) F から始まった	ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力 F を使って、なんだか良くわからない質量 m を定めた。どちらもわかかっていないのに、大丈夫なのだろうか。	課題・レポート
5	万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か	ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。	課題・レポート
6	破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か	物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は50年間議論した。その結論はどうだったのか。	課題・レポート
7	蒸気機関と熱力学の誕生(1)	18世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。	課題・レポート
8	蒸気機関と熱力学の誕生(2)	カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。	課題・レポート
9	蒸気機関と熱力学の誕生(3)	カルノーからケルビン、そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則(熱力学第一法則)v.s. 不可逆性。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。	課題・レポート
10	角の3等分について(1)	歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数	課題・レポート
11	角の3等分について(2)	60度は3等分できない、体の考え方	課題・レポート
12	角の3等分について(3)	体の拡大と作図できる数、定理の証明	課題・レポート
13	ニュートンからアインシュタインへ	慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等々アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。	課題・レポート
14	特殊相対論---原理はたったの2つだけ	2つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。	課題・レポート
15	一般相対論---重力の謎	ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか?	課題・レポート

実務経験	
関連科目	数学・物理の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 T2		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle			
Teams コード	1jae0fu			
Moodle コース名 および登録キー	科学技術教養 II 2020T2			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%, レポート 50%で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は毎回1時間以上かけること。			

科目名	キャリアデザイン	科目名 (英文)	Introduction to Career Design
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1501a3		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</li> <li>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</li> <li>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</li> <li>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。</li> </ol> <p>よくなることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</li> <li>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</li> <li>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。 今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶ意味について考えること(0.5時間)</li> </ul>
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学の中にある「機会」について知る</li> <li>・アセスメントを実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること</li> <li>・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること</li> <li>・講義で課された課題に取り組むこと(2時間)</li> </ul>
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された個人ワークに取り組むこと(2時間)</li> </ul>
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する</li> <li>・社会人としてのマナーを学ぶ</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで課題に取り組むこと(2時間)</li> </ul>
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められる人材について考えること(0.5時間)</li> </ul>
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDP から見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(0.5時間)</li> </ul>
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(0.5時間)</li> </ul>
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを100挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(1時間)</li> </ul>
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学4年間の目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(0.5時間)</li> </ul>
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCA サイクルを身に付ける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を実践する方法を考えること(0.5時間)</li> </ul>
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(1時間)</li> </ul>
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること(1.5時間)</li> </ul>
14	グループ課題の発表会	グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(2時間)</li> </ul>
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びのプランニング</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(1時間)</li> </ul>

実務経験	
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ、エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	各回の課題レポート (55%)、最終レポート (45%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。			

科目名	インターンシップ基礎	科目名 (英文)	Introduction to Internship
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1502a3		

授業概要・目的	現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考え、3年次にビジネスインターンシップを履修するまでに実践する。  SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すこと等を考えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	事前学習：前期の大学生活で経験したことを思い出ししておくこと(0.5時間) 事後学習：講義内容を振り返ること(0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	事前学習：働く理由について考えること(0.5時間) 事後学習：配付したレジュメを熟読しておくこと(0.5時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	事前学習：課題に取り組むこと(0.5時間) 事後学習：グループ討議を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い事例を知る ・業界/業種とは何かを理解する ・川上〜川下の概念を理解する	事前学習：どんな業界があるのか調べておくこと(0.5時間) 事後学習：配付したレジュメを熟読すること(0.5時間)
5	社会を知る④	・会社組織とは何かについて理解する ・職種について理解を深める	事前学習：どんな会社があるか調べておくこと(0.5時間) 事後学習：配付したレジュメを熟読すること(0.5時間)
6	就活体験①	特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	事前学習：自分の長長について考えること(0.5時間) 事後学習：配付したレジュメを熟読すること(0.5時間)
7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	事前学習：自身の学生生活について考えること(0.5時間) 事後学習：配付したレジュメを熟読すること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	事前学習：自身の生活習慣を振り返ること(0.5時間) 事後学習：講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること(0.5時間)
9	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	事前学習：リーダーシップとは何かについて考えること(0.5時間) 事後学習：講義の内容を日常生活で実践すること(0.5時間)
10	自分を高める③	講義⑧⑨の実践報告プレゼンテーション	事前学習：発表の準備をしておくこと(0.5時間) 事後学習：講義を振り返ること(0.5時間)
11	社会を知る⑤ グループプレゼンテーション①	グループ課題の発表	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと(0.5時間) 事後学習：自身及び日他者の発表を振り返ること(0.5時間)
12	社会を知る⑥ グループプレゼンテーション②	グループ課題の発表	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと(0.5時間) 事後学習：自身及び日他者の発表を振り返ること(0.5時間)
13	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る	事前学習：何歳までに何をしたいかについて考えること(0.5時間) 事後学習：自分の将来について考えること(0.5時間)
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方について考える	事前学習：新聞などを読み時事について手調べておくこと(0.5時間) 事後学習：日本を取り巻く課題について理解すること(0.5時間)
15	授業のおさらい	講義のおさらいと期末レポートの振り返り	事前学習：最終課題を作成すること。課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間) 事後学習：講義全体を振り返ること(0.5時間)

実務経験									
関連科目	キャリアデザイン、ビジネスインターンシップ I・II、職業能力開発、キャリアプラン								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1									



	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Web Folder			
Teams コード	b2hp2wd			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	グループワーク (10%)、提出物 (40%)、期末レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。			
担当者の 研究室等 備考	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)			

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment Design I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1352a1		

授業概要・目的	この科目は学生が「協働作業」「意思決定」「創造的志向」「探求」など、エンプロイアビリティ (将来社会に出て仕事をする際に必要な能力) の獲得の必要性を認識するための科目である。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴き、理解しようとする態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方に気づくようになることが期待される。
到達目標	講義、個人ワーク、グループワークを通じて、目標と手段、意思決定や探求に向けて試行錯誤することができるようになることが目標である。
授業方法と留意点	「学びを通じて学び方を学ぶ」姿勢をもつことを心がける。また、講義で出た課題を実践し、振り返ることが課題となることもあるため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は1年生向けの科目で、2020年度入学生のみ履修ができる。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	私が NO.1 プロジェクト①	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1になる」ための計画を立て、実践する	事前学習：自身の学生生活での目標について考えること (0.5 時間) 事後学習：設定した課題を実践すること (1.5 時間)
3	私が NO.1 プロジェクト②	・講義 3 で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する	事前学習：グループに貢献する方法を考えること (0.25 時間) ・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること (0.25 時間)
4	仕事で使う分析スキルについての解説	・定量、定性分析の概説、定量分析の3つの場面の概説	事前学習：定量・定性分析とは何かについて調べておくこと (0.25 時間) 事後学習：講義内容を振り返ること (0.25 時間)
5	私が NO. プロジェクト③最終振り返り	・講義 3 で設定した個別の課題の結果の振り返り、共有	事前学習：発表の準備をすること (0.5 時間) 事後学習：グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること/第一回課題「NO. プロジェクトの振り返り」レポートを作成すること (1.5 時間)
6	数字を用いて意思決定を行う①	・損益分岐点を使った意思決定方法を学ぶ	事前学習：損益分岐点とは何かを調べておくこと (0.25 時間) 事後学習：講義の内容を振り返ること (0.25 時間)
7	数字を用いて意思決定を行う②	・機会費用と埋没費用を使った意思決定、重み付けを使った意思決定の方法を学ぶ	事前学習：機会費用とは何かを調べておくこと (0.5 時間) 事後学習：講義の内容を振り返り、日常生活で活かせる場面を考えること (0.5 時間)
8	議論を進めるファシリテーションの基本	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	事前学習：ファシリテーションの目的について調べておくこと (0.5 時間) 事後学習：講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること (0.5 時間)
9	創造的思考の枠組みを使って議論する	・クレイジープレスト、スマッシュアダンプションなどアイデアを拡散する方法を学ぶ	事前学習：グループに貢献する方法を考えておくこと (0.5 時間) 事後学習：講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること (0.5 時間)
10	グループでリサーチプロポーザル (研究計画書) を作ろう	・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザル (研究計画書) の作成」	事前学習：リサーチプロポーザルとは何か調べておくこと (0.5 時間) 事後学習：グループで課題に取り組むこと (1.5 時間)
11	担当講師のキャリアについて①	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	事前学習：自身の将来について考えておくこと (0.25 時間) 事後学習：講義の内容を振り返ること (0.25 時間)
12	担当講師のキャリアについて②	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	事前学習：自身の将来について考えておくこと (0.25 時間) 事後学習：講義の内容を振り返ること (0.25 時間)
13	担当講師のキャリアについて③	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	事前学習：自身の将来について考えておくこと (0.25 時間) 事後学習：講義の内容を振り返ること (0.25 時間)
14	グループで研究計画書を発表	・講義 10 で取り組んだ課題をグループごとに発表する	事前学習：グループでレポートを作成すること (0.75 時間) 事後学習：自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること/第二回課題「グループレポート」作成と提出 (0.25 時間)
15	講義のまとめ (担当：教育イノベーションセンター)	・エンプロイメントデザイン I の振り返り	事前学習：第三回課題「講義の最終レポート」を作成すること (1.5 時間) 事後学習：講義全体を振り返ること (0.5 時間)

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン I ・ キャリアデザイン II ・ エンプロイメントデザイン II
教科書	番号 書籍名 著者名 出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder			
Teams コード	v500rz8			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回のミニツペーパー (15%)、グループワーク (15%)、グループレポート (10%)、個人レポート2回 (60%)、を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	自身の将来の職業選択を考えるために、様々な課題を真摯な態度で聴いてほしい。 また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切に、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター (石井) 7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)			
備考	教科書：各回、必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回、必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 中間課題の評価基準・書き方に関する注意事項は講義内またはポータルサイトで伝達する。			

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名(英文)	Employment Design II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1353a1		

授業概要・目的	外部講師(本学卒業生を含む)をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。
科目学習の効果(資格)	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション(教育イノベーションセンター)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点(特に聴く態度)について	・事前学修: シラバスを熟読すること(1時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
2	「先人(企業家)に学ぶ ～仕事への心構え」大阪商工会議所人材開発部職員(所属: 大阪企業家ミュージアム)	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)	
3	私が大阪府警察で働く理由～警察官の教だけ理由がある～(警察官)	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介します DVD の上映も行います(予定)。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)	
4	社会人として転職4回で5社目に勤務しながら週末にNPOも立ち上げたほうが、20歳から40歳まで何を悩んでどう生きてきたかの事例紹介(社会起業家)	・ゲストのキャリアの履歴とその節目で感じたことをお話いただきます。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)	
5	プログラマーを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで(摂大 OB/NPO 法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)	
6	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)	
7	My proud work しあわせのまちづくり? 主役は地域住民! 『こどもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方? (社会福祉協議会職員)	・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉協議会の仕事と理念についてお話しします	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)	
8	講義の中間まとめ(教育イノベーションセンター)	・講義の中間まとめ ・グループワークの実施	・事後学修: グループワークを振り返ること(1時間) 中間課題を作成すること(2.5時間)	
9	「ビジネス創造に必要な力」を事例から学ぶ(IT/役員)	・現役のビジネスパーソンが日々実践している 「ビジネスに必要な力」を事例を通じて解説します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)	
10	信用金庫の仕事と期待される人材(金融/人材開発)	仕事へのやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)	
11	新卒での就職活動で全てが決まる!?(摂南大学 OG・旅行代理店/カウンター業務)	・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを実体験を交えてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)	
12	高校教師の仕事(高校教師)	・高校の教師の仕事についてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)	
13	SDGs で世の中を変える～未来の子どもたちのためにやるべきこと～	SDGs について、ゲスト企業の取り組みについてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)	
14	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ(摂南大学 OB/経営者)	・社会人となる学生へ、体験談を通して企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)	
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・事前学修: 講義全体を振り返り、ノートにまとめること(1.5時間) ・事後学修: 最終課題を作成すること(2.5時間)	
実務経験				
関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	毎回の感想 (30%)、レポート2回 (60%)、グループ課題 (10%) を総合的に判断する。																
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。																
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)																
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。																

科目名	ビジネスインターンシップ I	科目名 (英文)	Business Internship I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA2505a3		

授業概要・目的	<p>この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じることが期待される。インターンシップ I では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。</p> <p>なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>SDG s 4-4 SDG s 8-6</p>
---------	---

到達目標	就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。
------	--

授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義(演習を含む)であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
----------	--

科目学習の効果(資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。
-------------	-----------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業オリエンテーション</li> <li>学生と社会人の違いを理解する</li> <li>インターンシップの目的を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: インターンシップとは何かについて考えること(1時間)</li> <li>事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること(2時間)</li> </ul>
2	企業組織・ビジネスの理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織の形態を知る</li> <li>ビジネスへの理解を深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと(3時間)</li> <li>事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること(1時間)</li> </ul>
3	実習参加企業について	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業の分類を知る</li> <li>業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 興味のある会社や自治体などの組織について調べること(1時間)</li> <li>事後学修: インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること(3時間)</li> </ul>
4	効果的なプレゼンテーションとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 効果的なプレゼンテーションについて考えること(1時間)</li> <li>事後学修: 配付された資料を見直し講義を振り返ること(3時間)</li> </ul>
5	課題のプレゼンテーション①	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4回目の課題をプレゼンテーションする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること(3時間)</li> <li>事後学修: プレゼンテーションのポイントをまとめる(1時間)</li> </ul>
6	社会人のマナー①	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人としての心構えを知る</li> <li>身だしなみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: マナーがなぜ大切なのかを考えること(2時間)</li> <li>事後学修: 配付されたテキストを精読すること(2時間)</li> </ul>
7	社会人のマナー②	<ul style="list-style-type: none"> <li>文書でのコミュニケーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること(2時間)</li> <li>事後学修: 授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること(2時間)</li> </ul>
8	社会人のマナー③	<ul style="list-style-type: none"> <li>口頭でのコミュニケーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること(2時間)</li> <li>事後学修: マナーの大切さを再度考えること(2時間)</li> </ul>
9	履歴書を記入する	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップ用の履歴書を記入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 履歴書を書く準備をしておくこと(2時間)</li> <li>事後学修: 講義を振り返り、履歴書を書き下すこと(2時間)</li> </ul>
10	グループワーク①	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: グループ内の自分の役割を考えること(2時間)</li> <li>事後学修: グループで課題に取り組むこと(2時間)</li> </ul>
11	グループワーク②	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: グループでプレゼンテーションを行う準備をすること(2時間)</li> <li>事後学修: 自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること(2時間)</li> </ul>
12	事前訪問について	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前訪問のマナーと準備について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること(2時間)</li> <li>事後学修: 訪問時のマナーについておさらいをすること(2時間)</li> </ul>
13	課題のプレゼンテーション②	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: プレゼンテーションの準備をすること(2時間)</li> <li>事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること(2時間)</li> </ul>
14	課題のプレゼンテーション③	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: プレゼンテーションの準備をすること(2時間)</li> <li>事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること(2時間)</li> </ul>

	15	振り返りとまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を振り返る</li> <li>・インターンシップの目的を再考する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：インターンシップ I で学んだことをまとめること（2 時間）</li> <li>・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること（3 時間）</li> </ul>
実務経験				
関連科目	この科目を履修する学生は、「インターンシップ II（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	各課題 55%とレポート 45%(企業研究の PPT と企業研究レポート 25%、最終レポート 20%)			
学生への メッセージ	<p>インターンシップの流れは以下のとおりである。          ※ 4 月下旬にリスト公開→5 月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5 月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6 月末頃に事前訪問→8 月上旬からインターンシップ開始（予定）</p> <p>インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。</p>			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 教育イノベーションセンター（石井）			
備考	<p>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布          参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示          服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。</p> <p>インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。          予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。</p>			



科目名	ビジネスインターンシップⅡ	科目名(英文)	Business Internship II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA3506a3		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。
科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	直前学修① 6月20日(土) 3限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 *スーツ着用のこと	・事前学習: 社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(1時間)
	2	直前学修② 6月20日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習: マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
	3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導(担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修: 事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)
	8	事後学修① 9月19日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
	9	事後学修② 9月19日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
	10	事後学修③ 9月26日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
	11	事後学修④ 9月26日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
	12	事後学修⑤ 10月3日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る(実習記録簿の提出)	・事前学習: 実習記録簿を見直していただくこと(1時間)
	13	事後学修⑥ 10月3日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)
	14	事後学修⑦ 10月17日(土) (予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	・事前学習: 全員スーツ着用で受講するため、身だしなみを再度確認すること *学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること
	15	事後学修⑧ 10月17日(土) (予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ(予定)	
実務経験				
関連科目	インターンシップⅠ			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など)(40%)を総合的に評価する。																
学生への メッセージ	1. 「インターンシップI」を必ず履修すること。 2. 「インターンシップI」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。																
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)																
備考	教科書・・・必要に応じてレジユメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。  なお、振り返りの課題(体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など)は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。																

科目名	キャリアプラン	科目名 (英文)	Career Plan
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1507a3		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材（人財）になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義では各課題に挑む上で、講義資料を熟読する必要があるため、能動的な姿勢が求められる。
科目学習の効果 (資格)	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	・配付資料を熟読すること ・どんな業界があるのかを調べること(1時間)
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	・配付資料を熟読すること ・どんな会社があるのかを調べること(1時間)
4	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	・配付資料を熟読すること ・自分のワークスタイルを考えること(1時間)
5	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	・配付資料を熟読すること ・グループへの貢献の仕方を考えること(1.5時間)
6	ビジネス研究⑥	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間)
7	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間)
8	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	・配付資料を熟読すること ・自分の未来について考えること(1時間)
9	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	・配付資料を熟読すること ・自分について振り返ること(1時間)
10	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	・配付資料を熟読すること ・自分の特性について考えること(1時間)
11	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	・配付資料を熟読すること ・エントリーシートを作成する準備をしておくこと(1.5時間)
12	グループでのコミュニケーション①	・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる	・配付資料を熟読すること ・グループへの貢献の仕方を考えること(1.5時間)
13	グループでのコミュニケーション②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	・配付資料を熟読すること ・グループへの貢献の仕方を考えること(1.5時間)
14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	・配付資料を熟読すること ・模擬面接の準備をしておくこと(1.5時間)
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無い確認すること(1時間)

実務経験	
関連科目	・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、教的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	講義での提出物と授業態度(55%)、期末レポート(45%)を総合的に評価する。

学生への メッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター(上野山研究室) 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野研究室)
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。

科目名	職業能力開発	科目名 (英文)	Human Resources Development
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1356a1		

授業概要・目的	<p>この科目を通じて、学生は</p> <p>【目的】社会生活およびビジネスに必要な社会的基礎力の向上を目指す。 社会人・職業人に求められる社会的基礎力&lt;論理的な思考力、新しいアイディアを生み出す発想力、チームワーク力の向上を目指すことが期待される。</p> <p>【概要】 日本の産業の変遷の視点からビジネスパーソンに求められる能力の変化について理解し、その能力の獲得方法について考える。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>日本の産業の変遷を理解する</li> <li>ビジネスにおいて求められる力を理解し、その獲得のために行動変容を起こせるようになる</li> <li>チームで成果物を創出する</li> <li>自らのやる気の源泉を考えられるようになる</li> </ol>
授業方法と留意点	配布資料とスライドに基づいて講義を行う。授業ではグループワークを多用するので能動的に自ら考えて答えを出すように心掛けること。
科目学習の効果(資格)	ビジネス社会に必要な能力を習得し、活用することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。</li> <li>職業の定義を知る</li> </ul>	事前学習: シラバスを熟読すること(0.5時間) 事後学習: 講義の内容、進行方法を理解すること(0.5時間)
2	キャリア理論を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアに関する様々な理論を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習: 自身のキャリアについて考えておくこと(0.5時間)</li> <li>事後学習: 多数ある理論から興味を持ったものについて調べること(0.5時間)</li> </ul>
3	日本の職業指導の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の作業の変遷と求められた能力の変化を知る</li> </ul>	事前学習: 現在の社会で求められる能力について考えておくこと(0.5時間) 事後学習: 配布レジュメを熟読し、日本の産業の変遷について復習すること。(0.5時間)
4	グループワークのウォーミングアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ分け</li> <li>グループで企画を考える</li> </ul>	事前学習: 自らのグループを確認し、グループへの貢献の仕方を考えておくこと(0.5時間) 事後学習: グループで課題に取り組むこと(0.5時間)
5	グループワークの提示	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークの提示</li> <li>グループで工程管理を考える</li> </ul>	事前学習: リサーチプロポーザルとは何かを調べておくこと(0.5時間) 事後学習: グループで課題に取り組むこと(2.5時間)
6	マーケット感覚を身につける	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場化する社会について考える</li> </ul>	事前学習: 第5回でやる課題に取り組むこと(0.5時間) 事後学習: 配布資料を見直し、市場化する社会の中で自分の出来ることについて考えること(0.5時間)
7	営業力向上計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>「営業力とは何か」について個々で考える</li> </ul>	事前学習: 営業職について調べておくこと(0.5時間) 事後学習: 「営業力とは何か」について個々で考えること(0.5時間)
8	グループ発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義④の課題のグループ発表</li> </ul>	事前学習: 発表の準備をしておくこと(0.5時間) 事後学習: 自らの発表を内省すること(0.5時間)
9	ワークモチベーション研究の歴史を学ぶ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークモチベーション研究の歴史とその内容を知る</li> </ul>	事前学習: 自らのやる気の源泉について考えておくこと(0.5時間) 事後学習: 講義の内容を踏まえ、自分のやる気の源泉について考えること(0.5時間)
10	ワークモチベーション研究の歴史を学ぶ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークモチベーション研究の歴史とその内容を知る</li> </ul>	事前学習: 他者はどんな時にやる気が出ると思うのか考えること(0.5時間) 事後学習: 講義の内容を踏まえ、自分のやる気の源泉について考えること(0.5時間)
11	ライフデザイン①	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らのライフデザインを考える</li> </ul>	事前学習: 自らの学生生活を内省すること(0.5時間) 事後学習: 講義内で出された課題を作成すること(0.5時間)
12	ライフデザイン②	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らのライフデザインを考える</li> </ul>	事前学習: 自らの将来について考えること(0.5時間) 事後学習: 配布された資料を見直し、講義を振り返ること(0.5時間)
13	問題解決の事例を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>実社会で起こった問題の解決事例とその対処について知る</li> </ul>	事前学習: 「問題」とは何か考えること(0.5時間) 事後学習: 講義で扱った内容以外でも実ビジネスの事例を収集すること(0.5時間)
14	内省する技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までの学生生活を振り返って今後に活かす方法を知る</li> </ul>	事前学習: 今までの学生生活を振り返り、他者に伝えられるようにまとめておくこと(0.5時間) 事後学習: 講義内容を踏まえ、自らの学生生活を内省すること(0.5時間)

	15	講義のまとめ	・講義の振り返り	最終課題作成：課題を作成すること。提出物等、出し忘れが無い確認すること(0.5時間) 事後学習：講義内容を振り返ること(0.5時間)
実務経験				
関連科目	キャリアデザイン、インターンシップ基礎、エンプロイメントデザイン1、エンプロイメントデザイン2			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder			
Teams コード	u700ram			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業での提出物(30%)、グループワーク(20%)、期末レポート(50%)を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	私語厳禁。遅刻厳禁。授業中の入退室禁止。飲食等の禁止。スマホ・携帯の使用禁止。居眠り禁止。これらに違反した学生には退室を命ずることがある。 講義では自ら考えて答えを出すこと。そのためにはまず自分の頭で考えることを心がけることで、皆さんの就業力を伸ばすの方法を共に考える。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター 水野研究室			
備考	講義に関する質問には積極的に対応します。			

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1509a3		

授業概要・目的	数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	事後学修：実力テストの復習 30分以上を目安とする
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎(第1章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題(第2,3章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題(第4,7章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題(第5,6章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題(第8章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
7	復習①	復習①	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
8	中間テスト	中間テスト	事前学修：今まで学習した全問題の復習 30分～1時間程度を目安とする
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数(第10,11章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題(第9章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題(第12章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題(第13章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題(第14章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
14	復習②	復習②	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
15	最終テスト	最終テスト	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：テストに出た問題の復習 いずれも30分以上を目安とする

実務経験	
関連科目	キャリアデザインII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ASHITANE 数的思考 スタンダード	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」& Moodle
Teamsコード	nfveph8



Moodle コース名 および登録キー	「数的能力開発」2020年度後期金曜4限（経営学部） f4yth
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	平常点 40%、中間テスト・最終テスト 40%、SmartSPI 20%
学生への メッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1509a3		

授業概要・目的	数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	事後学修：実力テストの復習 30分以上を目安とする
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎(第1章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題(第2,3章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題(第4,7章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題(第5,6章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題(第8章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
7	復習①	復習①	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
8	中間テスト	中間テスト	事前学修：今まで学習した全問題の復習 30分～1時間程度を目安とする
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数(第10,11章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題(第9章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題(第12章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題(第13章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題(第14章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
14	復習②	復習②	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
15	最終テスト	最終テスト	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：テストに出た問題の復習 いずれも30分以上を目安とする

実務経験	
関連科目	キャリアデザインII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ASHITANE 数的思考 スタンダード	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」& Moodle
Teamsコード	ftvg214

Moodle コース名 および登録キー	「数的能力開発」2020年度後期金曜4限（経営学部） f4yth
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	平常点 40%、中間テスト・最終テスト 40%、SmartSPI 20%
学生への メッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1509a3		

授業概要・目的	数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	事後学修：実力テストの復習 30分以上を目安とする
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎(第1章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題(第2,3章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題(第4,7章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題(第5,6章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題(第8章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
7	復習①	復習①	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
8	中間テスト	中間テスト	事前学修：今まで学習した全問題の復習 30分～1時間程度を目安とする
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数(第10,11章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題(第9章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題(第12章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題(第13章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題(第14章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
14	復習②	復習②	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
15	最終テスト	最終テスト	事前学修：今まで学習した全問題の復習

実務経験	
関連科目	キャリアデザインⅡ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ASHITANE 数的思考 スタンダード	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」& Moodle
Teams コード	ley6oyj
Moodle コース名	「数的能力開発」2020年度後期金曜4限(経営学部)
および登録キー	f4yth

連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	平常点 40%、中間テスト・最終テスト 40%、SmartSPI 20%
学生への メッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名 (英文)	Development of Communication Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣, 橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1510a3		

**授業概要・目的**  
 社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴く の4技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。講師陣は航空業界で多種多様な価値観に触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。

**到達目標**  
 高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。  
 SDGs4  
 SDGs10

**授業方法と留意点**  
 毎回オンライン(オンデマンド)で授業動画を配信します。それを学習し、レポート課題で習熟度を測ります。個人での学習にはなりますが、コミュニケーションに必要な理論を学び、それを実社会で主体的に実践してください。

**科目学習の効果(資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読
2	聴く力①傾聴力を高める	聴くための技術の基本的な方法を学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
3	聴く力②質問力・コーチング力	聴いた内容を深めるために、質問とコーチングの基礎を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
4	話す力①ロジカルコミュニケーション①	論理的に会話するための基礎を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
5	話す力②ロジカルコミュニケーション②	論理的に会話するためのフレームワークを学び、発表する	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
6	話す力③プレゼンテーションの技法①	非言語面で、プレゼンテーションを効果的に行う方法を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
7	話す力④プレゼンテーションの技法②	言語面で、プレゼンテーションを効果的に行う方法を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
8	中間テスト	聴く力・話す力を問う	今までの範囲を復習しておくこと(目安:2時間)
9	議論する力①対話と議論の進め方①	対話・議論を進めるための方法を知る	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
10	議論する力②対話と議論の進め方②	対話・議論の練習をして、対話・技法のスキルを習得する	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
11	議論する力③ファシリテーションの技法	話し合いを円滑にする技術を習得する	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
12	相手を尊重する①自分の気持ちを伝える	適切に主張する態度・手法を身につける	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
13	相手を尊重する②ダイバーシティを理解する	コミュニケーションの基礎となる多様性の考え方を身につける	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
14	総合演習①	課題について、発表と議論を行う	講義内容を復習し、実践すること(目安:2時間)
15	総合演習②・最終テスト	課題について、発表と議論を行う	全ての範囲を確認しておくこと(目安:2時間)

**実務経験**  
**関連科目** キャリアデザインⅡ, 数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

**授業形態**  
 Teams コード

Moodle コース名  
 および登録キー

連絡手段

メールアドレス  
 メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。  
 メールアドレス:

評価方法(基準)  
 毎回の小レポート40%、2回のテスト30%、動画プレゼンテーション30%

学生へのメッセージ  
 人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。

担当者の研究室等  
 備考

科目名	ビジネスマナー I	科目名 (英文)	Business Manners I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1511a3		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションーあいさつの重要性 (理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考える。(30分) ・事後学修：ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。(90分)
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の8つの意識について調べる。(30分) ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。(90分)
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べる。(30分) ・事後学修：あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめる (400字以上)。(90分)
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。(30分) ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。(90分)
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。(30分) ・事後学修：ケーススタディプリントをする。(90分)
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをする。(30分) ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。(90分)
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客応対プリント①をする。(30分) ・事後学修：来客応対プリント②をする。(90分)
8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる。(30分) ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。(90分)
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書：始める前にする。(30分) ・事後学修：ビジネス文書②をする。(90分)
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。(30分) ・事後学修：ビジネス文書④をする。(90分)
11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。(30分) ・事後学修：メール文書を作成する。(90分)
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べる。(30分) ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する (400字以上)。(90分)
13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。(30分) ・事後学修：設営事例をまとめる。(90分)
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。(30分) ・事後学修：ビジネス文書 (社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。(90分)
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。(30分) ・事後学修：全体をまとめる。(90分)

実務経験									
関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1									



	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／ Web Folder			
Teams コード	x0590zo			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回のレポート(50%)、期末試験(50%)を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	総学習時間の目安は60時間程度。事前学修・事後学修の課題については、授業中にフィードバックを行う。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IE1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業や成績評価等についての説明 自己紹介	テキストの予習 予習をしながら単語帳を作ること(以下同様)
2	Millenials (1)	ミレニアル世代/現在完了(1)	テキストの予習
3	Millenials (2)	ミレニアル世代/現在完了	テキストの予習
4	Green Profits	環境保護/副詞節	テキストの予習
5	Well-Loved Pets	ペット産業/前置詞	テキストの予習
6	Italy's Fashion King	ファッション業界/ -w h e r e の使い方	テキストの予習
7	Viral Marketing (1)	バイラル・マーケティング/ 場所を表す前置詞 (1)	テキストの予習
8	Viral Marketing (2)	バイラル・マーケティング /場所を表す前置詞 (2)	テキストの予習
9	TED Talks	TED Talks /助動詞	テキストの予習
10	The Gossip Media	ゴシップ・メディア/-e v e r の使い方	テキストの予習
11	Replanting the World's Forests (1)	森林を取り戻す努力/形容詞・副詞 (1)	テキストの予習
12	Replanting the World's Forests (2)	森林を取り戻す努力/形容詞・副詞 (2)	テキストの予習
13	Adventure Tourism	アドベンチャー・ツーリズム/ besides, rather, a l o n g の使い方	テキストの予習
14	The Cannes Film Festival	カンヌ映画祭	テキストの予習
15	まとめテスト	復習およびまとめテスト	前期の内容の復習

実務経験	
------	--

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Pass 2 -Second Edition-	Andrew Bennet	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%
----------	---

学生へのメッセージ	毎回予習をして、辞書を持参してください。わからないことがあれば、その都度質問してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IE1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業や成績評価等についての説明 自己紹介	
2	Unit 1 Who is Pepper?	現在形 単語・音読・内容理解	テキストの予習
3	Unit 1. Who is Pepper?	現在形 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
4	Unit 2. Self-sufficient family.	代名詞 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
5	Unit 2. Self-sufficient family	代名詞 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての復習
6	Unit 3. Starbucks	過去形 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
7	Unit 3. Starbucks	過去形 単語・音読・内容理解	テキストの復習 中間テストに向けての予習
8	中間テスト	Unit 1-3	次回に向けての予習
9	Unit 4. Halloween	可算名詞・不可算名詞 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
10	Unit 4. .Halloween	可算名詞・不可算名詞 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
11	Unit 5. Roman thermae	時と場所を表す前置詞 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
12	Unit 5. Roman thermae	時と場所を表す前置詞 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
13	Unit 6. Are you going cashless?	進行形 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
14	Unit 6. Are you going cashless?	進行形 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
15	まとめテスト	Unit1-6	後期全範囲の復習

実務経験

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Link	臼倉 美里 他	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition-	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス  
メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。  
メールアドレス:

評価方法(基準)  
全学共通英語課題 30%  
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%

学生へのメッセージ  
中高で学習した英文法を復習しながら、オフィスで使う英語に慣れていきましょう。また TOEIC 形式の問題にも挑戦してみましょう。

担当者の研究室等  
7号館2階(非常勤講師室)

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。	教科書前文
	2	Unit 1: Japanese companies in rural areas facing difficulty in hiring graduates	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.1-6 単語:NO.1-30 事後:前回単語不合格者 再提出
	3	Unit 2: Foreign visitors go on record shopping spree	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.7-12 単語:NO.21-50 事後:前回単語不合格者 再提出
	4	Unit 3: Niigata rice exports to China start	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.13-19 単語:NO.41-70 事後:前回単語不合格者 再提出
	5	Unit 4: India plans manned space mission by 2021	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.20-24 単語:NO.61-90 事後:前回単語不合格者 再提出
	6	Unit 5: Saudi teenager 'under the care' of U.N. agency	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.25-30 単語:NO.81-110 事後:前回単語不合格者 再提出
	7	教科書 Unit 1-5 テスト	Unit 1~5までの内容について小テストを行う。	Unit 1-5 テスト勉強
	8	中間試験解説及び評	演習	事前:単語:NO.101-130 事後:前回単語不合格者 再提出
	9	Unit 6: Shenzhen switches to electric taxis	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.31-36 単語:NO.121-150 事後:前回単語不合格者 再提出
	10	Unit 7: Frog calls may help improve telecom technology	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.37-42 単語:NO.141-170 事後:前回単語不合格者 再提出
	11	Unit 8: Japan to power fishing boats with Toyota's hydrogen fuel	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.43-48 単語:NO.161-190 事後:前回単語不合格者 再提出
	12	Unit 9: Study: Greenland ice melting four-fold faster than decade ago	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.49-54 単語:NO.181-210 事後:前回単語不合格者 再提出
	13	Unit 10: Domestic firms eye Africa's geothermal power sector	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.55-60 単語:NO.201-230 事後:前回単語不合格者 再提出
	14	教科書 Unit 6-10 復習	単語小テスト及び教科書復習	事前:Unit 6-10 復習 単語:NO.221-248 事後:前回単語不合格者 再提出
15	教科書 Unit 6-10 テスト	Unit 6~10までの内容について小テストを行う。	事前:Unit 6-10 テスト勉強 事後:前回単語不合格者 再提出	
実務経験				
関連科目	他の英語科目			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World : English through Newspaper 2020	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO
	2	The 1500Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはず。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方についての説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習(1時間)
	2	Unit 1 Small Talk/日常生活	いろいろな数値①	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	3	Unit 1 Small Talk/日常生活	基本 5 文型	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	4	Unit 2 Human Relations/人間関係・コミュニケーション	いろいろな数値②	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	5	Unit 2 Human Relations/人間関係・コミュニケーション	文の種類	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	6	Unit 3 Culture and Globalization/言葉・文化	発音しづらい語句	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	7	Unit 3 Culture and Globalization/言葉・文化	基本時制	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	8	小テスト、復習	小テスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習(1時間)
	9	Unit 4 Healthy Life/健康・医療	固有名詞(人名・地名など)	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	10	Unit 4 Healthy Life/健康・医療	進行形	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	11	Unit 5 Future Careers/職業・キャリア	簡単な挨拶文	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	12	Unit 5 Future Careers/職業・キャリア	完了形	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	13	Unit 6 That Shirt Suits You!/ファッション	提案文、勧誘文	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	14	Unit 6 That Shirt Suits You!/ファッション	助動詞①(can / may / must / should)	テキストの予習と単語の学習(1時間)
	15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習(1時間)

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TARGET! pre-intermediate 総合英語のターゲット演習【準中級】	森田彰ほか	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。積極的な参加を期待しています。
担当者の	7号館2階非常勤講師室



研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション テキスト Getting to Know You, Class Rules, Evaluation, etc.	Introduction exercises Getting to Know You	Students should study the content of the day's lesson
	2	単語テスト Exercises - Getting to Know You Pt 2	次回の単語テストの予習 テキスト Getting to Know You	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	単語テスト Exercises - Food & Drink	次回の単語テストの予習 テキスト Eating Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	単語テスト Exercises - Your Neighbourhood	テキスト Living Conditions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises - Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	単語テスト Exercises - Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	単語テスト Exercises - Entertainment	次回の単語テストの予習 テキスト Movies, TV, Music	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	単語テスト Exercises - Friends & Dating	テキスト Relationships, Going Out	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises - Fashion & Style	次回の単語テストの予習 テキスト Dress for Success	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	単語テスト Exercises - University Life	次回の単語テストの予習 テキスト Education, Club Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	単語テスト Exercises - University Life	テキスト Student Life	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises - Shopping	次回の単語テストの予習 テキスト Clothes, Supermarket, On-line	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	13	単語テスト Exercises - Travel	次回の単語テストの予習 テキスト Travel Experience	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	単語テスト Exercises - Summer Vacation	テキスト Summer Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review Test and Feedback Session	Feedback session	Students should prepare for review test

実務経験	
------	--

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press ISBN 978-4-9909741-0-7
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	25% of Grade on class participation, attendance and attitude 25% of Grade on end-of-unit quizzes 50% of Grade on Review Test (in-class Final Test)
学生への メッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	グラント パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	Through English activities, students will become familiar and confident using English and learn reading and listening comprehension skills so that performance on English qualification tests such as TOEIC or Eiken can be improved.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction.	Course overview, objectives, learning outcomes, and explanation of assessment	Before class students make sure they have the textbook. After class review.
	2	Occupations and duties.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	3	Introductions, positions and responsibilities.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	4	Finding your way around an office building.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	5	Instructions and processes.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	6	Invitations and preferences.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	7	Review	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	8	Quizz and review.	Listening, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	9	Media	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	10	Travel arrangements.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	11	Requests for information and assistance.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	12	Sales Figures.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	13	Review	Listening, speaking, reading and	Before class students make sure they have the

			writing.	textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review all the units for the quiz.
	14	Quiz & Review.	Listening, reading and writing.	After class students should review the units.
	15	Issues	Dealing with any issues.	Make sure all your work is up to date and has been seen by the teacher.
実務経験				
関連科目	他の英語関係科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Passport to Work	Angela Buckingham	OXFORD
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% Final Test, In class activities, Homework and preparation for class. 70%			
学生への メッセージ	Plan for your future, study English now. Business English will be very useful in the future. (1) 教科書と宿題を授業が始まるまでに必ず用意し、時間を厳守すること。 (2) 講義に積極的に参加すること。  Students will be able to have a basic predictable business conversation. Understand basic announc			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	廣野 允紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IE1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容・方法説明など	Unit 1 予習
	2	Unit 1 平叙文 名詞	リスニング・リーディング演習 スピーチペア決め	Unit 2 予習
	3	Unit 2 疑問文 代名詞	リスニング・リーディング演習 スピーチ作成	Unit 3 予習 スピーチ原稿作成
	4	スピーチ発表	スピーチ発表・評価	Unit 3 予習
	5	Unit 3 進行形・近い未来 動詞	リスニング・リーディング演習	Unit 4 予習
	6	Unit 4 依頼・許可 進行形	リスニング・リーディング演習	Unit 5 予習
	7	Unit 5 提案・申し出・勧誘 形容詞	リスニング・リーディング演習	Unit 6 予習
	8	Unit 6 選択疑問文 副詞	リスニング・リーディング演習 スピーチ作成	Unit 7 予習 スピーチ原稿作成
	9	スピーチ発表	スピーチ発表・評価	Unit 7 予習
	10	Unit 7 Whatの疑問文 動名詞	リスニング・リーディング演習	Unit 8 予習
	11	Unit 8 Whereの疑問文 品詞の選択	リスニング・リーディング演習	Unit 9
	12	Unit 9 Whenの疑問文 不定詞	リスニング・リーディング演習	Unit 10 予習
	13	Unit 10 Whyの疑問文 接続詞	リスニング・リーディング演習	Unit 11 予習
	14	Unit 11 Whoの疑問文 前置詞	リスニング・リーディング演習	これまでの復習
	15	全体の総復習	期末テストに向けて プレテスト	期末テスト勉強

実務経験	
関連科目	他の英語関係科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FULL GEAR FOR THE TOEIC R L&R TEST	Mark D. Stafford / 妻鳥千鶴子 / 松井こづえ	金星堂
	2	『学校語彙で学ぶ TOEIC テスト[単語集] (The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test)』	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への取り組み(単語テスト・スピーチ・授業への積極的な参加)(50%) 期末テスト(50%) 原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。
学生への メッセージ	(1) 教科書と宿題を授業が始まるまでに必ず用意し、時間を厳守すること。 (2) 講義に積極的に参加すること。 (3) 可能であれば、紙ベースの辞書か電子辞書を持ってくる。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 TOEIC400を目標とする。基本的な文法項目の理解や文の構成を意識することを目標とする。 毎授業の単語テストの実施により、語彙力の向上を目指す。 また自らスピーチを作成することで、ライティングやスピーキング力を向上させる。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	矢野 涼子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit1: Job Market in Transition	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明 Unit1の導入	テキスト全体に目を通しておく。
	2	Unit1: Job Market in Transition	Unit1のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit1のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
	3	Unit1: Job Market in Transition	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
	4	Unit2: Women in Business	Unit2のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit2のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
	5	Unit2: Women in Business	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
	6	Unit3: Population Crisis	Unit3のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit3のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
	7	Unit3: Population Crisis	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
	8	Unit4: Going Global	Unit4のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit4のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
	9	Unit4: Going Global	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
	10	Unit5: Financial Reform	Unit5のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit5のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
	11	Unit5: Financial Reform	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
	12	Unit6: The Lost Years	Unit6のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit6のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
	13	Unit6: The Lost Years	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
	14	Unit7: Emerging Markets	読解、リスニングやライティングを通じて、語彙や英語表現を理解する。	Unit7のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
15	まとめのテスト、Unit1~7の復習	Unit1~7の文法や英語表現について復習する。	これまでの15回の授業で理解できなかったところを質問できるようにしておく。	

実務経験	
関連科目	なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	An Insight into the Japanese Economy	Mark Chang 他	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	



メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への取り組みの評価 40% まとめのテスト 40% 提出課題 20%
学生への メッセージ	楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出する、分からない英単語を辞書で調べてくるなど、できることはきちんとやってください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。英語が苦手でも、努力次第で単位が取れる科目です。一緒に充実した時間を過ごしましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	Moodleを使用して課題を出し、提出期限後に解答と解説を提示するという流れで行う。毎回期限を確認して遅れないように提出すること。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>The Gossip Media (1)</td> <td>ゴシップ・メディア</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The Gossip Media (2)</td> <td>同上</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Replanting the World's Forests (1)</td> <td>森林の再生活動</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Replanting the World's Forests (2)</td> <td>同上</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Adventure Tourism (1)</td> <td>アドベンチャー・ツーリズム</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Adventure Tourism (2)</td> <td>同上</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>The Cannes Film Festival (1)</td> <td>有名な映画祭</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>The Cannes Film Festival (2)</td> <td>同上</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Giving Away Millions (1)</td> <td>高額の寄付をする富豪</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Giving Away Millions (2)</td> <td>同上</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Computer Actors (1)</td> <td>CGの俳優たち</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Computer Actors (2)</td> <td>同上</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Fresh Water (1)</td> <td>水不足の危機について</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Fresh Water (2)</td> <td>同上</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習</td> <td>後期の内容の復習課題</td> <td>後期の内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	The Gossip Media (1)	ゴシップ・メディア	テキストの予習	2	The Gossip Media (2)	同上	テキストの予習	3	Replanting the World's Forests (1)	森林の再生活動	テキストの予習	4	Replanting the World's Forests (2)	同上	テキストの予習	5	Adventure Tourism (1)	アドベンチャー・ツーリズム	テキストの予習	6	Adventure Tourism (2)	同上	テキストの予習	7	The Cannes Film Festival (1)	有名な映画祭	テキストの予習	8	The Cannes Film Festival (2)	同上	テキストの予習	9	Giving Away Millions (1)	高額の寄付をする富豪	テキストの予習	10	Giving Away Millions (2)	同上	テキストの予習	11	Computer Actors (1)	CGの俳優たち	テキストの予習	12	Computer Actors (2)	同上	テキストの予習	13	Fresh Water (1)	水不足の危機について	テキストの予習	14	Fresh Water (2)	同上	テキストの予習	15	復習	後期の内容の復習課題	後期の内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	The Gossip Media (1)	ゴシップ・メディア	テキストの予習																																																																
2	The Gossip Media (2)	同上	テキストの予習																																																																
3	Replanting the World's Forests (1)	森林の再生活動	テキストの予習																																																																
4	Replanting the World's Forests (2)	同上	テキストの予習																																																																
5	Adventure Tourism (1)	アドベンチャー・ツーリズム	テキストの予習																																																																
6	Adventure Tourism (2)	同上	テキストの予習																																																																
7	The Cannes Film Festival (1)	有名な映画祭	テキストの予習																																																																
8	The Cannes Film Festival (2)	同上	テキストの予習																																																																
9	Giving Away Millions (1)	高額の寄付をする富豪	テキストの予習																																																																
10	Giving Away Millions (2)	同上	テキストの予習																																																																
11	Computer Actors (1)	CGの俳優たち	テキストの予習																																																																
12	Computer Actors (2)	同上	テキストの予習																																																																
13	Fresh Water (1)	水不足の危機について	テキストの予習																																																																
14	Fresh Water (2)	同上	テキストの予習																																																																
15	復習	後期の内容の復習課題	後期の内容の復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Reading Pass 2 -Second Edition-</td> <td>Andrew Bennet</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Reading Pass 2 -Second Edition-	Andrew Bennet	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Reading Pass 2 -Second Edition-	Andrew Bennet	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Moodle																																																																		
Teamsコード																																																																			
Moodleコース名および登録キー	基礎英語 IIa(S1①) hy03																																																																		
連絡手段	学内メールを利用する																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% TOEIC Bridgeのスコア 10% 提出された課題の評価 60%																																																																		
学生へのメッセージ	毎回期限を確認して、遅れないように提出すること。後期は教科書の内容の提示は一切できないので、教科書を持っていない人は必ず購入しておくこと。重要な連絡をすることもあるので、Portal Siteのメールを頻りにチェックすること。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	オンライン授業になりますので、確実に課題を提出して下さい。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業や成績評価等についての説明 Unit 1 p.13	
	2	Unit 8. Coco Chanel	訳、文法問題	テキストの予習
	3	Unit 10. The Amazon	訳、文法問題	テキストの復習 次回に向けての予習
	4	Unit 13 Dogs	訳、文法問題	テキストの復習 次回に向けての予習
	5	Unit 14. Best Sushi	訳、文法問題	テキストの復習 次回に向けての復習
	6	Unit 15. Jeans with History	訳、文法問題	テキストの復習 次回に向けての予習
	7	Unit 1. Pepper	訳・読解	テキストの復習 中間テストに向けての予習
	8	テスト1	Unit 1-5 文法問題	次回に向けての予習
	9	Unit 2. Self-Sufficient Family	訳・読解	テキストの復習 次回に向けての予習
	10	Unit 3. Starbucks	訳・読解	テキストの復習 次回に向けての予習
	11	Unit 4. Halloween	訳・読解	テキストの復習 次回に向けての予習
	12	Unit 5. Roman Thermae	訳・読解	テキストの復習 次回に向けての予習
	13	Unit 6. Cashless	訳・読解	テキストの復習 次回に向けての予習
	14	Unit 7. Marathons	訳・読解	テキストの復習 次回に向けての予習
	15	テスト2	Unit 6-10 文法問題	文法の復習

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Link	臼倉 美里 他	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 60%
学生へのメッセージ	中高で学習した英文法を復習しながら、英文に慣れていきましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	Unit 11: Female birds prefer smarter partners	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.61-66 単語: NO.387-416	
2	Unit 12: Auto tech shifting focus to user experience	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.67-72 単語: NO.397-426	事後:前回単語不合格者 再提出
3	Unit 13: Labor shortages force industry reforms	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.73-78 単語: NO.407-436	事後:前回単語不合格者 再提出
4	Unit 14: Conservation work on Tutankhamun tomb unveiled	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.79-84 単語: NO.417-446	事後:前回単語不合格者 再提出
5	Unit 15: Modern sauna hot spots in Japan shed old-man image	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.85-90 単語: NO.427-456	事後:前回単語不合格者 再提出
6	Unit 11-15 総復習	単語小テスト及び教科書演習	事前:単語: NO.437-466	事後:前回単語不合格者 再提出
7	中間テスト	Unit 11~15 までの内容についてテスト	事前:単語: NO.447-476	事後:前回単語不合格者 再提出
8	中間試験解説及び評	中間試験の詳しい解説	事前:単語: NO.457-486	事後:前回単語不合格者 再提出
9	Unit 16: Students globally protest warming	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.91-96 単語: NO.467-496	事後:前回単語不合格者 再提出
10	Unit 17: Asian nations to increase labor flow to Japan	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.97-102 単語: NO.477-506	事後:前回単語不合格者 再提出
11	Unit 18: Koikeya: Creating potato chips with pioneer's pride	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.103-108 単語: NO.487-516	事後:前回単語不合格者 再提出
12	Unit 19: What the latest dieting studies tell us	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.109-114 単語: NO.497-526	事後:前回単語不合格者 再提出
13	Unit 20: Japanese researchers to test use of iPS cells for cancer treatment	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.115-120 単語: NO.507-523	事後:前回単語不合格者 再提出
14	Unit16-20 総復習	Unit16-20 総復習	事前:教科書Unit 16~20 までの	復習 事後:前回単語不合格者 再提出
15	Unit 16-20 テスト	Unit 16~20 までの内容についてテストを行う	Unit16-20 テスト勉強	

実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspaper 2020	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	成美堂

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Web Folder			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 60%			
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の内容の再確認、夏休みについての作文	授業の進め方についての説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習(1時間)
	2	Unit 5 Future Careers/職業・キャリア?	簡単な挨拶文	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	3	Unit 5 Future Careers/職業・キャリア?	完了形	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	4	Unit 6 That Shirt Suits You!/ファッション?	提案文、勧誘文	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	5	Unit 6 That Shirt Suits You!/ファッション	助動詞① (can / may / must / should)	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	6	Unit 7 Taking a Trip/旅行・観光	依頼文	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	7	Unit 7 Taking a Trip/旅行・観光	助動詞② (could / might / would など)	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	8	小テスト、復習	小テスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習(1時間)
	9	Unit 8 Do You Like Sports?/スポーツ	Yes / No 疑問文	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	10	Unit 8 Do You Like Sports?/スポーツ	受動態	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	11	Unit 9 Let's Do Something Fun!/レジャー・エンタメ	wh 疑問文	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	12	Unit 9 Let's Do Something Fun!/レジャー・エンタメ	不定詞	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	13	Unit 10 Art Appreciation/アート	否定・付加疑問文	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	14	Unit 10 Art Appreciation/アート	動名詞	フォルダ【当日付の資料】内の文書【当日付の案内】に従い、教科書の予習・復習を行い、課題を提出する。
	15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習(1時間)

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『TARGET! pre-intermediate 総合英語のターゲット演習【準中級】』	森田彰ほか	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder/Zoom
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 60%
学生への メッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。



科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション テキスト Getting to Know You, Class Rules, Evaluation, etc.	Introduction exercises Getting to Know You	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises - Getting to Know You Pt 2	次回の単語テストの予習 テキスト Getting to Know You	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
3	単語テスト Exercises - Food & Drink	次回の単語テストの予習 テキスト Eating Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
4	単語テスト Exercises - Your Neighbourhood	テキスト Living Conditions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
5	Exercises - Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
6	単語テスト Exercises - Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
7	単語テスト Exercises - Entertainment	次回の単語テストの予習 テキスト Movies, TV, Music	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
8	単語テスト Exercises - Friends & Dating	テキスト Relationships, Going Out	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
9	Exercises - Fashion & Style	次回の単語テストの予習 テキスト Dress for Success	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
10	単語テスト Exercises - University Life	次回の単語テストの予習 テキスト Education, Club Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
11	単語テスト Exercises - University Life	テキスト Student Life	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
12	Exercises - Shopping	次回の単語テストの予習 テキスト Clothes, Supermarket, On-line	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	
13	単語テスト Exercises - Travel	次回の単語テストの予習 テキスト Travel Experience	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
14	単語テスト Exercises - Summer Vacation	テキスト Summer Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	
15	Review Test and Feedback Session	Feedback session	Students should prepare for review test	

実務経験	
関連科目	なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press ISBN 978-4-9909741-0-7
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
------	------------------------

Teams コード	8fe532z
Moodle コース名 および登録キー	基礎英語II b (S1) Bell 2020 empty5plate
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	Grading will be based on weekly assignments to be found on Moodle, including end of unit quizzes and tests.?
学生への メッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	Through English activities, students will become familiar and confident using English and learn reading and listening comprehension skills so that performance on English qualification tests such as TOEIC or Eiken can be improved.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class make sure you have your text book. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	2	Modern Communication.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	3	Plans for the future.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	4	Current topic.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	5	Current topic.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	6	Current topic.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	7	Current topic.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	8	Arts and media.	Listening and reading.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	9	Promotional campaigns.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	10	Current topic.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	11	Current topic.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	12	Current topic.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	13	The festive season.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	14	The Future	Listening, speaking, reading and writing.	Before class please check the Moodle. After class complete the task on the Moodle
	15	Issues	Dealing with any issues.	Make sure all you work is up to date and is ready to be seen by the teacher.

実務経験	
関連科目	他の英語関係科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Passport to Work	Angela Buckingham	OXFORD
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle/Teams「オンライン型」 Web Folder
Teamsコード	k8vizpe
Moodleコース名および登録キー	GB2020
連絡手段	Setsunan e-mail, but try Teams first.
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	TOEIC Bridge TEST 10% Weekly Tasks 90%
学生へのメッセージ	Plan for your future, study English now. Business English will be very useful in the future. (1) 教科書と宿題を授業が始まるまでに必ず用意し、時間を厳守すること。

	<p>(2) 講義に積極的に参加すること。</p> <p>Students will be able to have a basic predictable business conversation. Understand basic announc</p>
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	廣野 允紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。また授業中の居眠りも出席に認めない。

科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等
-------------	------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容・方法説明など	Unit 1 予習
	2	Unit 1 名詞(可算名詞・不可算名詞)	リスニング・リーディング演習	Unit 2 予習
	3	Unit 2 形容詞(名詞修飾・補語)	リスニング・リーディング演習	Unit 3 予習
	4	Unit 3 副詞(動詞・形容詞修飾)	リスニング・リーディング演習	Unit 4 予習
	5	Unit 4 時制(現在・過去・未来・現在進行形)	リスニング・リーディング演習	Unit 5 予習
	6	Unit 5 3単現のS (修飾語句を伴う主語)	リスニング・リーディング演習	Unit 6 予習
	7	Unit 6 能動態・受動態(感情を表す表現)	リスニング・リーディング演習	Unit 7 予習
	8	Unit 7 動詞の後ろの動名詞・不定詞	リスニング・リーディング演習	Unit 8 予習
	9	Unit 8 代名詞(主格・目的格・所有代名詞)	リスニング・リーディング演習	Unit 9 予習
	10	Unit 9 比較	リスニング・リーディング演習	Unit 10 予習
	11	Unit 10 前置詞(理由・譲歩・時・定型表現)	リスニング・リーディング演習	Unit 11 予習
	12	Unit 11 接続詞(理由・譲歩・時)	リスニング・リーディング演習	Unit 12 予習
	13	Unit 12 接続詞と前置詞の違い	リスニング・リーディング演習	Unit 13 予習
	14	Unit 13 関係代名詞	リスニング・リーディング演習	これまでの復習
	15	全体の総復習	期末テストに向けて プレテスト	期末テスト勉強

実務経験	
------	--

関連科目	他の英語関係科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCORE BOOSTER FOR THE TOEICR L&R TEST : PRE-INTERMEDIATE レベル別 TOEICR L&R テスト実力養成コース: 準中級編	溝口優美子 / 柳田真知子 著	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
------	------------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への取り組み(単語テスト・スピーチ・授業への積極的な参加)(50%) 期末テスト(50%) 原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。
学生への メッセージ	(1) 教科書と宿題を授業が始まるまでに必ず用意し、時間を厳守すること。 (2) 講義に積極的に参加すること。 (3) 可能であれば、紙ベースの辞書か電子辞書を持ってくる。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 TOEIC400を目標とする。基本的な文法項目の理解や文の構成を意識することを目標とする。 毎授業の単語テストの実施により、語彙力の向上を目指す。 また自らスピーチを作成することで、ライティングやスピーキング力を向上させる。

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	矢野 涼子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IE1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit6:The Lost Years	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
3	Unit7: Emerging Markets	Unit7のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit7のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
4	Unit7: Emerging Markets	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
5	Unit8: Environmental Management	Unit8のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit8のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
6	Unit8: Environmental Management	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
7	Unit9: New Work Style	Unit9のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit9のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
8	Unit9: New Work Style	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
9	Unit10: Stocks and Cross-Shareholding	Unit10のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit10のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
10	Unit10: Stocks and Cross-Shareholding	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
11	Unit11: The Dollar-Yen Exchange Rate	Unit11のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit11のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
12	Unit12 GDP and Economic Growth	リスニングやライティングを中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
13	Unit12 GDP and Economic Growth	読解、リスニングやライティングを通じて語彙や文法、英語表現を理解する	Unit12のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
14	Unit6~12の復習	Unit6~12の文法や英語表現について復習する。	これまでの授業で理解できなかったところを質問できるようにしておく。
15	まとめのテスト、1年間のまとめ	Unit1~12の文法や英語表現について復習する。	余裕のある人は、Unit13~15に目を通し、分からない点を質問できるようにしておく。

実務経験	
関連科目	なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	An Insight into the Japanese Economy	Mark Chang 他	三修社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder/Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	b0p92er
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	メール

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への取り組みの評価 20% まとめのテスト 40% 提出課題 40%
学生への メッセージ	楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出する、分からない英単語を辞書で調べてくるなど、できることはきちんとやってください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。英語が苦手でも、努力次第で単位が取れる科目です。一緒に充実した時間を過ごしましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。



科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1344a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果(資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	教科書・資料の復習(1時間)
	2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	教科書・資料の復習(1時間)
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	教科書・資料の復習(1時間)
	4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前・教科書・資料の見直し(1時間)
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	教科書・資料の復習(1時間)
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	教科書・資料の復習(1時間)
	7	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す(1時間)
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	教科書・資料の復習(1時間)
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	教科書・資料の復習(1時間)
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	教科書・資料の復習(1時間)
	11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前・教科書・資料の見直し(1時間)
	12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	教科書・資料の復習(1時間)
	13	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す(1時間)
	14	【レポート】	レポートを提出する	レポートを作成する(1時間)
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	小テストの復習(1時間)	

実務経験	
関連科目	ゼミ、卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前事後学習時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	E F G
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1344a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。 適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義に基づいて、練習問題や課題に取り組む。 原則毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。 毎回の授業は教科書に沿って講義を進める。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
4	【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習 事前事後あわせて 1 時間
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す 事前事後あわせて 1 時間
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
11	【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習 事前事後あわせて 1 時間
12	レポートの書き方 1	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習 事前事後あわせて 1 時間
13	レポートの書き方 2 フィードバック 1	レポート作成の補足 課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す 事前事後あわせて 1 時間
14	フィードバック 2 資料収集の方法	課題 2 のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す 事前事後あわせて 1 時間
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習 事前事後あわせて 1 時間

実務経験	
関連科目	すべての授業の日本語作成による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法（基準）	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に

メッセージ	日本語と向き合ってください。  ※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝るなどというのはもってのほかです。真面目に学ぼうとする人の学習権を侵害する行為はやめてください。注意してもやめない場合はそれなりの措置をとることがあります。他人に迷惑をかけない、という最低限の大人のマナーは守ってください。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室） 学習支援センター
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間。 課題提出については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長谷川 雄高
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1345a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果(資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明、グループ分け	教科書の「文章の書き方1」「文章の書き方2」を読む(60分)
2	文章の書き方	文章作成の基本事項やわかりやすい文章の書き方について	教科書の「事実と意見」「意見を述べる」「原稿用紙の使い方」を読む(60分)
3	事実と意見とその述べ方	事実と意見の書き分けや意見の述べ方について	教科書の「文章を引用する」「図表を引用する」「構成」を読む(60分)
4	引用と構成	引用と構成について	プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う(150分)
5	課題①	各人で課題①論説文を作成する	—
6	ディスカッション①	ディスカッションについての説明	選んだテーマをもとにディスカッションの準備を行う(60分)
7	ディスカッション②	プレゼンテーションへ向けてのグループ・ディスカッションを行う	課題②を作成する準備を行う(60分)
8	課題②	各人でディスカッションの経過を記した議事録を作成する	—
9	プレゼンテーションについて	プレゼンテーションのやり方や資料について	ディスカッションを踏まえ、自らの考えプレゼンテーション資料を作成する準備を行う(120分)
10	プレゼンテーション資料を作る	グループで発表資料を作成する	プレゼンテーション資料の作成や推敲、リハーサルの準備を行う(120分)
11	プレゼンテーションの準備	グループで資料作成や発表のリハーサルを行う	プレゼンテーション資料の推敲やリハーサルを行う(120分)
12	プレゼンテーション①	グループによる発表・質疑を行う	発表したグループのメンバーは質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う(90分)
13	プレゼンテーション②	グループによる発表・質疑を行う	発表したグループのメンバーは質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う(90分)
14	課題③	各人で発表内容をまとめた文章を作成する	—
15	おわりに	講評・まとめ	—

実務経験	
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」、Teams「オンライン型」
Teamsコード	wmqhxbg
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	yutaka.hasegawa@edu.setsunan.ac.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	「何となく決まった」から、「意見を作り、交換し、まとめる」に挑戦してみましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。 質問等は出講時に非常勤講師室において対応する。

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Planning I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士, 山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1349a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</li> <li>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</li> <li>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</li> <li>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。</li> </ol> <p>よくなることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</li> <li>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</li> <li>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。 今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)</li> </ul>
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学の中にある「機会」について知る</li> <li>・アセスメントを実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること</li> <li>・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること</li> <li>・講義で課された課題に取り組むこと (2 時間)</li> </ul>
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)</li> </ul>
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する</li> <li>・社会人としてのマナーを学ぶ</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで課題に取り組むこと (2 時間)</li> </ul>
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)</li> </ul>
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDP から見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)</li> </ul>
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)</li> </ul>
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを 100 挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)</li> </ul>
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学 4 年間の目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)</li> </ul>
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCA サイクルを身に付ける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)</li> </ul>
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)</li> </ul>
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること (1.5 時間)</li> </ul>
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること (2 時間)</li> </ul>
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びのプランニング</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (1 時間)</li> </ul>

実務経験

関連科目

キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ  
エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	各回の課題レポート (55%)、最終レポート (45%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名(英文)	Career Planning II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1350a1		

授業概要・目的	現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考え、3年次にビジネスインターンシップを履修するまでに実践する。  SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すこと等を考えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	事前学習：前期の大学生活で経験したことを思い出ししておくこと(0.5時間) 事後学習：講義内容を振り返ること(0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	事前学習：働く理由について考えること(0.5時間) 事後学習：配付したレジュメを熟読しておくこと(0.5時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	事前学習：課題に取り組むこと(0.5時間) 事後学習：グループ討議を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い事例を知る ・業界/業種とは何かを理解する ・川上〜川下の概念を理解する	事前学習：どんな業界があるのか調べておくこと(0.5時間) 事後学習：配付したレジュメを熟読すること(0.5時間)
5	社会を知る④	・会社組織とは何かについて理解する ・職種について理解を深める	事前学習：どんな会社があるか調べておくこと(0.5時間) 事後学習：配付したレジュメを熟読すること(0.5時間)
6	就活体験①	特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	事前学習：自分の長長について考えること(0.5時間) 事後学習：配付したレジュメを熟読すること(0.5時間)
7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	事前学習：自身の学生生活について考えること(0.5時間) 事後学習：配付したレジュメを熟読すること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	事前学習：自身の生活習慣を振り返ること(0.5時間) 事後学習：講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること(0.5時間)
9	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	事前学習：リーダーシップとは何かについて考えること(0.5時間) 事後学習：講義の内容を日常生活で実践すること(0.5時間)
10	自分を高める③	講義⑧⑨の実践報告プレゼンテーション	事前学習：発表の準備をしておくこと(0.5時間) 事後学習：講義を振り返ること(0.5時間)
11	社会を知る⑤ グループプレゼンテーション①	グループ課題の発表	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと(0.5時間) 事後学習：自身及び日他者の発表を振り返ること(0.5時間)
12	社会を知る⑥ グループプレゼンテーション②	グループ課題の発表	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと(0.5時間) 事後学習：自身及び日他者の発表を振り返ること(0.5時間)
13	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る	事前学習：何歳までに何をしたいかについて考えること(0.5時間) 事後学習：自分の将来について考えること(0.5時間)
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方について考える	事前学習：新聞などを読み時事について手調べておくこと(0.5時間) 事後学習：日本を取り巻く課題について理解すること(0.5時間)
15	授業のおさらい	講義のおさらいと期末レポートの振り返り	事前学習：最終課題を作成すること。課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間) 事後学習：講義全体を振り返ること(0.5時間)

実務経験									
関連科目	キャリアデザイン、ビジネスインターンシップⅠ・Ⅱ、職業能力開発、キャリアプラン								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1									

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Web Folder			
Teams コード	b2hp2wd			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	グループワーク (10%)、提出物 (40%)、期末レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。			
担当者の 研究室等 備考	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)			



科目名	北河内を知る	科目名 (英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵. 尾山 廣. 久保 貞也. 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01453a1, L科: LL01355a1, D科・S科: IL01362a1, P科: YL01418a2, J科: JL01364a1, W科: WL01343a1, N科: NL01344a1		

授業概要・目的	<p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。</p> <p>授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。</p> <p>またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。</p> <p>この授業は授業担当者として、北河内7市の「行政実務者」が担当する。</p>
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。さらに地域における課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。 teamsを活用したオンライン授業を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 9月12日(土) 1限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	事前課題: 北河内について調べる(30分) 事後課題: 授業の進め方について確認する(30分)
2	チームビルディング 9月12日(土) 2, 3限	チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題: チームでの取組が円滑にいくにはどのようなことが大切か考える。 事後課題: チームビルディングの成果をまとめる(30分)
3	北河内地域に関する講演 9月26日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
4	北河内地域に関する講演 9月26日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
5	グループワーク・プレゼンテーション 9月26日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
6	北河内地域に関する講演 10月10日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
7	北河内地域に関する講演 10月10日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
8	グループワーク・プレゼンテーション 10月10日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
9	北河内地域に関する講演 10月17日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
10	北河内地域に関する講演 10月17日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
11	グループワーク・プレゼンテーション 10月17日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
12	北河内地域に関する講演 11月14日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
13	グループワーク・プレゼンテーション 11月14日(土) 2時間目	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
14	最終発表会 12月5日(土) 1限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)
15	最終発表会 12月5日(土) 2限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)

実務経験

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	j4ihms4			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	個人レポートの評価(40%)、グループごとの聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	鶴坂貴恵(経営学部・経営情報学科) 11号館7階			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名 (英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01454a1, L科: LL01356a1, D科・S科: IL01363a1, P科: YL01419a2, J科: JL01365a1, W科: WL01344a1, N科: NL01345a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点のようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。</li> <li>2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。</li> <li>3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。</li> <li>4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。</li> </ol> <p>なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-9</p>
---------	--

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。</li> <li>2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。</li> </ol>
------	---

授業方法と留意点	<p>第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。</p> <p>また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関するプレゼンテーションを行う。</p>
----------	---

科目学習の効果(資格)	2019年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。</li> <li>・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。</li> <li>・自己紹介後、グループ形成をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 自己紹介の原案を考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: プレゼンテーション資料を熟読すること(2時間)</li> </ul>
	2	ビジネスの定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスとは何かを考察する。</li> <li>・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 企業の事例を調べること(2時間)</li> </ul>
	3	組織の種類 - 営利組織と非営利組織 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。</li> <li>・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: NPOについて調べること(2時間)</li> <li>・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること(2時間)</li> </ul>
	4	ビジネス環境をとらえる① - 経済のグローバル化と高度情報化 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化の明暗について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること(2時間)</li> <li>・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
	5	ビジネス環境をとらえる② - 地球環境問題と少子高齢社会 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること(2時間)</li> </ul>
	6	ビジネス現場をとらえる - オフィスからワークプレイスへ -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
	7	ビジネス実務能力とビジネス実務の基本① - 仕事の進め方 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。</li> <li>・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめること。問題プリント①を解くこと(2時間)</li> <li>・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと(2時間)</li> </ul>
	8	ビジネス実務の基本② - ビジネスと諸活動 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: CSRについて調べ、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
	9	ビジネス実務の基本③ - ビジネスと経営資源 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 、ワークライフバランスに関してレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
	10	ビジネス実務の基本④ - ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務) -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCAサイクルを理解する。</li> <li>・マーケティングとコストの関係について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: CMの必要性の有無に関してレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
	11	自己実現とキャリアプランニング - セルフマネジメントと自己啓発 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。</li> <li>・社会の中における自己を位置づける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 自己振り返りシートを作成すること(2時間)</li> <li>・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめること(2時間)</li> </ul>
	12	ビジネスプラン① - 起業への意識 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。</li> <li>・CM比較をイノベーションの観点から</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 各自がテーマを見つけること(2時間)</li> <li>・事後学修: ビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと(2時間)</li> </ul>

			行う（とくに CSR に関するもの）。																	
	13	ビジネスプラン②ープレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>作成したビジネスプランに基づいて発表する。</li> <li>CM 比較プレゼンテーションを準備する。</li> <li>実際に企画を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：ビジネスプランを発展させること（2時間）</li> <li>事後学修：ビジネスプランを再考すること（2時間）</li> </ul>																
	14	寄付の教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄付行為の意味を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：寄付の意味を考え、まとめること（2時間）</li> <li>事後学修：寄付行為を行う基準を考えること（2時間）</li> </ul>																
	15	授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>イノベーションの意味を再考する。</li> <li>VUCA の時代において、新たなビジネスの創出について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：この授業の学びをまとめること（2時間）</li> <li>事後学修：新たな発見をすること（2時間）</li> </ul>																
実務経験																				
関連科目	2019 年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ビジネス実務総論</td> <td>全国大学実務教育協会</td> <td>紀伊国屋書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>20 歳のときに知っておきたかったこと</td> <td>ティナ・シーリグ</td> <td>阪急コミュニケーションズ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>イノベーションと企業家精神</td> <td>P.F. ドラッカー</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「デザイン思考」を超えるデザイン思考</td> <td>DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ																	
2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社																	
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社																	
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																			
Teams コード	dgautb5																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。</li> <li>毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。</li> </ul>																			
学生への メッセージ	私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。																			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 教育イノベーションセンター (石井)																			
備考	予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。																			

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

実務経験	
関連科目	日本語読解 F II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</li> <li>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</li> <li>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</li> <li>(4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。</li> </ol>

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認
	8	ついでに何を? ①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何を? ②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認
	10	ウイルス発見! ①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見! ②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

実務経験	
関連科目	日本語読解 F I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	xxuzj4r
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	k8m701sn@yahoo.co.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</li> <li>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</li> <li>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</li> <li>(4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。</li> </ol>



科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・読んだ内容を要約できる。</li> <li>・段落分けして書ける。</li> <li>・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語表現作文FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・レポート・論文の書き方を守って書ける。</li> <li>・アウトラインに沿って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集められる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>前期で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>発表のF Bを元に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のF Bを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のF Bを元に復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teamsコード	18zm0y3																																																																		
Moodleコース名および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合があります。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		



科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1○, DP7△, DP8△, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP8○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 涙</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teams コード	u34q4dh																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: B○, C科: III○, VI○, L科: DP1△, DP2○, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP7○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、様々な素材を用いて観察したり考察したりします。また資料の講読や動画等の視聴を通して、日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・積極的にワークやレポートに取り組んでください。 ・授業の内容や方法が多少変更することもあります。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	2	テーマ「大学生活」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	3	テーマ「大学生活」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
	4	テーマ「大学生活」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計2時間)
	5	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	6	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
	7	テーマ「仕事」	タスク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計2時間)
	8	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	9	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
	10	テーマ「ジェンダー」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。(計1.5時間)
	11	各自のテーマに関する発表準備	発表についての手順説明 質疑応答 発表例の提示	発表準備 (計2時間)
	12	各自のテーマに関する発表1	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
	13	各自のテーマに関する発表2	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
	14	各自のテーマに関する発表3	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
	15	まとめ	全体ふり返り	全体レポート (1.5時間)

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本映画を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	楽しく日本語・日本文化について学びましょう!
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては個別にフィードバックする。

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: B○, C科: III○, VI○, L科: DP1△, DP2○, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP7○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、テーマについて様々なリソースを用いて観察し、考察します。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	(1) 資料の講読 (2) 日本語の表現 (3) タスク (4) ディスカッション (5) 発表
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
2	テーマ「言語」	文献講読、日本語の表現、タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
3	テーマ「言語」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
4	テーマ「言語」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計2時間)
5	テーマ「教育」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
6	テーマ「教育」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
7	: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計2時間)
8	テーマ「ジェンダー」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
9	テーマ「ジェンダー」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
10	テーマ「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 発表の準備 (計2時間)
11	発表について	説明	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
12	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
13	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
14	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表内容のフィードバック、発表内容の修正 (計2時間) (計2時間)
15	ふり取り、まとめ		レポートを書く(計2時間)

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	h0ek4j4
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	授業では、日本語の4技能「読む、聞く、話す、書く」を使った様々なタスクをします。積極的に参加してください。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業に変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮して判断する。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になったため、毎回の課題提出により評価する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	日本語総合F II	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業へ変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮した上で判断する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	

実務経験	
------	--

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になったため、毎回の課題提出により評価する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。



科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1○, DP7△, DP8△, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

実務経験	
関連科目	専門日本語 F II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業内での取り組み、小テスト等 (70%)、課題等の提出物 (30%)
学生への メッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する可能性がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって 日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	ビジネスにおけるEメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションに必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

実務経験				
関連科目	専門日本語 F I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	6zei4yu			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール、チーム内のチャット等			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	オンライン授業時の参加度、確認問題、活動、課題等の提出物により総合的に判断する。			
学生への メッセージ	オンライン授業では積極的に発言することが求められます。			



担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	茶園 直人
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	日本語で自分の意見を明確に表明できるようになることを目的とします。また、議論を通して、問題発見解決能力の向上を目指し、最終的にはアカデミックな議論や就職活動など様々な場面に対応できるようになることを目標とします。  授業の概要は以下の通りです。 ・まとまった発話を聞いて、そこから話者の抱える問題を発見する。 ・発見した問題についての議論を行い、解決策を提示する。 ・自分の興味関心のある事象について、専門外の人にも分かりやすいように発表する。
---------	---

到達目標	まとまった話を聞いて、概要、問題点を把握することができる。 問題に対する解決策 (自分の意見) を明確かつ論理的に説明できる。
------	--

授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、話者が抱える問題とその解決策を提示する。 教員は適宜フィードバックを行う。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)
2	トピック 1	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
3	トピック 2	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
4	トピック 3	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
5	トピック 4	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
6	トピック 5	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
7	トピック 6	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
8	トピック 7	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
9	トピック 8	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
10	トピック 9	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
11	トピック 10	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
12	発表準備 1	スクリプトの作成	発表テーマを決めておく。 スクリプトの作成 (残り)	
13	発表準備 2	スクリプトの修正 発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 3	発表資料の修正	発表練習	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	自分の発表の反省	

実務経験	
------	--

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への取り組み 50%、口頭発表 50%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。			
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、発表形式とし、最終授業日にフィードバックを行なう。			

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
3				
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	u0vvhe6			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。			

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

実務経験	
関連科目	日本語読解FII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</li> <li>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</li> <li>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</li> <li>(4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。</li> </ol>

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・読んだ内容を要約できる。</li> <li>・段落分けして書ける。</li> <li>・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語表現作文FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(60%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法R	科目名(英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。																																																																		
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 涙</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語文法F I、日本語読解F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teamsコード	u34q4dh																																																																		
Moodleコース名および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認(復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: IIIo, IVo, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: B○, C科: IIIo, VIo, L科: DP1△, DP2o, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、様々な素材を用いて観察したり考察したりします。また資料の講読や動画等の視聴を通して、日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・積極的にワークやレポートに取り組んでください。 ・授業の内容や方法が多少変更することもあります。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	2	テーマ「大学生活」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	3	テーマ「大学生活」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
	4	テーマ「大学生活」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計2時間)
	5	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	6	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
	7	テーマ「仕事」	タスク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計2時間)
	8	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	9	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
	10	テーマ「ジェンダー」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。(計1.5時間)
	11	各自のテーマに関する発表準備	発表についての手順説明 質疑応答 発表例の提示	発表準備 (計2時間)
	12	各自のテーマに関する発表1	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
	13	各自のテーマに関する発表2	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
	14	各自のテーマに関する発表3	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
15	まとめ	全体ふり返り	全体レポート (1.5時間)	

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本映画を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	楽しく日本語・日本文化について学びましょう!
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては個別にフィードバックする。



科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: IIIo, IVo, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: B○, C科: IIIo, VIo, L科: DP1△, DP2o, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、テーマについて様々なリソースを用いて観察し、考察します。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	(1) 資料の講読 (2) 日本語の表現 (3) タスク (4) ディスカッション (5) 発表
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
2	テーマ「言語」	文献講読、日本語の表現、タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
3	テーマ「言語」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
4	テーマ「言語」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計2時間)
5	テーマ「教育」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
6	テーマ「教育」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
7	: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計2時間)
8	テーマ「ジェンダー」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
9	テーマ「ジェンダー」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
10	テーマ「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 発表の準備 (計2時間)
11	発表について	説明	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
12	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
13	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
14	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表内容のフィードバック、発表内容の修正 (計2時間) (計2時間)
15	ふり返り、まとめ		レポートを書く(計2時間)

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	h0ek4j4
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	授業では、日本語の4技能「読む、聞く、話す、書く」を使った様々なタスクをします。積極的に参加してください。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業へ変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮した上で判断する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になったため、毎回の課題提出により評価する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

実務経験	
------	--

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teamsコード	
----------	--

Moodleコース名および登録キー	
-------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	授業内での取り組み、小テスト等(70%)、課題等の提出物(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかり確認してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
3				
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	u0vvhe6			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。			

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにしているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像 に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」 レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた 教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の 役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の 役割・職務 (チーム学校運営への対応を 含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する 配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

実務経験	
関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験 70%、レポート 20%、グループワークにおけるピアレビュー10%
学生への メッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。



科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることが出来ます。しかし、「教育とは一体何だろうか?」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろうか?」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p>
---------	--

到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p><b>【授業スケジュール】</b> 下記のものを基に今回のスケジュール変更に合わせてものとなります。各回の授業内容についてはその都度お知らせします。</p> <p><b>【授業方法】</b> ①基本的に「教材・課題提供型授業」で行います。毎回、こちらから課題を提示しますので、教科書を使って課題に取り組んでください。終了後は課題を提出してください。 ②毎回の授業の終わりにコメントペーパーOPPシート(One Page Portfolio シート)を書いてもらいます。課題と一緒に提出してください。その中からいくつかを次の授業の資料として紹介し</p>
----------	---

科目学習の効果(資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p><b>【免許法施行規則に定める科目区分】</b> 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキストP.3を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろうか?」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキストP.59～63を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。	
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキストP.59～63を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。	
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキストP.76～85を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。	
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキストP.69～73を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。	
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキストP.93～97を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。	
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキストP.86～90を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。	
8	近代の教育思想①： コメニウスの教育思想	コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.20～22及びP.94～95を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。	
9	近代の教育思想②： ルソー、ペスタロッチの教育思想	ルソー、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.23～25及びP.77を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。	
10	近代の教育思想③： ヘルバルト、フレーベルの教育思想	ヘルバルト、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.26～27及び81～82を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。	
11	現代の教育理論①： デューイの教育思想	デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.28～29を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。	
12	現代の教育理論②： 20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.29～32を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。	
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.50～54を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。	
14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.147～151を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。	
15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキストP.169～178を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。	

実務経験	
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	保育出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーOPPシートの内容(30%)や学期末のレポート結果(70%)等をもとに総合的に評価します。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等の学習は今回できません。しかし、皆さんからの質問やこちらからのコメント・補足、授業資料上での感想や疑問等の共有、等の方法を考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館4階(谷口研究室)			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			



科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	授業は、インターネット上に教材・課題を提供することで行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	発達と教育と心理学と1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1, 配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と2	発達の要因, 主な発達理論の概観	テキスト第8章1, 配付資料による本時の予習と復習	
3	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第9章, 配付資料による本時の予習と復習	
4	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章, 配付資料による本時の予習と復習	
5	こどもの発達3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章, 配付資料による本時の予習と復習	
6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1, 配付資料による本時の予習と復習	
7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達	テキスト第11章, 配付資料による本時の予習と復習	
8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章, 配付資料による本時の予習と復習	
9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ	テキスト第1章, 配付資料による本時の予習と復習	
10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習	テキスト第1章・第6章, 配付資料による本時の予習と復習	
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習	
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習	
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習	
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級	テキスト第0章2・第10章, 配付資料による本時の予習と復習	
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI, 学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2, 配付資料による本時の予習と復習	

実務経験	
関連科目	教職課程におけるすべての科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト 30%, 期末試験 70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	7号館3階 (吉田研究室)

備考	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業内で, moodle を使用することがあります。利用できるようにしておいてください。</li><li>・期末試験は希望者に返却します。</li><li>・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 間程度とする。</li></ul>
----	--

科目名	教育社会学	科目名 (英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。 3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。
授業方法と留意点	遠隔授業の講義方法により授業を行う。具体的には Moodle や Teams、Zoom 等を用い、教材・課題提供型の授業を行う。その他、双方向性が可能かつ履修学生のみなさんの利用しやすい SNS などにも利用する予定である。  ○準備学習の具体的な方法 指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、要約する。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。また、毎時間の小テスト対策として必須単語帳に記載
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
	2	新自由主義と学校教育	近年の学校教育(制度)の質的転換について、学校教育を社会学観点から考察する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	3	マイノリティと教育Ⅰ	マイノリティという概念について	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	4	マイノリティと教育Ⅱ	前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考え、その対応について検討する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	5	マイノリティと教育Ⅲ	前時の内容を受けて、実際に学校現場において「外国にルーツのある子どもたち」の生活実態、学校における支援体制について学ぶ。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	6	教育格差・学力格差問題Ⅰ	教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	7	教育格差・学力格差問題Ⅱ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考え、子どもたちの現状についての理解を深める。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	8	教育格差・学力格差問題Ⅲ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、実際に学校現場で行われている取り組みについても紹介する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	9	学校教育の現場を知るⅠ	今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。	事前課題：それぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
	10	学校教育の現場を知るⅡ	今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。	事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
	11	学校教育の現場を知るⅢ	今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。	事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
	12	ジェンダーと教育Ⅰ	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	13	ジェンダーと教育Ⅱ	事前課題として出していたジェンダー問題を扱った資料(読み物)についての解説と説明。	事前課題：ジェンダー問題を扱った資料(読み物)を読み、その内容についてまとめてくる。
	14	ジェンダーと教育Ⅲ	ジェンダーロールにとらわれない教育、社会の創造について考える。	事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	15	総括	全体のふりかえり	事前課題：最終レポートの準備

実務経験									
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」								
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>教師教育テキストシリーズ『教育社会学』</td> <td>久富善之、長谷川裕</td> <td>学文社</td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社						

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス
	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
	3	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ	新潮社
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	事前課題 (60%)、宿題 (20%)、最終レポート (20%) それぞれの提出状況、及びその内容をチェックし、総合的に判断し、評価する。			
学生への メッセージ	毎回の事前課題にしっかりと取り組み、授業 (遠隔授業) を受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室) ※メールで連絡してください。アドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp です。			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	教育経営論	科目名 (英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としての LTD について説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第1部を読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第2部を読んでくる。	
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。	
4	学校体系のしくみ	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。	
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合	テキスト第1部を読んでくる。	
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。	
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第3部を読んでくる。	
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第3部を読んでくる。	
9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 教育行政の原則、監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。	
10	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第3部を読んでくる。	
11	指導行政と教育課程管理	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 学力論争と教育評価論	テキスト第4部を読んでくる。	
12	人事行政と教職員管理	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク 教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。	
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第4部を読んでくる。	
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む)	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。	
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第4部を読んでくる。	

実務経験	
------	--

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 70%、レポート内容 20%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室			
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。			

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	遠隔授業中心に課題提出型の授業スタイルが基本となります。よって、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、授業全体を通して、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読み、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、熟読しておくこと。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げている教科書を購入し、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。授業後にまとめたレポートをオンライン提出する。
2	日本における教育課程の歴史の変遷 I	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
3	日本における教育課程の歴史の変遷 II	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成し、オンライン提出する。

実務経験	
関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程(第4版)	田中耕治他	有斐閣アルマ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新教育課程ライブラリ(Vol.1~Vol.12)	(株)ぎょうせい	(株)ぎょうせい
2	ワークで学ぶ教育課程論	尾崎博美他	ナカニシヤ出版	



	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	事前課題とふりかえりレポートの内容 (60%) と最終レポート (40%) により総合的に評価する。		
学生への メッセージ	毎回、事前学習をしっかりと行い、ふりかえりレポートを期限内に提出してください。		
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室) 連絡先： j-oono@arc.setsunan.ac.jp		
備考	2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。 授業で用いる資料等については、適宜印刷し、配布します 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。		



科目名	社会科・地歴科教育法 I	科目名 (英文)	Geography and History Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大井 秀士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が持つそれぞれの使命と責任を理解するように努める。その基礎の上に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。授業担当者は高校と特別支援学校で教諭や管理職を経験し、さらに教育委員会で指導主事を経験している。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、特に積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。
科目学習の効果(資格)	中学・高校教員免許(社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前 既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
	2	日本の教育制度の歴史について	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前に中高で学習した明治以降の歴史を復習概観しておくこと。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
	3	学習指導要領について	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前 中高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
	4	学習指導案の作成について 1	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 学習指導案とは何かを調べておく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
	5	学習指導案の作成について 2	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
	6	学習指導案の作成と模擬授業 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
	7	学習指導案の作成と模擬授業 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
	8	学習指導案の作成と模擬授業 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
	9	学習指導案の作成と模擬授業 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
	10	学習指導案の作成と模擬授業 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
	11	学習指導案の作成と模擬授業 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
	12	学習指導案の作成と模擬授業 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
	13	学習指導案の作成と模擬授業 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
	14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛える為の授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前 どのような授業記録方法があるかを考えておく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
	15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前 評価方法の種類について考えておく。 事後 評価は自己の教育技術の反映であることを考える。 (4時間程度)

実務経験	
関連科目	社会科・地歴科教育法 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。			
学生への メッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大井 秀士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	講義参加者全員が実際に研究授業展開を行い、教員として必要な基本的知識・技能を習得する。模擬授業を実践する中で講義参加者全員で討議・批評を行い各自の授業力向上を図る。授業担当者は高校と特別支援学校で教諭や管理職を経験し、さらに教育委員会で指導主事を経験している。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。			
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。			
授業方法と留意点	講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。			
科目学習の効果(資格)	中学・高校教員免許(社会科、地歴科) <b>【免許法施行規則に定める科目区分】</b> 科目:教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項:各教科の指導法			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	学習指導要領歴史的分野(世界史)の内容等の確認。	世界史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認。	事前 学習指導要領の通読 事後 講義後指示する。 (4時間程度)
	2	学習指導要領歴史的分野(日本史)の内容等の確認。	日本史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認。	事前 学習指導要領の通読 事後 講義後指示する。 (4時間程度)
	3	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	地理的分野の基礎的事項の確認。	事前 学習指導要領の通読 事後 講義後指示する。 (4時間程度)
	4	学習指導案の作成と研究授業実施 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	5	学習指導案の作成と研究授業実施 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	6	学習指導案の作成と研究授業実施 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	7	学習指導案の作成と研究授業実施 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	8	学習指導案の作成と研究授業実施 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	9	学習指導案の作成と研究授業実施 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	10	学習指導案の作成と研究授業実施 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	11	学習指導案の作成と研究授業実施 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	12	学習指導案の作成と研究授業実施 9	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	13	学習指導案の作成と研究授業実施 10	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	14	授業実践発表の年間総括 1	後期授業全体についての総括と反省点を討論する。	事前 全員の授業計画案を再度確認 事後 レポート作成、提出。(4時間程度)
	15	授業実践発表の年間総括 2	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後 レポート作成、提出。(4時間程度)
実務経験				
関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	対面授業			

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール・個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
学生への メッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	

科目名	社会科・公民科教育法 I	科目名 (英文)	Civic Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	遠隔授業の講義方法(MoodleやTeams、その他のSNS等、例えばZoom等の利用)を中心に、まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、遠隔授業というスタイルにはなりますがしっかりと授業の準備やふりかえりに自主的に取り組んでください。
科目学習の効果(資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)／模擬授業のライブ配信(予定)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)／模擬授業のライブ配信(予定)	模擬授業の準備。
12	模擬授業(3)	模擬授業の実践と指導(3)／模擬授業のライブ配信(予定)	模擬授業の準備。
13	模擬授業(4)	模擬授業の実践と指導(4)／模擬授業のライブ配信(予定)	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシミュレーションを行う(事前課題)。
15	総括－社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

実務経験	
関連科目	社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は「1→2」と連続して受講することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	事前学習課題の提出 (60%)、模擬授業 (20%)、最終レポート (20%) 等により、総合的に評価する。			
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領 (最新年度版) を第一回目の授業開始までに購入 (準備) しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り 組むことができません。入手方法については書店、オンライン書店・ショップ等を利用してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室 ※連絡のある方はメールアドレスは <a href="mailto:j-oono@arc.setsunan.ac.jp">j-oono@arc.setsunan.ac.jp</a> まで。			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ 60 時間程度とする。			



科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が18歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育(市民性教育)をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを積極的に行います。

**到達目標**  
 本講義の到達目標は以下の通りです。  
 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。  
 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。  
 (3) 授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。  
 (4) 政治教育、市民性教育についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。

**授業方法と留意点**  
 まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。

**科目学習の効果(資格)**  
 中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。  
**【免許法施行規則に定める科目区分】**  
 科目：教育課程及び指導法に関する科目  
 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約	
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約	
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約	
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約	
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。	
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。	
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。	
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。	
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。	
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。	
12	政治教育(市民性教育)(1)	政治教育副教材の分析	各自、副教材を分担し分担箇所を要約してくる。	
13	政治教育(市民性教育)(2)	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。	
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成(事前課題)	
15	総括－社会科・公民科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。	

**実務経験**  
 社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は連続して受講することが望ましいため、原則として社会科・公民科教育法1を既に履修していること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	2020 社会科公民科教育法Ⅱ shakou2			
連絡手段	メール（前期Ⅰ履修学生はLINEも可）			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	出席（全15回出席すること。少なくとも80%以上の出席が必須。出席が80%に満たない者は成績評価の対象外とする。）、課題・レポート（提出の締め切りは厳守すること）、平常点（授業への貢献度、模擬授業等）、及び、最終試験（予定）により総合的に評価する。遅刻も欠席とするので注意すること。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。本講義は教職科目の授業であり、他の講義科目とは異なり、第一回目の授業から本格的に始まっています。ですので履修するかしないかを考			
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します（前期社会科公民科教育法Ⅰで購入済みの者は購入の必要なし）。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			



科目名	道徳教育の研究	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、対面の講義形式で行います。しかし、後半には、学習指導案作成等の演習や模擬授業等を適宜取り入れます。 また、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道徳の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	(事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8~17を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	(事前)テキスト1のP.6~12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	(事前)テキスト1のP.12~25を精読しておく。 (事後)道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.26~35及びテキスト2のP.26~29を精読しておく。 (事後)道徳の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	(事前)テキスト1のP.36~48及びテキスト2のP.30~33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	(事前)テキスト1のP.49~58及びテキスト2のP.34~37を精読しておく。 (事後)道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	(事前)テキスト1のP.59~68及びテキスト2のP.38~41を精読しておく。 (事後)道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業タイプのねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業タイプのそれぞれのねらいと特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.71~85及びテキスト2のP.42~45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前)テキスト1のP.86~95及びテキスト2のP.46~49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前)テキスト1のP.96~106及びテキスト2のP.50~53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①：カリキュラム・マネジメント、テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)テキスト1のP.107~130及びテキスト2のP.54~57を精読しておく。 (事後)カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
12	授業づくりの実際②：問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)テキスト1のP.131~152及びテキスト2のP.58~61を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえて、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	(事前)テキスト2のP.62~65を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前)テキスト2のP.66~69を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。

	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	(事前) グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後) 「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。																
実務経験																				
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>道徳科 初めての授業づくり</td> <td>吉田誠・木原一彰 編著</td> <td>大学教育出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版	2	中学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版																	
2	中学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>小学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—</td> <td>文部科学省</td> <td>廣済堂あかつき</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集</td> <td>『道徳教育』編集部</td> <td>明治図書出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	小学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—	文部科学省	廣済堂あかつき	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	小学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—	文部科学省	廣済堂あかつき																	
2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版																	
3																				
授業形態	対面授業																			
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー	【教職課程】後期 火5 「道徳教育の研究」(担当：谷口雄一) yuichi																			
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、作成した学習指導案(20%)、学期末試験の結果(50%)等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(谷口研究室)																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。																			

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中での特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。</p> <p>子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。</p> <p>「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにしたワークを行う。</p> <p>また、学級担任が担当することが多い総合的な学習の時間の指導についても合わせて取り扱う。</p> <p>公立高校教員として34年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。</p>
到達目標	<p>教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義ならびに実際におこりやすいトラブルや事件についての指導の在り方を例示することができる。</p> <p>主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及</p>
授業方法と留意点	<p>講義は遠隔授業 (Moodle) によって行う。テキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立ち、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、学級内のディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションを意識した授業への積極的な参加を求める。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動および総合的な学習の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
2	特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって (ソロワーク)	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
3	学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入って (ソロワーク)	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
4	学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出 (ソロワーク)	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
5	生徒会活動・児童会活動、学校行事ワーク④学校行事の思い出 (ソロワーク)	生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点	特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
6	体験活動・体験的な学びの意義ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」(ソロワーク)	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性	配布プリントを事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
7	特別活動の歴史・領域・原理ワーク⑥いじめへの対応(1)(グループ討議・発表)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ	配布プリントを事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
8	特別活動と学級経営ワーク⑦いじめへの対応(2)(グループ討議・発表)	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	配布プリントを事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
9	特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力への対応(即興劇・交流)	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	配布プリントを事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をする(1時間)。
10	特別活動の指導計画と評価ワーク⑨不登校への対応(ソロワーク)	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
11	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点ワーク⑩いじめへの対応(3)(ソロワーク)	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	配布プリントを事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
12	総合的な学習の時間の目標・内容・原理ワーク⑪進路指導(ソロワーク)	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
13	総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫インクルーシブな学級づくり(ソロワーク)	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
14	総合的な学習の時間の指導	全体計画、年間計画、単元計画の作成、	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前

		計画と評価 ワーク⑬ジェンダーフリー な学級づくり (ソロワーク)	生徒の学習状況の評価	に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をす るとともに課題を作成する (1時間)。																
	15	補足とまとめ	補足を行うとともに全学習事項につい て再度振り返り整理する。 集団活動の留意点、特別活動の指導の配 慮事項及び担当する教師、総合的な学習 の時間の体制づくり	特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学 習の時間のテキスト第9章を事前に読んでおく(1 時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題 を作成する (1時間)。																
実務経験																				
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活 動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的 な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活 動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的 な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活 動編	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的 な学習の時間編	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「オンライン型」																			
Teams コード	kcsmc51																			
Moodle コース名 および登録キー	特別活動の理論と方法																			
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	レポート (30%)、毎回の課題 (40%)、講義の視聴及び問への回答等授業への参加状況 (30%) を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																			
備考	授業外総学習時間は60時間とする。																			

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成の理解、学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略の習得に関する講義、児童生徒に向き合う授業づくりのための技術に関するミニ講座、グループに分かれて、共同作業による教材の開発及びマイクロ・ティーチングの実施体験により構成する。</p> <p>授業担当者は公立高校5校で34年間にわたり授業を行ってきた経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場からの能動的な学びを期待する。</p> <p>より具体的には、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「教え込む技術」の習得ではなく、生徒の生活背景や教室の人間関係を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、日々の教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とする授業づくりをめざす。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が、上記(2)に関する専門性を向上させるだけでなく、職場で相互に学び合える同僚性を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性を理解する。</p>
到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業は、moodle及びTeamsを使用して遠隔授業で行います。</p> <p>授業担当者も受講者の皆さんも遠隔授業に不慣れだと思えます。途中で問題が生じるようなことがあれば、その都度、指示や修正を行います。皆さんの協力がないと授業が成り立ちませんので、是非とも主体的に取り組んで下さい。</p> <p>(1) 講義資料(通常は紙)は、moodle上にPDFで配布します。できる限り印刷し手元に置いて受講するようにしてください。</p> <p>(2) 講義のスライド・音声・動画の配信は、moodle上で行います。皆さんは自身の環境に合わせて</p>
科目学習の効果(資格)	教員免許(小学校・中学校・高等学校)取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、教育方法論の論点と課題 授業技術ミニ講座①授業びらき・授業じまい	「学力」の登場と学力論争、「問題解決学習」論争、「たのしい授業」論争、「教育技術」をめぐる論争	教科書第3章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。
2	子どもは何を学ぶのか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第4章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。	
3	学習とは何か(学習論) 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態	教科書第5章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。	
4	欧米における授業の歴史(教授論の歴史①) 授業技術ミニ講座④板書の技術	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第1章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。	
5	日本における授業の歴史(教授論の歴史②) 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第2章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。	
6	学力をどう高めるか(学力論) 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方 ワーク1 チーム顔合わせ・自己紹介	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって	教科書第6章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備を行う(2時間)	
7	授業をどうデザインするか(計画論) ワーク2 チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ①	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第7章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備を行う(2時間)	
8	教育の道具・素材・環境(教材論) ワーク3 チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ②	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第8章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備を行う(2時間)。	
9	何をどう評価するか(評価論) ワーク4 第1・2グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第9章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)	
10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論) 第3・4グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	カリキュラム・イメージの払拭、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく(1時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)	
11	ICTを活用した授業をつくる① ワーク5 第5・6グループのチームによるマイクロ・テ	各種メディアの授業への活用、学習用デジタル・コンテンツの利用	配布プリントをよく読んでおく(1時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)	



		イーチャング実施																		
	12	ICTを活用した授業をつくる ② ワーク6 第7・8グループのチームによるマイクロ・ティーチャング実施	情報教育、メディア・リテラシー、eラーニング、学校運営・教務事務のICT化	配布プリントをよく読んでおく(1時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)																
	13	インクルーシブな授業をつくる ワーク7 チームによるマイクロ・ティーチャングの振り返り① 授業技術ミニ講座⑦個別指導と一斉指導	通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。模擬授業の振り返りを行う(2時間)。																
	14	ユニバーサルデザインの授業をつくる ワーク8 チームによるマイクロ・ティーチャングの振り返り② 授業技術ミニ講座⑧ほめ方・叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく(1時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の振り返りを行う。																
	15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法	2つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて	教科書第11章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の振り返りを行う(2時間)																
実務経験																				
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法 改訂版</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	毎回の授業における課題・アンケートの提出状況(50%)、期末レポート(50%)を総合的に評価します。																			
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																			
備考	授業外総学習時間を60時間とする。																			

科目名	生徒指導論	科目名 (英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指すとする素養を養います。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐってのディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 教育課程と生徒指導・進路指導	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり	テキスト pp. 3-6、pp. 25-32、pp. 80-100
	2	生徒指導の目標と意義	生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 6-17
	3	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 17-24
	4	生徒指導の理論	発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 32-42
	5	生徒理解の進め方 (1)	生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法	テキスト pp. 43-52
	6	生徒理解の進め方 (2)	生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 52-62
	7	学級経営の進め方 (1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
	8	学級経営の進め方 (2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-79
	9	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
	10	学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携	テキスト pp. 116-131
	11	生徒の進路・キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
	12	進路指導・キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
	13	進路指導・キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
	14	進路指導における「ガイダンスの機能」	ガイダンスを活かした指導	テキスト pp. 220-223
	15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 196-220、pp. 223-234

実務経験	
関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示)	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示)	文部科学省	
	3			

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	木曜日 2 限の履修者→2020 生徒指導論 (木曜 2 限)      木曜日 5 限の履修者→2020 生徒指導論 (木曜 5 限)      金曜日 1 限の履修者→2020 生徒指導論 (金曜 1 限) 木曜 2 限→20SgctH2      木曜 5 限→20sgcTh5      金曜 1 限→20Sgcf1
連絡手段	学内メール

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験 50%、レポート 50%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。
学生への メッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	Moodleを通して資料配布、レポート課題提示・提出受付を行います。メンバー登録を必ずしてください。 また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 テキストは授業の各回に先立ち配布します。 事前・事後学習総時間はおよそ 60 時間程度です。



科目名	教育相談	科目名 (英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。

授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせで行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義部分は、基本的に遠隔授業（資料配信型）で行う。</li> <li>・グループでの活動は、対面授業と遠隔授業（オンライン型）を組み合わせで行う。</li> <li>・遠隔授業は、Teams と Moodle を併用する。</li> <li>・全体のスケジュール等は、第1回授業で示す。</li> </ul>
----------	---

科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。 <b>【免許法施行規則に定める科目区分】</b> 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
-------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	_____
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む	
3	グループ発表の準備	グループワーク	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備	
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む グループ発表の準備	
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)..... 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む グループ発表の準備	
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)..... 開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む グループ発表の準備	
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	グループ発表の準備	
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、 適応過程	テキスト第3章を読む グループ発表の準備	
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む グループ発表の準備	
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、 仲間関係の発達	教育心理学の復習 グループ発表の準備	
11	相談援助活動の実際1	不登校.....その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第5章を読む	
12	相談援助活動の実際2	いじめ.....その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第6章を読む	
13	相談援助活動の実際3	授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第7章を読む	
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動.....その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第8章を読む	
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む	

実務経験	
関連科目	教職課程の科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教育相談	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業
Teamsコード	q4ztxbf
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	ICTツール内での投稿、学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法	グループ発表50%、期末試験50%

(基準)	
学生への メッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の 研究室等	7号館3階（吉田研究室）
備考	グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。 グループ内ではピア評価を行います。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義 (体験報告を含む)、演習 (文献購読、発表、討議を含む)、実習 (指導案作成、模擬授業を含む) を行う。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
2	実習中の勤務の要領	学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する	
3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する	
4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する	
5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する	
6	教育実習の実際 (1)	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する	
7	教育実習の実際 (2)	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する	
8	指導案の作成 (1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する	
9	指導案の作成 (2)	学級 (ホームルーム) 活動等の指導案について	授業時に指示する	
10	模擬授業 (1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	
11	模擬授業 (2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	
12	模擬授業 (3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	
13	模擬授業 (4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	
14	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する	
15	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する	

実務経験	
関連科目	教職課程で学んだ全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
2				
3				

授業形態	対面授業
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	2020年度教育実習 I (金曜5限・朝日クラス) 20TP1F5A
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。
学生への	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。

メッセージ	
担当者の研究室等	吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室（7号館3階） 谷口研究室（7号館4階）
備考	教育実習体験発表会（10月末土曜日）、教育実習総括講義（11月末土曜日）には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインド設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。 事前・事後学習総時間はおよそ60時間程度となる。

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義の目的、内容方法についての確認。</li> <li>・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。</li> <li>・2回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。</li> </ul>	教育実習ノートの点検と再確認
	2	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
	3	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
	4	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方で伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと考える。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点をを用い、学校教育を改めて考えてみたい。特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	(事前) 第1回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
	5	学校の中のマイノリティ: 外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	(事前) 第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
	6	学校の危機管理①: 学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	(事前) 学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
	7	学校の危機管理②: 災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	(事前) 災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
	8	教員の体罰はなぜなくなるのか?	教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
	9	教員の勤務時間はなぜ長くなるのか?	労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。

			景にある問題について考察し、働き方改革の方途を考える。	(事後) ミニレポートを課す。
	10	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート
	11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート
	12	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)①	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナのため、VTRを視聴し学修を進める。	中学校における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
	13	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)②	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナのため、VTRを視聴し学修を進める。	中学校における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
	14	専攻科目における実践上の課題①	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する
	15	専攻科目における実践上の課題②	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する
実務経験				
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	2020 年度教職実践演習 (金曜 3 限・朝日講座)、2020 年度教職実践演習 (金曜 3 限・谷口担当) 6gazelle、taniguchi			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けること。			
担当者の 研究室等	7号館3階(朝日、大野、林、吉田) 7号館4階(谷口)			
備考	事前・事後総学習時間は、60時間程度である。			

科目名	職業指導 I	科目名 (英文)	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。  講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で意見を出し合ってください。 Teams内で行う予定です。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果 (資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習：本科目のシラバスを熟読すること（1時間） 事後学習：年間の学びの計画を立てること（3時間）
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習：職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと（2時間） 事後学習：職業指導に関する資料を熟読すること（2時間）
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習：欧米の職業指導に関して調査すること（3時間） 事後学習：講義の内容を振り返ること（1時間）
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習：日本の産業の変遷について市調べておくこと（3時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（1時間）
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事前学習：日本の戦後の教育改革について調べておくこと（2時間） 事後学習：配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習：日本型雇用について発表資料を作成すること（3時間） 事後学習：発表及びディスカッションの内容を振り返ること（1時間）
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習：高卒労働市場に関して調べておくこと（2時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学習：高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること（3時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（1時間）
9	「労働すること」を考える	・仕事をするものの意義を考える	事前学習：仕事をする意味について意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：自らの労働観について考えること（2時間）
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習：職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること（2時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：自己について考えておくこと（2時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（2時間）
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：児童・生徒の発達について考えておくこと（3時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（1時間）。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習：高校でのキャリア供養行くの事例について調べておくこと（1時間） 事後学習：模擬授業の準備をすること（3時間）
14	模擬授業	・講義13で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習：模擬授業の準備をすること（2時間） 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（2時間）
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	事前学習：前期のレポートを作成すること（3時間） 事後学習：講義全体を振り返ること（1時間）

実務経験	
関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			



参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。  平常点(30%)、(授業課題 20%)、期末レポート(50%) また、前期最終時にレポートを実施します。			
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義は科目担当者の人材業界での業務経験・及び起業経験を元にしたお話も交えて進行します。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)			
備考				

科目名	職業指導Ⅱ	科目名(英文)	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果(資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業概要の説明	事前学習：本科目のシラバスを再度熟読すること(1時間)。 事後学習：後期の学習計画を立てること(3時間)
2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：商業高校の職業指導事例に関する調査すること(2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること(2時間)	
3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：工業高校の職業指導事例に関する調査すること(2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること(2時間)	
4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事前学習：普通科高校の職業指導事例に関する調査すること(2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること(2時間)	
5	フリーターニートについて	グループ(またはペア)でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること(2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること(2時間)	
6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること(2時間)。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること(2時間)	
7	キャリアデザインとは何か	キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること(2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること(2時間)	
8	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者に求められる基本的な能力 ・職業適性、アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること(2時間)。 事後学習：自らの適性の活かし方考えること(2時間)。	
9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILOの提唱する「人間らしい働き方」について調査すること(2時間)。 事後学習：配布資料を精読すること(2時間)	
10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	事前学習：AIによる仕事の代替可能性について調査すること(2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること(2時間)	
11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること(3時間)。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること(1時間)	
12	就業力向上計画立案②	11回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること(3時間)。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること(1時間)	
13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと(2時間)。 事後学習：講義の内容について振り返ること(1時間)	
14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと(1時間)。 事後学習：講義の内容について振り返ること(2時間)	
15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること(4時間)。 事後学習：講義全体を振り返ること(2時間)	

実務経験	
関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder			
Teams コード	2z97dst			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(20%)、調査・プレゼンテーション課題(30%)、期末レポート(50%)			
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義では担当者の実務経験にもとづいて議論を進めることもあります。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)			
備考				

科目名	特別支援教育論	科目名 (英文)	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に対応する科目である。</p> <p>障害をはじめ、日本語指導や貧困、被虐待等による特別な教育ニーズのある児童生徒が、安心安全のうちに、楽しく、達成感を持って学び、生きる力を身に付けることができるよう、教員として必要な知識及び支援の方法について学ぶ。</p> <p>「障害とは何か」を可視化させ、「障害」の概念を再構成するとともに、特別支援教育の理念・制度・方法について歴史的変遷から最新の動向までを踏まえ、その現状と課題について整理し、今後の在り方についても展望したい。</p> <p>中・高(小)免許状取得希望者を対象とする科目であることを踏まえ、公立高校教員として34年間勤務し、特別支援教育コーディネーターや人権教育担当者としての実務経験をもつ授業担当者が、通常の学校での特別支援教育の実践に焦点を絞った授業を行う。</p>
到達目標	<p>①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。</p> <p>②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。</p> <p>④さまざまな障害や成育歴をもち、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。</p>
授業方法と留意点	講読演習の形式も取り入れながら、講義形式を中心に行う。
科目学習の効果(資格)	教員免許(小学校・中学校・高等学校)取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、インクルーシブ教育システムの概要	わが街は暮らしやすいか、わが学校は学びやすいか。インクルーシブ教育システムの概要と課題	教科書の序章を事前に読んでおく(1時間)。授業後に課すレポートを作成する(2時間)。
2	新しい障害観と特別なニーズ教育の考え方	ICIDHからICFへ。医学モデルから社会モデルへ。一人ひとりの教育ニーズに応じた教育	教科書の指定箇所を事前に読んでおく(1時間)。授業後に課すレポートを作成する(2時間)。
3	障害者権利条約と合理的配慮	国連障害者権利条約の批准と国内法の整備。差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の提供義務	教科書の指定箇所を事前に読んでおく(1時間)。授業後に課すレポートを作成する(2時間)。
4	戦前・戦後の特殊教育の成立と展開	障害のある子どもの学校教育からの排除。盲・ろう学校の義務化と養護学校の義務化	教科書の指定箇所を事前に読んでおく(1時間)。授業後に課すレポートを作成する(2時間)。
5	特別支援教育への転換	障害種に応じた教育から個別のニーズに応じた教育へ。新たに発達障害も対象に	教科書の指定箇所を事前に読んでおく(1時間)。授業後に課すレポートを作成する(2時間)。
6	障害のある子供たちの学校生活と家庭生活の課題	学校でも家庭でも地域でも孤立しやすい子供たち。周りの子供との関係づくり。保護者との連携	配布資料を事前に読んでおく(1時間)。授業後に課すレポートを作成する(2時間)。
7	障害のある子供たちの進路選択と地域生活の課題	差別的取り扱いの禁止及び合理的配慮としての入試受験配慮や就労促進支援	配布資料を事前に読んでおく(1時間)。授業後に課すレポートを作成する(2時間)。
8	通常学級での特別支援教育の実践(通級による指導を含む)	ともに学びともに生きる教育の歴史的経過と課題。通教による指導の現状と課題	教科書の指定箇所を事前に読んでおく(1時間)。授業後に課すレポートを作成する(2時間)。
9	発達障害・知的障害の理解と支援	知的障害の概要と学習上の課題と対応。発達障害の概要と学習上の課題と対応	教科書の指定箇所を事前に読んでおく(1時間)。授業後に課すレポートを作成する(2時間)。
10	肢体不自由・病弱・重複障害の理解と支援	肢体不自由・病弱の子どもの学校生活や学習上の配慮。さまざまな重複障害、障害の多様性の理解	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
11	視覚障害・聴覚障害の理解と支援	視覚障害・聴覚障害のある子どもの学校生活や学習上の配慮。	教科書の指定箇所を事前に読んでおく(1時間)。授業後に課すレポートを作成する(2時間)。
12	個別の指導計画と個別の教育支援計画、卒業後の課題	つなぐツールとしての個別の指導計画、個別の教育支援計画、移行支援計画。	教科書の指定箇所を事前に読んでおく(1時間)。授業後に課すレポートを作成する(2時間)。
13	校内支援体制の構築とSC・SSW等との連携・協働	校内での連携。他職種との連携。福祉・医療との連携	教科書の指定箇所を事前に読んでおく(1時間)。授業後に課すレポートを作成する(2時間)。
14	社会的養護にある子供、LGBTなど性的マイノリティの子供の理解と対応	ニューカマーの子供、施設から通学する子供、LGBTなど性的マイノリティの子供等を視野に入れた学級づくり、授業づくり	配布資料を事前に読んでおく(1時間)。授業後に課すレポートを作成する(2時間)。
15	被虐待の子供など家庭の問題を抱えた子供の理解と対応、まとめ	非虐待の子供等、家庭の問題を抱えた子供への心理的ケアと関係機関との連携	配布資料を事前に読んでおく(1時間)。授業後に課すレポートを作成する(2時間)。

実務経験																	
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特別支援教育 多様なニーズへの挑戦</td> <td>柘植雅義</td> <td>中央公論新社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特別支援教育 多様なニーズへの挑戦	柘植雅義	中央公論新社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	特別支援教育 多様なニーズへの挑戦	柘植雅義	中央公論新社														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特別支援教育資料(平成31年度版)</td> <td>文部科学省</td> <td>Web</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特別支援教育資料(平成31年度版)	文部科学省	Web								
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	特別支援教育資料(平成31年度版)	文部科学省	Web														

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー・ミニエッセイ及び授業への参加状況 (20%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。			
担当者の 研究室等	7号館3階林研究室			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名 (英文)	Methodology of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p> <p>総合的な学習の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。</p> <p>公立高校での34年間の学級担任、総合的な学習の時間の企画主担者等を通じた教員経験に基づき、学校現場での学級づくりや総合的な学習の時間の展開に役立つ実践的な授業を行う。</p> <p>SDGs-1, 4, 5, 10</p>
---------	---

到達目標	<p>教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。</p> <p>総合的な学習の時間を指導する立場として、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネート・プレゼンテーション意識しながら授業への積極的な</p>
------	---

授業方法と留意点	<p>講義は遠隔授業 (Moodle) によって行う。テキストやプリント教材、視聴覚教材を参照しながらすすめるが、ソロワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ・表現することが求められる総合的な学習の時間を指導する立場として、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネート・プレゼンテーション意識しながら授業への積極的な</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。
--------------	-----------------------------

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
授業計画	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ワーク①「キャラ」をめぐる (ソロワーク)	特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	3	学級活動・ホームルーム活動①	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ワーク②大学に入って (ソロワーク)	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするをするとともに課題を作成する (1時間)。
	4	学級活動・ホームルーム活動②	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ワーク③学級活動の思い出 (ソロワーク)	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	5	生徒会活動・児童会活動、学校行事	生徒会 (児童会) 活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ワーク④学校行事の思い出 (ソロワーク)	特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするをするとともに課題を作成する (1時間)。
	6	体験活動・体験的な学びの意義	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性 ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」 (ソロワーク)	配布プリントを事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	7	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ ワーク⑥いじめへの対応 (1) (グループ討議・発表)	配布プリントを事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	8	特別活動と学級経営	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 ワーク⑦いじめへの対応 (その2) (ソロワーク)	配布プリントを事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	9	特別活動と生徒指導	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 ワーク⑧問題行動への対応 (ソロワーク)	配布プリントを事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	10	特別活動の指導計画と評価	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 ワーク⑨不登校への対応 (ソロワーク)	特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	11	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 ワーク⑩進路指導 (ソロワーク)	配布プリントを事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	12	総合的な学習の時間の目標・内容・原理	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 ワーク⑪インクルーシブな学級づくり	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。

			〈ソロワーク〉																	
	13	総合的な学習の時間の学習活動と学習指導	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び ワーク⑩ジェンダーフリーな学級づくり ワーク⑪いじめへの対応（その3）〈ソロワーク〉	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。																
	14	総合的な学習の時間の指導計画・評価・校内体制	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 ワーク⑬いじめへの対応（その3）〈ソロワーク〉	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。																
	15	補足とまとめ	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。集団活動の留意点、特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、総合的な学習の時間の体制づくり	特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。																
実務経験																				
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「オンライン型」																			
Teamsコード	xtuapx2																			
Moodleコース名および登録キー	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（月曜4限）																			
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法（基準）	レポート（30%）、毎回の課題（30%）、講義の視聴及び問への回答等の授業への参加状況（30%）を踏まえ、総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の研究室等	7号館3F 林研究室																			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。																			



科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Communitiy-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ確かなコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」をはじめ履修する学生を対象とする。
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日報等) の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

実務経験	
関連科目	すべての科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	対面授業
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (大野研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (林研究室)、7号館3階 (吉田研究室)
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1?2時間は必要です。

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Communitiy-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ確かなコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」をはじめ履修する学生を対象とする。
科目学習の効果(資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	事前指導1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動1～25	受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

実務経験	
関連科目	すべての科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	対面授業
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館3階(大野研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1?2時間は必要です。

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teamsは連絡用に使い、講義では主にMoodleで行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teamsコード	61cqvnr
Moodleコース名および登録キー	就職実践基礎 (後期火2) sjt2
連絡手段	Teamsに「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト...30点、Smart SPI...15点、中間テスト...15点、最終試験...40点
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようにしてもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣・寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teamsは連絡用に使い、講義では主にMoodleで行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		その他 SPI や玉手箱関連の問題集	
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teamsコード	61cqvmr
Moodleコース名および登録キー	就職実践基礎(後期火2) sjt2
連絡手段	Teamsに「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	小テスト...30点、Smart SPI...15点、中間テスト...15点、最終試験...40点
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようにしてもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 浩
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本授業で提供する「金融知力 (リテラシー)」とは、経済・金融に関する知識や情報を正しく理解し、自らが主体的に判断できる能力のことであり、社会人として経済的に自立し、より良い暮らしを送っていくうえで欠かせない生活スキルです。</p> <p>講師が、証券業界に長く勤務した経験を生かして、経済・金融の動向、金融商品の基本的な仕組みや特性、リスクマネジメント、金融資産の形成・運用方法について、実例となる日常のニュースを理解しながら、すでに学んでいる知識と融合させて具体的かつ現実には則した「金融知力 (リテラシー)」の習得を目指します。</p> <p>サブテーマとして、ESG・SDG's等近年注目されているテーマについても、随時授業に取り入れます。</p>
到達目標	<p>経済・金融の仕組みやさまざまな金融商品の性格・特性を理解し、ライフステージのさまざまな局面での金融資産形成における的確な判断や行動に結びつく「金融知力 (リテラシー)」を習得することで、将来の自らの資産形成に的確な判断ができる一助になる事を目標にします。</p> <p>また証券系の研究機関として蓄積した企業評価、市場分析の手法を学び、投資のみならず、就職活動における企業選択にも役立てることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持つよう授業に出席すること。</li> <li>・教科書と配布レジュメをよく読んで復習を行い、理解を進めていくこと。</li> <li>・レポート課題等の提出物は要提出、提出期限を厳守してください。</li> <li>・株式シミュレーションゲームを行う予定ですが、評価の対象とはしません。</li> <li>・毎回レジュメを配布し・時事問題についても解説します</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	<p>日々、刻々と変わるマーケットを理解できる可能性があります。</p> <p>企業経営者の考え方が理解できる可能性があります。</p> <p>中長期の経済トレンドを自ら予測し活動できる可能性があります。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	金融知力リテラシー習得の必要性	科学技術のイノベーションとグローバル化の急速な進展、結果として、様々な市場の変化により、学生諸君を取り巻く環境の変化を紹介し、自らのライフプランの中で「金融リテラシー (知力)」を身につけなければならない必要性を解説します。	少子高齢化問題・財政赤字に関する報道内容の整理確認
2	金融・経済の仕組み①	資産形成の前提となる経済の基礎的条件 (ファンダメンタルズ) の知識を2回にわたって解説します。	経済用語等を理解し、経済記事を読みこなす様習慣を持つ	
3	金融・経済の仕組み②	金利や金融政策など経済と金融のかかわり、世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	金融政策全般の再確認	
4	ライフプランニング①	ライフプランとは生涯生活設計といった意味で、自分と家族の生活プラン、暮らし方を表します。ライフデザインを描き、ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる	
5	ライフプランニング② キャッシュフロー表の作成	人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します	自分の大学卒業までの学費、大学生の間の生活費について、自身で計算する	
6	貯蓄型商品	預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	金融機関の業態の理解に努める	
7	リスクとリターンとは	投資は利益 (リターン) をあげることを目的とする行為ですが、その利益は将来回収されるものであり、現時点では必ずしも確定していません。そのためにいろいろな可能性、逆にいえば不確実性があるということになります。「リスク」とはこの不確実性のことをいいます。リスクとリターンの関係、リスクマネジメントについて解説します。	自身の人生設計、今後就職される会社にもリスクリターンの考え方は通じる。派生的に考えてみる	
8	アセットクラス※の基礎知識/株式 (1) (ESG投資への展開含む)	上場、株式投資の魅力とリスク、取引の仕組みなどについて解説します。 ※アセットクラス: 資産クラス、資産の種類のこと	媒体でのESG投資に関する記事を確認 株式の模擬売買を経験する	
9	アセットクラスの基礎知識/株式 (2)	マーケット・企業分析株価は、会社の業績のほか、景気、為替相場、金利、需給関係、政治、国際情勢、天候等さまざまな要因によって日々、変動しています。企業の株価や経営効率を判断する投資指標、株価水準の割安・割高を判断する分析手法等について解説し、実際の株式投資や企業分析に役立つ手法を解説します。	企業の開示資料への理解を深める	
10	アセットクラスの基礎知識/債券 (1) (SDG's含む)	債券とは、国をはじめ、地方公共団体、政府関係機関、事業会社などが広く一般の投資者から、まとまった資金を調達することを目的として発行される証書で	財務省のHPで20年度予算の概要を確認	



			す。債券の種類・特徴とリスク、”格付け”について学びます。	
	11	アセットクラスの基礎知識 ／債券（２）－ 金利と債券	前回に引き続き、債券投資の理解を深めます。債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してください。	債券の発行市場・流通市場への理解を深める
	12	アセットクラスの基礎知識 ／投資信託	投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	銀行・証券の投資信託販売手法に批判存在。整理確認
	13	アセットクラスの基礎知識 ／外貨建て商品・証券化商品・ 外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品	外貨建て商品・証券化商品・ 外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品の解説します。	日々の為替の推移、変動要因をチェック
	14	ファイナンシャルプランニング、セーフティネット	これまで学んでいただいた「金融知力（リテラシー）」を総括して解説します。あわせて、金融資産の形成に欠かせないコストや優遇税制制度、預金保険制度などについて解説します。	自身の今後の人生での最優先課題、夢を今一度考えてみる
	15	試験	試験時間60分。記述式、複数回答からの選択式の併用。全14回授業のレジュメから出題。※なお、試験は電卓以外持ち込み不可。	30分程度試験のポイント解説予定
実務経験				
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	星雲社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Web Folder			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	日興リサーチセンター宛てメール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	理解度等を総合的に評価します。  ・レポート：100%（レポート内容は今後確定）			
学生への メッセージ	実務経験をベースとたし、マーケットメカニズムを、お伝えできればと考えています。半年の授業に是非お付き合いください。 授業計画は変更される場合があります			
担当者の 研究室等	11号館1階（教務課）			
備考	質問等は、遠隔授業を前提とし、下記メールで受け付けますが、一定の期間を要する場合があります asano_hiroshi3@nrc.nikko.co.jp  この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。			

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	遠隔授業になります。 テキストを準備して下さい。
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間 1時間)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化―三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷―	武居 奈緒子	千倉書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房	
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回の遠隔授業で課される課題の合計で評価します (100%)。
学生への メッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室
備考	

科目名	チームビルディング	科目名 (英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2回生以降に摂南大学PBLプロジェクトを履修する際にも役立つ。なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。  学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [II]
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。土曜日に集中講義で開講する。
科目学習の効果 (資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	9月19日 オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なかを知る ・チームビルディングとは何か を理解する	事前学習: 本科目のシラバスを精読すること。(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
2	9月19日 グループ分けを自己紹介	・グループ分け ・自己紹介ワーク	事後学修: チームにどのように貢献できるかを考える。(1時間)
3	9月19日 チームビルディングの理論を学ぶ	・チームビルディングの理論を学ぶ	事後学修: 講義資料を熟読する(1時間)
4	10月3日 チームビルディング体験①	・コンセンサスゲーム ・チームの10箇条	事後学習: 自身のチームへの貢献の内容を振り返る(1時間)
5	10月3日 チームビルディング体験②	チームで推理クロスに挑む	事後学修: 自身のチームへの貢献の内容を振り返る(1.5時間)
6	10月3日 チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける
7	10月24日 話し合う技術①	・GDに関する知識を学ぶ	事後学修: 講義で身につけた知識を日常生活で試してみる(1.5時間)
8	10月24日 話し合う技術②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習: 講義で身につけた知識を日常生活で試してみる(1.5時間)
9	10月24日 組織で学習するためのチームづくり	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	事前学修: チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
10	11月7日 情報の読み取りと活用	・チームで改善計画を考える	事後学習: 講義資料を熟読すること(1.5時間)
11	11月7日 チームで課題解決に挑む	・チームでニッポンの課題の解決策を考える	事前学修: チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
12	11月7日 チームで企画する	・チームで学生提案のPBLプロジェクトを企画する	事後学修: チームでの話し合いを振り返ること(1.5時間)
13	11月21日 チームでワークに取り組む①	・チームで地域創生のワークに取り組む	事後学修: チームで発表をする準備をすること(1時間) 事後学修: 自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(2時間)
14	11月21日 チームでワークに取り組む②	・チームで地域創生のワークに取り組む	事後学修: チームで発表をする準備をすること(1時間) 事後学修: 自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(2時間)
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	事前学修提出物などの出し忘れがないか確認する。(1.5時間) 事後学修: 講義全体を振り返ること。(1時間)

実務経験	
関連科目	・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 ・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学PBLプロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40% で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（水野研究室）			
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。			

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間ですら犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]、理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果 (資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すぎがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パ	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

			スワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	
	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
実務経験				
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。			



科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名 (英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。</li> <li>2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。</li> <li>3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。</li> <li>4) ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。容認することが期待される。</li> </ol> <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-5</p>
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。</li> <li>・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。</li> </ul>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティの世界へようこそ</li> <li>・政策提言へ向けて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること (1時間)</li> <li>・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3時間)</li> </ul>
2	ダイバーシティと境界線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウチとソトの感覚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について考えること (2時間)</li> <li>・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成すること (2時間)</li> </ul>	
3	ジェンダー視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェミニズム×女性学+男性学=人間学</li> <li>・時代を生きた女性たち6名に関して調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること (2時間)</li> <li>・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること (2時間)</li> </ul>	
4	日本の近代化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治の落とし物</li> <li>・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2時間)</li> <li>・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること (2時間)</li> </ul>	
5	国際統計比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダーギャップ</li> <li>・ジェンダーエンパワーメント指数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2時間)</li> <li>・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2時間)</li> </ul>	
6	性役割の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階における「刷り込み」</li> <li>・DV/デートDV</li> <li>・結婚と母性信仰</li> <li>・妊娠と出生前診断</li> <li>・優生保護法と母体保護法</li> <li>・「親になること」と「親であること」の相違</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2時間)</li> <li>・事後学修: 中間発表用レポート作成 (2時間)</li> </ul>	
7	中間発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のあるテーマに関して、個人発表を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 中間発表準備 (2時間)</li> <li>・事後学修: 中間発表レポート手直し (2時間)</li> </ul>	
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成</li> <li>・格差と二極分化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2時間)</li> <li>・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2時間)</li> </ul>	
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダーマネジメント</li> <li>・働き方改革</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること (2時間)</li> <li>・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること (2時間)</li> </ul>	
10	中間プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 調査考察し、発表準備をすること (2時間)</li> <li>・事後学修: 議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習すること (2時間)</li> </ul>	
11	アサーティブネス理論①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界中でアサーティブネスが用いられる理由</li> <li>・政策提言へ向けての中間レポート提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: アサーティブネスについて調べること (2時間)</li> <li>・事後学修: アサーティブに話す練習をすること (2時間)</li> </ul>	
12	アサーティブネス理論②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2時間)</li> <li>・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによ</li> </ul>	

				る自身の変化についてレポートを作成すること（2時間）																
	13	ダイバーシティマネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究すること（2時間） ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（2時間）																
	14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間） ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）																
	15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（2時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）																
実務経験																				
関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>共に学ぶ女性学</td> <td>石井三恵</td> <td>泉文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ジェンダーで学ぶ社会学</td> <td>伊藤公男</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかるジェンダー・スタディーズ</td> <td>木村 涼子 他</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>性と法律</td> <td>角田 由紀子</td> <td>岩波新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社																	
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房																	
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書																	
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																			
Teams コード	800myjf																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名 (英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。</p> <p>・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。</p> <p>・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。</p> <p>・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>・犯罪被害者を論ずる前に、講義の回数を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。</p> <p>・法的知識は、時代を生き抜く上で一種の「転ばぬ先の杖」（教養）でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「「被害者」概念について説明できる</li> <li>「犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる</li> <li>「犯罪被害者の支援制度について理解できる」</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<p>・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。</p> <p>・公務員や法律事務所などへの就職に役立つ。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方と文献紹介</li> <li>「加害者」の法的責任</li> <li>「加害者」と「犯罪者」</li> <li>「被害者」の意義</li> <li>「犯罪被害者」の意義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の入手</li> <li>事前:教科書第1章をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
2	少年犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>少年法と被害者救済</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>	
3	性犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>性犯罪被害特有の問題点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「性犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>	
4	ドメスティックバイオレンス(DV)の被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>DV被害の特殊性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「DV」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「DV被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>	
5	ストーカー犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストーカーへの対抗手段</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>	
6	インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット犯罪被害の特殊性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>	
7	児童虐待の被害者救済	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童虐待の意義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「児童虐待」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>	
8	触法精神障害者からの被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神障害者の加害行為と対処法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>	
9	犯罪被害救済総論①	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害届と告訴・告発の効果</li> <li>加害者との示談交渉</li> <li>マスコミ対策</li> <li>検察審査会</li> <li>検察審査員</li> <li>審査申立手続</li> <li>検察審査会と被害者</li> <li>起訴議決制度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第2章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>	
10	犯罪被害救済総論②	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害者による裁判傍聴と参加</li> <li>被害者による記録の閲覧と謄写</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第3章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> </ul>	

			<ul style="list-style-type: none"> <li>被害者における心情陳述</li> <li>被害者等特定事項の非公開</li> <li>遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判</li> </ul>	事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2時間）
	11	犯罪被害救済総論③	<ul style="list-style-type: none"> <li>損害賠償命令制度</li> </ul>	事前：教科書第4章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）
	12	犯罪被害救済総論④	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害回復給付金制度</li> </ul>	事前：教科書第4章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）
	13	犯罪被害救済総論⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>犯罪被害者等給付金支給制度</li> </ul>	事前：教科書第7章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2時間）
	14	犯罪被害救済総論⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>加害者情報へのアクセス</li> <li>法テラス</li> </ul>	事前：教科書第7章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2時間）
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：重要事項についてノートにまとめること（2時間）
実務経験				
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に指示する。		
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」			
Teams コード	wol2lfc			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	・Microsoft 社 teams を活用し、課題提出とその内容を評価して行う（100%）。			
学生への メッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野教授室			
備考	講義の理解を試すミニツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。			

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名 (英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭, 青笹 治, 井尻 貴之, 居場 嘉教, 大橋 貴生, 尾山 廣, 川崎 勝己, 木村 朋紀, 中嶋 義隆, 長田 武, 西村 仁, 船越 英資, 松尾 康光, 宮崎 裕明, 向井 歩
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

**授業概要・目的**  
 ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。  
 また、企業で商品開発等に20年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして生体物質の実用化に関する教育も行う（第1回）。

**到達目標**  
 教養としてのライフサイエンスの基礎知識の理解

**授業方法と留意点**  
 配布資料に沿って、教材・課題提供型授業を行う。

**科目学習の効果 (資格)**  
 生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	概要説明 特殊環境微生物学 (西矢)	授業の進め方を説明する。 微生物や酵素に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
2	糖質生化学 (大橋)	糖質にまつわる基礎知識・キーワード・最新トピックについて、生化学的な見地から解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
3	細胞生命生理学 (宮崎)	生物がいかにして環境に適応する仕組み (ホメオスタシス) を獲得し、進化してきたのかについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
4	分子生物学 (川崎)	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学 (青笹)	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学 (長田)	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
7	細胞機能学 (船越)	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
8	環境毒理学 (木村)	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学 (中嶋)	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
10	共生機能材料学 (松尾)	タンパク質に対する水の必要性とその機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学 (西村)	多くの生命現象は「現在 (いま)」を生きるためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学 (井尻)	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学 (居場)	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	動物生理学 (向井)	生物が環境の変化に適応するしくみについて、昆虫を題材として解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
15	生体分子機能学 (尾山)	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。

**実務経験**  
 無し

**関連科目**  
 生物学概論、物理科学、生物無機化学、生物統計学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

**授業形態**  
 Teams コード

**Moodle コース名**  
 および登録キー

**連絡手段**  
 無し

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題レポートまたは確認小テスト 100%
学生への メッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
担当者の 研究室等	1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科全教員)
備考	欠席・遅刻などの扱いは理工学部の規定に従って処理する(80%以上の出席が必要)。 事後学習に要する総時間の目安は15時間



科目名	現代ビジネス論	科目名 (英文)	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧 美喜男
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本的経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー事例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。
到達目標	本講義では、以下の3つの目標を設定する。 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。 ②日本的経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。
授業方法と留意点	可能な限り双方向 (interactive) の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。
科目学習の効果 (資格)	資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	現在のビジネス環境及びリーダーの重要性	オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。働くとは何かをを考える。	日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。
2	マネージャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネージャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいリーダーの特徴を考えてみる。
5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(1~5回までのレポート提出)	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしてしているのか考えてみる。
7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。多国籍従業員意識。	トヨタ自動車・GMとの合弁企業 NUMMI がなぜ設立されたのか調べてみよう。最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。	日本人は自己主張をしないとされいいます。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか？
9	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢的観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。
10	自身を考える	日米中韓4か国の若者調査の紹介・12人の有識者による若者の実像。人材育成のモデルの紹介・提案 (6~10回までのレポート提出)	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか？自身の能力をどう評価していますか？
11	自分はどういうビジネスリーダーになるか	日本的経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。	以下3回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。二人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
12	事例1 二宮尊徳	成長・働く・奉仕 (奉公) を実践	第11回参照
13	事例2 パナソニック創業者 松下幸之助	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	第11回参照
14	事例3 藤沢武夫	No2の役割とは何か。	第11回参照
15	企業不正	誰も教えてくれない。あなた達が必ず直面する。どう対処すればよいのか	
16	まとめ	全14回の講義の中で浮かび上がったことを総括する。	

実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際人的資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社



	2	マネジメント入門	スティーブン P. ロビンズ	ダイヤモンド社
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	6y3a3rw			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メールを使用			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	第5回時のレポート(25%)、第10回時のレポート(25%)、定期試験(50%)			
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。			
担当者の 研究室等	教務課(11号館1階)			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」			

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。そのような隣国に関して、大きな歴史の流れを検討し、近現代の韓国社会における変化を長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	この講義を通じて、韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国近現代史を概観できるようになる。 ・「解放」前後における朝鮮半島の政治状況について理解する。 ・「民主化」前後における韓国の政治状況について理解する。
授業方法と留意点	韓国近現代史の基礎を踏まえた上で、関連する映画作品を鑑賞し、それらの解説なども交えながら講義を進める。 【遠隔授業の実施にともなう変更点】 ・本授業は、教科書とMoodleを利用して授業を進めます。 ・授業の一環としての映画鑑賞は、各自で動画配信サービス等を利用して行なうものとします。 (詳細については、Moodle および配布レジュメにおいて説明します。)
科目学習の効果 (資格)	韓国近現代史および現代韓国社会に関する基礎的な理解

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	近現代韓国の基礎知識 (1)	韓国近現代史概説: 1945年以前と以後	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
3	近現代韓国の基礎知識 (2)	韓国近現代史概説: 軍事政権の時代と民主化後の時代	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
4	映画作品に見る「韓国現代史」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
5	映画作品に見る「韓国現代史」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
6	近現代韓国社会への理解 (1)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
7	近現代韓国社会への理解 (2)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
8	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
9	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
10	近現代韓国社会への理解 (3)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
11	近現代韓国社会への理解 (4)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
12	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
13	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
14	現代韓国に向き合う (1)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
15	現代韓国に向き合う (2)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分)	

				[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国現代史	木村幹	中公新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。 【遠隔授業の実施にともなう変更点】 ・提出レポートについては、授業内で課される小レポートと最終レポートを併せて総合評価を行なうものとします。 (ともにMoodleを通じて提出することになります。)			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。			

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人・原 由紀子・横山 喬之
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目です。昨年からの教養入門、実践のステップアップの講座としての位置づけです。本科目の目的は、SDGsを実現する。そして、今後の大学での学びにおいても社会との接点を考えながら学ぶ姿勢を習得します。大学生として必要な、SDGs(2030年までの世界の目標)などを中心とした教養(社会、経済、環境等)を身につけ、その知識をもとに考え、自分の考えを持ち、討議ができることを目的とします。
到達目標	(1)世界の目標SDGs(2030年までの世界の目標)について知り、討議することができる。 (2)時事ニュースやコラムから教養を身につけ、討議することができる。 (3)問い作りをすることで、探求テーマを自ら立てることができる。 (4)チームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	この授業では、世界の目標SDGsを学び、世界の課題を学びます。チームごとにテーマを決めて学びを深め、討議をします。この授業を通し自ら主体的に、仲間と対話を通してSDGsの理解を深め、最終的には自らの行動計画につなげてゆきます。学修法としては、ABD(アクティブ・ブック・ダイアログ)協働学習による学び、QFT(問い作り)で探求のテーマ設定をします。この科目では、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習に取り組むことにより、人間関係、チームワーク、リーダーシップ、ものごとに対する柔軟な
科目学習の効果(資格)	社会課題を議論するための教養としてSDGs(2030年までの世界の目標)を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。多様なメンバーと意見を交わしながらシナリオを作成することで、違いを活かし合い新しいものを共創する力を育むことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る SDGsカードゲーム 振り返りシート	事後:SDGsを調べる (Moodleに資料を載せ、読んでもらう。アンケート使用、どのSDGsが気になりましたか?)
2	SDGsを学ぶ 前文仮訳	理解度確認テスト SDGs前文仮訳ABD リレープレゼン ジグソーまとめ方確認 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:SDGsを1分で話せるようにまとめる 事後:今日の学びまとめ
3	SDGs目標1?10を学ぶ	理解度確認テスト(目標1-10) SDGs目標1-10ABDサマリー作成 リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:目標1-10の予習 事後:今日の学びまとめ
4	SDGs目標11?17を学ぶ	理解度確認テスト(目標11-17) SDGs目標11-17ABDサマリー作成 リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:目標11-17の予習 事後:今日の学びまとめ
5	SDGsの問い作り	理解度確認テスト(SDGs復習) システム思考ミニ講義 SDGs目標で問いづくり 役割分担 振り返りシート	事前:目標すべての復習 事後:今日の学びまとめ
6	SDGsのポスターづくり	理解度確認テスト(SDGs復習) 新聞づくり+フィードバック プレゼンテーションミニ講義 発表、フィードバック 振り返りシート	事前:新聞づくりの調査 事後:今日の学びまとめ
7	ポスターづくりと発表、グループ振り返り	理解度確認テスト(SDGs復習) 新聞づくり 全体発表+フィードバック これまでのグループワークの振り返り	事前:新聞づくりの追加調査 事後:振り返りレポート
8	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第1章ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:第1章の予習 事後:今日の学びまとめ
9	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第2章ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:第2章の予習 事後:今日の学びまとめ
10	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第3章ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:第3章の予習 事後:今日の学びまとめ
11	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第4章ABD リレープレゼン 対話	事前:第4章の予習 事後:今日の学びまとめ

			理解度確認テスト、振り返りシート	
	12	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 問い作り テーマ設定 役割分担 振り返りシート	事前：日本のSDGsについて調べる (ジェンダー平等、貧困、テクノロジー) 事後：今日のまとめ
	13	摂南大学オリジナル 2030年新聞づくり	理解度確認テスト 日本地図帳づくり 中間発表、フィードバック 役割分担 振り返りシート	事前：2030年の新聞づくりの調査 事後：今日のまとめ
	14	摂南大学オリジナル 2030年新聞づくり、発表	最終プレゼン、その世界を実現するには、自分たちにできることは何か？ ワールドカフェ 振り返り	事前：新聞づくりの調査、最終発表準備 事後：振り返りレポート
	15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有、 振り返り、今後の行動目標づくり	グループワークの進め方のポイントを 押さえた振り返り
実務経験				
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	落合陽一	SBクリエイティブ
	2	SDGs アジェンダ前文		国連
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢 (チーム：30%)</li> <li>・ポスター、新聞づくり/発表 (チーム：25%)</li> <li>・振り返りレポート 2回 (個人：20%)</li> <li>・振り返りシート (個人：10%)</li> <li>・理解度確認クイズ (個人：10%)</li> <li>・資料ファイリング (個人5%)</li> </ul> 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？			
担当者の 研究室等	大塚正人 (薬学部1号館5F)、伊藤諱 (1号館3F)、原由紀子 (非常勤講師室)			
備考	バインダーを用意し、資料を管理します。この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践Iからなる科目です。教養を身につけながら学習法を修得することを期待しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。			

科目名	株式投資と起業家育成	科目名 (英文)	Investment & Entrepreneurship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>『「投資」とは何か』、個人投資に必要な基本的な金融・経済知識と投資手法について学び、シミュレーションによる資産運用演習を体験します。更に、投資対象として注目度が高い新興企業（ベンチャー企業）について、新規事業の着想から、ビジネスモデルの構築、そして実際の起業に至るまでの諸課題や起業の実際、事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。</p> <p>【SDGs-4】（質の高い教育をみんなに）</p> <p>【担当教員実務経歴】</p> <p>①ベンチャー投資財団（企業投資業務担当） ②監査法人（株式上場コンサルティング担当）</p>
到達目標	<p>将来、就職してからの確定拠出型年金制度への対応として、各種投資金融商品の特徴と運用リスク、リターンに対する税務処理を習得し、個人投資家の育成を目指します。</p> <p>また、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成を目指します。</p>
授業方法と留意点	<p>毎回、当該授業内容に関するキーワードを記載した「講義メモ」と付属資料を配付します。</p> <p>「講義メモ」のキーワードについては、授業後の復習として活用してください。</p> <p>またスライドで説明した内容について、自身で「講義メモ」に必要な点のみを記載する、効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください（板書の習慣を変えてください）。</p> <p>毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を配布します。講義終了時に提出してもらいます。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>自身の将来に向けた資産形成に必要な基本的ノウハウの習得</p> <p>学生時代に自身のアイデアをビジネスに活かす挑戦意欲の醸成と将来の就くべき職業の選択肢を増やす（視野を広げる）</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講座ガイダンス 個人投資とは？ 起業家とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 投資を学ぶ理由（確定拠出型年金制度への対応、老後の資金需要への対応） 起業家教育を受ける理由	<事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
2	経済、財政の基本知識と投資との関係	投資のために必要とされる消費生活における経済動向 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）	
3	家計と国の財政動向による投資環境への影響	雇用と所得、財政の役割 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）	
4	海外の動向による影響と経済指標との関係	景気動向指数、為替動向による投資環境への影響と対応 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）	
5	株式市場の役割と株式価値	株式市場、発行市場、流通市場による株式の役割と価値 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）	
6	銘柄選択の考え方と投資シミュレーションの説明	投資情報に基づく株価評価の考え方と投資シミュレーション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
7	債券市場の役割と投資の考え方	債券の基礎情報と債券投資の仕組み。金利の決定方法。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
8	株式市況先読みの捉え方	株式投資の基本的分析手法と投資テクニック 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
9	チャート分析と銘柄選定の考え方	株価下降局面、景気低迷期における投資リスクヘッジの考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
10	投資信託の仕組み	グローバル投信を含む投資信託商品選定の考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
11	外貨預金・FX・金投資の仕組みと投資の考え方	外貨預金・FX・金投資の魅力とリスク判定 配布資料の「講義メモ」のキーワードに	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることに	



			基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	よる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	12	企業組織と市場市場	ベンチャー企業組織組成の考え方と株式公開の意義。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	13	事業構想におけるドメイン設定の考え方	起業準備としての事業構想の立て方と事例によるディスカッション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	14	経営機能構造の設計と税務	ビジネスモデル設計の考え方と会社設立および税務手続き。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	15	投資シミュレーション結果検証	各自投資シミュレーションの結果報告と銘柄変動の要因についてのディスカッション。	<事後>投資シミュレーション結果と分析の再確認（30分）
実務経験				
関連科目	ベンチャービジネス論、経営管理論、ビジネスプランニング（演習）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	①毎回のアンケート内の〔設問1〕に対する回答評価（評価割合：50%） 授業内容のお復習として設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の〔設問2〕（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。 なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。 ②最終課題レポート（評価割合：50%） 投資手法および銘柄選定（経済指標分析）に関する知			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「投資」はギャンブルではありません。将来の資産形成のための金融手段です。</li> <li>■「儲かる／儲からない」を競うものでもありません。</li> <li>■法令を遵守した投資スタンスが必要です。</li> <li>■投資は、あくまでも自己責任で行うものです。</li> </ul> この点を理解できる学生は参加してください。			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考	実際の株式銘柄の動きを反映した「投資シミュレーション」を行う予定です。			



科目名	AI ビジネス創造実習	科目名 (英文)	Practicum in Business Creation by Using AI
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: JT01374a～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1, N科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的  
近年、情報処理基盤の社会浸透、人工知能 (AI) や IoT 等の最先端技術のオープン化に伴い、既存のビジネスモデルが大きく変化すると言われています。本講義では、学生の自由な発想のもと、一人ひとりが独自の AI を作ることで、AI とは何か、AI にできること、AI では難しいことを理解します。そして、作成した AI を持ち寄り、新しいビジネスプランを考えるグループワークを通して、事業創造に必要な企画・構想力を身に着けます。

到達目標  
(1) AI の基本原理を理解し、AI を活用した既存サービスに関する知識を深めること  
(2) AI の作り方を知り、独自の AI を作れること  
(3) AI を活用したビジネスプランを提案し、グループディスカッションにより洗練させた上でプレゼンテーションできること

授業方法と留意点  
本年度は、Microsoft Teams を使用した資料配信型授業とする。  
授業資料 (PDF) は、各回の授業日までに Microsoft Teams の AI ビジネス創造実習クラスにアップロードする。  
毎回の授業でテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組むこと。  
なお、授業計画 15 回分の内容を 11 回で実施するため、予習・復習に努めること。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、AI の構築環境の準備	シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習
2	AI の基本原理と最新動向 (1)	AI の歴史、AI の仕組み、最新動向	配布資料の指定頁の予復習
3	AI の基本原理と最新動向 (2)	最新動向の調査、アイデア出し	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
4	AI を作るための準備 (1)	データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
5	AI を作るための準備 (2)	データの整備	データの整備、授業内容の見直し
6	AI の作り方	CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
7	AI の使い方	画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
8	AI の評価方法	画像認識 AI モデルの評価、再学習	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
9	AI によるビジネスプランの考案	作成した AI の相互評価、グループ分け	学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し
10	AI によるビジネスプランの考案 (2)	グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方	グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案
11	AI によるビジネスプランの考案 (3)	ビジネスプランと AI の作成	ビジネスプランの文書作成、AI の作成
12	AI によるビジネスプランの考案 (4)	ビジネスプランの推敲、AI の作成	ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化
13	AI によるビジネスプランの考案 (5)	ビジネスプランの推敲、AI の評価	ビジネスプランの文書修正、AI の評価
14	プレゼンテーション	グループによる発表、相互評価	授業内容の振り返り
15	総括	これまでのまとめ	授業内容の振り返り

実務経験

関連科目  
情報リテラシーやプログラミングに関連する科目を履修済みであることが望ましい

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞
2	人工知能は人間を超えるか	松尾 豊	角川
3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名および登録キー

連絡手段

メールアドレス  
メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。  
メールアドレス:

評価方法 (基準)  
成績は、演習課題の回答内容に基づき評価する。期限内に提出できなかった場合は、大幅な減点となる。

学生へのメッセージ  
Society 5.0 時代は、高度な情報システムやデータ処理技術を「作る人」よりも、上手に「使う人」が重宝されるでしょう。だれもが、わずかな専門知識と大いなる熱意があれば、驚くようなプロダクトやソリューションを創造することができてしまう世の中になっています。この授業をとおして、そのことを実感してほしいと思います。

担当者の研究室等備考  
11 号館 8 階 塚田講師室

科目名	社会福祉論	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本講義では、さまざまな要因から生きづらさを感じている人びとの暮らしをどのように支えていくかについて、社会福祉の制度や地域における支え合い、個人々の生き方など、多角的な視点から考えていきます。</p> <p>本講義を通じ、受講生は、社会に貢献できる能力として、社会福祉の知識だけではなく、これからの地域、社会の担い手に求められる技能、態度を身につけることが期待されます。</p> <p>SDGs-1, 3, 5, 10, 11, 17</p>
---------	---

到達目標	<p>①講義で取り扱うテーマを理解し、その概要について説明ができること</p> <p>?日本の社会福祉の特徴と概要について説明ができること</p> <p>③これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度を身につけること</p>
------	--

授業方法と留意点	学生に対する積極的な問いかけ、講義中のディスカッション、グループワークを取り入れた講義を行います
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます	事後学修: 配布資料を熟読すること (2時間)
2	社会福祉の歴史①	諸外国における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
3	社会福祉の歴史②	日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
4	社会福祉の実施主体	社会福祉の実施主体について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
5	社会保障の概観	社会保障の機能および種類を概観したのち、公的扶助と保険制度の内容について理解し、その役割について考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
6	高齢者福祉	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからのことについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
7	認知症と地域生活	認知症になっても地域で暮らしつづけるにはどうすればよいか、認知症にかんする基本的な知識を踏まえて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
8	障害者福祉	障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからのことについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
9	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからのことについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
10	地域福祉①	地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
11	地域福祉②	地域福祉の国内における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
12	地域福祉③	地域福祉の海外における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
13	地域福祉④	地域が抱える課題とその解決法を模索する手法について、個人ワークを行います	事後学修: 提出した成果物の内容について振り返りを行うこと (2時間)	
14	社会福祉と大学生の役割	社会福祉を展開に対して大学生にどのような役割が期待されるかについて実践事例を通じて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
15	講義のふりかえり	講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知	事後学修: 講義の内容について振り返りを行うこと (4時間)	

			識、技能、態度についてあらためて考え ます	
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder			
Teams コード	eqjnral			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回のレポート50%、最終レポート50%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙, 大塚 正人, 荻田 喜代一, 久保 貞也, 佐井 英子, 瀬川 智広
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1, N科: NKY1349a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1) 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2) ABDによる読書法を身につけている。 (3) チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4) SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5) 読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6) コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7) 自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 学修法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABDの体験	事前学習: 「おとなの教養」第二章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門: 「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習: 「おとなの教養」第三章を読む(1.5時間以上)	
3	教養入門: 第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第五章を読む(1.5時間以上)	
4	教養入門: 第五章 経済学	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第一章を読む(1.5時間以上)	
5	教養入門: 第一章 宗教	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3時間以上)	
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習: 振り返りレポート1回目 事前学習: SDGsとは何かを調べる (3時間以上)	
7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGsゲーム 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDGsとは何か調べる (1.5時間以上)	
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsとは何か ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAIとは何かを調べる (1.5時間以上)	
9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事後学習: 振り返りレポート2回目 事前学習: 「アドラー心理学」第一章を読む(2時間以上)	
10	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第二章を読む(1.5時間以上)	
11	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第三章を読む(1.5時間以上)	
12	自分を知る教養: 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第四章を読む(1.5時間以上)	
13	自分を知る教養: 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3時間以上)	
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習: 振り返りレポート3回目 (2時間以上)	
15	大学教養入門: まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事後学習: 振り返りレポート4回目 (2時間以上)	

実務経験																	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アドラー心理学入門</td> <td>岸見一郎</td> <td>KK ベストセラーズ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版														
2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢 (チーム：20%)</li> <li>・中間発表・まとめ (チーム：20%)</li> <li>・振り返りレポート 4回 (個人：20%)</li> <li>・振り返りシート (個人：15%)</li> <li>・理解度確認クイズ (個人：15%)</li> <li>・事前学習シート (個人：5%)</li> <li>・ファイル管理 (個人：5%)</li> </ul> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>																
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部・学科の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																
担当者の 研究室等	荻田喜代一 (7号館 8F, 学長室), 伊藤譲 (1号館 3F), 石井三恵 (7号館 5F), 柳沢学 (8号館 3F), 大塚正人 (薬学部 1号館 5F), 久保貞也 (11号館 7F), 佐井英子 (11号館 6F), 瀬川智広 (スボ振), 古矢篤史 (7号館 4F), 寺本俊太郎 (1号館 3F), 松島裕一 (11号館 9F), 羅鵬飛 (経済)																
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。																

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 謙・上野山 裕士・友枝 恭子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1459a1, L科: LKY1361a1, D科・S科: IKY1368a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1370a1, W科: WKY1349a1, N科: NTO1350a1~NTO1354a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。
到達目標	(1) 大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2) ABDによる読書法の基礎(要約、プレゼンテーション、対話)を身に付けている。 (3) 自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4) チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている。 (5) わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6) テーマにそった対話(感想を述べ合うこと、質疑応答)を行うことができる。 (7) 自主学習の習慣を身に付けている。
授業方法と留意点	この授業は対面授業(6回)と遠隔授業(9回)で行う。 授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果(資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABDやQFT等の協働学習の方法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説(振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート(学習範囲を200~250字で要約)を作成する。教科書 p. 48-79 を読み、事前学習シートを作成する。
3	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート。教科書 p. 80-108 を読み、事前学習シートを作成する。
4	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 投票と表彰、振り返りシート	事後学習シート
5	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	学びの振り返り(整理、共有) 要約・プレゼン・対話の要点を説明	教科書 p. 109~146 を読み、事前学習シートに記入する。
6	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	事後学習シート
7	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	QFT(質問づくり) 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書 p. 148~181 を読み、事前学習シートを作成する
8	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書 p. 181~203 を読み、事前学習シートを作成する
9	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説、確認試験 協働学習(要約・プレゼン・対話) QFT(中間発表のテーマ出し) 振り返りシート	事後学習シート ポスター作成 プレゼン準備 図書館の利用
10	教養としての社会の課題を知る:「中間成果発表1回目」	ポスター作成 発表・質疑応答、投票と表彰 振り返りシート	振り返りレポート1回目 「星の王子様」1~10章を読み、事前学習シートを作成
11	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート 11~20章を読み、事前学習シートを作成
12	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート 21~27章を読み、事前学習シートを作成
13	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) QFT(中間発表のテーマ出し) 振り返りシート	事後学習シート 事前学習シート(ポスター作成・プレゼン準備)
14	教養としての文学作品に触れる:「中間成果発表2回目」	解説、確認試験 ポスター作成	振り返りレポート2回目 図書館の利用



			発表・質疑応答 振り返り、振り返りレポート	
	15	全体振り返り	各グループで選択した文学作品の紹介。 バインダーチェック 全体を通しての学びの整理、共有、振り返り	
実務経験				
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書
	2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	大学教養実践 DKJ			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢/ルーブリック (チーム：15%)、・ファイリング (個人：5%)</li> <li>・ポスター発表 (チーム：20%)</li> <li>・振り返りレポート 2回 (個人：20%)、・振り返りシート (個人：10%)</li> <li>・理解度確認クイズ (個人：10%)</li> <li>・事前学習シート (個人：10%)、・事後学習シート (個人：10%)</li> </ul> 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？			
担当者の 研究室等	伊藤謙 (1号館 3F)、上野山裕士(7号館 3F)、寺内睦博 (11号館 10F)、水野武 (7号館 3F)、友枝恭子 (3号館 3F)、瀧 (スポ振)			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同スタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。？			



科目名	企業簿記	科目名 (英文)	Book keeping
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。
到達目標	簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記3級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	MSTeamsによるオンライン授業を実施する。講義資料(講義概要、スライド、レジュメ、小テスト)については、Moodle又はTeamsの講義資料チャンネルから利用可。レジュメ及び小テストは事前にダウンロードや印刷し活用することが望ましい。
科目学習の効果(資格)	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	簿記の基礎①	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
2	簿記の基礎②	取引と勘定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
4	簿記の基礎④	試算表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
7	まとめ	第1回から第6回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。	事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
8	現金・預金①	現金・現金過不足	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
10	商品売買	三分法と売上原価の算定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
16	その他の債権・債務②	立替金・預り金、仮払金・借入金、商品券、他店商品券	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
17	有価証券、固定資産	有価証券の購入・売却、固定資産の取得・減価償却・売却	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
18	資本金・引出金、税金	資本金と引出金、税金の記帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
19	まとめ	第8回から第18回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。	事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
20	決算①	費用・収益の繰り延べ	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
21	決算②	費用・収益の見越し	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
22	決算③	試算表の作成1	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
23	決算④	試算表の作成2	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
24	決算⑤	精算表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
25	財務諸表の作成①	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
26	財務諸表の作成②	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
27	伝票会計	伝票の起票、伝票の集計・管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
28	まとめ	第20回から第27回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。	事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。

	29	日商簿記検定問題①	仕訳、帳簿の問題	事前：教科書の仕訳、帳簿の問題を解く(60分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30分)
	30	日商簿記検定問題②	試算表、精算表の問題	事前：教科書の試算表、精算表の問題を解く(60分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30分)
関連科目	財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。			
教科書	番号	書籍名		著者名
	1	最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 三訂版		渡辺正直 ほか
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名		著者名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	小テスト 30%+学期末試験 70%=100%で評価する。 ・ 小テストは毎回回収するので、期限を過ぎないように注意する。(回収方法については講義内でアナウンス) ・ 期末試験はオンラインで実施予定。			
学生への メッセージ	簿記は借方・貸方などの専門用語があつて最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかり身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。			
担当者の 研究室等	11号館7階(呉研究室)			
備考	回収した練習問題については、Moodle または Teams から解答が利用できる。Teams に質問チャンネル等を用意するので活用してください。			

科目名	プログラミング	科目名 (英文)	Programming
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期		授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	当授業では、プログラミングに必要な基礎知識と C 言語を用いたプログラムの書き方について学習します。授業内容や課題の難易度は、プログラミングの初学者を対象としています。アルゴリズムを考えて、フローチャートを理解し、C 言語で簡単なプログラムが作成できる能力の獲得を目的とします。
到達目標	(1) アルゴリズムを考えてフローチャートを書くことができる (2) C 言語の文法が理解できる (3) プログラミング言語を独習できる知識が身につく
授業方法と留意点	本年度は、Microsoft Teams を使用した資料配信型授業とする。 授業資料 (PDF) は、各回の授業日までに Microsoft Teams のプログラミング I またはプログラミング II のクラスにアップロードする。毎回の授業でテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組むこと。 なお、授業計画 15 回分の内容を 11 回で実施するため、予習・復習に努めること。
科目学習の効果 (資格)	基本情報技術者試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	経営学部でプログラミングを学ぶ意義、授業の進め方、評価について	事前：シラバスを確認 (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
	2	プログラミングの理解 (1)	ビジュアルプログラミング	事前：「ビジュアルプログラミング」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
	3	プログラミングの理解 (2)	アルゴリズム、制御構造	事前：「アルゴリズム、制御構造」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
	4	プログラミングの理解 (3)	フローチャート、変数	事前：「フローチャート、変数」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
	5	ゲーム制作を通してプログラミングを学ぶ (1)	特定倍数の判定、素数の判定	事前：「倍数判定、素数判定」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
	6	ゲーム制作を通してプログラミングを学ぶ (2)	接触ゲームの作成	事前：ビジュアルプログラミングを用いたゲームデザインについて調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
	7	C 言語によるプログラミング (1)	プログラミングの基本ルール、画面出力	事前：C 言語の「画面出力」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
	8	C 言語によるプログラミング (2)	整数の表示、小数の表示、文字の表示	事前：C 言語の「整数、小数、文字の表示」について調べる (30 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
	9	C 言語によるプログラミング (3)	変数、代入演算子	事前：C 言語の「変数、代入演算子」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
	10	C 言語によるプログラミング (4)	算術演算子、キャスト演算子	事前：C 言語の「算術演算子、キャスト演算子」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
	11	C 言語によるプログラミング (5)	分岐処理、条件式、真偽値	事前：C 言語の「条件分岐、条件式、真偽値」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
	12	C 言語によるプログラミング (6)	反復処理	事前：C 言語の「反復処理」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
	13	C 言語によるプログラミング (7)	分岐処理と反復処理の組み合わせ	事前：C 言語の「条件分岐、反復処理の組み合わせ」について調べる (20 分) 事後：授業内容見直し (30 分)
	14	総括	総復習、テスト対策	事前：これまでの内容の確認 (60 分) 事後：テスト勉強 (60 分)
	15	期末テスト	期末テスト	事前：これまでの内容の確認 (60 分) 事後：テストの振り返り (60 分)
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
関連科目	プログラミング II			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新・明解C言語 入門編</td> <td>柴田 望洋</td> <td>SBクリエイティブ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>やさしいC</td> <td>高橋 麻奈</td> <td>SBクリエイティブ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新・明解C言語 入門編	柴田 望洋	SBクリエイティブ	2	やさしいC	高橋 麻奈	SBクリエイティブ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	新・明解C言語 入門編	柴田 望洋	SBクリエイティブ														
2	やさしいC	高橋 麻奈	SBクリエイティブ														
3																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Teams「オンライン型」																
Teams コード	400sdmc																
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	成績は、演習課題の回答内容に基づき評価する。期限内に提出できなかった場合は、大幅な減点対象となる。																
学生への メッセージ	事前学習については、授業計画を確認して予習に努めること。事後学習では、わからないところの理解に努めること。 欠席した場合は、必ず教材フォルダから授業資料を取得し、自習により追いつくこと。 友達同士で教え合って、それでも解決できなければ遠慮なく質問に来ること。																
担当者の 研究室等	11号館8階 塚田講師室																
備考	Windows 操作 (キーボード入力、テキストのコピー&ペースト、ファイルの扱い) がスムーズにできると、授業に取り組みやすいのでパソコンに慣れていない人は、「ミカタイプ」や「すし打」等でタイピング練習をしておいてください。																

科目名	簿記入門	科目名 (英文)	Introduction to Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1004a0		

授業概要・目的	簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。
到達目標	簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記3級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	MSTeamsによるオンライン授業を実施する。講義資料（講義概要、スライド、レジュメ、小テスト）については、Moodle又はTeamsの講義資料チャンネルから利用可。レジュメ及び小テストは事前にダウンロードや印刷し活用することが望ましい。
科目学習の効果（資格）	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	簿記の基礎①	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
2	簿記の基礎②	取引と勘定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
4	簿記の基礎④	試算表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
7	まとめ	第1回から第6回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。	事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
8	現金・預金①	現金・現金過不足	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
10	商品売買	三分法と売上原価の算定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
16	その他の債権・債務②	立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券、他店商品券	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
17	有価証券、固定資産	有価証券の購入・売却、固定資産の取得・減価償却・売却	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
18	資本金・引出金、税金	資本金と引出金、税金の記帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
19	まとめ	第8回から第18回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。	事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
20	決算①	費用・収益の繰り延べ	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
21	決算②	費用・収益の見越し	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
22	決算③	試算表の作成1	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
23	決算④	試算表の作成2	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
24	決算⑤	精算表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
25	財務諸表の作成①	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
26	財務諸表の作成②	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
27	伝票会計	伝票の起票、伝票の集計・管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。	事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
28	まとめ	第20回から第27回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。	事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。

	29	日商簿記検定問題①	仕訳、帳簿の問題	事前：教科書の仕訳、帳簿の問題を解く(60分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30分)
	30	日商簿記検定問題②	試算表、精算表の問題	事前：教科書の試算表、精算表の問題を解く(60分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30分)
関連科目	財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。			
教科書	番号	書籍名		著者名
	1	最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 三訂版		渡辺正直 ほか
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名		著者名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	小テスト 30%+学期末試験 70%=100%で評価する。 ・ 小テストは毎回回収するので、期限を過ぎないように注意する。(回収方法については講義内でアナウンス) ・ 期末試験はオンラインで実施予定。			
学生への メッセージ	簿記は借方・貸方などの専門用語があって最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかり身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。			
担当者の 研究室等	11号館7階(呉研究室)			
備考	回収した練習問題については、Moodle または Teams から解答が利用できる。Teams に質問チャンネル等を用意するので活用してください。			



科目名	商業科教育法	科目名 (英文)	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期		授業担当者	久井 孝則
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>前期は、商業高校の教育課程の特徴について理解を深める。そのために、学習指導要領に示された「商業科」の科目について、その目指す学力観及び指導内容と留意点を明らかにしていく。また、商業教育の課題と展望を通して、次代を担う教員としてどのような教育を行うべきかを考察する。</p> <p>後期は、模擬授業を中心に行い、お互いに評価をし合うことにより、発表者の授業に対する教材研究、教材提示、板書法や教育姿勢などについて考察する。</p> <p>また、新学習指導要領の改訂のポイントを理解させ、その体現者としての自覚を促す。</p>
到達目標	<p>①商業科教員としての基本的かつ幅広い知識を習得する。</p> <p>②学習指導計画の立案ならびに模擬授業を行い、実践的な能力を体得する。</p> <p>③ビジネス教育のあり方について考え、将来の方向性について理解を深める。</p>
授業方法と留意点	<p>前期授業については、遠隔による教材・課題提供型授業とし、後期授業では模擬授業などの実践授業を取り入れ課題や調査研究成果を発表させるなどの対話型授業を行う。前期授業については毎回レポートを求め、一方的な授業にならないよう努める。また、配布された学習資料について必ず事前学習をしておくこと。特に学習指導計画案の作成や模擬授業では、綿密な資料研究が必要である。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目である。商業高校では、様々な分野の専門科目を担当する可能性があり、そのための基本的な知識・技能を習得することができる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	我が国における商業教育の歩み	(1)明治期の商業教育 (2)大正期・昭和20年以前の商業教育 (3)新教育制度と商業教育 (4)科目構成、科目名の変遷	[事前] 教科書の当該章を熟読しておくこと
3	高等学校学習指導要領と商業教育	(1)学習指導要領の法的位置づけ (2)学習指導要領の理念 (3)時代の進展等と商業科の改善 (4)商業科の学習指導を考える文脈	[事前] 教科書の当該章を熟読しておくこと。平成30年3月告示の新学習指導要領について調べておくこと
4	商業科の教育課程の編成と実施	(1)教育課程の意義 (2)専門性の深化 (3)カリキュラム・マネジメント (4)専門学科における各教科・科目の履修 (5)文部科学省検定教科用図書等の使用義務 (6)職業資格とのつながり (7)各学科で育成する人材像と教育課程	
5	商業科の学習指導	(1)商業科教育における学習指導の理念と方向性 (2)商業科教育における主体的・対話的で深い学び	[事前] 教科書の当該章を熟読しておくこと
6	各分野の学習指導 [1] 基礎的科目	(1)科目構成 (2)基礎的科目が育成を目指す資質・能力 (3)「ビジネス基礎」の授業改善 (4)「ビジネス・コミュニケーション」の授業改善 (5)学習指導案の例	[事前] 教科書の当該章を熟読しておくこと
7	各分野の学習指導 [2] マーケティング分野	(1)科目構成 (2)マーケティング分野が育成を目指す資質・能力 (3)「マーケティング」の授業改善 (4)「商品開発と流通」の授業改善 (5)「観光ビジネス」の授業改善 (6)学習指導案の例	[事前] 教科書の当該章を熟読しておくこと
8	各分野の学習指導 [3] マネジメント分野	(1)科目構成 (2)マネジメント分野が育成を目指す資質・能力 (3)「ビジネス・マネジメント」の授業改善 (4)「グローバル経済」の授業改善 (5)「ビジネス法規」の授業改善 (6)学習指導案の例	[事前] 教科書の当該章を熟読しておくこと
9	各分野の学習指導 [4] 会計分野	(1)科目構成 (2)会計分野が育成を目指す資質・能力 (3)「簿記」の授業改善 (4)「財務会計Ⅰ」の授業改善 (5)「財務会計Ⅱ」の授業改善 (6)「原価計算」の授業改善 (7)「管理会計」の授業改善 (8)学習指導案の例	[事前] 教科書の当該章を熟読しておくこと
10	各分野の学習指導 [5] ビジネス情報分野	(1)科目構成 (2)ビジネス情報分野が育成を目指す資質・能力	[事前] 教科書の当該章を熟読しておくこと



		(3)「情報処理」の授業改善 (4)「ソフトウェア活用」の授業改善 (5)「プログラミング」の授業改善 (6)「ネットワーク活用」の授業改善 (7)「ネットワーク管理」の授業改善 (8)学習指導案の例	
11	各分野の学習指導 〔6〕総合的科目(課題研究, 総合実践)	(1)科目構成 (2)総合的科目が育成を目指す資質・能力 (3)「課題研究」の授業改善 (4)「総合実践」の授業改善 (5)学習指導案の例	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくる
12	指導計画の理念と作成	(1)指導計画の意義と作成 (2)指導計画の実施・評価・改善	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくる
13	学習評価の理念と実際	(1)評価の目的 (2)目標に準拠した評価と評価の観点 (3)評価方法の工夫	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくる
14	魅力ある商業教育	(1)これからの商業教育 (2)体系的な商業教育の意義 (3)魅力ある商業教育を目指して	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくる
15	前期のまとめ	前期の講義を振り返り、商業教育についてそれぞれの感想を述べる	〔事前〕これまでの講義ノート等に目を通しておく
16	基礎的科目「ビジネス基礎」の学習指導計画案の作成	遠隔授業で行う (1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習しておく
17	基礎的科目「ビジネス基礎」の模擬授業	対面授業で行う (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習しておく
18	OA 機器を利用した新しい授業法	遠隔授業で行う (1)全国の商業高校における先行例を取り上げる (2)次回の模擬授業に取り入れる	〔事前〕出身高校におけるOA機器を使った授業を調べる
19	ビジネス情報分野「情報処理」の学習指導計画案の作成	遠隔授業で行う (1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習しておく
20	ビジネス情報分野「情報処理」の模擬授業	対面授業で行う (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしておく
21	ビジネス情報分野「情報処理」の遠隔授業による模擬授業	遠隔授業で行う (1)エクセルを使った模擬授業 (2)評価表 (3)自由感想表の作成	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしておく
22	会計分野「簿記」の学習指導案の作成①	遠隔授業で行う (1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習しておく
23	会計分野「簿記」の模擬授業①	対面授業で行う (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしておく
24	会計分野「簿記」①の遠隔授業による模擬授業	遠隔授業で行う (1)パワーポイントを使った模擬授業 (2)評価表 (3)自由感想表の作成	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしておく
25	会計分野「簿記」の学習指導案の作成②	遠隔授業で行う (1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習しておく
26	会計分野「簿記」の模擬授業②	対面授業で行う (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしておく
27	会計分野「簿記」②の遠隔授業による模擬授業	遠隔授業で行う (1)パワーポイントを使った模擬授業 (2)評価表 (3)自由感想表の作成	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしておく
28	マーケティング分野「マーケティング」の学習指導計画案の作成	遠隔授業で行う (1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習しておく
29	マーケティング分野「マーケティング」の模擬授業	対面授業で行う (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしておく
30	後期のまとめ	商業科教育法を学んで感じたこと、及び自身が描く教員像について発表する	

関連科目	大学の経営学部や経営情報学部で学ぶ専門科目は、商業科の専門科目として活かせる魅力がある。簿記、会計、原価計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておくことが大切。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	商業科教育論	日本商業教育学会	実教出版株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 商業編	文部科学省	実教出版株式会社
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業			
Teams コード	znquasb			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題・レポート50%、授業への参加度(学習意欲、事前学習、発表等) 50%とし、総合的に判断して評価する。			
学生への メッセージ	商業科教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定2級程度の問題が出題されるので、在学中の取得を目指して欲しい。また、新聞やインターネットの政治・経済や教育に関する記事を日頃から読み、社会の変化に興味・関心を持ち、幅広いビジネスに関する知識を有する商業科教員を目指そう。			
担当者の 研究室等				
備考	最初の授業に自分の出身高校の教育課程をインターネットで検索し、プリントアウトして持参すること。 事前・事後学習総時間をおおよそ120時間程度とする。			

科目名	情報科教育法	科目名 (英文)	Instruction Method for Information and Communication Science
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期		授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高等学校普通教科「情報」の教員免許を取得するために必修となる講義である。「情報科」成立の経緯および教科内容について理解し、情報教育のあり方について、学習目標、指導方法、評価方法などの視点から考え、担当教員に必要な基礎的知識や資質を養う。また、指導案の作成、模擬授業の実施を通して、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教科「情報」の教育目標や位置づけについて知り、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに教育指導技術の向上を図る。また、教科「情報」の授業を行う上で必要となる技能について、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	テキストおよび配付資料を中心に、スライドを使って説明を行う。教員免許に関する科目であり、意見交換を行いながら学習指導案、学習教材などを作成するため、主体的・積極的な受講を求める。
科目学習の効果 (資格)	教科「情報」の免許科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、情報技術の進展と情報教育の役割	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (120分) 次回の内容を確認する (60分)
2	情報教育の意義と役割	情報教育の実践と教育の情報化	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (120分) 次回の内容を確認する (60分)
3	共通教科「情報」と専門教科「情報」の構成	共通教科「情報」の内容構成、専門教科「情報」の内容構成	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (120分) 次回の内容を確認する (60分)
4	共通教科「情報」における各科目の内容	「社会と情報」、「情報の科学」の学習目標、内容、教育方法	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (120分) 次回の内容を確認する (60分)
5	専門教科「情報」における各科目の内容	専門教科「情報」の科目群の学習目標、内容、教育方法	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (120分) 次回の内容を確認する (60分)
6	共通教科「情報」の指導方法 (1)	年間指導計画書の作成、学習目標の明確化	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (120分) 次回の内容を確認する (60分)
7	共通教科「情報」の指導方法 (2)	課題分析の方法、進め方	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (120分) 次回の内容を確認する (60分)
8	共通教科「情報」の指導方法 (3)	評価の目的と対象、評価対象の具体化	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (120分) 次回の内容を確認する (60分)
9	共通教科「情報」の指導方法 (4)	学習課題に応じた評価方法の種類と特徴	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (120分) 次回の内容を確認する (60分)
10	模擬授業 (1)	教育目標の明確化	模擬授業の教育目標を立てる (150分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
11	模擬授業 (2)	年間指導計画、学習指導案の書き方	指導計画書、学習指導案を作成する (120分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
12	模擬授業 (3)	教材研究の方法	教材研究の準備をする (120分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
13	模擬授業 (4)	授業分析、授業評価	模擬授業の準備をする (120分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
14	学習環境の整備と情報教員の役割	電子黒板、デジタル教材、教育環境の整備	課題に基づいて教材設計を行う (120分) 配付資料の該当箇所を読んでおく (60分)
15	前期のまとめと中間レポート課題	前半のまとめ、中間レポート課題	前期の内容を整理する (120分)
16	学校教育と著作権	教材開発の方法と教育現場での著作権	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (120分) 次回の内容を確認する (60分)
17	情報教育の実践例 (1)	情報とコンピュータの指導例	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (120分) 次回の内容を確認する (60分)
18	情報教育の実践例 (2)	アルゴリズムとプログラムの指導例	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (120分) 次回の内容を確認する (60分)
19	情報教育の実践例 (3)	モデル化とシミュレーションの指導例	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (120分) 次回の内容を確認する (60分)
20	情報教育の実践例 (4)	問題解決の指導例	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (120分)

			分) 次回の内容を確認する (60分)
	21	魅力ある授業の展開 (1) 学習意欲を高める方法、内発的動機付けと外発的動機付け	配付資料の該当箇所を見直しておく (120分) 次回の内容を確認する (60分)
	22	魅力ある授業の展開 (2) 学習者の協同と活動、ワークショップとプロジェクト学習	配付資料の該当箇所を見直しておく (120分) 次回の内容を確認する (60分)
	23	魅力ある授業の展開 (3) ICT活用の実際、授業の記録・分析の方法	配付資料の該当箇所を見直しておく (120分) 次回の内容を確認する (60分)
	24	模擬授業の展開 (1) 「社会と情報」の指導計画、学習指導案の作成	指導計画書、学習指導案を作成する (120分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
	25	模擬授業の展開 (2) 「社会と情報」の模擬授業、相互評価	模擬授業の準備をする (120分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
	26	模擬授業の展開 (3) 模擬授業の振り返り	模擬授業の振り返りをする (120分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
	27	模擬授業の展開 (4) 「情報の科学」の指導計画、学習指導案の作成	指導計画書、学習指導案を作成する (120分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
	28	模擬授業の展開 (5) 「情報の科学」の模擬授業、相互評価	模擬授業の準備をする (120分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
	29	模擬授業の展開 (6) 模擬授業の振り返り	模擬授業の振り返りをする (120分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
	30	全体のまとめと最終レポート課題 全体のまとめ、最終レポート課題、これからの教師に求められる授業力	全体の内容を確認する (180分)
関連科目	情報関連科目全般		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	社情 311 最新社会と情報 新訂版	監修：山極隆 実教出版
	2	最新社会と情報新訂版 (社情 311) 準拠 社情 311 最新社会と情報 新訂版 学習ノート	実教出版編修部 実教出版
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	ICT活用指導力アップ！教育の情報化-教員になるための情報教育入門-	監修：梅田恭子、齋藤ひとみ 実教出版
	2		
	3		
授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle		
Teamsコード	sth73wk		
Moodleコース名および登録キー	情報科教育法 (栢木：水曜3限) 2020年度 turtle7starling		
連絡手段	Teamsのチャット機能またはメール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	学習指導案などの成果物等 (50%)、中間・最終レポート課題 (40%)、授業への取組姿勢 (10%) をもとに総合的に評価します。 授業中の課題提出状況が単位取得に大きく影響しますので、計画的に受講してください。		
学生へのメッセージ	学習者に対して授業を行うためには、周到的な準備が必要になります。目的意識を持ち積極的に講義に参加して下さい。		
担当者の研究室等	11号館8階 (栢木教室)		
備考	必要に応じて資料を配布します。 また、授業中の質疑応答については、主に Teams のチャット機能またはメールを使用します。		

科目名	職業指導	科目名(英文)	Vocational Guidance
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期		授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的  
職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。

到達目標  
職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。

授業方法と留意点  
講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。

講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。尚、遅刻等は厳禁です。

科目学習の効果(資格)  
工業科における職業指導に関する基礎知識が身に付く

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習:本科目のシラバスを熟読すること(1時間)。	事後学習:年間の学びの計画を立てること(3時間)
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習:職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと(2時間)	事後学習:職業指導に関する資料を熟読すること(2時間)。
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習:欧米の職業指導に関して調査すること(3時間)。	事後学習:講義の内容を振り返ること(1時間)
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習:日本の産業の変遷について市調べておくこと(3時間)。	事後学習:講義内容を振り返ること(1時間)
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事前学習:日本の戦後の教育改革について調べておくこと(2時間)。	事後学習:配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習:日本型雇用について発表資料を作成すること(3時間)。	事後学習:発表及びディスカッションの内容を振り返ること(1時間)
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習:高卒労働市場に関して調べておくこと(2時間)。	事後学習:講義内容を振り返ること(2時間)
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学習:高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること(3時間)	事後学習:講義内容を振り返ること(1時間)
9	「労働すること」を考える	・仕事をする事の意義を考える	事前学習:仕事をする意味について意見をまとめておくこと(2時間)	事後学習:自らの労働観について考えること(2時間)。
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習:職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること(2時間)。	事後学習:講義内容を振り返ること(2時間)
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習:自己について考えておくこと(2時間)	事後学習:キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること(2時間)。
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習:児童・生徒の発達について考えておくこと(3時間)	事後学習:キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること(1時間)。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習:高校でのキャリア教育の事例について調べておくこと(1時間)	事後学習:模擬授業の準備をすること(3時間)。
14	模擬授業①	・講義13で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習:模擬授業の準備をすること(2時間)。	事後学習:他者及び自らの発表内容を振り返ること(2時間)
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、前期の中間レポートの提出	事前学習:前期のレポートを作成すること(3時間)。	事後学習:講義全体を振り返ること(1時間)
16	オリエンテーション	・後期授業概要の説明	事前学習:本科目のシラバスを再度熟読すること(1時間)。	事後学習:後期の学習計画を立てること(3時間)
17	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導について	事前学習:商業高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。	事後学習:講義の内容を振り返ること(2時間)
18	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導について	事前学習:工業高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。	事後学習:講義の内容を振り返ること(2時間)
19	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事前学習:普通科高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。	

				事後学習：講義の内容を振り返ること（2時間）
	20	フリーターとニートについて	・グループ（またはペア）でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるように準備すること（2時間）。 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	21	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること（2時間）。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること（2時間）
	22	キャリアデザインとは何か	・キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること（2時間）。 事前学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	23	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者が求められる就業力について ・職業適性、各種アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること（2時間） 事後学習：自らの適性の活かし方を考えること（2時間）。
	24	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILOの提唱する「人間らしい働き方」について調査すること（2時間） 事後学習：配布資料を精読すること（2時間）。
	25	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来においての働き方を考える	事前学習：AIによる仕事の代替可能性について調査すること（2時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）。
	26	就業力向上企画を立案①	・高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること（3時間）。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（1時間）
	27	就業力向上企画を立案②	・26回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること（3時間）。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（1時間）
	28	キャリアカウンセリング理論①	・自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（1時間）
	29	キャリアカウンセリング理論②	・カウンセリングマインドを知る	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（1時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（2時間）
	30	まとめ/講義の振り返り	・提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること（4時間）。 事後学習：講義全体を振り返ること（2時間）
関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder			
Teamsコード	2z97dst			
Moodleコース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容も加味して、成績を判定します。 平常点(30%)、授業課題(10%)、中間レポート(30%)、期末レポート(30%)			
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。なお、講義は担当者の人材業界での業務・及び起業経験に基づいたお話も交えて進行します。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（水野）			
備考				



科目名	経営学特講 I	科目名 (英文)	Up-to-date Topics of Business Administration I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1048a0		

授業概要・目的	<p>本学では、将来グローバル、あるいは、地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。そのため、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観などをもつ海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。なお、授業担当者の一人は旅行会社での実務経験を持つため、事前学習では、より実務を意識した講義も行う予定である。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と中国の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。</li> <li>・異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。</li> <li>・他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本（企業）が抱えている問題について考察する。</li> <li>・将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p>※上海での現地実習（グローバル企業視察、フィールドワーク等）に加え、事前学習（講義、フィールドワーク）、および、事後学習（プレゼンテーション）を予定している。</p> <p>※参加を予定している方は、募集説明会に必ず参加すること（詳細は、ポータルにて発信予定）。</p> <p>※下記の備考を確認すること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前学習 10回</p> <p>具体的には、ガイダンス、研修内容の解説、リサーチ方法等についての講義、および、フィールドワーク（大阪）を予定している。</p> <p>現地実習 7日（2021年2月を予定。下記は、現時点での予定）</p> <p>1日目 移動、および、上海にてビジネス講演会（インテリジェンス中国）</p> <p>2日目 森ビル視察（アセアン戦略等講演）、上海金融中心街視察等</p> <p>3日目 資生堂視察（中国でのマーケティング戦略、グローバル人材等講演、工場見学） 中国の大学生とのディスカッション（価値観、キャリア等に対する理解を深め合う）</p> <p>4日目 JINS 上海視察（与えられた課題に対するフィールドワーク、および、プレゼンテーション）</p> <p>5日目 無人コンビニをはじめとしたAI、IoT等の体験</p> <p>6日目 グローバルに活躍するビジネスマンとの交流会（金融、メーカー、商社等） 研修の振り返り</p> <p>7日目 移動</p> <p>事後学習 4回</p> <p>プレゼンテーション資料の作成、プレゼンテーション</p> <p>※上記は予定です。変更になる場合は、事前学習時等にお伝えします。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	上海での現地実習に出席することが必須である。 事前・事後学習の出席状況、参加態度等を考慮し、総合的に評価する。																
学生への メッセージ																	
担当者の 研究室等	11号館8階田中研究室 11号館8階樋口研究室																
備考	<p>※事前学習を受講するに当たり、準備(予習)や学びに対する復習が必要になる(約1時間程度)。</p> <p>※参加予定者は、事前に「面談」を受けること(募集説明会時に案内)。</p> <p>※募集締切は10月下旬を予定。募集人数は10名を予定している。10名を超える場合、面談等の評価によって履修者を決定する。</p> <p>※災害やテロ等により海外現地に行くことが叶わなかった場合、単位の認定は行わない。</p> <p>※その他留意点等は、募集説明会時に伝える。</p>																



科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS1054a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。</li> <li>・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミュニケーション能力を修得する。</li> <li>・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる</li> </ul>																		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートを取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。  ・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	今年度の開講では ICT を活用します。うまく操作できないことがあるとは思いますが、気にせず慣れていきましょう。																		
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室																		
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS1054a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と2年次以降での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。</li> <li>・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミュニケーション能力を修得する。</li> <li>・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。</p> <p>演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートを取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。</p> <p>・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 針尾准教授室																		
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS1054a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。</li> <li>・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミュニケーション能力を修得する。</li> <li>・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる</li> </ul>																
授業方法と留意点	Moodle を使用したオンライン授業を実施する。各週の授業資料を必ず閲覧し、レポート・課題を期日までに提出すること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。</p> <p>・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	期日までに提出されたレポート・課題により評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 堀井教授室																
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。</p>																

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS1054a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。</li> <li>・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミュニケーション能力を修得する。</li> <li>・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。</p> <p>演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートを取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。</p> <p>・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 牧野准教授室																		
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS1054a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援することを目的としています。		
到達目標	・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる		
授業方法と留意点	遠隔授業になります。 テキストを準備して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、レポートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて遠隔授業を行う。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	マーケティングの基本 第4版	野口智雄
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	毎回の遠隔授業で課される課題の合計で評価します (100%)。		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室		
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS1054a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と2年次以降での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。</li> <li>・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミュニケーション能力を修得する。</li> <li>・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる</li> </ul>			
授業方法と留意点	2020年度では新型コロナウイルス感染症対策のため、対面での講義を避け、テレビ会議システムを用いた講義となります。少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。  ・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	11号館8階(樋口研究室)			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。			

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS1054a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。</li> <li>・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミュニケーション能力を修得する。</li> <li>・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。</p> <p>演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p> <p>オンライン授業の場合は、Teams 等を用いたディスカッションや動画による講義を実施します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。</p> <p>・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。 オンライン授業の場合は、参加状況と課題提出等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館8階 橋本講師室																		
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																		



科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS1055a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援することを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																		
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。 なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業（一方向・双方向）などを組み合わせて実施します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	zaqlphh																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	Teamsの質問用チャネル、ML																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションへの内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室																		
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																		

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS1055a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、2年次以降における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに2年次以降での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																		
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。 なお、2020年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、主としてテレビ会議システムを用いた遠隔方式で指導するが、感染状況や学生個々の事情を考慮しながらの対面式指導も模索する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																		
Teamsコード	4zrzqr8																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 針尾准教授室																		
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																		

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS1055a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援することを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。 なお、2020年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、主としてテレビ会議システムを用いた遠隔方式で指導するが、感染状況や学生個々の事情を考慮しながらの対面式指導も模索する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Moodle																
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー	専門基礎演習(2020年度 S科) senmonkiso																
連絡手段	Moodle で各回授業の場所に設けた質問コーナー(フォーラムまたはチャット)																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションへの内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 堀井教授室																
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS1055a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援することを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。																		
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。</p> <p>演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p> <p>なお、2020年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、主としてテレビ会議システムを用いた遠隔方式で指導するが、感染状況や学生個々の事情を考慮しながらの対面式指導も模索する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通して、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 <p>なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle																		
Teamsコード	xft4uzp																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションへの内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 牧野准教授室																		
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																		

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS1055a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。		
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。		
授業方法と留意点	遠隔授業になります。 テキストを準備して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、遠隔授業を行う。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスをを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	マーケティングの基本 第4版	野口智雄
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「オンライン型」		
Teamsコード	o2xaxjr		
Moodleコース名および登録キー			
連絡手段	Teams内での連絡		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法(基準)	毎回の遠隔授業で課される課題の合計で評価します(100%)。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館8階 鶴坂教授室		
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。		

科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS1055a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、2年次以降における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに2年次以降での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援することを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																		
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。</p> <p>演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p> <p>なお、2020年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、主としてテレビ会議システムを用いた遠隔方式で指導するが、感染状況や学生個々の事情を考慮しながらの対面式指導も模索する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 <p>なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle																		
Teamsコード	0okm5x3																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	Teamsに設定する「質問箱」というチャンネルへ																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館8階(岩坪研究室)																		
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																		



科目名	専門基礎演習	科目名(英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS1055a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援することを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																		
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。 なお、2020年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、主としてテレビ会議システムを用いた遠隔方式で指導しますが、感染状況や学生個々の事情を考慮しながらの対面指導も考えています。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	1tckv32																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションへの内容等を総合的に評価する。 オンライン授業の場合は、参加状況と課題の提出状況等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館8階 橋本講師室																		
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																		



科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS2056a0		

授業概要・目的	<p>演習では、主に以下の2つの内容について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業のマーケティング活動におけるメディア戦略</li> <li>2. コンピュータとデータ解析ソフトを使った消費者行動・心理情報の分析</li> </ol> <p>これらの学習を通じて、インターネットや情報端末を使った企業の IT マーケティングに関する取り組み及びネットワーク技術に詳しくなり、同時に高度なデータ解析技術を習得していく。</p>																		
到達目標	<p>・メディア（特にソーシャルメディア）を用いた企業の競争戦略の基本的考え方を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p><b>【おすすめ方】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークによる資料作成、発表が中心（グループ作業に必要な基本的設備については研究室にて準備）</li> <li>・前期は、企業の WebCM を制作、後期は、メディア戦略理論について学ぶ。</li> <li>・他学年ゼミ生を含めた合同演習（年2回予定）とゼミ合宿を実施し、ゼミ学生間の交流を深めながら、研究・学習の質を高めていく。</li> <li>・講義形態は、現状を鑑みて原則「オンライン型」とする。</li> </ul>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>主に以下の内容に取り組む。</p> <p>&lt;前期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1回：イントロダクション（演習1前期の進め方について）</li> <li>2回：ウェブCM制作グループ分けと対象商品の探索</li> <li>3回：制作対象商品についての基本情報の整理</li> <li>4回：企画書（ターゲット、CMコンセプト、担当内容等）</li> <li>5-9回：実制作</li> <li>10回：作品発表</li> <li>11回：作品発表</li> <li>12-15回：夏合宿準備</li> </ol> <p>&lt;後期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1回：イントロダクション（演習1後期の進め方について）</li> <li>2-3回：マーケティング論におけるメディア戦略の位置付け</li> <li>4-5回：メディア戦略の基本類型</li> <li>6-7回：メディア戦略の取り組み事例解説</li> <li>8-10回：事例調査</li> <li>11-12回：調査レポートの作成</li> <li>13-14回：調査内容の発表</li> <li>15回：冬合宿準備</li> </ol> <p>加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																		
Teams コード	53nvhgv																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	出席状況、参加姿勢（発言、資料準備）、提出物																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 針尾准教授室																		
備考	<p><b>【学生へのメッセージ】</b> グループワークが中心ですので、時間や約束事をしっかり守って誠実に取り組んでください。</p>																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS2056a0		

授業概要・目的	経営分野で活用する情報技術をテーマとした演習を行っていく。情報化社会で活躍するために必要な情報活用能力や技術を習得することが目的である。演習 I では、その基礎となる技術や知識を学んでいく。																		
到達目標	卒業研究に向けて、その土台となる技術や知識を習得する。																		
授業方法と留意点	前期は Moodle を使用した遠隔授業を実施する。後期についても基本的に Moodle を使用した遠隔授業を行うが、場合により対面授業や Teams を使用したオンライン授業を実施する。 後期は、研究テーマについて資料収集や分析、発表などを行う。各週の授業資料を必ず閲覧し、レポート・課題を期日までに提出すること。経営分野における情報技術をテーマとして演習課題を与え、取り組んだ結果を議論する。主な授業内容は以下である。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(1) 情報化社会におけるインターネットの活用技術  (2) ネットビジネスを取り巻く情報技術の基礎知識  (3) 効果的なプレゼンテーション方法</p> <p>加えて、情報処理分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。</p> <p>[事前学習]  各回の指定教材を予め通読のうえ、要点を整理しておくこと (各 30 分)。</p> <p>[事後学習]  当該演習終了後、自らの考えをまとめておき、発表およびレポートの作成に備えること (各 1 時間)。</p>																		
関連科目	基礎演習、専門基礎演習、演習 II、卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Moodle / 対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー	演習 I 後期 (2020 年度 S 科) ensyulkokihorii																		
連絡手段	Moodle で各回授業の場所に設けた質問コーナー (フォーラムまたはチャット) もしくはメール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	平常点 (授業への参加意欲、課題の提出状況、発表内容) により総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	特に予備知識は必要としないが、理解に必要なことは授業で順を追って説明するので、毎回出席を心掛けて欲しい。																		
担当者の研究室等	11 号館 8 階 堀井教授室																		
備考	課題やレポートについては、実施した次の授業で講評する。																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS2056a0		

授業概要・目的	<p>ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。</p> <p>演習 I では、プレゼンテーションの実習と各自が興味のある分野についての自学自習の実践などを行う。調査の仕方や計画の立て方、PDCA サイクルの回し方などを実践的に学び、主体性を持った学習者の素養を磨く。</p> <p>SDGs-4, 8, 9, 11, 12</p>																		
到達目標	<p>演習 I では次の事柄を目標とする。</p> <p>(1) 興味のある事柄に関する情報収集を適切に行える</p> <p>(2) プレゼンテーションを時間通りに行える</p> <p>(3) 自ら学習する目的を立てられる</p>																		
授業方法と留意点	<p>授業は学生参画型であり、予習・復習は必須である。自発的に学ぶ姿勢で出席すること。</p> <p>前期はプレゼンテーションを行う。聴講者は質問することで授業に参加する。</p> <p>後期は各自が主体的に計画を立てて学び、その学びのプロセスを共有する。</p> <p>また、見学会や講演会などを随時、企画していく。</p> <p>なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業（一方向・双方向）などを組み合わせて実施する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期は、各自でテーマを決め、プレゼンテーションを行う。後期は、個人、グループのいずれかで学習するテーマを決め、学習計画を立てる。そして、学習計画に沿って学びを実施し、PDCA サイクルを回しながら主体性のある学びの姿勢を構築する。</p> <p>加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	Teams の質問用チャネル、ML																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	演習中の発表内容、議論での積極性と内容を中心に評価する。 発表内容 70%、その他 30%																		
学生へのメッセージ	ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。																		
担当者の研究室等	久保准教授室 (11 号館 7 階)																		
備考																			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS2056a0		

授業概要・目的	近年の成熟市場環境下における企業間競争の激化によって、マーケティングの重要性がますます高まっています。この演習では、企業の存続・成長にとって必要不可欠なマーケティングについて研究します。マーケティングは、身近な学問なので、どこからでも課題の研究が始められます。この演習を通じて、マーケティングの基本的知識とマーケティングを学ぶことの楽しさを理解してもらいたいと思います。		
到達目標	マーケティングの理論と実践面での活用を目指します。		
授業方法と留意点	遠隔授業になります。 テキストを準備して下さい。 教材・課題配信型、オンライン型、対面型の予定です。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	マーケティング、マーケティングの基本的概念について学習します。ケーススタディのアプローチ。 ゼミで与えられた課題には、真摯に取り組むように。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	流通の基本 第5版	小林隆一
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」		
Teams コード	f43xuuv		
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段	Teams 上で対応します。		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	毎回の遠隔授業で課される課題の合計で評価します (100%)。		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室		
備考			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS2056a0		

授業概要・目的	<p>高度情報化社会と言われる社会への ICT (情報伝達技術) の積極的な導入によって、産業や生活環境がどのように変化してきたのかを考え、これからの ICT の在り方について探っていく。コンピュータやインターネットに代表される ICT が、生活のあらゆる場面で取り入れられるようになり、生活が豊かになるとともに、情報セキュリティなどの新たな課題も生じてきている。ICT の特徴について理解した上で、社会の様々な分野でどのように取り入れられ活用されているのかを学びながら、新しい活用の可能性を見出していく。</p> <p>テーマとしては、主に次の 2 つの内容について扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論理的思考力、問題解決力の修得を目指したプログラミング教育</li> <li>2. コンピュータを使った経営データの統計的分析手法</li> </ol>																		
到達目標	<p>経営情報学の分野に関連する文献や資料を使ったゼミでの活動を通して、基礎的な知識・技能の修得を目指す。また、プログラム課題の制作を通して、プログラミングに求められる論理的思考ができるようになることを目指す。</p> <p>ゼミ活動に積極的に参加することはもちろん、他のゼミ生と積極的に討論する姿勢を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>課題作成などにおいて、パソコンを使った実習を多く取り入れる。活動内容としては、経営情報学の分野に関係のある文献や資料を読みながら、文章を読み解く力、まとめ上げる力の修得を目指すとともに、プレゼンテーションを通して、他者とのコミュニケーション能力を身につけることを目指す。ゼミへの主体的な参加と積極的な行動を期待する。ゼミでは、活動内容に応じてオンライン型と対面型を併用する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営情報学の分野に関連した文献や資料を読みながら、文章を読み解く力、考えをまとめる力の修得を目指すとともに、プログラム課題の制作やプレゼンテーションを通して ICT に関する基礎的な知識・技能を身につける。</p> <p>週 1 回のゼミの時間だけでなく、各自で自習学習を進めるのはもちろんのこと、他のゼミ生と協力しながら作業することも必要になる。また、工場見学などの学外での活動では、他のゼミ生と協力しながら計画の実現を目指す。おおよその年間スケジュールは、以下の通りである。</p> <p>[前期]</p> <p>第 1 回：オリエンテーション  第 2～5 回：コンピュータを使ったビジネスゲーム  第 6 回：結果分析、プレゼンテーション  第 7～14 回：レゴマインドストームを使ったプログラミング  第 15 回：制作物品評会</p> <p>[後期]</p> <p>第 1 回：休暇中課題の報告  第 2～6 回：プレゼンテーション資料作成  第 7～14 回：プログラミングによるアプリ制作  第 15 回：制作物品評会</p> <p>加えて、経営情報学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。</p>																		
関連科目	演習 II、卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー	演習 I (栢木ゼミ) mole0rook																		
連絡手段	Teams のチャット機能またはメール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	レポート課題 (50%)、プレゼンテーション課題 (30%)、演習への取組姿勢 (20%) をもとに総合的に評価します。 パソコンを使った演習が中心となるため、積極的な受講が求められます。																		
学生への メッセージ	ゼミでの活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。知識・技能の修得だけでなく、どのようなことに対しても常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待します。																		
担当者の 研究室等	11 号館 8 階 (栢木教授室)																		
備考	教科書や参考書については、演習の中で適宜紹介します。 必要に応じて書籍を購入してもらった場合があります。 また、演習の中で課した課題は適宜解説およびコメントを返します。																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS2056a0		

授業概要・目的	<p>マーケティングのゼミである。          マーケティングの基礎的知識をしっかりと身につけることが大切であり、その定着を目指す。          そのために、フィールドワークを行い、課題発見、解決方法の策定、実行などに取り組んでもらい、マーケティングの知識の不足部分を補ってもらおう。          これらを通じて、マーケティング的な視点で事象をとらえることができることを目的とする。          さらに学生自らが主体的にゼミを運営することでポジティブな姿勢を身につけることを目的とする。          まちづくりの実践や中小企業の経営革新等の支援を行ってきた担当者により、課題解決にむけた実践的な指導を行う。</p>																		
到達目標	<p>①マーケティングの基礎的知識がしっかりと身につく。          ②フィールドワークを通じて、マーケティングの知識を応用できる力が身につく。          ③チームで活動することで、自分の役割を認識し果たすことで、チームの成果を最大化する力が身に付く。          ④コミュニケーション能力の向上を図り、主体性が身に付く。</p>																		
授業方法と留意点	<p>マーケティング関連の講義を行いながらネットを活用したグループワークに取り組む。          状況が許せば対面で行うこともある。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	<p>[授業テーマ]          マーケティング論の定着と応用</p> <p>[内容]          ゼミとしてのチームビルディングを行い、相互理解や自己理解・他者への配慮の大切さを学ぶ。          グループごとの作業を通じ、チームで目的を達成することの実際を体験し、その重要性を学ぶ。          マーケティングの基礎的な知識を課題を通じて検討する。          フィールドワークを通じて、マーケティング課題の把握と解決策の構築等を行う。          当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	gwulx7																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	平常の取組姿勢、学習状況、報告内容、レポートなどにより総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 鶴坂教授室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】          基本チームで動きますので、欠席をするとほかのメンバーに迷惑がかかります。そのためには必ずゼミやゼミで取り組むことには参加をしてください。          ゼミ学習を有効なものにするのもしないのも、本人次第です。受け身ではなく、主体的にゼミに参画することで学ぶことの楽しさを知ってほしいと思います。          さらにチームのなかのひとりに負担が偏らないように、他者への配慮を忘れず自分の役割を果たすことを心掛けてください。          これらができないと、ゼミ自体の運営に支障をきたしますので、自覚の上、授業を</p>																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS2056a0		

授業概要・目的	本ゼミでは、大きく2つのテーマに沿って学習していく。1つは「仕事、労働、職業を主題とした社会学的研究」である。なぜ人は働くのか、働くことは人々にとってどのような意味をもつのか、などについてじっくり考えていく。もう1つは「社会調査に関わる種々の知識・技術」である。様々な場面で求められる「調査」の能力の獲得を目指す。																		
到達目標	正確な知識に基づき、論理的な思考ができる。物事を多面的に理解し豊かな発想で議論できる。正確な文章が書ける。日常的な問題について社会学の知識を用いた解釈ができる。																		
授業方法と留意点	テキスト等の読解を中心とする。受講生はテキストの指定された担当部分についてレジュメにまとめ、プレゼンをおこなう。他の受講生は報告者に対し質疑応答をおこなうとともに、報告者を含め全体で内容をさらに展開させるためのディスカッションをおこなう。データ収集や分析の実習もおこなうことになるが、基本的な形式は先のものに準ずる。また、論文やレポートの書き方についての指導は適宜行う。 ※非対面の遠隔授業形式を基本とする（ツール等は後述）。状況を見て対面形式に切り替える場合もあるが、その場合には事前に確認をとったうえで実																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ・内容】 社会学一般および社会調査の基礎知識 今後の研究の土台となる知識の獲得を目指す。</p> <p>【方法】 担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション</p> <p>【事前・事後課題】 (事前) プレゼン時の質疑応答を円滑にするために、テキスト以外の文献も通読する (0.5時間) (事後) プレゼン・質疑応答の内容のうち、自らの関心分野に関わる内容を文章としてまとめる (0.5時間)</p> <p>【補足】 演習内では、社会科学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	glix96s																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メールアドレス、Teams授業チーム内チャット																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業への参加状況(出席、発言、資料)50%、提出物(内容の正確さ、文章の論理性、内容をふまえた展開)50%																		
学生へのメッセージ	「物事をじっくり考える」姿勢をもち、積極的に参加してほしい。																		
担当者の研究室等	11号館7階 山本准教授室																		
備考	提出されたレポートは、後の授業時に資料として使用する。その際には、教員および他の受講生による講評に基づいた作業をおこなう。																		



科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS2056a0		

授業概要・目的	牧野(幸)ゼミは経営に関する心理を学ぶゼミである。演習 I では、基本的な心理学の知識とマーケティングの知識を身につける。担当者が教科書の内容をまとめて、プレゼン発表し、参加者と質疑応答を行う。一般心理学、経営に関する消費者心理、組織の中の人間関係などの基礎を学ぶことを目的とする。 SDGs-3, 4, 8, 9, 10, 12																
到達目標	一般的な心理学、経営における心理の基礎知識を身につけることができる。社会科学の研究法について知識を得ることができる。その後、自分自身でテーマを探し、心理学の研究手法を基に解決方法を身につけることができる。																
授業方法と留意点	前期に関しては、teams と Moodle を用いた遠隔授業で行う。 後期に関しても、teams と Moodle を用いた遠隔授業で行う。 後期は、新型コロナが完全に収束してから、対面授業を行う。 それまでオンラインにて授業を行う。 受講生は、必ず毎週各自 PC やスマホなどを利用して、teams や Moodle にアクセスすること。 演習 I では、心理学の基礎知識を身につける。前期は心理学の概論書を使って担当者と一緒にディスカッションを行う。演習の方法は、毎回担当者が PP による資料を作成し、プレゼン																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ・内容：一般心理学、経営における消費者心理、社会における人間関係、交渉術、説得テクニックなどについて 方法：担当学生がパワーポイントを用いてプレゼンを行う。参加者は必ず質問か発言を行い、グループワークに参加すること。 事前学習課題：授業の下調べおよび学生同士のディスカッションをしておくこと(1時間) 事後学習課題：授業終了後に示す課題についてレポートを作成すること(2時間) さらに、経営学、心理学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。																
関連科目	「心理学 I ・ II」、「市場調査入門」、「経営統計学」を受講しておくことが望ましい。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ミニマムエッセンス 社会心理学</td> <td>和田実</td> <td>北大路書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>男と女の対人心理学</td> <td>和田実</td> <td>北大路書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ミニマムエッセンス 社会心理学	和田実	北大路書房	2	男と女の対人心理学	和田実	北大路書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	ミニマムエッセンス 社会心理学	和田実	北大路書房														
2	男と女の対人心理学	和田実	北大路書房														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle																
Teams コード	st0x4wn																
Moodle コース名 および登録キー	19 牧野ゼミ経営学部 S 科(2年生) makino19																
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	演習 I へは遅刻せずに出席することを評価対象の最低条件とする。演習中の発表(50%)、授業への積極的参加度(30%)、事前事後学習課題(20%)の評価などで総合的に判断する。ディスカッション、グループワーク、反転授業などのアクティブ・ラーニングを行います。遅刻、欠席は減点の対象となります。																
学生への メッセージ	演習 I には必ず遅刻せずに出席し、積極的に発言すること。アクティブ・ラーニングを取り入れているので、自主的・主体的に活動すること。 後期は、新型コロナが完全に収束した後は、対面授業を行う可能性がある。																
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 牧野(幸)准教授室																
備考	牧野(幸)ゼミは、経営学部で心理学を学ぶゼミである。プレゼンテーションを行うことが多いため、Word, Excel, PowerPoint などの技術を修得してください。人としての心理を大切に学ぶゼミであるので、“時間を守る、約束を守る、授業中私語をしない、寝ない、スマホなどを触らない”など人としての最低限のマナーは必ず守ること。ゼミは、アクティブ・ラーニングの活動です。主体的・積極的に発言すること。授業内で課された課題に対しては、その後のゼミの中で評価・解説を行い、フィードバックをする。																

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS2056a0		

授業概要・目的	<p>ヒトの感性をとり入れた「個」志向の IoM (Internet of Me) ビジネスをどのように作り提案していくのか、新サービスの創造に取り組む。テーマは、① 画像&amp;音声認識・接客サービス ② ファンマーケティング ③ 自転車シェアリング ④ IGTV デジタルビジネス など。外部活動として、企業でのフィールドワークやイベントへの参画機会をとおして、実践の初歩を体感する。</p> <p>講義実施時は、オンライン型と対面型を提供する。(対面は個別指示にもとづく)</p>																		
到達目標	<p>学生の学習活動を支援し、課題の発掘・解決等に取り組み、実践力の向上を目指す。インターネットやソーシャルメディアの活用を図る業界・企業等の事例研究をとおして、主体的な情報形成を進めるスキル向上と提案高質化を狙って育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題の発掘 汎用的な視点、自分独自の視点を識別してオリジナリティあるテーマ設定を行う。</li> <li>2. 情報の収集・解釈 課題を提案に結びつけるために必要な情報の調査・編集の方法論を身につける。</li> <li>3. 価値の生成 アウトプット (結果) を超えるアウトカム (成果) をまとめて、価値</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>課題の発掘と解決を図るための『気づき (Insight)』を共創して導く。メンバーの役割を定め、周りとのコミュニケーションや共創を取り入れた提案活動を行う。ビジネス IT&amp;マーケティングの事例について、企業等でのフィールドワークにより、多様な叡智と交流を図る。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>ビジネス IT&amp;マーケティングの業界イベント、企業ワークショップ、先端テーマのコミュニティ等への参画をとおして、情報形成を支援することで、専攻分野のスキルを向上させる。多種のグループワークにより、多様な視点の考察に接する機会を設ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 通期 コミュニケーション基礎力の向上を目指し、Web/記事/文献等を題材に、汎用&amp;専門の視点を学ぶ。</li> <li>2. 前期 ゼミテーマ&amp;個人テーマについて、『気づき』を中心に、グループ・個人発表 (1~2回) を行う。</li> <li>3. 後期 ゼミテーマ&amp;個人テーマについて、ゼミ内/他学部ゼミとそれぞれ共創を図り、課題意識を深めて、グループ・個人発表 (1~2回) を行う。</li> </ol> <p>主なテーマとして、① 画像&amp;音声認識・接客サービス ② ファンマーケティング ③ 自転車シェアリング ④ IGTV デジタルビジネス、等から新規性あるものを定める。また、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	その他 (ZOOM/Slack) /Teams「オンライン型」/Web Folder																		
Teams コード	46s7zuc																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	e-Mail, Teams Chat																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	<p>平常の学習態度 (20%)、課題の提出内容・準備状況 (60%)、クラスへの貢献度 (20%) による総合評価を行う。具体的には、出席状況、個人・グループの発表 (指定全回数) とプレゼンテーション資料等の提出、グループワークでの貢献度 (自分の役割の遂行、同僚学生への意見発信等の協力状況、発表等の準備状況)、ディスカッション、積極的・建設的な発言等の授業への参画内容で評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>学内・外部の学習機会のいずれも、周りとのコミュニケーションを図り触発し合うことを期待します。グループワークは、自分のポジショニングや役割を考えて可視化を図りつつ、存在感が発揮できるように率先して課題の発見・解決に取り組んでください。また、課題の取り組み状況や見通しについて、周りに伝わるように工夫を図ってください。</p>																		
担当者の研究室等	11号館7階 (北村教室)																		
備考	<p>初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、日常学習方法、成績評価基準 (評価マトリクス) の説明、ケーススタディ (グループ・個人)、課題発表 (プレゼンテーション) の実施要領、学習支援ツール (Web フォーム・質問共有システム) の使用方法を説明するので、必ず出席すること。</p>																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	樋口 友紀
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS2056a0		

授業概要・目的	<p>本ゼミでは、マーケティングを基本的なテーマとして扱います。ゼミではマーケティングの基礎知識や、マーケティングデータを用いた各種分析手法の習得を目指します。また、マーケティング戦略についての考察や事例研究の実施なども必要に応じて実施します。その他、学生の希望によりテーマなどを選択し、適宜扱いますので、講義中、時間外を問わず、やりたいことがある場合は積極的に意見するようにして下さい。</p>																		
到達目標	4年生時の卒業論文作成を見据え、必要となるであろう様々なマーケティング知識、マーケティングデータ分析技術の習得を目指します。																		
授業方法と留意点	ゼミ生を中心として、教科書のまとめや発表、演習を実施します。そのため、出来る限り欠席は避けるようにしてください。なお、本年度については基本的にオンラインによる指導を想定していますが、状況から可能なようであれば、(感染対策を講じた上で) 対面指導を行うことも視野に入れています。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>本ゼミでは、マーケティングおよびマーケティングデータの分析をテーマとして扱います。演習 I では、マーケティングにおける基礎知識と、パソコンによる演習を通じて、基礎的なデータの分析方法を習得します。随時ゼミ生中心にまとめや発表を行いますので、欠席を避け、発表などゼミ内で課した課題は必ず行うようにしてください。また、研究に関連する不正防止のための研究倫理の習得に努めます。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teams コード	xs27fnl																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	課題や発表の内容、授業態度などにより総合的に判断します。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館8階 樋口研究室																		
備考																			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS2056a0		

授業概要・目的	この授業では、情報技術の変遷を知り、企業における ICT の利活用や IoT などの事例について勉強する。ICT を活用したビジネスの効率化、ICT を活用した課題解決の可能性について考える。ICT 活用について知識を習得しながら、実践に活用できる情報活用力を身につけることを目的とする。授業担当者の証券会社での実務経験を生かして企業における情報技術の変遷についてわかりやすい講義をする。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、①情報技術の変遷について知識を得ること、②社会の ICT 利活用の事例を知ること、③パソコンを活用する力を身につけることが期待される。																		
授業方法と留意点	授業は Teams によるオンラインで実施します。 講義とパソコンを使う演習形式で、数回個人発表と課題提出を課す 授業（オンライン）には必ず出席してください。 状況により、対面授業の可能性がります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(1) 社会における情報技術の事例に関する資料を使って、以下の手法を練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料を読んで考えをまとめる</li> <li>レポートを作成する</li> <li>資料を作成し、発表する</li> <li>ディスカッションする</li> </ul> <p>(2) パソコンに関する知識・技能を習得するために、以下について学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術の変遷を知る</li> <li>データの集計、分析を行う</li> <li>プログラミングをする</li> </ul> <p>(事前学習) その都度指示をする</p> <p>(事後学習) 授業の振り返りをし、新しい用語や新たに興味をわいた点をメモし、自分なりに調べてまとめる (30分)</p>																		
関連科目	演習 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	課題提出状況、授業（オンライン含む）の取り組み姿勢などを総合して評価する。																		
学生へのメッセージ	真面目に積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	11 号館 8 階 (橋本講師室)																		
備考	レポートは適宜、添削して返却し、発表はその都度コメントを返す。																		

科目名	演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS3057a0		

授業概要・目的	経営分野で活用する情報技術をテーマとした演習を行っていく。情報化社会で活躍するために必要な情報活用能力や技術を実践的に習得することが目的である。演習 II では、演習 I を土台として、さまざまな最新のテーマについて知識や技術を学んでいく。																		
到達目標	卒業研究に向けて、その土台となる技術や知識を習得する。																		
授業方法と留意点	前期は Moodle を使用した遠隔授業を実施する。後期についても基本的に Moodle を使用した遠隔授業を行うが、場合により対面授業や Teams を使用したオンライン授業を実施する。 後期は、研究テーマについて資料収集や分析、発表などを行う。各週の授業資料を必ず閲覧し、レポート・課題を期日までに提出すること。 経営分野における情報技術をテーマとして演習課題を与え、取り組んだ結果を議論する。主な授業内容は以下である。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(1) ネットビジネスのプランニングと試作システム  (2) インターネットと WEB 統合技術  (3) 実践的なプレゼンテーション方法</p> <p>加えて、情報処理分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。</p> <p>[事前学習]  各回の指定教材を予め通読のうえ、要点を整理しておくこと (各 30 分)。</p> <p>[事後学習]  当該演習終了後、自らの考えをまとめておき、発表およびレポートの作成に備えること (各 1 時間)。</p>																		
関連科目	基礎演習、専門基礎演習、演習 I、卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Moodle / 対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー	演習 II 後期 (2020 年度 S 科) ensyu2kokihoriii																		
連絡手段	Moodle で各回授業の場所に設けた質問コーナー (フォーラムまたはチャット) もしくはメール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	平常点 (授業への参加意欲、課題の提出状況、発表内容) により総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	特に予備知識は必要としないが、理解に必要なことは授業で順を追って説明するので、毎回出席を心掛けてほしい。																		
担当者の研究室等	11 号館 8 階 堀井教授室																		
備考	課題やレポートについては、実施した次の授業で講評する。																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS3057a0		

授業概要・目的	<p>ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。</p> <p>演習Ⅱの前半では、正確な文章の書き方、構成的データの扱い方、および、表現について実習形式で学ぶ。後半は、研究テーマに関する調査や課題設定、および、その解決策の検討や実習を行い、協調作業の重要性や研究活動の意義を学ぶ。作業計画を立てて、進捗を管理し、状況に応じて調整しながら目標を達成する実践的活動も行う。日頃から経営や情報に関する情報収集に努め、ディスカッションでの発言を増やすことが重要である。</p> <p>SDGs-4, 8, 9, 11, 12</p>																		
到達目標	<p>演習Ⅱでの目標は以下のとおりです。</p> <p>(1) 正確な意見表明ができる文章能力の修得  (2) 社会貢献を意識した課題の設定  (3) 研究倫理の必要性の理解</p>																		
授業方法と留意点	<p>地域での実践や外部の評価を受けることを念頭に置いて、調査活動や製作活動を行う。また、活動の内容を正確に伝えるための文章力やプレゼンテーション能力の充実を図る。</p> <p>卒業研究のテーマにつながる学習を展開し、専門科目への興味を高めることも目的に含まれる。</p> <p>なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業（一方・双方向）などを組み合わせて実施する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>演習Ⅱでは、卒業研究で取り扱うテーマを選定したり、実践的な課題に挑戦するための技術的な学習のためにグループによる輪読やプログラミング実習、および、発表を行う。研究の技術を身に付けた上で、卒業研究を遂行するために必要となる専門知識の修得を目指す。個人、グループにわかれて、卒業研究のテーマを選定し、研究の背景・意義・計画について、発表、議論を行う。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle																		
Teamsコード	mn295tt																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	Teamsの質問用チャネル、ML																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	演習中の発表内容、議論での積極性と内容を中心に評価する。 発表内容や活動内容70%、その他30%																		
学生へのメッセージ	ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。																		
担当者の研究室等	久保准教授室(11号館7階)																		
備考																			

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS3057a0		

授業概要・目的	マーケティングについて、理論面と実態面の両側面から理解を深めることを目的とする。2回生で習得した専門用語、概念をさらに深化させていくとともに、実態分析にも力をそそいでいく。		
到達目標	マーケティングの応用面での知識を深めていくことを目指します。		
授業方法と留意点	遠隔授業になります。 テキストを準備して下さい。 教材・課題配信型、オンライン型、対面型の予定です。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	マーケティング、企業の成功要因について分析します。ケーススタディのアプローチ。 ゼミで与えられた課題には、真摯に取り組むように。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	ケースに学ぶ日本の企業—ビジネス・ヒストリーへの招待—	加藤健太・大石直樹
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」		
Teams コード	i2708n5		
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	Teams 上で対応します。		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	毎回の遠隔授業で課される課題の合計で評価します(100%)。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館8階 武居教授室		
備考			



科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS3057a0		

授業概要・目的	演習では、主に以下の2つの内容について学ぶ。 1. 企業のマーケティング活動におけるメディア戦略 2. コンピュータとデータ解析ソフトを使った消費者行動・心理情報の分析 これらの学習を通じて、インターネットや情報端末を使った企業のITマーケティングに関する取り組み及びネットワーク技術に詳しくなり、同時に高度なデータ解析技術を習得していく。																
到達目標	・それぞれの関心業界における企業のメディア戦略について説明できる ・卒業研究テーマの設定と方法を明確にする																
授業方法と留意点	【おすすめ方】 ・グループワークによる資料作成、発表が中心(グループ作業に必要な基本的設備については研究室にて準備) ・前期は、多変量解析法、後期は、卒業研究テーマに関連したテーマ学習を行う。 ・他学年ゼミ生を含めた合同演習(年2回予定)とゼミ合宿を実施し、ゼミ学生間の交流を深めながら、研究・学習の質を高めていく。 ・講義形態は、現状を鑑みて原則「オンライン型」とする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	主に以下の内容に取り組む。 <前期> 1回:イントロダクション(演習2前期の進め方について) 2回:グループ分けとテーマ選択 3回:主成分分析の解説と課題分析 4回:クラスター分析の解説と課題分析 5回:クロス集計と独立性検定の解説と課題分析 6回:重回帰分析の解説と課題分析 7回:判別分析の解説と課題分析 8回:ロジスティック回帰分析の解説と課題分析 9回:テキストマイニング法の解説 10回:テキストマイニングの課題分析 11回:グループワーク 12回:同上 13回:発表 14回:発表 15回:夏合宿準備  <後期> 1回:イントロダクション(演習2後期の進め方について) 2-7回:卒研テーマの探索と調査 8-12回:卒研テーマの発表 13-14回:卒業論文の書き方、卒業研究計画書の作成 15回:冬合宿準備  加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																
Teamsコード	a4s5paz																
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	出席状況、参加姿勢(発言、資料準備)、提出物																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館7階 針尾准教授室																
備考	【学生へのメッセージ】 グループワークが中心ですので、時間や約束事をしっかり守って誠実に取り組んでください。																

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS3057a0		

授業概要・目的	<p>演習Ⅰで修得した知識・技能を活用しつつ、高度情報化社会と言われる社会へのICT(情報伝達技術)の積極的な導入による産業や生活環境の変化について考察し、これからのICTの在り方を探っていく。活動としては、卒業研究に結びつく研究テーマを決定し、研究テーマに関する事例研究、課題設定、解決方法の提案を行う。類似の研究テーマを持つ学生同士でグループを形成し、グループによる共同活動を通して、より深い洞察力と客観的な視点を身につけることを目指す。</p> <p>テーマとしては、主に次の2つの内容について扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論理的思考力、問題解決力の修得を目指したプログラミング教育</li> <li>2. コンピュータを使った経営データの統計的分析手法</li> </ol>																		
到達目標	<p>社会人となるための準備段階として、様々なテーマについて自主的に判断し、行動できることを目指す。また、データ分析などを通して、伝えたいことを論理的に説明・表現できるようになることを目指す。さらに、他のゼミ生との活動を通して、互いの知識・経験を高めあうことで、自己実現のための力を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>課題作成などにおいて、パソコンを使った実習を多く取り入れる。活動内容としては、卒業研究に繋げるテーマを見つけ出し、他のゼミ生に対するプレゼンテーションなどを通して、コミュニケーション能力の研鑽を目指す。ゼミへの主体的な参加と積極的な行動を期待する。ゼミでは、活動内容に応じてオンライン型と対面型を併用する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>卒業研究に結びつく研究テーマを決定し、研究テーマに関する事例研究、課題設定、解決方法の提案を行う。類似の研究テーマを持つ学生同士でグループを形成し、グループによる共同活動を通して、より深い洞察力と客観的な視点を身につけることを目指す。</p> <p>おおよその年間スケジュールは、以下の通りである。</p> <p>[前期]</p> <p>第1回：オリエンテーション  第2～7回：コンピュータを使った統計分析手法学習  第8～10回：統計分析手法を使った調査・分析  第11～15回：イベント企画検討、資料作成</p> <p>[後期]</p> <p>第1回：休暇中課題の報告  第2～6回：ビジネスプラン企画書作成  第7～9回：統計分析手法を使ったアンケート調査・分析  第10回：プレゼンテーション  第11～14回：卒業研究テーマ検討  第15回：プレゼンテーション</p> <p>加えて、経営情報学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き務める。</p>																		
関連科目	演習Ⅰ、卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>多変量解析がわかる</td> <td>涌井 良幸、涌井 貞美</td> <td>技術評論社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	多変量解析がわかる	涌井 良幸、涌井 貞美	技術評論社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	多変量解析がわかる	涌井 良幸、涌井 貞美	技術評論社																
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー	演習Ⅱ(栢木ゼミ) gazelle4armadillo																		
連絡手段	Teamsのチャット機能またはメール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	レポート課題(50%)、プレゼンテーション課題(30%)、演習への取組姿勢(20%)をもとに総合的に評価します。 パソコンを使った演習が中心となるため、積極的な受講が求められます。																		
学生への メッセージ	ゼミでの活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。知識・技能の修得だけでなく、どのようなことに対しても常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待します。																		
担当者の 研究室等	11号館8階(栢木教授室)																		
備考	教科書については、演習の中で適宜紹介します。 必要に応じて書籍を購入してもらった場合があります。 また、演習の中で課した課題は適宜解説およびコメントを返します。																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS3057a0		

授業概要・目的	<p>マーケティングのゼミである。          マーケティングの基礎的知識をしっかりと身につけることが大切であり、その定着を目指す。          そのために、フィールドワークを行い、課題発見、解決方法の策定、実行などに取り組んでもらい、マーケティングの知識の不足部分を補ってもらおう。          これらを通じて、マーケティング的な視点で事象をとらえることができることを目的とする。          さらに学生自らが主体的にゼミを運営することでポジティブな姿勢を身につけることを目的とする。          まちづくりの実践や中小企業の経営革新等の支援を行ってきた担当者により、課題解決にむけた実践的な指導を行う。</p>																		
到達目標	<p>①フィールドワークを通じて、マーケティングの知識を応用できる。          ②チームで活動することで、自分の役割を認識し果たすことで、チームの成果を最大化する力が身に付く。          ③コミュニケーション能力の向上を図り、主体性が身に付く。          ④下の学年のゼミ生をとりまとめ、リーダーシップを発揮できる</p>																		
授業方法と留意点	<p>マーケティング関連の講義を行いながらグループワークをネットを活用して実施する。          状況が許せば対面授業を行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	<p>[授業テーマ]          マーケティング論の定着と応用</p> <p>[内容]          ゼミとしてのチームビルディングを行い、相互理解や自己理解・他者への配慮の大切さを学ぶ。          グループごとの作業を通じ、チームで目的を達成することの実際を体験し、その重要性を学ぶ。          マーケティングの知識を課題を通じて活用していく。          フィールドワークを通じて、マーケティング課題の把握と解決策の構築等を行う。          当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	hm415ke																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	平常の取組姿勢、学習状況、報告内容、レポートなどにより総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 鶴坂教授室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】          基本チームで動きますので、欠席をするとほかのメンバーに迷惑がかかります。そのためには必ずゼミやゼミで取り組むことには参加をしてください。          ゼミ学習を有効なものにするのもしないのも、本人次第です。受け身ではなく、主体的にゼミに参画することで学ぶことの楽しさを知ってほしいと思います。          さらにチームのなかのひとりに負担が偏らないように、他者への配慮を忘れず自分の役割を果たすことを心掛けてください。          これらができないと、ゼミ自体の運営に支障をきたしますので、自覚の上、授業を</p>																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS3057a0		

授業概要・目的	本ゼミでは、大きく2つのテーマに沿って学習していく。1つは「仕事、労働、職業を主題とした社会学的研究」である。なぜ人は働くのか、働くことは人々にとってどのような意味をもつのか、などについてじっくり考えていく。もう1つは「社会調査に関わる種々の知識・技術」である。様々な場面で求められる「調査」の能力の獲得を目指す。																		
到達目標	正確な知識に基づき、論理的な思考ができる。物事を多面的に理解し豊かな発想で議論できる。正確な文章が書ける。日常的な問題について社会学の知識を用いた解釈ができる。																		
授業方法と留意点	テキスト等の読解を中心とする。受講生はテキストの指定された担当部分についてレジュメにまとめ、プレゼンをおこなう。他の受講生は報告者に対し質疑応答をおこなうとともに、報告者を含め全体で内容をさらに展開させるためのディスカッションをおこなう。データ収集や分析の実習もおこなうことになるが、基本的な形式は先のものに準ずる。また、論文やレポートの書き方についての指導は適宜行う。 ※非対面の遠隔授業形式を基本とする(ツール等は後述)。状況を見て対面形式に切り替える場合もあるが、その場合には事前に確認をとったうえで実																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【テーマ・内容】</b> 社会学一般および社会調査の知識獲得 より専門的な分野の文献通読をとおして、卒業研究に活かされる知識の獲得を目指す (例：職業社会学的研究、古典研究)</p> <p><b>【方法】</b> 担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション</p> <p><b>【事前・事後課題】</b> (事前) プレゼン時の質疑応答を円滑にするために、テキスト以外の文献も通読する(0.5時間) (事後) プレゼン・質疑応答の内容のうち、自らの関心分野に関わる内容を文章としてまとめる(0.5時間)</p> <p><b>【補足】</b> 社会科学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても、演習Ⅰに継続して指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	xt162h6																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メールアドレス、Teams授業チーム内チャット																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業への参加状況(出席、発言、資料)50%、提出物(内容の正確さ、文章の論理性、内容をふまえた展開)50%																		
学生へのメッセージ	卒業研究において自らの関心に基づいた研究を存分におこなえるよう、十分な知識を獲得したい。																		
担当者の研究室等	11号館7階 山本准教授室																		
備考	提出されたレポートは、後の授業時に資料として使用する。その際には、教員および他の受講生による講評に基づいた作業をおこなう。																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS3057a0		

授業概要・目的	牧野(幸)ゼミは経営に関する心理学を学ぶゼミである。演習Ⅱでは、社会科学の研究手法と経営心理の専門知識を身につける。文献の内容をまとめて、発表しながら、討論を行う。経営に関する消費者心理、マーケティングにおける心理的効果などの基礎を学ぶことを目的とする。 SDGs-3, 4, 8, 9, 10, 12																
到達目標	演習Ⅱでは自分でテーマを決め、文献を購読し、科学的考察の意味を理解できるようになることができることを目標とする。その後、実際に心理学の手法と専門知識を習得することを目標とする。																
授業方法と留意点	前期に関しては、teams と Moodle を用いた遠隔授業で行う。 後期に関しても、teams と Moodle を用いた遠隔授業で行う。 後期は、新型コロナが完全に収束してから、対面授業を行う。 それまでオンラインにて授業を行う。 受講生は、必ず毎週各自 PC やスマホなどを利用して、teams や Moodle にアクセスすること。 PP による発表形式で行う。演習Ⅱでは、経営に関する心理の専門知識を身につける。前期は自分で文献を選んで購読し、プレゼンテーションを行う。発表者以外は、ディスカッション																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ・内容：経営における心理の専門知識とマーケティング実践 方法：文献を購読し、その内容をまとめてプレゼンテーションを行う。科学的な研究手法についても学ぶ。 事前学習課題：授業の下調べおよび学生同士のディスカッションをしておくこと(1時間) 事後学習課題：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間) さらに、経営学、心理学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き務める。																
関連科目	「市場調査入門」、「市場調査法」、「消費者行動論」などを受けていることが望ましい。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle																
Teams コード	wroyygn																
Moodle コース名および登録キー	18 牧野ゼミ経営学部 S 科(3 年生) makino3																
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法(基準)	演習Ⅱは、遅刻せずに出席することを評価対象の最低条件とする。演習中の発表(50%)、授業への積極的参加度(30%)、事前事後学習課題(20%)の評価などで総合的に判断する。ディスカッション、グループワーク、反転授業などのアクティブ・ラーニングを行います。遅刻、欠席は減点の対象となります。																
学生へのメッセージ	演習Ⅱには必ず遅刻せずに、出席し、自主的・主体的に発言すること。 2020年度後期は、新型コロナが完全に収束してから、対面授業を行う。 それまでオンラインにて授業を行う。																
担当者の研究室等	11号館7階 牧野(幸)准教授室																
備考	牧野(幸)ゼミは経営学部で心理学を学ぶゼミである。プレゼンテーションを行うことが多いため、Word, Excel, PowerPointなどの技術を習得する。何よりも人としての心理を大切に学ぶゼミであるので、“時間を守る、約束を守る、授業中私語をしない、寝ない、スマホを触らない”など人としての最低限のマナーは必ず守ること。 授業内で課された課題に対しては、その後のゼミの中で評価・解説を行い、フィードバックをする。																

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS3057a0		

授業概要・目的	<p>高付加価値を目指す『IT サービス』の提案に取り組む。ネットとリアルを効果的に組み合わせ、価値創造ビジネスの実践法を学習する。テーマとして、①IoT (Internet of Things) &amp; IoM (Internet of Me) ②FinTech ③位置情報とパーソナルデータのマーケティング活用 ④法人事業向け Instagram&amp;Twitter を扱う。</p> <p>講義実施時は、オンライン型と対面型を提供する。(対面は個別指示にもとづく)</p>																		
到達目標	<p>学生の学習活動を支援し、課題の発掘・解決等に取り組む、実践力の向上を目指す。インターネットやソーシャルメディアの活用を図る業界・企業等の事例研究をとおして、主体的な情報形成を進めるスキル向上と提案高質化を狙って育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題の発掘 汎用的な視点、自分独自の視点を識別してオリジナリティあるテーマ設定を行う。</li> <li>2. 情報の収集・解釈 課題を提案に結びつけるために必要な情報の調査・編集の方法論を身につける。</li> <li>3. 価値の生成 アウトプット(結果)を超えるアウトカム(成果)をまとめて、価値</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>課題の発掘と解決を図るための『気づき(Insight)』を共創して導く。メンバーの役割を定め、周りとのコミュニケーションや共創を取り入れた提案活動を行う。ビジネス IT&amp;マーケティングの事例について、企業等でのフィールドワークにより、多様な叡智と交流を図る。また、課題について、柔軟な発想で取り組めるよう、グループディスカッションの活性化を図る。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>ビジネス IT&amp;マーケティングの外部コミュニティ等への参画をとおして、情報形成を支援することで、専攻分野のスキルを向上させる。多種のグループワークにより、多様な視点の考察に接する機会を設ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 通期 コミュニケーション基礎力の向上を目指し、Web/記事/文献等を題材に、汎用&amp;専門の視点を学ぶ。</li> <li>2. 前期 ゼミテーマ&amp;個人テーマについて、『気づき』を中心に、グループ・個人発表(2~3回)を行う。</li> <li>3. 後期 ゼミテーマ&amp;個人テーマについて、ゼミ内/外部コミュニティ有志とそれぞれ共創を図り、課題意識を深めて、グループ・個人発表(2~3回)を行う。</li> </ol> <p>テーマとして、①e-commerce(ネット商取引)、②サービスデザイン、③ソーシャルマーケティング、④社会、組織、個人の課題とICT、等から新規性あるものを定める。また、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	その他(ZOOM/Slack)/Teams「オンライン型」/Web Folder																		
Teams コード	q84q9n7																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	e-Mail, Teams Chat																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	<p>平常の学習態度(30%)、課題の提出内容・準備状況(50%)、クラスへの貢献度(20%)による総合評価を行う。具体的には、出席状況、個人・グループの発表(指定全回数)とプレゼンテーション資料等の提出、グループワークでの貢献度(自分の役割の遂行、同僚学生への意見発信等の協力状況、発表等の準備状況)、ディスカッション、積極的・建設的な発言等の授業への参画内容で評価する。また、インターシップや就職活動で外出する際、大学への連絡および進捗報告を行うことも学習態度の項目として含まれる。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>学内・外部の学習機会のいずれも、周りとのコミュニケーションを図り触発し合うことを期待します。グループワークは、自分のポジショニングや役割を考えて可視化を図りつつ、存在感が発揮できるように率先して課題の発見・解決に取り組んでください。また、課題の取り組み状況や見通しについて、周りに伝わるように工夫を図ってください。</p>																		
担当者の研究室等	11号館7階(北村教授室)																		
備考	<p>初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、日常学習方法、成績評価基準(評価マトリクス)の説明、ケーススタディ(グループ・個人)、課題発表(プレゼンテーション)の実施要領、学習支援ツール(Webフォーム・質問共有システム)の使用方法を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。</p>																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	樋口 友紀
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS3057a0		

授業概要・目的	<p>本ゼミでは、マーケティングを基本的なテーマとして扱います。前期には、演習Ⅰで習得したマーケティングやデータ分析に関する知識を元に、実際にデータを利用して分析を行いながら、知見を得る訓練を積んでゆきます。</p> <p>また、後期には各自卒業論文のテーマを決定し、それに基づいた学習、データ分析などを実施する予定です。</p> <p>その他、学生の希望によりテーマなどを選択し、適宜扱います。</p>																		
到達目標	<p>卒業論文作成時に必要となる、マーケティング関連知識及び、各種の多変量解析手法の習得を目指します。</p> <p>また、卒業論文の完成に向け、適宜必要な知識を学びます。</p>																		
授業方法と留意点	<p>ゼミ生を中心として、多変量解析手法や卒業論文進捗について、演習・発表を実施します。そのため、出来る限り欠席は避けるようにして下さい。</p> <p>なお、本年度については基本的にオンラインによる指導を想定していますが、状況から可能なようであれば、(感染対策を講じた上で)対面指導を行うことも視野に入れています。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>本ゼミでは、マーケティングおよび各種のデータ分析をテーマとして扱います。</p> <p>演習Ⅱでは、演習Ⅰにて習得した知識を基に、各種の多変量解析手法を習得します。前半では、パソコン演習を通してデータ分析方法を学び、実際にデータを使って分析を行います。また、後半からは各自卒業論文のテーマを選定し、その構成を詰めながら必要なデータを収集してゆきます。</p> <p>随時ゼミ生中心にまとめや発表を行いますので、欠席を避け、発表などゼミ内で課した課題は必ず行うようにしてください。</p> <p>また、研究に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも、引き続き努めます。</p>																		
関連科目	マーケティング情報解析、マーケティングサイエンス																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	scyvjlb																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	課題や発表の内容、授業態度などにより総合的に判断します。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館8階 樋口准教授室																		
備考																			



科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS3057a0		

授業概要・目的	演習Ⅰに引き続き、企業における ICT とその活用について学ぶ。興味を持った内容について、さらに掘り下げて探究する。また活用されている業種や手法を分類して、傾向や問題点を探り、卒業研究のテーマにつなげる。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、①企業で ICT が活用されている現状や問題点、可能性について説明ができること、②卒業研究に向けたテーマを絞ること、③パソコンを自由に活用して、レポートやプレゼンテーション資料を作成できること、④発表と質問、討論できることが期待される。																		
授業方法と留意点	パソコンを使った演習、レポートと発表の機会を数回持ちます。また、ゼミ内でディスカッションを行い、ICT の利活用について理解を深められるようにします。 授業は、Teams によるオンライン型で実施をします。毎回出席をしてください。 状況により、対面授業の可能性もあります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>ビジネスにおける情報技術の事例に関する資料を用いて以下の手法を練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連する資料の検索と整理</li> <li>・レポート作成のための構成検討</li> </ul> <p>全体を通して、目的に応じたパソコンの効率良い使い方を指導し、パソコンに慣れるようにする。</p> <p>(事前学習) その都度提示する</p> <p>(事後学習) 授業の振り返りをして、新しい用語や新たに興味をわいた点をメモし、自分なりに調べてまとめる (30分)</p>																		
関連科目	演習Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	09fs40y																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	課題提出状況、授業の取り組み姿勢などを総合して評価する。																		
学生への メッセージ	真面目に積極的に取り組んでください。																		
担当者の 研究室等	11号館8階(橋本講師室)																		
備考	レポートは適宜、添削して返却し、発表はその都度コメントを返す。																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS3057a0		

授業概要・目的	<p>企業を含む組織が直面する問題に関心をもち、その問題を解決するために必要な知識を身につける。 演習Ⅱでは、とりわけ、下記について取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習Ⅰで修得した研究方法を意識しながら、卒業論文のテーマを決定する。</li> <li>・企業と連携し、製品開発等に取り組みながら、実践的なマーケティングについて学ぶ。</li> </ul> <p>なお、授業担当者の旅行会社での経験から、「モノ」だけでなく、「サービス」に関するマーケティングについても概説する。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界や企業が抱える問題を発見し、それに応じた解決策を提案することができる。</li> <li>・質的・量的調査を通じて、消費者ニーズを的確に掴むことができる。</li> <li>・消費者ニーズを叶える製品の具体案を企業に提案できる。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン型授業・対面型授業を組み合わせる予定。具体的な内容はMicrosoft Teamsに掲載する。</li> <li>・企業連携は、グループワークを中心に進める。</li> <li>・授業時間外にグループ発表の準備等を行ってもらう。グループのメンバーと協力して取り組むこと。</li> </ul>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【前期】</b></p> <p>1回：授業の進め方について 役割・グループの決定 2回～3回：グループ毎に調査テーマの設定 4回～9回：調査の準備、および、実践 10回～11回：調査結果のまとめ 12回～14回：発表準備 15回：発表</p> <p><b>【後期】</b></p> <p>1回：授業の進め方について 2回～14回：卒業論文のテーマについて発表と議論 15回：まとめ</p>																		
関連科目	マーケティング、消費者行動論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>その都度指示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	その都度指示します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	その都度指示します。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>その都度指示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	その都度指示します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	その都度指示します。																		
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/その他 Zoom																		
Teams コード	o2udnd4																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	参加態度(役割・発表準備・発言)：40% 発表・発表資料：60%																		
学生へのメッセージ	企業連携、是非、積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	田中祥司研究室 11号館8階																		
備考	・各回の授業に向けた準備(予習)や学びに対する復習が必要(約1時間程度)。																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS4058a0		

授業概要・目的	経営分野における情報技術をテーマとして取り組んできた演習 I および演習 II の内容を踏まえて、卒業研究では、高度情報化社会の実モデルを研究テーマとして一つ取り上げ、このテーマを題材に情報収集(サーベイ)や問題解決の演習を行っていく。最終的にはこの結果を卒業論文としてまとめ、プレゼンテーションやディスカッションの場を利用して情報発信能力を高めていく																		
到達目標	演習 I および演習 II を土台として卒業研究を実施し、この結果を卒業論文としてまとめる。																		
授業方法と留意点	卒業論文の作成と就職活動について個別に指導していく。ただし、前期は Moodle を使用した遠隔授業を実施する。後期についても基本的に Moodle を使用した遠隔授業を行うが、場合により対面授業や Teams を使用したオンライン授業を実施する。卒研生は不正防止のための研究倫理を十分に踏まえた上で卒業論文を作成すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>演習 I および演習 II で取り組んだ問題をさらに専門的な視点から解析する。この結果を卒業論文としてまとめる。また、卒業論文の内容を卒業研究報告会で発表する。卒業論文作成に当たっては、不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。</p> <p>[事前学習] 毎回必要となる知識の習得に努め、卒業論文の完成に向けて要点を整理しておくこと (各 30 分)。</p> <p>[事後学習] 研究の進捗内容をまとめておき、卒業論文の作成に備えること (各 1 時間)。</p>																		
関連科目	基礎演習、専門基礎演習、演習 I、演習 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Moodle / 対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー	卒業研究 (2020 年度 S 科) sotsukenhorii																		
連絡手段	Moodle で各回授業の場所に設けた質問コーナー (フォーラムまたはチャット) もしくはメール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	卒業論文 (80%) および卒論発表 (20%) の内容により総合的に評価する。ただし、卒業論文は経営学部のルーブリックに基づいて評価する。また、卒業論文について中間提出に間に合わない者、担当教員の添削を受けない者については適宜減点する。																		
学生へのメッセージ	卒業研究は卒業要件に関係するため、卒業論文の制作や提出に遅れが生じないように注意すること。																		
担当者の研究室等	11 号館 8 階 堀井教授室																		
備考	課題については実施した次の授業で講評する。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS4058a0		

授業概要・目的	<p>ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。</p> <p>卒業研究において、大学4年間で学んだ知識や技術に裏付けられた主張を示し、研究論文、または、卒業制作としてまとめる。</p> <p>ゼミでは、研究という最高の知的活動を通じて、人としての成長を遂げることを目的としている。</p>																		
到達目標	<p>卒業研究においては以下の到達目標を設定する。</p> <p>(1) 研究テーマに対する説明責任を果たす  (2) QCDを意識したプロジェクト管理を行える  (3) 研究倫理を十分に理解した研究活動の実施</p>																		
授業方法と留意点	適宜、全員進捗状況を報告する。中間報告、経過報告での議論とブラッシュアップを重視すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>大学における学びの集大成として、卒業研究もしくは卒業制作をおこなう。演習 I・演習 II を通じて身に付けた専門知識を体系化し、自らが定めたテーマに関して研究を進める。研究、制作の成果は、卒業研究発表会において報告し、卒業研究論文を作成する。なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は修得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	Teams の質問用チャネル、ML																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	卒業研究論文の内容 (中間報告、発表会、報告書のすべてを満たしていることが条件) 研究内容 70%、ルーブリックによる評価 10%、その他 20%																		
学生へのメッセージ	ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。																		
担当者の研究室等	久保准教授室 (11 号館 7 階)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS4058a0		

授業概要・目的	4年間の集大成である卒業論文を作成していくことを目的とします。		
到達目標	完成度の高い卒業論文の作成を目指します。		
授業方法と留意点	遠隔授業になります。 教材・課題配信型、オンライン型、対面型の予定です。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業論文を作成し、提出するまでについて指導します。なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は修得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」		
Teams コード	96ydfi6		
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段	Teams 上で対応します。		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	学部のルーブリック評価にしたがって、総合的に判断する。		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室		
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS4058a0		

授業概要・目的	<p>演習では、主に以下の2つの内容について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業のマーケティング活動におけるメディア戦略</li> <li>2. コンピュータとデータ解析ソフトを使った消費者行動・心理情報の分析</li> </ol> <p>これらの学習を通じて、インターネットや情報端末を使った企業のITマーケティングに関する取り組み及びネットワーク技術に詳しくなり、同時に、高度なデータ解析技術を習得していく。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文の作成</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p><b>【授業内容】</b>  1) 各自が定めたテーマについて研究し、その発表を行う  2) 卒業論文を執筆する</p> <p><b>【授業形態】</b>  現状を鑑みて原則「オンライン型」とする。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>各自の卒業研究テーマについて取り組む。</p> <p>&lt;前期&gt;  1回：卒業研究の計画書提出  2-8回：調査等実施  9-14回：実施状況の報告・発表  15回：夏合宿準備</p> <p>&lt;後期&gt;  1回：卒業研究中間報告  2回：卒業研究の課題整理  3-10回：卒業論文の執筆  11回：卒業論文(9割執筆原稿)の提出  12回：卒業論文成果報告会の資料提出  13回：卒業研究成果報告  14回：卒業論文(完成原稿)の最終提出  15回：冬合宿準備</p> <p>なお卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を踏まえて卒業論文を執筆すること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																		
Teamsコード	m4eyrzm																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	ループリックおよび卒業研究成果報告会における発表内容をもとに評価する。																		
学生へのメッセージ	就職活動と合わせて計画的にすすめてください。																		
担当者の研究室等	11号館7F 針尾准教授室																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS4058a0		

授業概要・目的	経営情報学に関連するテーマとして主に次の2つの内容を修得する。 1. 論理的思考力、問題解決力の修得を目指したプログラミング教育 2. コンピュータを使った経営データの統計的分析手法 これらの修得した内容を実践的に活用しながら各自の研究活動を進め、卒業論文としてまとめる。テーマは個別の興味・関心をもとに設定し、自主的に研究を進める。定期的にゼミの中で研究経過を相互に報告し、意見交換しながら卒業論文を完成させる。																
到達目標	社会人になるための準備として、自らの判断で意思決定し行動できるようになることを目指す。また、研究内容について、知識・理解を深め、論理的に説明できるようになることを目指す。活動では、他のゼミ生とも協力しながら、相互に高め合うことを目指す。並行して行う就職活動では、自分の将来について目標を持って取り組む。																
授業方法と留意点	研究経過を定期的に報告することで、進捗状況を自己管理しながら計画的に卒業研究を進める。他のゼミ生の意見を参考にしながら、相互に協力し合い、他のゼミ生の知識・経験を高めることにも協力する。配布資料などを使った解説、ディスカッション、プレゼンテーションを適宜取り入れながら主体的に研究を進める。ゼミでは、活動内容に応じてオンライン型と対面型を併用する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自が定めた研究テーマに基づいて、文献調査を行いながら研究内容を絞り込み、卒業論文にまとめる。その際、演習Ⅰ・Ⅱを通じて身につけた専門知識を取り入れながら、各自工夫しながら計画的に研究を進める。就職活動も伴うため、効率良い作業を求める。おおよその年間スケジュールは、以下の通りである。  [前期] 第1回：卒業研究について、年間計画の作成 第2～6回：文献検索、関連資料の整理 第7～9回：卒業研究の概要作成 第10～12：卒業研究に関連する基礎調査 第13～15：中間報告資料作成・発表  [後期] 第1回：休暇中の進捗報告 第2～5回：卒業論文の執筆 第6、7回：卒業論文の進捗報告 第8～11回：卒業論文の執筆 第12回：卒業論文の提出（修正前） 第13回：卒業論文の修正 第14回：卒業論文の提出（最終） 第15回：まとめ  なお、卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は修得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。																
関連科目	演習Ⅰ、演習Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle																
Teamsコード	py7p2ei																
Moodleコース名および登録キー	卒業研究(栢木ゼミ) clam3gorilla																
連絡手段	Teamsのチャット機能またはメール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法(基準)	定期的な進捗報告(20%)、中間・最終報告での発表(20%)、卒業研究に対するルーブリック評価(50%)、演習への取組姿勢(10%)をもとに総合的に評価します。 卒業論文の作成が中心となるため、持続的な研究活動が求められます。																
学生へのメッセージ	ゼミでの活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。知識・技能の修得だけでなく、どのようなことに対しても常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待します。																
担当者の研究室等	11号館8階(栢木教授室)																
備考	教科書や参考書については、演習の中で適宜紹介します。 必要に応じて書籍を購入してもらった場合もあります。																



科目名	卒業研究	科目名(英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS4058a0		

授業概要・目的	マーケティングのゼミである。 これまでの学びの集大成を、卒業研究を通じて行う。 プレゼンテーションを通じて、プレゼンテーション能力を養う。																		
到達目標	卒業研究を通じて、調査研究の一連のステップを学ぶ。 自分の伝えたいことを、正しく伝える技術を身につける。 これまで学んだことの集大成とした卒業研究を仕上げる。																		
授業方法と留意点	個人指導及び卒業研究内容のゼミでの発表。発表に対する質疑応答を teams で行う。 状況が許せば対面授業を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	[授業テーマ] マーケティング論を活用した卒業研究の制作  [内容] 卒業研究テーマを設定し、適切な順序にもとづき卒業研究を進め、学士レベルの研究を行う 中間発表、および最終報告を行うにあたり、自分が行った卒業研究の内容を正しく伝える。 当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	37qyecc																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	卒業研究の取組み姿勢 20%、内容(学部共通のルーブリック評価を活用します) 60%、プレゼンテーション(中間・終了) 20%																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂教授室																		
備考	【学生へのメッセージ】 ゼミ学習を有効なものにするのもしないのも、本人次第です。受け身ではなく、主体的にゼミに参画することで学ぶことの楽しさを知ってほしいと思います。																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS4058a0		

授業概要・目的	本ゼミにおける目標は、社会学に関するさまざまな知識を習得することと、各自で卒業論文を仕上げることである。本ゼミでは、3年次までの学習内容をふまえて、各自の関心に基づいた研究テーマを選択する。それぞれの研究テーマに沿って、もっとも適切な研究方法を選択し、それに基づいて分析をおこなう。分析を通して新たな知見を得て、それをまとめるかたちで論文を仕上げていく。																		
到達目標	独力で論文がまとめられる。議論に必要なデータを独力で収集できる。正確な文章が書ける。																		
授業方法と留意点	受講生は、それぞれの研究の進捗状況を授業時間内に報告する。報告担当以外のゼミ生は、教員とともに報告に対し意見を述べ、全体でディスカッションを行う。報告者はその内容をふまえて研究の作業を進める方針を定める。 ※非対面の遠隔授業形式を基本とする(ツール等は後述)。状況を見て対面形式に切り替える場合もあるが、その場合には事前に確認をとったうえで実施する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業内容】</p> <p>3年次までの学習内容などに基づき、卒業論文を完成させる。自身が設定した問題に関連する文献を幅広く参照すること、それをふまえ独自の分析をおこない、得られた知見をまとめて論文に仕上げる。</p> <p>【事前・事後学習】</p> <p>(事前) 授業内での報告をおこなうために、事前に文献通読・資料収集をおこないそれを整理しておく(1時間)</p> <p>(事後) 授業内でのコメントを精査し、事前資料とともに論文内の記述として文章にまとめる(1時間)</p> <p>【その他】</p> <p>なお、卒業論文の作成にあたっては、配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。受講生は修得した研究倫理を十分にふまえて卒業論文を作成する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メールアドレス、Teams 授業チーム内チャット																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	提出された論文(研究の着眼点、研究方法の適切さ、分析と成果のまとめ方の正確さ)、論文執筆に対する取り組み姿勢、報告時における姿勢、ディスカッションに対する参加程度																		
学生へのメッセージ	他の受講生の報告内容から自分自身の研究のヒントを得ることもあるので、発表担当以外の日にも参加すること。無断欠席は厳禁とする。																		
担当者の研究室等	11号館7階 山本准教授室																		
備考	提出された論文に基づいた諮問をおこなう。その作業を通して論文についての評価と改善点も提示する。																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS4058a0		

授業概要・目的	<p>牧野(幸)ゼミは経営に関する心理学を学ぶゼミである。卒業研究では、各自の興味に応じて研究テーマを決定し、卒業研究を実施していく。研究をまとめ、論文の書き方を学ぶことを目的とする。</p> <p>SDGs-3, 4, 8, 9, 10, 12</p>																		
到達目標	<p>卒業研究では、経営における心理、マーケティング、消費者心理、人間関係、組織行動などに関するテーマを自分で決め、前期は研究計画を立てることができることを目標とする。後期は、テーマに関する研究を実験、調査、面接などの手法を用いて研究を実施することができることを目標とする。最終的に、卒業論文を作成する。</p>																		
授業方法と留意点	<p>授業方法は、オンライン型と対面型で行う。オンライン型の場合は、teams と Moodle を用いた遠隔授業で行う。受講生は、必ず毎週各自 PC やスマホなどを利用して、teams や Moodle にアクセスすること。</p> <p>卒業研究は演習形式である。毎回担当者が卒業研究の途中経過のプレゼンテーションを行う。発表者以外の人はディスカッションに積極的に参加する。6月くらいにはテーマを決定し、9月には中間発表を行う。そして、10月より本文を作成し、12月初旬には最終発表を行う。ディベートなどを積極的に行う。</p> <p>各段階</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ・内容：経営における心理、人間関係、消費者心理、マーケティングなど</p> <p>方法：各自のテーマの文献を購読し、研究計画を立て、研究を実施する。途中経過を発表する。論文をまとめる。</p> <p>事前学習課題：設定したテーマについて文献を調べておく、発表の準備をしておく(1時間)</p> <p>事後学習課題：当日指摘された箇所を改善しておく、次への課題をまとめておく(2時間)</p> <p>なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。</p>																		
関連科目	「消費者行動論」や「マーケティング」と関連する。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle																		
Teams コード	jijyy23																		
Moodle コース名	17 牧野ゼミ経営学部S科(4年生)																		
および登録キー	makino17																		
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	<p>卒業論文は学部のルーブリック評価基準を用いて評価する。出席を必修とする。</p> <p>授業での積極的活動(30%)、卒業研究の中間発表での評価(20%)、卒業研究の最終発表での評価(20%)、卒業研究の評価(30%)を総合的に判断する。</p> <p>自分の研究を計画的に行い、卒業研究をまとめ、中間発表と最終発表を行うこと。</p> <p>遅刻、欠席などは減点の対象となります。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>必ず出席し、卒業研究を着実に進めること。各締め切りを確実に守ること。中間報告と最終報告を必ず守ること。</p> <p>2020年度後期は、新型コロナが完全に収束してから、対面授業を行う。</p> <p>それまでオンラインにて授業を行う。</p>																		
担当者の研究室等	11号館7階 牧野(幸)研究室																		
備考	<p>牧野(幸)ゼミは、経営学部で心理学を学ぶゼミである。プレゼンテーションを行うことが多いため、Word, Excel, PowerPointなどを習得している必要がある。何よりも人としての心理を大切に学ぶゼミであるので、“時間を守る、約束を守る、授業中私語をしない、寝ない、スマホを触らない”など人としての最低限のマナーは必ず守ること。卒業研究はアクティブ・ラーニングの場でもあるので、積極的に主体的に進めること。</p> <p>授業内に課された課題に対しては、その後のゼミの中で評価・解説を行い、フィードバックをする。</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	樋口 友紀
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS4058a0		

授業概要・目的	<p>本ゼミでは、マーケティング及びマーケティング・リサーチを基本的なテーマとして扱います。卒業研究では、演習Ⅰ・Ⅱで学んできた内容をもとに、卒業論文の完成を目指します。各自で選択した卒業論文のテーマにより、必要に応じて資料調査、調査票の設計やデータ収集、分析及び計算、考察を通して卒業論文を作成してゆくこととなります。</p> <p>これまで以上に各自の責任が大きくなっていくため、卒業に向けてしっかりスケジュールをたて、計画的に作業を進めてください。また、卒業論文のテーマ選択は基本的に各自の興味を優先するため、普段の生活の中でもマーケティングを意識しておくよう、努めてください。</p>																		
到達目標	<p>演習Ⅰ・Ⅱでは卒業論文作成時に必要となる、マーケティング及びマーケティング・リサーチ技術を習得してきました。これらの知識、技術を用いて卒業論文を完成させることが卒業研究の目標となります。また、卒業論文の完成に向け、適宜必要な知識を学習してもらいます。</p>																		
授業方法と留意点	<p>演習Ⅰ・Ⅱで学んできた内容をもとに、卒業論文の完成を目指します。テーマについては、学生自身で興味のある内容を選択してもらうこととなります。選択したテーマについて、どのように卒業論文をまとめあげていくかについては、教員による指導や、ゼミ生同士の話し合いを通して模索していきます。また、適宜ゼミ内での学生による卒論発表を実施します。そのため、出来る限り欠席は避けるようにしてください。なお、本年度については基本的にオンラインによる指導を想定していますが、状況から可能なようであれば、対面指導を行うことも</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	<p>卒業研究では、卒業論文の完成に向け、個別指導が中心となります。同時に、ゼミ内での卒業論文進捗発表などを適宜実施します。年度末にはゼミ生全員に各自の卒業論文をプレゼンテーションしてもらいますので、そのつもりで各自責任をもって作成に取り組むこと。また、設定された締切等は守るように努めること。研究に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも、引き続き努めます。これを踏まえて卒業論文を作成してください。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業																		
Teamsコード	78zv8x5																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	ルーブリック評価を前提に、出席率、授業態度、発表の内容などにより、総合的に判断します。																		
学生へのメッセージ	就職活動など各自の事情については考慮しますので、必ず連絡をするようにしてください。																		
担当者の研究室等	11号館8階(樋口研究室)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS4058a0		

授業概要・目的	卒業研究は、これまで経営学部の学習を総括する。自ら設定した課題について、新規で独自の提案を試み、解決へのアプローチを行うが、適切な裏付けや検証、コミュニケーションにより、示唆に富んだ卒業論文を集大成としてまとめる。 ゼミでは、課題を形にして、第三者にもつたわる表現を工夫し、新しい経営情報の動向を十分考察した適切な学習水準の確保のために、ゼミ共通の重点テーマの自己啓発を支援したり、産学機関の課題に接する機会の利活用を図る等の活動を展開する。 講義実施時は、オンライン型と対面型を提供する。(対面は個別指示にもとづく)																		
到達目標	次の目標の達成を目指す。 1. 研究テーマの自己設定 (自らの課題を発見、新しい提案) を行って、当事者として具体化・可視化を図る。 2. 研究を推進するための方針・実施計画・関係者への働きかけ等のセルフマネジメントを実践する。 3. 研究倫理の遵守、社会常識ある行動規範の徹底した実行を果たす。																		
授業方法と留意点	進捗と内容の報告の場をとおして、推進上の課題を明らかにしつつ、ゼミメンバーとのディスカッションからヒントを得る機会を共有する。 中間報告、経過報告について、万全の準備、プレゼンによる情報発信で、活動推進を図る。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	これまでの学習成果の集大成として、卒業研究をおこなう。演習Ⅰ・演習Ⅱによる専門知識を体系化し、自らが設定した課題について、研究を行う。活動成果として、研究発表会での報告、卒業研究論文を作成する。 卒業研究論文の作成の際、配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。修得した不正防止のための研究倫理の指針・ガイドライン等を十分理解して活動する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	その他 (ZOOM/Slack) /Teams「オンライン型」/Web Folder																		
Teams コード	ag3xu9q																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	e-Mail, Teams Chat																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	卒業研究論文として、次の総合評価を行う。(中間報告、発表会、報告書のすべてを満たしていることが条件) 研究内容 70%、ルーブリック評価 10%、その他 (ゼミ勉強会等) 20%																		
学生への メッセージ	自己設定した課題について、集大成の活動に積極的かつ自律的に取り組んで、一定以上の水準で成果発信できることを期待します。																		
担当者の 研究室等	11号館7階 (北村教授室)																		
備考	初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、日常学習方法、成績評価基準 (ルーブリック評価マトリクス) の説明、課題発表 (プレゼンテーション) の実施要領、学習支援ツール (Web フォーム・質問共有システム) の使用方法を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	IDS4058a0		

授業概要・目的	これまでに学習した知識と技術を活用して卒業研究を行う。演習Ⅰ・Ⅱで用いた題材やこれまで調べた情報技術の活用事例、情報技術による問題解決などをもとに比較・分析を行い、卒業論文にまとめる。最後にゼミで卒業論文発表会を行う。		
到達目標	この授業を通じて学生には、①プロセスを考えながらスケジュールに合わせて卒業論文の作成ができること、②自分が取り組みたいことについて文書化、プレゼンテーションなど情報発信ができること、③発表と質問、討論できることが期待される。		
授業方法と留意点	卒業研究の手順(教材)を配布します。教材に沿って進めます。テーマと方針を個別に相談、進捗を確認し、時々ゼミ生相互に意見を出して共有しながら次の段階に進みます。授業は、Teamsによるオンライン型で実施します。状況により、対面授業の可能性もあります。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>演習Ⅰ・Ⅱで使った事例や文献を参照しながら、情報・情報技術・企業(職種や内容など)をキーワードにしてテーマを考えます。テーマが決まれば個別指導になりますが、時々ゼミ内で共有しながら以下の内容で進めていきます。卒業論文の作成にあたり不正防止のための研究倫理の教育も同時に実施します。</p> <p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テーマの決定</li> <li>構成の検討</li> <li>スケジュールの作成</li> <li>タイトルの検討</li> <li>参考文献の収集・整理</li> <li>論文の作成</li> </ul> <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文の作成</li> <li>作成した論文の修正と調整</li> <li>卒業論文の提出</li> <li>発表会・発表の準備</li> </ul>		
関連科目	演習Ⅰ・Ⅱ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「オンライン型」		
Teamsコード	8z3cny5		
Moodleコース名 および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法 (基準)	卒業論文の内容についてルーブリック評価(50%)、発表会の内容・準備状況(50%)		
学生への メッセージ	継続的に、コツコツ取り組むことが重要です。		
担当者の 研究室等	11号館8階(橋本講師室)		
備考			

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1335c1		

授業概要・目的	<p>海外で実施される語学研修プログラムに参加して外国語運用能力の向上を図りつつ、グローバル・シチズン（地球市民）としての基礎知識、態度を身につける。本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程（GCMP）の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」と目標や学習内容を共有する。副専攻の履修者が本科目の単位を取得すると、「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」は履修済みと見なされる。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズンの育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標（SDGs）目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、国際交流センターが主催する海外語学研修プログラムのいずれかに参加する。受講生には、現地での語学授業に真摯に取り組むと同時に、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ活動を行うことが求められる。また、この授業で得られた反省点を、帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。</li> <li>・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。</li> <li>・事前・事後を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC（英語の場合）の得点アップ</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。</li> <li>・グローバル・シチズンシップ副専攻課</li> </ul>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間2回実施される。（ ）内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2～3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集説明会：4月中旬（9月下旬～10月上旬）</li> <li>・事前授業10回：6月中下旬～7月下旬（11月～2月）</li> <li>・現地派遣：2週間程度 8月中旬～9月上旬（2月中下旬～3月下旬）</li> <li>・事後授業5回（成果報告会含む）：9月～10月中旬（3月～4月下旬）</li> </ul> <p>本科目を受講する学生は、まず国際交流センターが主催する海外語学研修プログラムのいずれかに参加申し込みをしなければならない。各プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2～3月に現地派遣されるプログラムの場合、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標（SDGs）についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、国際交流センターが提供する英語ワークショップであるECW（English Conversation Workshop）、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																		
関連科目	グローバル・シチズンシップ（入門）、グローバル・シチズンシップ（応用）、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法	事前授業評価 30%（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合）																		



(基準)	現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)
学生へのメッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、この海外語学研修、そして「グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)」で二度行きましょう。
担当者の研究室等	3号館4階国際交流センター
備考	

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 伊藤 譲, 稲地 秀介, 上野山 裕士, 久保 貞也, 田中 結華, 古矢 篤史, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科:A◎, A科:A◎, M科:A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01452a1, L科: LL01354a1, D科・S科: IL01361a1, P科: YL01417a2, J科: JL01363a1, W科: WL01342a1, N科: NL01343a1		

授業概要・目的	<p>「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。</p> <p>この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。</p> <p>また由良町役場の行政担当者などの実務経験者より、由良町の現状や課題、現在取り組んでいる対応策について講義があります。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のことを学ぶ意義を理解する。</li> <li>・地域の課題を理解する。</li> <li>・地域の課題について解決策を提案できる。</li> <li>・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。</li> <li>・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<p>グループで議論等をした上で、グループごとに発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。</p> <p>第11回目は和歌山県由良町での体験学習となります。体験学習に参加できない学生は履修しないようにしてください。</p> <p>グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。</p>
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【第1回】 4月11日(土) 1限</b>          テーマ: オリエンテーション          内容・方法等: 到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。地域のことを学ぶ意義を解説します。(鶴坂)          事前学習: シラバスをみて、内容を確認する。地域のことを学ぶことについて自分なりに考える (1時間)。          事後学習: 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える (1時間)。</p> <p><b>【第2回】 4月11日(土) 2、3限</b>          テーマ: チームビルディング          内容・方法等: グループワークを進めていくためのチームビルディングを行います。(水野・鶴坂)          事前学習: グループワークを行う上で大切なことは何かを考える (1時間)。          事後学習: チームビルディングを行った感想と今後の豊富についてまとめる (1時間)。</p> <p><b>【第3回】 4月25日(土) 1限</b>          テーマ: 今、地域で何が起きているか          内容・方法等: 人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。(鶴坂)          事前学習: キーワード「消滅可能性都市」について調べる (1時間)。          事後学習: 由良町の現状と人口減少等の地域の問題を結びつける。その上で由良町での人口減少の理由を考え、グループでレポートをまとめる (2時間)。</p> <p><b>【第4回】 4月25日(土) 2限</b>          テーマ: 由良町関係者の講演          内容・方法等: 和歌山県由良町役場の方に来学いただき、観光、防災、文化、地域医療等の現状や課題をお聞きします。(鶴坂・上野山)          事前学習: 和歌山県由良町の概要を調べる (1時間)。          事後学習: 和歌山県由良町の課題をまとめグループでレポートを作成する (2時間)。</p> <p><b>【第5回】 4月25日(土) 3限</b>          テーマ: グループワーク・プレゼンテーション          内容・方法等: 1、2限の講義内容をふまえ、由良町の課題と人口減少の原因を議論しまとめ、発表する。(鶴坂・上野山)          事前学習: プレゼンテーションルーブリックを確認する (1時間)。          事後学習: グループでのレポート作成 (2時間)。</p> <p><b>【第6回】 5月2日(土) 1限</b>          テーマ: 地域経済・経営-地域の観光・ブランディング-          内容・方法等: 観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。(久保・鶴坂)          事前学習: 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる (1時間)。          事後学習: 由良町の観光の目玉を考え、グループでレポートをまとめる (2時間)。</p> <p><b>【第7回】 5月2日(土) 2限</b>          テーマ: 地域環境・防災-空き家の現状と課題-          内容・方法等: 大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。(稲地)          事前学習: 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと (1時間)。          事後学習: 授業後は議論した内容をふまえ、由良町における空き家対策について検討し、グループでレポートをまとめる (2時間)。</p> <p><b>【第8回】 5月2日(土) 3限</b>          テーマ: グループワーク・プレゼンテーション          内容・方法等: 1限の課題、2限の課題と2つに区分し、グループでまとめ、発表する。(鶴坂・久保・稲地)          事前学習: 前回のプレゼンテーションをふりかえり、再度プレゼンテーションルーブリックを確認する (1時間)。          事後学習: グループでのレポート作成 (2時間)。</p> <p><b>【第9回】 5月16日(土) 1限</b>          テーマ: 地域市民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。(田中・上野山)          事前学習: 事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと (1時間)。          事後学習: 授業で発表された内容について整理し、由良町の地域医療の課題についてまとめグループでレポートにまとめる (2時間)。</p>

	<p><b>【第10回】 5月16日(土) 2限</b>            テーマ：地域政策・文化ー地域の小規模ミュージアムー            内容・方法等：地域(とくに過疎化地域)における「小規模ミュージアム(記念館、文学館、博物館、美術館など)」の意義や現状を踏まえ、内容や効果を考えます。(古矢)            事前学習：「小規模ミュージアム」とは何かを調べる(1時間)。            事後学習：地域における「小規模ミュージアム」の内容や効果をグループでレポートをまとめる(2時間)。</p> <p><b>【第11回】 5月16日(土) 3限</b>            テーマ：グループワーク・プレゼンテーション            内容・方法等：1限の課題、2限の課題と2つに区分し、グループでまとめ、発表する。(古矢・田中・上野山)            事前学習：前回のプレゼンテーションをふりかえり、再度プレゼンテーションルーブリックを確認する(1時間)。            事後学習：グループでのレポート作成(2時間)。</p> <p><b>【第12回】 5月30日(土) 1限</b>            テーマ：プレゼンテーション講座            内容・方法等：プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。(石井、鶴坂)            事前学習：パワーポイントの練習(1時間)。            事後学習：最終報告会での大まかな流れを作る(2時間)。</p> <p><b>【第13回】 5月30日(土) 2, 3時間</b>            テーマ：グループワーク            内容・方法等：由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。(鶴坂、上野山)            事前学習：グループでどの領域の問題を取り扱うかを決める(1時間)。            事後学習：由良町でのフィールドワークの準備を行う(2時間)。</p> <p><b>【第14回】 6月6日(土) 終日</b>            テーマ：体験学習(和歌山県由良町)            内容・方法等：由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。(鶴坂、稲地、久保、古矢、上野山)            事前学習：現地で調べることにについて予備調査しておく(1時間)。            事後学習：現地で得られた情報をまとめておく(2時間)。</p> <p><b>【第15回】 6月27日(土) 1, 2限</b>            テーマ：グループワーク            内容・方法等：発表用スライドの作成。(鶴坂、上野山)            事前学習：現地で得た情報の整理(1時間)。            事後学習：スライドの完成(4時間)。</p> <p><b>【第16回】 7月18日(土) 1, 2限</b>            テーマ：成果発表会            内容・方法等：作成したスライドを使い、成果発表を行う。(鶴坂、久保、稲地、古矢、上野山)            事前学習：発表の練習(4時間)。            事後学習：他のグループの取組内容の整理をする(1時間)発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。</p> <p><b>【第17回】 7月18日(土) 3限</b>            テーマ：ふりかえり・わかちあい            内容・方法等：「地域と私」での学びの成果等をふりかえり、発表する            事前学習：これまでのプリントや副専攻ガイドブック等の整理(1時間)            事後学習：個人レポートの作成(4時間)</p>																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% (ルーブリック評価) 最終レポート 40% 60%で合格とする。																
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																
担当者の	鶴坂研究室 11号館7階																

研究室等	
備考	詳しい日程はガイダンスのときに発表します。基本的に土曜日開講です。

科目名	地域貢献実践演習	科目名 (英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL03457a1, L科: LL03366a1, D科・S科: IL03366a1, P科: YL03422a2, J科: JL03368a1, W科: WL0347a1, N科: NL03348a1		

授業概要・目的	この授業は、ソーシヤルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。 これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。 その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。 具体的にはグループ単位で地域担当者と密に連携しながら、課題の抽出から解決までの年間計画を立て、現地で実践と振り返りをくりかえしながら、当初立てた目的達成にチャレンジしていきます。																
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。 ②課題発見から解決までのPDCAサイクルを回すことができる。 ③チームで活動することができる。 ④チーム内で役割行動ができる。 ⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																
授業方法と留意点	この授業は少なくとも前期中はネットで授業を行います。 授業で課題を出しますので、それぞれ履修者が調べ学習を行いレポートにまとめ指示された提出場所、提出期間に提出をお願いします。 提出されたレポートについて、プロジェクト(グループ)単位で議論をすることがあります。  学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行うかどうかは新型コロナウイルスの状況に応じて判断をします。 状況が改善しない場合は、ネットでの授業や発表を後期も継続します。 また、対面で行わないような活動、たとえ																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	この授業は本来フィールドワークを学生がチーム単位で主体的に行うことを前提にしていたのですが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため不可能ですので、学生個人のワークが中心となります。 プロジェクトは今のところ3つありますので、自分が希望するプロジェクトをに関する学びを深め課題解決のための提案を自分自身が深掘りしていく形となります。  新型コロナウイルス状況に応じて、プロジェクトの活動時期や内容は異なりますのでご了承ください。  第1回 5月29日(金) 6時間目 オリエンテーション プロジェクト内容や進め方の説明をネットでを行います。 例年とは異なる進め方となりますので、履修者は必ず出席してください。  第2回 6月5日(金) 第3回 6月19日(金) 第4回 7月3日(金) 第5回 7月17日(金) いずれもネットでの授業です。 上記以外でプロジェクトごとにネット上でミーティング等を行うことがあります。 後期については前期最後の授業でお知らせします。  授業担当者は経営学部 鶴坂、法学部 小野、教育イノベーションセンター 水野・上野山です。																
関連科目	ソーシヤルイノベーション副専攻課程関連科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	課題提出物 40%、活動の取組 30%、最終レポート 30%																
学生へのメッセージ	PBL より、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう!																
担当者の研究室等																	
備考	【事前学習】 活動を実施するまでには、チームで議論し役割分担を決め準備を行います。またミーティング等活動をしたときは活動記録を作成してください。そのためには1時間～4時間程度の自主学習時間が必要となります。 【事後学習】 活動を行った後は、結果をまとめ、チームでミーティングを行い振り返りをしてください。また全体ミーティングに備えて、スライドの作成をください。この場合も活動記録を作成してください。これらの活動に1～4時間程度の自主学生時間が必要となります。																

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
授業形態	対面授業																		
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー	2020 教育実習Ⅱ・Ⅲ 2otp23PE																		
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び事前指導・事後指導における課題提出物、教育実習記録による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(10月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>		
関連科目	教職関連科目全般		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会 蒼丘書林
	2	学習指導要領解説	文部科学省
	3		
授業形態	対面授業		
Teamsコード			
Moodleコース名 および登録キー	2020 教育実習Ⅱ・Ⅲ 2otp23PE		
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法 (基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものは、単位を認定しない。		
学生への メッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。		
担当者の 研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。		



科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名 (英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマナーの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立つという現実的な体験を得ることを目的としている。																
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>活動場所は、寝屋川市、交野市役所、すさみ町役場、共学センター、南農園等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>-----</p> <p>事前教育①～⑨回分：</p> <p>①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて</p> <p>②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ</p> <p>③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ</p> <p>④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ</p> <p>⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ</p> <p>⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ</p> <p>⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ</p> <p>⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ</p> <p>⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動（90分×20回分）：</p> <p>受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育（90分）：</p> <p>青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>-----</p> <p>履修上の注意：</p> <p>学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題：</p> <p>学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																
関連科目	ボランティア論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																
Teams コード	lusjvks																
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調査、以上の4点を総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																
備考	第1回目の事前授業は4月15日6時限目、1124教室で行う。																

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)	科目名(英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1o,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、国際交流センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。</li> <li>・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。</li> <li>・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。</li> <li>・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベル」に達しない。</li> </ul>			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。</li> <li>・グローバル・シチズンシップ副専攻課</li> </ul>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間2回実施される。( )内は同年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2～3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集説明会:4月中旬(9月下旬～10月上旬)</li> <li>・事前授業10回:6月中下旬～7月下旬(11月～2月)</li> <li>・現地派遣:2週間程度8月中旬～9月上旬(2月中下旬～3月下旬)</li> <li>・事後授業5回(成果報告会含む):9月～10月中旬(3月～4月下旬)</li> </ul> <p>本科目を受講する学生は、まず国際交流センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしなくてはならない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2～3月に現地派遣されるプログラムの場合、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、国際交流センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>			
関連科目	グローバル・シチズンシップ(入門)、グローバル・シチズンシップ(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teamsコード	yjvwu6a			
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段	原則Teams、履修前なら国際交流センターへメール問い合わせを			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合)			

(基準)	現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)
学生へのメッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。
担当者の研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は3号館4階国際交流センターまで 授業内容に関する質問、相談は鳥居(研究室は7号館3階)まで。
備考	

科目名	地域実習	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程1年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は2年次の「摂南大学PBLプロジェクト」、3年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけられています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。</p>																		
到達目標	<p>①地域での実態を理解する。          ②チームで働く意義を理解する。          ③役割行動のあり方について理解する。          ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>主として現地でのフィールドワークです。1か月に2回程度全体で集まり、進捗状況や問題点、解決策などを共有します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 チーム10名程度のチームを作り、地域での活動に取り組みます。</p> <p>1. 年間計画を作成する。          2. 役割を決める。          3. 地域等で活動を行う。          4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。          5. 進捗管理をする。          6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。</p> <p>上記の1～6の活動を通じ、PDCAサイクルを回しながら、年度当初に設定した目標を達成できるよう協働していきます。</p> <p>第1回授業は 4月14日(火)6時間目です。          このときに、詳しい取組内容、どの取組内容に参加するかなどを決定します。          チームは「地域と私」のグループ(1グループ5人程度)を基本にして組んでいきます。</p> <p>【前期】          第2回目は4月28日(火)いずれも6時間目          第3回目は5月12日(火)          第4回目は5月26日(火)          第5回目は6月9日(火)          第6回目は6月23日(火)          第7回目は7月7日(火)          第8回目は7月21日(火)を予定しています。</p> <p>【後期】については前期授業中に連絡します。</p>																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	<p>メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。          メールアドレス:</p>																		
評価方法(基準)	提出物(20%)、活動への参画の程度(40%)、最終報告プレゼンテーション(20%)、最終レポート(20%)																		
学生へのメッセージ	まずは一歩踏み出して、地域での活動に取り組んでみよう!																		
担当者の研究室等備考	鶴坂研究室 11号館7回																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教. 木村 朋紀. 船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

授業概要・目的	<p>&lt;摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト&gt;</p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、寝屋川市のサツマイモと和歌山県由良町のみかんの皮を用いたお酒である「初瀬姫」を、第一弾商品として2019年に市販した。本プロジェクトでは、開発中の「シソとミカンの入浴剤」および「シソのペースト」について具体的な商品化を目指す。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>3人の教員が担当する。</p> <p>少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p>&lt;開発プロジェクト&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。</li> <li>2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。</li> <li>3. 商品を委託製造する。</li> <li>4. 広報活動を行う。</li> </ol> <p>&lt;販売プロジェクト&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 価格設定</li> <li>2. 販売ルートの確保</li> <li>3. 販売管理</li> </ol> <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。 新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。																		
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)																		
備考	プレゼンテーション課題などは、各教員がチェックし改善点を指摘する。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教.木村 朋紀.船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>&lt;摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト&gt;</p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、寝屋川市のサツマイモと和歌山県由良町のみかんの皮を用いたお酒である「初瀬姫」を、第一弾商品として2019年に市販した。本プロジェクトでは、開発中の「シソとミカンの入浴剤」および「シソのペースト」について具体的な商品化を目指す。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>3人の教員が担当する。</p> <p>少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p>&lt;開発プロジェクト&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。</li> <li>2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。</li> <li>3. 商品を委託製造する。</li> <li>4. 広報活動を行う。</li> </ol> <p>&lt;販売プロジェクト&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 価格設定</li> <li>2. 販売ルートの確保</li> <li>3. 販売管理</li> </ol> <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。 新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。																		
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)																		
備考	プレゼンテーション課題などは、各教員がチェックし改善点を指摘する。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科:IIⓄ,R科:AⓄ,A科:AⓄ,M科:A1Ⓞ,E科:BⓄ,C科:IIⓄ,L科:DP2Ⓞ,DP5Δ,DP6Δ,D科:DP1Ⓞ,S科:DP1Ⓞ,P科:DP8Δ,J科:DP1Ⓞ,DP6Ⓞ,DP7Ⓞ, W科:DP1Ⓞ,DP7Ⓞ, N科:DP1ⓄN:DP1Ⓞ		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p> <p>SDGs-6, 13, 14, 15</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。</li> <li>・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。</li> <li>・世界や日本で起こっている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：寝屋川市自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに参加し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p> <p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援</li> <li>2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施</li> <li>3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践</li> <li>4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践</li> <li>5. 天然アユ復活プロジェクトの学習</li> <li>6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</li> </ol> <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(7月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teamsコード																	
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	<p>メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。</p> <p>メールアドレス：</p>																
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																



学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室
備考	自主学習時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p> <p>SDGs-6,13,14,15</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。</li> <li>・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。</li> <li>・世界や日本で起こっている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：寝屋川市自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに参加し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p> <p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援</li> <li>2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施</li> <li>3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践</li> <li>4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践</li> <li>5. 天然アユ復活プロジェクトの学習</li> <li>6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</li> </ol> <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(7月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teamsコード																	
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法(基準)	授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)																

学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室
備考	自主学習時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科:II⊙,R科:A⊙,A科:A⊙,M科:A1⊙,E科:B⊙,C科:II⊙,L科:DP2⊙,DP5Δ,DP6Δ,D科:DP1⊙,S科:DP1⊙,P科:DP8Δ,J科:DP1⊙,DP6⊙,DP7⊙,W科:DP1⊙,DP7⊙,N科:DP1⊙N:DP1⊙		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。          ②企画：具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。          ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。          ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う          ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	授業は、ICTツールを活用した遠隔授業(非同期・非対面)の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成を自主学習として、調べておくこと。</p>																		
関連科目	ボランティア論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																		
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科:II⓪,R科:A⓪,A科:A⓪,M科:A1⓪,E科:B⓪,C科:II⓪,L科:DP2⓪,DP5Δ,DP6Δ,D科:DP1⓪, S科:DP1⓪, P科:DP8Δ, J科:DP1⓪, DP6⓪, DP7⓪, W科:DP1⓪, DP7⓪, N科:DP1⓪N:DP1⓪		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1, L科:LL02358a1, D科・S科:IL02365a1, P科:YL02421a2, J科:JL02367a1, W科:WL02346a1, N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。          ②企画：具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。          ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。          ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う          ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	授業は、ICTツールを活用した遠隔授業(非同期・非対面式)の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成を自主学習として、調べておくこと。</p>																		
関連科目	ボランティア論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																		
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																		

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

授業概要・目的	<p>地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦</p> <p>学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築 (携帯アプリ) の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。</p> <p>SDGs-3, 4, 11</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が最近の IT 動向を理解している</li> <li>・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる</li> <li>・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える</li> <li>・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる</li> <li>・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる</li> <li>・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる</li> <li>・学生が RPA の利用価値を説明できる</li> <li>・実践的な IT 活用について提案ができる</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>データベースに関する勉強会 (土曜日開催)</p> <p>ヒアリング調査</p> <p>自治体での業務プロセス分析</p> <p>開発合宿</p> <p>自治体でのプレゼンテーション</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦</p> <p><b>【内容】</b> 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースに関する勉強会 (土曜日開催)</li> <li>・ヒアリング調査</li> <li>・自治体での業務プロセス分析</li> <li>・開発合宿</li> <li>・RPA の実践</li> <li>・自治体でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b> プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の情報サービスの現状調査 (4 時間×2 回)</li> <li>・IT 関連の情報収集 (サービス、セキュリティ、生産性向上など) (1 時間×8 回)</li> <li>・データベース設計の見直し (3 時間)</li> <li>・作成したアプリの動作テスト (2 時間)</li> </ul> <p>学習課題を遂行する上で必要と思つた書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学 (消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	技術習得の成長度 (グループとしての学び合いを高く評価する) 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い																		

学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう！
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室
備考	



科目名	摂南大学 P B L プロジェクト II	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02456a1, L科: LL02358a1, D科・S科: IL02365a1, P科: YL02421a2, J科: JL02367a1, W科: WL02346a1, N科: NL02347a1		

授業概要・目的	<p>地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦</p> <p>学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築 (携帯アプリ) の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。</p> <p>SDGs-3, 4, 11</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が最近の IT 動向を理解している</li> <li>・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる</li> <li>・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える</li> <li>・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる</li> <li>・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる</li> <li>・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる</li> <li>・学生が RPA の利用価値を説明できる</li> <li>・実践的な IT 活用について提案ができる</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>データベースに関する勉強会 (土曜日開催)</p> <p>ヒアリング調査</p> <p>自治体での業務プロセス分析</p> <p>開発合宿</p> <p>自治体でのプレゼンテーション</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦</p> <p><b>【内容】</b> 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースに関する勉強会 (土曜日開催)</li> <li>・ヒアリング調査</li> <li>・自治体での業務プロセス分析</li> <li>・開発合宿</li> <li>・RPA の実践</li> <li>・自治体でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b> プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の情報サービスの現状調査 (4時間×2回)</li> <li>・IT 関連の情報収集 (サービス、セキュリティ、生産性向上など) (1時間×8回)</li> <li>・データベース設計の見直し (3時間)</li> <li>・作成したアプリの動作テスト (2時間)</li> </ul> <p>学習課題を遂行する上で必要と思つた書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学 (消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	技術習得の成長度 (グループとしての学び合いを高く評価する) 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い																		

学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう！
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室
備考	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	守口市の総合戦略の一環として取り組みます。 ①守口市における産業のことを守口市の子供たちに体験を通じて学んでもらう。 ②守口市のシビックプライドを醸成する。 ③守口市の商店街等の活性化を図る。 ①～③の目的を達成するためのイベントを企画し実施する。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  ①守口市の実態を理解する。 ②企画立案の手法を習得する。 ③企画したものをカタチにする。 ④自ら考え行動できる力をつける。 ⑤チームで活動できる力をつける。																
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 守口市へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います  2. 守口市の現状を学ぶ  3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。  4. 企画書の作り方  5. 守口市など関係者との打ち合わせ、調整  6. イベント企画と準備  7. イベント実施  8. ふりかえり  この間に中間報告会、最終報告会が入ります。																
関連科目	各学部マーケティング関連科目、キャリア科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																
学生へのメッセージ	授業で学んだことを、地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																
担当者の研究室等備考	11号館7階 鶴坂研究室																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>守口市の総合戦略の一環として取り組みます。</p> <p>①守口市における産業のことを守口市の子供たちに体験を通じて学んでもらう。</p> <p>②守口市のシビックプライドを醸成する。</p> <p>③守口市の商店街等の活性化を図る。</p> <p>①～③の目的を達成するためのイベントを企画し実施する。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>①守口市の実態を理解する。</p> <p>②企画立案の手法を習得する。</p> <p>③企画したものをカタチにする。</p> <p>④自ら考え行動できる力をつける。</p> <p>⑤チームで活動できる力をつける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>講義とフィールドワーク</p> <p>守口市へ出向き現地調査や成果発表を行います。</p> <p>企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います</li> <li>2. 守口市の現状を学ぶ</li> <li>3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。</li> <li>4. 企画書の作り方</li> <li>5. 守口市など関係者との打ち合わせ、調整</li> <li>6. イベント企画と準備</li> <li>7. イベント実施</li> <li>8. ふりかえり</li> </ol> <p>この間に中間報告会、最終報告会が入ります。</p>																		
関連科目	各学部マーケティング関連科目、キャリア科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																		
学生へのメッセージ	授業で学んだことを、地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																		
担当者の研究室等備考	11号館7階 鶴坂研究室																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	V科:II⊙,R科:A⊙,A科:A⊙,M科:A1⊙,E科:B⊙,C科:II⊙,L科:DP2⊙,DP5Δ,DP6Δ,D科:DP1⊙,S科:DP1⊙,P科:DP8Δ,J科:DP1⊙,DP6⊙,DP7⊙,W科:DP1⊙,DP7⊙,N科:DP1⊙N:DP1⊙		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させるイベント企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を認識する</li> <li>・課題を解決する方法を考える</li> <li>・解決策を実行する</li> <li>・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する</li> </ul> <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																		
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p><b>【内容】</b> 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバー間のディスカッション</li> <li>・グループワーク</li> <li>・オンラインミーティング</li> <li>・博物館や自治体の見学会</li> <li>・実地調査</li> <li>・企画書や報告書の作成</li> <li>・学外でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p><b>【事前学習課題】</b> 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p><b>【事後学習課題】</b> プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、自己評価、リーダーからの評価、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																		
担当者の	11号館7階、牧野准教授室																		

研究室等	
備考	活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させるイベント企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を認識する</li> <li>・課題を解決する方法を考える</li> <li>・解決策を実行する</li> <li>・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する</li> </ul> <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																		
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p><b>【内容】</b> 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバー間のディスカッション</li> <li>・グループワーク</li> <li>・オンラインミーティング</li> <li>・博物館や自治体の見学会</li> <li>・実地調査</li> <li>・企画書や報告書の作成</li> <li>・学外でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p><b>【事前学習課題】</b> 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p><b>【事後学習課題】</b> プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、自己評価、リーダーからの評価、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																		
担当者の	11号館7階、牧野准教授室																		



研究室等	
備考	活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。			
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有</li> <li>マーケティング手法の学習(座学による)</li> <li>連携先との面談</li> <li>連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出</li> <li>学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査</li> <li>広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行)</li> <li>学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施</li> <li>まとめと最終報告会</li> </ol>			
関連科目	チームビルディング			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teamsコード				
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。			
学生へのメッセージ	積極的に取り組んでください。			
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室			
備考	スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間(事前・事後)をとってください。			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02456a1, L科: LL02358a1, D科・S科: IL02365a1, P科: YL02421a2, J科: JL02367a1, W科: WL02346a1, N科: NL02347a1		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。			
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有</li> <li>2. マーケティング手法の学習(座学による)</li> <li>3. 連携先との面談</li> <li>4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出</li> <li>5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査</li> <li>6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行)</li> <li>7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施</li> <li>8. まとめと最終報告会</li> </ol>			
関連科目	チームビルディング			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teamsコード				
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。			
学生へのメッセージ	積極的に取り組んでください。			
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室			
備考	スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間(事前・事後)をとってください。			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p><b>【テーマ】</b> Dig!SDGsプロジェクト</p> <p><b>【概要】</b> 1. 市民が日常生活でできる「SDGsへの取り組み」の事例を学ぶ 2. 組織内外の日々の活動から「組織当事者は気づいていないが、SDGsに寄与する活動(企業のバリューチェーンやサプライチェーンを含む)」に該当するものを掘り起こし、調査対象組織に提言する。また1で学んだ事例を地域の企業・団体に提案する。 3. 地域の子どもたちにSDGs教育を実施する</p> <p><b>【目的】</b> 1. 2020年11月末までに地域及び学内においてSDGsを広報するためのアクションを5つを行う 2. SDGsを学ぶことで、自らの日常生活で取り組めることを考え、実践する</p>																
到達目標	<p><b>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】</b> 参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p><b>【本プロジェクトの到達目標】</b> 上記に加え、以下の6点を本プロジェクトの到達目標とする 1. SDGsとは何かについて理解し、他者に説明できるようになる 2. 国内外の企業・団体で行われている取組事例を理解し、他者に情報提供ができるようになる 3. 外</p>																
授業方法と留意点	協力企業や地域の学校と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【内容】</b> 1. 「SDGsを大学と連携して取り組みたいが、どのようにすればよいか模索している」という課題がある企業等にご協力いただき、現在の取り組みについて学ぶ。 2. 「これからSDGsに取り組むことを考えているものの、社内での認知度・浸透度が低い状態であること、社内への啓蒙活動の方法が不明である」ことなどが課題である企業等に対して、既に行われているSDGsに寄与する活動の掘り起こし、提案を行う。 3. 教育機関においてSDGsを教育に取り入れることは喫緊の課題であるといえることから地域の小学校に向けてロビー活動を実施する。</p> <p><b>【方法】</b> ・企業等の取り組み事例の調査 ・企業等向けの社内アンケートの作成と実施 ・小学生向けのイベントの企画と実施</p> <p><b>【年間計画(予定)】</b> 4月 SDGsに関する文献レビュー・勉強会の実施 5月 SDGsに関する文献レビュー・勉強会の実施 企業・団体の取り組み事例の調査 調査対象企業・団体向けの社内アンケート作成 6月 アンケートの実施、協力企業・団体へ他社事例に関する情報提供を行う 7月 アンケートの集計 小学校向けのイベントの企画立案 8月 小学校向けのイベント実施 10月 中間報告会 11月 活動がパターン化できていれば、協力企業・団体をさらに募集して、上記活動を再現する 12月 振り返り・最終報告</p>																
関連科目	全ての科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teamsコード																	
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、SDGsの普及に貢献しましょう。																

担当者の 研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）
備考	学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5?10時間が必要です。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02456a1, L科: LL02358a1, D科・S科: IL02365a1, P科: YL02421a2, J科: JL02367a1, W科: WL02346a1, N科: NL02347a1		

授業概要・目的	<p><b>【テーマ】</b> Dig! SDGs プロジェクト</p> <p><b>【概要】</b> 1. 市民が日常生活でできる「SDGsへの取り組み」の事例を学ぶ 2. 組織内外の日々の活動から「組織当事者は気づいていないが、SDGsに寄与する活動(企業のバリューチェーンやサプライチェーンを含む)」に該当するものを掘り起こし、調査対象組織に提言する。また1で学んだ事例を地域の企業・団体に提案する。 3. 地域の子どもたちにSDGs教育を実施する</p> <p><b>【目的】</b> 1. 2020年11月末までに地域及び学内においてSDGsを広報するためのアクションを5つを行う 2. SDGsを学ぶことで、自らの日常生活で取り組めることを考え、実践する</p>																
到達目標	<p><b>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】</b> 参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p><b>【本プロジェクトの到達目標】</b> 上記に加え、以下の6点を本プロジェクトの到達目標とする 1. SDGsとは何かについて理解し、他者に説明できるようになる 2. 国内外の企業・団体で行われている取組事例を理解し、他者に情報提供ができるようになる 3. 外</p>																
授業方法と留意点	協力企業や地域の学校と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【内容】</b> 1. 「SDGsを大学と連携して取り組みたいが、どのようにすればよいか模索している」という課題がある企業等にご協力いただき、現在の取り組みについて学ぶ。 2. 「これからSDGsに取り組むことを考えているものの、社内での認知度・浸透度が低い状態であること、社内への啓蒙活動の方法が不明である」ことなどが課題である企業等に対して、既に行われているSDGsに寄与する活動の掘り起こし、提案を行う。 3. 教育機関においてSDGsを教育に取り入れることは喫緊の課題であるといえることから地域の小学校に向けてロビー活動を実施する。</p> <p><b>【方法】</b> ・企業等の取り組み事例の調査 ・企業等向けの社内アンケートの作成と実施 ・小学生向けのイベントの企画と実施</p> <p><b>【年間計画(予定)】</b> 4月 SDGsに関する文献レビュー・勉強会の実施 5月 SDGsに関する文献レビュー・勉強会の実施 企業・団体の取り組み事例の調査 調査対象企業・団体向けの社内アンケート作成 6月 アンケートの実施、協力企業・団体へ他社事例に関する情報提供を行う 7月 アンケートの集計 小学校向けのイベントの企画立案 8月 小学校向けのイベント実施 10月 中間報告会 11月 活動がパターン化できていれば、協力企業・団体をさらに募集して、上記活動を再現する 12月 振り返り・最終報告</p>																
関連科目	全ての科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teamsコード																	
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、SDGsの普及に貢献しましょう。																

担当者の 研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）
備考	学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5?10時間が必要です。



科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人, 大野 順子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

授業概要・目的	<p>I 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援の力になりたいという学生の意欲をくみ、地域社会における課題に対して活動するNPO団体や社会貢献活動団体とともに主体的に課題に向き合っテコミュニティ活動にかかわり、活動体験を通して自らの学びをとらえ直し有為な専門職業人となるための活動を行う。具体的には昨年度活動した下記活動①に加え、学生が主体的に企画する②の活動を行う。</li> <li>①吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画(企画・活動・推進・振り返り活動への参画)を行う。当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV等でも紹介された。2018年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。</li> <li>②世代間におけるコミュニティスキルの向上のため社会貢献活動を行っているNPO団体等との協働による課題対応力を修得する。</li> </ul> <p>II 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シャッター街に代表される商店街の課題や地域貢献事業に参画する事によって学生が活動と事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。</li> <li>・課外活動経験によるキャリア形成に資することも考慮する。</li> </ul>			
到達目標	<p>I 到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>II 到達目標(本プロジェクト): Iの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。</li> <li>(2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。</li> <li>(3) 異なる世</li> </ol>			
授業方法と留意点	<p>I 授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。</li> <li>・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点(コンビニ2階)を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストア、さらに2020年度からは吹田市拠点のNPO団体とも協働する。これらの活動における様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り</li> </ul>			
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>I 授業テーマ: 商店街を中心とした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTツールによる事前・事後学習及び講述の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画</li> </ul> <p>II 内容、方法、事前・事後学習課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ICTツールによる事前・事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。</li> <li>・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。</li> <li>・上記を通じて得た「気づき」を発表する。(中間報告会、最終報告会)</li> </ul> </li> <li>(2) 参画する課外活動例 <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月頃: ICTツールによる勉強会や吹田市で活動するNPO団体等との年度事業企画調整を行う。</li> <li>・6月: ICTツールによる今後の企画運営検討(エンタメ教室: 地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討: 栄通りの特色を検討、商店会は場提供。)</li> <li>今後の企画運営検討(落研寄席: 近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進: 地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ)</li> <li>・7月頃: その他、NPO事業に参画</li> <li>・8月以降: エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室(親子教室)に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。(予選エントリー本戦16組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。)</li> <li>・随時: 周辺空き家の活用(古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ)による商店街連携検討。</li> <li>・9月頃: エンタメ教室実施。(ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。)</li> <li>・10月頃: 高浜神社 戒祭支援(チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導)に参加</li> <li>・12月～3月頃: 今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けてのWEB委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。2019年度新たに学生が企画運営したクリスマスパーティや宿題イベントを効果的に実施するための関係先調整を十分に行う。</li> </ul> <p>このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。</p> </li></ol>			
関連科目	地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社
	2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁 哲之介	ちくま書房
	3	商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立 基浩	ミネルヴァ書房

	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」を行く-	森川すいめい	青土社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	ICT ツールによる事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションだけでなく、ICT ツールによる提案、議論経過についても評価を行う。 栄通り商店会、吹田市等の NPO との ICT ツールによる意見交換会を中心に事業への参加あるいは打ち合わせに必ず参加して提案を行った回数を評価する。実際の課外活動だけでなく、ICT ツールの打ち合わせ等への参加回数と参加事業等での意見表明や活動内容などの積極性を評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。</li> <li>・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。</li> <li>・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。</li> <li>・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。</li> <li>・何よりも商店会等の地域貢献団体が主催する企画会議への出席(参画)が基本である。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	1号館7階 経済学部 田井義人研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。</li> <li>・課外活動に参画することを重視する。</li> <li>・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を勧める。</li> </ul>			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人, 大野 順子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02456a1, L科: LL02358a1, D科・S科: IL02365a1, P科: YL02421a2, J科: JL02367a1, W科: WL02346a1, N科: NL02347a1		

授業概要・目的	<p>I 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援の力になりたいという学生の意欲をくみ、地域社会における課題に対して活動するNPO団体や社会貢献活動団体とともに主体的に課題に向き合っテコミュニティ活動にかかわり、活動体験を通して自らの学びをとらえ直し有為な専門職業人となるための活動を行う。具体的には昨年度活動した下記活動①に加え、学生が主体的に企画する②の活動を行う。</li> <li>①吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画(企画・活動・推進・振り返り活動への参画)を行う。当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV等でも紹介された。2018年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。</li> <li>②世代間におけるコミュニティスキルの向上のため社会貢献活動を行っているNPO団体等との協働による課題対応力を修得する。</li> </ul> <p>II 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シャッター街に代表される商店街の課題や地域貢献事業に参画する事によって学生が活動と事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。</li> <li>・課外活動経験によるキャリア形成に資することも考慮する。</li> </ul>																		
到達目標	<p>I 到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>II 到達目標(本プロジェクト): Iの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。</li> <li>(2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。</li> <li>(3) 異なる世</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>ICTツールを活用して下記内容を実施する。</p> <p>I 授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。</li> <li>・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点(コンビニ2階)を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストア、さらに2020年度からは吹田市拠点のNPO団体とも協働する。これらの活動みにおける様々なブ</li> </ul>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>I 授業テーマ: 商店街を中心にした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTツールによる事前・事後学習及び講述の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画</li> </ul> <p>II 内容、方法、事前・事後学習課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ICTツールによる事前・事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。</li> <li>・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。</li> <li>・上記を通じて得た「気づき」を発表する。(中間報告会、最終報告会)</li> </ul> </li> <li>(2) 参画する課外活動例 <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月頃: ICTツールによる勉強会や吹田市で活動するNPO団体等との年度事業企画調整を行う。</li> <li>・6月: ICTツールによる今後の企画運営検討(エンタメ教室: 地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討: 栄通りの特色を検討、商店街は場提供。)今後の企画運営検討(落研寄席: 近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進: 地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ)</li> <li>・7月頃: その他、NPO事業に参画</li> <li>・8月以降: エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室(親子教室)に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。(予選エントリー本戦16組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。)</li> <li>・随時: 周辺空き家の活用(古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ)による商店街連携検討。</li> <li>・9月頃: エンタメ教室実施。(ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。)</li> <li>・10月頃: 高浜神社 戎祭支援(チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導)に参加</li> <li>・12月~3月頃: 今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けてのWEB委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。2019年度新たに学生が企画運営したクリスマスパーティや宿題イベントを効果的に実施するための関係先調整を十分に行う。</li> </ul> </li> </ol> <p>このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。</p>																		
関連科目	地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>凡人のための地域再生入門</td> <td>木下 齊</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ</td> <td>久繁 哲之介</td> <td>ちくま書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道</td> <td>新雅史</td> <td>光文社新書</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社	2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁 哲之介	ちくま書房	3	商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社																
2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁 哲之介	ちくま書房																
3	商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イギリスに学ぶ商店街再生計画</td> <td>足立 基浩</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医</td> <td>森川 すいめい</td> <td>青土社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立 基浩	ミネルヴァ書房	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医	森川 すいめい	青土社				
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立 基浩	ミネルヴァ書房																
2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医	森川 すいめい	青土社																

		「自殺希少地域」を行くー		
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	ICT ツールによる事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションだけでなく、ICT ツールでの提案、議論経過についても評価を行う。 栄通り商店会、吹田市等の NPO との ICT ツールによる意見交換会を中心に事業への参加あるいは ICT ツールによる打ち合わせに必ず参加して提案を行った回数を評価する。実際の課外活動だけでなく、ICT ツールでの打ち合わせ等への参加回数と参加事業等での意見表明や活動内容などの積極性を評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。</li> <li>・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。</li> <li>・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。</li> <li>・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。</li> <li>・何よりも商店会等の地域貢献団体が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	1号館7階 経済学部 田井義人研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。</li> <li>・課外活動に参画することを重視する。</li> <li>・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を勧める。</li> </ul>			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p> <p>SDGs-3, 11, 17</p>																		
到達目標	<p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>																		
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます）</li> <li>・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます）</li> <li>・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）</li> </ul>																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、暮らしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p> <p>SDGs-3, 11, 17</p>																		
到達目標	<p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>																		
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます）</li> <li>・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます）</li> <li>・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）</li> </ul>																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等備考																			



科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	梅野 将之、カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	近年(キンネン)、日本に住む外国人の数は増加(ゾウカ)しており、外国人をどう受け入れ、共生(キョウセイ)していくかが社会課題(シャカイカダイ)となっている。地域(チイキ)社会や近隣(キンリン)の学校等でも異文化理解(イブンカリカイ)・多文化(タブンカ)社会の取(ト)り組(ク)みを実践(ジッセン)しているが、まだまだ手探(テサグ)りの状態(ジョウタイ)である。そこで摂南大学の留学生と日本人学生が協働(キョウドウ)して、異文化理解・交流(コウリュウ)に関(カ)わる活動(カツドウ)を実践することで、地域の異文化理解を深(フカ)めることに貢献(コウケン)することを目的(モクテキ)とする。また、活動を通(トオ)して、日本人学生と留学生の学生間の異文化理解も深(フカ)めることも目的とする。																
到達目標	1) 本プロジェクトでは、参加(サンカ)メンバー・学外の連携先(レンケイサキ)との協働(キョウドウ)を通(トオ)して、「主体性(シュタイセイ)をもって前向(マエム)き」に取(ト)り組(ク)む力(チカラ)、「自分とは異(コト)なった価値観(カチカン)を受け入(イ)れる力」、「課題(カダイ)を発見(ハッケン)し、解決(カイケツ)する力」を身(ミ)につけるとともに、新しい価値の創造(ソウゾウ)を目指(メザ)す。 2) 「異文化理解とは何か」を自分の言葉(コトバ)で表現(ヒョウゲン)できる(母語でよい in																
授業方法と留意点	1) 週1~2回のペースでの活動(授業、講義、イベントの企画(キカク)、提案(テイアン)、準備(ジュンビ)、実施(ジッシ)、ふりかえり、発表準備(ハッピーウジュンビ)、発表(ハッピーウ)など)のほか、必要に応じて集まり、活動計画、進捗状況(シンチョクジョウキョウ)の確認(カクニン)など、情報共有を行(オコナ)います(お昼休みに昼食をとりながら簡単なミーティングを想定(ソウテイ))。 2) まずは、「学ぶ」とはどういうことなのか、「異文化理解」とは何なのかを認識(ニンシキ)する活動を取(ト)り																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<b>【授業テーマ】</b> ・異文化(イブンカ)コミュニケーション、異文化理解 ・よりよい多文化共生社会(タブンカキョウセイシャカイ)とは何かを考える ・地域(学内外)における異文化理解促進(イブンカリカイクシン);異文化摩擦の解消(カイショウ)のための活動(地域貢献チイキコウケン活動) ・摂大魅力(ミリョク)アッププロジェクト  <b>【内容】</b> ・連携先(レンケイサキ)の一つである寝屋川市国際交流協会(NIEFA)の協力(キョウリョク)のもと、寝屋川市をはじめとする地域において異文化理解促進(ソクシン)のための交流活動を企画(キカク)し、実施(ジッシ)していく。 ・講義、ビデオ視聴や連携先等を通(ツウ)じて多文化共生に関する課題を明らかにし、自分たちへ何ができるのかを考え、活動に取り入れる。 ・留学生を増やすために(あるいは地域における国際交流拠点となりうるような大学を目指すために)、学内における課題を見つけ、解決に向けて何をするべきなのかをまとめ、しかるべき人(学長や国際交流センター長)に提案する。 ・自由企画(ジユウキカク):自分たちで本プロジェクトを通して地域貢献(チイキコウケン)につながるようなことは何かを考え、行動に移(ウツ)す。  <b>【方法】</b> 初めの数回(スウカイ)は講義、視聴や読み物についてのレポート作成もしくはミニッツペーパーなどから進(ス)めていき、学生が中心となって参加者全員が納得(ナツク)する形で今後どのように活動するか考えていきます(プロジェクトの実行に向けた会議を開催しみんなでその方法を考えます)。  <b>【事前学習】</b> 必要に応じて担当教員より提示された資料を、読んだり、視聴したりします。 <b>【事後学習】</b> ポートフォリオの作成、活動報告書の作成(摂大HPにアップされます)など																
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	プロジェクト活動における貢献度:30%(自己評価10%、他者評価10%、担当教員10%)、 レポート:20%(ポートフォリオに基づく成長や気づきの自己分析)、 ポートフォリオ20%、 到達目標達成度:30%																
学生へのメッセージ	異文化理解や多文化共生の課題は皆さんの身近(ミヅカ)にある課題です。皆にとってよりよい社会になるためには何が大切か考えてみましょう。 未経験(ミケイケン)のことにも、失敗(シッパイ)を恐(オソ)れずチャレンジしてください。自(ミヅカ)ら様々な役割(ヤクワリ)を																



	担（ニナ）っていきましょう。 プロジェクトが円滑（エンカツ）に進むよう、自分以外の人の役割（ヤクワリ）にも関心（カンシン）を持ち、必要に応（オウ）じて助け合ったり、与（アタ）えられた役割に真摯（シンシ）に取り組んでほしいと思います。 自分
担当者の研究室等	梅野、カーティス＝チュウ：国際交流センター教員控室（3号館4階）、 北川：国際交流センター（3号館4階）
備考	第1回目の集まり（授業ガイダンスのため）の日時を確定したいので、1月の面談（履修申請書押印）の際に配布したプリントの日時（※印の箇所）で、一度上記の部屋に来室してください。第1回目の集まりは4月中旬を考えています。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	梅野 将之、カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	近年(キンネン)、日本に住む外国人の数は増加(ゾウカ)しており、外国人をどう受け入れ、共生(キョウセイ)していくかが社会課題(シャカイカダイ)となっている。地域(チイキ)社会や近隣(キンリン)の学校等でも異文化理解(イブンカリカイ)・多文化(タブンカ)社会の取(ト)り組(ク)みを実践(ジッセン)しているが、まだまだ手探(テサグ)りの状態(ジョウタイ)である。そこで摂南大学の留学生と日本人学生が協働(キョウドウ)して、異文化理解・交流(コウリュウ)に関(カ)わる活動(カツドウ)を実践することで、地域の異文化理解を深(フカ)めることに貢献(コウケン)することを目的(モクテキ)とする。また、活動を通(トオ)して、日本人学生と留学生の学生間の異文化理解も深(フカ)めることも目的とする。																
到達目標	1) 本プロジェクトでは、参加(サンカ)メンバー・学外の連携先(レンケイサキ)との協働(キョウドウ)を通(トオ)して、「主体性(シュタイセイ)をもって前向(マエム)き」に取(ト)り組(ク)む力(チカラ)、「自分とは異(コト)なった価値観(カチカン)を受け入(イ)れる力」、「課題(カダイ)を発見(ハッケン)し、解決(カイケツ)する力」を身(ミ)につけるとともに、新しい価値の創造(ソウゾウ)を目指(メザ)す。 2) 「異文化理解とは何か」を自分の言葉(コトバ)で表現(ヒョウゲン)できる(母語でよい in																
授業方法と留意点	1) 週1~2回のペースでの活動(授業、講義、イベントの企画(キカク)、提案(テイアン)、準備(ジュンビ)、実施(ジッシ)、ふりかえり、発表準備(ハッピーウジュンビ)、発表(ハッピーウ)など)のほか、必要に応じて集まり、活動計画、進捗状況(シンチョクジョウキョウ)の確認(カクニン)など、情報共有を行(オコナ)います(お昼休みに昼食をとりながら簡単なミーティングを想定(ソウテイ))。 2) まずは、「学ぶ」とはどういうことなのか、「異文化理解」とは何なのかを認識(ニンシキ)する活動を取(ト)り																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<b>【授業テーマ】</b> ・異文化(イブンカ)コミュニケーション、異文化理解 ・よりよい多文化共生社会(タブンカキョウセイシャカイ)とは何かを考える ・地域(学内外)における異文化理解促進(イブンカリカイクシン);異文化摩擦の解消(カイショウ)のための活動(地域貢献チイキコウケン活動) ・摂大魅力(ミリョク)アッププロジェクト  <b>【内容】</b> ・連携先(レンケイサキ)の一つである寝屋川市国際交流協会(NIEFA)の協力(キョウリョク)のもと、寝屋川市をはじめとする地域において異文化理解促進(ソクシン)のための交流活動を企画(キカク)し、実施(ジッシ)していく。 ・講義、ビデオ視聴や連携先等を通(ツウ)じて多文化共生に関する課題を明らかにし、自分たちに行(イ)ることができるのかを考え、活動に取り入れる。 ・留学生を増やすために(あるいは地域における国際交流拠点となりうるような大学を目指すために)、学内における課題を見つけ、解決に向けて何をするべきなのかをまとめ、しかるべき人(学長や国際交流センター長)に提案する。 ・自由企画(ジユウキカク):自分たちで本プロジェクトを通して地域貢献(チイキコウケン)につながるようなことは何かを考え、行動に移(ウツ)す。  <b>【方法】</b> 初めの数回(スウカイ)は講義、視聴や読み物についてのレポート作成もしくはミニッツペーパーなどから進(ス)めていき、学生が中心となって参加者全員が納得(ナツク)する形で今後どのように活動するか考えていきます(プロジェクトの実行に向けた会議を開催しみんなでその方法を考えます)。  <b>【事前学習】</b> 必要に応じて担当教員より提示された資料を、読んだり、視聴したりします。 <b>【事後学習】</b> ポートフォリオの作成、活動報告書の作成(摂大HPにアップされます)など																
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	プロジェクト活動における貢献度:30%(自己評価10%、他者評価10%、担当教員10%)、 レポート:20%(ポートフォリオに基づく成長や気づきの自己分析)、 ポートフォリオ20%、 到達目標達成度:30%																
学生へのメッセージ	異文化理解や多文化共生の課題は皆さんの身近(ミヅカ)にある課題です。皆にとってよりよい社会になるためには何が大切か考えてみましょう。 未経験(ミケイケン)のことにも、失敗(シッパイ)を恐(オソ)れずチャレンジしてください。自(ミヅカ)ら様々な役割(ヤクワリ)を																

	担（ニナ）っていきましょう。 プロジェクトが円滑（エンカツ）に進むよう、自分以外の人の役割（ヤクワリ）にも関心（カンシン）を持ち、必要に応（オウ）じて助け合ったり、与（アタ）えられた役割に真摯（シンシ）に取り組んでほしいと思います。 自分
担当者の研究室等	梅野、カーティス＝チュウ：国際交流センター教員控室（3号館4階）、 北川：国際交流センター（3号館4階）
備考	第1回目の集まり（授業ガイダンスのため）の日時を確定したいので、1月の面談（履修申請書押印）の際に配布したプリントの日時（※印の箇所）で、一度上記の部屋に来室してください。第1回目の集まりは4月中旬を考えています。